

東京都国分寺市

羽根沢遺跡発掘調査報告書

第6・8次調査

— 公園造成工事及び集合住宅建設工事に伴う調査 —

恋ヶ窪遺跡発掘調査報告書

第100次調査

— 日立製作所中央研究所構内特高変電所建設工事に伴う調査 —

2019年1月

共和開発株式会社



羽根沢遺跡第 6・8 次調査地点・恋ヶ窪遺跡第 100 次調査地点 北から



羽根沢遺跡第 6・8 次調査地点・恋ヶ窪遺跡第 100 次調査地点 南から

第1編

東京都国分寺市

羽根沢遺跡発掘調査報告書

第6・8次調査

— 公園造成工事及び集合住宅建設工事に伴う調査 —

2019年1月

共和開発株式会社

例 言

1. 本書は、東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目 280 番 4 に所在する羽根沢遺跡（国分寺市 No. 5 遺跡）第 6・8 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、公園造成工事及び集合住宅建設工事に伴う埋蔵文化財の本発掘調査である。
調査は、株式会社日立製作所中央研究所の委託を受けて、国分寺市教育委員会の指導のもとに共和開発株式会社が実施したものである。
3. 本調査にかかる費用は、全て株式会社日立製作所中央研究所が負担した。
4. 発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業は、下記の期間に実施した。
第 6 次調査（試掘確認調査）
現地試掘確認調査 第 1 期調査 平成 27 年 1 月 13 日から平成 27 年 2 月 28 日
第 2 期調査 平成 27 年 8 月 18 日から平成 27 年 8 月 21 日
第 8 次調査（本調査）
現地発掘調査 平成 27 年 4 月 6 日から平成 28 年 10 月 27 日
出土品等整理作業 平成 29 年 5 月 22 日から平成 30 年 7 月 31 日
報告書作成作業 平成 30 年 7 月 1 日から平成 31 年 1 月 31 日
5. 発掘調査・出土品等整理・報告書作成作業は以下の体制で実施し、発掘調査および出土品整理監理は国分寺市教育委員会の依田亮一・増井有真・寺前めぐみ・島田智博が行った。
調査担当 伊庭彰一
調査員 川辺賢一・高林 均・中野高久・林 徹
現場代理人 羽吹潤一
6. 本書の編集は、石村 崇・伊庭彰一が担当し、執筆部分は以下のとおりである。
第 1 章：依田亮一
第 2 章：伊庭彰一・林 徹
第 3 章：伊庭彰一
第 4 章 第 1 節：林 徹 第 2 節 1・2（1）：伊庭彰一 2（2）：林 徹
第 3 節：伊庭彰一・林 徹（石器）
第 6 章：伊庭彰一・林 徹（旧石器時代・石器）
7. 遺跡の略記号は「K 5-8」とし、図面・写真や出土遺物の注記等はこの表記を用いた。
8. 発掘調査における出土遺物および図面・写真等の記録類は、一括して国分寺市教育委員会で保管している。
9. 炭化物の AMS 年代測定は株式会社パレオ・ラボに委託し、分析結果は第 5 章第 1 節に収載した。黒曜石の産地分析は二宮修治氏（東京学芸大学名誉教授）に委託し、分析結果は第 5 章第 2 節に収載した。
10. 本書作成にあたり、以下の方々に御指導・御協力を賜りました。記して感謝申し上げます（敬称略・順不同）。
株式会社日立製作所中央研究所 三菱地所レジデンス株式会社 砂田佳弘（公益財団法人 かながわ考古学財団） 山下守昭
11. 発掘調査および出土品等整理・報告書作成作業の参加者は、以下のとおりである。
青柳良造 赤本敬護 阿部将大 池谷克巳 井口正利 石川太郎 石村 崇 伊藤 潤 伊藤洋平
稲葉友春 牛草 勉 江口真裕 扇田芳嗣 大津美衣里 岡本侑樹 小川有子 柏原康晴 川戸直子
川原裕子 北浦賢一 北川万寿夫 黒田智和 具本哲 小坂邦夫 後藤克樹 齋藤京子 齋藤正毅
酒井真之 佐々木正壽 佐藤広太 佐藤 徹 佐野 厚 篠原真理子 清水広幸 杉山久晶
須賀きみ子 高木明成 高田彩子 高橋広行 高森裕一 武内良太 立石恵美 田中 類 長明日香
土田雅美 寺本麗子 徳永悠介 利光眞理 豊岡 仁 中山弘人 永井良明 西野 宏 西村雅臣
野上亨介 野村雅美 濱辺朋代 早坂雅義 針木康介 平野豊子 福井泰弘 堀井政宏 本間建一
松澤 匡 松本雄三 丸岡 祝 水野浩和 村野正広 室賀明子 本山真一 森 和彦 矢野聖次
山縣晃代 結城 真 吉田忠司 吉田知子

凡 例

1. 遺構の表記には、以下の略号を用いた。また、縄文時代の遺構は、集石を除き末尾に「J」を付した。
SA：柱穴列 SD：溝状遺構 SK：土坑 SS：集石土坑
SX：性格不明遺構 P：中世以降小穴 PJ：縄文時代小穴
TP：旧石器試掘坑
2. 遺構平面図・断面図で使用した標高はT. P. (Tokyo Peil) である。国家座標は世界測地系座標を使用した。
3. 調査区内のグリッドは、国家座標系に合せて3m×3mで設定し、南北はアルファベット、東西はアラビア数字で表記した。
4. 実測図の縮尺は、それぞれの図に記した。
5. 遺構平面図・断面図で使用した線種は以下のとおりである。それら以外は挿図中に示した。

----- 推定線 - - - - - 攪乱 オーバーハング

6. 挿図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。それら以外は挿図中に示した。

遺 構

////// 断面地山 ■ 焼土範囲

7. 遺構・遺物に関する表において、() は推定値、[] は残存値を表す。また、単位は特に記載のない限り、長さ「cm」、重さは「g」である。
8. 遺構観察表において、<は遺構の新旧関係を表す記号である。「SK1<」と記号の前に遺構名がある場合は、対象遺構より古い遺構があることを表し、「<SK1」と記号の後ろに遺構名がある場合は対象遺構より新しい遺構が重複することを表す。
9. 遺物実測図および遺物写真に付した番号は、掲載番号、遺物記号、番号の順で表記し、「1-JE01」の様に記載した。また、旧石器時代の遺物については、下段に取り上げ番号、石質略称を併記した。
10. 集石土坑の礫の被熱度は以下の基準で分類した。
極度：礫のほぼ全面に著しい赤化・暗赤化の見られるもの。
中度：礫の全面ないし一部に顕著な赤化・桃色化の見られるもの。
軽度：礫の一部に薄い赤化・桃色化の見られるもの。
11. 石質については、以下の略称を用いた。
安山岩 (An) チャート (Ch) ホルンフェルス (Ho) 黒曜石 (Ob) 砂岩 (Sa)
頁岩 (Sh) 凝灰岩 (Tu) 閃緑岩 (Di)
12. 遺物記号は以下のとおりである。

歴史時代

須恵器 PK 土師質土器 PL 中世陶器 PT 男瓦 KD
鉄製品 MM ガラス製品 PZ

縄文時代

土器 早期前半 JB 早期後半 JC 中期前半 JE
中期後半 JF 土製円盤 DE
石鏃 AB スクレイパー AD 打製石斧 AG 礫器 AJ
敲石 AK 磨石 AL 抉入磨石 AM スタンプ形石器 AN
石皿 AP 台石 AR 剥片 AT

旧石器時代

ナイフ形石器 FA 石刃 FB 尖頭器 FC 細石刃 FH 石核 FJ
剥片・石刃状剥片・削片 FL 敲石 FN 搔器 FP 抉入石器・
鋸齒縁石器 FZ

目次

例言
凡例
目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 調査地区の概観	3
第1節 遺跡の立地と地理的環境	3
第2節 周辺の遺跡	3
第3節 基本層序	13
第3章 調査経過	17
第1節 調査方法	17
1. 発掘調査の工程	17
2. 調査の記録	17
第2節 調査経過	17
第3節 整理作業の方法	19
第4節 整理作業の経過	22
第4章 遺構と遺物	25
第1節 旧石器時代	25
第2節 縄文時代	69
1. 遺構	71
(1) 炉穴	71
(2) 集石土坑	75
(3) 陥し穴	86
(4) 土坑	89
(5) 小穴	106
2. 遺物	134
(1) 縄文土器	134
(2) 石器	147
第3節 中世以降	159
1. 遺構	159
(1) 溝状遺構	159
(2) 土坑	180
(3) 柱穴列	184
(4) 地下室状遺構	186
(5) 不明遺構	200
(6) 小穴	203
2. その他の遺物	204

第5章 自然科学分析	210
第1節 炭化物のAMS年代測定と樹種同定	210
1. 炭化材の放射性炭素年代測定	210
2. 炭化材の樹種同定	213
第2節 蛍光X線分析を用いた黒曜石の原産地推定	215
第6章 総括	226
第1節 旧石器時代	226
第2節 縄文時代	228
第3節 奈良・平安時代	229
第4節 中世以降	230
第5節 自然科学分析	242
引用・参考文献	243
写真図版	
報告書抄録	
奥付	

挿図目次

第 1 図	試掘トレンチ配置図(第 6 次調査 I 期・II 期) ……	2	第 60 図	S K 84 J 炉穴 (2) ……	73
第 2 図	遺跡の位置 ……	4	第 61 図	S K 84 J 炉穴出土遺物 ……	74
第 3 図	調査地点と周辺の埋蔵文化財包蔵地 ……	5	第 62 図	S S 1 集石土坑 ……	78
第 4 図	恋ヶ窪遺跡・羽根沢遺跡における既往の発掘調査状況 ……	7	第 63 図	S S 1 集石土坑出土遺物 ……	79
第 5 図	周辺の地形図 ……	12	第 64 図	S S 2 集石土坑 ……	80
第 6 図	基本層序 ……	14	第 65 図	S S 3 集石土坑 ……	81
第 7 図	土層堆積確認地点 ……	14	第 66 図	S S 4 集石土坑 ……	81
第 8 図	土層堆積確認状況 ……	15	第 67 図	S S 5 集石土坑 ……	82
第 9 図	調査区とグリッド位置図 ……	16	第 68 図	S S 6 集石土坑 (1) ……	84
第 10 図	遺構配置図(全時代) ……	23	第 69 図	S S 6 集石土坑 (2) ……	85
第 11 図	旧石器試掘坑配置図と調査深度 ……	25	第 70 図	S S 7～10 集石土坑 ……	85
第 12 図	旧石器時代出土遺物分布図(西側調査区) ……	26	第 71 図	S K 33 J・53 J 陥し穴 ……	87
第 13 図	旧石器時代出土遺物分布図(東側調査区) ……	27	第 72 図	S K 54 J・55 J 陥し穴 ……	88
第 14 図	第Ⅲ層出土石器 ……	28	第 73 図	S K 12 J～16 J 土坑 ……	90
第 15 図	第Ⅲ～第Ⅳ層遺物分布図(東側調査区) ……	29	第 74 図	S K 17 J・19 J～25 J 土坑 ……	92
第 16 図	S T 7 石器集中器種別分布図 ……	31	第 75 図	S K 26 J～30 J・36 J～39 J 土坑 ……	93
第 17 図	S T 7 石器集中石質別分布図 ……	32	第 76 図	S K 40 J～45 J 土坑 ……	96
第 18 図	第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器 (1) ……	33	第 77 図	S K 46 J～52 J 土坑 ……	97
第 19 図	第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器 (2) ……	34	第 78 図	S K 56 J～60 J 土坑 ……	99
第 20 図	第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器 (3) ……	35	第 79 図	S K 61 J～69 J 土坑 ……	101
第 21 図	第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器 (4) ……	36	第 80 図	S K 70 J～77 J 土坑 ……	103
第 22 図	第Ⅳ層遺物分布図(西側調査区) ……	39	第 81 図	S K 78 J～82 J 土坑 ……	104
第 23 図	第Ⅳ層遺物分布図(東側調査区) ……	40	第 82 図	土坑出土遺物 ……	105
第 24 図	S T 8 石器集中器種別分布図・SC1 炭化物集中分布図 ……	41	第 83 図	P J - 1～23 小穴 ……	107
第 25 図	S T 8 石器集中石質別分布図 ……	41	第 84 図	P J - 24～44 小穴 ……	108
第 26 図	第Ⅳ層出土石器 (1) ……	42	第 85 図	P J - 45～69 小穴 ……	109
第 27 図	第Ⅳ層出土石器 (2) ……	43	第 86 図	P J - 70～94 小穴 ……	110
第 28 図	S R 3 礫群分布図 ……	44	第 87 図	P J - 95～114 小穴 ……	111
第 29 図	S C 2a 炭化物集中分布図 ……	44	第 88 図	P J - 115～134 小穴 ……	112
第 30 図	第Ⅳ層出土石器 (3) ……	45	第 89 図	P J - 135～154 小穴 ……	113
第 31 図	S C 2b 炭化物集中分布図 ……	46	第 90 図	P J - 154～174 小穴 ……	114
第 32 図	第Ⅴ層遺物分布図(東側調査区) ……	47	第 91 図	P J - 175～199 小穴 ……	115
第 33 図	S T 3 石器集中器種別分布図 ……	48	第 92 図	P J - 200～224 小穴 ……	116
第 34 図	S T 3 石器集中石質別分布図 ……	48	第 93 図	P J - 225～249 小穴 ……	117
第 35 図	第Ⅴ層出土石器 ……	49	第 94 図	P J - 250～269 小穴 ……	118
第 36 図	第Ⅵ層遺物分布図(東側調査区) ……	51	第 95 図	P J - 270～295 小穴 ……	119
第 37 図	S T 1 石器集中器種別分布図 ……	52	第 96 図	P J - 296～321 小穴 ……	120
第 38 図	S C 3 炭化物集中分布図 ……	52	第 97 図	P J - 322～346 小穴 ……	121
第 39 図	S C 5 炭化物集中分布図 ……	52	第 98 図	P J - 347～371 小穴 ……	122
第 40 図	第Ⅵ層出土石器 ……	53	第 99 図	P J - 372～389 小穴 ……	123
第 41 図	第Ⅶ～第Ⅸ層遺物分布図(東側調査区) ……	55	第 100 図	P J - 390～414 小穴 ……	124
第 42 図	S T 2 石器集中器種別分布図 ……	56	第 101 図	P J - 415～433 小穴 ……	125
第 43 図	S T 4～6 石器集中器種別分布図 ……	57	第 102 図	P J - 435～452 小穴 ……	126
第 44 図	S T 4～6 石器集中石質別分布図 ……	58	第 103 図	小穴出土遺物 ……	127
第 45 図	第Ⅶ～第Ⅸ層出土石器 (1) ……	59	第 104 図	縄文時代遺物分布図(西側調査区) ……	135
第 46 図	第Ⅶ～第Ⅸ層出土石器 (2) ……	60	第 105 図	縄文時代遺物分布図(東側調査区) ……	136
第 47 図	S C 6 炭化物集中分布図 ……	61	第 106 図	早期土器分布図(西側調査区) ……	138
第 48 図	S C 7 炭化物集中分布図 ……	61	第 107 図	早期土器分布図(東側調査区) ……	139
第 49 図	S R 1 礫群出土遺物分布図 ……	62	第 108 図	中期土器分布図(西側調査区) ……	140
第 50 図	第Ⅸ～第Ⅹ層遺物分布図(東側調査区) ……	63	第 109 図	中期土器分布図(東側調査区) ……	141
第 51 図	第Ⅹ層遺物分布図(東側調査区) ……	64	第 110 図	遺構外出土遺物 (1) ……	142
第 52 図	S R 2 礫群分布図 ……	65	第 111 図	遺構外出土遺物 (2) ……	143
第 53 図	S C 4 炭化物集中分布図 ……	65	第 112 図	石器器種別分布図(西側調査区) ……	148
第 54 図	T P 112 出土遺物分布図 ……	65	第 113 図	石器器種別分布図(東側調査区) ……	149
第 55 図	T P 112 出土石器 ……	66	第 114 図	石器石質別分布図(西側調査区) ……	150
第 56 図	縄文時代遺構分布図(西側調査区) ……	69	第 115 図	石器石質別分布図(東側調査区) ……	151
第 57 図	縄文時代遺構分布図(東側調査区) ……	70	第 116 図	遺構外出土遺物 (3) ……	153
第 58 図	S K 83 J 炉穴 ……	71	第 117 図	遺構外出土遺物 (4) ……	154
第 59 図	S K 84 J 炉穴 (1) ……	72	第 118 図	遺構外出土遺物 (5) ……	155

第 119 図	遺構外出土遺物 (6) ……………	156	第 173 図	年不詳恋ヶ窪村絵図 (国分寺市市史編さん委員会 1982 に一部加筆) ……………	230
第 120 図	中世以降遺構分布図 (西側調査区) ……………	159	第 174 図	旧恋ヶ窪村周辺の地籍図と調査地点の位置 (昭和 2 年 「国分寺村全図」をトレース) ……………	231
第 121 図	中世以降遺構分布図 (東側調査区) ……………	160	第 175 図	旧恋ヶ窪村周辺の地籍図と溝状遺構 (昭和 2 年「国分 寺村全図」より転用) ……………	232
第 122 図	S D 1 ~ 5 溝状遺構 ……………	162	第 176 図	形態別地下室状遺構 ……………	234
第 123 図	S D 1 溝状遺構出土遺物 ……………	163	第 177 図	戦時中の日立中研建家と地下室状遺構配置図 (株式会社 日立製作所中央研究所 30 年史編さん委員会 1972 に一 部加筆) ……………	235
第 124 図	S D 6 溝状遺構 ……………	164	第 178 図	国分寺市内の防空壕分布図 ……………	238
第 125 図	S D 8・9・13 ~ 18・22・23 溝状遺構 (1) ……	168	第 179 図	国分寺市内の防空壕 (縮尺は任意) ……………	240
第 126 図	S D 8・9・13 ~ 18・22・23 溝状遺構 (2) ……	169	第 180 図	日の出町の防空壕 (縮尺は任意) ……………	241
第 127 図	S D 8・9・13 ~ 18・22・23 溝状遺構 (3) ……	170			
第 128 図	S D 8 溝状遺構出土遺物 ……………	171			
第 129 図	S D 9 溝状遺構出土遺物 ……………	172			
第 130 図	S D 14 溝状遺構出土遺物 ……………	173			
第 131 図	S D 10 ~ 12・25・26・28・29 溝状遺構 (1) ……	174			
第 132 図	S D 10 ~ 12・25・26・28・29 溝状遺構 (2) ……	175			
第 133 図	S D 10 ~ 12・25・26・28・29 溝状遺構 (3) ……	176			
第 134 図	S D 19 溝状遺構出土遺物 ……………	177			
第 135 図	S D 20 溝状遺構出土遺物 ……………	177			
第 136 図	S D 25 溝状遺構出土遺物 ……………	177			
第 137 図	S D 19 ~ 21・24・30 溝状遺構 ……………	178			
第 138 図	S D 27 溝状遺構 ……………	179			
第 139 図	S D 27 溝状遺構出土遺物 ……………	179			
第 140 図	S K 4 土坑出土遺物 ……………	180			
第 141 図	S K 1 ~ 7 土坑 ……………	182			
第 142 図	S K 8 ~ 11・31・32・34・35 土坑 ……………	183			
第 143 図	S A 1 ~ 3 柱穴列 ……………	185			
第 144 図	S X 1 地下室状遺構 ……………	187			
第 145 図	S X 2 地下室状遺構 ……………	188			
第 146 図	S X 3 地下室状遺構 ……………	188			
第 147 図	S X 4 地下室状遺構 ……………	189			
第 148 図	S X 5 地下室状遺構 ……………	190			
第 149 図	S X 6 地下室状遺構 ……………	191			
第 150 図	S X 7 地下室状遺構 ……………	193			
第 151 図	S X 8 地下室状遺構 ……………	194			
第 152 図	S X 9 地下室状遺構 (1) ……………	195			
第 153 図	S X 9 地下室状遺構 (2) ……………	196			
第 154 図	S X 10 地下室状遺構 (1) ……………	197			
第 155 図	S X 10 地下室状遺構 (2) ……………	198			
第 156 図	S X 11 地下室状遺構 ……………	199			
第 157 図	S X 6・7・8 地下室状遺構出土遺物 ……………	200			
第 158 図	S X 100・101・103 不明遺構 ……………	201			
第 159 図	S X 102 不明遺構 ……………	202			
第 160 図	P-5・7・8・434 小穴 ……………	203			
第 161 図	遺構外出土遺物 ……………	205			
第 162 図	中世以降遺物分布図 (西側調査区) ……………	207			
第 163 図	中世以降遺物分布図 (東側調査区) ……………	208			
第 164 図	近現代遺物分布図 (東側調査区) ……………	209			
第 165 図	暦年較正結果 ……………	212			
第 166 図	羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の クラスター分析 ……………	224			
第 167 図	羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石+東日本の 主な原産地黒曜石のクラスター分析 ……………	224			
第 168 図	羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (畑宿) の例 ……………	225			
第 169 図	羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (柏峠) の例 ……………	225			
第 170 図	羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (神津島) の例 ……………	225			
第 171 図	羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (小深沢) の例 ……………	225			
第 172 図	羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (星ヶ塔) の例 ……………	225			

表目次

第 1 表	周辺遺跡一覧表	6	第 48 表	S D 1 溝状遺構出土陶器観察表	163
第 2 表	羽根沢遺跡(国分寺市 No.5) 調査履歴表(昭和 52 年～平成 29 年度)	8	第 49 表	S D 8 溝状遺構出土縄文土器観察表	171
第 3 表	恋ヶ窪東遺跡(国分寺市 No.57) 調査履歴表(昭和 52 年～平成 28 年度)	8	第 50 表	S D 8 溝状遺構出土石器観察表	172
第 4 表	恋ヶ窪遺跡(国分寺市 No.2) 調査履歴表(昭和 49 年～平成 29 年度) 1	9	第 51 表	S D 8 溝状遺構出土陶器観察表	172
第 5 表	恋ヶ窪遺跡(国分寺市 No.2) 調査履歴表(昭和 49 年～平成 29 年度) 2	10	第 52 表	S D 8 溝状遺構出土土製品観察表	172
第 6 表	恋ヶ窪南遺跡(国分寺 No. 3) 調査履歴表	11	第 53 表	S D 8 溝状遺構出土土製品観察表	172
第 7 表	花沢西遺跡(国分寺市 No. 8) 調査履歴表	11	第 54 表	S D 9 溝状遺構出土瓦観察表	173
第 8 表	武蔵国分寺跡(国分寺市 No.19) 調査履歴表	12	第 55 表	S D 9 溝状遺構出土陶磁器観察表	173
第 9 表	調査経過(1)	18	第 56 表	S D 9 溝状遺構出土金属製品観察表	173
第 10 表	調査経過(2)	18	第 57 表	S D 14 溝状遺構出土金属製品観察表	173
第 11 表	層序別石質分類表	21	第 58 表	S D 19 溝状遺構出土磁器観察表	177
第 12 表	第Ⅲ層出土石器観察表	28	第 59 表	S D 20 溝状遺構出土石器観察表	177
第 13 表	第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器観察表(1)	37	第 60 表	S D 25 溝状遺構出土縄文土器観察表	177
第 14 表	第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器観察表(2)	38	第 61 表	S D 27 溝状遺構出土陶器観察表	180
第 15 表	第Ⅳ層出土石器観察表	45	第 62 表	S K 4 土坑出土磁器観察表	180
第 16 表	第Ⅴ層出土石器観察表	49	第 63 表	S X 6・7 地下室状遺構出土遺物観察表	200
第 17 表	第Ⅵ層出土石器観察表	52	第 64 表	S X 8 地下室状遺構出土金属製品観察表	200
第 18 表	第Ⅶ～第Ⅸ層出土石器観察表	60	第 65 表	中世以降小穴一覧表	203
第 19 表	T P 112 出土石器観察表	66	第 66 表	遺構外出土遺物観察表	206
第 20 表	旧石器時代出土石器器種一覧表	67	第 67 表	遺構外出土金属製品観察表	206
第 21 表	旧石器時代出土石器石質一覧表	67	第 68 表	測定試料および処理	210
第 22 表	旧石器時代出土礫石質一覧表	68	第 69 表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	211
第 23 表	旧石器時代出土礫遺存度一覧表	68	第 70 表	樹種同定結果	213
第 24 表	旧石器時代出土礫被熱度一覧表	68	第 71 表	羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石(分析用資料) 一覧表	217
第 25 表	旧石器時代出土礫付着物一覧表	68	第 72 表	羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石母岩分類	219
第 26 表	S K 84 J 炉穴出土縄文土器観察表	74	第 73 表	東日本の主な黒曜石の原産地の化学組成(6 元素の酸化物の和を 100 として表記)	219
第 27 表	集石土坑出土礫石質一覧表	76	第 74 表	今回の分析と同一条件で同時測定した原産地黒曜石と黒曜石標準岩石の分析の結果(6 元素の酸化物の和を 100 として表記)	219
第 28 表	集石土坑出土礫遺存度一覧表	77	第 75 表	蛍光 X 線分析の結果・産地分析の結果(推定原産地) ー羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石(6 元素の酸化物の和を 100 として表記)	220
第 29 表	集石土坑出土礫被熱度一覧表	77	第 76 表	羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石(原産地ごとの集計)(6 元素の酸化物の和を 100 として表記)	222
第 30 表	集石土坑出土礫付着物一覧表	77	第 77 表	羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石の層位毎の推定原産地	222
第 31 表	S S 1 集石土坑出土縄文土器観察表	79	第 78 表	層位別出土黒曜石の原産地推定結果	224
第 32 表	土坑出土縄文土器観察表	106	第 79 表	国分寺市内の防空壕一覧表	239
第 33 表	小穴出土縄文土器観察表	127			
第 34 表	縄文時代小穴一覧表(1)	127			
第 35 表	縄文時代小穴一覧表(2)	128			
第 36 表	縄文時代小穴一覧表(3)	129			
第 37 表	縄文時代小穴一覧表(4)	130			
第 38 表	縄文時代小穴一覧表(5)	131			
第 39 表	縄文時代小穴一覧表(6)	132			
第 40 表	縄文時代小穴一覧表(7)	133			
第 41 表	遺構外出土縄文土器観察表(1)	144			
第 42 表	遺構外出土縄文土器観察表(2)	145			
第 43 表	遺構外出土縄文土器観察表(3)	146			
第 44 表	遺構外出土石器観察表	157			
第 45 表	縄文時代出土石器器種一覧表	158			
第 46 表	縄文時代出土石器石質一覧表	158			
第 47 表	S D 1 溝状遺構出土縄文土器観察表	163			

写真図版目次

- 1-1 調査地点の旧景観（上が北 1947年10月24日 米軍撮影）
- 2-1 調査区俯瞰（上が北）
- 3-1 A-1区古代確認面調査終了全景（北側東から）
- 3-2 A-1区古代確認面調査終了全景（中央東から）
- 3-3 A-1区古代確認面調査終了全景（南側東から）
- 3-4 A-1区縄文確認面調査終了全景（北側東から）
- 3-5 A-1区縄文確認面調査終了全景（中央東から）
- 3-6 A-1区縄文確認面調査終了全景（南側東から）
- 3-7 A-1区旧石器調査終了全景（南から）
- 3-8 A-2区古代確認面調査終了全景（北側北から）
- 4-1 A-2区古代確認面調査終了全景（中央北から）
- 4-2 A-2区古代確認面調査終了全景（南側南から）
- 4-3 A-2区縄文確認面調査終了全景（北側東から）
- 4-4 A-2区縄文確認面調査終了全景（中央南から）
- 4-5 A-2区縄文確認面調査終了全景3（南側南から）
- 4-6 A-2区旧石器調査終了全景（北側南から）
- 4-7 A-2区旧石器調査終了全景（中央南から）
- 4-8 A-2区旧石器調査終了全景（南側南から）
- 5-1 A-3区古代確認面調査終了全景（西側南から）
- 5-2 A-3区古代確認面調査終了全景（東側南から）
- 5-3 A-3区縄文確認面調査終了全景（西側南から）
- 5-4 A-3区縄文確認面調査終了全景（東側南から）
- 5-5 A-3区旧石器調査終了全景（西から）
- 5-6 A-4区古代確認面調査終了全景（東側北から）
- 5-7 A-4区古代確認面調査終了全景（西側北から）
- 5-8 A-4区縄文確認面調査終了全景（東側北から）
- 6-1 A-4区縄文確認面調査終了全景（西側北から）
- 6-2 A-4区旧石器調査終了全景（北から）
- 6-3 A-4区南拡張部古代確認面調査終了全景（北から）
- 6-4 A-4区南拡張部縄文確認面調査終了全景（北から）
- 6-5 A-4区南拡張部旧石器調査終了全景（北から）
- 6-6 A-4区西拡張部古代確認面調査終了全景（北から）
- 6-7 A-4区西拡張部縄文確認面調査終了全景（北から）
- 6-8 A-4区西拡張部旧石器調査終了全景（北から）
- 7-1 B-1区縄文確認面調査終了全景（南から）
- 7-2 B-1区旧石器調査終了全景（東側南から）
- 7-3 B-1区旧石器調査終了全景（西側南から）
- 7-4 B-2区縄文確認面調査終了全景（上が北）
- 7-5 B-2区縄文確認面調査終了全景（東から）
- 7-6 B-2区縄文確認面調査終了全景（西から）
- 7-7 B-2区旧石器調査終了全景（東から）
- 7-8 B-3区古代確認面調査終了全景（西から）
- 8-1 B-3区縄文確認面調査終了全景（西から）
- 8-2 B-3区旧石器調査終了全景（西から）
- 8-3 B-4区古代確認面調査終了全景（北東側西から）
- 8-4 B-4区縄文確認面調査終了全景（北東側西から）
- 8-5 B-4区旧石器調査終了全景（北東側西から）
- 8-6 B-4区縄文確認面調査終了全景（西側東から）
- 8-7 B-4区縄文確認面調査終了全景（西端側東から）
- 8-8 B-4区旧石器調査終了全景（西側東から）
- 9-1 B-4区古代確認面調査終了全景（東側中央西から）
- 9-2 B-4区古代確認面調査終了全景（東側西から）
- 9-3 B-4区縄文確認面調査終了全景（東側中央西から）
- 9-4 B-4区縄文確認面調査終了全景（東側西から）
- 9-5 B-4区旧石器調査終了全景（西から）
- 9-6 B-5区縄文確認面調査終了全景（北側南から）
- 9-7 B-5区旧石器調査終了全景（北側南から）
- 9-8 B-5区縄文確認面調査終了全景（南側北から）
- 10-1 B-5区旧石器調査終了全景（南側北から）
- 10-2 B-6区縄文確認面調査終了全景（北側南から）
- 10-3 B-6区旧石器調査終了全景（北側南から）
- 10-4 B-6区縄文確認面調査終了全景（南側南から）
- 10-5 B-6区古代確認面調査終了全景（北側東から）
- 10-6 B-6区縄文確認面調査終了全景（北側東から）
- 10-7 B-7区縄文確認面調査終了全景（南側西から）
- 10-8 B-7区縄文確認面調査終了全景（南側南から）
- 11-1 T P 118 調査終了全景（西から）
- 11-2 T P 118 基本層序西壁（東から）
- 11-3 T P 121 S T 7 石器集中（第Ⅲ層-1北から）
- 11-4 T P 121 S T 7 石器集中（第Ⅲ層-2北から）
- 11-5 T P 121 S T 7 石器集中（第Ⅳ層北から）
- 11-6 T P 121 S T 7 石器集中 ナイフ形石器（No.2）出土状況（第Ⅲ層東から）
- 11-7 T P 121 S T 7 石器集中 石核（No.12）出土状況（第Ⅲ層東から）
- 11-8 T P 121 S T 7 石器集中 石刃（No.13）出土状況（第Ⅲ層東から）
- 12-1 T P 121 S T 7 石器集中 細石刃（No.17）出土状況（第Ⅲ層北から）
- 12-2 T P 121 S T 7 石器集中 剥片（No.34）出土状況（第Ⅳ層西から）
- 12-3 T P 3 調査終了全景（西から）
- 12-4 T P 3 南壁（北から）
- 12-5 T P 3 S T 8 石器集中（第Ⅳ層東から）
- 12-6 T P 3 S C 1 炭化物集中（第Ⅳ層南から）
- 12-7 T P 65 調査終了全景（北から）
- 12-8 T P 65 東壁（西から）
- 13-1 T P 65 南壁（北から）
- 13-2 T P 65 S R 3 礫集中（第Ⅴ層北から）
- 13-3 T P 14 調査終了全景（北から）
- 13-4 T P 14 東壁（西から）
- 13-5 T P 14 南壁（北から）
- 13-6 T P 14 S C 2 a 炭化物集中（第Ⅴ層東から）
- 13-7 T P 52 調査終了全景（北から）
- 13-8 T P 52 東壁（西から）
- 14-1 T P 52 南壁（北から）
- 14-2 T P 52 S T 3 石器集中（第Ⅵ層東から）
- 14-3 T P 17 調査終了全景（北から）
- 14-4 T P 17 東壁（西から）
- 14-5 T P 17 南壁（北から）
- 14-6 T P 17 ナイフ形石器（No.52）出土状況（第Ⅴ層東から）
- 14-7 T P 38 調査終了全景（北から）
- 14-8 T P 38 東壁（西から）
- 15-1 T P 38 南壁（北から）
- 15-2 T P 38 S T 1 石器集中（第Ⅵ層北から）
- 15-3 T P 15 調査終了全景（北から）
- 15-4 T P 15 東壁（西から）
- 15-5 T P 15 南壁（北から）
- 15-6 T P 15 S C 3 炭化物集中（第Ⅵ層北から）
- 15-7 T P 41 調査終了全景（北から）
- 15-8 T P 41 東壁（西から）
- 16-1 T P 41 南壁（北から）
- 16-2 T P 41 S C 5 炭化物集中（第Ⅵ層南から）
- 16-3 T P 43 調査終了全景（北から）
- 16-4 T P 43 東壁（西から）
- 16-5 T P 43 南壁（北から）
- 16-6 T P 43 S T 2 石器集中（第Ⅵ・第Ⅶ層西から）
- 16-7 T P 75・76 調査終了全景（北から）
- 16-8 T P 75・76 東壁（西から）

17-1	TP 75・76 南壁 (北から)	24-7	SK 13 J 土坑東西断面 (北から)
17-2	TP 75 ST 4 石器集中 (第Ⅶ～第Ⅸ層西から)	24-8	SK 16 J 土坑完掘全景 (南から)
17-3	TP 76 ST 5 石器集中 (第Ⅶ層北から)	25-1	SK 16 J 土坑東西断面 (南から)
17-4	TP 88 調査終了全景 (東から)	25-2	SK 20 J 土坑完掘全景 (西から)
17-5	TP 88 西壁 (東から)	25-3	SK 20 J 土坑南北断面 (西から)
17-6	TP 88 南壁 (北から)	25-4	SK 24 J 土坑完掘全景 (南から)
17-7	TP 88 ST 6 石器集中 (第Ⅶ・第Ⅸ層東から)	25-5	SK 24 J 土坑東西断面 (南から)
17-8	TP 50 調査終了全景 (北から)	25-6	SK 27 J 土坑完掘全景 (東から)
18-1	TP 50 東壁 (西から)	25-7	SK 27 J 土坑南北断面 (東から)
18-2	TP 50 南壁 (北から)	25-8	SK 28 J 土坑完掘全景 (東から)
18-3	TP 50 SC 6 炭化物集中 (第Ⅵ・第Ⅶ層北から)	26-1	SK 28 J 土坑南北断面 (東から)
18-4	TP 74 調査終了全景 (北から)	26-2	SK 29 J 土坑完掘全景 (東から)
18-5	TP 74 東壁 (西から)	26-3	SK 29 J 土坑南北断面 (東から)
18-6	TP 74 南壁 (北から)	26-4	SK 37 J 土坑完掘全景 (東から)
18-7	TP 74 SC 7 炭化物集中 (第Ⅶ層南から)	26-5	SK 37 J 土坑南北断面 (東から)
18-8	TP 30 調査終了全景 (北から)	26-6	SK 38 J 土坑完掘全景 (南から)
19-1	TP 30 東壁 (西から)	26-7	SK 38 J 土坑東西断面 (南から)
19-2	TP 30 南壁 (北から)	26-8	SK 42 J 土坑完掘全景 (東から)
19-3	TP 30 SC 4 炭化物集中 (第Ⅸ層北から)	27-1	SK 42 J 土坑南北断面 (東から)
19-4	TP 112 調査終了全景 (南から)	27-2	SK 46 J 土坑完掘全景 (南から)
19-5	TP 112 東壁 (西から)	27-3	SK 46 J 土坑東西断面 (南から)
19-6	TP 112 南壁 (北から)	27-4	SK 49 J 土坑完掘全景 (東から)
19-7	TP 112 遺物出土状況 (第Ⅸ・第Ⅹ層南から)	27-5	SK 49 J 土坑南北断面 (東から)
19-8	TP 112 使用剥片 (No.70) 出土状況 (第Ⅹ層南から)	27-6	SK 50 J 土坑完掘全景 (東から)
20-1	SK 83 J 炉穴完掘全景 (東から)	27-7	SK 50 J 土坑南北断面 (東から)
20-2	SK 83 J 炉穴南北断面 (東から)	27-8	SK 51 J 土坑完掘全景 (南から)
20-3	SK 84 J 炉穴完掘全景 (西から)	28-1	SK 51 J 土坑東西断面 (南から)
20-4	SK 84 J 炉穴南北断面 (東から)	28-2	SK 52 J 土坑完掘全景 (南から)
20-5	SK 84 J 炉穴遺物出土状況 (南から)	28-3	SK 52 J 土坑遺物出土状況 (南から)
20-6	SS 1 集石土坑検出全景-1 (南から)	28-4	SK 52 J 土坑東西断面 (南から)
20-7	SS 1 集石土坑検出全景-2 (南から)	28-5	SK 57 J 土坑完掘全景 (南から)
20-8	SS 1 集石土坑東西断面 (南から)	28-6	SK 57 J 土坑東西断面 (南から)
21-1	SS 1 集石土坑完掘全景 (南から)	28-7	SK 59 J 土坑完掘全景 (北から)
21-2	SS 2 集石土坑検出全景 (東から)	28-8	SK 59 J 土坑東西断面 (北から)
21-3	SS 2 集石土坑南北断面 (西から)	29-1	SK 62 J 土坑完掘全景 (南から)
21-4	SS 2 集石土坑完掘全景 (東から)	29-2	SK 62 J 土坑東西断面 (南から)
21-5	SS 3 集石土坑検出全景 (南から)	29-3	SK 66 J 土坑完掘全景 (南から)
21-6	SS 3 集石土坑東西断面 (南から)	29-4	SK 66 J 土坑南北断面 (東から)
21-7	SS 3 集石土坑完掘全景 (南から)	29-5	SK 67 J 土坑完掘全景 (南から)
21-8	SS 4 集石土坑検出全景 (西から)	29-6	SK 67 J 土坑東西断面 (南から)
22-1	SS 4 集石土坑南北断面 (西から)	29-7	SK 68 J 土坑完掘全景 (東から)
22-2	SS 4 集石土坑完掘全景 (西から)	29-8	SK 68 J 土坑南北断面 (東から)
22-3	SS 5 集石土坑検出全景 (南から)	30-1	SK 71 J 土坑完掘全景 (南から)
22-4	SS 5 集石土坑東西断面 (南から)	30-2	SK 71 J 土坑東西断面 (南から)
22-5	SS 5 集石土坑完掘全景 (南から)	30-3	SK 72 J 土坑完掘全景 (南から)
22-6	SS 6 集石土坑検出全景 (東から)	30-4	SK 72 J 土坑東西断面 (南から)
22-7	SS 6 集石土坑東西断面 (南から)	30-5	SK 75 J 土坑完掘全景 (南から)
22-8	SS 6 集石土坑炭化物検出状況 (北から)	30-6	SK 75 J 土坑東西断面 (南から)
23-1	SS 6 集石土坑完掘全景 (南から)	30-7	SK 78 J 土坑完掘全景 (南から)
23-2	SS 7 集石土坑検出全景 (南から)	30-8	SK 78 J 土坑東西断面 (南から)
23-3	SS 8 集石土坑検出全景 (南から)	31-1	SK 79 J 土坑完掘全景 (東から)
23-4	SS 9 集石土坑検出全景 (南から)	31-2	SK 79 J 土坑南北断面 (東から)
23-5	SS 10 集石土坑検出全景 (東から)	31-3	PJ-32 小穴完掘全景 (南から)
23-6	SS 10 集石土坑南北断面 (東から)	31-4	PJ-32 小穴東西断面 (南から)
23-7	SK 33 J 陥し穴完掘全景 (東から)	31-5	PJ-45 小穴完掘全景 (南から)
23-8	SK 33 J 陥し穴南北断面 (西から)	31-6	PJ-45 小穴東西断面 (南から)
24-1	SK 53 J 陥し穴完掘全景 (西から)	31-7	PJ-46 完掘全景 (東から)
24-2	SK 54 J 陥し穴完掘全景 (西から)	31-8	PJ-46 小穴南北断面 (東から)
24-3	SK 54 J 陥し穴南北断面 (東から)	32-1	PJ-55 小穴完掘全景 (南から)
24-4	SK 55 J 陥し穴完掘全景 (南から)	32-2	PJ-55 小穴東西断面 (南から)
24-5	SK 55 J 陥し穴東西断面 (南から)	32-3	PJ-109 小穴完掘全景 (南から)
24-6	SK 13 J 土坑完掘全景 (西から)	32-4	PJ-109 小穴東西断面 (南から)

32-5	P J-115	小穴完掘全景	(南から)	40-3	S D 14	溝状遺構南北断面	(東から)
32-6	P J-115	小穴東西断面	(南から)	40-4	S D 15	溝状遺構南北断面	(東から)
32-7	P J-127	小穴完掘全景	(南から)	40-5	S D 16・17	溝状遺構完掘全景	(北から)
32-8	P J-127	小穴東西断面	(南から)	40-6	S D 16	溝状遺構東西断面	(南から)
33-1	P J-142	小穴完掘全景	(南から)	40-7	S D 17	溝状遺構東西断面	(南から)
33-2	P J-142	小穴東西断面	(南から)	40-8	S D 18	溝状遺構完掘全景	(東から)
33-3	P J-172	小穴完掘全景	(南から)	41-1	S D 18	溝状遺構南北断面	(東から)
33-4	P J-172	小穴東西断面	(南から)	41-2	S D 19	溝状遺構完掘全景	(南から)
33-5	P J-175	小穴完掘全景	(南から)	41-3	S D 19	溝状遺構東西断面	(南から)
33-6	P J-175	小穴東西断面	(南から)	41-4	S D 20	溝状遺構完掘全景	(南から)
33-7	P J-186	小穴完掘全景	(南から)	41-5	S D 20	溝状遺構東西断面	(南から)
33-8	P J-186	小穴東西断面	(南から)	41-6	S D 21	溝状遺構完掘全景	(北から)
34-1	P J-193	小穴完掘全景	(南から)	41-7	S D 21	溝状遺構東西断面	(北から)
34-2	P J-193	小穴東西断面	(南から)	41-8	S D 22・23	溝状遺構完掘全景	(西から)
34-3	P J-221	小穴完掘全景	(南から)	42-1	S D 22・23	溝状遺構南北断面	(西から)
34-4	P J-221	小穴東西断面	(南から)	42-2	S D 24	溝状遺構完掘全景	(南から)
34-5	P J-273	小穴完掘全景	(南から)	42-3	S D 24	溝状遺構東西断面	(南から)
34-6	P J-273	小穴東西断面	(南から)	42-4	S D 25	溝状遺構完掘全景	(西から)
34-7	P J-297	小穴完掘全景	(南から)	42-5	S D 25	溝状遺構東西断面	(南から)
34-8	P J-297	小穴東西断面	(南から)	42-6	S D 26	溝状遺構完掘全景	(南から)
35-1	P J-304	小穴完掘全景	(東から)	42-7	S D 26	溝状遺構南北断面	(東から)
35-2	P J-304	小穴南北断面	(東から)	42-8	S D 27・28	溝状遺構北側完掘全景	(南から)
35-3	P J-318	小穴完掘全景	(南から)	43-1	S D 27	溝状遺構北側東西断面	(北から)
35-4	P J-318	小穴東西断面	(南から)	43-2	S D 27・28	溝状遺構南側完掘全景	(南から)
35-5	P J-373	小穴完掘全景	(南から)	43-3	S D 27	溝状遺構南側東西断面	(南から)
35-6	P J-373	小穴東西断面	(南から)	43-4	S D 28	溝状遺構南側東西断面	(北から)
35-7	P J-381	小穴完掘全景	(東から)	43-5	S D 29	溝状遺構完掘全景	(東から)
35-8	P J-381	小穴南北断面	(東から)	43-6	S D 29	溝状遺構南北断面	(東から)
36-1	P J-417	小穴完掘全景	(東から)	43-7	S K 31	土坑完掘全景	(東から)
36-2	P J-417	小穴南北断面	(東から)	43-8	S K 31	土坑南北断面	(東から)
36-3	P J-418	小穴完掘全景	(南から)	44-1	S K 32	土坑完掘全景	(東から)
36-4	P J-418	小穴東西断面	(南から)	44-2	S K 32	土坑南北断面	(東から)
36-5	P J-424	小穴完掘全景	(南から)	44-3	S K 34	土坑完掘全景	(西から)
36-6	P J-424	小穴東西断面	(南から)	44-4	S K 34	土坑南北断面	(西から)
36-7	P J-447	小穴完掘全景	(南から)	44-5	S K 35	土坑完掘全景	(東から)
36-8	P J-447	小穴東西断面	(北から)	44-6	S K 35	土坑南北断面	(東から)
37-1	S D 1	溝状遺構完掘全景	(東から)	44-7	S A 1	柱穴列完掘全景	(南から)
37-2	S D 1	溝状遺構南北断面	(西から)	44-8	S A 2・3	柱穴列完掘全景	(西から)
37-3	S D 2・5	溝状遺構完掘全景	(南から)	45-1	S X 1	地下室状遺構完掘全景	(東から)
37-4	S D 2	溝状遺構東西断面	(南から)	45-2	S X 1	地下室状遺構完掘全景	(西から)
37-5	S D 5	溝状遺構東西断面	(南から)	45-3	S X 1	地下室状遺構西側階段	(東から)
37-6	S D 3・4	溝状遺構完掘全景	(北から)	45-4	S X 1	地下室状遺構東側階段	(西から)
37-7	S D 3	溝状遺構東西断面	(南から)	45-5	S X 1	地下室状遺構東西断面	(南東から)
37-8	S D 4	溝状遺構東西断面	(南から)	45-6	S X 2	地下室状遺構完掘全景	(東から)
38-1	S D 6	溝状遺構完掘全景	(南から)	45-7	S X 2	地下室状遺構完掘全景	(西から)
38-2	S D 6	溝状遺構東西断面	(南から)	45-8	S X 2	地下室状遺構西側階段	(東から)
38-3	S D 8・9	溝状遺構完掘全景	(東から)	46-1	S X 3	地下室状遺構完掘全景	(南から)
38-4	S D 8	溝状遺構西側南北断面	(東から)	46-2	S X 3	地下室状遺構完掘全景	(北から)
38-5	S D 8	溝状遺構東側南北断面	(東から)	46-3	S X 3	地下室状遺構南側階段	(北から)
38-6	S D 9	溝状遺構西側南北断面	(東から)	46-4	S X 3	地下室状遺構北側階段	(南から)
38-7	S D 9	溝状遺構東側南北断面	(東から)	46-5	S X 3	地下室状遺構南北断面	(東から)
38-8	S D 10	溝状遺構完掘全景	(西から)	46-6	S X 4	地下室状遺構完掘全景	(西から)
39-1	S D 10	溝状遺構南北断面	(東から)	46-7	S X 4	地下室状遺構東西断面	(南から)
39-2	S D 11	溝状遺構完掘全景	(西から)	46-8	S X 5	地下室状遺構完掘全景	(西から)
39-3	S D 11	溝状遺構南北断面	(西から)	47-1	S X 5	地下室状遺構東側階段	(西から)
39-4	S D 12	溝状遺構東側完掘全景	(西から)	47-2	S X 5	地下室状遺構北側ピット	(南から)
39-5	S D 12	溝状遺構中央完掘全景	(東から)	47-3	S X 5	地下室状遺構南側ピット	(北から)
39-6	S D 12	溝状遺構西側完掘全景	(東から)	47-4	S X 6	地下室状遺構完掘全景	(南から)
39-7	S D 12	溝状遺構南北断面	(東から)	47-5	S X 6	地下室状遺構完掘全景	(北から)
39-8	S D 13	溝状遺構完掘全景	(西から)	47-6	S X 6	地下室状遺構東側階段	(南から)
40-1	S D 13	溝状遺構南北断面	(西から)	47-7	S X 6	地下室状遺構西側階段	(南から)
40-2	S D 14・15	溝状遺構完掘全景	(東から)	47-8	S X 6	地下室状遺構南北断面	(東から)

- | | | | |
|------|----------------------------|------|----------------------|
| 48-1 | S X 7 地下室状遺構完掘全景 (南から→北から) | 52-1 | 第Ⅲ層出土石器 |
| 48-2 | S X 7 地下室状遺構南北断面 (東から) | 52-2 | 第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器 (1) |
| 48-3 | S X 8 地下室状遺構完掘全景 (南から) | 53-1 | 第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器 (2) |
| 48-4 | S X 8 地下室状遺構東側階段 (西から) | 54-1 | 第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器 (3) |
| 48-5 | S X 8 地下室状遺構北側階段 (南から) | 55-1 | 第Ⅳ層出土石器 (1) |
| 48-6 | S X 8 地下室状遺構南北断面 (西から) | 56-1 | 第Ⅳ層出土石器 (2) |
| 48-7 | S X 9 地下室状遺構完掘全景 (北から) | 57-1 | 第Ⅳ層出土石器 |
| 48-8 | S X 9 地下室状遺構完掘全景 (西から) | 57-2 | 第Ⅴ層出土石器 |
| 49-1 | S X 9 地下室状遺構東側階段 (南から) | 58-1 | 第Ⅵ層出土石器 |
| 49-2 | S X 9 地下室状遺構西側階段 (南から) | 58-2 | 第Ⅶ～第Ⅸ層出土石器 (1) |
| 49-3 | S X 9 地下室状遺構底面 (西から) | 59-1 | 第Ⅶ～第Ⅸ層出土石器 (2) |
| 49-4 | S X 9 地下室状遺構副室 (北から) | 59-2 | 第Ⅹ層出土石器 |
| 49-5 | S X 9 地下室状遺構南北断面 (西から) | 60-1 | S K 84 J 炉穴出土遺物 |
| 49-6 | S X 10 地下室状遺構東側完掘全景 (北から) | 60-2 | S S 1 集石土坑出土遺物 |
| 49-7 | S X 10 地下室状遺構東側階段 (南から) | 60-3 | 土坑出土遺物 |
| 49-8 | S X 10 地下室状遺構東側南北断面 (東から) | 60-4 | 小穴出土遺物 |
| 50-1 | S X 10 地下室状遺構西側完掘全景 (南から) | 61-1 | 縄文時代遺構外出土遺物 (1) |
| 50-2 | S X 10 地下室状遺構西側完掘全景 (北から) | 62-1 | 縄文時代遺構外出土遺物 (2) |
| 50-3 | S X 10 地下室状遺構西側東西断面 (北から) | 63-1 | 縄文時代遺構外出土遺物 (3) |
| 50-4 | S X 11 地下室状遺構完掘全景 (西から) | 64-1 | 縄文時代遺構外出土遺物 (4) |
| 50-5 | S X 11 地下室状遺構西側階段 (東から) | 65-1 | 縄文時代遺構外出土遺物 (5) |
| 50-6 | S X 11 地下室状遺構南北断面 (西から) | 66-1 | S D 1 溝状遺構出土遺物 |
| 50-7 | S X 100 不明遺構完掘全景 (南から) | 66-2 | S D 8 溝状遺構出土遺物 |
| 50-8 | S X 101 不明遺構完掘全景 (北から) | 67-1 | S D 9 溝状遺構出土遺物 |
| 51-1 | S X 102 不明遺構完掘全景 (北から) | 67-2 | S D 14 溝状遺構出土遺物 |
| 51-2 | S X 102 不明遺構南壁 (北から) | 67-3 | S D 19 溝状遺構出土遺物 |
| 51-3 | S X 103 不明遺構完掘全景 (南から) | 67-4 | S D 20 溝状遺構出土遺物 |
| 51-4 | 作業風景 | 67-5 | S D 25 溝状遺構出土遺物 |
| 51-5 | 作業風景 | 67-6 | S D 27 溝状遺構出土遺物 |
| 51-6 | 作業風景 | 68-1 | S K 4 土坑出土遺物 |
| 51-7 | 作業風景 | 68-2 | S X 6・7・8 地下室状遺構出土遺物 |
| 51-8 | 作業風景 | 69-1 | 中世以降遺構外出土遺物 |

第1章 調査に至る経緯

昭和17年に故小平浪平社長が創業した株式会社日立製作所中央研究所（以下、日立中研と略）は、「10年、20年後を目標とする研究を行うとともに、今日の課題にも取り組む」という理念を掲げ、社会イノベーションを軸とした日立グループの幅広い事業を支え、将来の社会ニーズを先取りする情報通信、エレクトロニクス、ライフサイエンス・計測技術の分野で新技術の創生に取り組んでいる事業所である。その敷地は、東京ドームの5倍におよぶ約20万7,000㎡を有し、「よい立木は切らずによけて建てよ」という同社長の意思を受けて、今でも武蔵野の面影を留めた貴重な自然が残されている地域を形成している。

そのような中で、研究所北西側の敷地において日立中研が同地を三菱地所レジデンス株式会社（以下、三菱地所レジデンスと略）に売却し、三菱地所レジデンスが施工主体者となって、事業区域面積20,746.23㎡におよぶ集合住宅・公園造成工事の計画が固まり、平成26年12月19日に日立中研から東京都教育委員会（以下、都教委と略）宛ての文化財保護法（以下、法と略）第93条に基づく届出が、市教委窓口へ提出された（国教教ふ収第714号）。施工の内容は、集合住宅建設地をGL-2.5m、集合住宅に付帯する機械式駐車場・ディスプレイ槽・防火水槽の設置部分をGL-6.0m、その他の敷地をGL-1.2mの深度まで掘削を伴う計画で、当該地は恋ヶ窪遺跡（国分寺市No.2遺跡）と羽根沢遺跡（同No.5）として周知している範囲に含まれるため、近隣での既往の発掘調査状況から勘案して、市教委は事前の発掘調査が必要である旨の意見を協議者窓口の三菱地所レジデンス、および都教委へ伝達し、都教委からは平成27年1月27日付で日立中研と市教委へ事前の発掘調査を行う指導内容の通知が送られた（26教地管第2552号）。

都教委からの通知に先駆けて、日立中研と市教委は埋蔵文化財の取扱にかかる協議を行い、本調査に臨むにあたって正確な費用積算を行うために、まずは事業区域全体で試掘確認調査を行うことにした。その際、日立中研は発掘調査機関を共和開発株式会社（以下、共和開発と略）に指名し、1月9日付で日立中研・市教委・共和開発の3者間で「(仮称)国分寺市東恋ヶ窪1丁目計画工事に伴う埋蔵文化財の取扱い(試掘調査)に関する協定書」を締結したうえで、1月13日～2月28日までの間に試掘調査を実施した（羽根沢遺跡第6次調査）。調査は事業区域全体を西側のA敷地、東側のB敷地に便宜的に区分し、既存建物の除却作業の工程から、第1期調査として1,117㎡（A敷地:607㎡、B敷地510㎡）、第2期調査として320㎡（すべてA敷地）、計1,437㎡を対象とした（第1図）。事業用地の大部分は羽根沢遺跡で、西側敷地の一部が恋ヶ窪遺跡に含まれているが、試掘調査の結果、西武国分寺線以西に展開する恋ヶ窪遺跡の縄文時代中期集落は、事業地内には広がらない様相を確認したものの、A敷地で道路状遺構や縄文時代の集石土坑、B敷地で集石土坑の他、立川ローム層第V層相当層からは礫群等が検出された。

その後、試掘調査の結果を踏まえて、事業区域のうち掘削工事が深く及びかつ遺構が検出された範囲を絞り込み、約12,972㎡を対象に本調査を実施することとし、改めて、日立中研・市教委・共和開発の3者間による「(仮称)国分寺市東恋ヶ窪1丁目計画工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を平成27年3月6日付で締結した。なお、法第92条による発掘調査の届出は、3月11日付で共和開発より市教委へ提出され（国教教ふ収第891号）、調査期間は4月1日から平成29年3月31日まで行う予定で臨んだ。また、今回の調査対象地は恋ヶ窪・羽根沢両遺跡に跨る範囲であるが、調査次数は相対的に広い面積を占める羽根沢遺跡の第8次調査とし、この間市教委は適宜現地の視察・確認を行ったが、調査は所期の予定よりも早く、平成28年10月27日をもって終了となった。

調査終了後は、11月1日付で共和開発から小金井警察署宛てに埋蔵物の発見届と、市教委を通じて都教委宛に埋蔵文化財保管証が提出され（国教教ふ収第730号）、4月13日付で都教委からは小金井警

察署・市教委宛てに埋蔵物の文化財認定通知が送付されている（27教地管理第1211号の2、国教教ふ収第68号）。

その後、報告書の納本を待って、平成31年1月15日付で共和開発より出土品および写真・図面等の記録類について市教委に移管する手続きを行い（国教教ふ収第909号）、本事業にかかる一連の調査を終了した。



第1図 試掘トレンチ配置図（第6次調査1期・II期）

第2章 調査地区の概観

第1節 遺跡の立地と地理的環境

今回の調査地点は国分寺市東恋ヶ窪一丁目280番に所在する株式会社日立製作所中央研究所の構内に位置し、羽根沢遺跡（国分寺市No. 5遺跡）の中央西部に相当する（第2・3図）。ただし、調査区A-1区及びA-4区の西側は隣接する恋ヶ窪遺跡に含まれる（第4・9図）。

羽根沢遺跡は、関東南部の扇状台地である武蔵野台地の南部を東流する野川の水源域に広がる遺跡群のひとつである。武蔵野台地は関東西部の山地より東京湾に向かって東に緩やかに傾斜する、東西50km、南北40kmに及ぶ広大な台地である。その中央部から東方には湧水を集めた河川によって4万年以上前に開析された谷地形が数多く見られるが、特に南部では古多摩川の大規模な浸食によって「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線が形成され、これを境に武蔵野段丘と立川段丘が成立した。両段丘の比高差はその後に火山灰等の土壌堆積も追加され、現在10～20mに至っている。

この崖線に沿って湧水を集めて東流するのが多摩川の支流のひとつ、野川である。野川の源流は日立中央研究所の構内で、東側を南北に走る「さんや谷」と西方に伸びる「恋ヶ窪谷」の二股に分かれるが、羽根沢遺跡は両者に挟まれた東西約600m、南北約400m、標高約76.5mの台地上（恋ヶ窪面）に位置する（第5図）。

今回の調査範囲は恋ヶ窪谷から北へ約200m、さんや谷から西へ約150m入った平坦地で、現地表面では東西に傾斜はなく、南に向かってわずかに下る傾斜を見せる。ちなみに立川ローム第IV層上面と比較すると、南北の傾斜はより大きく、また東のさんや谷へ若干下る傾斜も確認できる（第9図）。

第2節 周辺の遺跡

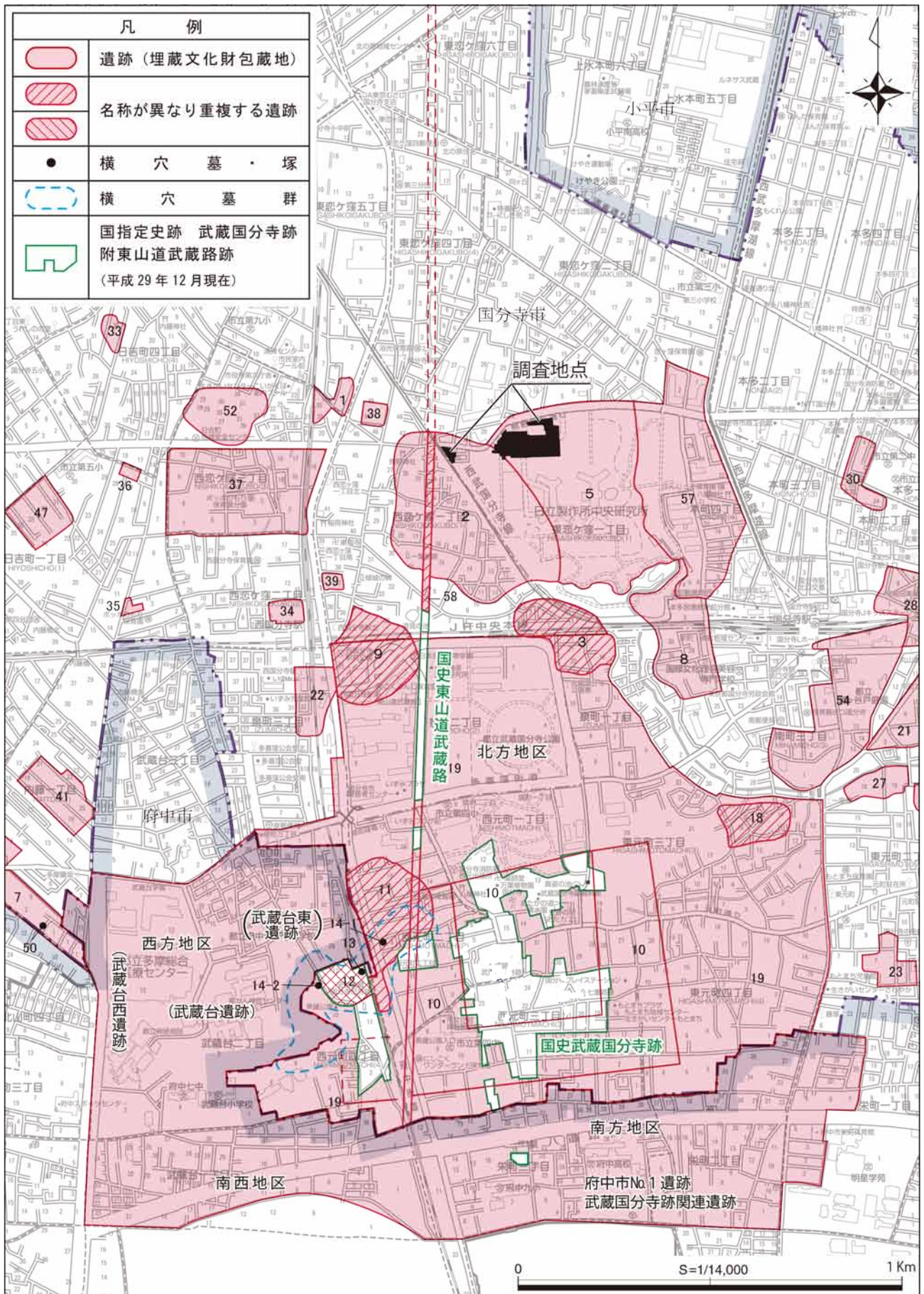
調査地点のあるこの地域は、野川源流域の豊富な水資源に恵まれていることから、湧水群周辺には数多くの遺跡が遺された。遺跡が占地する舌状台地中央の小支谷を介して、西側が恋ヶ窪遺跡、東側が羽根沢遺跡である。遺跡周辺は、水以外にも多摩川起源の円礫や砂、粘土等の資源が谷底より豊富に得られることから、特に旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が累積している。とりわけ縄文時代中期の集落跡が広範かつ濃厚に分布しており、当該地域の先史時代遺跡では顕著な特徴と言えよう。

羽根沢遺跡と同じ恋ヶ窪面には、初の旧石器発見地である熊ノ郷遺跡や縄文中期集落群の恋ヶ窪遺跡がある。さんや谷を東に越えた「本多面」台地にも恋ヶ窪東や花沢西・花沢東などの遺跡があり、特に恋ヶ窪東遺跡は縄文早期から後期にかけて長期にわたり営まれた大集落である。平成27年にはその南側で、大量の尖頭器を製産した旧石器時代の生活址も発見された（林他 2017）。また、恋ヶ窪谷の南に展開する「内藤面」台地にも日影山、恋ヶ窪南、多喜窪など、旧石器時代から縄文時代にわたる遺跡が濃密に分布する。

更に、奈良時代には立川段丘面に市名の由来でもある武蔵国分寺が創建され、東山道武蔵路を含む奈良時代から平安時代にわたる広域の遺跡群が崖線の上下に遺されている。それ以降の遺跡はあまり顕著には見られないが、今回の調査結果のように中世や近世以降の活動痕跡も少量ながら確認されている（依田他 2018、第1～8表）。



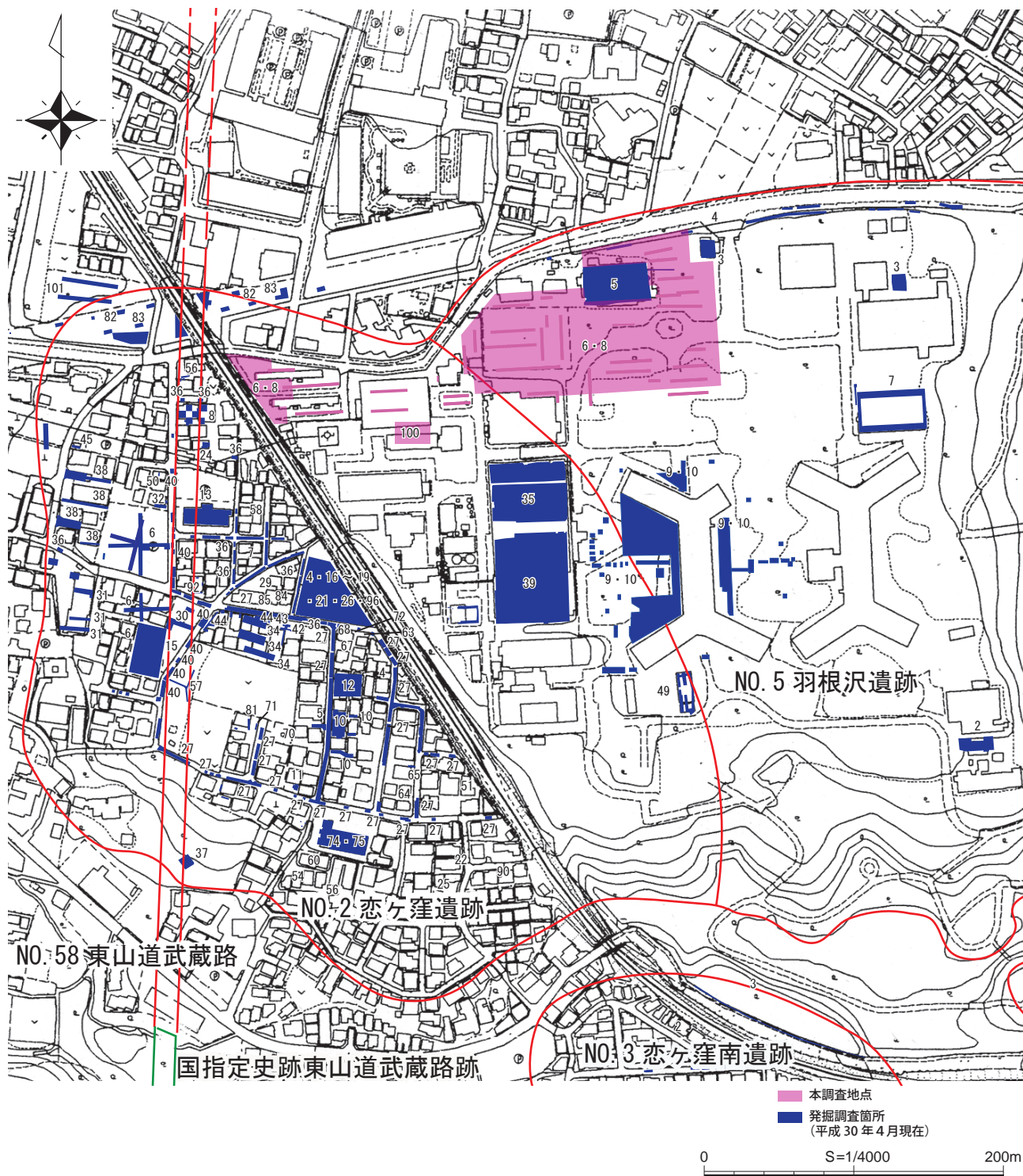
第2図 遺跡の位置



第3図 調査地点と周辺の埋蔵文化財包蔵地

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	所在地	時代
1	熊ノ郷遺跡	集落跡	西恋ヶ窪三丁目19 西恋ヶ窪四丁目1・6・7付近	旧石器・縄文
2	恋ヶ窪遺跡	集落跡	西恋ヶ窪一丁目3・10～27、28～30・47 東恋ヶ窪一丁目付近、三丁目20・21	旧石器・縄文（早・中・後）・中世
3	恋ヶ窪南遺跡	集落跡	恋ヶ窪一丁目1～3・5・51、東恋ヶ窪一丁目 泉町一丁目18・20～22、二丁目7付近	旧石器・縄文（早・中）
5	羽根沢遺跡	集落跡	東恋ヶ窪一丁目付近	旧石器・縄文（早・中）
8	花沢西遺跡	集落跡	南町三丁目24・26～30 本町四丁目2～6 泉町一丁目14 東恋ヶ窪一丁目付近	旧石器・縄文・弥生
9	日影山遺跡	散布地	泉町二丁目9 西恋ヶ窪一丁目8・34・35付近	旧石器・縄文（中）・奈良・平安
10	武蔵国分寺跡 (僧尼寺)	寺院跡	西元町一丁目1・2・13～15 西元町二丁目1～7・11～14 西元町三丁目2～28 西元町四丁目1～5・9～11 東元町三丁目9・18～20 東元町四丁目6～10・19・20付近	奈良・平安
11	多喜窪遺跡	集落跡	西元町二丁目7～16 西元町四丁目10～12付近	縄文（中）・旧石器
12	伝祥応寺跡	寺院跡	西元町四丁目12付近	歴史
13		塚	西元町四丁目11付近	歴史
14	多喜窪横穴墓群	横穴墓	西元町二丁目8～11付近-1号墓 西元町四丁目10付近-2号墓	奈良
18	八幡前遺跡	散布地	東元町三丁目13・14～16・24・25付近	縄文（中・後）
19	武蔵国分寺跡	集落跡・道路跡	東元町三丁目1～25・31・33・34 東元町四丁目 西元町一丁目～四丁目 泉町一丁目5～11・18～21 泉町二丁目、三丁目3・16付近 西恋ヶ窪一丁目8	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世
22	恋ヶ窪廢寺跡	寺院跡	泉町三丁目17・27・30～33・35・36付近	縄文・平安～室町
34				
37		散布地	西恋ヶ窪三丁目1～3・5～18付近	旧石器・縄文・奈良・平安
38		散布地	西恋ヶ窪一丁目49付近	縄文・奈良・平安
39				
52		散布地	西恋ヶ窪三丁目26～31・33～36 日吉町四丁目12・13付近	旧石器
54	花沢東遺跡	集落跡	南町二丁目14～16・18 南町三丁目1・7～9付近	旧石器・縄文
57	恋ヶ窪東遺跡	集落跡	本町四丁目4～11・14～25 東恋ヶ窪一丁目、二丁目1・2付近	旧石器・縄文（草～後）
58	東山道武蔵路	道路跡	西恋ヶ窪一丁目8・9・15～18・24・25・47 東恋ヶ窪三丁目21	奈良・平安



第4図 恋ヶ窪遺跡・羽根沢遺跡における既往の発掘調査状況

第2表 羽根沢遺跡（国分寺市 No. 5）調査履歴表（昭和52年～平成29年度）

回数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1		欠番							
2	S61	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	170.9	SU3/SS4/SK6/PJ64	広瀬	12	上村他1992
3	S62	公共工事	本調査	東恋ヶ窪1-280	204.5	SKJ1/PJ26	広瀬	1	未報告
4	S63	公共工事	本調査	東恋ヶ窪1-280	210.9	SKJ1/PJ26	広瀬	1	未報告
5	H2	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	1037.1	PJ23	板倉	1	上村他1992
6	H26	プラント	試掘	東恋ヶ窪1-280	1480.0	SK28/P313 中世以降SD22/SK1	共和開発	1	未報告
7	H27	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	411.0	SK2	増井	1	増井・依田 2017
8	H27	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	13744.5	ST7/SR3/SC6/SS9/SKJ83/PJ452 中世以降SD29/SA1/SX15	共和開発	29	本報告書
9	H28	プラント	試掘	東恋ヶ窪1-280	304.5	SK4/SD4/P29	共和開発	1	林他2018
10	H28	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	2512.4	SKP1/SIJ1/SKJ9/SS4/PJ86 中世以降SK3/SD21/SX2/P26	共和開発 林	43	林他2018

第3表 恋ヶ窪東遺跡（国分寺市 No.57）調査履歴表（昭和52年～平成28年度）

回数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1	S52	倉庫建設	本調査	本町4-21-10	18.0	SI1	広瀬	1	未報告
2	S59	公共下水道 本町四丁目(339号線)	本調査	本町4	174.6	SI1/SKJ1	広瀬	1	上村1997
3	S60	公共下水道 中部5号幹線	本調査	本町4	277.0	SKJ1	広瀬	1	上村1997
4	S62	東電地中線	本調査	本町4-2810	12.1	SI1	広瀬	1	未報告
	S63	東電地中線	本調査	本町4-2811	16.7	SU1/SS3/P3	広瀬	5	未報告
5	H1	社員寮建設	本調査	本町4-2874-3・8	836.2	SI2/SS2/SKJ2/P73	広瀬	25	広瀬他1990
6	H1	道路建設 (市道幹6号線)	本調査	本町4-17先	201.7	SI1/SU2/SS1/SKJ4/P36	上村	4	未報告
7	H1	共同住宅	本調査	本町4-20	159.6	SKJ3/P27	上村	1	未報告
8	H2	共同住宅	本調査	本町4-2820-181	560.6	SI2/SS2/SKJ23/P25	板倉	13	未報告
9	H2～4	都営住宅	本調査	本町4-17～19	5647.1	(11次調査の項参照)	上村	710	上敷領他2003
10	H5	共同住宅	本調査	本町4-2810-99	132.1	SI1/SKJ5/P36	岩崎	1	未報告
11	H6～8	都営住宅	本調査	本町4-2810	6292.3	SB5/SI189/SU7/SS61/SKJ341/	上村	1406	上敷領他2003
12	H8	分譲住宅	本調査	本町4-18-4	19.3	SI1/SKJ1/P2	上村	1	未報告
13	H11	共同住宅	本調査	本町2874-3・8	546.8	SKJ1/P40	上村	1	上村2000
14	H12	共同住宅	本調査	東恋ヶ窪2-1-1他	271.5	P52	上村	1	未報告
15	H12	共同住宅	本調査	東恋ヶ窪2-1-2他	370.5	SS1/SKJ12/P120	上村	2	未報告
16	H12	共同住宅	本調査	本町4-24-28	140.0	SS5/SKJ1/P3	小野本	1	未報告
17	H18	個人宅造	本調査	本町4-25-1	9.8	P1	小野本	1	上敷領他2008
18	H18	神社社殿建設	本調査	本町4-22	80.5	SKJ3/P29/歴史時代SX1	小野本	2	未報告
19	H19	分譲住宅	確認調査	本町4-25-9	10.7		立川	1	立川2009
20	H20	個人宅造	本調査	本町4-21-24	7.2		立川	0	立川2010
21	H22	集合住宅	確認調査	本町4-25-7	11.7		上敷領	1	小野本他2012
22	H26	集合住宅	本調査	本町4-2820-1,2 4-2819-1,2,4 2819	2351.0	ST19/SR16/SS15/SK34/P118/ 歴史時代SX2	共和開発 林	150	林他2017
23	H26	店舗建設	確認調査	本町4-21-29	7.8	PJ2	増井	1	増井他2016
24	H26	宅地分譲	確認調査	本町4-2875-1	160.0		中元	0	増井他2017
25	H27	分譲住宅	確認調査	本町4-24-31	27.6	PJ3	増井	1	増井他2017

第4表 恋ヶ窪遺跡（国分寺市 No. 2）調査履歴表（昭和49年～平成29年度）1

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1	S49	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1-19・20	36.0	SI2	安孫子		永峯他 1979
2	S52	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-19・21	180.0		安孫子	146	永峯他 1979
4	S51	学術	確認調査	西恋ヶ窪 1-20-14～16	110.0	SS1/SK4	安孫子	11	永峯他 1980
5	S52	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-10	20.0	SI3/SK1	安孫子	48	永峯他 1980
6	S52	学術	確認調査	西恋ヶ窪 1-17・25	337.0	SI1/SK2 歴史 SZ1	安孫子	27	永峯他 1980
7	S53	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-23-16	24.0	SI3	広瀬	3	永峯他 1980
8	S53	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-24-35	100.0	SK2/P11 歴史 SD2	広瀬	1	永峯他 1980
9	S53	学術	確認調査	西恋ヶ窪 1-187	60.0		広瀬		立川 2007
10	S54	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-20	212.5	SI10/SS3/SK7/P11	広瀬	75	永峯他 1982
11	S54	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-2	16.0		広瀬	1	未報告
12	S54	学術	確認調査	西恋ヶ窪 1-20	264.0	SI3/SU3/SS5/SK17	広瀬	70	滝口他 1988
13	S55	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-24-16	378.0	SS1/SK3/P55 歴史 SD1/SK6	広瀬	6	滝口他 1988
14	S55	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	366.0	SI18/SK1	広瀬	60	上敷領他 1991・2008
15	S56	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-17-24	640.0	ST2/SI2/SK8 旧石器 1層	広瀬	3	滝口他 1988
16	S56	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	163.0	SI6	広瀬	28	上敷領他 1991・2008
17	S57	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	220.0	SI6/SX53	広瀬	40	上敷領他 1991・2008
18	S57	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	220.0	SI8/SX4	広瀬	40	上敷領他 1991・2008
19	S59	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	240.0	SI9/SX1	広瀬	65	上敷領他 1991・2008
20	S59	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-5	2.6		広瀬	1	未報告
21	S60	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	243.5	SI9/SX2	広瀬	52	上敷領他 1991・2008
22	S60	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-13	6.0	SS1	広瀬	4	吉田他 1996
23	S60	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1	722.0		広瀬	6	吉田他 1996
24	S61	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-24-23	17.0	P3	広瀬	1	未報告
25	S61	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-13-1	14.0	SS1	広瀬	2	未報告
26	S61	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	222.0	SI6	広瀬	25	上敷領他 1991・2008
27	H1	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	296.3	SI3/SK1/P15	広瀬	32	吉田他 1996
27	H2	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	63.2	SI10/SS4/SK8/P44	上村	10	吉田他 1996
27	S61	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	185.0	SI9/SU1/SS2/SK16/P63	広瀬	9	吉田他 1996
27	S62	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	295.0	SI7/SK25/P98 歴史 SD1	広瀬	13	吉田他 1996
27	S63	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	206.7	SI1/P54	広瀬	33	吉田他 1996
28	S62	鉄塔建設	本調査	西恋ヶ窪 1-210・217	142.1	P2	広瀬	1	未報告
29	S62	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-224-3	3.1	SI1	広瀬	2	未報告
30	S62	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-171	81.4	SI1/P10 歴史 SD2	広瀬	14	未報告
31	S63	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-171	128.7	ST1/SK3/P10 旧石器・中近世 陶磁器	広瀬	1	未報告
32	H1	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-25-4	18.7		広瀬		立川 2009
33	H1	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	2712.0		広瀬		未報告
34	H1	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-18-9～11	216.0	SI10/SS1/SK4	広瀬	21	未報告
35	H2	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280 地内	1678.0	SI3/SS2/SK9/P61	広瀬	66	星野他 1992
36	H2	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内			上村	1	吉田他 1997
36	H2	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	114.0	SI11/SS1/SK1/P74 歴史 SK4	上村	18	吉田他 1997
36	H3	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	333.9	SI13/SK2/P8 歴史 SD3	上村	55	吉田他 1997
36	H4	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	173.3	SI10/SK7/P39 歴史 SD1/SK1	上村	15	吉田他 1997
37	H2	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-15-2・4・23 ～25	79.7	SI1/SK1	上村	1	未報告
38	H3	公共工事	本調査	西恋ヶ窪 1-26-1・16	275.0	歴史 SD1	上村	1	未報告
39	S57	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280 地内	1077.0		広瀬		星野他 1992
39	S58	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280 地内	2653.1	SI7/SS1/SK17/P154	広瀬	43	星野他 1992
40	H3	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	538.2		上村	2	吉田他 1997
40	H4	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	89.5	SI1/P2 歴史 SD4/SK2	上村	2	吉田他 1997
40	H5	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	187.6	SI5/SK1/P8 歴史 SD4	上村	5	吉田他 1997
41	H4	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-13	4.0	SI2	上村	1	未報告
42	H4	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-18-9	8.8	P13	上村	2	未報告
43	H4	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-18-9	21.3	P28	上村	3	未報告
44	H4	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-18-11・12	57.6	SI7/SK3/P3	上村	20	未報告

第5表 恋ヶ窪遺跡（国分寺市 No. 2）調査履歴表（昭和49年～平成29年度）2

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
45	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-26-3	5.8		上村		立川 2009
46	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-44	3.6		上村	1	未報告
47	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-36・37	8.3	P4	上村	1	未報告
48	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-21-20	4.0	P4	上村	1	未報告
49	H5	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1-280	141.2	P9	上村	1	未報告
50	H6	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-25-7	2.0		上村		立川 2009
51	H6	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-21-4	4.0	SI1	上村	1	未報告
52	H7	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-24-43	7.4	歴史 SD1	上村		未報告
53	H7	個人宅造	本調査	東恋ヶ窪 1-23-33	1.0		上村		立川 2009
54	H7	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-14-10・13・31	10.6		上村		未報告
55	H7	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-28-1 他	316.5	ST1/SR1/P2	上村	1	未報告
56	H7	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-14-10・11	18.5	SK1/P1	上村	1	未報告
57	H7	公共工事	本調査	西恋ヶ窪 1-18	46.2	P4 歴史 SD2	上村	1	未報告
58	H7	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-21	10.3		上村	1	未報告
59	H8	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-15	1.0		上村		立川 2009
60	H8	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-14-10・28	5.3	旧石器礫群 Ⅰ VI層	上村	1	未報告
61	H8	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-24-2	5.0	SU1/SK1/P10	上村	1	未報告
62	H8	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-6	1.6		上村		立川 2009
63	H10	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-48	0.7	P1	上村	1	未報告
64	H10	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-21-25	1.4		上村	1	未報告
65	H10	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-11-3	3.0		上村	1	未報告
66	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-55	5.6	SK1	上村		未報告
67	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-54	2.7	SK1/P1	上村	1	未報告
68	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-53	4.9	SK6/P2	上村	1	未報告
69	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-9	6.4	SI1	上村	1	未報告
70	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-6.7.8	35.1	SS1/SK4/P7	上村	2	未報告
71	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-18-31.32	6.0	SK1/P2	上村	1	未報告
72	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-47	3.4	SK1	上村	1	未報告
73	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-15-26.28	7.9	SI1	上村	1	未報告
74	H13	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-14-9.33	34.0	P5 歴史 SD2	上村	1	未報告
75	H13	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-14-9.33	369.4	SS4/SK3/P51 歴史 SD1/SK3	上村	19	未報告
76	H16	道路工事	確認調査	西恋ヶ窪 1-15-13.25	66.7	P3 歴史 SD2	上村	1	未報告
77	H16	道路工事	本調査	西恋ヶ窪 1-15-13.25	66.7	SK2 歴史 SD2	上村	1	未報告
78	H16	集合住宅	確認調査	西恋ヶ窪 1-15-30.31	5.3		上村		上敷領 2008
79	H16	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-15-34	1.0		上村		上敷領 2008
80	H16	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-15-35	1.0		上村		上敷領 2008
81	H18	分譲住宅	確認調査	西恋ヶ窪 1-20-10	7.2	歴史 SD1/SK1/P3	立川	1	立川 2008
82	H19	公共工事	確認調査	西恋ヶ窪 1-47、東恋ヶ窪 3-21	386.5	ST1 歴史 SK1/SF1 ※ SD2	小野本	1	小野本 2008
83	H19	公共工事	本調査	西恋ヶ窪 1-47、東恋ヶ窪 3-21	366.6	SC3/P1 歴史 SD2/P5	小野本	1	小野本 2008
84	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-15	10.0	P5 歴史 SD2	小野本	1	立川 2011
85	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-18	2.3	SK1/P2	立川	1	立川 2011
86	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-19	3.8	SI1/SK1/P1	小野本	1	立川 2011
87	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-16	4.0	SI1/SK1	小野本	3	立川 2011
88	H23	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-25-40	7.4		小野本	0	寺前他 2013
89	H23	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-18-16	8.0	SI1/SK1	寺前	1	寺前他 2013
90	H23	分譲住宅	確認	西恋ヶ窪 1-1282-28	3.8		寺前	0	寺前他 2013
91	H24	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-1	3.6		中道	0	上敷領他 2013
92	H24	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-24-12	13.9	SI1 歴史 SD1	中道	2	上敷領他 2013
93	H25	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-11	44.3	SI1	中道	2	上敷領他 2014
94	H26	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1-280 地内	65.4	SS1/SK1 歴史 SD1	上敷領	4	依田他 2016
95	H27	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-23-8	4.0		増井	1	増井他 2016
96	H27	分譲住宅	確認	西恋ヶ窪 1-22-2	21.1	PJ2	増井	1	増井他 2016
97	H27	集合住宅	確認	西恋ヶ窪 1-29-2、7729-3、-5 の各一部	27.6	PJ13	依田	1	増井他 2016
98	H28	分譲住宅	確認	西恋ヶ窪 1-28-9	40.9	SX3	増井	1	増井他 2017
99	H29	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-35	14.8	なし	増井	1	未報告
100	H29	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1-280 地内	383.11	SIJ1/SKJ4/PJ1 歴史 SD1/SK3	島田	1	未報告
101	H29	集合住宅	確認	西恋ヶ窪一丁目 47-3・4・5	29.79	なし	増井	1	未報告
102	H30	宅地造成	確認	西恋ヶ窪 1-25-1 先	47.1	SX5～9	寺前	1	未報告

第6表 恋ヶ窪南遺跡（国分寺 No. 3）調査履歴表

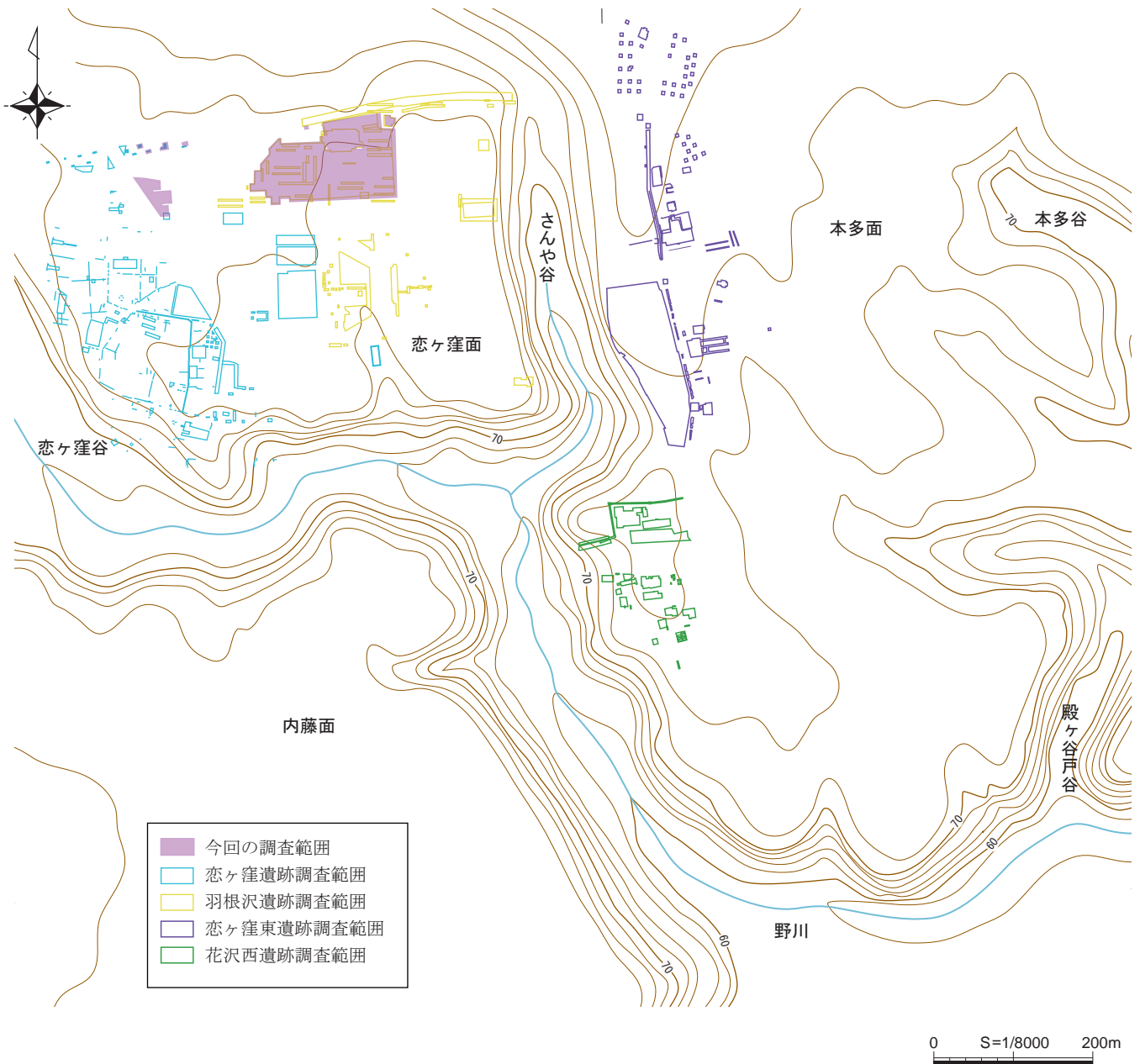
次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1	S59	公共工事	本調査	泉町1-20.21	3240.00	SI7/SS1	広瀬 実川	453	恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報Ⅰ 広瀬他 1987
2	S60	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-1~2	187.50	SI31/SS9/SK55	広瀬	9	恋ヶ窪遺跡調査報告 Ⅶ 上村 1996
3	S60	公共工事	本調査	東恋ヶ窪1-1234	255.00	SS1/SK1	広瀬	1	未報告
4	H19	個人宅造	確認調査	泉町1-2471-21 (1-18-15)	55.89	SS1/SK3	立川	1	平成19年度埋蔵文化財調査年報 立川 2009
	H19	個人宅造	本調査	泉町1-2471-21 (1-18-15)	57.20	SS1/SK3	立川		平成19年度埋蔵文化財調査年報 立川 2009

第7表 花沢西遺跡（国分寺市 No. 8）調査履歴表

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1	S52	共同住宅	本調査	南町3-29-7	200.0	ST2/SKJ5	安孫子	4	未報告
2	S52	共同住宅	本調査	本町4-3-17	335.0	SI1/SU3/SS1/SKJ3	広瀬	14	未報告
3	S52	公共工事	本調査	本町4-3先	26.0	SKJ2	広瀬	1	未報告
	S53	公共工事	本調査	本町4-3先					未報告
4	S59	市下水道	本調査	本町4-3先	20.0	SU1/SS1	広瀬	2	上村 1997
5	S59	市下水道	立会	南町3-29先				1	未報告
6	S60	市下水道	本調査	南町3-29先	89.00	SS2/SKJ1	広瀬	7	上村 1997
7	H3	公共工事	本調査	本町4丁目 東恋ヶ窪1丁目地内	323.6	SR3/SKJ7	上村	15	未報告
8	H7	民間	本調査	南町3-2801- 16.18.21	317.2	ST1/SU1/SKJ4	上村	15	未報告
9	H8	個人宅造	本調査	南町3-2081-27	5.4		上村	1	小野本他 2012
10	H8	民間	本調査	南町3-27-6	42.30		上村	0	未報告
11	H10	個人宅造	本調査	南町3-2802-15	4.00	SS1	上村	1	小野本他 2012
12	H12	民間	本調査	南町3-2802-10他	151.44	SKJ2	上村	0	未報告
13	H13	個人宅造	本調査	南町3-30-1	4.9		上村	0	立川他 2010
14	H14	個人宅造	本調査	南町3-29-19	6.0		上村	1	小野本他 2012
15	H16	確認整備	確認調査	南町3-30-12	98.98	SKJ1	上村	1	上敷領 2007
16	H16	個人宅造	本調査	南町3-30-12	8.7		上村	0	上敷領 2007
17	H17	個人宅造	本調査	本町4-3-13	2.8		上村	0	上敷領 2007
18	H17	民間	本調査	本町4-2803-1他	642.9	ST15/SR5/SKJ3	上敷領	7	上敷領 2007
19	H17	個人宅造	本調査	南町3-2799-20	62.15	ST1/SR2	上村	1	上敷領 2007
20	H19	個人宅造	本調査	南町3-26-25	1.8		小野本	1	立川他 2009
21	H20	民間	確認調査	南町3-28-6	5.37		立川	1	立川他 2010
22	H23	民間	確認調査	南町3-28-6	12.60	SKJ1	小野本	0	寺前他 2013
23	H26	民間	確認調査	南町3-30-7	3.26		増井	0	増井他 2016
24	H26	民間	確認調査	本町4-2803-3	15.01		増井	1	増井他 2016
25	H29	民間	確認調査	南町3-28-8	74.24		増井	1	未報告

第8表 武蔵国分寺跡（国分寺市 No.19）調査履歴表

回数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物箱数	文献
168	S57	排水改良工事	試掘調査	泉町二丁目 6-7	2,250	SD1	有吉	—	三木他 1985
190	S58	排水改良工事	本調査	泉町二丁目 6-7	277	SB2/SI1/SX1/SD2	三木	4	三木他 1985
288	S62	共同住宅建設	本調査	泉町一丁目 2418-2,7,9,12,13	1,290		三木	16	三木他 1988
421	H8	土地区画整理	本調査	泉町二丁目	2,419	SI1/SD9	上村	32	上村他 2006
G-136	H7	土地区画整理	本調査	泉町二丁目	54,800	石器集中部 106/ 住居跡 70/ 掘立柱建物 1/ 道路跡 7	東京都埋蔵文化財センター	172,641 点	福嶋他 2003



第5図 周辺の地形図

第3節 基本層序

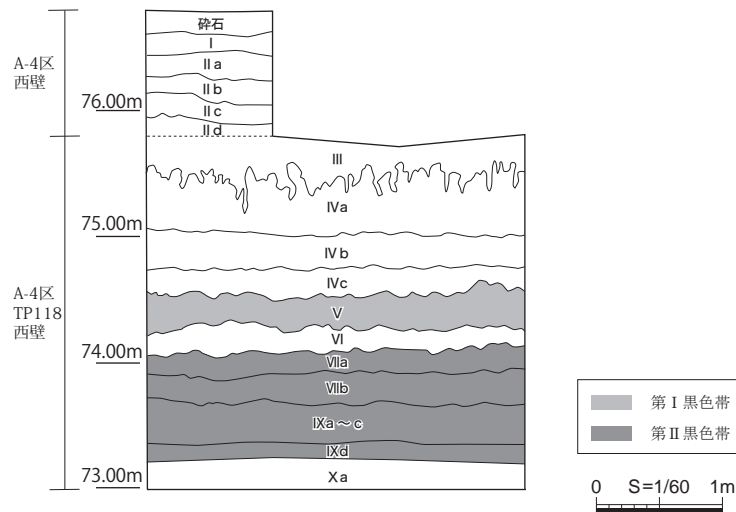
調査範囲西端に位置するA-4区の調査区西壁とTP118の西壁を基本層序とした(第6~8図)。尚、A-1区TP3で見られた第Xa・b層と第XI層の説明も追記する。縄文包含層である第IIc層は概ね調査区全域で残存していた。また、層名は武蔵野台地の標準名を用いるが、国分寺市では異なる名称を用いるため、説明の中で併記する(坂詰他2003)。

第I層	黒褐色土(10YR3/2)	盛土。
第IIa層	暗褐色土(10YR3/3)	耕作土。締まり弱い。
第IIb層	黒色土(10YR2/1)	色調は極めて黒く、粗粒(径1~5mm)である。締まり弱い。
第IIc層	暗褐色土(10YR3/4)	赤色スコリア粒をわずかに含む。締まりあり。縄文包含層。
第II d層	暗茶褐色土(10YR4/3)	むらのある細粒で、若干の赤色スコリア粒(径1~3mm)が点在する。締まりあり。第II~第III層の漸移層。国分寺IIIc相当。
第III層	暗黄褐色土(10YR4/6)	ややむらのある微粒で、若干の赤色スコリア粒(径1~5mm)が上部に点在する。隙間多いが締まりあり。ソフトローム。国分寺IV相当。
第IVa層	黄褐色土(10YR6/6)	均質な微粒で、赤色・黒色スコリア粒(径1~3mm)が散在する。よく締る。国分寺Va相当。
第IVb層	黄褐色土(10YR6/6)	第IVa層と同質だが、色調やや暗く、スコリア量が多い。締まりあり。国分寺Vb相当。
第IVc層	黄褐色土(10YR6/6)	黒色スコリア粒(径1~7mm)が増える。上辺に赤色スコリア粒(径1~3mm)の濃集あり。締まりあり。国分寺Vc相当。
第V層	暗黄褐色土(10YR5/4)	均質・微粒で、スコリアは第IVc層と似るが、赤色スコリア粒がやや減る。締まりあり。第1黒色帯。国分寺VI相当。
第VI層	暗黄褐色土(10YR7/6)	むらのある微粒で、黒色スコリア粒(径1~7mm)が偏在し、赤色スコリア粒(径1~2mm)が点在する。締まりあり。国分寺VII相当。
第VIIa層	暗黄褐色土(10YR4/4)	均質な微粒で、第V層より色調やや暗い。混在物は第VI層と似るが量が減る。黄褐色土のブロック(径3~10mm)が点在する。締りあり。立川ローム第II黒色帯上部にあたる。国分寺VIIa相当。
第VIIb層	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	第VIIa層に似るが色調更に暗く、混在物の量が減る。締りあり。立川ローム第II黒色帯上部にあたる。国分寺VIIa相当。
第IXa~c層	暗褐色土(10YR3/3)	均質な微粒で、赤色・黒色スコリア(径1~3mm)が散在する。黄褐色土のブロック(径3~10mm)が点在する。締まりあり。立川ローム第II黒色帯下部にあたる。国分寺VIIIb・IXa相当。
第IXd層	褐色土(10YR4/6)	赤色・黒色スコリア(径1~2mm)が散在する。締まりあり。立川ローム第II黒色帯下部にあたる。国分寺IXb相当。
第Xa層	黄褐色土(10YR5/6)	赤色・黒色スコリア(径1~2mm)が散在する。シルトを僅かに含む。締まり強い。国分寺Xa相当。
第Xb層	黄褐色土(10YR5/6)	第Xa層と同じだが、シルトを多く含む。締まり極めて強い。国分寺Xb・c相当。

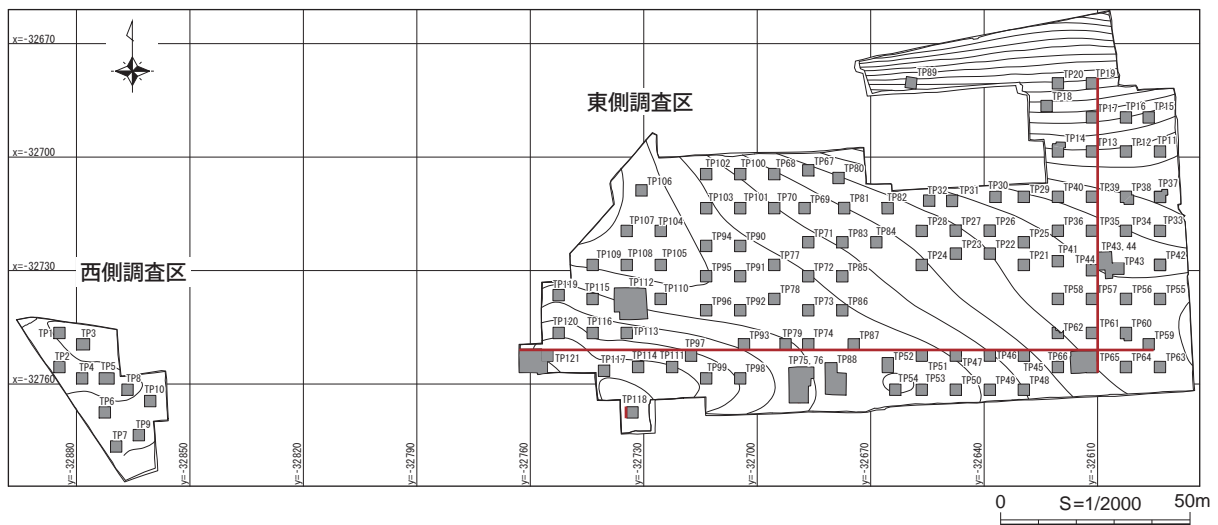
第XI層にぶい黄褐色土(10YR4/3)第Xb層と同様にスコリア粒を含むが、シルトを含まずやや粘土質。締まり極めて強い。国分寺XI相当。

本調査区の地形を立川ローム層上面で見ると、西部のA-1区からA-3区北部にかけて台地のピークがあり、ここから南西に向かって若干下るが、これとは別に、北と南に下る斜面も顕著である(第7・8図)。南斜面は「恋ヶ窪谷」に向かうもので、北斜面は当該遺跡東側から北へ伸びる「さんや谷」がさらに北方で西に回り込むために形成された地形である。北端のB-2区からB-1区・B-7区にかけては傾斜が急になり、明確な谷地形となる。

旧石器時代の遺物群は主に南北の緩斜面範囲から出土した(第7図)。両者の中間である峯部分を境として、遺物は南北二群に分離するように見える。これらの斜面はローム層下部では傾斜が更に緩くなるようであるが(第8図)、南北の分離は第VI層以下でも明らかであり、二本の谷筋に挟まれた台地上での生活領域のこうした相違は、利用水源の選択と関わる可能性があるだろう。

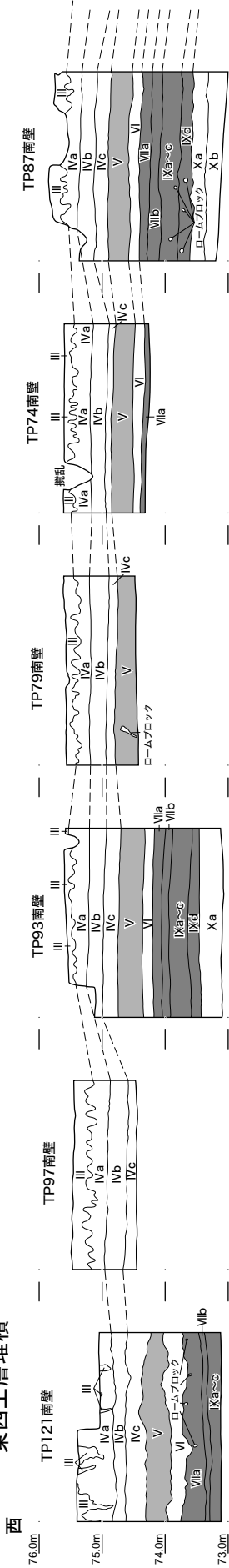


第6図 基本層序

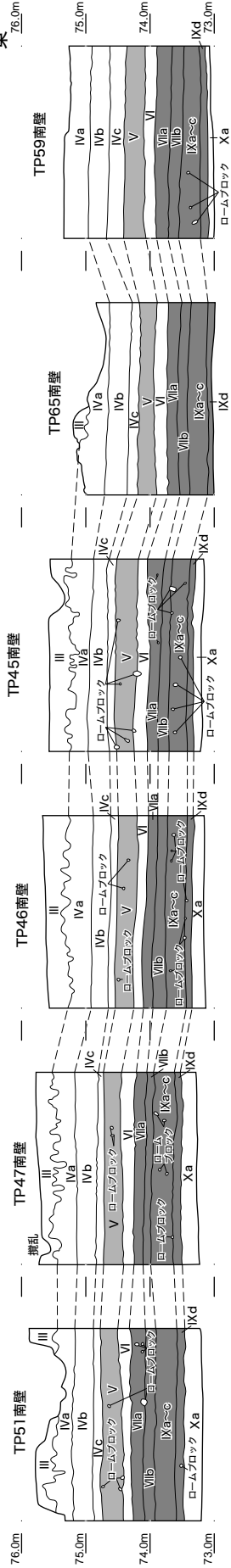


第7図 土層堆積確認地点

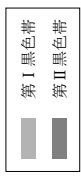
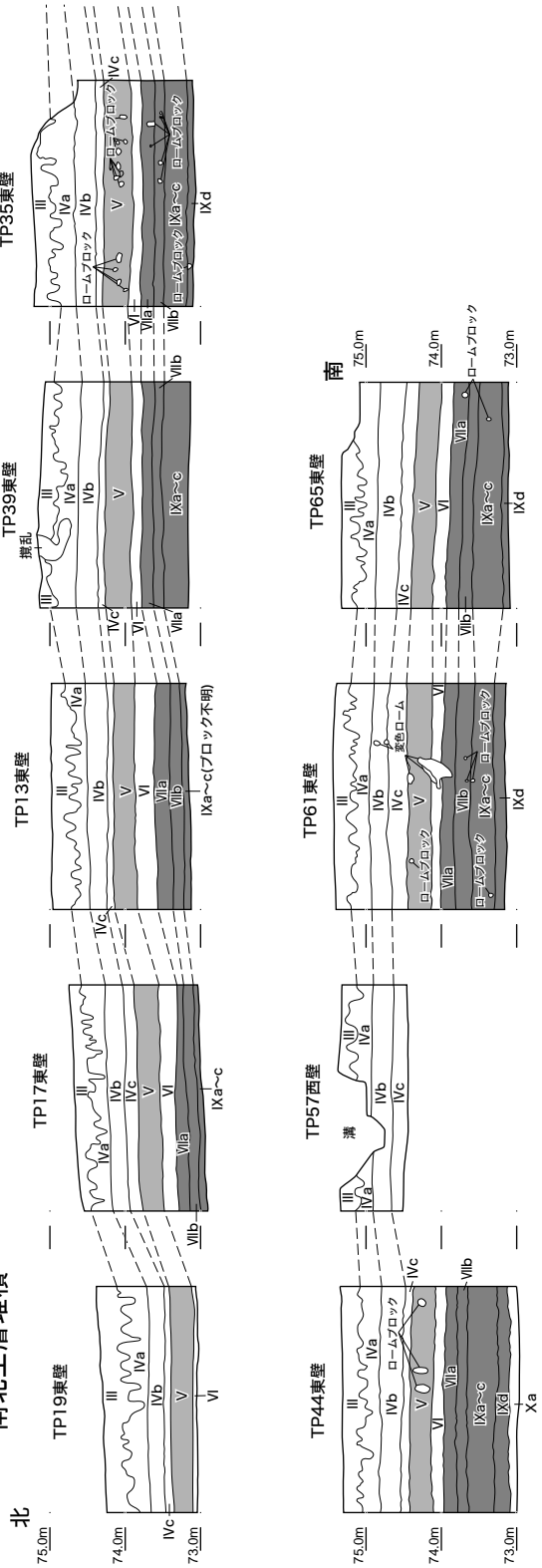
東西土層堆積



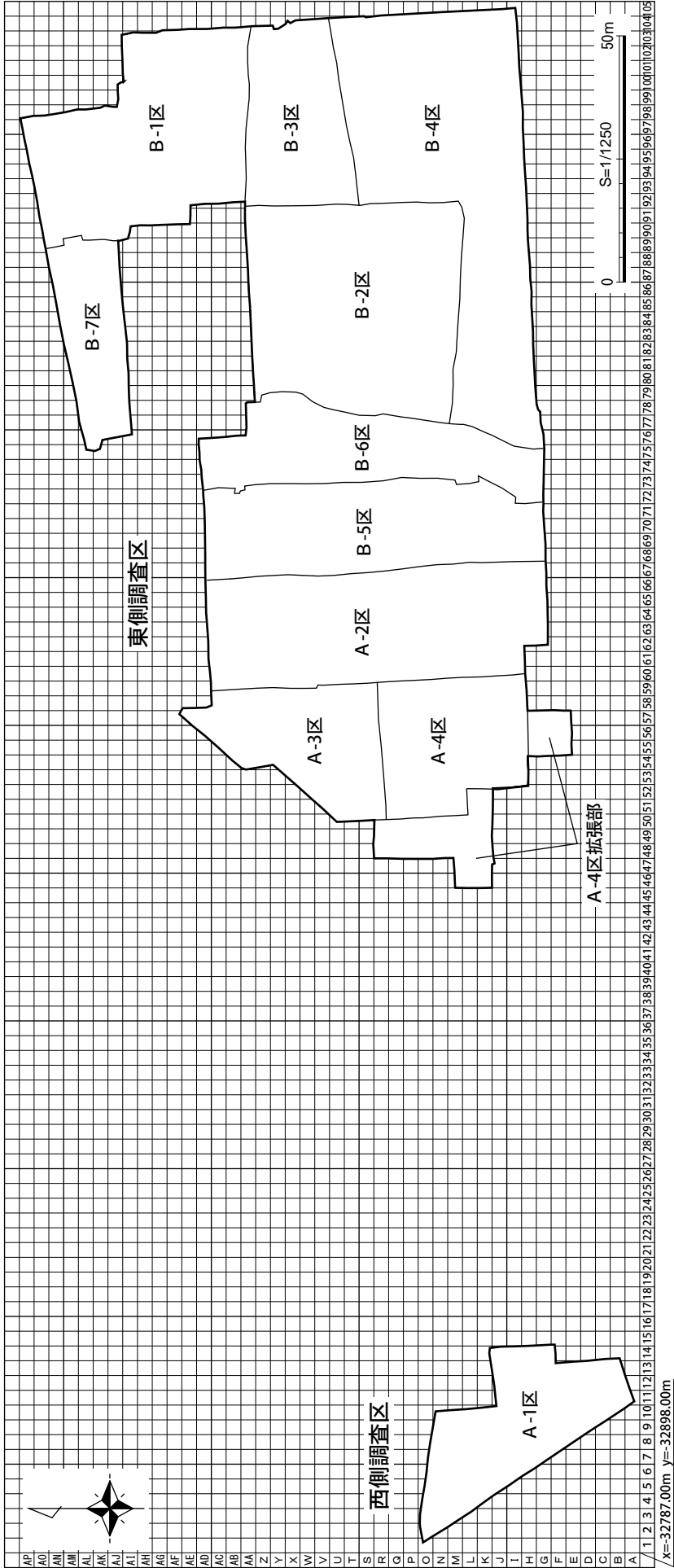
東



南北土層堆積



第8図 土層堆積状況



第9図 調査区とグリッド位置図

第3章 調査経過

第1節 調査方法

1. 発掘調査の工程

事業区域全体を土地引き渡し計画に基づき、西側のA敷地、東側のB敷地と区分され、さらに事業計画に合わせ、A敷地はA-1～4区、B敷地はB-1～7区に分割され、各区ごとに随時調査を行った。また、本報告ではA-1区のみ西側で離れているため、その他の区を分ける場合はA-1区を西側調査区、A-2～4区及びB-1～7区を東側調査区と呼称する（第9図）。調査面積は、約13,745㎡で、平均して1.2mほどの深さまで掘り下げた。

調査区内のグリッドは、世界測地系公共座標 $x = -32,787,00\text{m}$ 、 $y = -32,898,00\text{m}$ を起点に、南北方向にアルファベット、東西方向に番号を冠した3mメッシュを設定した（第9図）。

表土は重機によって除去し、まず残存する第Ⅱ層での遺構確認と出土遺物の位置を記録した。その後人力によって第Ⅲ層上面まで掘り下げ、遺構確認と出土遺物の位置を記録した。遺構は覆土の堆積状況を記録し、完掘後に写真撮影を行った。縄文時代の遺構調査後に、旧石器時代の調査のために、3m四方の試掘坑を121箇所もうけ、最深2.5mの深さまでローム層を掘り下げて調査した。遺物が検出された場合は試掘坑を拡張して遺物の広がりを確認した。それぞれ各区調査終了後に全景写真撮影及び測量を行った。

調査終了後に埋め戻し作業を行い、重機・機器材・仮設の撤収を順次行い、すべての現地作業を終了した。

2. 調査の記録

遺構平面図測量及び遺物出土地点の記録は光波測量機を用い、データ分析は自社プログラムを使用し、Adobe社製のイラストレーターによって図化した。写真記録はモノクロ写真・リバーサル写真・デジタル写真をそれぞれ用い、航空写真はドローンを有限会社KELEKに、セスナを近代航空株式会社に各1回委託して行った。

第2節 調査経過

2015年4月6日より2016年10月24日まで発掘調査を行い、10月27日に現地作業をすべて終了した。

A敷地

A-1区：2015年4月6日～6月10日 A-2区：2016年2月12日～4月25日

A-3区：2016年4月19日～6月10日 A-4区：2016年6月11日～10月27日

B敷地

B-1区：2015年5月13日～7月27日 B-2区：2015年6月23日～10月6日

B-3区：2015年7月28日～10月19日 B-4区：2015年10月15日～2016年1月22日

B-5区：2015年10月5日～11月24日 B-6区：2015年12月12日～2016年1月26日

B-7区：2016年2月1日～2月7日

以下、詳細は工程表で示す（第9・10表）。

第9表 調査経過（1）

調査区	2015年									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
A-1	←————→									
A-2										
A-3						←————→				
A-4										
B-1	←————→									
B-2			←————→							
B-3				←————→						
B-4							←————→			
B-5							←————→			
B-6										←→
B-7										

第10表 調査経過（2）

調査区	2016年									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
A-1										
A-2	←————→									
A-3	←————→									
A-4						←————→				
B-1										
B-2										
B-3										
B-4	←————→									
B-5										
B-6	←→									
B-7		←→								

第3節 整理作業の方法

今回の調査で得られた遺物は、旧石器時代・縄文時代・古代・中世の他、近現代の遺物が出土した。遺物等の整理作業は以下の手順で行った。また、遺物の分類基準はその下に示す。

1. 遺物は水洗・注記の後、種別の分類と観察を経て各台帳を整備する。
2. 土器は型式分類と個体分類を行い、接合作業及び実測・拓本等の図化作業を進める。
3. 石器は器種分類を経て実測図を作成する。
4. 遺物の写真撮影を行い、調査写真は台帳を整備し、アルバム・データ共に整理する。
5. 遺構・層序等の原図は整理し、必要なものを選別して報告用に図化する。

旧石器の分類

今回出土した旧石器は、以下の基準によって分類した。

1. 尖頭器 (Projectile Point)

石刃ないし剥片の両側縁から調整剥離を加えることで、尖った先端部を作り出した石器である。両面加工、片面加工、半両面加工に細分される。

2. ナイフ形石器 (Knife-shaped tool/Backed Blade)

剥片または石刃の鋭い縁辺の一部を未加工のまま側縁として残し、それ以外の縁辺部を裏面から潰すか、または厚い角度の調整剥離を加えることで成形した石器である。裏面は未加工である事が多い。調整する部位によって細分される。鋭い先端をもつものが多い。

3. 搔器 (End Scraper)

石刃ないし縦長剥片の一端に裏面から厚い角度の調整剥離を施して刃部を作るもの。刃角に鋭さのないものが多い。

4. 鋸歯縁石器 (Denticulate)

剥片の一辺に大まかな調整を加え、凹凸の連続する鋸歯状の刃形を作るもの。削器の一種である。

5. 挟入石器 (Notch)

剥片の一部に単独ないし複数回の調整を加える事で内湾した刃部を作るもの。

6. 石核 (Core)

原石から石刃や剥片を剥離した残核。

7. 石刃 (Blade)

石刃技法によって剥離された縦長剥片。表面に縦方向の稜線が入り、鋭い両側縁はほぼ平行である。横断面は薄い台形ないし三角形を呈する。石器素材である。

8. 細石刃 (Micro Blade)

小型の石刃。植刃器とするため折断されたものが多い。石刃との境界は曖昧であるが、定型石器の素材となり得るものを石刃とし、それに満たないものを細石刃とする。本報告書では、幅が概ね10mm未満のものを細石刃とする。

9. 削片 (Spall)

厚手の剥片の一辺から表裏両方向ないし一方向に連続した調整剥離を加えて、尖頭器または削器の側縁のような湾曲した一辺を作り、その一端から加撃することで生じた細長い剥片。細石刃技法において打面作出のために生じるもの。

10. 石刃状剥片 (Blade Flake)

形態は石刃に近いが、その定義を充分満たさない剥片。

11. 使用剥片 (Utilized Flake)

鋭い縁辺の一部に、使用によると思われる連続した微細な剥離痕を帯びる剥片。

12. 剥片 (Flake)

原石から剥離された破片。多くの場合、石器素材となる。

13. チップ/細片 (Chip)

石器製作に伴い剥離された小剥片。概ね5mm以下のものを指すが、大きさの明確な基準はない。石器の素材となり得ないほど小さい剥片である。

旧石器の石質分類

第11表に文化層順に石質分類の詳細を示した。黒曜石は推定産地も併記した。

縄文土器の分類

縄文土器の分類については、以下の文献を参考にした。詳細は参考文献に掲載する。

神奈川考古同人会『縄文時代中期後半の問題』(1980) 小林達雄編『縄文土器大観』(1989)
小林達雄編『総覧縄文土器』(2008) 和田 哲『西上遺跡』(1975)

出土した縄文土器は文様、胎土、調整、焼成などの特徴から、時期や型式が明確に判断できるものは、早期押形文系・条痕文系、中期勝坂式・阿玉台式・加曾利E式・曾利式である。その他、小破片のものや無文など詳細な時期や型式が判断できないものは時期不明として扱った。

縄文石器の分類

石器器種の分類は以下の基準で行った。いずれも製品単体の出土であり、剥片類や製作址は認められないため、特に石質分類の詳細な説明は行わない。

1. 石 鏃

剥片の両面ないし片面に調整剥離を加え、鋭い先端を作出した三角形を基本とする小型石器。基部の形態によって細分される。縄文時代には凹基鏃が多い。

2. スクレイパー

剥片の縁辺に調整剥離を施し、刃部とする石器。調整は片面と両面がある。不定系のものが多い。旧石器時代の「削器」と同類の石器であるが、縄文時代の石器として区別するために名称を分ける。

3. 打製石斧

大型礫より採取した表皮剥片または薄い扁平礫を素材とし、矩形等に剥離整形して一端に刃部を設けた石器。形態は撥形・短冊形・分銅形に分類される。通例、表面に素材の原礫面を残す。器体が表裏方向に湾曲するものが多く、突出した面を表面とする。側縁には中央部を中心に潰れ、ないしは磨耗の見られる例が多く、前者は製作時の敲打痕跡、後者は着柄による使用痕跡と考えられる。

4. 礫 器

礫または大型剥片の縁辺に粗い調整剥離を施して刃部とする石器。刃部に片刃と両刃があり、片面礫器(chopper)・両面礫器(chopping tool)と呼び分ける。

5. 磨 石

水磨を受けた円礫等の一部に磨痕や擦痕光沢を帯びる石器。やや扁平な資料が多い。加えて凹みや敲打痕の見られる例もある。凹みを伴うものを「凹磨石(くぼみすりいし)」と呼ぶ。

第 11 表 層序別石質分類表

層序	母岩名	略称	遺構	特 徴	原産地	備 考
Ⅲ	黒曜石 1	Ob-1	単独	半透明、黒色（赤褐色）、微気泡多、夾雑物多	畑宿	
	黒曜石 2	Ob-2	単独	半透明、暗灰色、微気泡多、夾雑物有	小深沢	
	安山岩 1	An-1	単独	暗灰色、粗面、微孔多		
Ⅲ-Ⅳ	黒曜石 3	Ob-3	ST7	半透明、暗灰色、クモリ	柏峠	
	チャート 1	Ch-1	ST7	暗青灰色		
	頁岩 1	Sh-1	ST7	暗灰色、白筋、やや光沢		
	頁岩 2	Sh-2	ST7	淡灰緑色、黒・白筋		
	頁岩 3	Sh-3	ST7	暗青灰色、黒筋、粗面		
	頁岩 4	Sh-4	ST7	暗灰色～黒色		
	凝灰岩 1	Tu-1	ST7	淡灰色～白色、光沢		4651（第 19 図 14）は白化
	黒色片岩 1	Sc-1	ST7	暗緑色～黒色、光沢		
Ⅳ a	安山岩 2	An-2	ST8	暗灰色、灰縞		
	チャート 2	Ch-2	SR3	灰色、黒縞		
Ⅳ	黒曜石 4	Ob-4	単独	半透明、黒色（淡褐色）、灰縞、微気泡多、夾雑物多	畑宿	
	チャート 3	Ch-3	単独	半透明、黒色（黒斑多）		
	頁岩 5	Sh-5	単独	暗灰緑色、白筋		
	凝灰岩 2	Tu-2	単独	淡灰緑色		
Ⅴ	チャート 4	Ch-4	ST3	半透明、暗緑色、黒縞		
	チャート 5	Ch-5	ST3	不透明、暗青灰色、黒筋		
	安山岩 3	An-3	ST3	暗灰色、灰縞少		
	黒曜石 5	Ob-5	単独	半透明、黒灰褐色、微気泡多、夾雑物多	畑宿	Ob-8 397（ST5 剥片）と酷似
	黒曜石 6	Ob-6	単独	透明、黒斑少、夾雑物少	星ヶ塔	
	チャート 6	Ch-6	単独	半透明、暗青灰色、ムラあり		
	頁岩 6	Sh-6	単独	淡灰緑色、黒筋少		
Ⅵ	安山岩 4	An-4	ST1	黒色、微孔多		
	砂岩 1	Sa-1	ST1	暗灰色、細粒		
Ⅶ	安山岩 5	An-5	単独	黒灰色、やや粗粒		
Ⅶ-Ⅸ a	黒曜石 7	Ob-7	ST2	半透明、黒灰色、灰縞多（クモリ）	神津島	
	チャート 7	Ch-7	ST2	暗青灰色、白筋少		
Ⅶ-Ⅸ	黒曜石 8	Ob-8	ST4-6	透明、黒灰褐色、微気泡多、夾雑物多	畑宿	397 は Ob-5 と酷似
	黒曜石 9	Ob-9	ST4-6	不透明、黒色（赤紫）、夾雑物多	畑宿	
	黒曜石 10	Ob-10	ST6	半透明、灰縞、夾雑物多	畑宿	
	チャート 8	Ch-8	ST6	暗～黒青灰色、白筋少		
	チャート 9	Ch-9	ST6	白灰色、白筋多、ムラ		
	チャート 10	Ch-10	ST5	半透明、淡灰色、白筋		
	砂岩 2	Sa-2	ST6	暗灰褐色、粗粒		
X	安山岩 6	An-6	単独	暗灰色、微孔多		
攪乱	黒曜石 11	Ob-11	SD20	半透明、黒灰色、黒縞、クモリ	小深沢	

6. 挟入磨石

石鱗のような隅丸方形の水磨礫を素材とし、両短辺の中央に挟り加工を施したものの。長辺の側縁に磨耗痕や敲打痕を帯びる場合が多く、側縁が平面を呈するものも多い。

7. スタンプ形石器

礫を打割して平坦面（作業面）を造り出した石器。作業面に多少の潰れや磨痕が見られる場合もあるが、明確な使用痕跡のない例が多い。作業面の周縁には作業面から垂直方向に細かい剥離が見られる事が多い。素材礫の側縁に剥離調整や潰れが見られる場合が多いが、側縁加工のないもの、一側縁に限られるもの、両側縁に加工のあるものの3種に細分される。

8. 敲石

礫の一部に顕著な敲打痕ないし敲打による剥離痕を帯びる石器。剥離痕の場合、単純な二次加工と区別しにくい、打点の周辺に複数の敲打痕が見られる場合には敲石とする。

中世以降の遺物の分類

中世以降の分類については、以下の文献を参考にした。詳細は参考文献に掲載する。

全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会2005『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』

上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会（1982）

江戸陶磁土器研究グループ『江戸陶磁土器・土器の諸問題Ⅰ』（1992）

江戸陶磁土器研究グループ『江戸陶磁土器・土器の諸問題Ⅱ』（1996）

遺物の実測基準

縄文土器の多くは破片資料であった。接合・分類の後、各時期や型式の特徴をよく示すものを選別し実測を行った。

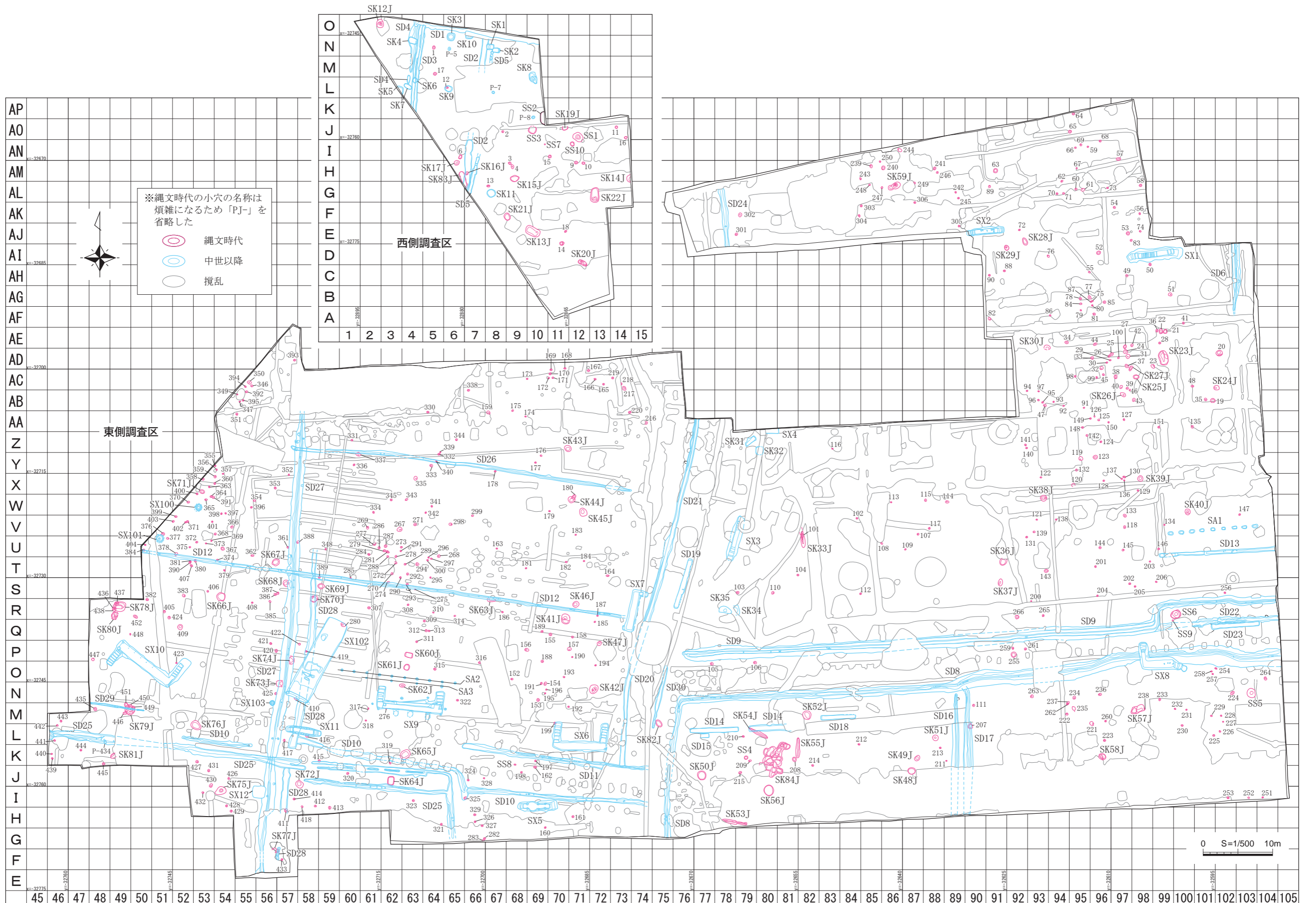
石器については、出土資料の内、器種組成を代表する定型石器で、完形ないしそれに準ずるものを中心として実測を行った。

第4節 整理作業の経過

整理・報告書作成作業は、平成29年5月22日より共和開発株式会社聖蹟桜ヶ丘研修センター（以下、研修センター）にて行なった。現場で作成した図面・写真などの整理、遺物の洗浄・注記の後、遺構図の作成ならびに遺物の分類・接合を行なった。平成29年11月20日より遺物の実測図作成・拓本採取を開始し、引き続きデジタルトレース、遺物写真撮影を行なった。平成30年7月7日より報告書の編集を開始した。

なお、平成29年7月4日、8月18日、平成30年5月16日、9月14日の4回にわたり、研修センターにて国分寺市教育委員会文化財担当者と報告書作成方針ならびに進捗状況の打合せを行なった。

整理作業・報告書作成にかかわる全ての作業は、平成31年1月31日に本書の発行をもって終了した。

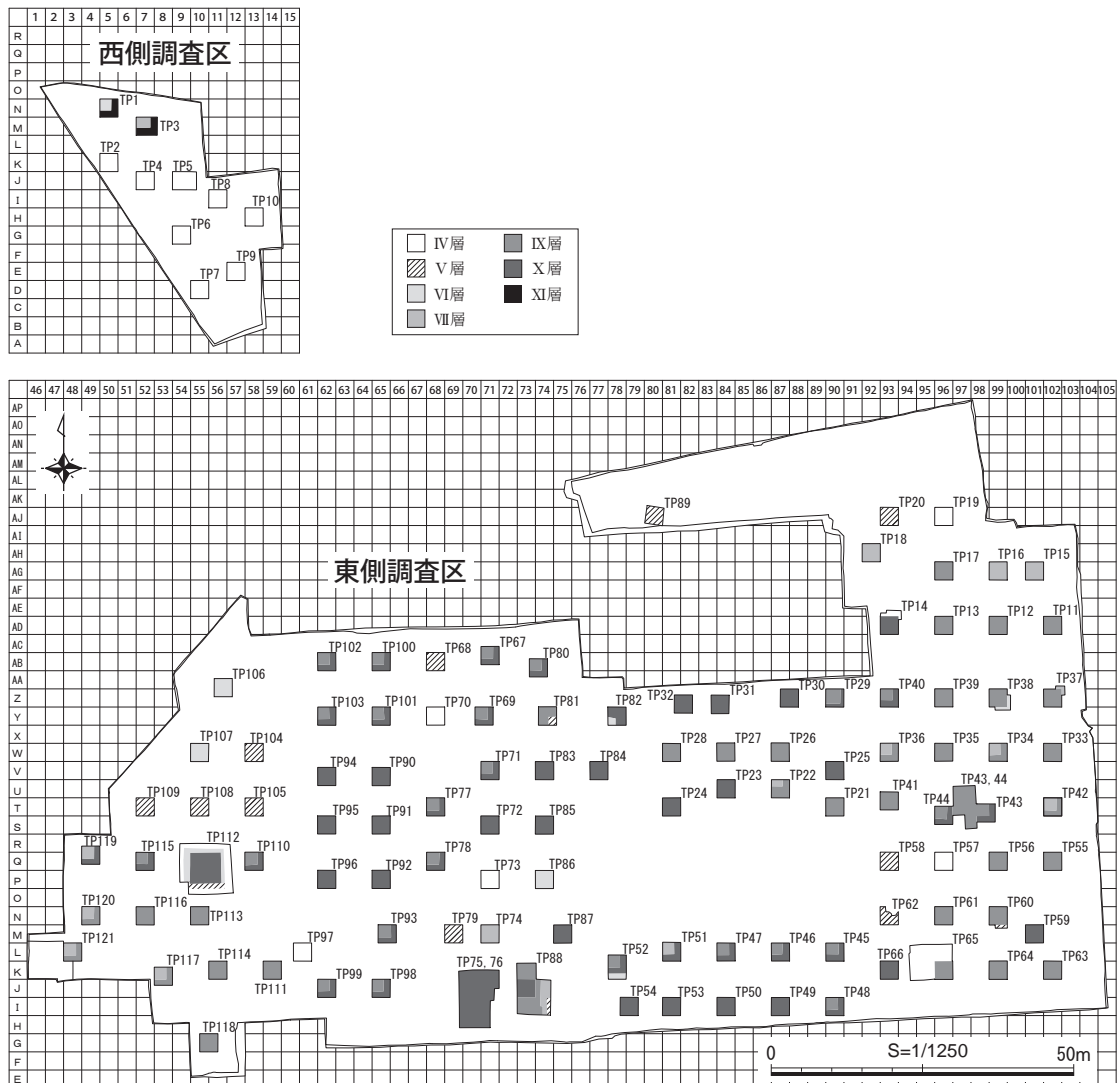


第10図 遺構配置図(全時代)

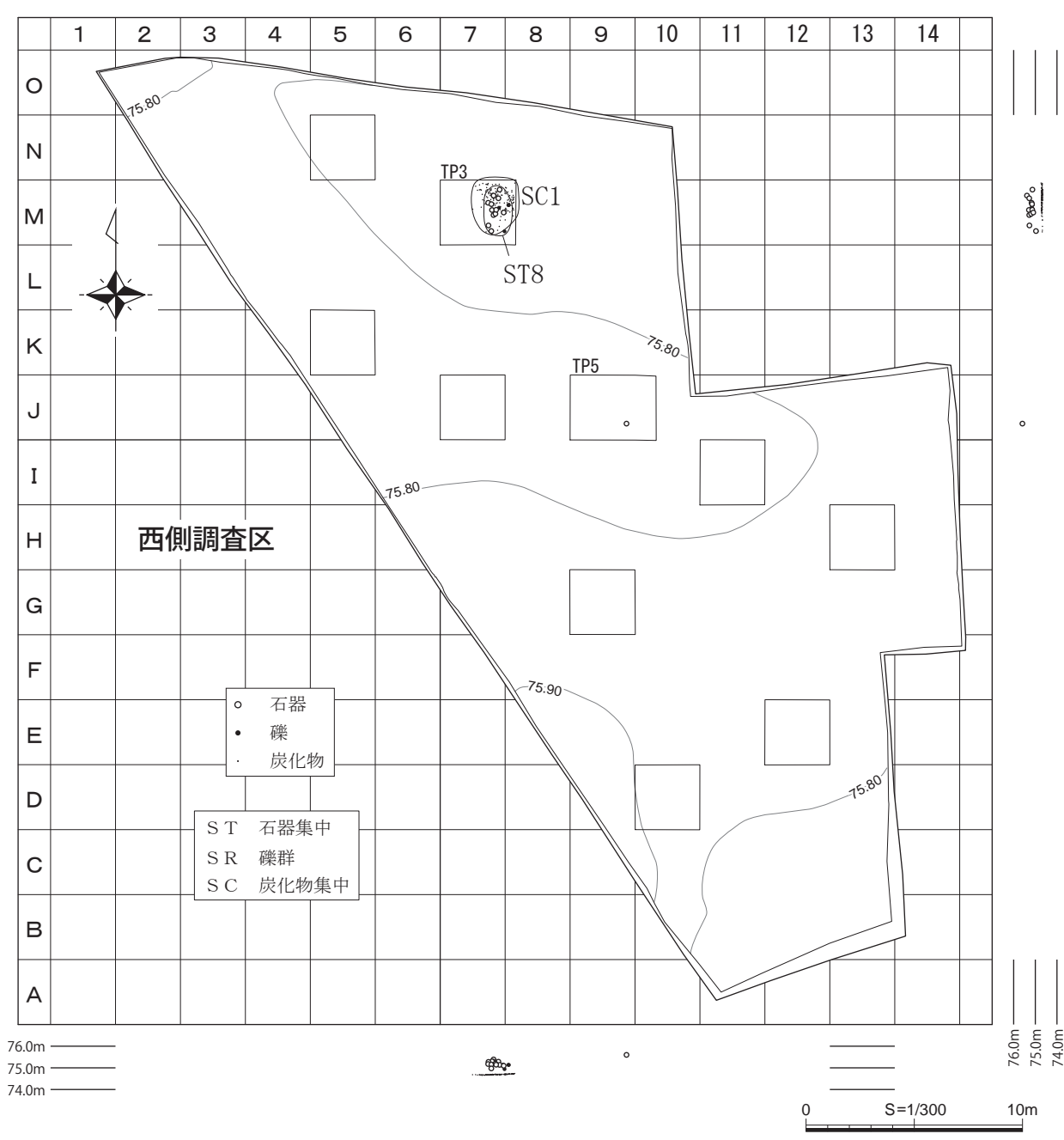
第4章 遺構と遺物

第1節 旧石器時代

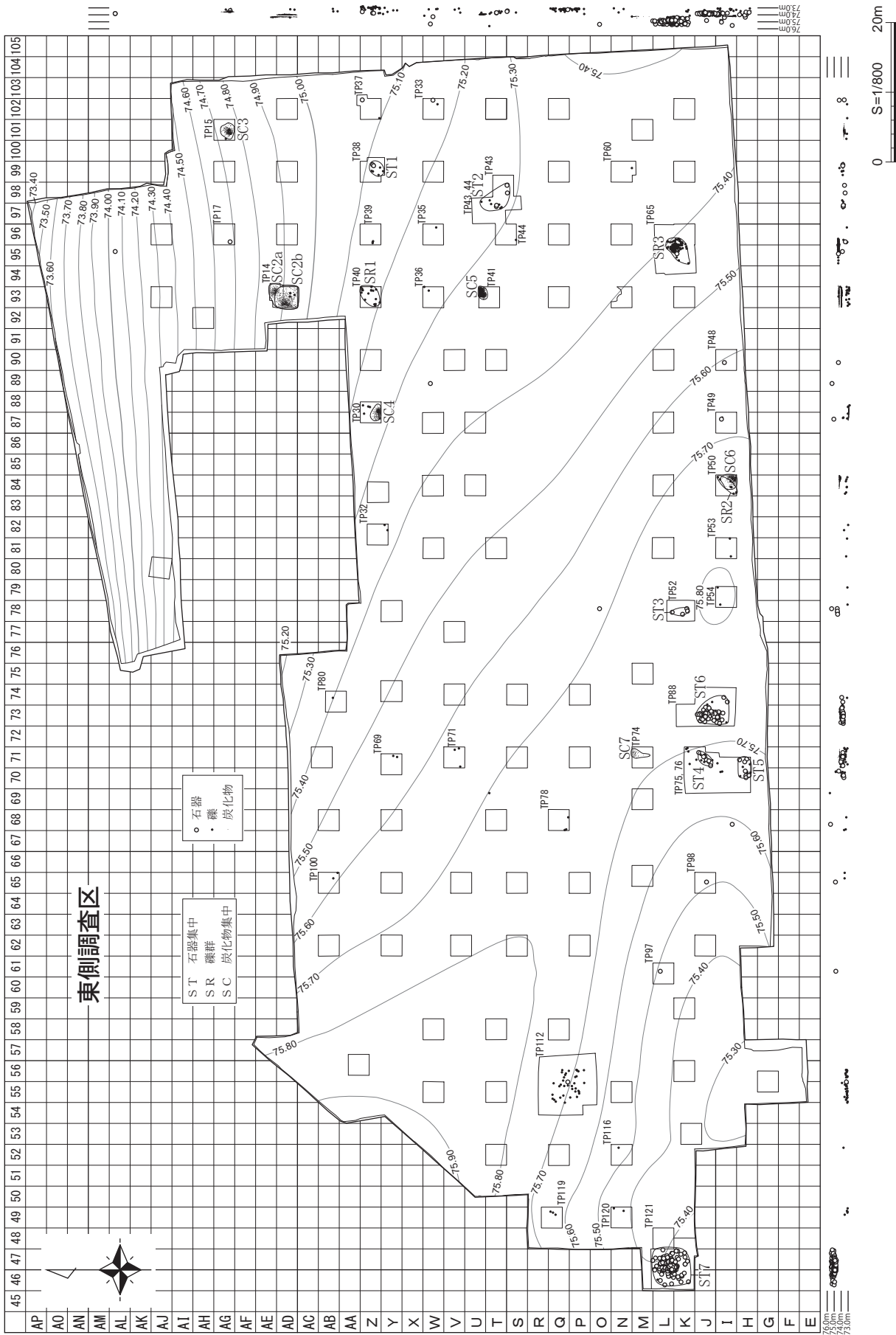
今回の調査では、旧石器時代の石器集中8箇所、礫群3基及び炭化物集中7箇所が出土した（第12・13図）。石器総数は276点、礫総数は284点である。出土文化層は立川ローム第三層、第三層～第四層、第四層、第五層、第六層、第七層～第九層、第九層～第十層及び第十層の8枚が認められた。第三層～第四層の7号石器集中及び第七層～第九層の4号～6号石器集中以外は、石器群・礫群共に遺物数が少なく小規模である。石器群と礫群、炭化物群の間に同層位で重複する例は見られない。以下に各文化層の結果を図示し、説明する。



第11図 旧石器試掘抗配置図と調査深度



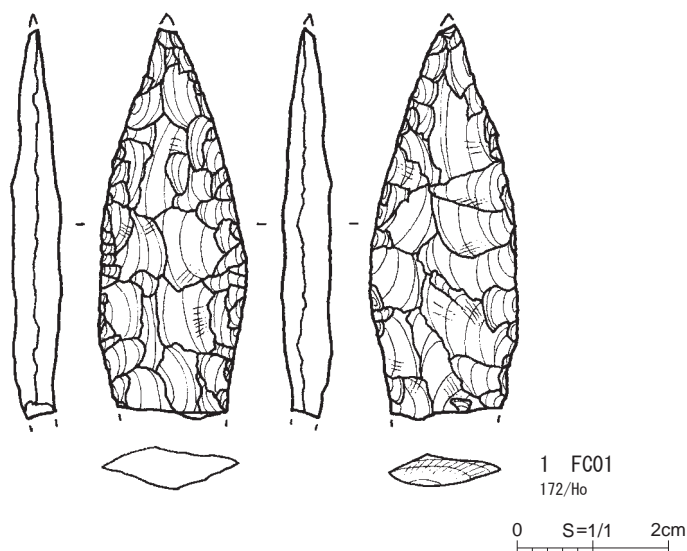
第 12 図 旧石器時代出土遺物分布図 (西側調査区)



第13図 旧石器時代出土遺物分布図 (東側調査区)

1. 第Ⅲ層

西側調査区W-89グリッドでホルンフェルス製の尖頭器が1点単独出土した(第14図1、第12表、図版52-1-1)。両面加工の柳葉形の完成品と見られるが、先端と基部を欠損する。全体的に若干風化し、灰色を呈する。まず表面の左側縁に基部より先端にかけて連続した剥離加工を施し、次に右側縁の中央部より上下に向けて連続剥離を施す。更に裏面の両側縁から大きく複数回の剥離を加えた後に周縁部を調整して成形し、表面の周縁にも部分的な再調整を施して完成している。全体に丁寧な造作である。基部の欠損は表側からの圧力によって折れたものと見られる。



第14図 第Ⅲ層出土石器

第12表 第Ⅲ層出土石器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	接合・備考
1 FC01 14-1 52-1-1	172	Ⅲ	W-89		尖頭器	Ho	5.14	2.92	0.62	6.8	上下欠損

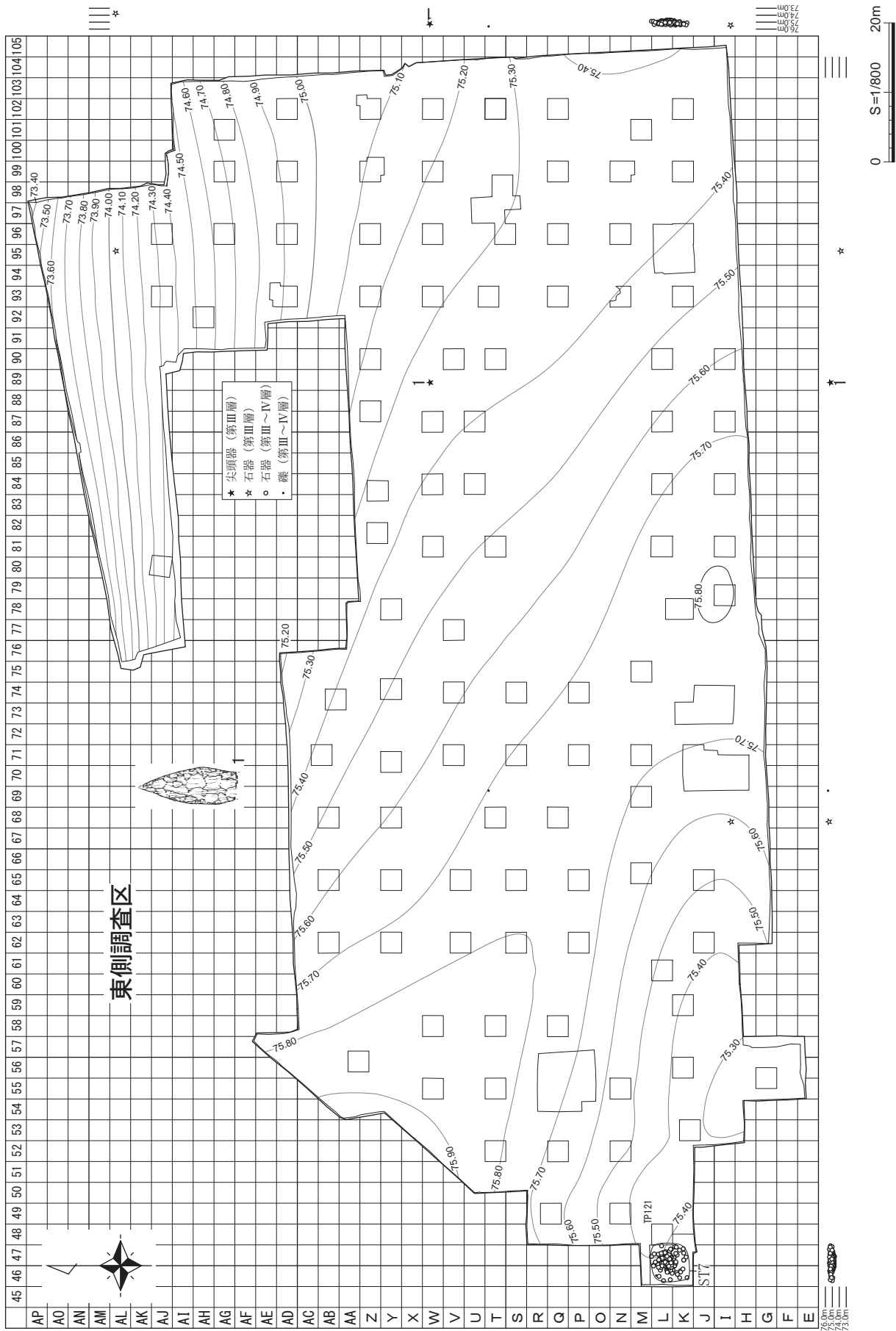
2. 第Ⅲ～第Ⅳ層

西側調査区K~M-46・47グリッドでST7石器集中を検出した。主体は第Ⅳ層と見られるが、第Ⅲ層部分との分離ができないためこの位置づけとした(第15図)。

ST7石器集中 (第16~21図、図版11-3~12-2・52-2~54-39)

西側調査区TP121(L-48グリッド)で第Ⅲ層より石器が出始めたため、西へ5m拡張したところ、一群の石器集中が認められた。直径5m程の円形範囲に分布するもので、中央部に高い分布密度をもつ。第Ⅲ層上部より第Ⅳ層中部(Ⅳb)にかけて連続した垂直分布を見せ、層位的な細分は困難である。垂直分布状況を見る限り、第Ⅳ層上部に主体があると思われる。礫を殆ど含まない。

石器は製品こそ10点と少ないが、小剥片およびチップ類が多く、一部に接合資料も含まれる事から、本集中は石器製作址と考えられる。ナイフ形石器が8点出土したが、うち6点は2cm足らずの小型品である。石材は9種と多いが、大半は黒曜石ないし頁岩である。黒曜石はOb-3の一種類のみで、産地同定分析によれば柏峠産である。頁岩は5種類と多く、本石器集中の主体石材である。



第15図 第III~第IV層遺物分布図 (東側調査区)

ナイフ形石器 (第 18 図 2～9、第 13 表、図版 11-6・52-2-2～9)

2は灰色の頁岩製で、断面三角形の縦長剥片を素材とする。上半部で稜線から右側に向かって連続した剥離を施し、鋭い先端を作出する。一見、削片のようにも見られる資料である。基部の剥離は調整ではなく、本素材を剥離する前の加撃によるものと見られる。

3は2と同母岩の頁岩製で、素材も2同様に断面三角の細長い縦長剥片である。基部に右側縁から調整を加える。

4は淡灰緑色の頁岩を用いた小型品で、上部を欠損する。右側縁上部と左側縁下部及び基部に調整を施す。

5は長さ1.5cmの黒曜石の縦長剥片を素材とした小型品で、左側縁に連続した調整を加えている。

6も黒曜石の縦長剥片を利用したもので、上部を欠損する。左側縁にやや不規則な調整を加える。

7は暗灰色の頁岩の剥片を用いた小型品で、上部を欠損する。右側縁にやや粗い調整を施すが、未成品の可能性はある。

8は黒曜石製の小型品で、右側縁上半部に微細な調整を加えたものである。

9は暗灰色の頁岩の縦長剥片を素材とし、左側縁中央部に調整を施した小型品である。調整が下部まで及んでおらず、未成品の可能性はある。

搔器 (第 18 図 10、第 13 表、図版 52-2-10)

暗灰色の頁岩の不定形剥片を素材とし、打面部分に裏面から調整を加え、約80°の刃部を作出する。剥片の他の部分は未加工であり、未成品と考えられる。

抉入石器 (第 18 図 11、第 13 表、図版 52-2-11)

黒曜石の厚みのある小型剥片の一端に連続した調整を加え、内湾する刃部を設けたものである。刃角は約70°と厚めである。

石核 (第 18 図 12、第 13 表、図版 11-7・52-2-12)

緻密でやや光沢を帯びる黒灰色の頁岩礫を素材とし、上下方向から石刃ないし剥片を剥離した残核である。主要打面には二方向から複数回の調整が加えられる。下部の打面は殆ど残らないが調整を施した痕跡が見られる。本石核と同母岩ないし接合する資料は同じ石器集中から得られておらず、剥離された剥片類は加工を経ずに他所へ持ち去られたものと考えられる。

石刃 (第 19 図 13～15、第 13 表、図版 11-8・52-2-13・14・53-1-15)

13は灰色の凝灰岩製で、表面に一本の稜を帯び、横断面は三角形である。打面より数回の剥離を試行した痕跡がある。下端は折損し、14と接合する。

14は灰白色の凝灰岩製であるが、灰色の13と接合して一枚の石刃となる(第19図13・14、図版52-2-13・14)。13と14は色調が極端に異なるが、13が折損後に被熱して白色化した可能性がある。

15は淡灰緑色の頁岩製で、上部を欠損する。表面の稜線は不規則であるが、横断面は概ね三角形となる。左側縁の上部と下部に微細な連続剥離が認められ、使用された可能性がある。

細石刃 (第 19 図 16～22、第 13 表、図版 12-1・53-1-16～22)

16は暗灰色の頁岩製で、表面に1稜を帯び、横断面は三角形となる。

17は黒曜石製で、稜線は2本で横断面が略台形となる。

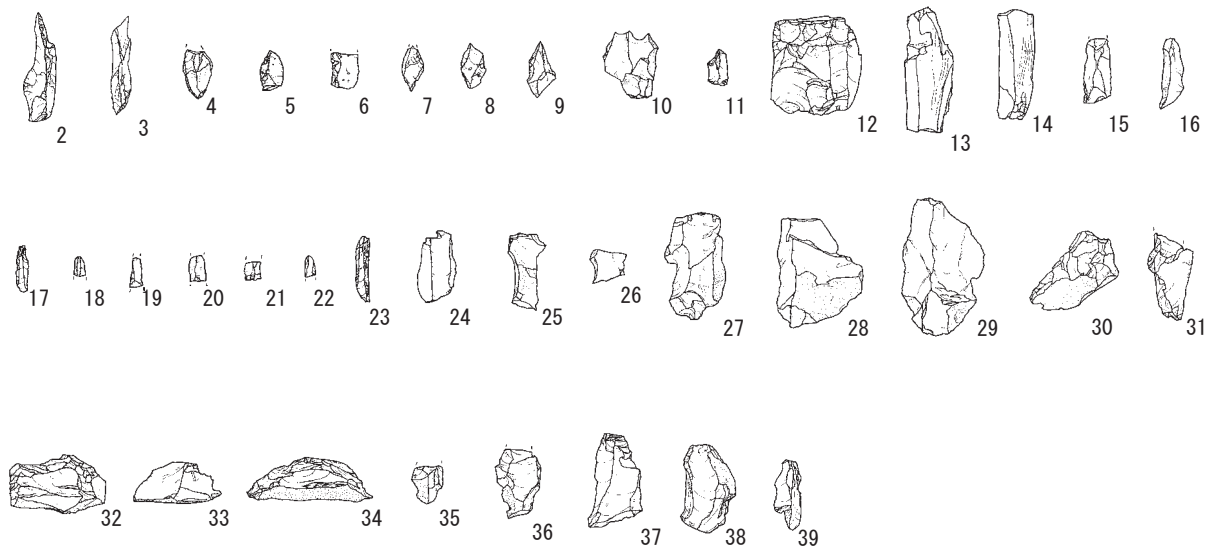
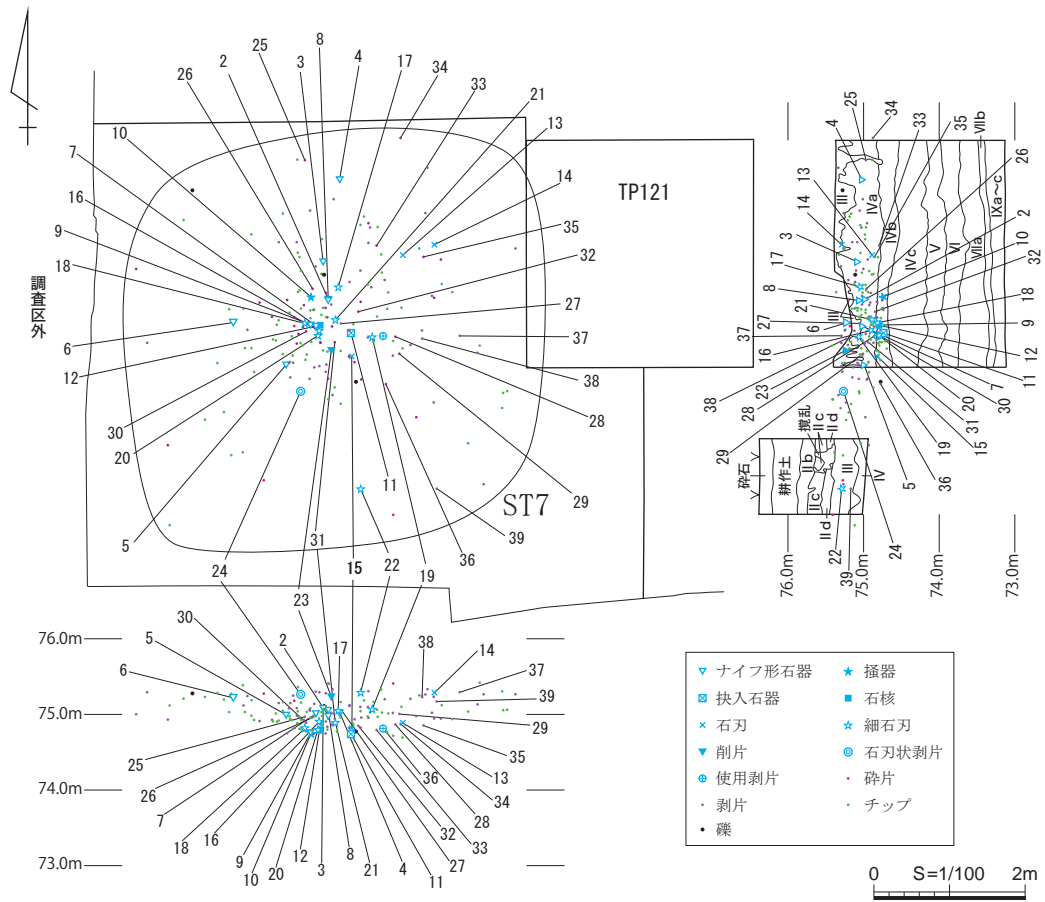
18も17と同様品であるが、頭部のみで下部を欠損する。

19は黒曜石製で上下を欠損する。稜線は1本で横断面は三角形である。

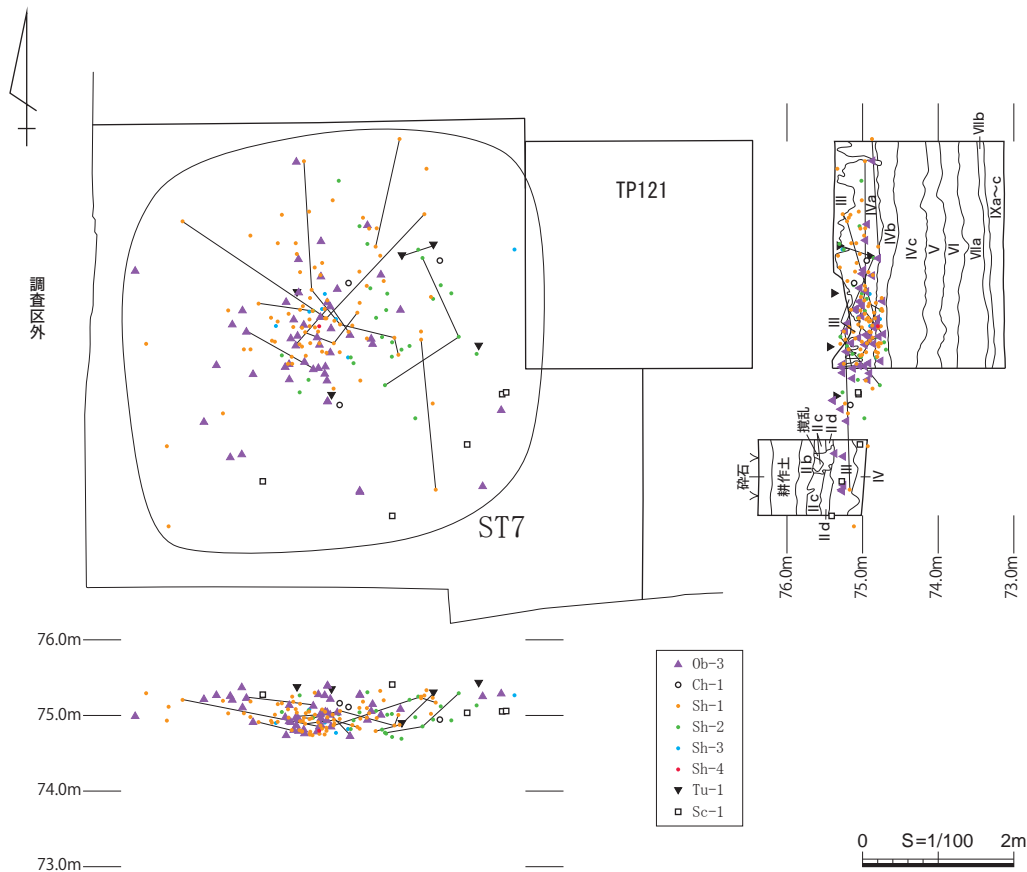
20も19と同じ黒曜石を用い、上下を欠損する。横断面は三角形で、表面がやや風化ないし水和する。

21は頁岩製で上部を欠損する。稜線は上部で2本、下部で1本と見られ、折損面で台形を呈する。

22は黒曜石製で下部を欠損する。稜線2本で横断面は略台形である。



第 16 図 ST7 石器集中器種別分布図



第 17 図 ST7 石器集中石質別分布図

削片 (第 19 図 23、第 13 表、図版 53-1-23)

23は黒曜石を素材とする作業面スポールである。中央の稜線から右側の原礫面に向かって連続した剥離調整を加え、上端への一撃によって剥離している。左側面には縦方向の細長い剥離痕を帯びており、細石刃の剥離痕と見られる事から、作業面の整形に関わる削片と考えられる。左側縁の裏面には部分的に連続した微細剥離が見られる。使用によるガジリであろうか。

石刃状剥片 (第 19 図 24、第 13 表、図版 53-1-24)

24は淡灰緑色の頁岩を素材とする。表面に平行な 2 本の稜線を帯びるが、両側縁は平行でない。

剥片 (第 20・21 図、第 13・14 表、図版 12-2・53-1-25～29・54-1-30～39)

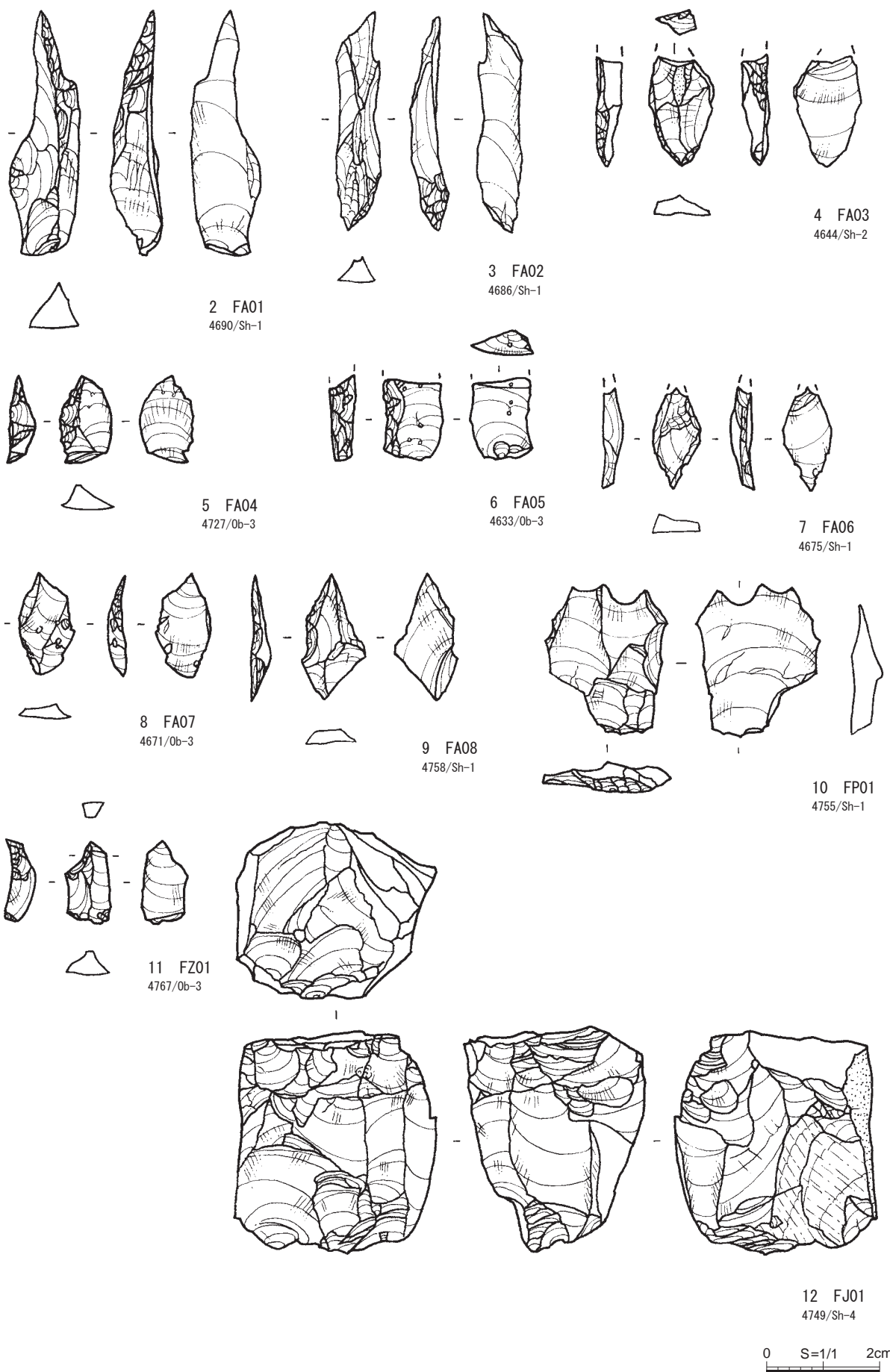
接合する剥片群を図示した。25～29は暗灰色の頁岩の縦長剥片で、5 点が連続して接合する。剥離方向は同一である。

30～32も同質の頁岩製で、横長、縦長、斜軸の不定形剥片群が連続して接合する。剥離方向は異なる。

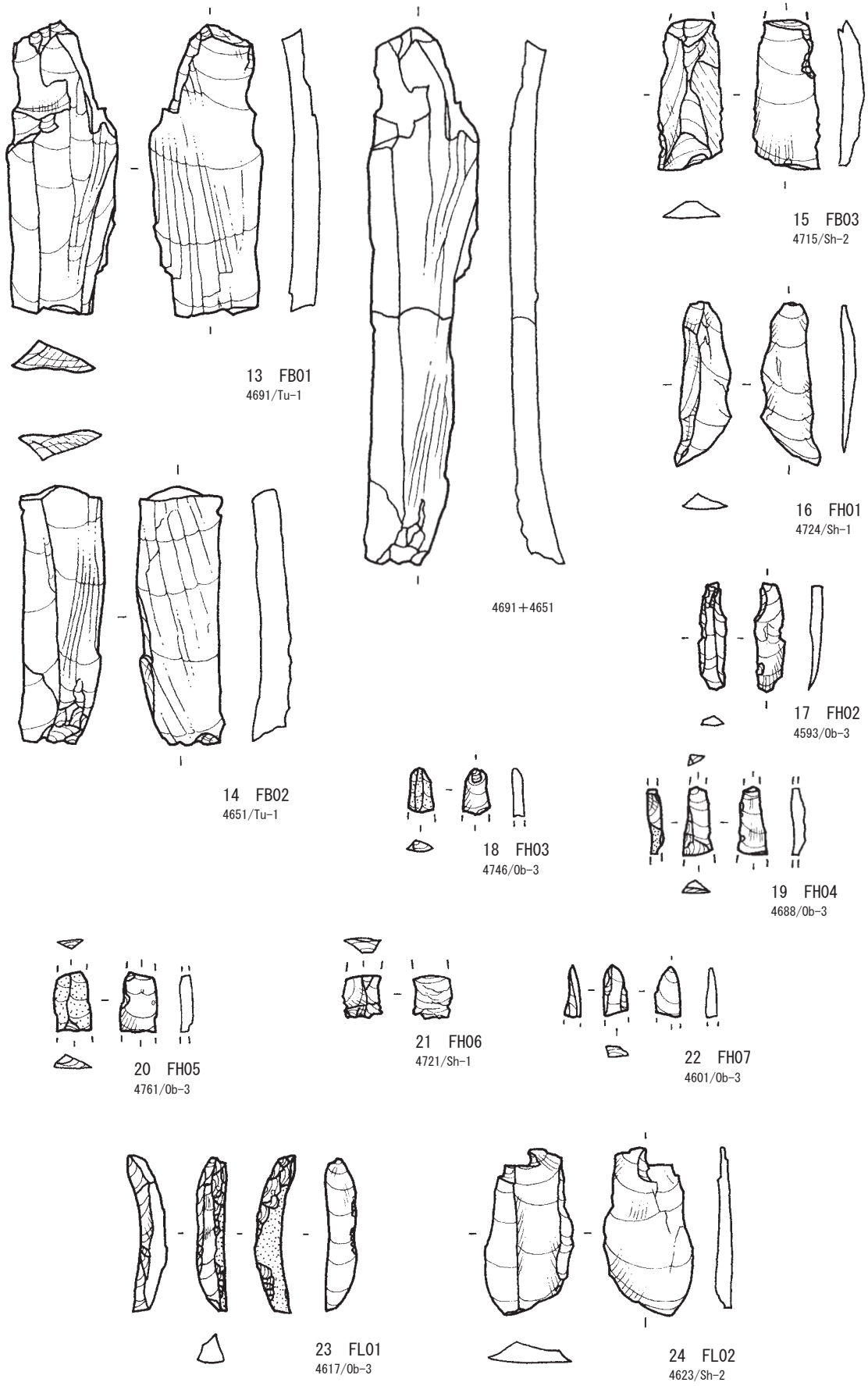
33・34の 2 点も同じ頁岩を素材とする横長剥片である。

35～37は淡灰緑色の頁岩製の剥片 3 点が連続して接合する。剥離方向は同一である。

38・39は暗灰色の頁岩の縦長剥片である。

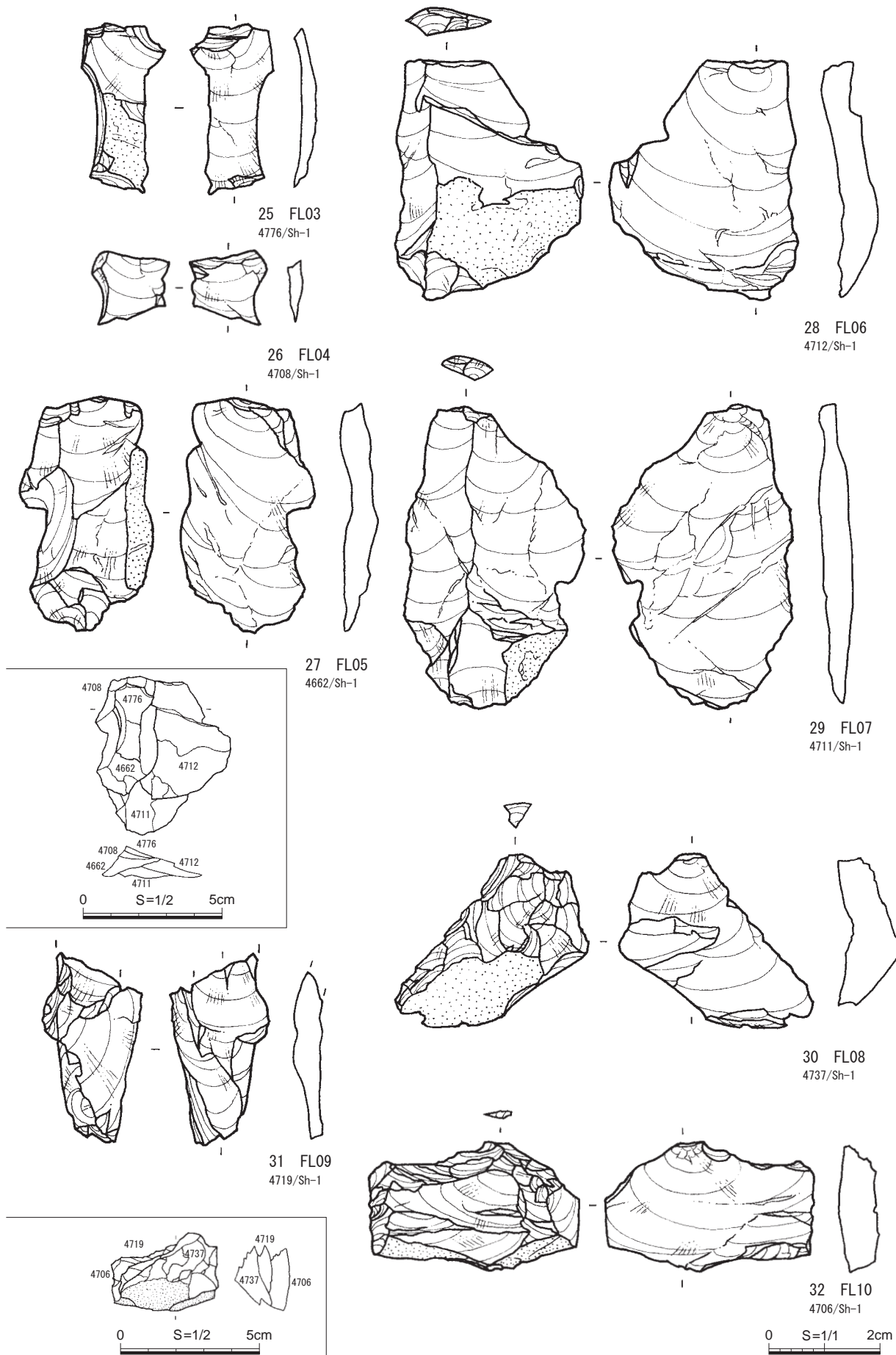


第 18 图 第三 ~ 第四层出土石器 (1)

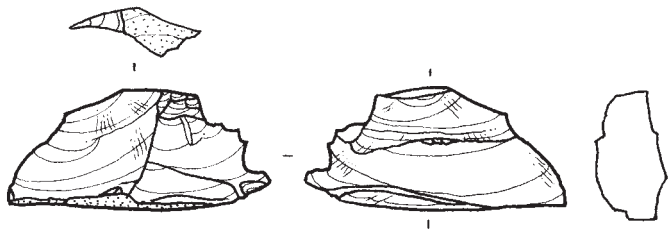


0 S=1/1 2cm

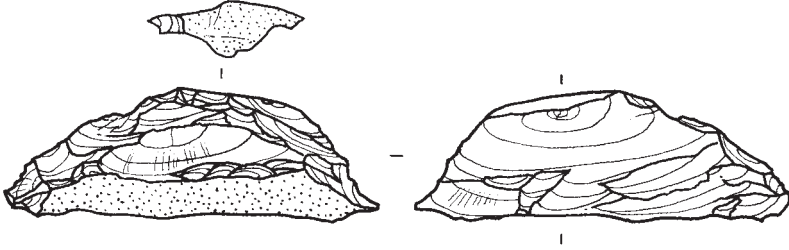
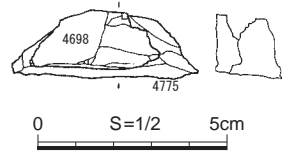
第 19 图 第三 ~ 第四层出土石器 (2)



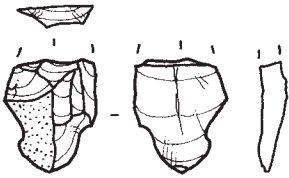
第 20 图 第三 ~ 第四層出土石器 (3)



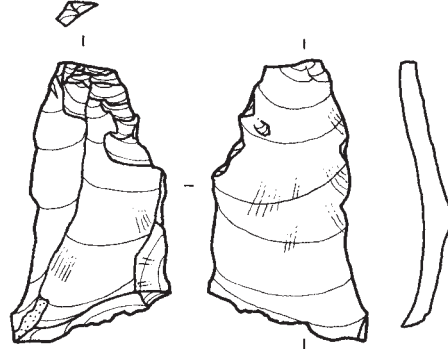
33 FL11
4698/Sh-1



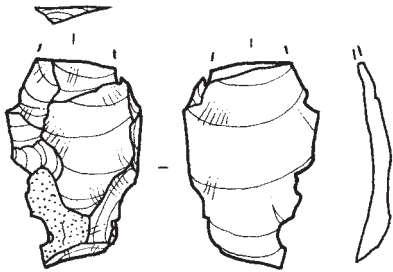
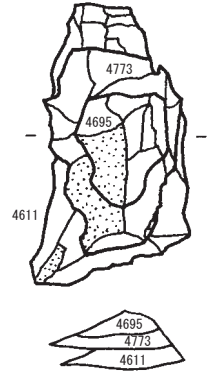
34 FL12
4775/Sh-1



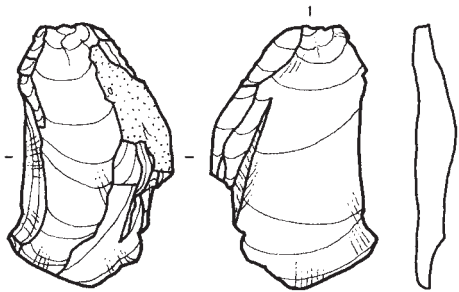
35 FL13
4695/Sh-2



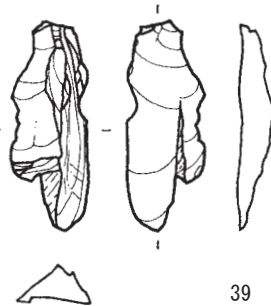
37 FL15
4611/Sh-2



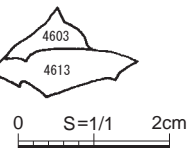
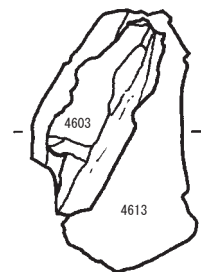
36 FL14
4773/Sh-2



38 FL16
4613/Sh-1



39 FL17
4603/Sh-1



第 21 図 第三～第四層出土石器 (4)

第13表 第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器観察表(1)

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	接合・備考
2 FA01 18-2 52-2-2	4690	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	ナイフ形石器	Ho	4.26	1.16	0.93	3.2	未成品
3 FA02 18-3 52-2-3	4686	Ⅲ	L-47	ST7	ナイフ形石器	Sh-1	3.79	0.78	0.49	1.4	未成品
4 FA03 18-4 52-2-4	4644	Ⅲ	L-47	ST7	ナイフ形石器	Sh-2	1.92	1.15	0.43	0.9	上部欠損
5 FA04 18-5 52-2-5	4727	Ⅲ～Ⅳ	L-46	ST7	ナイフ形石器	Ob-3	1.50	0.88	0.43	0.4	
6 FA05 18-6 52-2-6	4633	Ⅲ	L-46	ST7	ナイフ形石器	Ob-3	1.38	1.07	0.39	0.7	上部欠損
7 FA06 18-7 52-2-7	4675	Ⅲ	L-47	ST7	ナイフ形石器	Sh-1	1.74	0.85	0.32	0.5	未成品
8 FA07 18-8 52-2-8	4671	Ⅲ	L-47	ST7	ナイフ形石器	Ob-3	1.78	0.95	0.29	0.5	
9 FA08 18-9 52-2-9	4758	Ⅳ	L-47	ST7	ナイフ形石器	Sh-1	2.23	1.13	0.33	0.7	未成品
10 FP01 18-10 52-2-10	4755	Ⅳ	L-47	ST7	搔器	Sh-1	2.70	2.21	0.56	2.3	未成品
11 FZ01 18-11 52-2-11	4767	Ⅳ	L-47	ST7	挟入石器	Ob-3	2.70	2.21	0.56	2.3	4672,4728
12 FJ01 18-12 52-2-12	4749	Ⅳ	L-47	ST7	石核	Sh-4	3.95	3.63	3.25	53.5	
13 FB01 19-13 52-2-13	4691	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	石刃	Tu-1	4.90	1.90	0.51	4.7	4651
14 FB02 19-14 52-2-14	4651	Ⅲ	L-47	ST7	石刃	Tu-1	4.24	1.37	0.66	4.4	4691・上部欠損,白化(被熱?)
15 FB03 19-15 53-1-15	4715	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	石刃	Sh-2	2.48	1.11	0.42	1.1	調整あり
16 FH01 19-16 53-1-16	4724	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	細石刃	Sh-1	2.77	0.84	0.26	0.5	
17 FH02 19-17 53-1-17	4593	Ⅲ	L-47	ST7	細石刃	Ob-3	1.79	0.51	0.20	0.2	
18 FH03 19-18 53-1-18	4746	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	細石刃	Ob-3	0.72	0.45	0.17	0.1	下部欠損
19 FH04 19-19 53-1-19	4688	Ⅲ	L-47	ST7	細石刃	Ob-3	1.10	0.50	0.26	0.1	調整あり
20 FH05 19-20 53-1-20	4761	Ⅳ	L-47	ST7	細石刃	Ob-3	1.01	0.63	0.27	0.2	
21 FH06 19-21 53-1-21	4721	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	細石刃	Sh-1	0.66	0.62	0.24	0.1	
22 FH07 19-22 53-1-22	4601	Ⅲ	K-47	ST7	細石刃	Ob-3	0.85	0.37	0.16	0.1	
23 FL01 19-23 53-1-23	4617	Ⅲ	L-47	ST7	削片	Ob-3	2.58	0.55	0.42	0.7	
24 FL02 19-24 53-1-24	4623	Ⅲ	K-47	ST7	石刃状剥片	Sh-2	2.78	1.43	0.35	1.3	
25 FL03 20-25 53-1-25	4776	Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	3.08	1.49	0.29	1.3	4662,4708,4711,4712
26 FL04 20-26 53-1-26	4708	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	1.34	1.38	0.31	0.5	4662,4711,4712,4776
27 FL05 20-27 53-1-27	4662	Ⅲ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	4.12	2.49	0.73	6.5	4708,4711,4712,4776
28 FL06 20-28 53-1-28	4712	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	4.29	3.49	0.64	10.1	4662,4708,4711,4776
29 AL07 20-29 53-1-29	4711	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	5.40	3.22	0.66	10.4	4662,4708,4712,4776

第14表 第Ⅲ～第Ⅳ層出土石器観察表(2)

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	接合・備考
30 AL08 20-30 54-1-30	4737	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	3.01	3.52	1.09	8.5	4706,4719
31 FL09 20-31 54-1-31	4719	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	3.32	1.78	0.61	2.7	4706,4737
32 FL10 20-32 54-1-32	4706	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	2.31	3.84	0.80	9.3	4737,4719
33 FL11 21-33 54-1-33	4698	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	1.56	3.42	0.93	4.2	4755
34 FL12 21-34 54-1-34	4755	Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	1.67	4.93	1.73	11.1	4698
35 FL13 21-35 54-1-35	4695	Ⅲ～Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-2	1.42	1.21	0.39	0.6	4611,4773・上部欠損
36 FL14 21-36 54-1-36	4773	Ⅳ	L-47	ST7	剥片	Sh-2	2.69	1.79	0.31	1.6	4611,4695・上部欠損
37 FL15 21-37 54-1-37	4611	Ⅲ	L-47	ST7	剥片	Sh-2	3.71	2.04	0.48	3.1	4695,4733
38 FL16 21-38 54-1-38	4613	Ⅲ	L-47	ST7	剥片	Sh-1	3.49	2.12	0.67	4.7	4603
39 FL17 21-39 54-1-39	4603	Ⅲ	K-47	ST7	剥片	Sh-1	0.76	2.73	0.86	1.3	4613

3. 第Ⅳ層

西側調査区M-7・8グリッドでST8石器集中(Ⅳa)、東側調査区K・L-95・96グリッドで3号礫群(Ⅳc)、AD・AE-93・94グリッドでSC2a炭化物集中(Ⅳb)、西側調査区M-8・9グリッドでSC1炭化物集中(Ⅳc)を検出した(第22・23図)。このうちST8石器集中とSC1炭化物集中は平面分布が上下に重なるが、出土層位は明確に分離する。他に単独のナイフ形石器が東側調査区I-87グリッドとL-61グリッドより1点ずつ出土した。

ST8石器集中(第24～27図、図版12-5・55・56・図版57-1)

西側調査区M-7・8グリッドのTP3の東側で12点の石器が出土した。2m×1mの範囲に石核を中心として散漫に分布しており、主体は第Ⅳa層下部である。すべて同一の安山岩を母岩とする石核および剥片で、うち10点が接合する。

石核(第26図40、第15表、図版55-1-40)

暗灰色に灰色の縞が入る安山岩の円礫を素材とする。上辺と下辺の二方向から表裏に向かって繰り返し剥片剥離が行なわれる。この結果、一見すると礫器のような姿となるが、上縁部の表裏の剥離面の交わる角度は約90°と厚く、使用痕跡もなく、形態も刃部とするにはやや不規則であるため、石核とした。

剥片(第26図41・42、第27図43～49、第13表、図版55-1-41～43・46・56-1-44・45・47～49)

40の石核に接合する剥片9点を図示した。このうち第27図の43は、表面の稜線から左の原礫面方向に5回の連続した剥離が加えられた調整剥片である。すべて原礫面を含む表皮剥片ないし小剥片であり、それ以外に剥離された剥片は本集中部に残されず、持ち去られたものと考えられる。

SR3礫群(第28図、図版13-2)

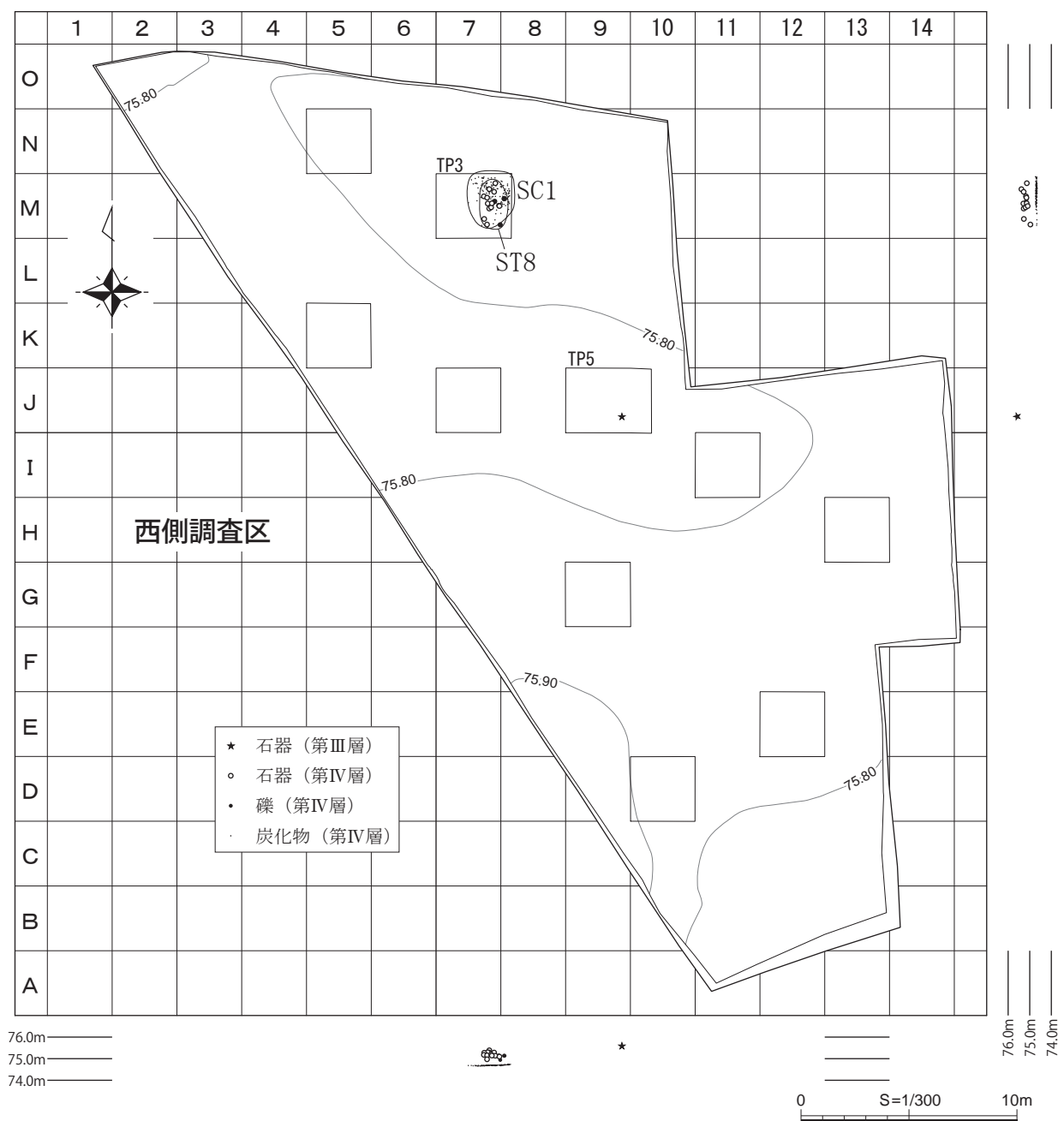
東側調査区南東部K・L-95・96グリッドのTP65中央部より検出した。約4.5m×2.5mの範囲に112点の礫が集中する。垂直分布には上下の乱れがなく、主体は第Ⅳ層下部(Ⅳc)である。構成礫は100%が被熱しており、残存率30%以下のものが4割と多く、礫群内部での接合が目立つ。スス・タールの付着も半数を超えており、繰り返し加熱利用されたことを示している。石質の構成は砂岩が8割を超え、残りはチャートおよび1点のホルンフェルスからなり、野川流域の礫群例の組成に近い。在地の礫層から得た礫を使用したものと考えられる。

SC2a 炭化物集中 (第29図、図版13-6)

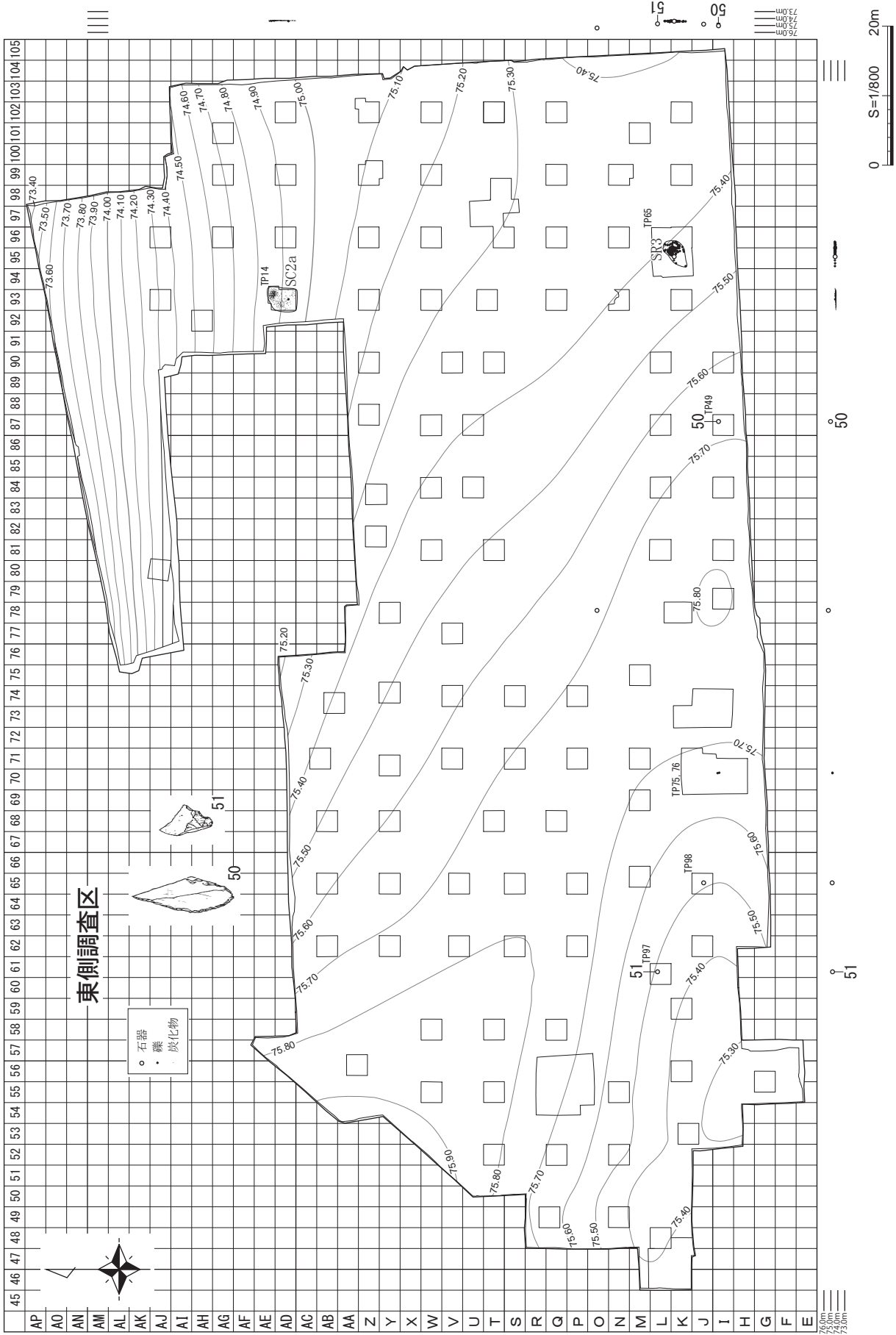
東側調査区AD・AE-93・94グリッドのTP14では上下に重複して2箇所の炭化物集中を検出した。上部の集中を2a号(IVb)、下部を2b号(V)とするが、両者は第IV層下部(IVc)を挟んで断絶している。2a号は約4m×3mの範囲に分布するが、北東部に密度の高い中心部がある。垂直分布を見ると、中心部から南西に向けて若干下る傾斜が観察され、層位の地形と符合するため、緩斜面に沿って南西に一部が流れたものと考えられる。焼礫を1点含む。

SC1 炭化物集中 (第24図、図版12-6)

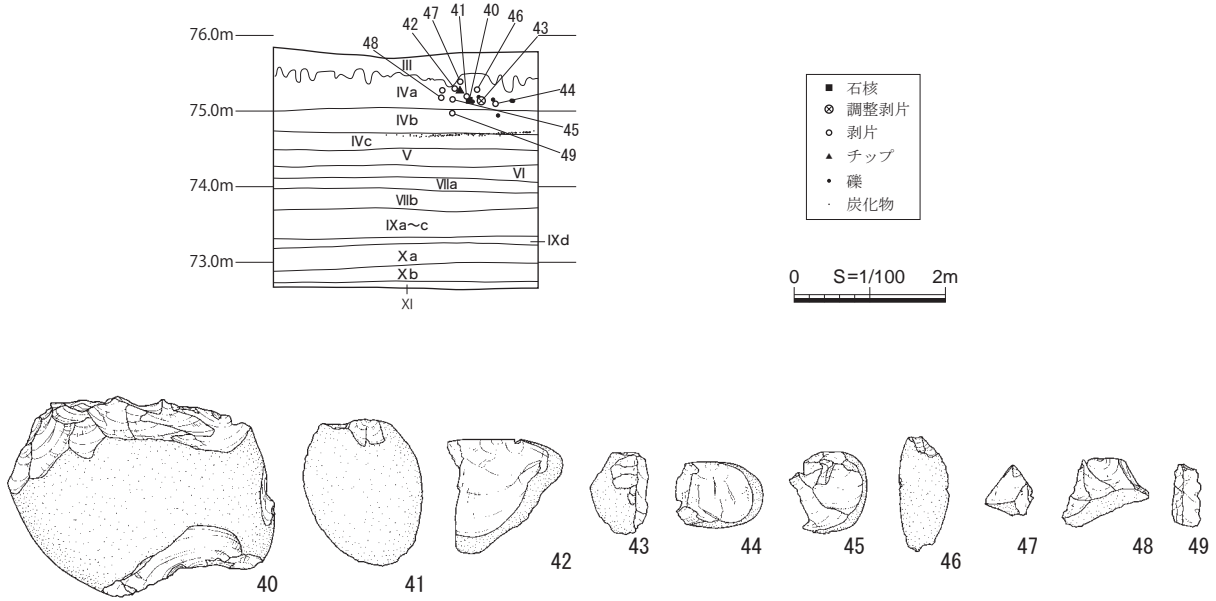
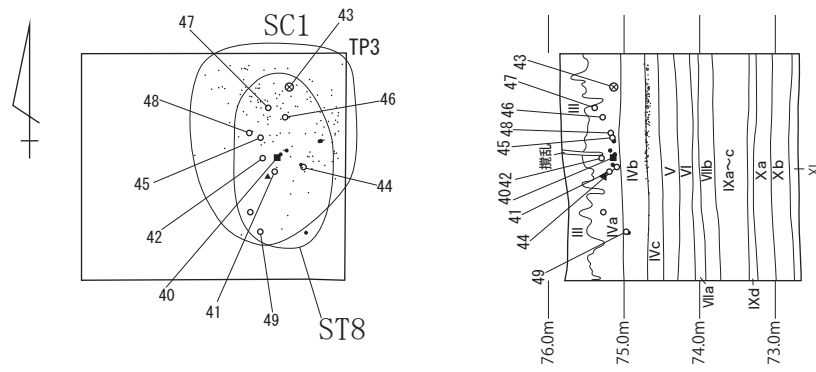
西側調査区M-8・9グリッドのTP3の東側で、8号石器集中の下から出土した。約2.5m×2mの範囲に散漫に分布する。第IV層下部(IVc上面)に水平なまとまりを見せ、8号石器集中とは隔絶している。



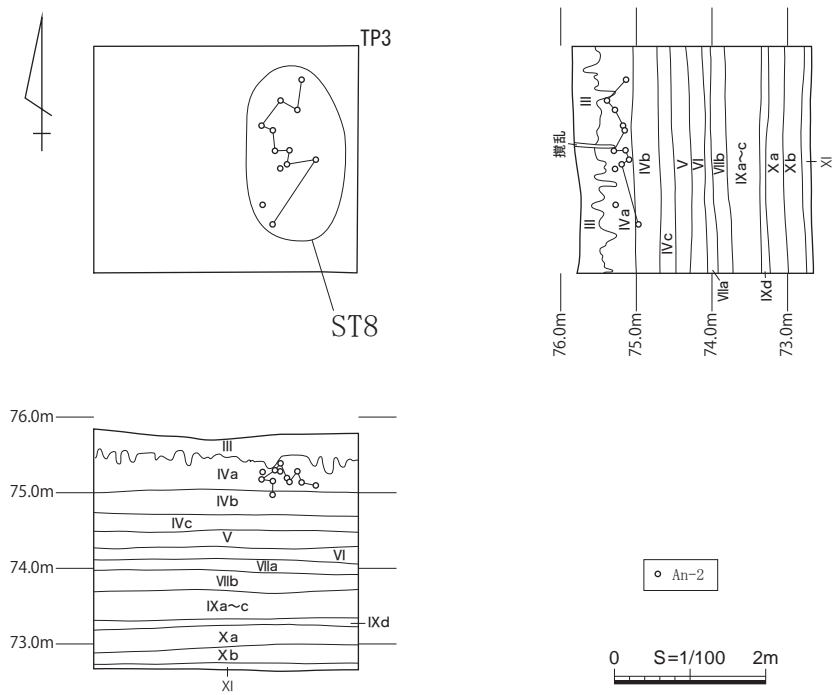
第22図 第IV層遺物分布図 (西側調査区)



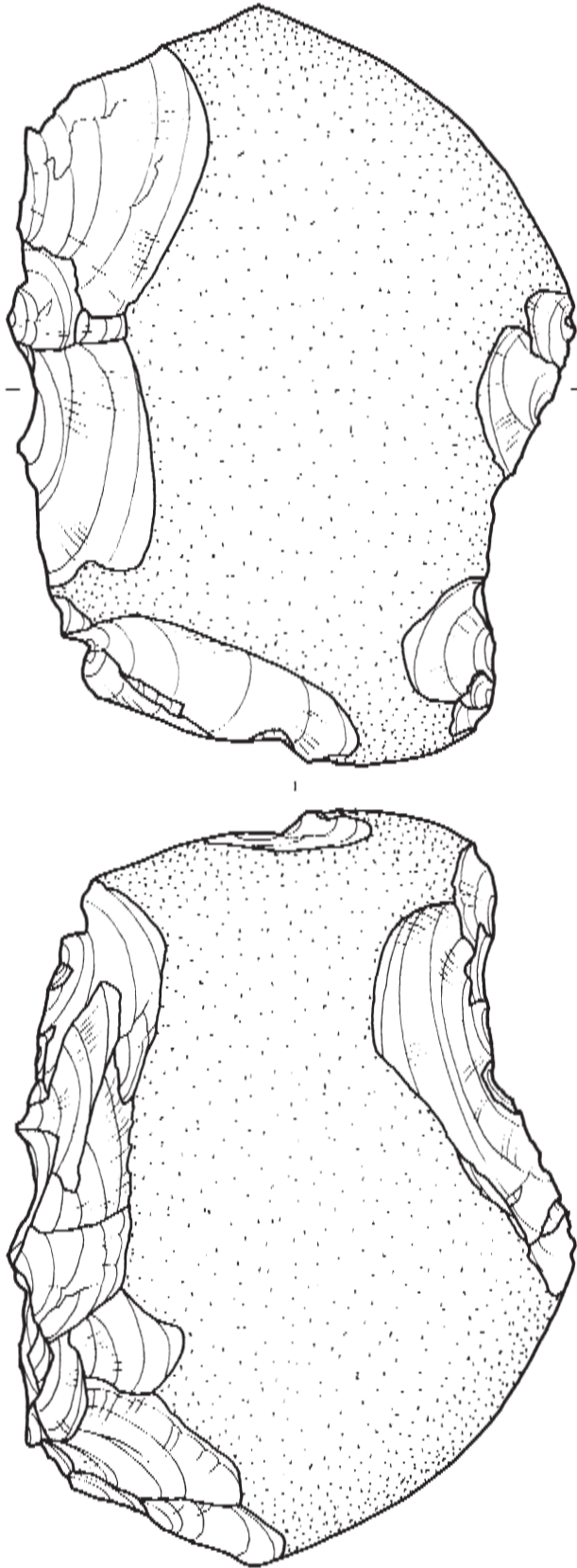
第23図 第IV層遺物分布図（東側調査区）



第 24 図 ST 8 石器集中器種別分布図・SC 1 炭化物集中分布図

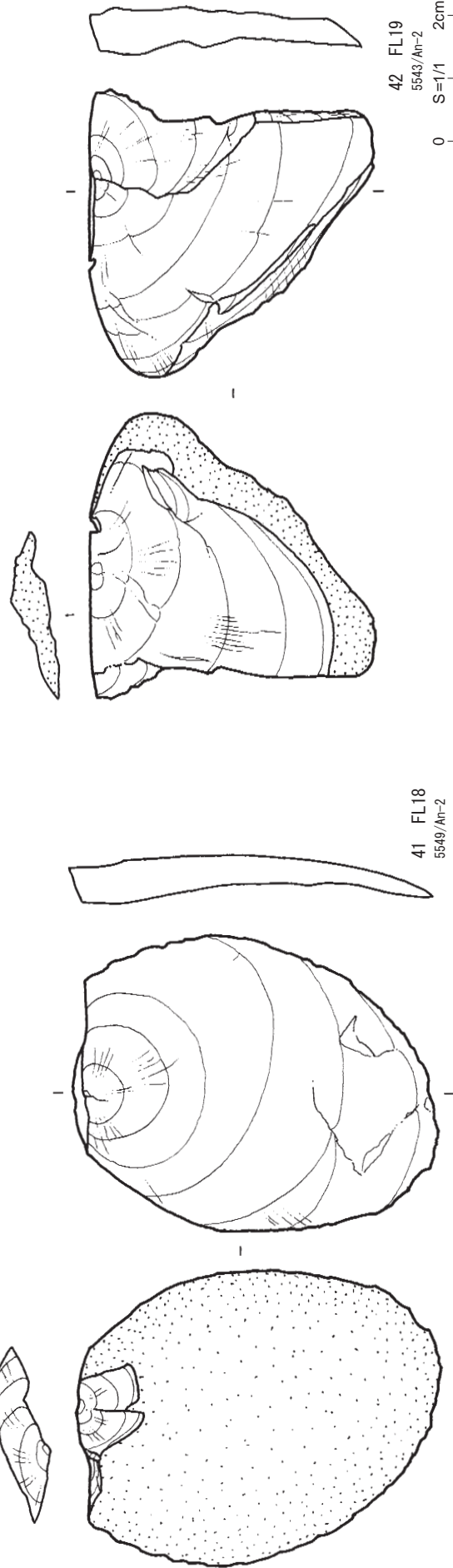


第 25 図 ST 8 石器集中石質別分布図



40 FJ02
5551/An-2

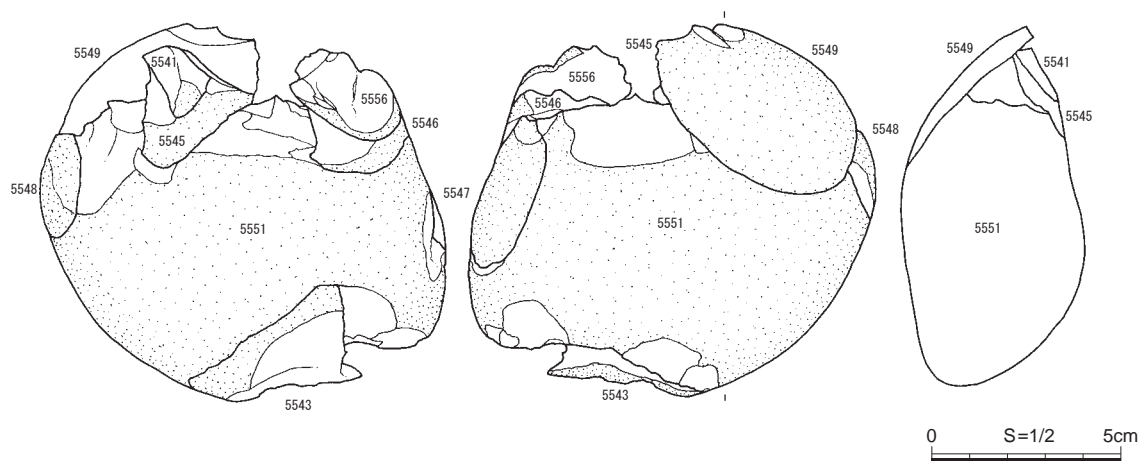
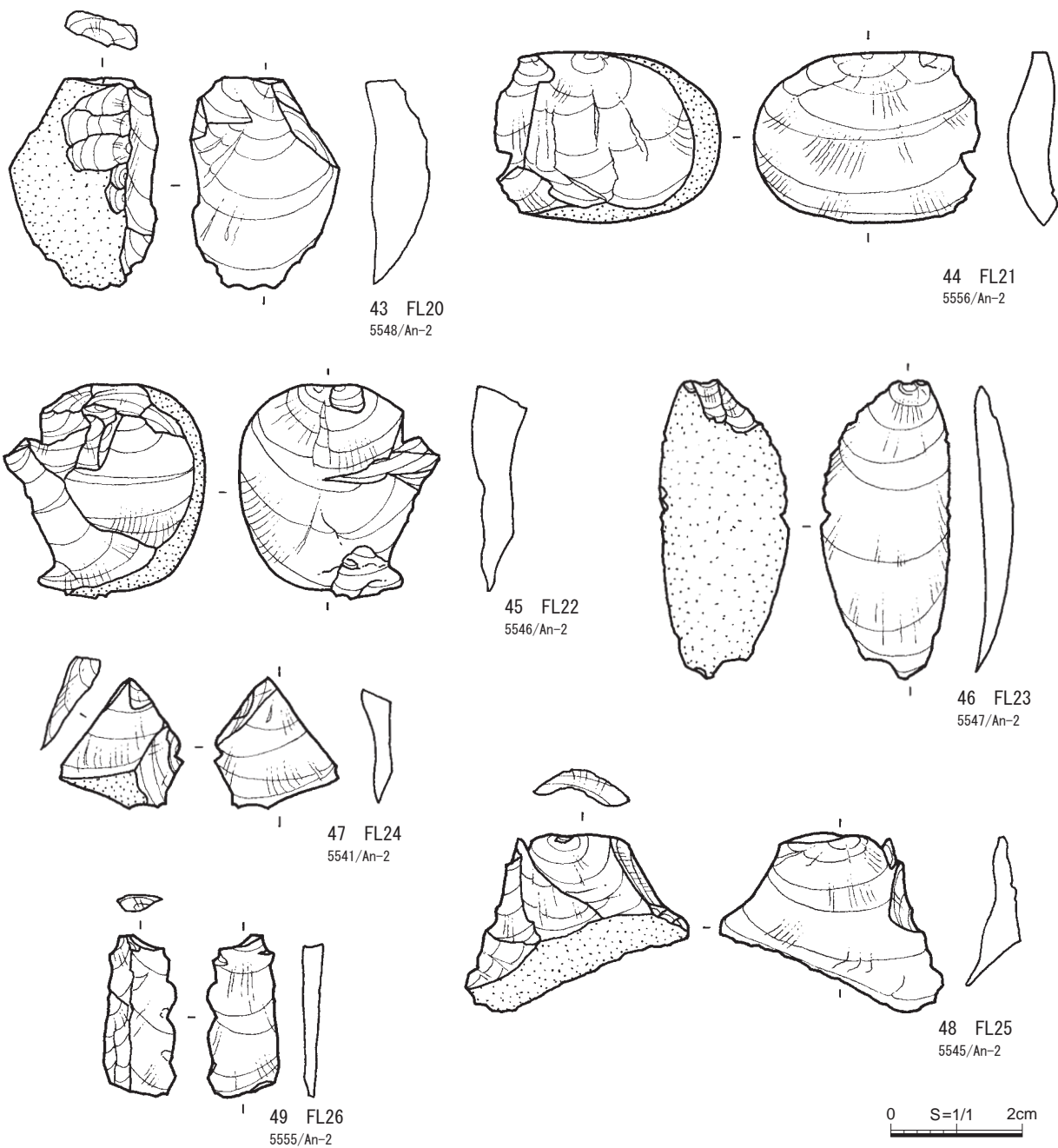
41 FL18
5549/An-2



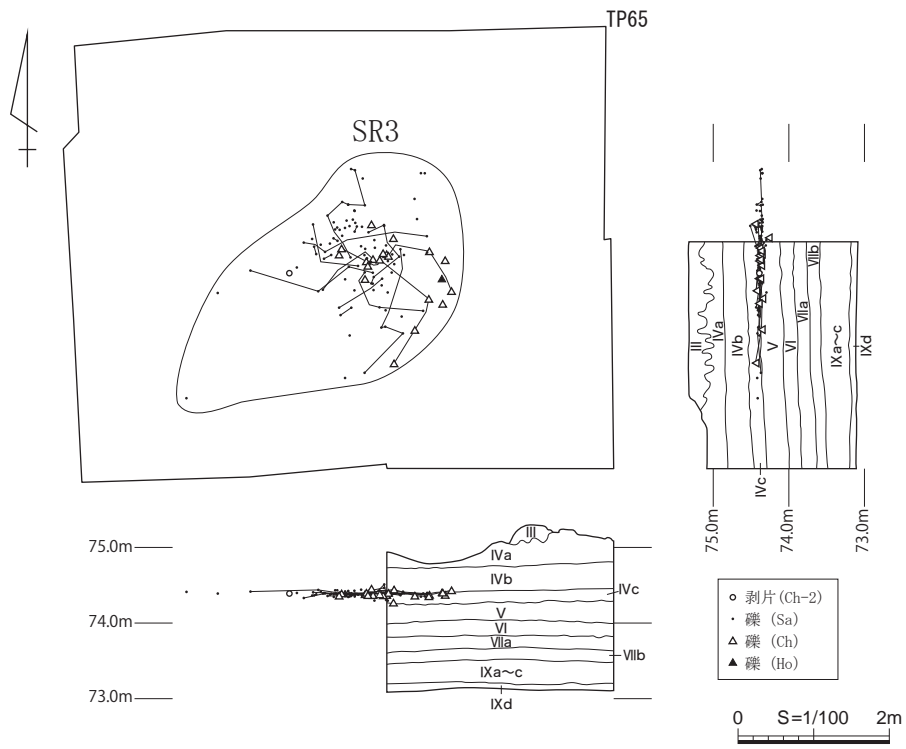
42 FL19
5543/An-2

0 S=1/1 2cm

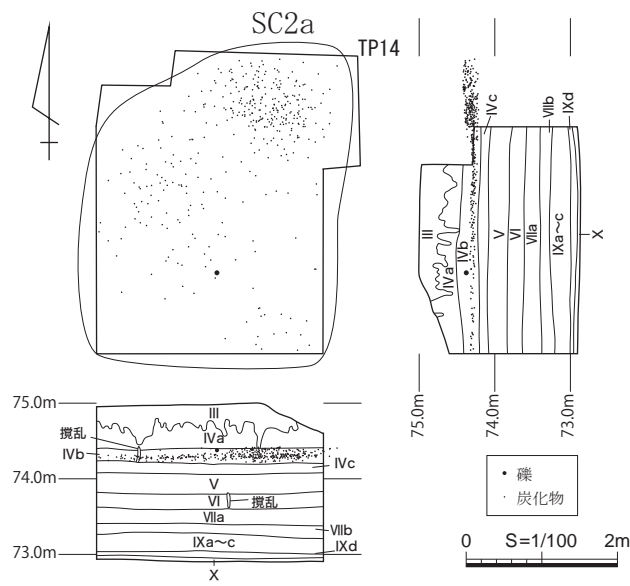
第26图 第IV層出土石器(1)



第27图 第IV层出土石器(2)



第 28 図 SR 3 礫群分布図

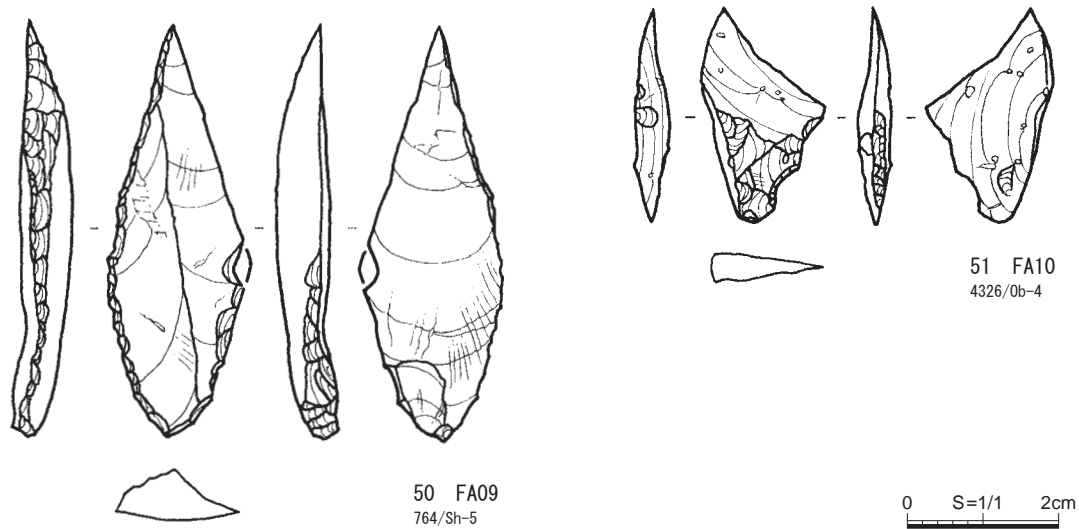


第 29 図 SC 2a 炭化物集中分布図

単独出土石器 (第 30 図 50・51、第 15 表、図版 57-1)

50は東側調査区 I-87グリッドの TP49で出土したナイフ形石器である。暗灰緑色の頁岩の石刃ないし縦長剥片を素材とし、左側縁と右側縁下半部に裏面から厚い角度の調整をまんべんなく加え、先端の鋭く尖った優美な器体を作る。裏面には基部のみに剥離が見られ、基部の厚みを減じるための加工と思われる。右側縁中央部に欠損が見られるが、ほぼ完形である。

51は東側調査区 L-61グリッドの TP97より出土したナイフ形石器で、淡褐色半透明の夾雑物の多い黒曜石の横長剥片を素材とし、右側縁下半部に細かい調整を施して切出し形の器体とする。裏面は未加工である。



第 30 図 第IV層出土石器 (3)

第 15 表 第IV層出土石器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	接合・備考
40 FJ02 26-40 55-1-40	5551	IV上	M-8	ST8	石核	An-2	8.03	10.58	4.77	534.7	5541, 5543, 5545 ~ 5549, 5555, 5556
41 FL18 26-41 55-1-41	5549	IV上	M-8	ST8	剥片	An-2	5.82	4.57	0.83	26.3	5541, 5543, 5545 ~ 5548, 5551, 5555, 5556
42 FL19 26-42 55-1-42	5543	III下	M-7	ST8	剥片	An-2	4.51	4.61	0.15	18.3	5541, 5545 ~ 5549, 5551, 5555, 5556
43 FL20 27-43 55-1-43	5548	IV上	M-8	ST8	調整剥片	An-2	3.23	2.27	0.96	7.1	5541, 5543, 5545 ~ 5547, 5549, 5551, 5555, 5556
44 FL21 27-44 56-1-44	5556	IV上	M-8	ST8	剥片	An-2	2.54	3.45	0.78	8.3	5541, 5543, 5545 ~ 5549, 5551, 5555
45 FL22 27-45 56-1-45	5546	IV上	M-7	ST8	剥片	An-2	3.21	3.03	1.12	10.1	5541, 5543, 5545, 5547 ~ 5549, 5551, 5555, 5556
46 FL23 27-46 55-1-46	5547	IV上	M-8	ST8	剥片	An-2	4.48	2.01	0.46	4.7	5541, 5543, 5545, 5546, 5548 ~ 5549, 5551, 5555, 5556
47 FL24 27-47 56-1-47	5541	III下	M-7	ST8	剥片	An-2	2.01	1.82	0.58	1.8	5543, 5545 ~ 5549, 5551, 5555, 5556
48 FL25 27-48 56-1-48	5545	IV上	M-7	ST8	剥片	An-2	2.44	3.47	0.56	4.2	5541, 5543, 5546 ~ 5549, 5551, 5555, 5556
49 FL26 27-49 56-1-49	5555	IV上	M-7	ST8	剥片	An-2	2.39	1.11	0.34	0.8	5541, 5543, 5545 ~ 5549, 5551, 5556
50 FA09 30-50 57-1-50	764	IV	I-87	TP49	ナイフ形石器	Sh-5	5.39	1.78	0.64	5.3	
51 FA10 30-51 57-1-51	4326	IV	L-61	TP97	ナイフ形石器	Ob-4	2.38	1.85	1.44	1.3	

4. 第V層

東側調査区K・L-78グリッドでST3石器集中、AD・AE-93グリッドでSC2b炭化物集中が出土した(第32図)。また、東側調査区AG-96よりナイフ形石器1点が単独出土した。

ST3石器集中(第33~35図、図版14-2・57-2)

東側調査区K・L-78グリッドのTP52で4点の石器を約2.2m×0.8mの範囲から検出した。石核1点と剥片3点で、安山岩の剥片2点以外は石質が異なる。少数ではあるが、まとまりのある分布状況から石器集中とした。

石核(第35図53、第14表、図版57-2-53)

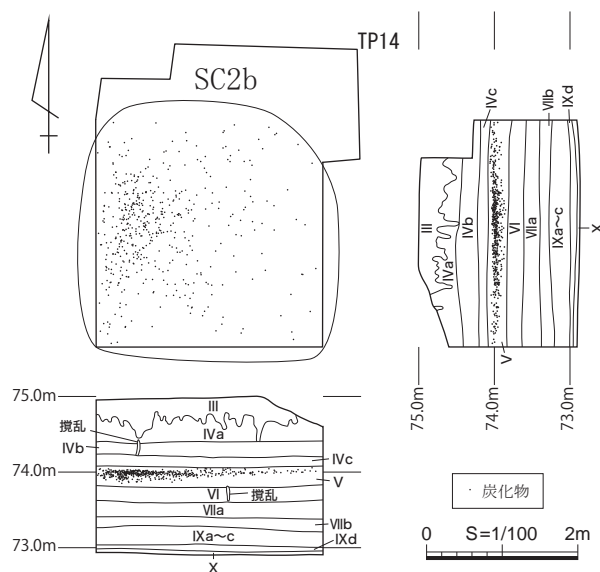
53は暗緑色半透明のチャート礫を素材とし、様々な方向から剥離を施した結果、不整な角錐状を呈する残核である。裏側には原礫面を大きく残す。

SC2b炭化物集中(第31図)

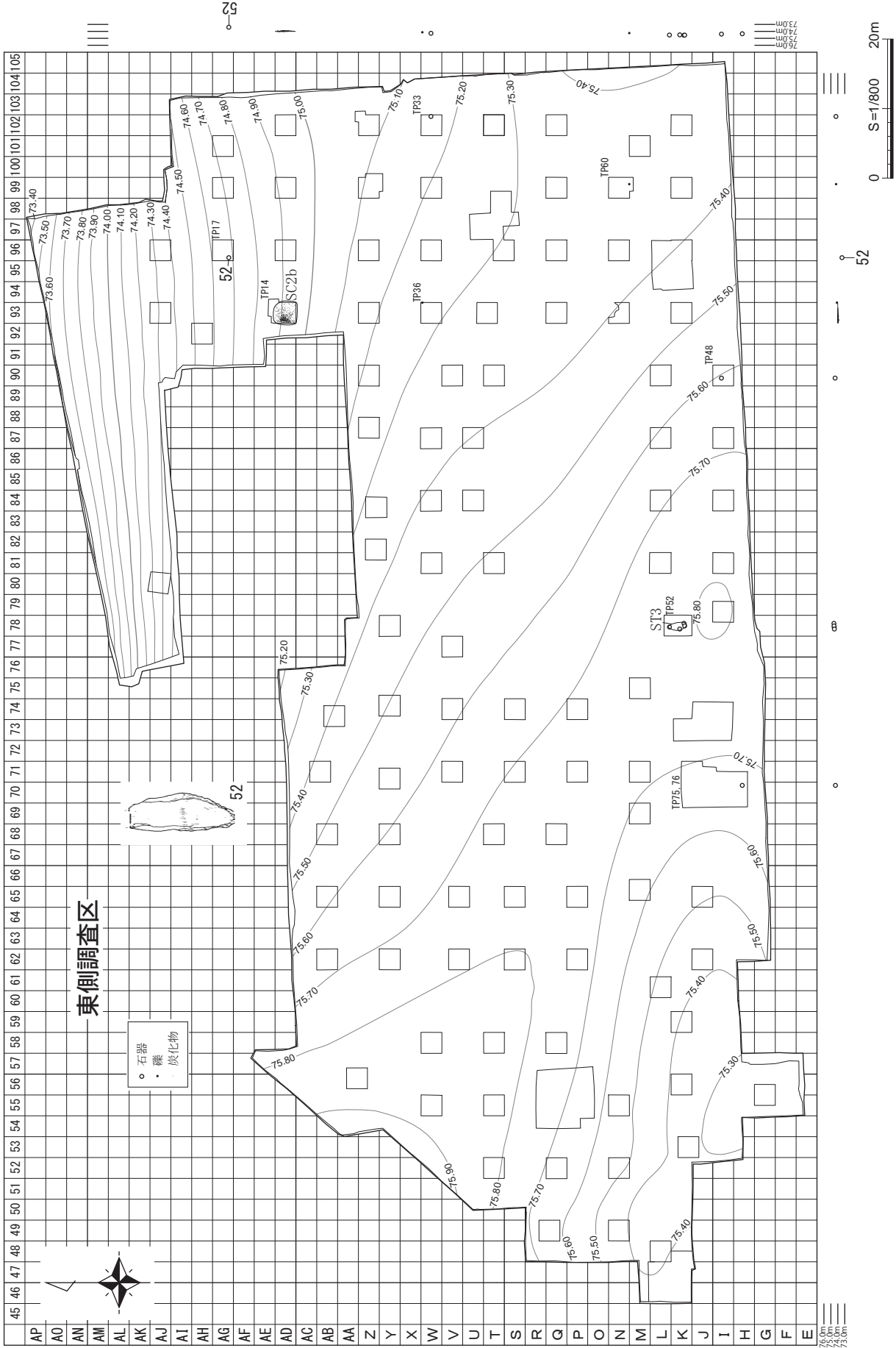
東側調査区AD・AE-93グリッドのTP14の西部を中心に出土した。約3m×3mの範囲を確認したが、分布状況を見る限り、西から南にかけて更に広がるものと思われる。垂直分布では第V層の中部から上部にかけて主体部が認められる。平面分布では前出の2a号炭化物集中と重複して見えるが、出土層位は隔絶している。

単独出土石器(第35図52、第16表、図版57-2-52)

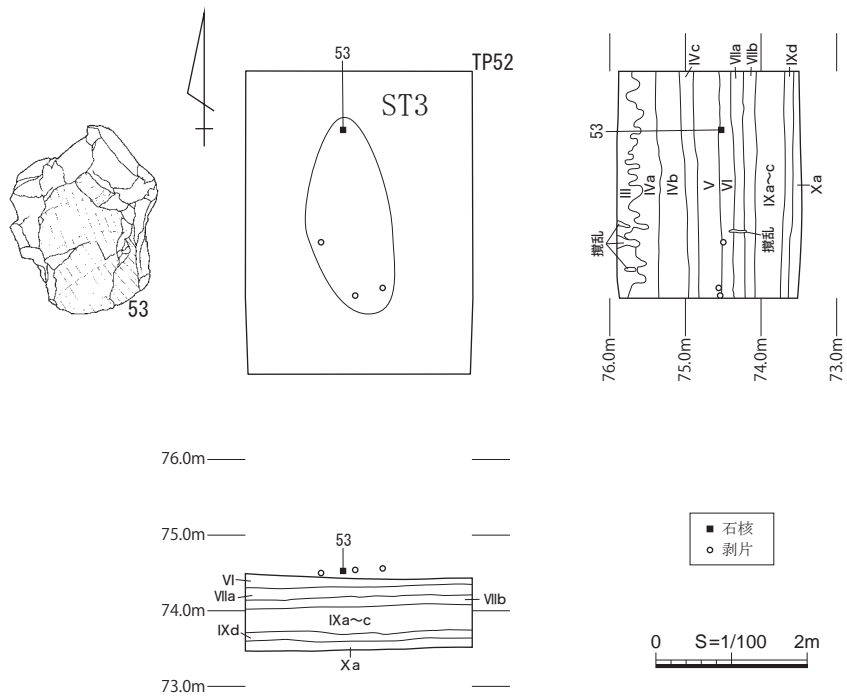
52は東側調査区AG-96グリッドのTP17より出土したナイフ形石器である。淡灰緑色の頁岩の石刃ないし縦長剥片を素材とし、左側縁下部と右側縁下半部に裏面から調整剥離を加えて成形する。左側縁には原礫面が残る。上部を欠損する。未成品と考えられる。



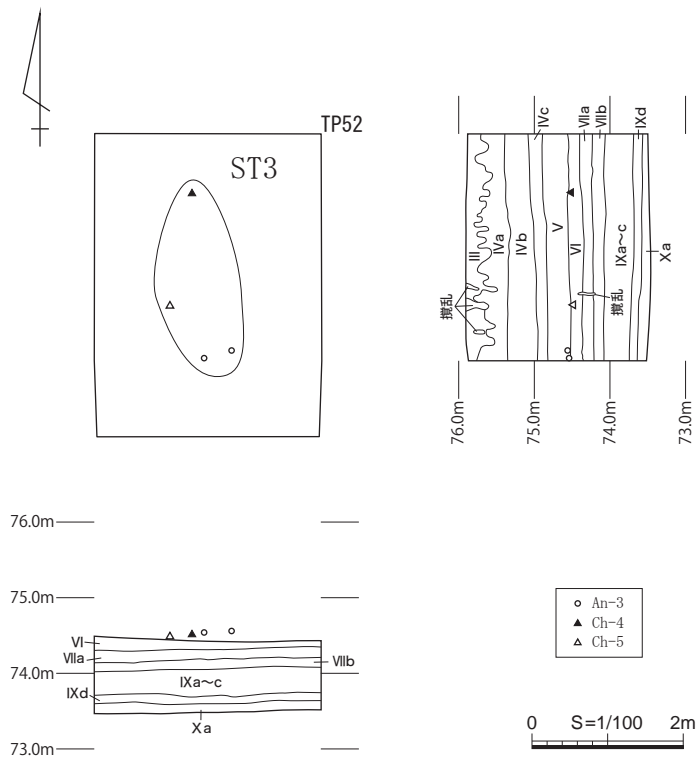
第31図 SC2b炭化物集中分布図



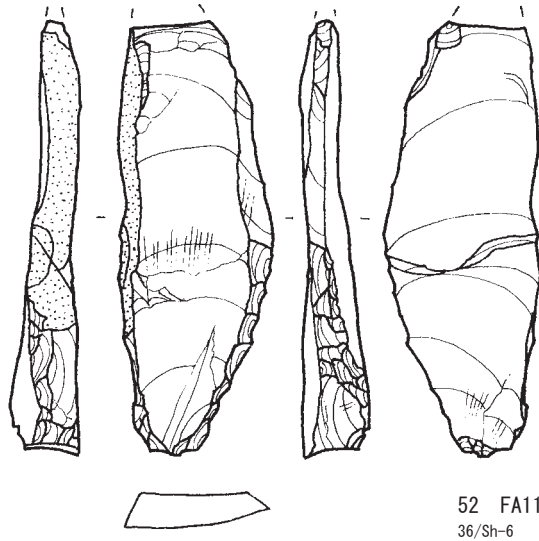
第 32 図 第 V 層遺物分布図 (東側調査区)



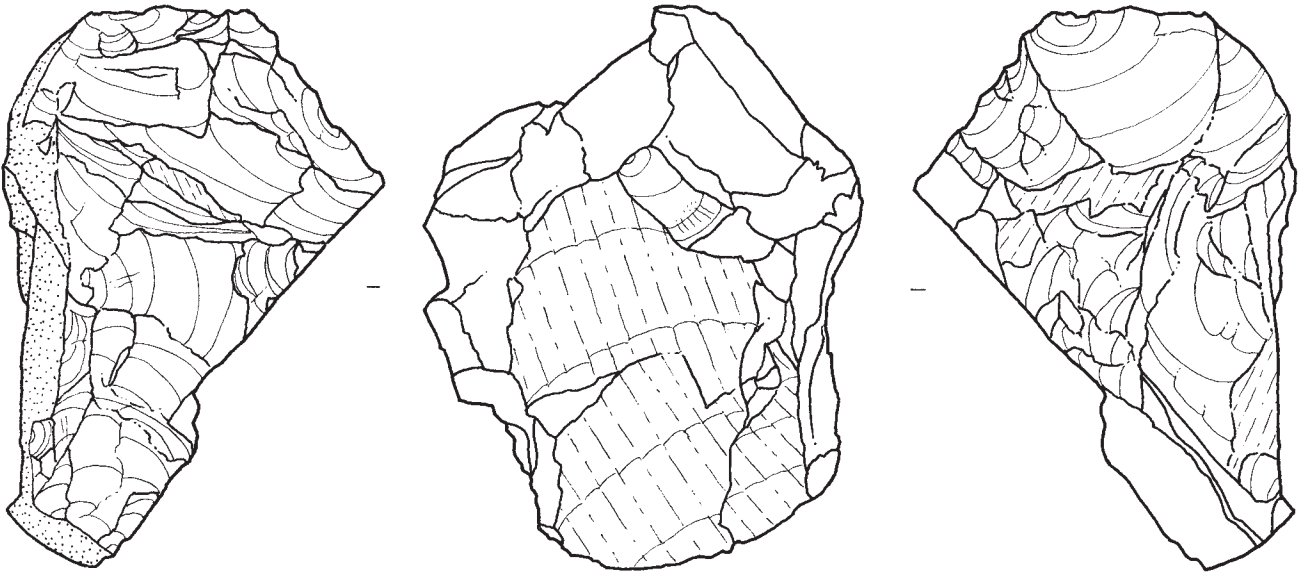
第 33 图 ST 3 石器集中種別分布图



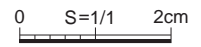
第 34 图 ST 3 石器集中石質別分布图



52 FA11
36/Sh-6



53 FJ03
787/Ch-4



第35図 第V層出土石器

第16表 第V層出土石器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	接合・備考
52 FA09 35-52 57-2-52	36	V	AG-96	TP17	ナイフ形石器	Sh-6	5.70	2.01	0.74	9.2	未成品
53 FJ03 35-53 57-2-53	787	V	L-78	ST3	石核	Ch-4	6.52	6.88	5.13	174.2	

5. 第VI層

東側調査区Y・Z-99・100グリッドでST1石器集中、AG-101グリッドでSC3炭化物集中、T・U-93グリッドでSC5炭化物集中が出土した（第36図）。

ST1石器集中（第37図、図版15-2・58-1）

東側調査区Y・Z-99・100グリッドのTP38の南東部で石核と敲石が各1点、近接して出土した。周囲に6点の焼礫を伴う。少数ではあるが、2点の近接した出土状況から石器集中と見なした。礫を含めると約2m×1.3mの範囲に分布し、層位は第VI層中部に属する。

石核（第40図54、第17表、図版58-1-54）

54は黒灰色の安山岩の円礫を打割して主要剥離面とし、これと垂直に打面を設定して剥片剥離を行った残核である。剥離方向は上下二方向で、裏側には大きく原礫面を残す。

敲石（第40図55、第17表、図版58-1-55）

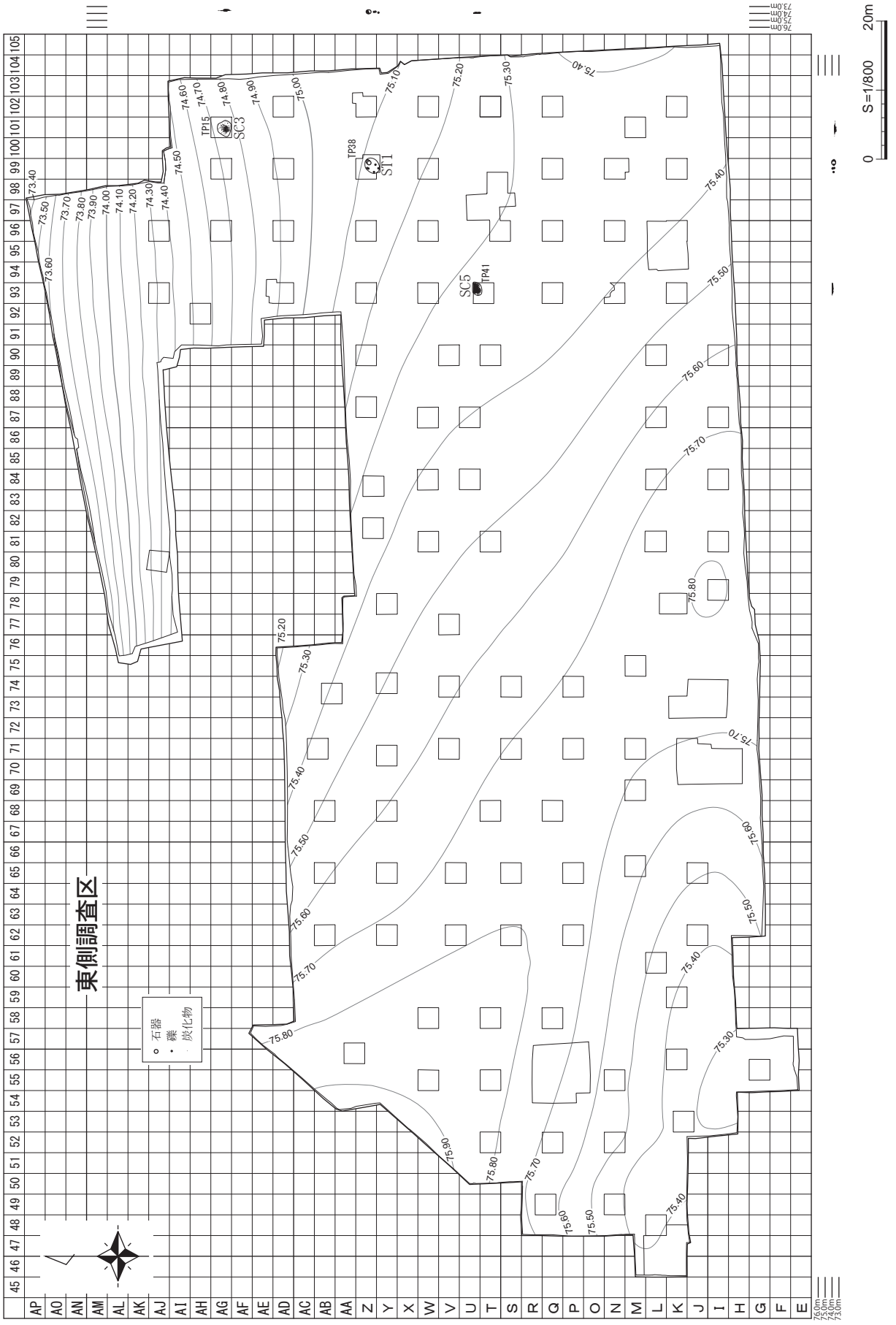
55は砂岩の細長い円礫を用い、一端から表裏両面に単発の剥離痕を帯びる。何度も使用した形跡はなく、近接する53の石核の剥片剥離に用いられたものであるか否かは不明である。

SC3炭化物集中（第38図、図版15-6）

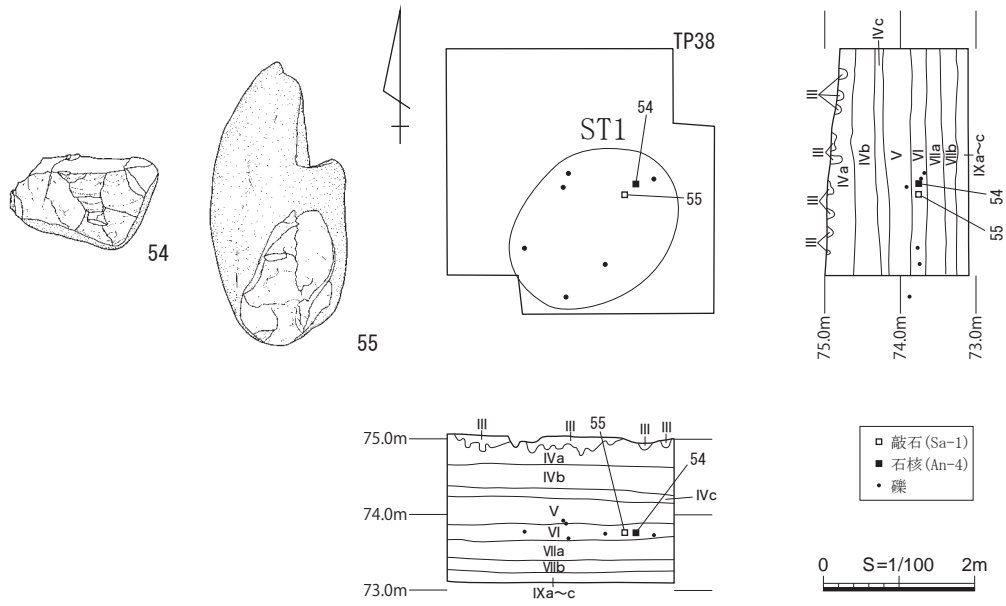
東側調査区AG-101グリッドのTP15の南側で出土した。約2m×2.2mの範囲に高い密度で分布する。垂直分布を見ると第V層下部から第VI層下部まで幅広く見られるが、主体は第VI層の上部と考えられる。

SC5炭化物集中（第39図、図版16-2）

東側調査区T・U-93グリッドのTP41の北東部より出土した。約1.1m×1.8mの範囲に濃密に分布する。平面分布は更に北へ広がるものと見られる。垂直分布では第VI層中部から第VII層上面まで広がっており、主体は第VI層下部と見られる。



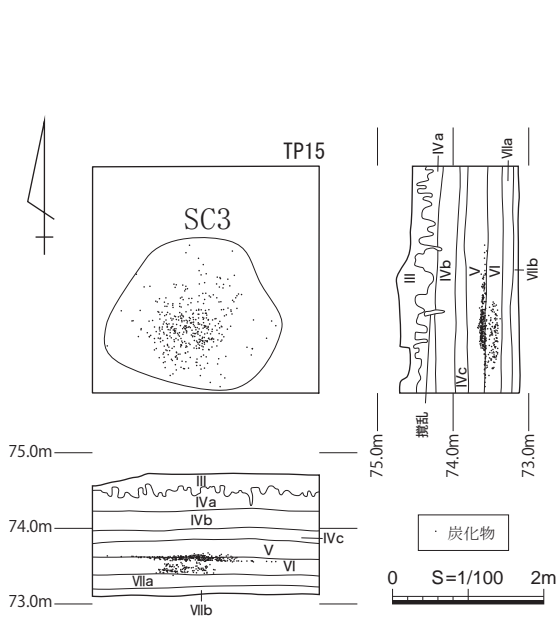
第 36 図 第 VI 層遺物分布図 (東側調査区)



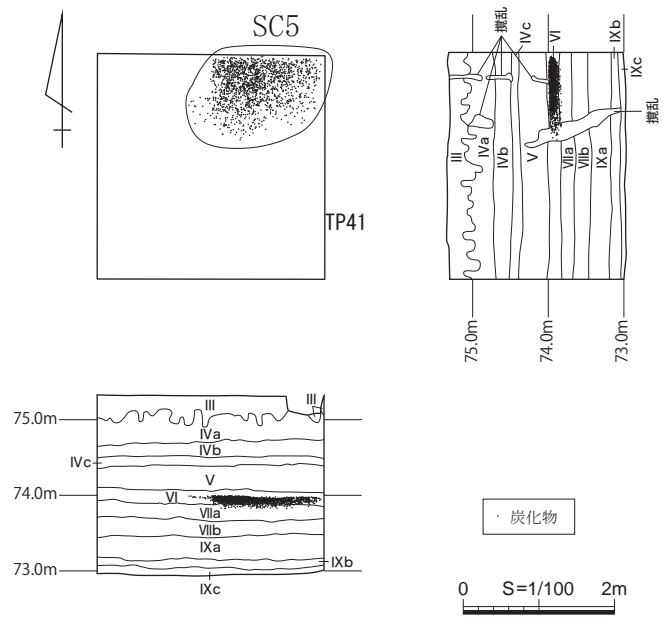
第 37 図 S T 1 石器集中器種別分布図

第 17 表 第VI層出土石器観察表

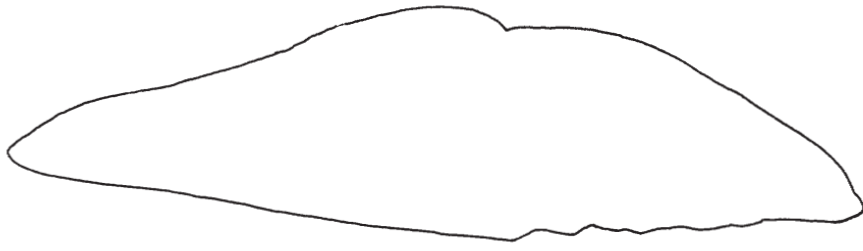
掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	接合・備考
54 FJ04 40-54 58-1-54	226	VI	Z-100	ST1	石核	An-4	3.91	5.96	5.29	136.9	
55 FN01 40-55 58-1-55	227	VI	Z-100	ST1	敲石	Sa-1	11.11	5.41	3.03	187.1	



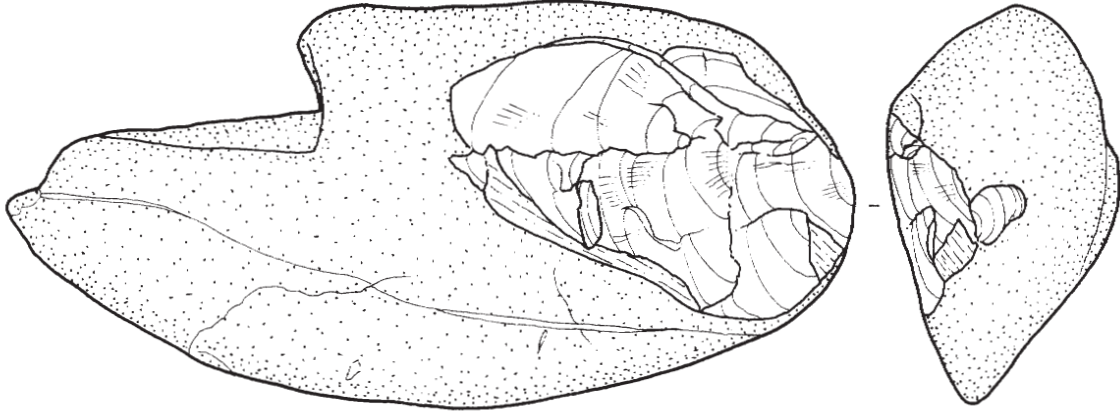
第 38 図 S C 3 炭化物集中分布図



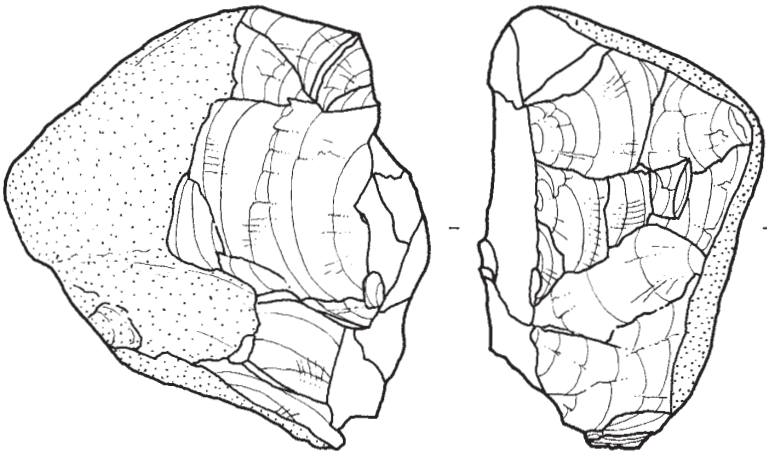
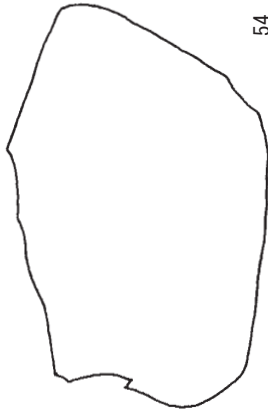
第 39 図 S C 5 炭化物集中分布図



55 FN01
227/S-1



54 FJ04
226/A1-4



第40図 第VI層出土石器

6. 第Ⅶ～第Ⅸ層

東側調査区S～U-97・98グリッドでST2石器集中、H～J-70～74グリッドでST4～6石器集中、またI-84グリッドでSC6炭化物集中、M-71グリッドでSC7炭化物集中が出土した(第41図)。石器集中群は第Ⅶ層から第Ⅸ層にまたがって分布するが、炭化物集中は主に第Ⅶ層に見られる。

ST2石器集中(第42図、図版16-6)

東側調査区S～U-97・98グリッドのTP43およびその西側から石器4点と焼礫6点が出土した。約4.4m×2.5mの範囲に散漫に分布する。出土層位は第Ⅶ層の上部から第Ⅸ層上部にわたる。石器はチャートの剥片1点および黒曜石の剥片2点とチップ1点で、少量であるが、焼礫と共にまとまりを認定し、石器集中と見なした。これら3点の黒曜石は今回の調査で唯一、神津島産と同定された資料である。

ST4～6石器集中(第43～46図、図版17-2・3・7・58-2・59-1)

東側調査区H～J-70～74グリッドのTP75、76、88より3箇所の石器集中が出土した。これら近接した試掘坑の間の様相は未調査のため不明であるが、いずれの集中にも共通母岩(OB-8・9)の石器が認められ、また出土層位も第Ⅶ層下部から第Ⅸ層中部とほぼ同じため、実質はすべて同一の石器集中と見なす事ができるかもしれない。あるいは6号と別に、4号と5号を内包しOB-8を主体石材とする広範かつ散漫な集中単位が存在し、その東部が6号と重複しているものとも考えられる。いずれにせよこれらの石器集中は、時間的に近似または同時に残された可能性が高い。

6号は集中密度が比較的高く、器種も多彩で剥片類が多く、接合資料も含まれることから、石器製作址と思われる。4号・5号も点数こそ少ないが、ほぼ単一石材から成るところから製作址と考えて大過ないであろう。いずれの集中も少量の焼礫を伴い、6号では一部の礫が接合する。

出土石器はナイフ形石器を主とし、鋸歯縁石器や搔器がこれに加わる。石材は大半を3種の粗質な黒曜石が占めるが、産地同定ではいずれも畑宿の産とされる。

ナイフ形石器(第45図56・58～64、第18表、図版58-2-56・58～60・59-1-63・64)

56は横断面が台形を呈する粗質な黒曜石の不定形剥片を素材とし、右側縁下半部に角度の厚い調整を施す。ナイフ形石器の未成品と思われるが、あるいは搔器の未成品かもしれない。

58は粗質な黒曜石の縦長剥片を素材とし、右側縁に調整を加えたもの。上部を欠損する。左側縁下部が未調整であり、欠損によって製作を中断したものかもしれない。

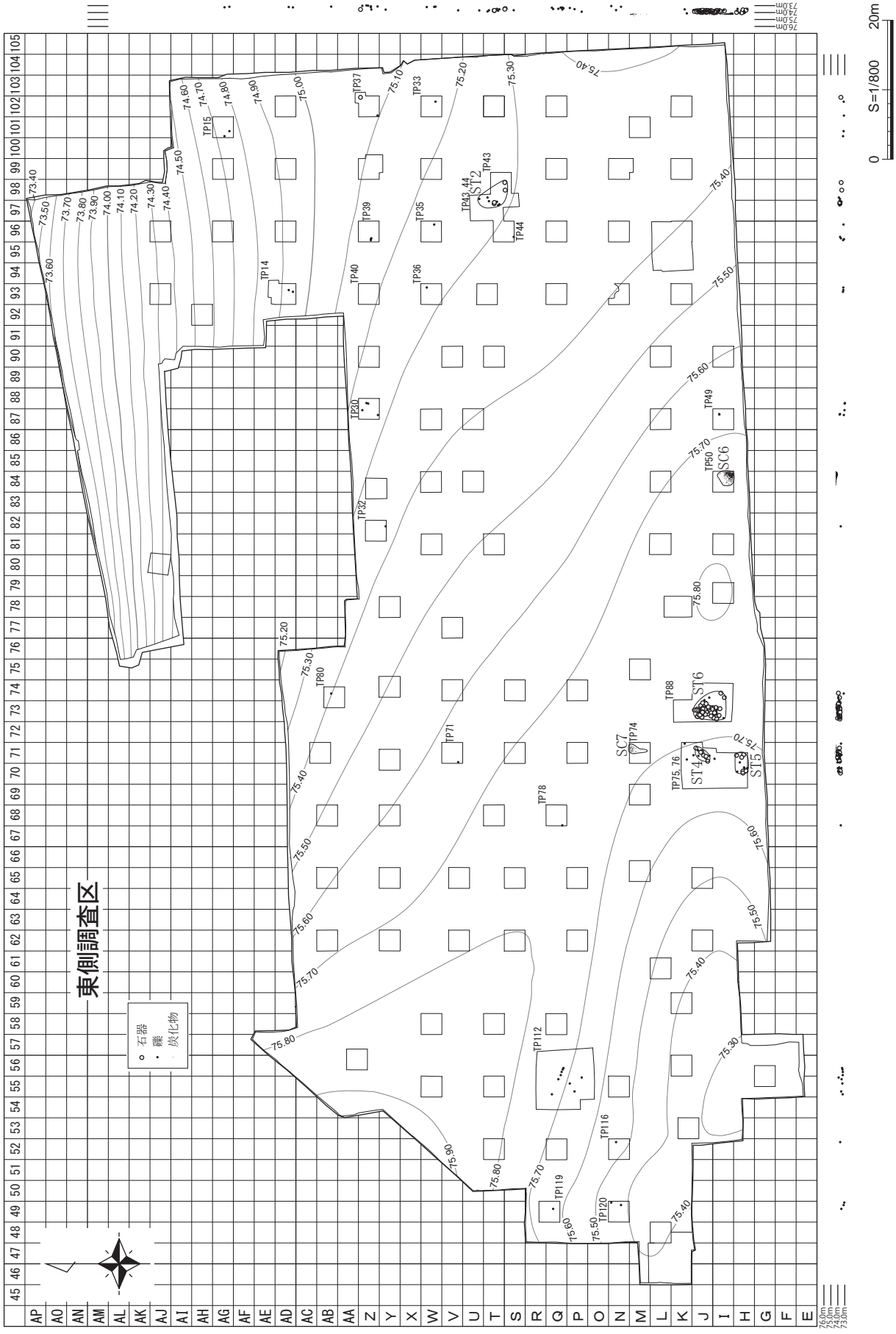
59は粗質な黒曜石の小振りな縦長剥片を用い、右側縁上半部には裏面から、下半部には表面から調整を加えた小型品である。

60は半透明・白灰色のチャートの縦長剥片を素材とし、右側縁全体に裏面から厚みのある調整を施して成形した完形品である。鋭い先端部を造り出し、左右対称な優美な形態をもつ。

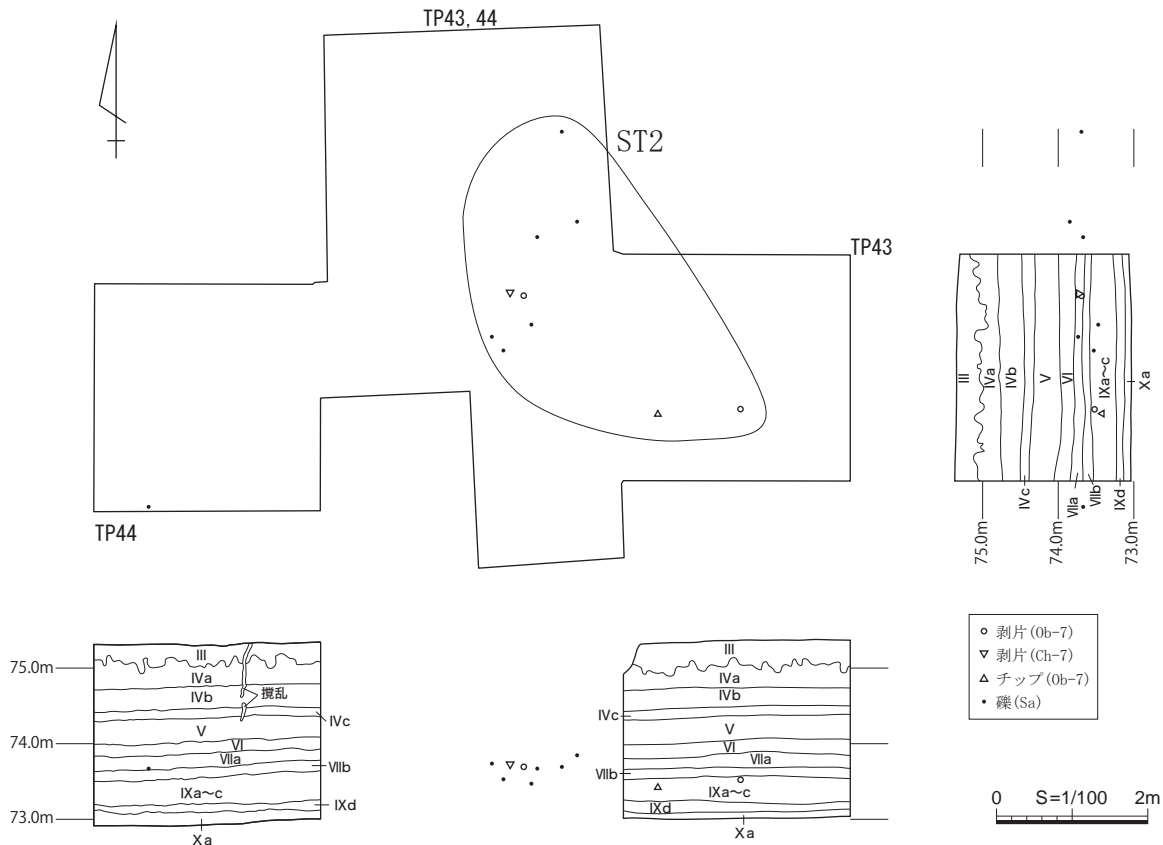
61は漆黒の黒曜石の縦長剥片を素材とし、左側縁全体と右側縁下部に角度の厚い調整を加えたものである。基部の素材打面に微調整が施されるが、これは左側縁の調整後に加えたもので、基部の厚みを減じるための剥離に先んじた打面調整と考えられる。その後、基部からの剥離は試行され、微少な剥離痕を残すが、成功せずに終わっている。

62は粗質な黒曜石の縦長剥片を用い、左側縁に厚い角度の調整を施している。上半部を欠損する。裏面基部の複数の剥離は打点が共通しており、すべて素材の剥片剥離時に生じたものである。

63はやや粗質の黒曜石の横長剥片を素材とし、右側縁に裏面から、上部には表面から調整を加えている。右側縁の剥離は80°～90°と特に角度が大きい。本資料は左側縁上部に鋭いエッジを残すためナ



第41図 第Ⅶ～Ⅸ層遺物分布図（東側調査区）



第 42 図 ST2 石器集中器種別分布図

イフ形石器としたが、小型搔器の未成品かもしれない。左側縁中央に見られる細かい調整は、素材剥離前の打面調整と見られる。

64は63と同じ黒曜石の縦長剥片を素材とし、右側縁に70°～95°の厚い剥離を加えて成形したもので、下半部を欠損する。

鋸歯縁石器 (第 45 図 57、第 18 表、図版 58 - 2 - 57)

57は厚みのある粗質な黒曜石の縦長剥片を用い、右側縁下半部に裏面へ向けて数回の剥離を施し、鋸歯状の刃部を作出したものである。不定形であるが、手に持つと指に馴染む石器である。

搔器 (第 45 図 65、第 18 表、図版 59 - 1 - 65)

65は粗質な黒曜石の不定形剥片を素材とし、一端に厚い角度の調整を加えて刃部となすものである。刃部が不整形であることから、未成品と考えられる。

石核 (第 46 図 66、第 18 表、図版 59 - 1 - 66)

66は漆黒の黒曜石を用いた両極の石核で、表面と裏面では剥離方向が逆転する。右側縁で67の小剥片と接合する。

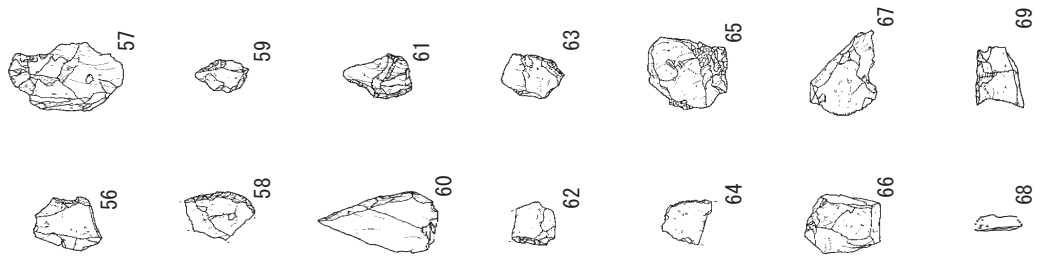
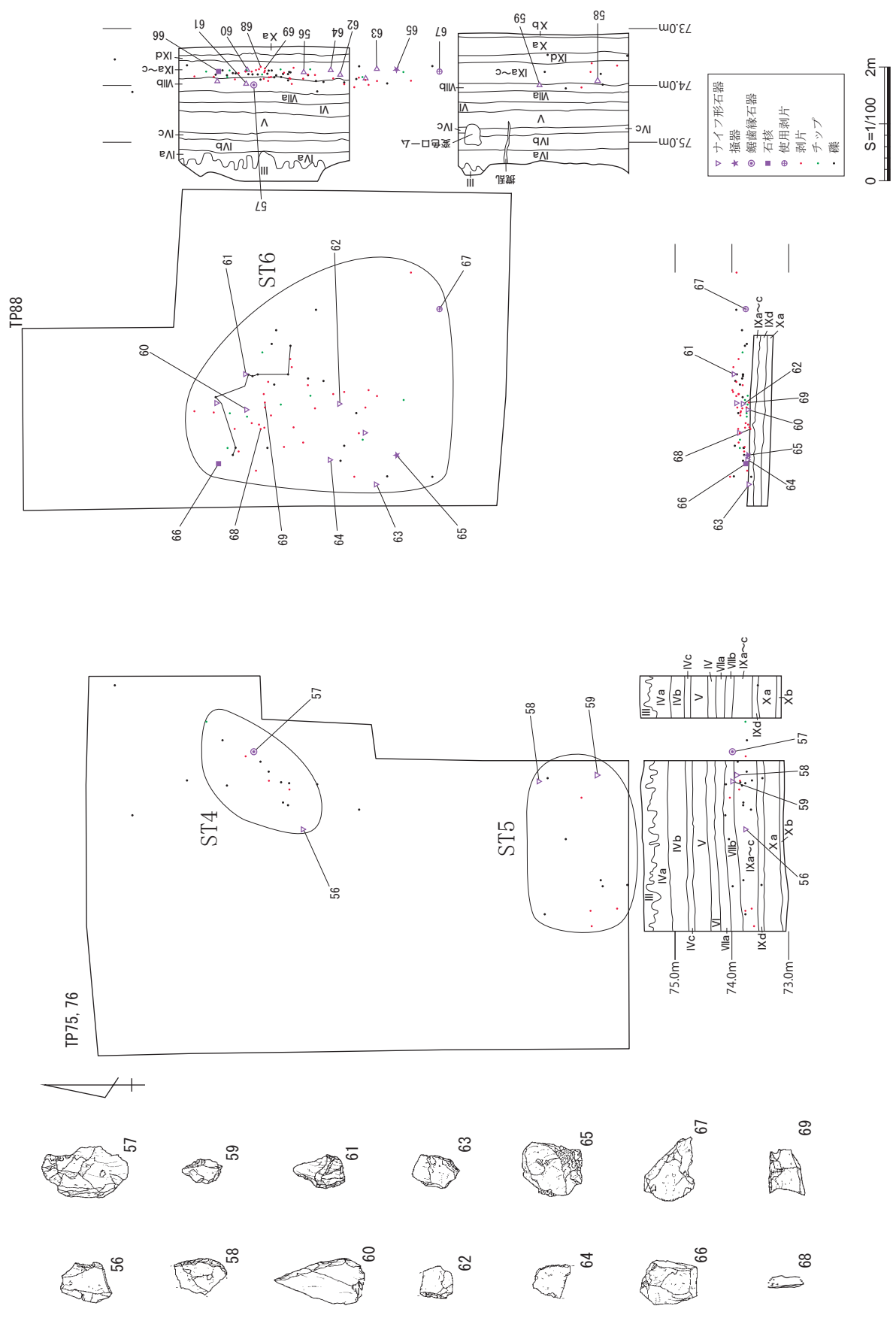
使用剥片 (第 46 図 67、第 18 表、図版 59 - 1 - 67)

67は粗質な黒曜石の不定形剥片で、弧を描く鋭い左側縁の中央部に連続した微細な剥離痕を帯びる。これらの剥離痕はすべて裏面から表面に向かったもので、力のかかった方向を示す。

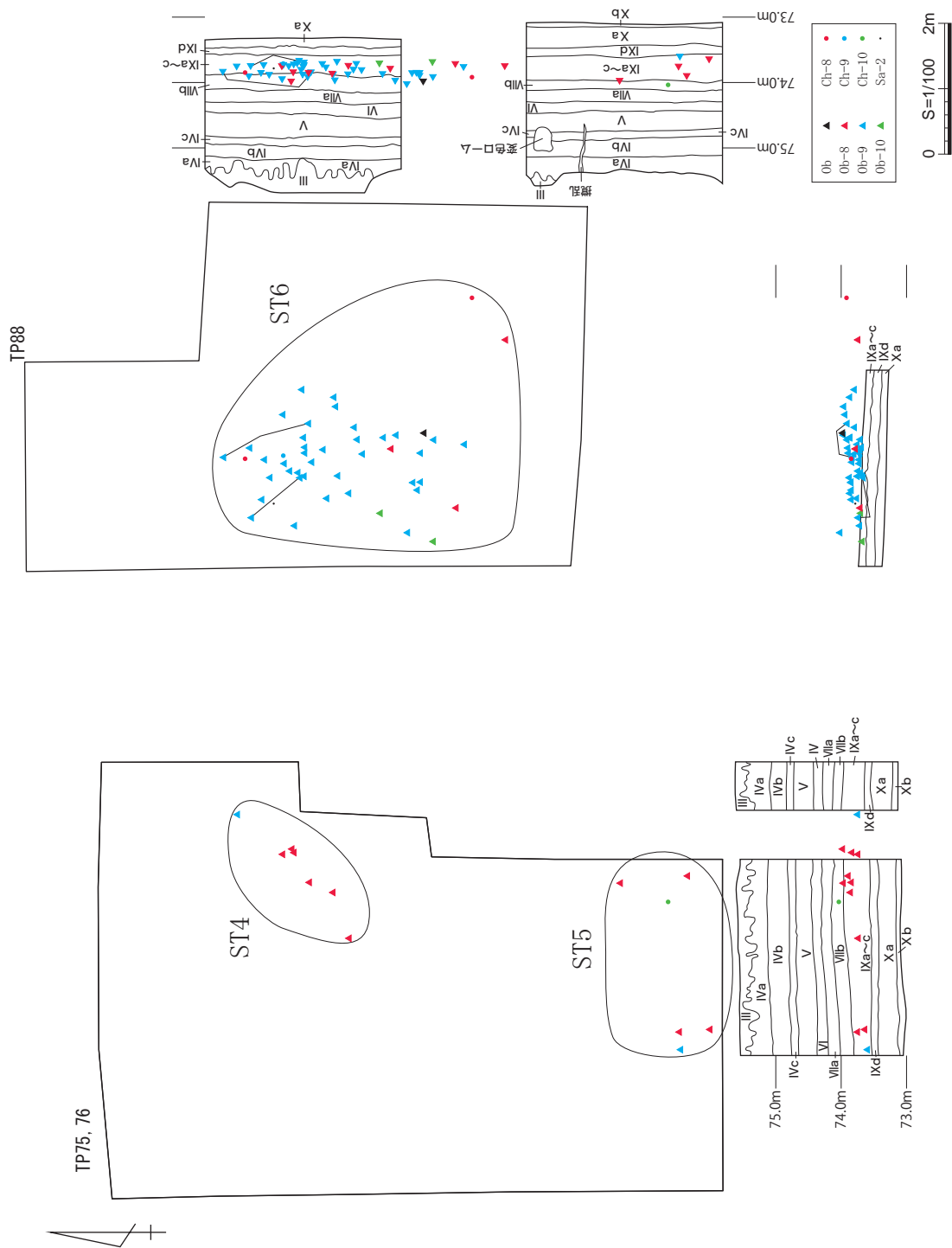
剥片 (第 46 図 68・69、第 18 表、図版 59 - 1 - 68・69)

68は漆黒の黒曜石の縦長剥片で、66の石核と接合する。

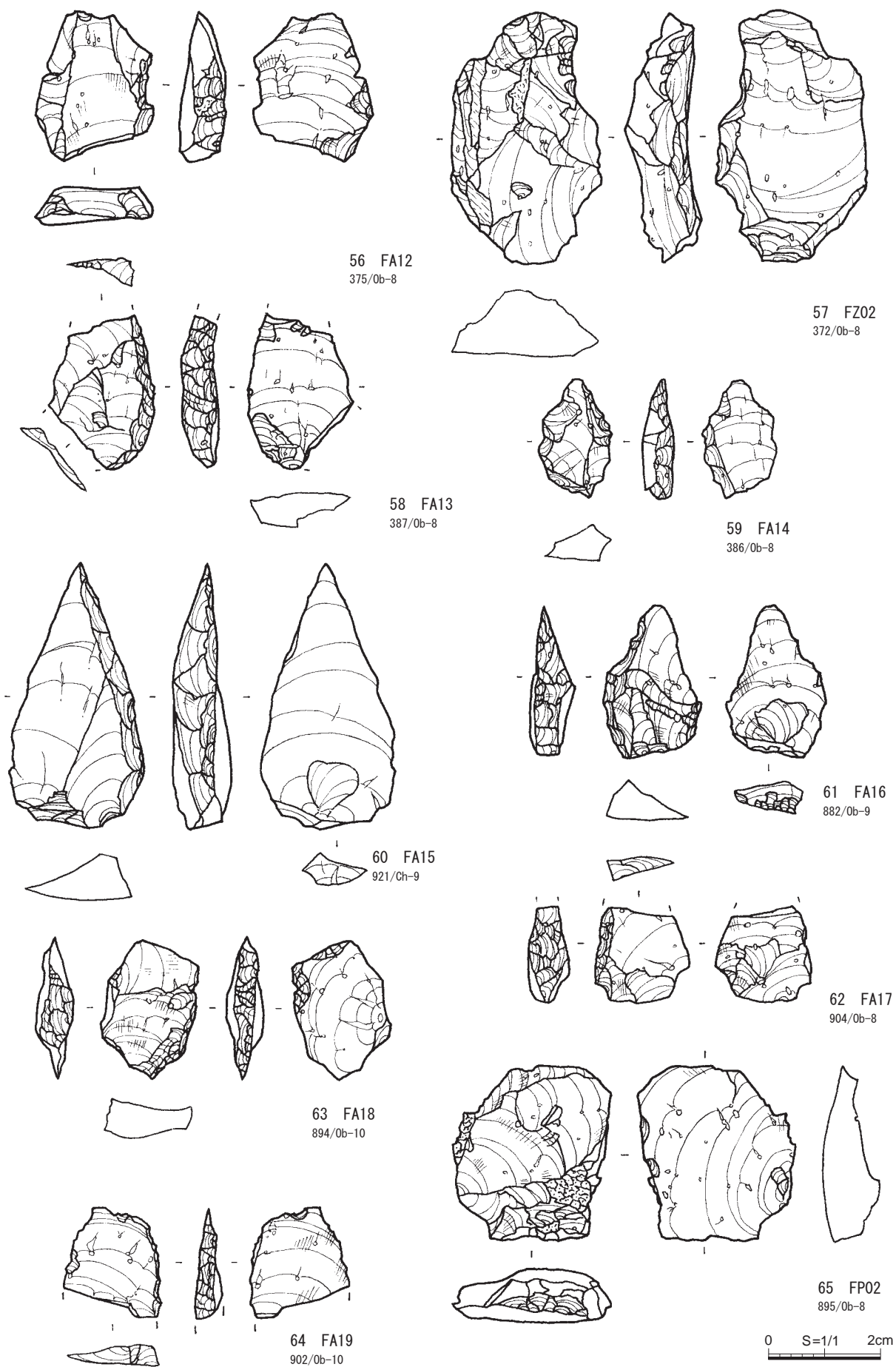
69も68と同じ黒曜石の横長剥片である。打面の剥離痕は剥片が剥離される前の打面調整である。



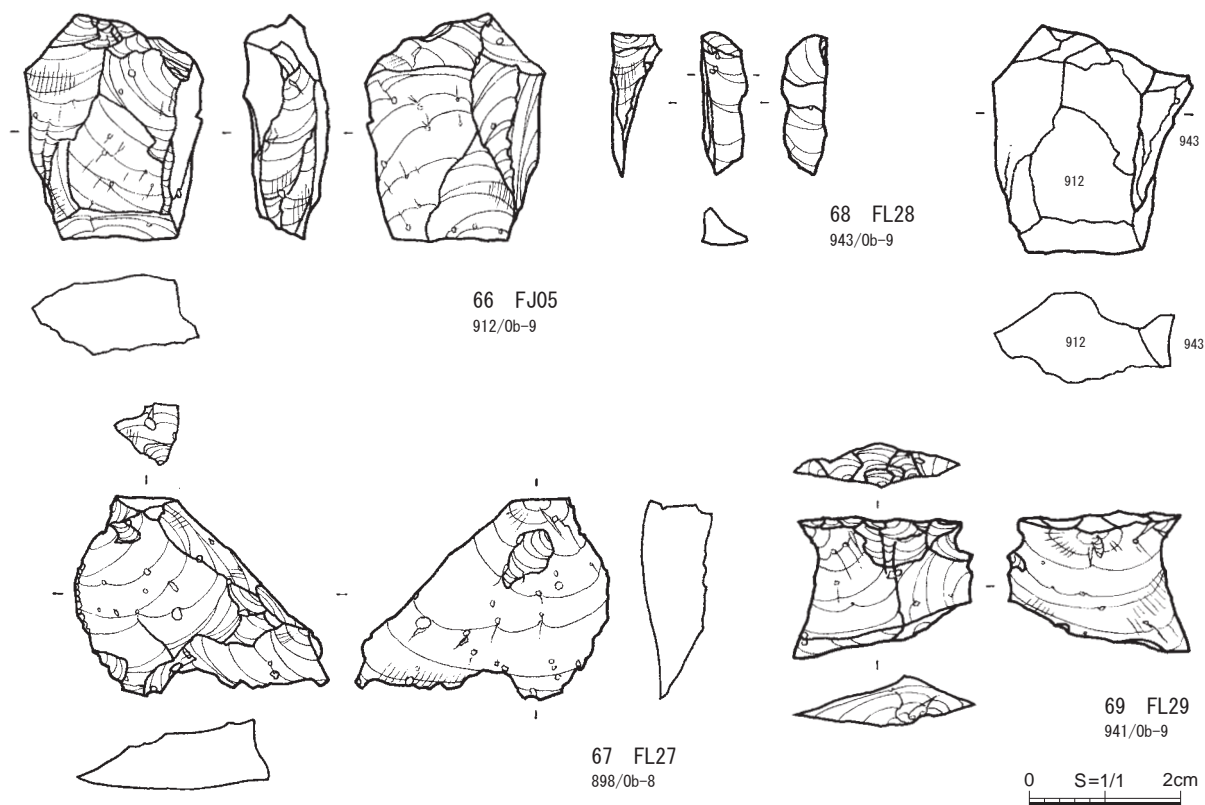
第43図 ST4～6石器集中器種別分布図



第44图 ST4~6石器集中石質別分布図



第 45 图 第七~第九层出土石器 (1)



第46図 第VII～第IX層出土石器(2)

第18表 第VII～第IX層出土石器観察表

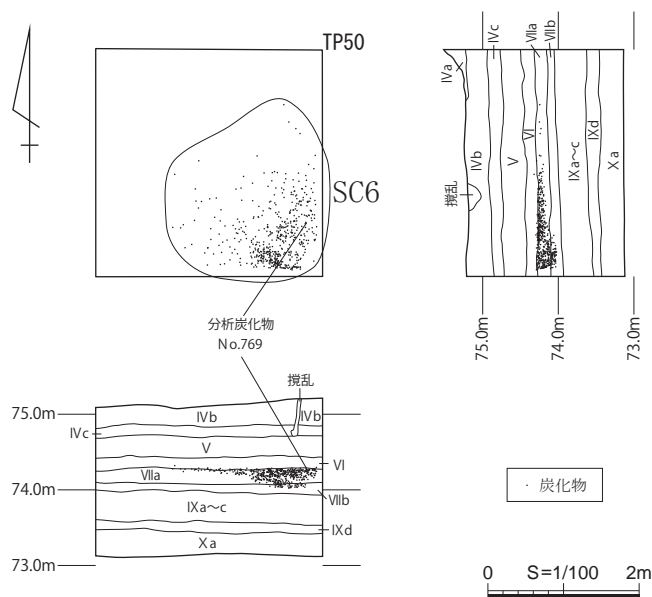
掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	接合・備考
56 FA12 45-56 58-2-56	375	IX	J-71	ST4	ナイフ形石器	Ob-8	2.65	2.15	0.65	3.9	未成品
57 FZ02 45-57 58-2-57	372	VII	J-71	ST4	鋸歯縁石器	Ob-8	4.50	2.68	1.14	13.0	
58 FA13 45-58 58-2-58	387	VII	H-71	ST5	ナイフ形石器	Ob-8	1.92	2.63	0.68	3.2	
59 FA14 45-59 58-2-59	386	VII	H-71	ST5	ナイフ形石器	Ob-8	2.08	1.28	0.58	1.4	
60 FA15 45-60 58-2-60	921	IX	J-73	ST6	ナイフ形石器	Ch-9	4.67	2.40	1.02	1.6	
61 FA16 45-61 58-2-61	882	VII	J-73	ST6	ナイフ形石器	Ob-9	2.68	1.74	0.81	2.8	
62 FA17 45-62 58-2-62	904	IX	J-73	ST6	ナイフ形石器	Ob-8	1.79	1.65	0.72	2.0	下部破片
63 FA18 45-63 59-1-63	894	IX	I-73	ST6	ナイフ形石器	Ob-10	2.45	1.74	0.60	2.2	未成品
64 FA19 45-64 59-1-64	902	IX	J-73	ST6	ナイフ形石器	Ob-10	1.83	1.79	0.39	1.1	未成品
65 FP02 45-65 59-1-65	895	IX	I-73	ST6	搔器	Ob-8	3.12	2.77	0.95	7.7	未成品
66 FJ05 46-66 59-1-66	912	IX	J-73	ST6	石核	Ob-9	2.83	3.10	1.06	8.2	943
67 FL27 46-67 59-1-67	898	IX	I-74	ST6	使用剥片	Ob-8	2.66	3.20	0.88	5.8	
68 FL28 46-68 59-1-68	943	IX	J-73	ST6	剥片	Ob-9	1.81	0.77	0.50	0.5	912
69 FL29 46-69 59-1-69	941	IX	J-73	ST6	剥片	Ob-9	1.86	2.28	0.75	2.6	

SC6炭化物集中 (第47図、図版18-3)

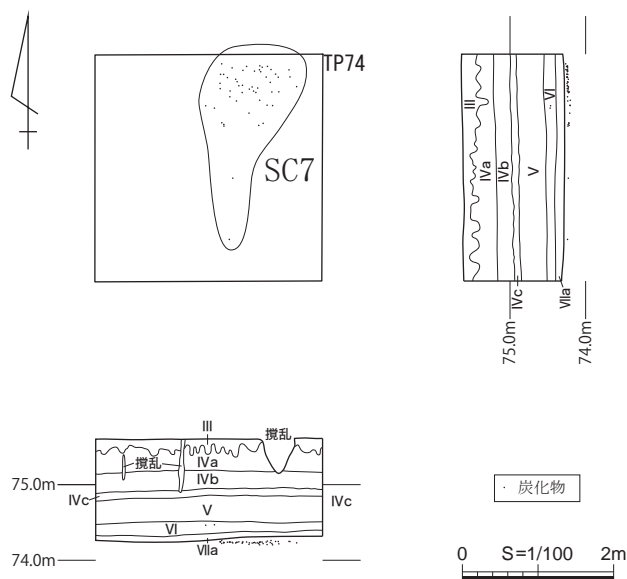
東側調査区I-84グリッドのTP50南東部で出土した。2m×2m程の範囲であるが、南東部の集中密度が濃く、更に東と南の未調査部分に広がるものと思われる。垂直分布は第VII層上辺から下部にかけて広く分布するが、中心は第VII層上部と思われる。密度の高い部分が下に膨らむような分布形態を見せる事から、土坑を伴う可能性が示唆できよう。焼礫等は伴わない。

SC7炭化物集中 (第48図、図版18-7)

東側調査区M-71グリッドのTP74の北東部より出土した。ほぼ1.5m四方の範囲に疎らに分布するもので、更に北の未調査部分に広がる様相である。垂直方向では第VII層上部に平坦な分布を見せる。焼礫等を伴わない。



第47図 SC6炭化物集中分布図



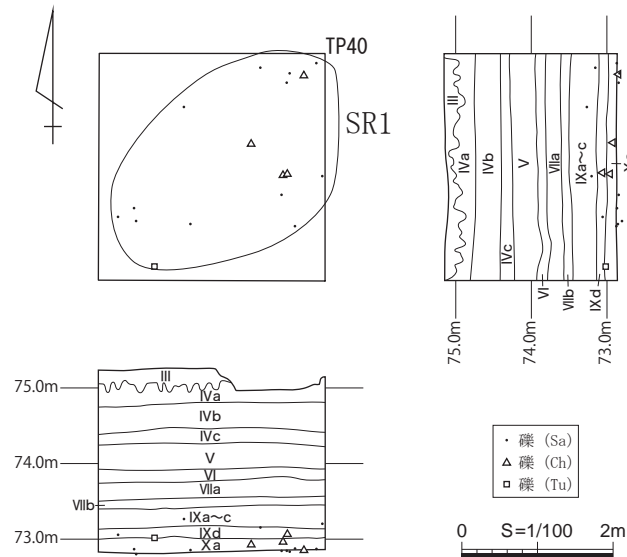
第48図 SC7炭化物集中分布図

7. 第IX～第X層

東側調査区Z-93グリッドのTP40でSR1礫群が出土した(第50図)。

SR1礫群(第49図)

東側調査区Z-93グリッドのTP40で17点の礫が散漫に出土した。出土層位は第IX層中央部～第X層中央部で、主体は第X層上部にあるものと思われる。平面分布から見て、より東部などに範囲が広がるものと想定される。構成礫は砂岩が71%、チャートが24%で破損度はやや低く、他層位の礫群の組成と大差ない。被熱痕跡は皆無である。礫群内部での接合は見られない。



第49図 SR1礫群出土遺物分布図

8. 第X層

東側調査区I-84グリッドのTP50でSR2礫群が、Z-87・88グリッドのTP30でSC4炭化物集中が出土した(第51図)。また東側調査区O~R-54~57グリッドのTP112では単独の石器が1点出土している(第54図)。

SR2礫群(第52図)

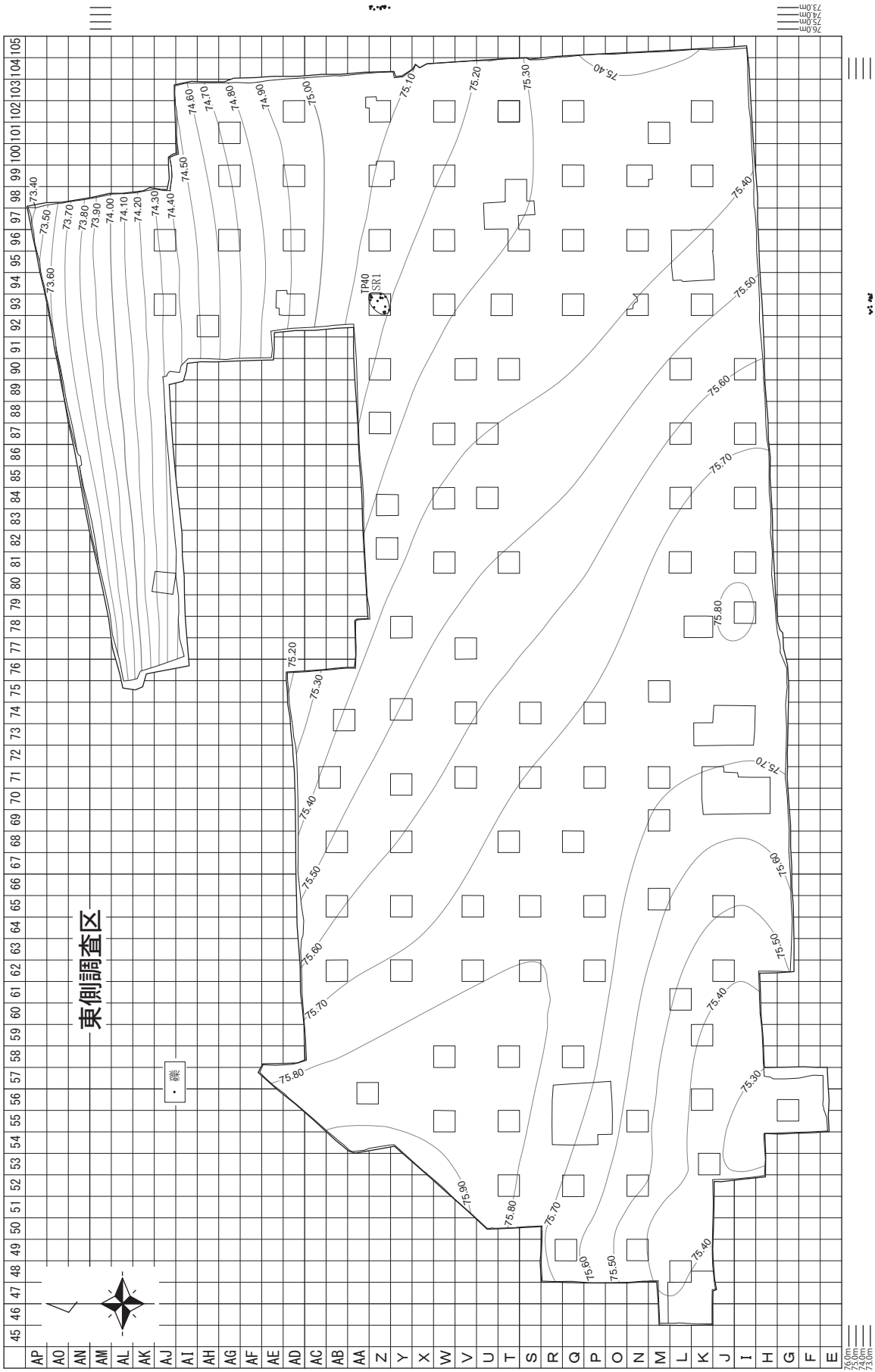
東側調査区I-84グリッドのTP50で7点の礫が散漫に出土した。第X層中部に属すると思われるが、更に下位に分布の広がる可能性がある。7点とも砂岩で破損度は低く、被熱の痕跡はない。接合関係は見られない。

SC4炭化物集中(第53図、図版19-3)

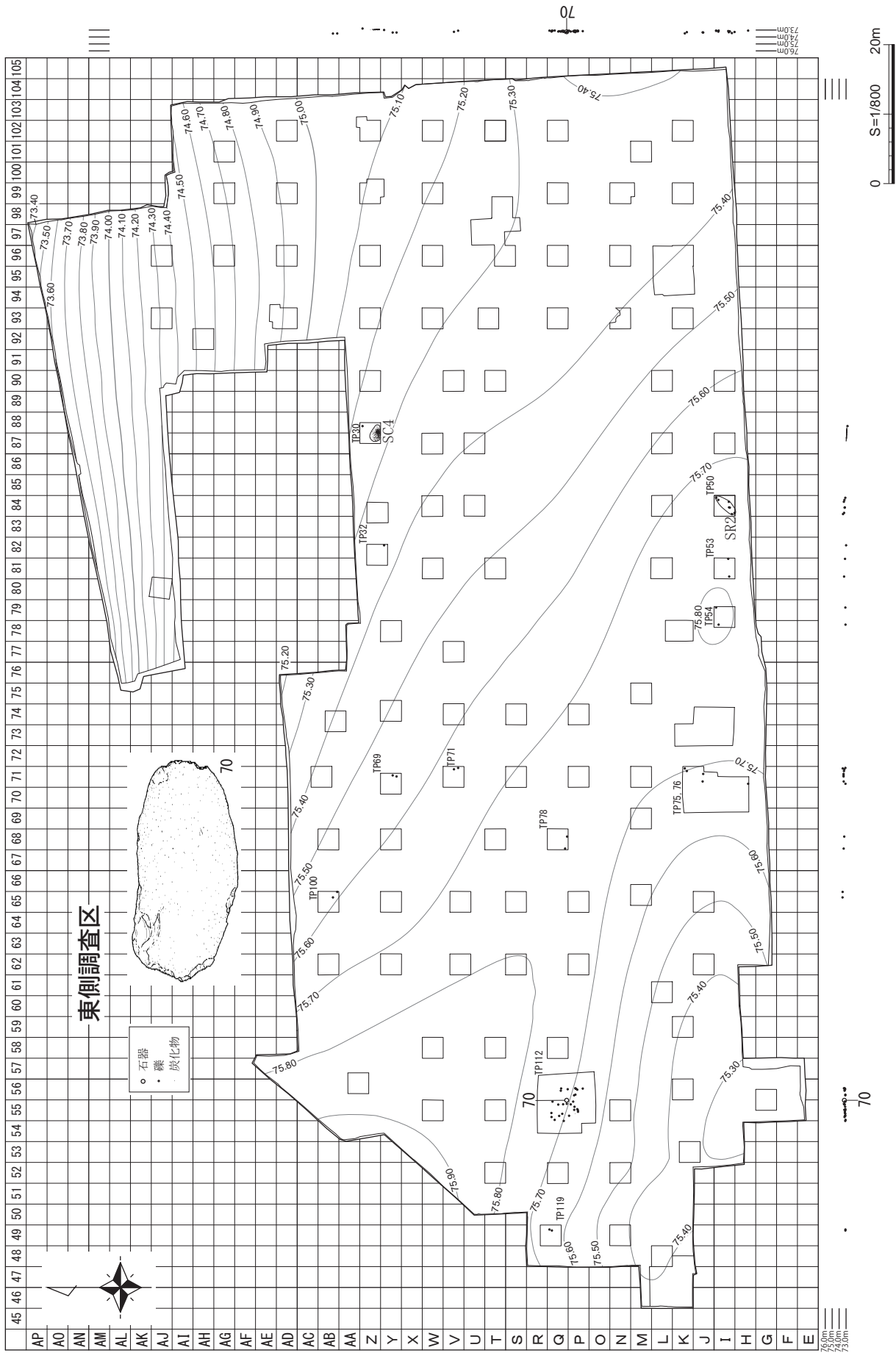
東側調査区Z-87・88グリッドのTP30南部で検出された。分布密度が高く、更に南へ広がる様相である。第X層上部に属し、垂直方向にまとまった分布を示す。東に向かってやや下る傾斜を見せるが、当時の微地形であろうか。周囲に5点の砂岩の焼礫が見られ、層位はやや高いが、供伴する可能性もある。

単独出土石器(第55図70、第19表、図版19-8・59-2-70)

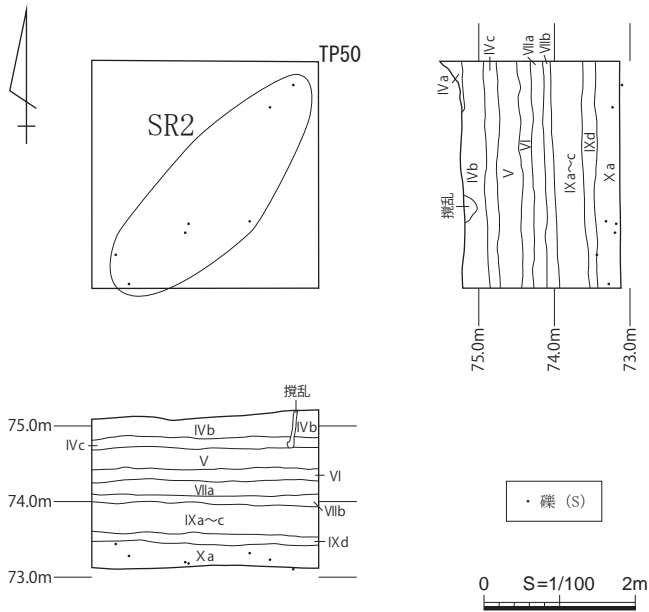
70は暗灰色の安山岩の大ぶりの横長剥片である。裏面は原礫面である。周縁の数カ所に刃こぼれ状の小剥離痕が見られるため、使用剥片とした。第X層上部で出土した。周囲には小型の自然礫、所謂「イモ石」が散漫に分布する。本資料は手に持って使うには手頃な大きさと重さである。



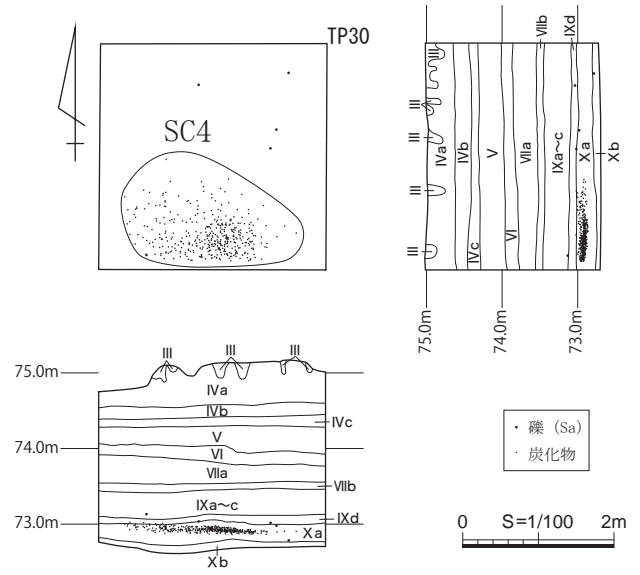
第50図 第IX層～第X層遺物分布図（東側調査区）



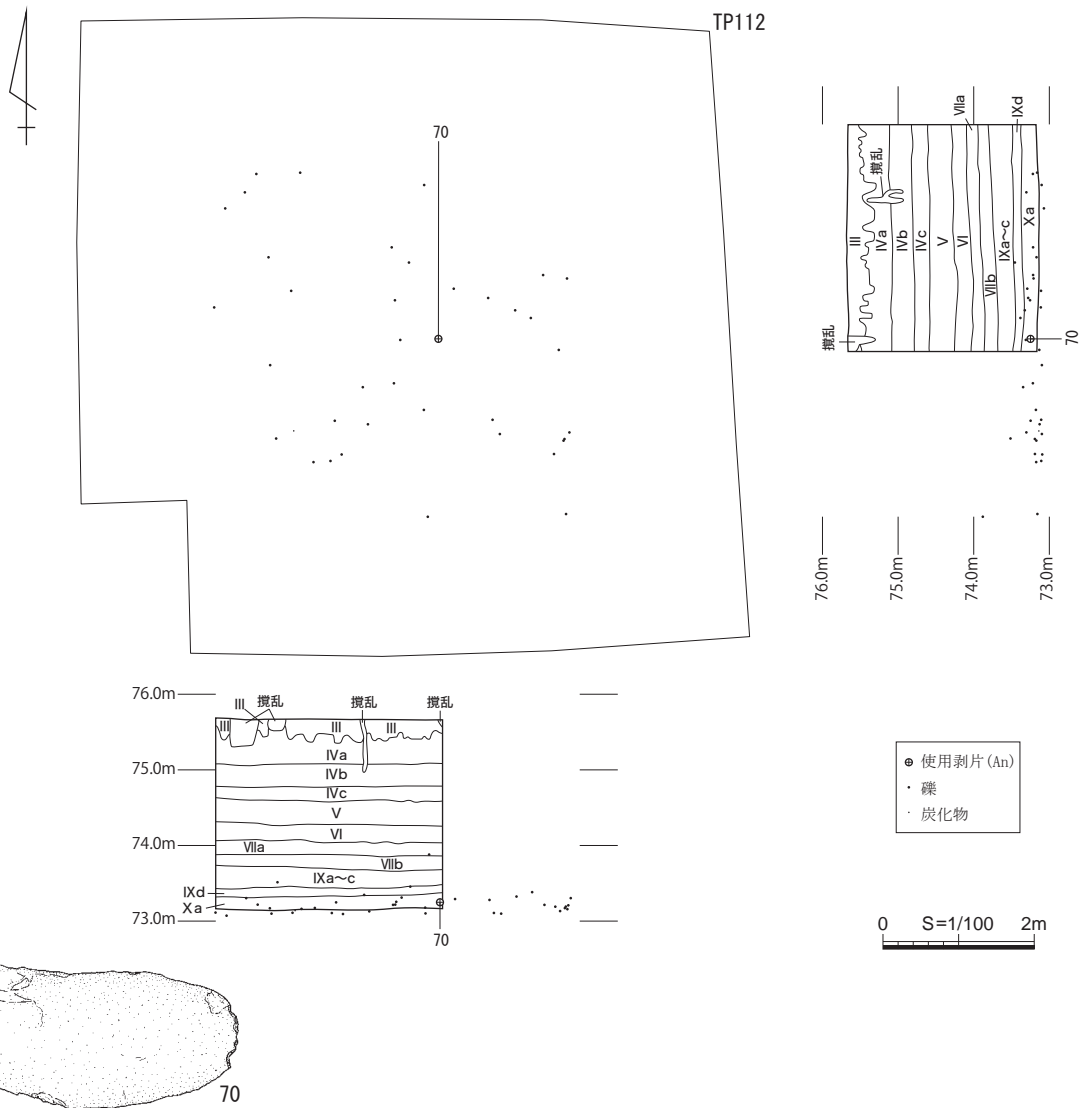
第51图 第X層遺物分布图 (東側調査区)



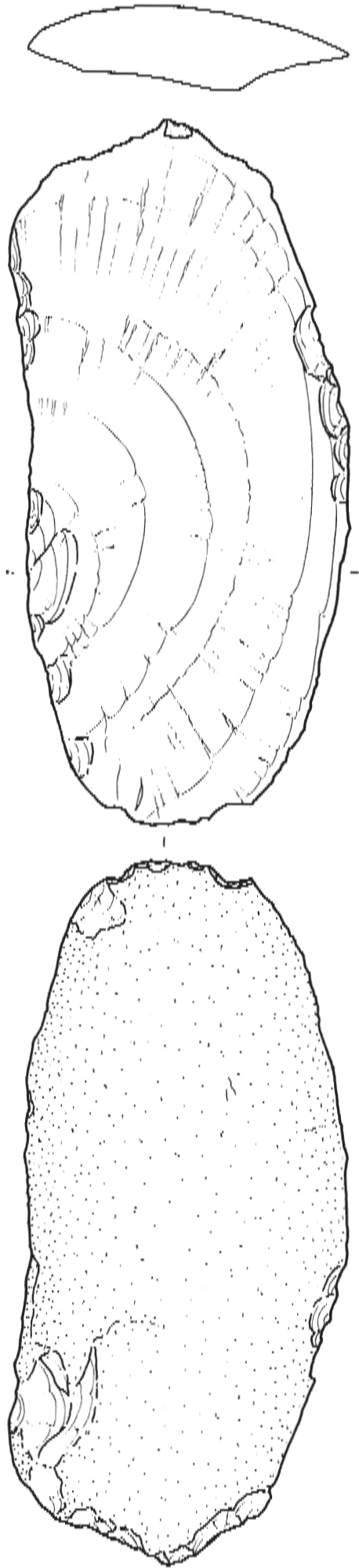
第 52 図 SR 2 礫群分布図



第 53 図 SC 4 炭化物集中分布図



第 54 図 TP 112 出土遺物分布図



70 FL30
4496/An-6

0 1 2cm
S=1/1

第 55 図 TP 112 出土石器

第 19 表 TP 112 出土石器観察表

根拠番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	接合・備考
70 FL30 55-70 59-2-70	4496	X	Q-55	TP112	使用剥片	An-6	5.1	11.99	1.49	110.1	

第22表 旧石器時代出土礫石質一覽表

層位 遺構名 石質	Ⅲ～Ⅳ層		Ⅳ層		Ⅴ層		Ⅵ～Ⅷ層		Ⅷ～Ⅸ層		Ⅹ層		Ⅺ層		Ⅻ層		Ⅼ層							
	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)						
チャート			19 (16.96)	7442 (19.21)	6 (100)	761 (100)																		
頁岩																								
安山岩			2 (33.33)	223 (7.02)																				
ホルンフェルス			1 (0.89)	80 (0.21)																				
凝灰岩																								
砂岩	3 (100)	2 (100)	92 (82.14)	31225 (80.59)	4 (66.67)	2954 (92.98)																		
石英																								
総計	3	2	112	38747	6	3177	6	761	2	1317.6	2	862.5	6	41	17	468	7	41	20	5079	8	122.7	23	298.5

第23表 旧石器時代出土礫遺存度一覽表

層位 遺構名 石質	Ⅸ～Ⅹ層		Ⅹ層		Ⅺ層		Ⅻ層		Ⅼ層	
	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)
チャート	4 (23.53)	9 (10.11)			11 (25.58)	140 (29.79)			49 (17.25)	8180.7 (15.84)
頁岩					2 (4.65)	44.8 (9.53)			3 (1.06)	66.2 (0.13)
安山岩					2 (4.65)	26 (5.53)			7 (2.46)	273 (56.07)
ホルンフェルス									1 (0.35)	80 (0.15)
凝灰岩	1 (5.88)	3 (3.37)							3 (1.06)	486.9 (0.94)
砂岩	12 (70.59)	77 (86.52)	7 (100)	99 (100)	5 (100)	28 (65.12)	28 (55.15)	220 (77.46)	220 (82.39)	42558.5 (82.39)
石英									1 (0.35)	8 (0.02)
総計	17	89	7	99	5	79	43	470	284	51656.3

第24表 旧石器時代出土礫被熱度一覽表

遺構名 被熱度	SR1		SR2		SR3		総計 個数 (%)
	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	
完形					49 (43.75)	49 (36.03)	
中度					63 (56.25)	63 (46.32)	
軽度							
なし	17 (100)		7 (100)				24 (17.65)
総計	17		7		112	136	

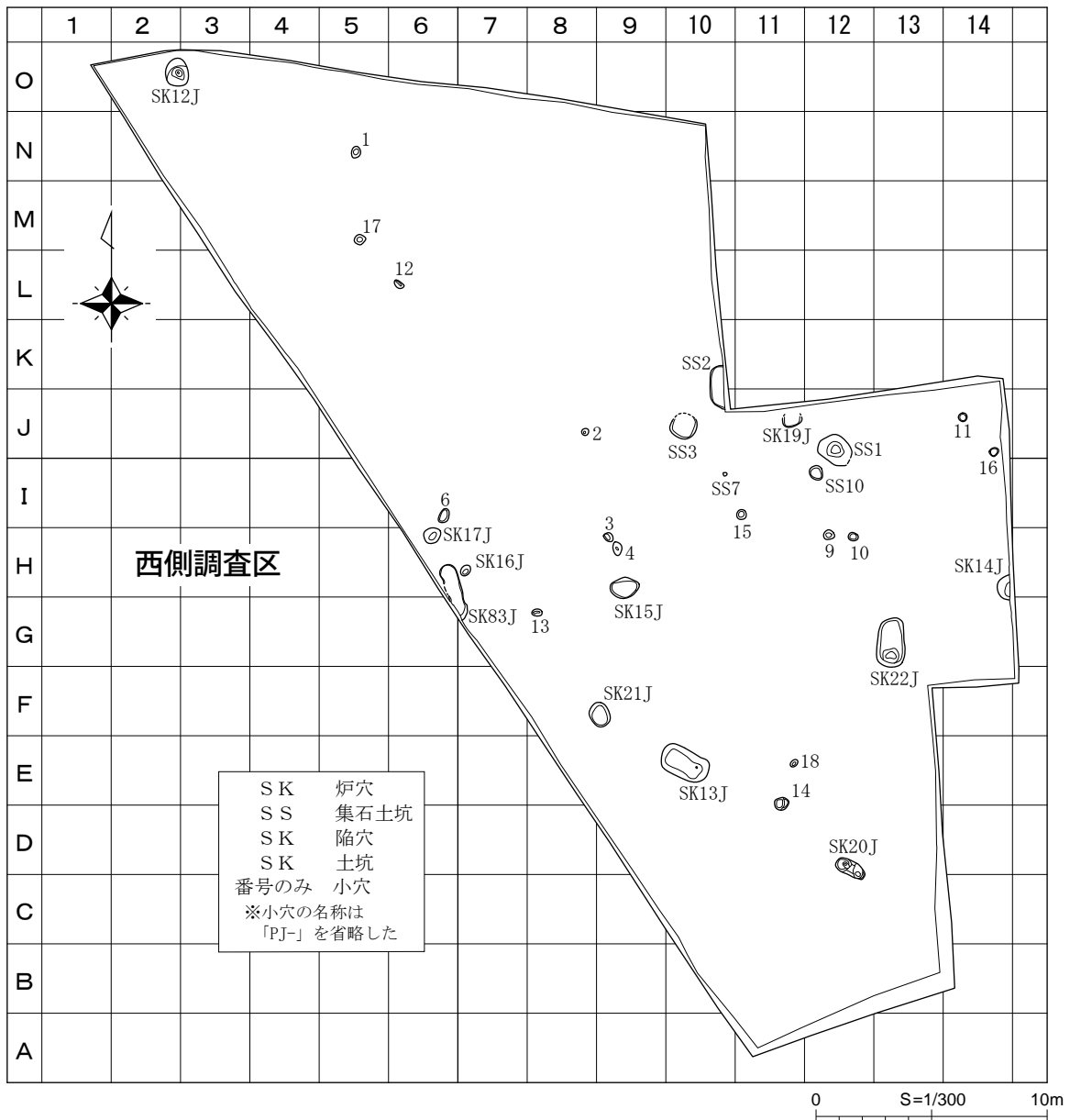
第25表 旧石器時代出土礫付着物一覽表

遺構名 付着物	SR1		SR2		SR3		総計 個数 (%)
	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	
タール					21 (18.75)	21 (15.44)	
煤					38 (33.93)	38 (27.94)	
総個数	17		7		112	136	

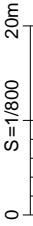
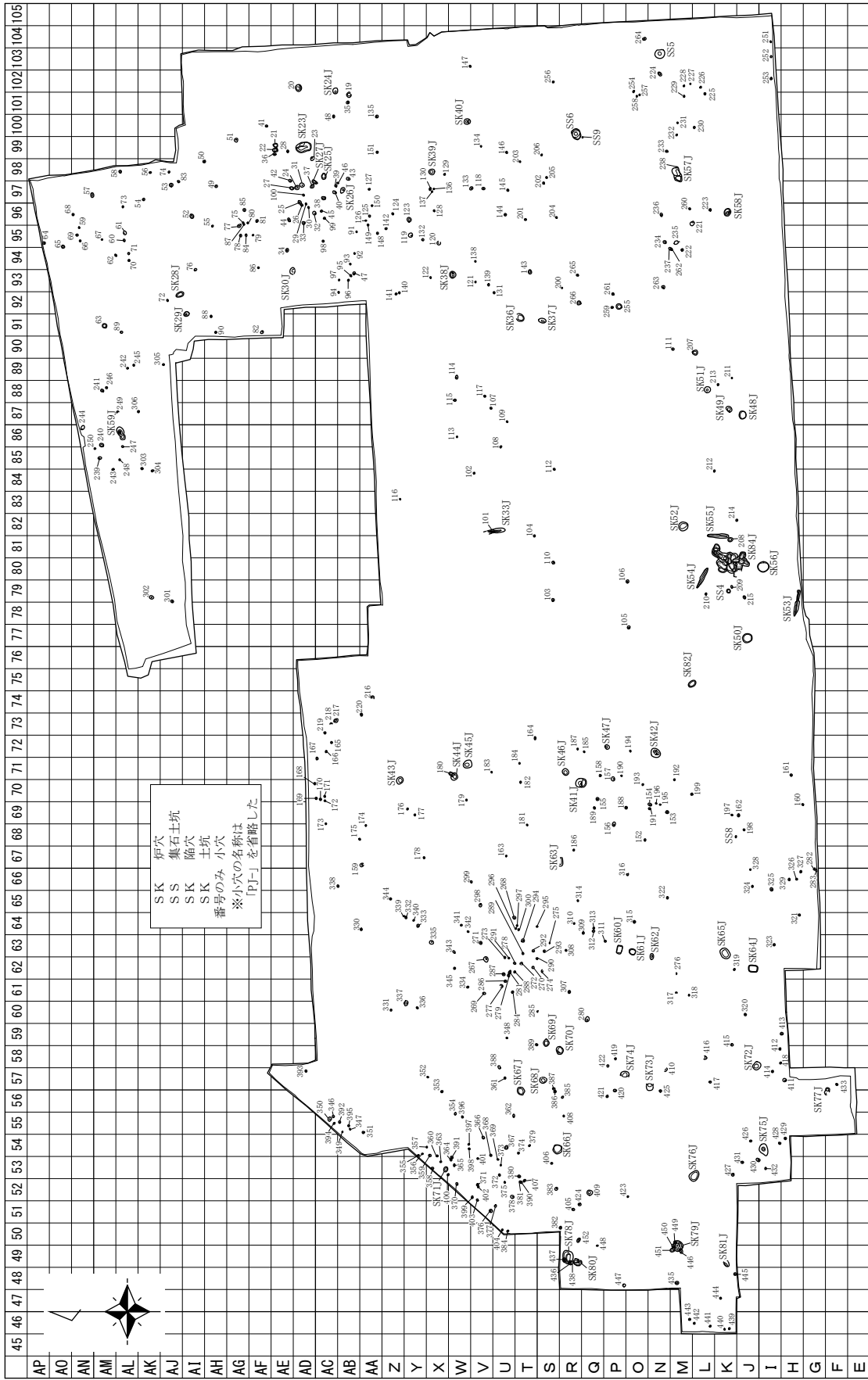
※但し、第22～25表の各比率結果は小数点以下第3位で四捨五入しているため、その合計は100%になるとは限らない。

第2節 縄文時代

今回の調査で、縄文時代の遺構は炉穴2基、集石土坑10基、陥し穴4基、土坑63基、小穴448基が検出された。竪穴住居はなく、集落の中心から外れた地点と思われる。遺物の分布も比較的散漫であり、顕著な集中もほとんど見られない。遺物は縄文土器371点、石器72点および礫4,125点が出土した。遺物の所属時期は早期押形文系土器・条痕文系土器を除き、圧倒的に中期で占められる。石器では打製石斧やスタンプ形石器など、早期および中期を代表する石器群が散漫に出土した。



第 56 図 縄文時代遺構分布図 (西側調査区)



第 57 図 縄文時代遺構分布図 (東側調査区)

1. 遺構

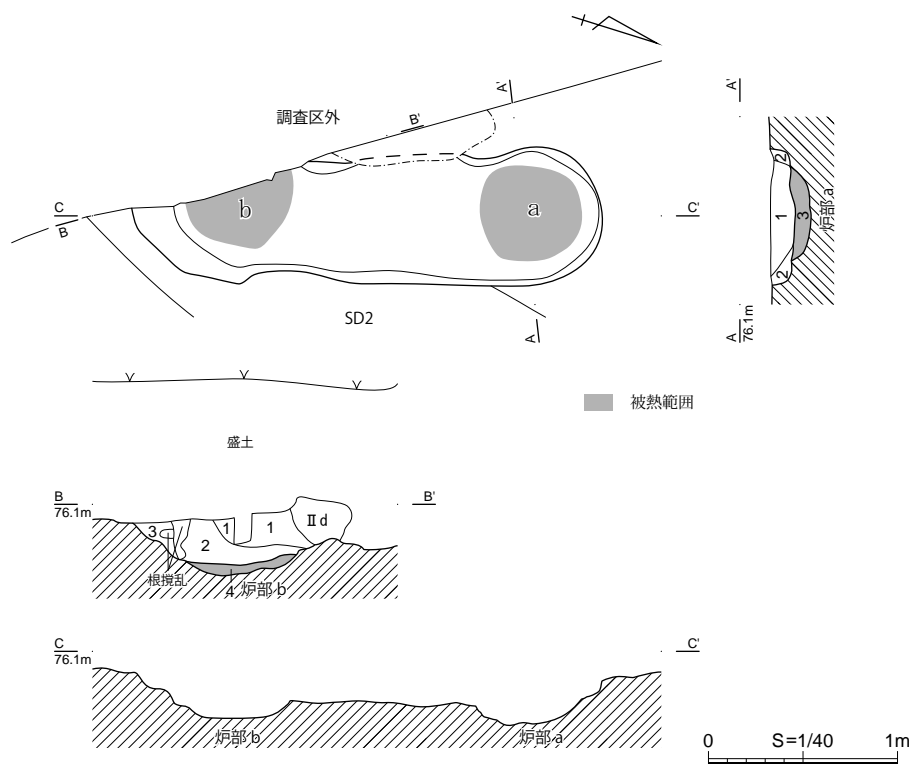
(1) 炉穴

S K 83 J・84 J 炉穴 (第58～61図、図版20-1～5)

西側調査区で1基、東側調査区で1基確認された。2基の炉穴の間隔は200m程あるがほぼ東西方向に並列して存在する。いずれも第II d層より掘り込まれたもので、西側調査区のS K 83 J 炉穴は攪乱によって一部破壊されているほか、S D 2 溝状遺構に壊されている。南北に炉部をもつ。遺物は含まないが、層位・形態からS K 84 J 炉穴と同じ時期に構築されたものと推測される。東側調査区のS K 84 J 炉穴は部分的に攪乱によって破壊されているが、複数の炉部を有する。覆土中から早期の条痕文系土器が複数出土している。所属時期は出土遺物から早期と判断される。

S K 83 J 炉穴 (第58図、図版20-1・2)

西側調査区H G-6・7グリッドで確認された。南西端は調査区外に延びる。S D 2 溝状遺構が掘り込まれているため大半を壊されている。平面形は長楕円を呈する。確認された長さ2.5m、幅70cm程で確認面からの深さは約30cmである。長軸方向はN-30°-Wである。炉部は同軸上に2箇所検出された。同時期に使用されていたかは不明である。炉部の規模は径50～60cm、深さ6～8cmを測る。火床面はいずれもよく焼けている。



S K 83 J 炉部 a 土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒・ローム粒 (径1～2mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒・ローム粒 (径1mm) を微量含む。締まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 1 と同質だが、焼土粒を多量含む。締まり弱い。火床面はよく焼けている。

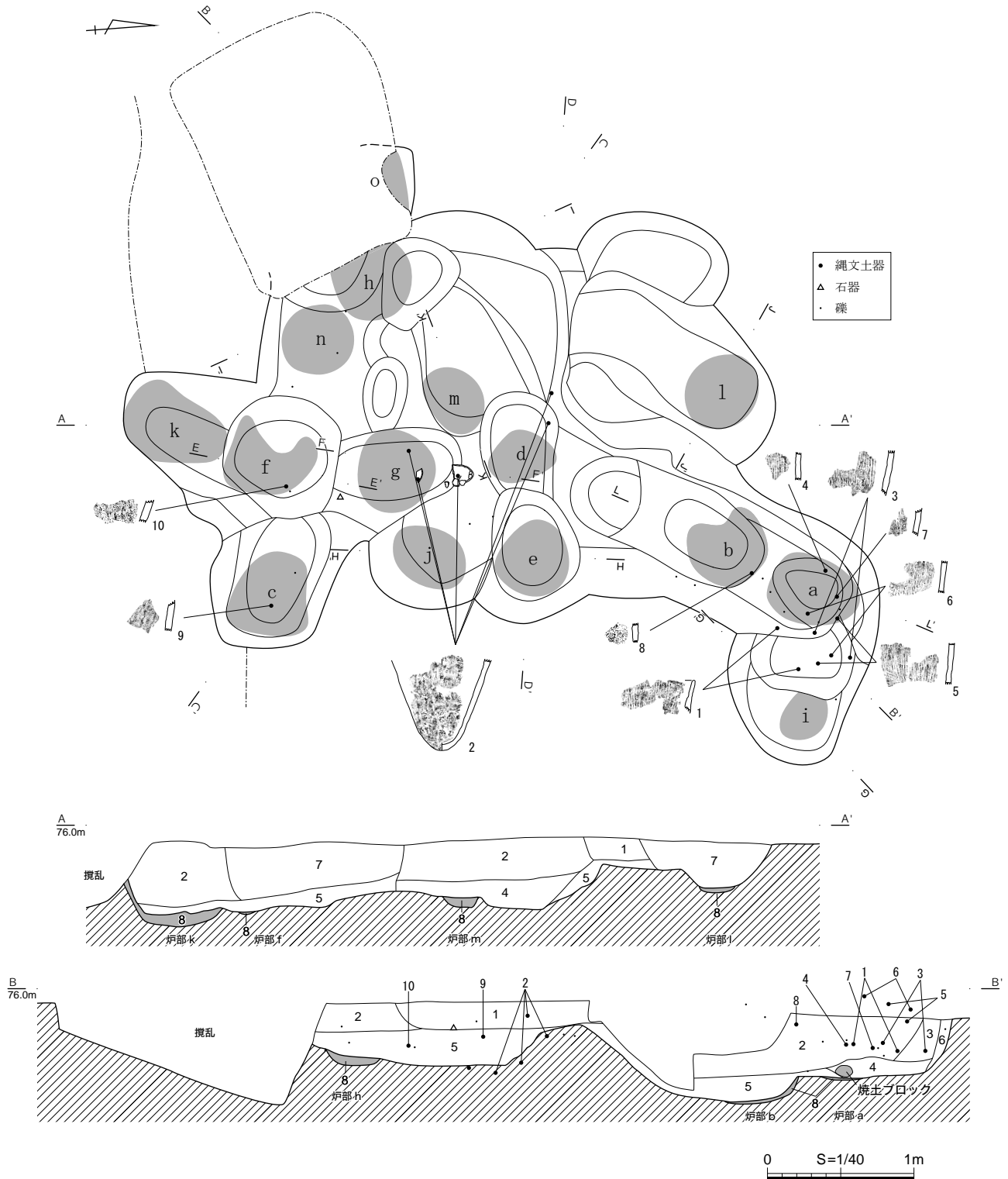
S K 83 J 炉部 b 土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒・ローム粒 (径1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 1 に比べて焼土粒 (径1mm～2mm) を多く含む。締まりあり。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 焼土粒 (径1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 2 と同質だが、焼土粒・焼土ブロックを多量含む。締まり弱い。火床面はよく焼けている。

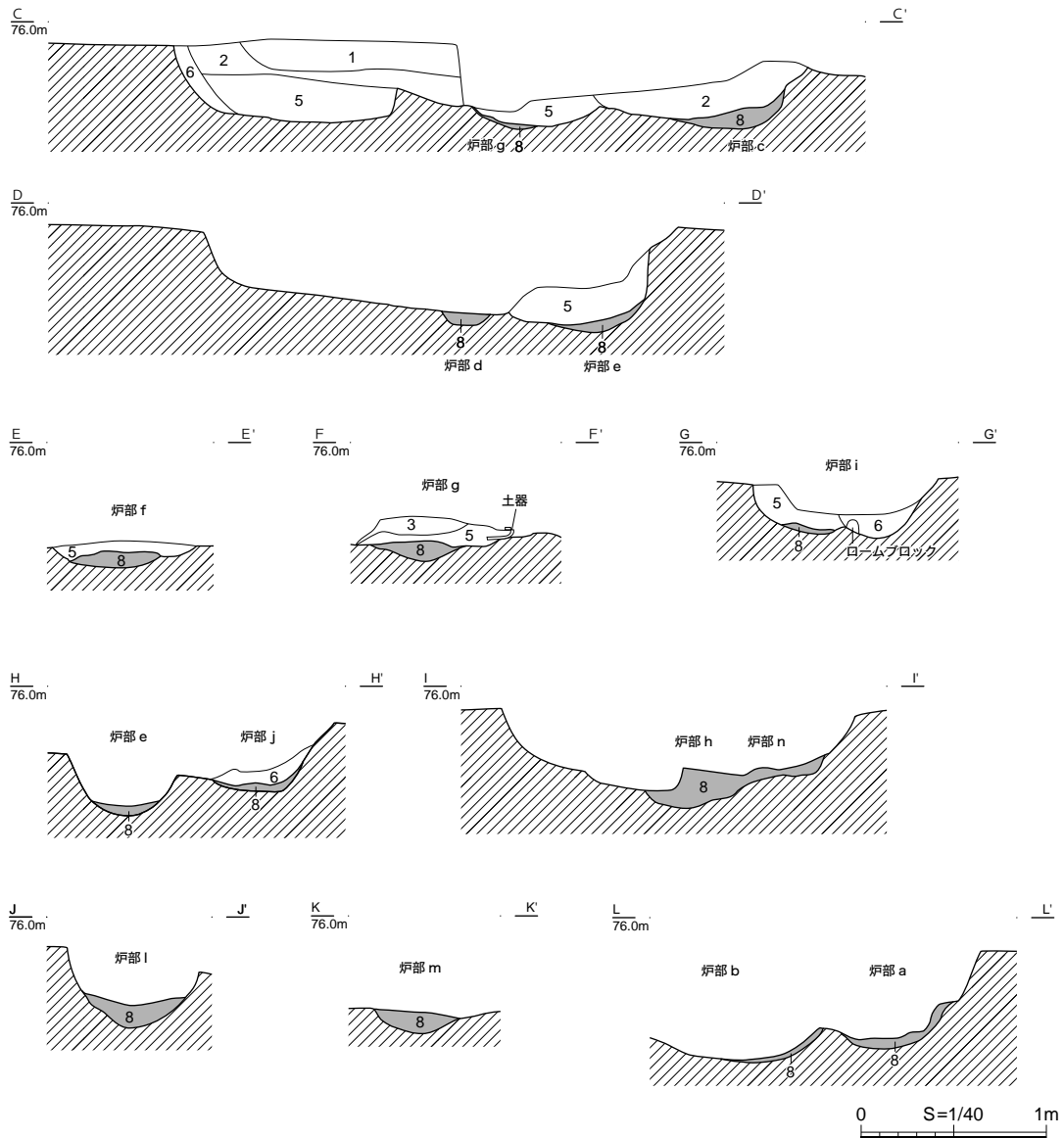
第58図 SK 83 J 炉穴

S K 84 J 炉穴 (第59～61図、第26表、図版20-3～5・60-1-1～10)

S K 83 J 炉穴が所在する西側調査区から東へ200m程離れた東側調査区J～K-80・81グリッドで確認された。部分的に攪乱で壊されている。炉部を長軸上・異軸上に複数もつアメーバー状の形態を呈する。覆土の堆積状況から、各炉部は同時に使用されたのではなく、ある程度時間をかけて再構築された結果と考えられる。確認された長さ5.38m、幅2.56m程で確認面からの深さは42～60cmである。長軸方向はN-20°-Eである。炉部は15箇所検出されたが、各炉部の時間差は不明である。炉部の規模は径20～80cm、深さ4～10cmを測る。いずれも火床面はよく焼けている。



第59図 SK 84 J 炉穴 (1)



S K 84 J 炉跡土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 3より焼土粒 (径1~2mm) を多く含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 焼土粒 (径1~2mm)、赤色スコリア粒 (径1mm) を少量、炭化粒 (径1mm) を微量含む。縮まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 赤色スコリア粒 (径1mm) を微量含む。縮まりあり。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 5と同質だが、焼土粒 (径1~2mm) を少量含む。縮まりあり。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 3と同質だが、焼土粒 (径1~2mm) を多く含む。縮まりあり。
- 6 褐色土 (10YR4/4) ローム土を少量含む。縮まりあり。
- 7 黒褐色土 (10YR3/1) 焼土粒 (径1~2mm) を多量含む。縮まり弱い。
- 8 黒褐色土 (10YR3/1) 焼土ブロックを多量含む。被熱層。火床面はよく焼けている。

第60図 SK 84 J 炉穴 (2)

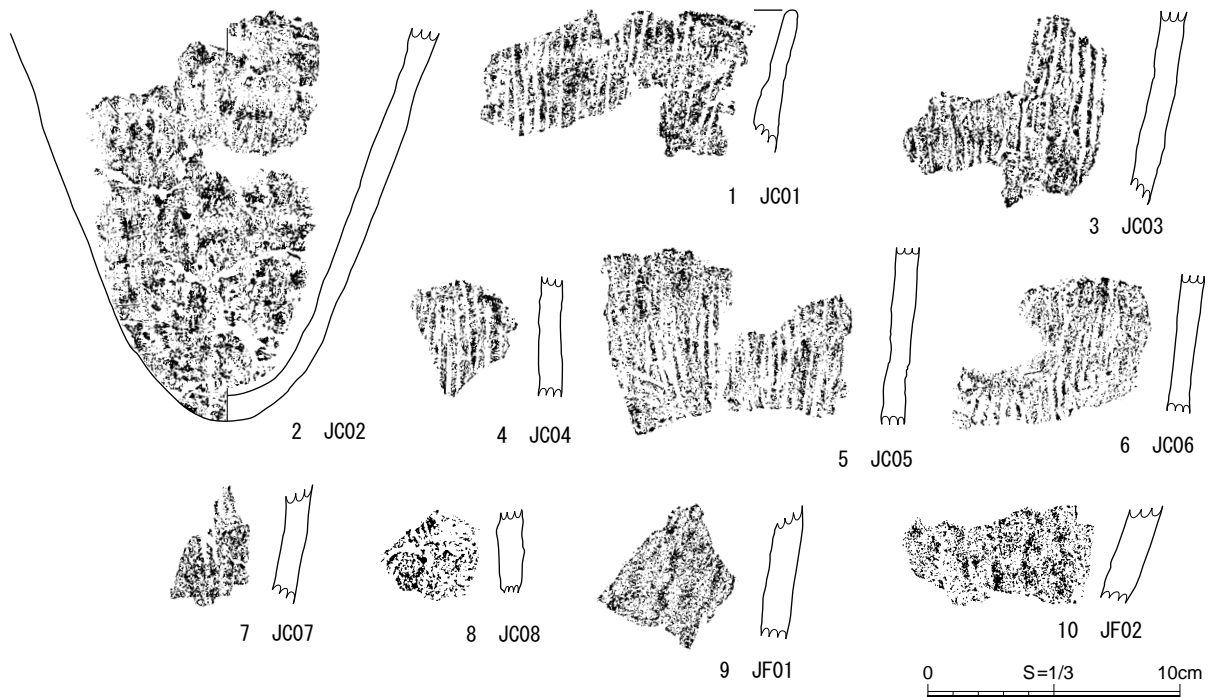
炉穴覆土および床面から土器17点・石器1点・礫15点が出土している。土器は早期条痕文系の茅山式が主体である。石器は安山岩製の剥片である。床面直上出土の土器 (第60図2) から炉穴は茅山式期の所産と推測できる。

1~8は茅山式の深鉢土器である。1は口縁部片、2は炉部g北端の床面から出土したもので、胴下半部から底部にかけての土器である。3~8は胴部片である。

1はやや外傾する。口唇部は丸味を帯びる。内面横方向に、表面縦方向に条痕文が施文される。胎土に繊維を微量含む。2は床面直上から出土している尖底土器である。表面上位に斜め方向に細い条痕文が部分的に施される。底部付近は無文である。胎土に繊維を微量含む。3は両面に縦方向に粗い条痕文

が施文される。胎土に繊維を微量含む。4は表面縦方向に条痕文が施文される。胎土に繊維を微量含む。5・6は両面に縦方向のやや粗い条痕文が施文される。7・8は表面縦方向に条痕文が施文される。接合はしないが、同一個体の可能性がある。

9・10は中期の深鉢胴部片である。表面は無文だが胎土・焼成から中期とした。接合はしないが、同一個体の可能性がある。



第 61 図 SK 84 J 炉穴出土遺物

第 26 表 SK 84 J 炉穴出土縄文土器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JC01 61-1 60-1-1	茅山式	深鉢	覆土上層	— [6.1] —	口縁部片。口唇丸味帯びる。 やや外傾する。	内面は粗い磨き。横方向に条痕文。表面は縦方向に条痕文。	黒褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量、繊維を微量含む。焼成は良好。
2 JC02 61-2 60-1-2	茅山式	深鉢	床面直上	— [16.7] —	胴下半部～底部片。 尖底土器。	内面は粗い磨き。表面上部に斜位の細い条痕文。底部付近は無文。	赤褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・雲母を多量、繊維を微量含む。焼成はやや不良。
3 JC03 61-3 60-1-3	茅山式	深鉢	覆土上層	— [7.7] —	胴部片。	内面は粗い磨き。両面縦方向に粗い条痕文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量、繊維を微量含む。焼成はやや不良。
4 JC04 61-4 60-1-4	茅山式	深鉢	覆土上層	— [5.2] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は縦方向に条痕文。	黒褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量、繊維を微量含む。焼成は良好。4と同一個体か。
5 JC05 61-5 60-1-5	茅山式	深鉢	覆土下層	— [6.7] —	胴部片。	内面は粗い磨き。両面縦方向に条痕文。	黒褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
6 JC06 61-6 60-1-6	茅山式	深鉢	覆土下層	— [4.9] —	胴部片。	内面は粗い磨き。両面縦方向に条痕文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
7 JC07 61-7 60-1-7	茅山式	深鉢	覆土上層	— [4.8] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は縦方向に条痕文。	黒褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
8 JC08 61-8 60-1-8	茅山式	深鉢	覆土上層	— [3.1] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は縦方向に条痕文。	黒褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。6と同一個体か。
9 JF01 61-9 60-1-9	中期	深鉢	覆土下層	— [5.2] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は無文。	黄褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
10 JF02 61-10 60-1-10	中期	深鉢	覆土下層	— [3.8] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は無文。	黄褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。8と同一個体か。

(2) 集石土坑

SS1～10集石土坑（第62～70図、第27～30表、図版20-6～8・21-1～8・22-1～8・23-1～6）

西側調査区で5基、東側調査区で5基の集石を伴う土坑が確認された。集石土坑の位置関係を見ると、西側調査区のSS1～3・7・10集石土坑は近接している。東側調査区のSS8集石土坑とSS4集石土坑は単独で存在するが、SS6・9集石土坑が近接し、南側にSS5集石土坑が隣接している。これらは調査範囲の南側に位置し、東西方向にほぼ並ぶように存在している。

集石の構成礫の石質は、いずれの土坑でも砂岩が圧倒的に多く、これに次いでチャートが多く用いられており、両者を合わせると構成礫の90%を超える（第25表）。近隣の遺跡での出土例も概ね同様な石材比率を示している（林他 2017）。礫の供給源として、近在の礫層を利用していたと考えられる。SS1・5・6集石土坑内部の礫には接合関係がみられたが、SS6集石土坑以外はごく数例に過ぎない。土坑間の接合は皆無であった。

各集石土坑内の出土遺物は極めて少なく、SS1集石土坑から早期の土器片1点、SS5集石土坑から打製石斧1点が確認されただけである。それぞれの集石土坑の詳細な帰属時期は不明であるが、基本的に第Ⅱd層から掘り込まれていること、規模の差はあるが形態が近似することから、各集石土坑が構築された時期は時間的にあまり差がないものと推察される。なお、SS6集石土坑出土の炭化物を分析した結果、クリであることが分かった。年代測定では中期前半に相当する暦年代が示された。集石土坑群の所属時期は中期と考えて良さそうである。

SS1集石土坑（第62・63図、第31表、図版21-1・60-2-1）

西側調査区J-12グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。平面形は楕円形で長軸1.5m、短軸1.15m、深さ34cmを測る。底部は擂鉢状である。覆土は黒褐色土が主体で、炭化粒が点在し、炭化物片が散見される。集石は覆土上半部を中心に高い密度で遺され、底部付近まで分布する。構成礫の被熱度・破損度は共に高く、大きさが10cm未満の小片・細片が占める。若干の接合関係が内部で見られる。礫の石質は8種類に及ぶが、大半は砂岩とチャートで占められる。煤の付着が見られる礫が少量見られるほか、タールが付着する礫も僅かに確認される。

覆土下半から早期の押型文土器が1点出土した。1は樋沢式の深鉢胴部片である。縦方向に山形文が施文される。

第 27 表 集石土坑出土礫石質一覧表

遺構名 数量 石質	SS1		SS2		SS3		SS4		SS5		SS6		SS7		SS8		SS9		SS10		包含層		総計	
	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)
砂岩	371 (63.64)	11,115 (71.45)	23 (79.31)	478 (85.82)	6 (100)	25 (100)	14 (100)	13450 (100)	1176 (71.23)	43,884 (79.25)	980 (74.75)	73,626 (84.05)	2 (66.67)	355 (78.71)	14 (77.78)	1,853 (80.88)	20 (80)	1,967 (73.23)	21 (67.74)	1,153.9 (54.62)	389 (76.88)	40,585 (77.93)	3,016 (72.22)	188,491.9 (81.18)
チャート	158 (27.10)	3,275 (21.05)	4 (13.79)	50 (8.98)					367 (22.23)	8,582 (15.50)	214 (16.32)	7,583 (8.66)	1 (33.33)	97 (21.51)	3 (16.67)	246 (10.74)	2 (8)	72 (2.68)	7 (22.58)	136.4 (6.46)	85 (16.8)	8,493 (16.31)	841 (20.13)	28,398 (12.23)
凝灰岩	7 (1.20)	120 (0.77)							51 (3.09)	907 (1.64)	24 (1.83)	936 (1.07)									5 (0.99)	432 (0.83)	87 (2.10)	2,395 (1.04)
ホルンフェルス	10 (1.72)	493 (3.17)	2 (6.90)	29 (5.21)					19 (1.15)	859 (1.55)	14 (1.07)	1,232 (1.41)							1 (3.23)	4.4 (0.21)	11 (2.17)	1,233 (2.37)	57 (1.36)	3,850.4 (1.66)
泥岩									3 (0.18)	70 (0.13)	7 (0.53)	310 (0.35)											10 (0.24)	380 (0.17)
頁岩	8 (1.37)	224 (1.44)							4 (0.24)	100 (0.18)	2 (0.15)	20 (0.02)									4 (0.79)	256 (0.49)	18 (0.43)	600 (0.26)
石英	23 (3.95)	204 (1.31)							19 (1.15)	307 (0.55)	25 (1.91)	999 (1.14)							1 (3.23)	6.6 (0.31)	4 (0.79)	25 (0.05)	72 (1.72)	1,541.6 (0.66)
石英斑岩	3 (0.51)	37 (0.24)							1 (0.06)	76 (0.14)									1 (3.23)	811.4 (38.40)			5 (0.12)	924.4 (0.40)
石英片岩									1 (0.06)	19 (0.03)													1 (0.02)	19 (0.01)
安山岩	3 (0.51)	88 (0.57)							6 (0.36)	387 (0.7)	44 (3.36)	2,882 (3.29)									5 (0.99)	613 (1.18)	61 (1.46)	4,415 (1.90)
粘板岩																					1 (0.20)	12 (0.02)	1 (0.02)	12 (0.01)
閃緑岩									3 (0.18)	101 (0.18)											1 (0.20)	423 (0.81)	4 (0.10)	524 (0.23)
流紋岩									1 (0.06)	81 (0.15)													1 (0.02)	81 (0.03)
玄武岩																			1 (4.00)	395 (14.71)			1 (0.02)	395 (0.17)
片岩																					1 (0.20)	8 (0.02)	1 (0.02)	8 (0.01)
軽石									1 (0.08)	8 (0.01)													1 (0.02)	8 (0.01)
総計	583	15,557	29	557	6	25	14	13,450	1,651	55,372	1,311	87,595	3	451	18	2,291	25	2,686	31	2,112.7	506	52,078	4,177	232,179.7

※但し、各比率結果は小数点以下第3位で四捨五入しているため、その合計は100%には限りません。

第 28 表 集石土坑出土礫遺存度一覧表

遺構名	SS 1	SS 2	SS 3	SS 4	SS 5	SS 6	SS 7	SS 8	SS 9	SS 10	包含層	総計
数量 遺存度	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)
完形				11 (78.57)	46 (2.79)	20 (1.53)		5 (27.78)	4 (16)		51 (10.08)	137 (3.3)
60%以上	6 (1.03)			2 (14.29)	64 (3.88)	81 (6.18)	2 (66.67)	4 (22.22)	9 (36)	1 (3.23)	56 (11.07)	225 (5.4)
30～60%	69 (11.84)	2 (6.9)		1 (7.14)	346 (20.96)	356 (27.15)	1 (33.33)	3 (16.67)	7 (28)	3 (9.68)	103 (20.36)	891 (21.33)
30%以下	508 (87.14)	27 (93.1)	6 (100)		1,195 (72.38)	854 (65.14)		6 (33.33)	5 (20)	27 (87.10)	296 (58.5)	2,924 (70)
総計	583	29	6	14	1,651	1,311	3	18	25	31	506	4,177

※但し、各比率結果は小数点以下第3位で四捨五入しているため、その合計は100%になるとは限らない。

第 29 表 集石土坑出土礫被熱度一覧表

遺構名	SS 1	SS 2	SS 3	SS 4	SS 5	SS 6	SS 7	SS 8	SS 9	SS 10	包含層	総計
数量 被熱度	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)
極度	336 (57.63)	12 (41.38)	4 (66.67)		1,480 (89.64)	1,008 (76.89)	2 (66.67)	6 (33.33)	15 (60)	18 (58.06)	292 (57.71)	3,173 (75.96)
中度	241 (41.34)	16 (55.17)	2 (33.33)		150 (9.09)	294 (22.43)	1 (33.33)	7 (38.89)	7 (28)	13 (41.94)	158 (31.23)	889 (21.13)
軽度	6 (1.03)	1 (3.45)		7 (50)	21 (1.27)	5 (0.38)		5 (27.78)	3 (12)		34 (6.72)	82 (1.98)
なし				7 (50)		4 (0.30)					22 (4.35)	33 (0.8)
総計	583	29	6	14	1,651	1,311	3	18	25	31	506	4,177

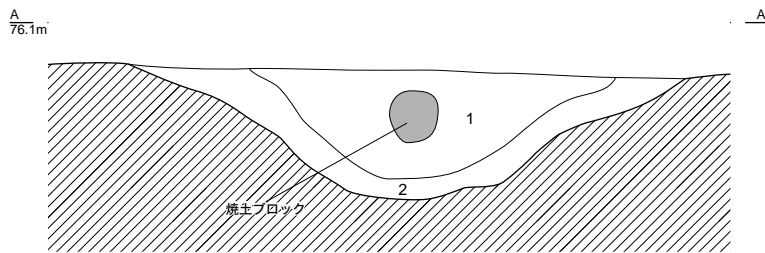
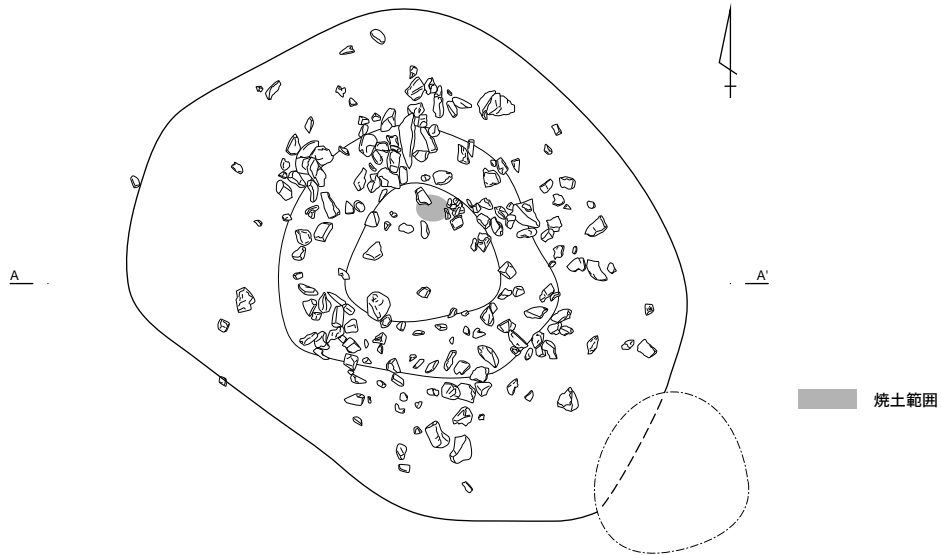
※但し、各比率結果は小数点以下第3位で四捨五入しているため、その合計は100%になるとは限らない。

第 30 表 集石土坑出土礫付着物一覧表

遺構名	SS 1	SS 2	SS 3	SS 4	SS 5	SS 6	SS 7	SS 8	SS 9	SS 10	包含層	総計
数量 付着物	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)	個数 (%)
タール	10 (1.72)	1 (3.45)			57 (3.45)	19 (1.45)				2 (6.45)	6 (1.19)	95 (2.23)
煤	103 (17.67)	4 (13.79)		1 (7.14)	221 (13.39)	179 (13.65)		1 (5.56)	2 (8)	5 (16.13)	32 (6.32)	548 (13.1)
総個数	583	29	6	14	1651	1311	3	18	25	31	506	4,177

※但し、各比率結果は小数点以下第3位で四捨五入しているため、その合計は100%になるとは限らない。

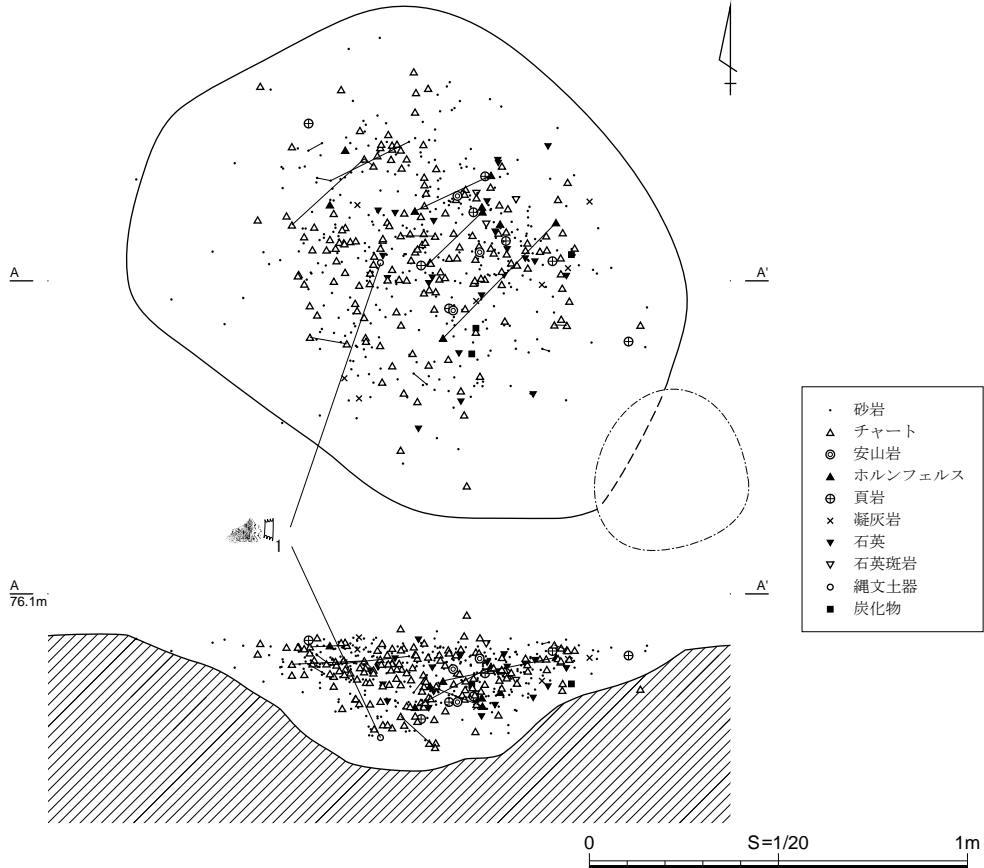
集石出土状況微細図



SS1 集石土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 焼土粒・ローム粒・炭化粒 (径1~2mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm)、炭化粒 (径2mm) を少量含む。締まりあり。

集石石質別分布図



第62図 SS1 集石土坑

SS2集石土坑（第64図、図版21-2～4）

西側調査区J・K-10グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。東側は調査区外に延びるため全容は不明だが、平面形は楕円形と推定される。確認できる長軸は1.9m、短軸は推定1.2m、深さは20cmを測る。底部はやや歪んだ皿状を呈する。覆土は黒褐色土が主体で、炭化粒が点在する。集石は覆土上半部を中心に集中するが、底部付近まで分布する。構成礫の被熱度・破損度は共に高く、大きさが10cm未満の小片・細片が占める。礫の石質は3種類と少ない。砂岩が主体で、僅かにチャートとホルンフェルスが見られる。煤やタールの付着はごく一部の礫で確認された。

SS3集石土坑（第65図、図版21-5～7）

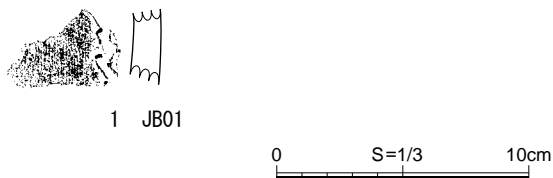
西側調査区J-10グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。北側の一部を攪乱によって破壊されているが、平面形は径約1.1mの略円形で、深さは29cm、底部は椀状をなす。覆土は黒褐色土が主体で、下層に焼土粒が微量に見られる。集石は覆土上層に分布する。構成礫の被熱度・破損度は共に高く、大きさが5cm未満の小片・細片が占める。礫の石質はすべて砂岩である。煤やタールの付着はない。

SS4集石土坑（第66図、図版21-8・22-1・2）

東側調査区K-79グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。平面形は径52cm程の円形で、深さは6～7cmと浅い掘り込みである。底部はやや歪んだ皿状を呈する。覆土は黒褐色土が主体である。集石は底部まで分布する。構成礫の被熱度は軽度であるが、サイズは全体的に大きめで、10cm以上の大型破片が目立つ。礫の石質はすべて砂岩である。1点だけ煤の付着が見られた。

SS5集石土坑（第67図、図版22-3～5）

東側調査区N-103グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。東側の一部を攪乱で破壊されているが、平面形は略円形で径1.34m、深さ42cmを測る。底部は楕鉢状である。覆土は黒褐色土が主体で、炭化粒が点在し、炭化物片が極微量に含まれる。集石は覆土上部から下部まで高い密度で遺され、底部付近まで分布する。構成礫の被熱度・破損度は共に高く、大きさが10cm未満の小片・細片が占める。若干の接合関係が内部で見られる。礫の石質は12種類に及ぶが、大半は砂岩とチャートで占められる。煤の付着が見られる礫が少量見られるほか、タールが付着する礫も僅かに確認された。覆土下半部から砂岩製の打製石斧の破損品が1点出土した。

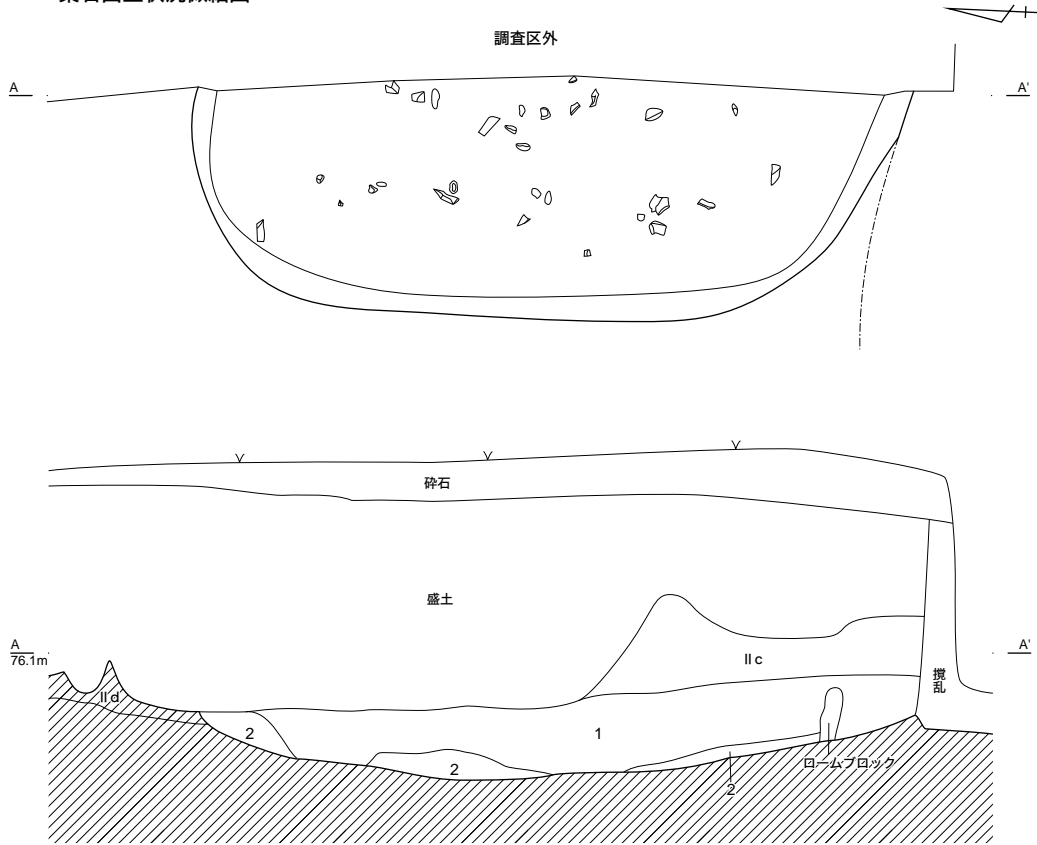


第 63 図 SS1集石土坑出土遺物

第 31 表 SS1集石土坑出土縄文土器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JB01 62-1 60-2-1	楕円式	深鉢	覆土下層	— [3.1] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は丁寧な磨き。縦方向帯状に山形文。	黒褐色。胎土はやや粗い。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。

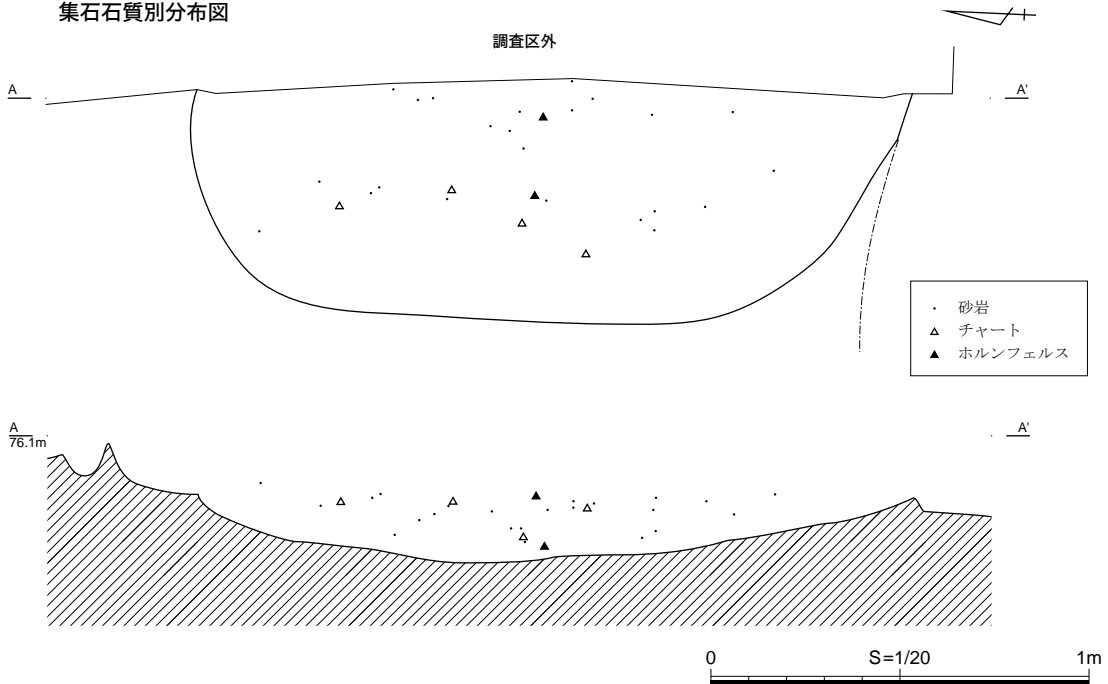
集石出土状況微細図



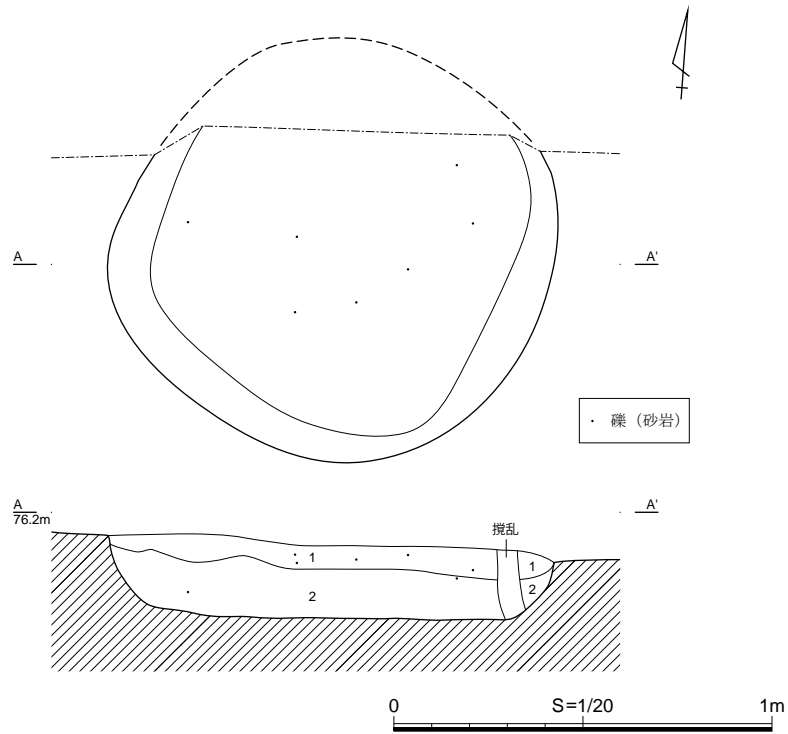
SS2集石土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を微量、焼土粒・炭化粒を少量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) 焼土粒・炭化粒 (径 1 ~ 2mm) を微量、ローム粒 (径 2 ~ 3mm) を少量含む。ロームブロックを含み、締まり弱い。

集石石質別分布図



第 64 図 SS2集石土坑

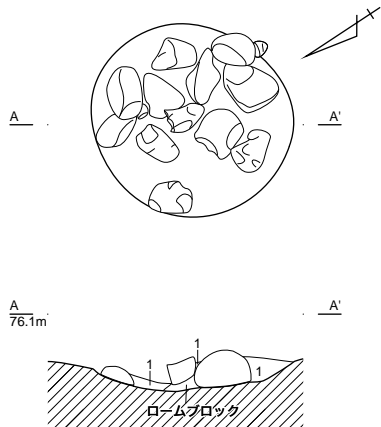


SS3 集石土坑土層説明

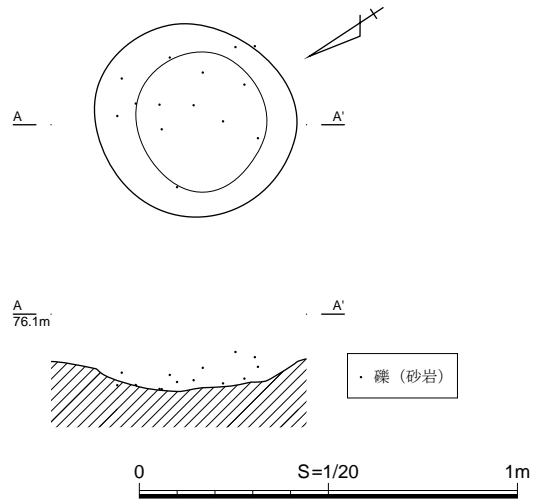
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。縮まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 焼土粒 (径 1~2mm) を微量、ローム粒 (径 1mm) を少量含む。縮まりあり。

第 65 図 SS3 集石土坑

集石出土状況微細図



集石石質別分布図

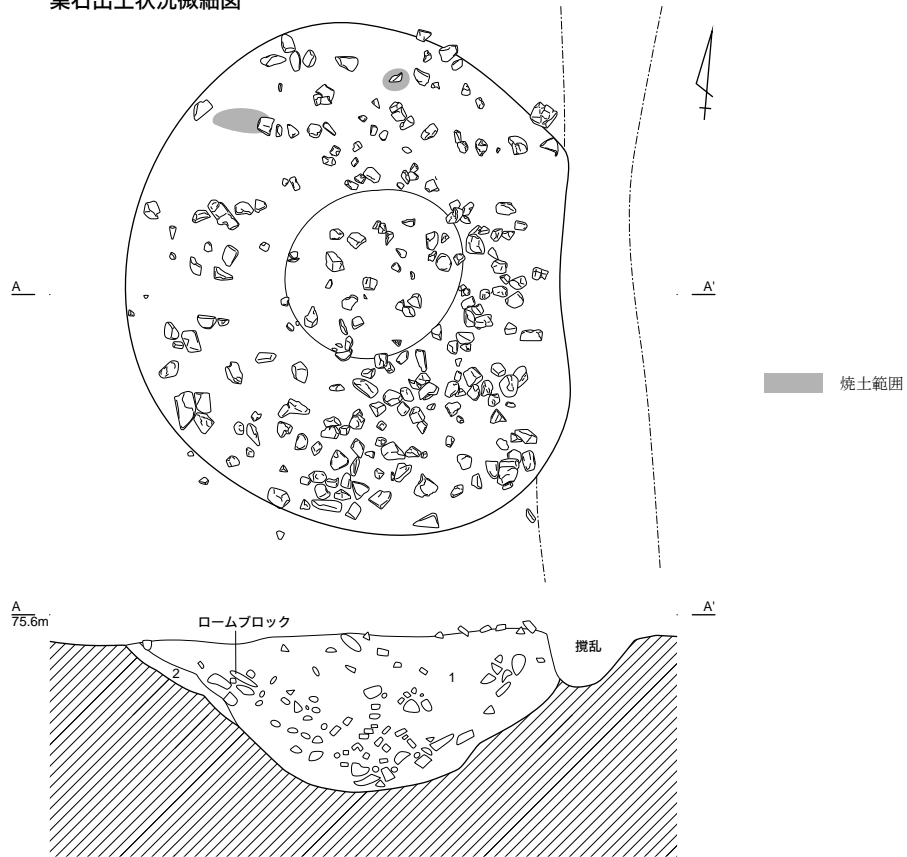


SS4 集石土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を微量含む。縮まりあり。

第 66 図 SS4 集石土坑

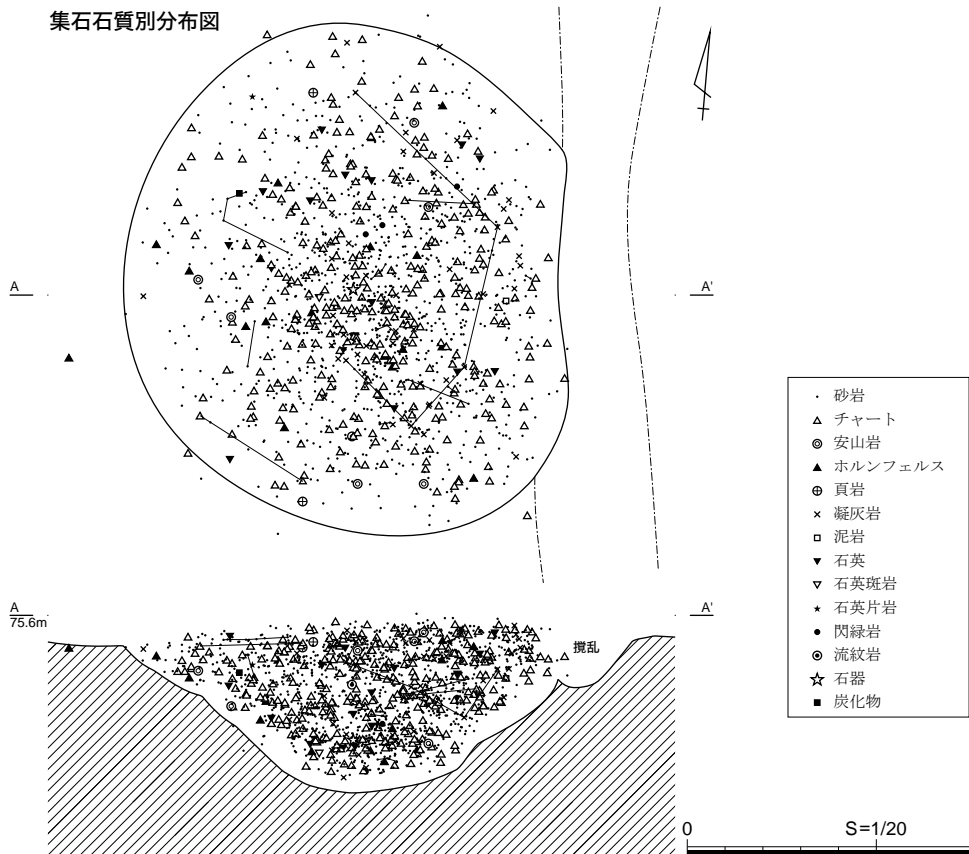
集石出土状況微細図



SS5 集石土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径2~3mm) を少量、焼土粒・炭化粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1mm) を少量含む。締まりあり。

集石石質別分布図



第67図 SS5集石土坑

SS6集石土坑（第68・69図、図版22-6～8・23-1）

東側調査区R-100グリッドに位置する。SS5集石土坑の北西1.5mに位置する。掘り込み面は第II d層である。平面形は楕円形で長軸1.5m、短軸1.1m、深さ67cmを測る。下半部は筒状だが上部はテラス状の掘り込みを有する。覆土は黒褐色土が主体で、炭化粒が散在し、炭化物片が上部から下部にかけて点在する。また、土坑上部南側で炭化物片と焼土の堆積が確認された。集石は高い密度で遺され覆土上部に集中するが、底部付近まで分布する。構成礫の被熱度・破損度は共に高く、大きさが10cm未満の小片・細片が占める。内部の礫の接合関係は、検出された集石土坑のなかで一番多く見られる。礫の石質は9種類に及ぶが、大半は砂岩とチャートで占められる。煤の付着が見られる礫が少量見られるが、タールが付着する礫は僅かである。

SS7集石土坑（第70図、図版23-2）

西側調査区I-10グリッドに位置する。SS3集石土坑の南東に隣接する。掘り込み面は第II d層である。上部は削平されており、遺存状態は良くない。平面形は略円形で、長軸18cm、短軸16cm、深さ3cmである。底部は浅い皿状を呈する。覆土は黒褐色土が主体で炭化粒が散在する。集石は極小規模なもので、礫の石質は砂岩とチャートである。構成礫の被熱度・破損度は共に高く、大きさが10cm未満の小片である。煤・タールの付着はない。

SS8集石土坑（第70図、図版23-3）

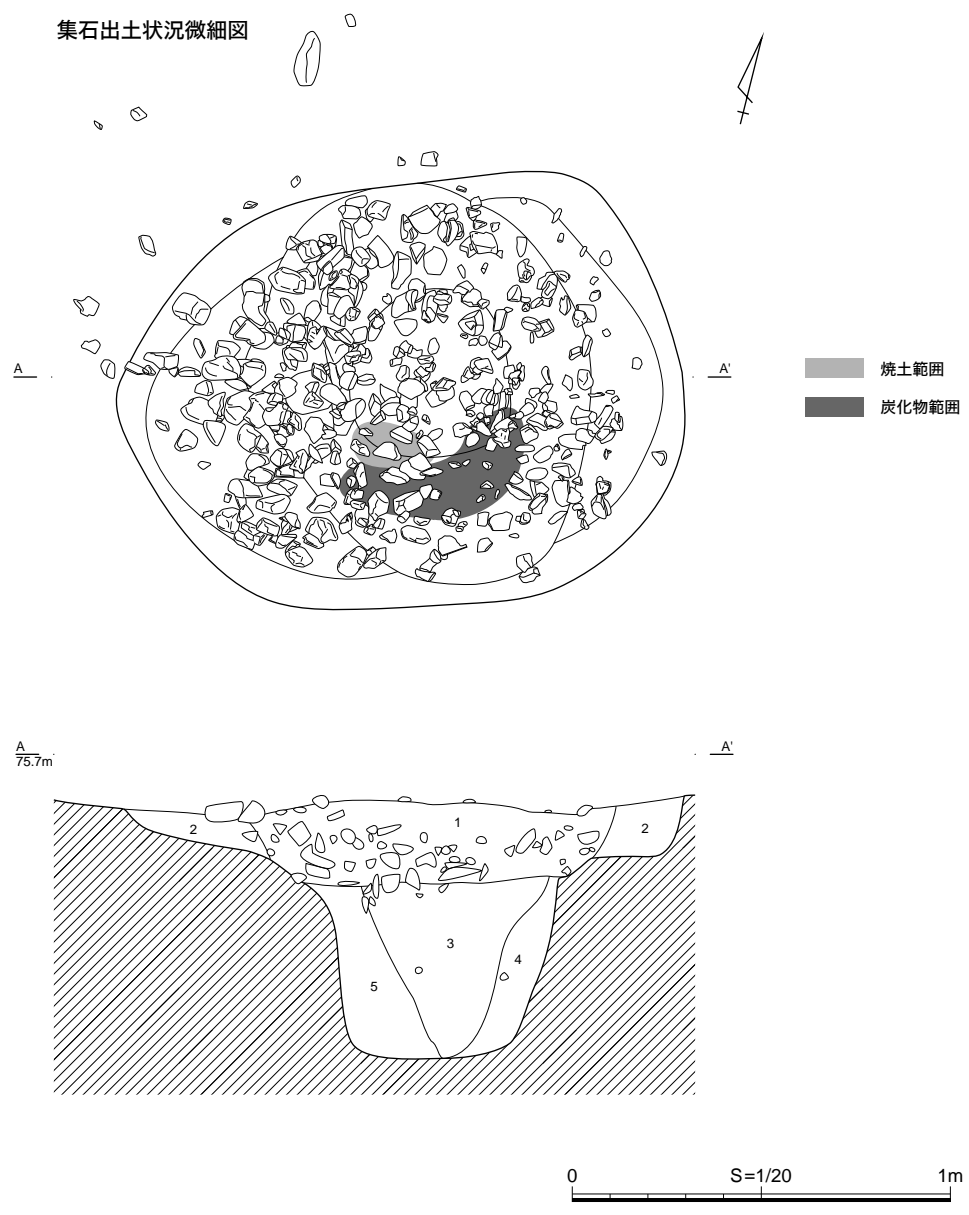
東側調査区J-68グリッドに位置する。掘り込み面は第II d層である。平面形は楕円形で長軸30cm、短軸18cm、深さ5cmである。底部は浅い皿状を呈する。覆土は黒褐色土が主体で炭化粒が散在する。集石は小規模なもので、構成礫の被熱度・破損度は共に高く、大きさが10cm未満の小片が主であるが、10cm以上の大型破片が僅かに含まれる。礫の石質は砂岩が多く次いでチャートと安山岩である。煤の付着した礫は1点だけで、タールの付着は見られない。

SS9集石土坑（第70図、図版23-4）

東側調査区R-99グリッドに位置する。SS6集石土坑の南西に隣接する。掘り込み面は第II d層である。平面形は楕円形で長軸19cm、短軸15cm、深さ7cmである。底部は碗状を呈する。覆土は黒褐色土が主体で炭化粒が散在する。集石は小規模なもので、構成礫の被熱度・破損度は共に高く、大きさが10cm未満の小片が主であるが、10cm以上の大型破片が僅かに含まれる。礫の石質は砂岩が多く次いでチャート・安山岩と玄武岩である。煤の付着した礫は2点だけで、タールの付着は見られない。

SS10集石土坑（第70図、図版23-5・6）

西側調査区I-12グリッドに位置する。SS1集石土坑の南西に隣接する。掘り込み面は第II層が削平されているため第III層最上面である。径56cm程の略円形で、底部は深さ11cmの浅い皿状を呈する。覆土は黒褐色土が主体で下半に炭化物片が散在する。構成礫の被熱度・破損度は共に高く、大きさが10cm未満の小片が主体であるが、10cm以上の大型破片が僅かに含まれる。礫の石質は砂岩が多く次いでチャートとホルンフェルス・石英・石英斑岩である。煤・タールの付着は僅かである。

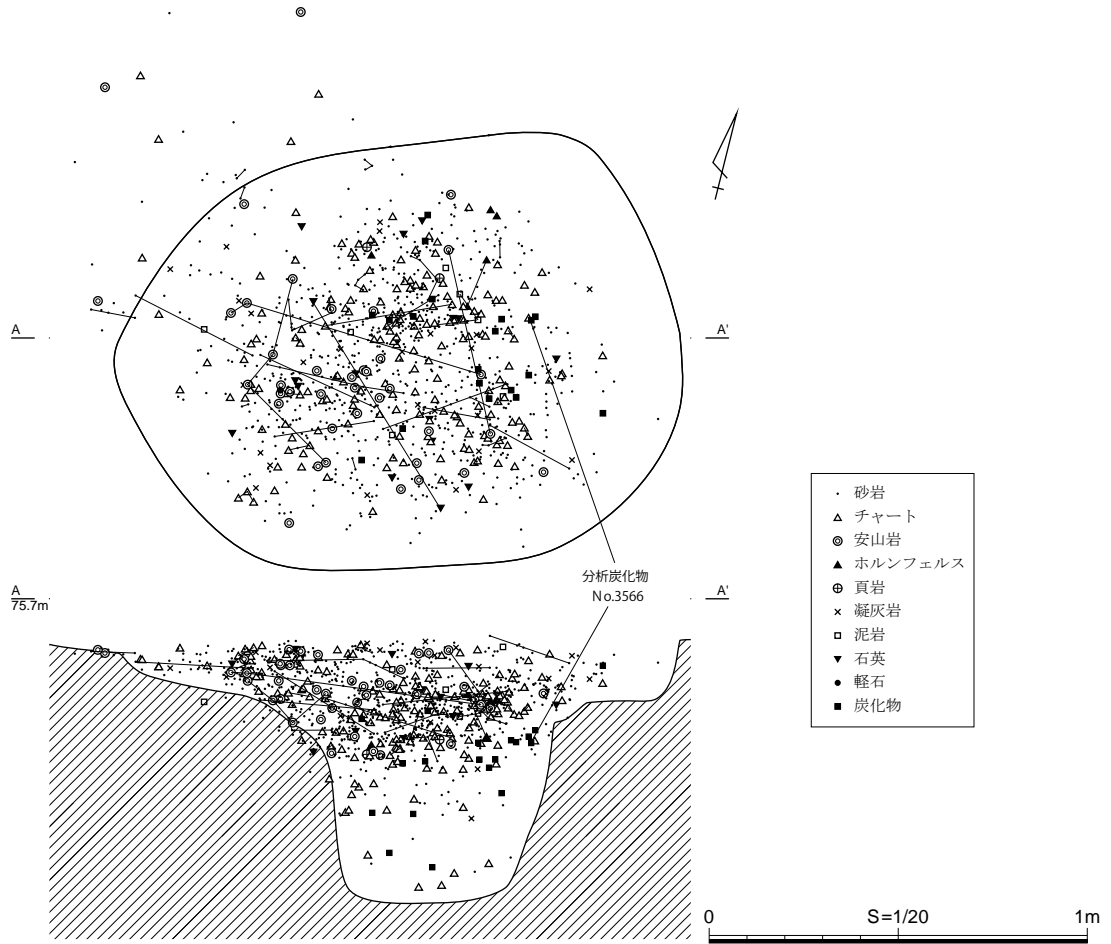


SS6 集石土坑土層説明

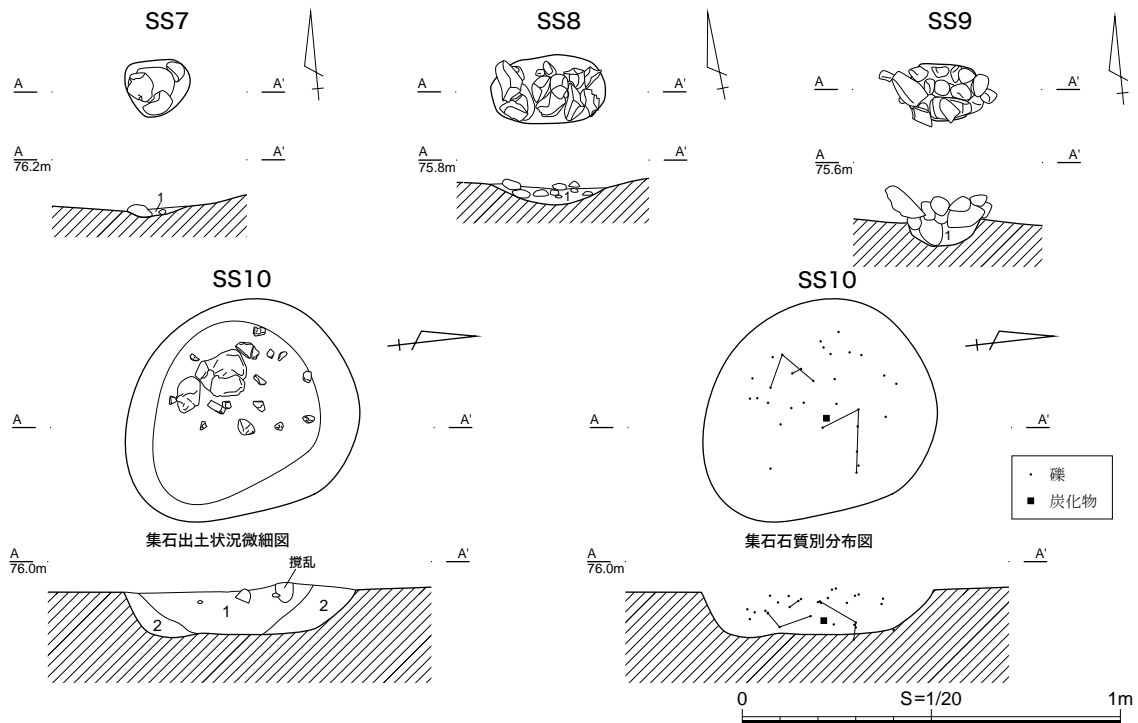
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 2 ~ 3mm) を少量、焼土粒・炭化粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を多量、焼土粒・炭化粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 2 と同質だが、ロームブロックを多く含む。締まりあり。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 3 と同質だが、ローム粒 (径 1mm) を多く含む。締まりあり。

第 68 図 SS6 集石土坑 (1)

集石石質別分布図



第 69 図 SS 6 集石土坑 (2)



SS 7～9 集石土坑土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 2～3mm) を少量、焼土粒・炭化粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。

SS 10 集石土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。

第 70 図 SS 7～10 集石土坑

(3) 陥し穴

S K 33 J・53 J～55 J 陥し穴（第71・72図、図版23-7・8・24-1～5）

東側調査区で4基の陥し穴と考えられる大型土坑が確認された。いずれも長楕円の平面形とY字形の断面形をもつ所謂「Tピット」で、規模・形状が類似する。S K 33 J 陥し穴とS K 55 J 陥し穴の長軸は南北方向であり、その間隔は南北に27mである。S K 53 J 陥し穴とS K 54 J 陥し穴の長軸は東西方向であり、南北に12.5mの間隔で並列する。S K 53～55 J 陥し穴が位置する場所は東側調査区で最も標高の高い場所で、そこから東西両方向にわずかに下る緩斜面となる。S K 33 J 陥し穴とS K 55 J 陥し穴は斜面（等高線）に対して直交方向に作られており、S K 53 J 陥し穴とS K 54 J 陥し穴は平行に作られている。

4基の陥し穴が東側調査区に集中していることから、当該地域がある時期に狩猟対象動物の活動域であり、狩り場であったことが推察される。なお、S K 55 J 陥し穴から剥片が1点出土したほかは出土遺物を含まないため所属時期は不明だが、いずれも掘り込み面が第Ⅱ層最下部であること、規模・形態が近似することから、構築された時期は時間的にあまり差がないものと思われる。

S K 33 J 陥し穴（第71図、図版23-7・8）

東側調査区U・V-82グリッドに位置する。北側は攪乱で消滅している。中央付近はP J-101に壊されている。残存する平面形は長軸2.32m、幅60cm、深さ58cmである。長軸方向はN-10°-Wである。断面Y字形で、底部は幅20cm程の細長い溝状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。底部に小穴がほぼ等間隔で7本並ぶ。逆茂木の痕跡と目される。小穴の平面は円形若しくは楕円形を呈し、規模は大きいもので20cm×12cm、小さいもので8cm×7cm、深さは12～30cm程である。

S K 53 J 陥し穴（第71図、図版24-1）

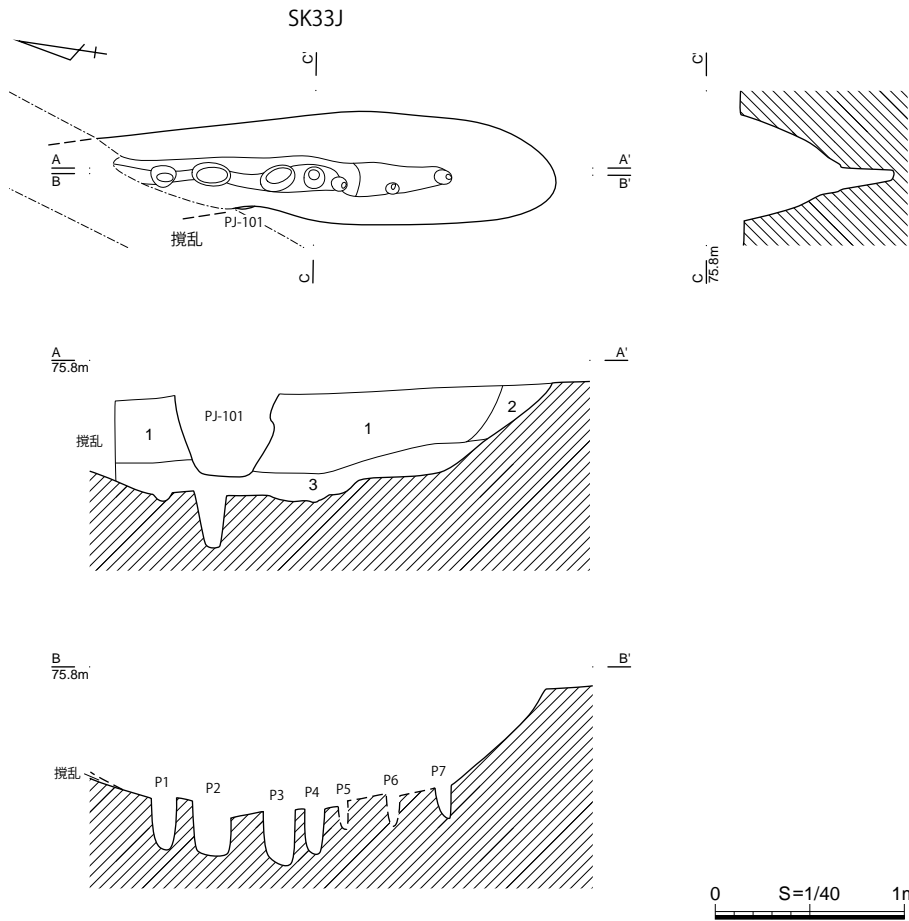
東側調査区H-78・79グリッドに位置する。攪乱を除去する際に遺構を確認した。平面形は長軸3.6m、幅52cm、深さ1.12mである。長軸方向はN-80°-Wである。断面Y字形で、底部は幅12cm程の細長い溝状を呈する。底面は段差を有する。覆土の詳細は不明である。

S K 54 J 陥し穴（第72図、図版24-2・3）

東側調査区L-79・80グリッドに位置する。S K 53 J 陥し穴と南北に12.5m離れてほぼ平行に並んでいる。西側上部はS D 14溝状遺構に壊されている。平面形は長軸3.0m、幅54cm、深さ92cmである。長軸方向はN-63°-Wである。断面Y字形で、底部は幅16cm程の細長い溝状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。底部の両端はわずかにオーバーハングする。

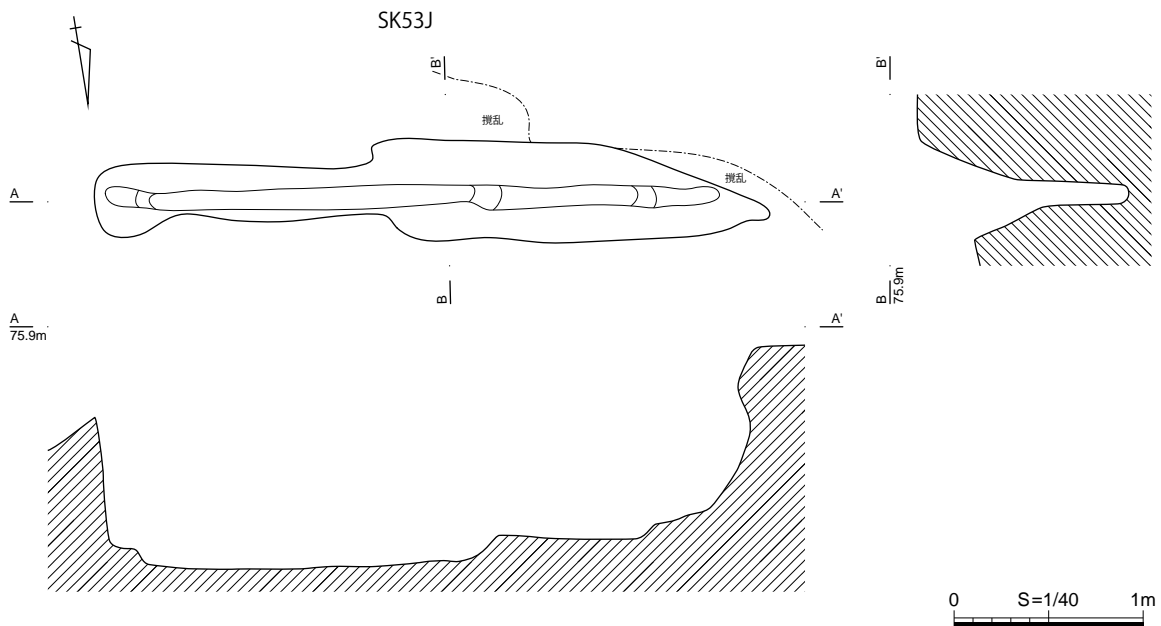
S K 55 J 陥し穴（第72図、図版24-4・5）

東側調査区K・L-82グリッドに位置する。S K 54 J 陥し穴と東に4.5m離れて並ぶ。平面形は長軸2.9m、幅60cm、深さ50cmである。長軸方向はほぼ南北を指す。断面Y字形で、底部は幅14～20cm程の細長い溝状を呈する。覆土は水平な堆積を見せ、中ほどから砂岩製の剥片が1点出土した。

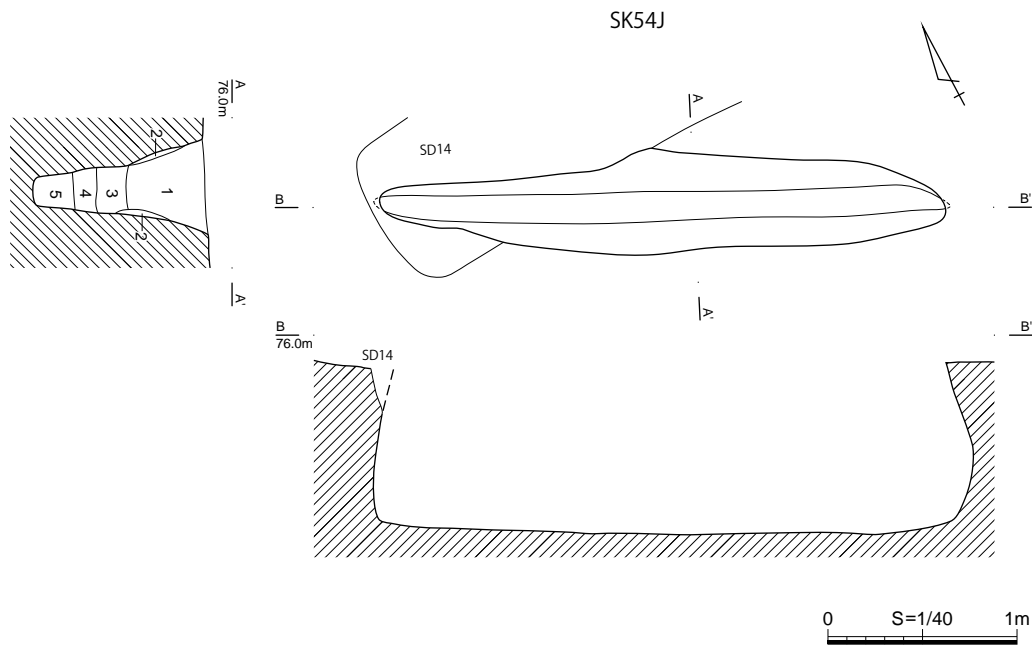


SK 33 J 陥し穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径2~3mm) を少量含む。ロームブロック (径3~5cm) を含む。締まりあり。

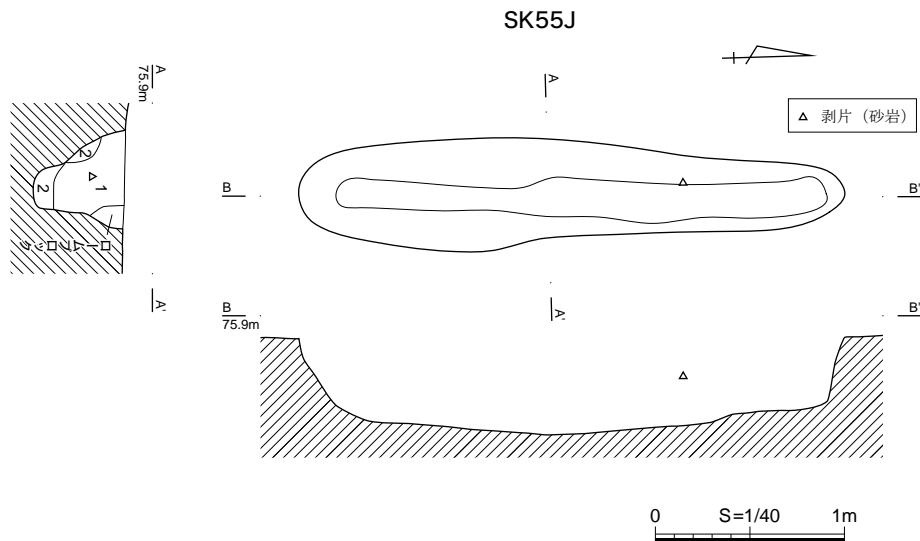


第71図 SK 33 J・53 J 陥し穴



SK 54 J 陥し穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒 (径 1～2mm) を多量含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) 1 と同質だが、ロームブロック (径 3～5cm) を含む。締まりあり。
- 4 黒褐色土 (10YR3/1) 3 と同質だが、ロームブロック (径 3～5cm) の含有量少ない。締まりあり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1～2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 2mm) を微量含む。締まりあり。



SK 55 J 陥し穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1～2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 2mm) を微量、ロームブロック (径 2～3cm) を少量含む。締まりあり。

第 72 図 SK 54 J・55 J 陥し穴

(4) 土坑

S K 12 J ~ 17 J・19 J ~ 30 J・33 J・36 J ~ 52 J・56 J ~ 82 J 土坑 (第73~82図、図版24-6~31-2)
縄文時代の土坑と見なされる遺構は63基を確認した。西側調査区で11基、東側調査区で52基を検出した。

土坑の位置関係を見ると、西側調査区では調査区南側に集中している。東側調査区においては調査範囲中央北側は希薄であり、土坑はこの希薄な部分を挟んで調査範囲の東側と西側の斜面(等高線)に沿って構築されている様である。出土遺物は少ないが、S K 52 Jからは59点が出土した。

S K 12 J 土坑 (第73図)

西側調査区O-2・3グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸1.2m、短軸98cmの楕円形で、底部は深さ46cmの底の狭い椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。覆土中から中期の土器片1点が出土した。

S K 13 J 土坑 (第73図、図版24-6・7)

西側調査区E-9・10グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸2.16m、短軸1.2m、深さ0.74mの楕円形で、底部は椀状である。底部の北東隅に径10cm、深さ10cm程の小穴がある。覆土は水平な堆積を示す。覆土上半部から礫片2点が出土した。

S K 14 J 土坑 (第73図)

西側調査区H-14グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。東側は調査区外に延びるため全容は不明だが、推定で平面は径1.1m程の略円形で、底部は深さ34cmの椀状である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 15 J 土坑 (第73図)

西側調査区H-9グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸1.26m、短軸90cm、深さ0.28mの楕円形で、底部は椀状である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 16 J 土坑 (第73図、図版24-8・25-1)

西側調査区H-7グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸50cm、短軸40cm、深さ16cmの楕円形で、底部は椀状である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 17 J 土坑 (第74図)

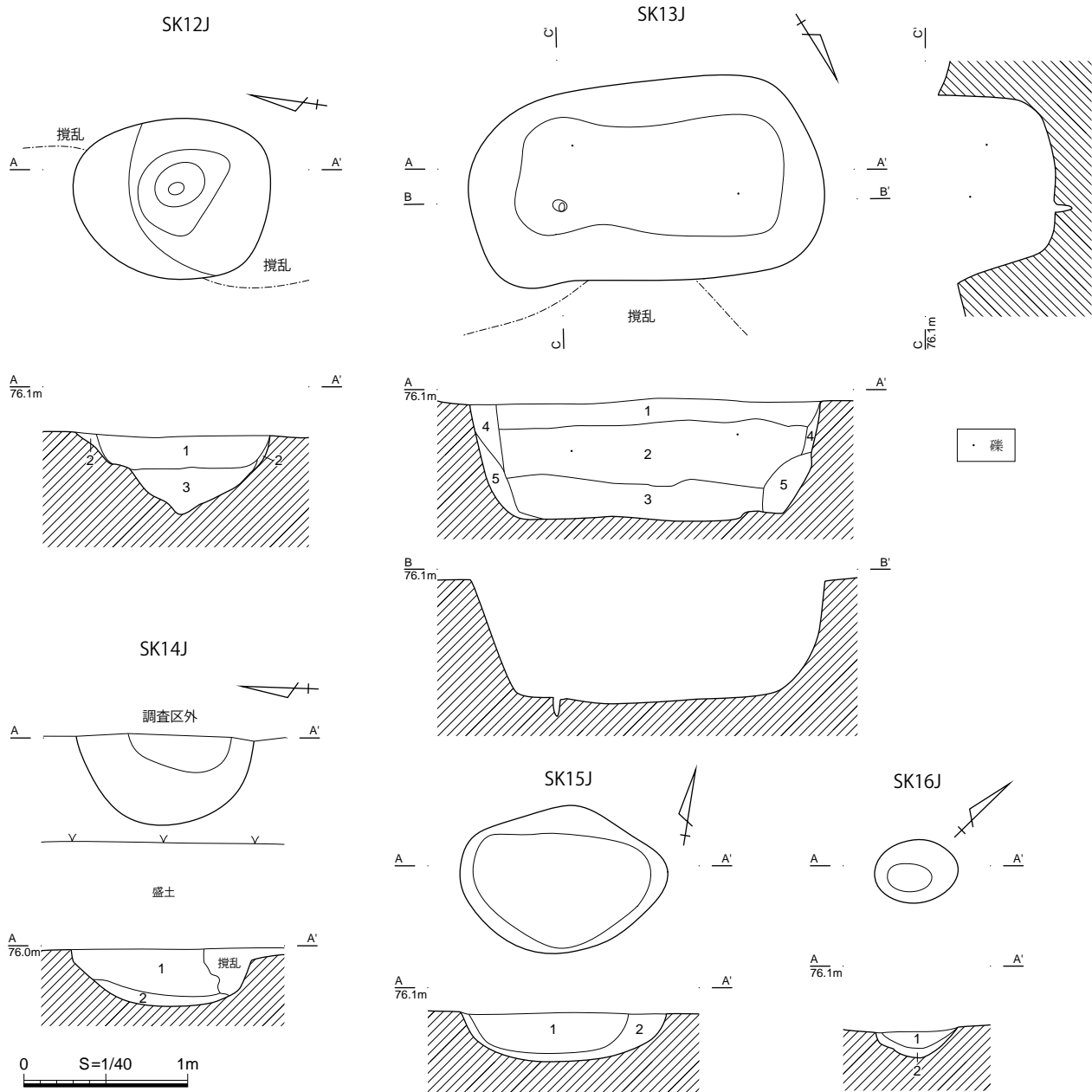
西側調査区H-6グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸74cm、短軸68cm、深さ16cmの略円形で、底部は椀状である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 19 J 土坑 (第74図)

西側調査区J-11グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。北側は攪乱で壊されているため全容は不明だが、推定で径84cmの略円形で、底部は深さ16cmの皿状である。覆土は単層である。覆土上部から礫片5点が出土した。

S K 20 J 土坑 (第74図、図版25-2・3)

西側調査区D-12グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸1.36m、短軸60cmの楕



SK 12 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 褐色土 (10YR4/4) ローム粒 (径 1～2mm) を多量含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 1 にロームブロック (径 1～5cm)・赤色スコリア粒 (径 2～3mm) を少量含む。締まりあり。

SK 13 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 1 にロームブロック (径 1～5cm)・赤色スコリア粒 (径 2～3mm) を少量含む。締まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1～2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 4 褐色土 (10YR4/4) ローム粒 (径 1～2mm) を多量含む。締まりあり。
- 5 暗褐色土 (10YR4/6) ローム粒 (径 1～2mm) を多量含む。締まりあり。

SK 14 J～16 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1～2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。

第 73 図 SK 12 J～16 J 土坑

円形で、東西両端に掘り込みを有する。西側は長軸 60cm、短軸 56cmの略円形で、底部は深さ 32cmの底の狭い椀状を呈する。東側は長軸 60cm、短軸 52cmの楕円形で、底部は深さ 28cmの椀状を呈する。覆土は黒褐色土主体である。遺物は含まない。

S K 21 J 土坑 (第74図)

西側調査区 F-8・9 グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸 1.06m、短軸 80cm、深さ 18cmの楕円形で、底部は椀状である。覆土は黒褐色土主体である。遺物は含まない。

S K 22 J 土坑 (第74図)

西側調査区 G-13 グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸 2.14m、短軸 1.12mの楕円形である。底部は深さ 26cmの椀状であるが南側に浅い掘り込みがある。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 23 J 土坑 (第74・82図、第32表、図版60-1)

東側調査区 A D-99 グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸 2.1m、短軸 1.32m、深さ 42cmの楕円形で、底部は椀状であるが底面は凹凸がある。覆土は単層である。覆土中から勝坂 3 式の土器片 1 点が出土した。

1 は深鉢口縁部片の突起部分である。口縁は外傾する。刻み目が加えられた隆帯による区画を配する。

S K 24 J 土坑 (第74図、図版25-4・5)

東側調査区 A C-101・102 グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ d 層である。長軸 80cm、短軸 0.64 m、深さ 0.3mの略円形で、底部は椀状である。覆土は黒褐色土主体である。遺物は含まない。

S K 25 J 土坑 (第74図)

東側調査区 A C-98 グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ d 層である。長軸 0.84m、短軸 60cm、深さ 24cmの楕円形で、底部は椀状である。覆土は単層である。遺物は含まない。

S K 26 J 土坑 (第75図)

東側調査区 A B-97 グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ d 層である。長軸 82cm、短軸 54cm、深さ 22cmの楕円形で、底部はやや歪んだ椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

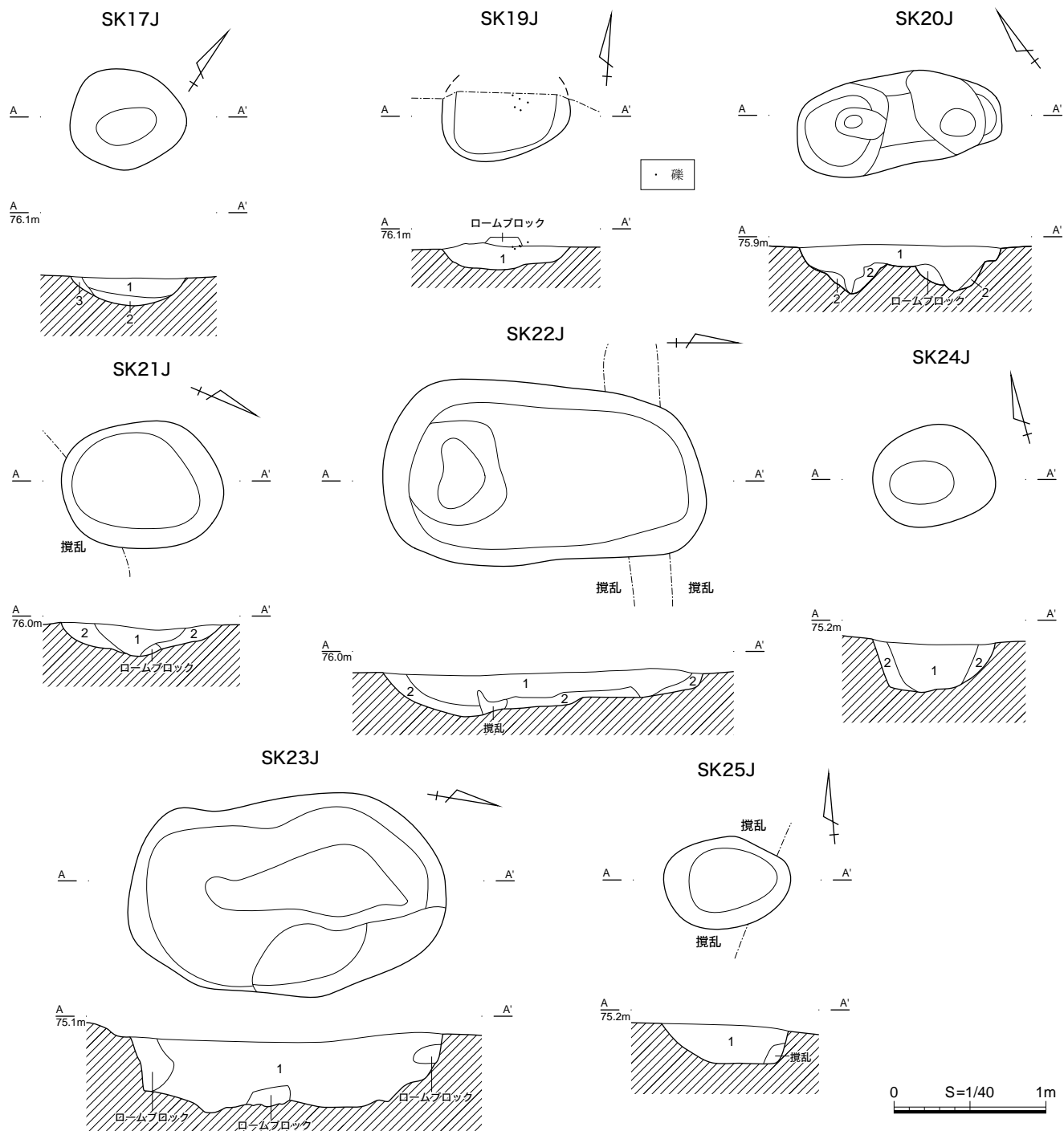
S K 27 J 土坑 (第75図、図版25-6・7)

東側調査区 A C・A D-97・98 グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ d 層である。長軸 78cm、短軸 38cm、深さ 22cmの楕円形で、底部は椀状である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 28 J 土坑 (第75・82図、第32表、図版25-8・26-1・60-3-2)

東側調査区 A J-92 グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ d 層である。長軸 1.1m、短軸 62cm、深さ 20cmの楕円形で、底部は椀状である。覆土は水平な堆積を示す。覆土から中期の土器片 3 点が出土した。

2 は加曾利 E 3 式の深鉢胴部片である。地文に単節 L R 縄文が斜め方向と横方向に施文された後、低い隆帯が配され両脇が磨り消される。



SK 17 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1~2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 3 褐色土 (10YR4/4) ローム粒 (径1~2mm) を多量含む。締まりあり。

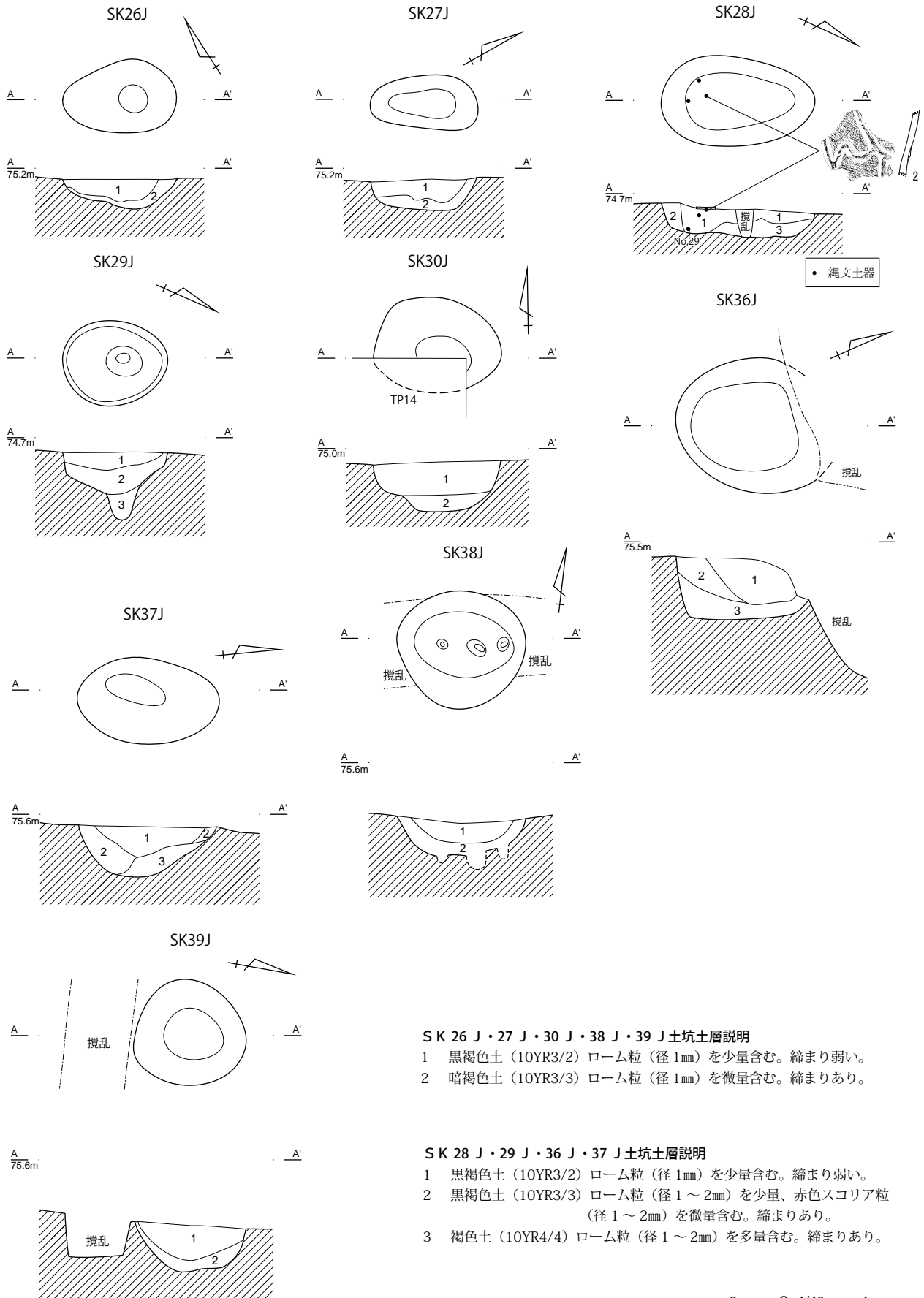
SK 20 J ~ 22 J ・ 24 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1mm) を微量含む。締まりあり。

SK 19 J ・ 23 J ・ 25 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量含む。締まり弱い。

第74図 SK 17 J ・ 19 J ~ 25 J 土坑



SK 26 J・27 J・30 J・38 J・39 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1mm) を微量含む。締まりあり。

SK 28 J・29 J・36 J・37 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1~2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 3 褐色土 (10YR4/4) ローム粒 (径1~2mm) を多量含む。締まりあり。

第75図 SK 26 J~30 J・36 J~39 J 土坑

S K 29 J 土坑 (第75図、図版26-2・3)

東側調査区A I-91・92グリッドに位置する。S K 28 Jに隣接する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸78cm、短軸60cmの楕円形である。底部は椀状を呈するが、中央に底部からの深さ48cmの小穴がある。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 30 J 土坑 (第75図)

東側調査区A D・A E-93・94グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層最下部である。旧石器試掘抗T P 14の調査で土坑を確認した。平面形は楕円で長軸92cm、推定で短軸70cmを測る。底部は深さ36cmの椀状である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 36 J 土坑 (第75図)

東側調査区T-91グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層最下部である。北側は攪乱で壊されている。平面形は推定で長軸1.2m、短軸1.0mの楕円と思われ、深さは42cmある。覆土は黒褐色土が主体である。遺物は含まない。

S K 37 J 土坑 (第75図、図版26-4・5)

東側調査区S-91グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層最下部である。長軸1.02m、短軸62cm、深さ34cmの楕円形で、底部は椀状である。覆土は黒褐色土が主体である。遺物は含まない。

S K 38 J 土坑 (第75図、図版26-6・7)

東側調査区W-93グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸92cm、短軸86cm、深さ22cmの略円形を呈する。底部は椀状であるが、小穴が3本掘り込まれている。小穴の規模は径10cm、深さ6～10cm程である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 39 J 土坑 (第75図)

東側調査区X-98グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸90cm、短軸76cm、深さ32cmの楕円形で、底部はやや歪んだ椀状をなす。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 40 J 土坑 (第76図)

東側調査区W-100グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸84cm、短軸72cm、深さ28cmの楕円形で、底部はやや歪んだ椀状である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 41 J 土坑 (第76図)

東側調査区Q・R-70グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸1.42m、短軸1.1m、深さ42cmの楕円形で、底部はやや歪んだ椀状を呈する。中央に底部からの深さ10cmの浅い小穴がある。覆土は黒褐色土が主体である。遺物は含まない。

S K 42 J 土坑 (第76図、図版26-8・27-1)

東側調査区N-72グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸1.4m、短軸1.16m、深さ46cmの楕円形である。底部は椀状で、小穴が5本掘り込まれている。小穴の規模は径12～20cm、深さ14～26cm程である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 43 J 土坑 (第76図)

東側調査区Z-70・71グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸102cm、短軸84cm、深さ42cmの略円形で、底部はやや歪んだ椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 44 J 土坑 (第76図)

東側調査区W-71グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸102cm、短軸89cm、深さ34cmの略円形で、底部は椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 45 J 土坑 (第76図)

東側調査区W-71グリッドに位置する。S K 44 J に隣接する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸118cm、短軸100cm、深さ30cmの楕円形で、底部は椀状を呈する。覆土は単層である。遺物は含まない。

S K 46 J 土坑 (第77図、図版27-2・3)

東側調査区R-71グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸90cm、短軸80cm、深さ46cmの略円形で、底部は椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 47 J 土坑 (第77図)

東側調査区P-72グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。東側の一部は攪乱で壊されているが、長軸64cm、短軸54cm、深さ32cmの略円形で、底部は椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 48 J 土坑 (第77図)

東側調査区J-87グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。西側の一部が壊されているが、長軸102cm、短軸98cm、深さ64cmの略円形で、底部は漏斗状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 49 J 土坑 (第77図、図版27-4・5)

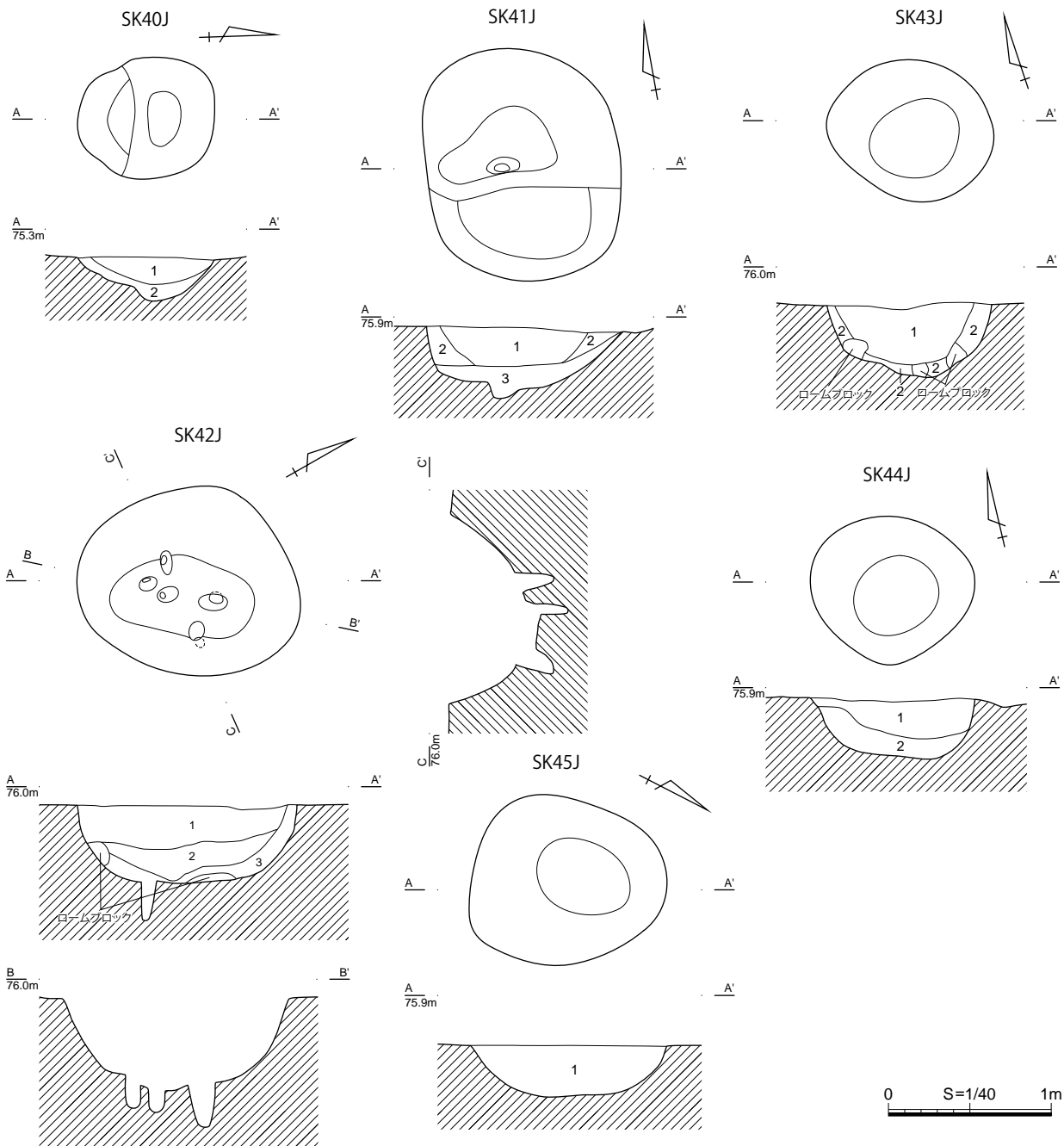
東側調査区K-87グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸86cm、短軸64cm、深さ42cmの楕円形で、底部は椀状である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 50 J 土坑 (第77図、図版27-6・7)

東側調査区J-77グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸130cm、短軸128cm、深さ74cmの略円形で、底部は筒状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 51 J 土坑 (第77図、図版27-8・28-1)

東側調査区L-88グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。径84cm、深さ74cmの円形で、底部は椀状である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。



SK 40 J・43 J・44 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック (径 2～3cm) を少量、ローム粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。

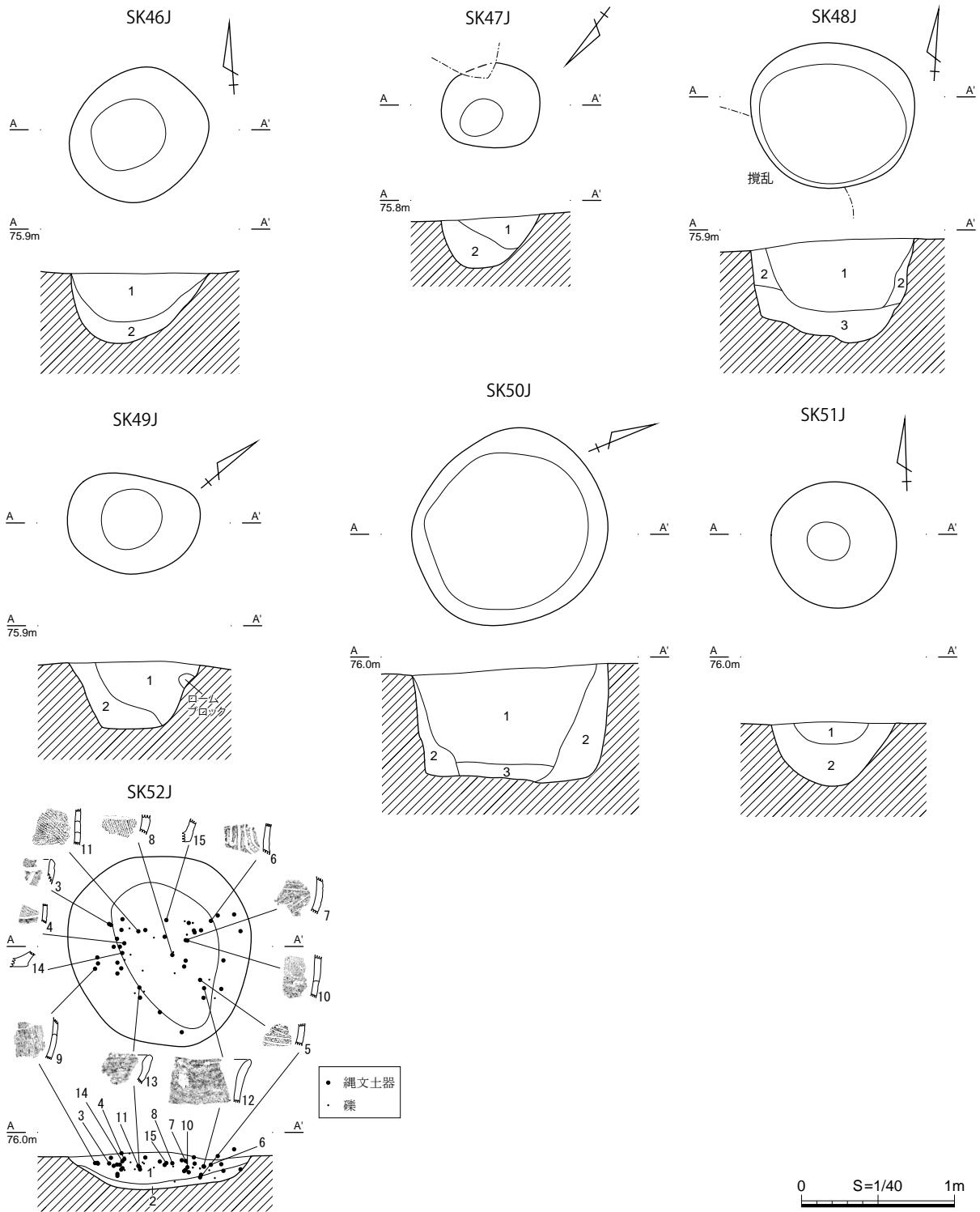
SK 41 J・42 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1～2mm)・ロームブロック (径 1～2cm) を少量含む。締まりあり。
- 3 褐色土 (10YR4/4) ローム粒 (径 1～2mm) を多量含む。締まりあり。

SK 45 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。

第 76 図 SK 40 J～45 J 土坑



SK 46 J・47 J・49 J・51 J・52 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック (径 2～3cm) を少量、ローム粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。

SK 48 J・50 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1～2mm)・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量、ロームブロック (径 2～3cm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) 1 と同質だが、ロームブロック (径 5cm) を多量に含む。締まりあり。

第 77 図 SK 46 J～52 J 土坑

S K 52 J 土坑 (第77・82図、第32表、図版28-2~4・60-3~15)

東側調査区M-82グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸128cm、短軸118cm、深さ24cmの略円形で、底部は浅い皿状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。覆土から中期の土器片40点、礫19点が出土した。他の土坑に比べ遺物量は多く、廃棄場所として利用していた事が考えられる。

3~11は加曾利E3式の深鉢である。3は口縁部片、4~11は胴部片である。3は波状口縁でやや内傾する。地文に縄文(原体不明)を施した後、沈線区画を配し、沈線間の縄文を磨り消す。4は地文に単節RL縄文を施した後、沈線区画を配する。表面は磨り消し縄文。5は沈線区画を配し、表面は磨り消し縄文。6は地文に単節LR縄文を施した後、縦方向に沈線による蕨手状文が縦方向に施文される。表面は磨り消し縄文。7は横方向と縦方向に沈線が施される。8は上部に横方向の沈線、下部に斜め方向の沈線が施文される。9・10は縦方向に条線が施され、10の下部は無文である。11は地文に単節LR縄文が羽状に施文され、一部縄文を磨り消す。12~15は加曾利E式の深鉢である。12・13は口縁部片で表面は無文である。14・15は底部片である。

S K 56 J 土坑 (第78図)

東側調査区I-80グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸154cm、短軸142cm、深さ44cmの楕円形で、底部は筒状を呈する。覆土は黒褐色土が主体である。覆土から礫が2点出土した。

S K 57 J 土坑 (第78・82図、第30表、図版28-5・6・60-16)

東側調査区M-98グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層最下部である。長軸204cm、短軸100cm、深さ82cmの不整楕円形で、底部は歪んだ漏斗状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。覆土から中期の土器片1点が出土した。

16は阿玉台式の深鉢胴部片である。隆帯による区画が配され、隆帯に沿って外側は角押文、内側は三角押文が施される。

S K 58 J 土坑 (第78図)

東側調査区K-96グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸106cm、短軸86cm、深さ28cmの楕円形で、底部は歪んだ椀状を呈する。南西側に浅い掘り込みがある。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 59a J・59b J 土坑 (第78図、図版28-7・8)

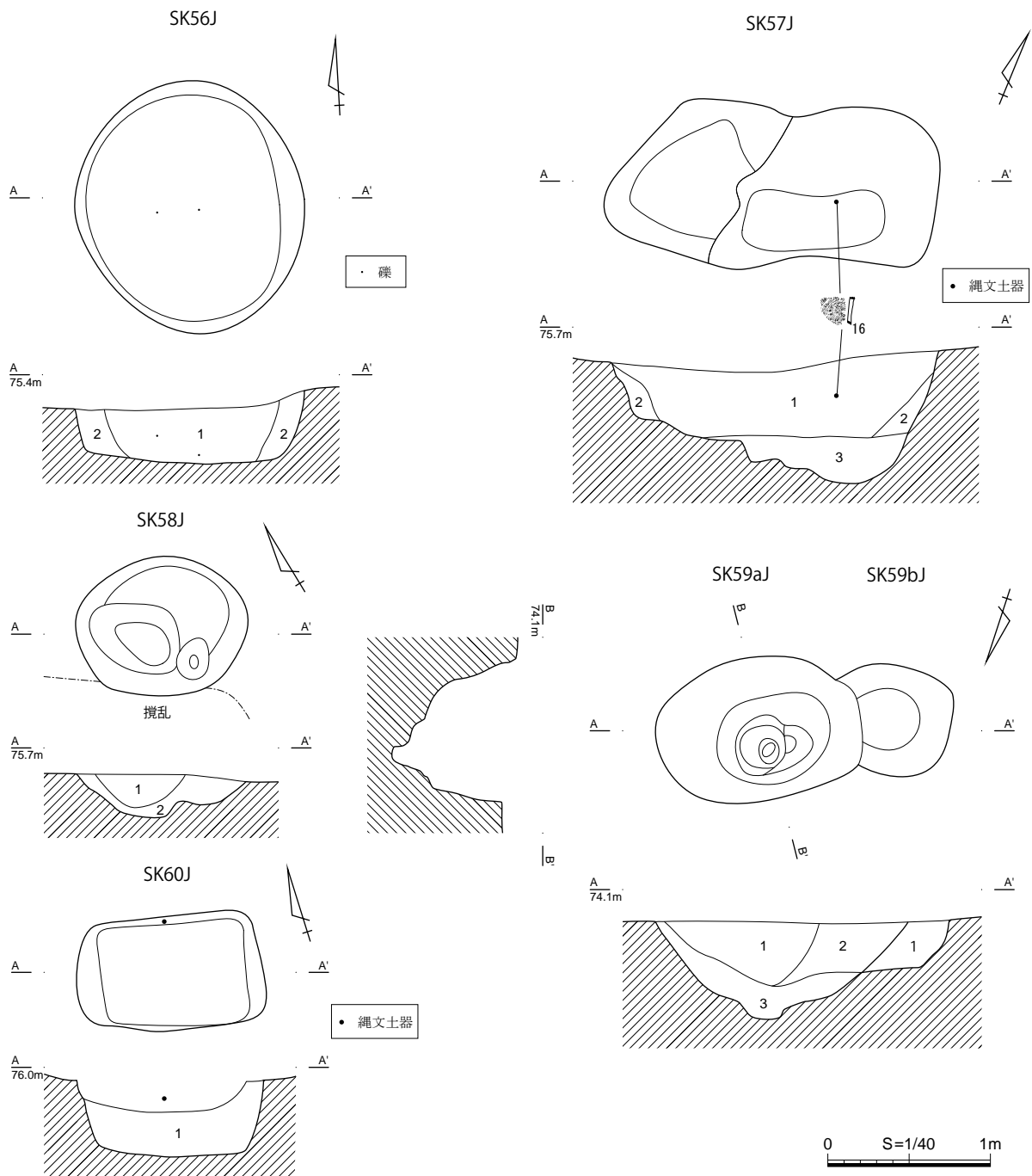
東側調査区AL-86グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。S K 59a J 土坑は長軸128cm、短軸88cm、深さ60cmの楕円形で、底部はやや歪んだ漏斗状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。S K 59b J 土坑を壊している。S K 59b J 土坑は径70cm、深さ28cmの略円形を呈する。いずれも遺物は含まない。

S K 60 J 土坑 (第78図)

東側調査区P-63グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸112cm、短軸70cm、深さ46cmの長方形で、底部は筒状を呈する。覆土は単層である。覆土から中期の土器片1点が出土した。

S K 61 J 土坑 (第79図)

東側調査区O-63グリッドに位置する。S K 60 J に隣接する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸



SK 56 J・58 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1~2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 黄褐色土 (10YR5/8) ローム粒 (径 1~2mm)・赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を微量含む。締まりあり。

SK 57 J・59a J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1~2mm)・赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1~2mm) を少量含む。締まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1~2mm) を多量含む。締まりあり。

SK 60 J・59b J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック (径 3mm) を微量、ローム粒 (径 1mm) を少量含む。最下部はローム粒が多量に混在する。締まり弱い。

第 78 図 SK 56 J~60 J 土坑

88cm、短軸80cm、深さ18cmの略円形で、底部は筒状である。覆土は単層である。遺物は含まない。

S K 62 J 土坑 (第79図、図版29-1・2)

東側調査区N-62・63グリッドに位置する。S K 61 J に隣接する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸80cm、短軸48cm、深さ26cmの楕円形で、底部は椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 63 J 土坑 (第79図)

東側調査区R-67グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。北側はS D 12溝状遺構に壊されている。平面形は推定で楕円形を呈する。確認された長さは120cm、幅42cmで、底部は深さ40cmの歪んだ筒状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 64 J 土坑 (第79図)

東側調査区J-62グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸122cm、短軸92cm、深さ40cmの長方形で、底部は筒状を呈する。覆土は単層である。覆土から中期の土器片1点が出土した。

S K 65 J 土坑 (第79図)

東側調査区K-62・63グリッドに位置する。S K 64 J に隣接する。掘り込み面は第Ⅱd層である。長軸152cm、短軸116cm、深さ34cmの楕円形で、底部はやや歪んだ椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 66 J 土坑 (第79図、図版29-3・4)

東側調査区R・S-54グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層最下部である。攪乱で東西が壊されているが、平面形は推定で、径1.2m程の西側が張り出す略円形を呈する。底部は深さ62cmで、中位がやや張る袋状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 67 J 土坑 (第79図、図版29-5・6)

東側調査区T-56・57グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層最下部である。平面形は径100cm程のやや歪んだ円形である。底部は深さ30cmの椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 68 J 土坑 (第79図、図版29-7・8)

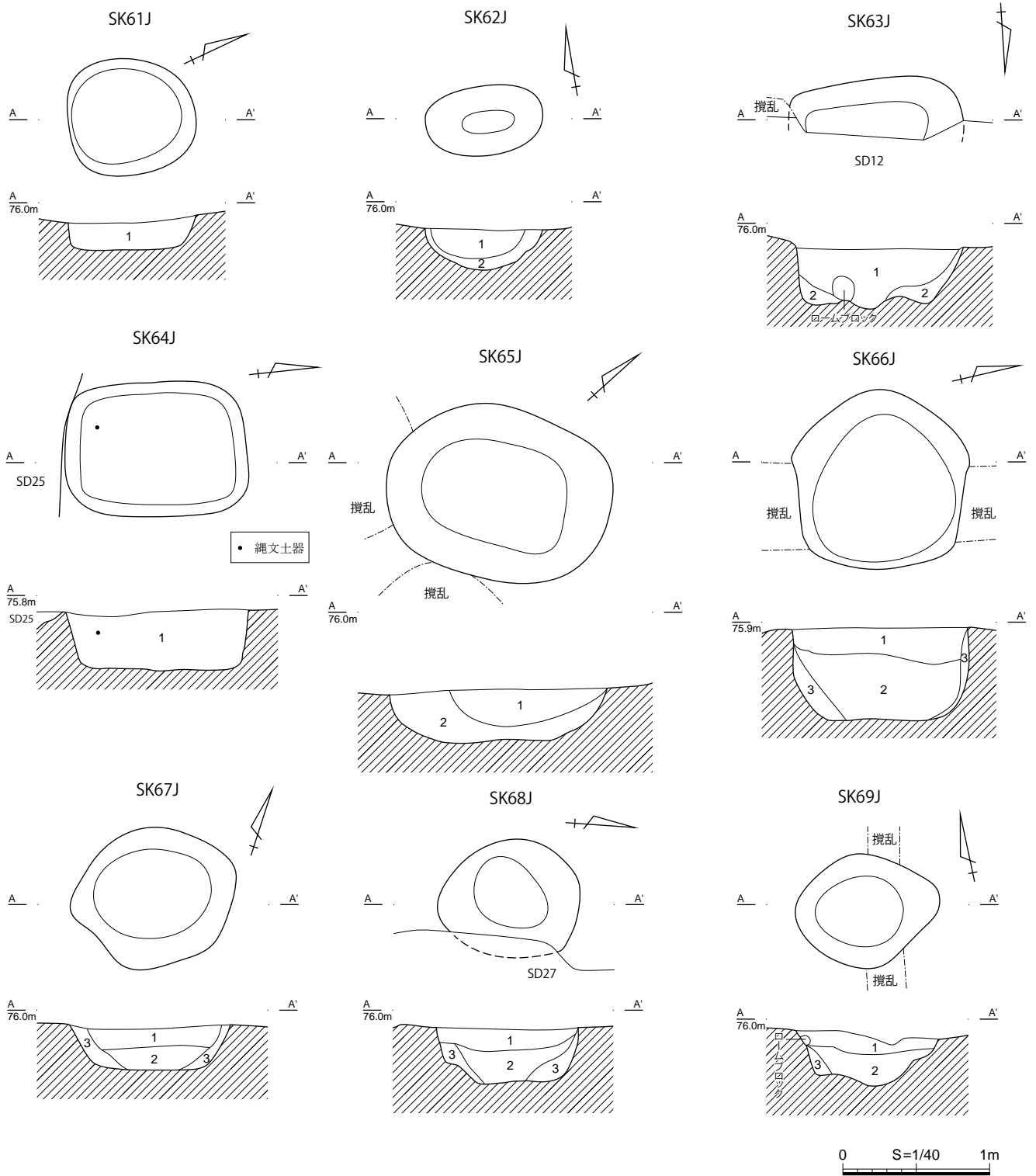
東側調査区S-57グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層最下部である。東側はS D 27溝状遺構に壊されている。平面形は推定で、径100cm程の略円形を呈する。底部は深さ34cmのやや歪んだ椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 69 J 土坑 (第79図)

東側調査区S-59グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層最下部である。長軸98cm、短軸76cm、深さ36cmの楕円形で、底部はやや歪んだ椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 70 J 土坑 (第80図)

東側調査区R・S-56グリッドに位置する。S K 67～70 J は近接する。掘り込み面は第Ⅱd層であ



SK 61 J・64 J 土坑土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まり弱い。

SK 62 J・63 J・65 J 土坑土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。

2 褐色土 (10YR4/6) ローム粒 (径 1~2mm) を多量含む。締まりあり。

SK 66 J~69 J 土坑土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1~2mm)・赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を少量含む。締まりあり。

2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1~2mm) を少量含む。締まりあり。

3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1~2mm) を多量含む。締まりあり。

第 79 図 SK 61 J~69 J 土坑

るが、S D 28 溝状遺構に壊されている。平面は径 1 m 程の歪んだ略円形を呈する。断面は深さ 42cm の筒状である。覆土は黒褐色土が主体である。遺物は含まない。

S K 71 J 土坑 (第80図、図版30-1・2)

東側調査区 X-53 グリッドに位置する。掘り込み面は第 II 層が削平されているため第 III 層最上面である。長軸 70cm、短軸 54cm、深さ 24cm の楕円形で、底部は椀状を呈する。覆土は黒褐色土が主体である。遺物は含まない。

S K 72 J 土坑 (第80図、図版30-3・4)

東側調査区 I・J-57・58 グリッドに位置する。掘り込み面は第 II d 層である。長軸 106cm、短軸 92cm、深さ 40cm の楕円形で、底部はやや歪んだ椀状を呈する。覆土は黒褐色土が主体である。遺物は含まない。

S K 73 J 土坑 (第80図)

東側調査区 N・O-56・57 グリッドに位置する。掘り込み面は第 II d 層である。S D 27 溝状遺構に東側を壊されている。正確な大きさ・深さは不明であるが、長さ 120cm、幅 90cm、深さ 40cm 程の楕円形と推定される。底部は東に偏っている。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 74 J 土坑 (第80図)

東側調査区 O・P-57 グリッドに位置する。掘り込み面は第 II d 層である。S D 27 溝状遺構に西側を壊されている。正確な大きさ・深さは不明であるが、幅 110cm、深さ 34cm の楕円形楕円形と推定される。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。S K 73 J に近接する。

S K 75 J 土坑 (第80図、図版30-5・6)

東側調査区 I-54 グリッドに位置する。掘り込み面は第 II d 層である。長軸 162cm、短軸 112cm、深さ 48cm の歪んだ楕円形で、底部は漏斗状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 76 J 土坑 (第80図)

東側調査区 L・M-52・53 グリッドに位置する。掘り込み面は第 II d 層である。南北の一部は攪乱で壊されている。長軸 154cm、短軸 1.12m、深さ 30cm の楕円形で、底部は皿状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 77 J 土坑 (第80図)

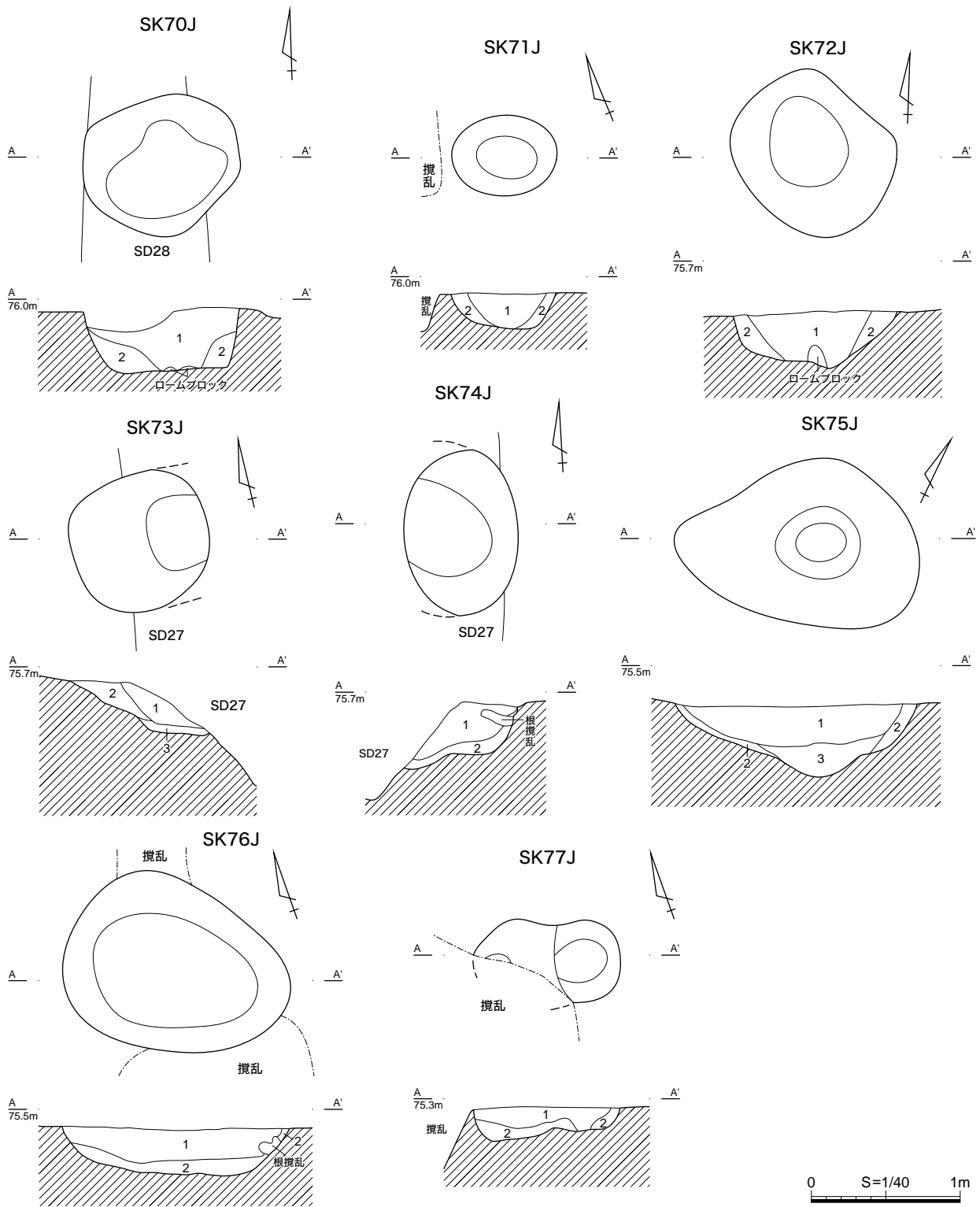
東側調査区 F・G-56・57 グリッドに位置する。掘り込み面は第 III 層最上面である。南西側は攪乱で壊されている。平面形は推定で、長さ 98cm、幅 52cm 程の楕円形を呈する。底部はやや歪んだ皿状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 78 J 土坑 (第81図、図版30-7・8)

東側調査区 R-49 グリッドに位置する。掘り込み面は第 II d 層である。長軸 188cm、短軸 140cm、深さ 58cm の楕円形で、底部は椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。覆土最上部から加曽利 E 式の土器片が 1 点出土した。

S K 79 J 土坑 (第81図、図版31-1・2)

東側調査区 M-49・50 グリッドに位置する。掘り込み面は第 II d 層である。西側の一部は S D 29 溝



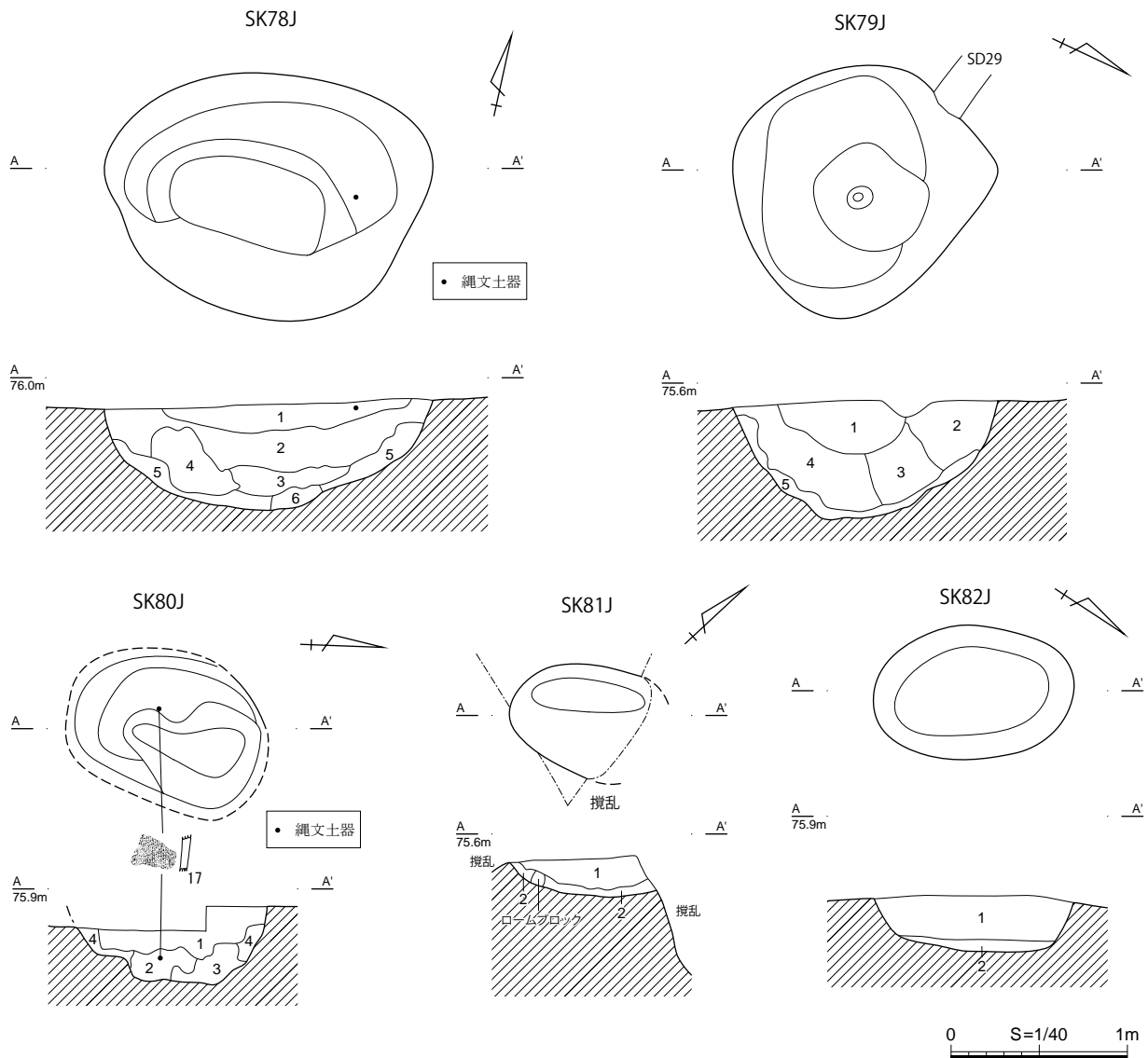
SK 70 J ~ 72 J ・ 74 J ・ 76 J ・ 77 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) ・ 赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) ・ 赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む。締まりあり。

SK 73 J ・ 75 J 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) ・ 赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) ・ 赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 3 褐色土 (10YR4/3) ローム粒 (径 1 ~ 3mm) を多量含む。締まりあり。

第 80 図 SK 70 J ~ 77 J 土坑



SK 78 J・79 J土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒 (径1~2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりやや弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1~2mm)・赤色スコリア粒 (径1~2mm) を少量含む。締まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1~3mm) を多量含む。締まりあり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1~2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック (径1~7cm) が混在する。締まりあり。
- 6 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ※SK 78 J 大型のロームブロック (径10~15cm) と黒褐色土が混在する。締まり弱い。

SK 80 J土坑土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1~2mm) を多量含む。締まりあり。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒 (径1~2mm) を多量含む。締まりあり。
- 3 明黄褐色土 (10YR6/6) ロームの再堆積で褐色土が混在する。締まりあり。
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ロームと暗褐色土が混在する。赤色スコリア粒 (径1~3mm) を微量含む。締まりあり。

SK 81 J・82 J土坑土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 暗褐色土とロームが混在する。締まりあり。

第81図 SK 78 J~82 J土坑

状遺構に壊されている。長軸150cm、短軸142cm、深さ64cmの略円形で、底部は椀状を呈する。覆土は暗褐色土を主体とする。遺物は含まない。

S K 80 J 土坑 (第81・82図、第32表、図版60-3-17)

東側調査区R-49グリッドに位置する。S K 78 J に隣接する。掘り込み面は第Ⅲ層最上面である。推定で長軸120cm、短軸90cm、深さ42cmの楕円形で、底部は歪んだ椀状を呈する。南側はテラス状となる。覆土は暗褐色土が主体である。覆土から中期の土器片1点が出土した。

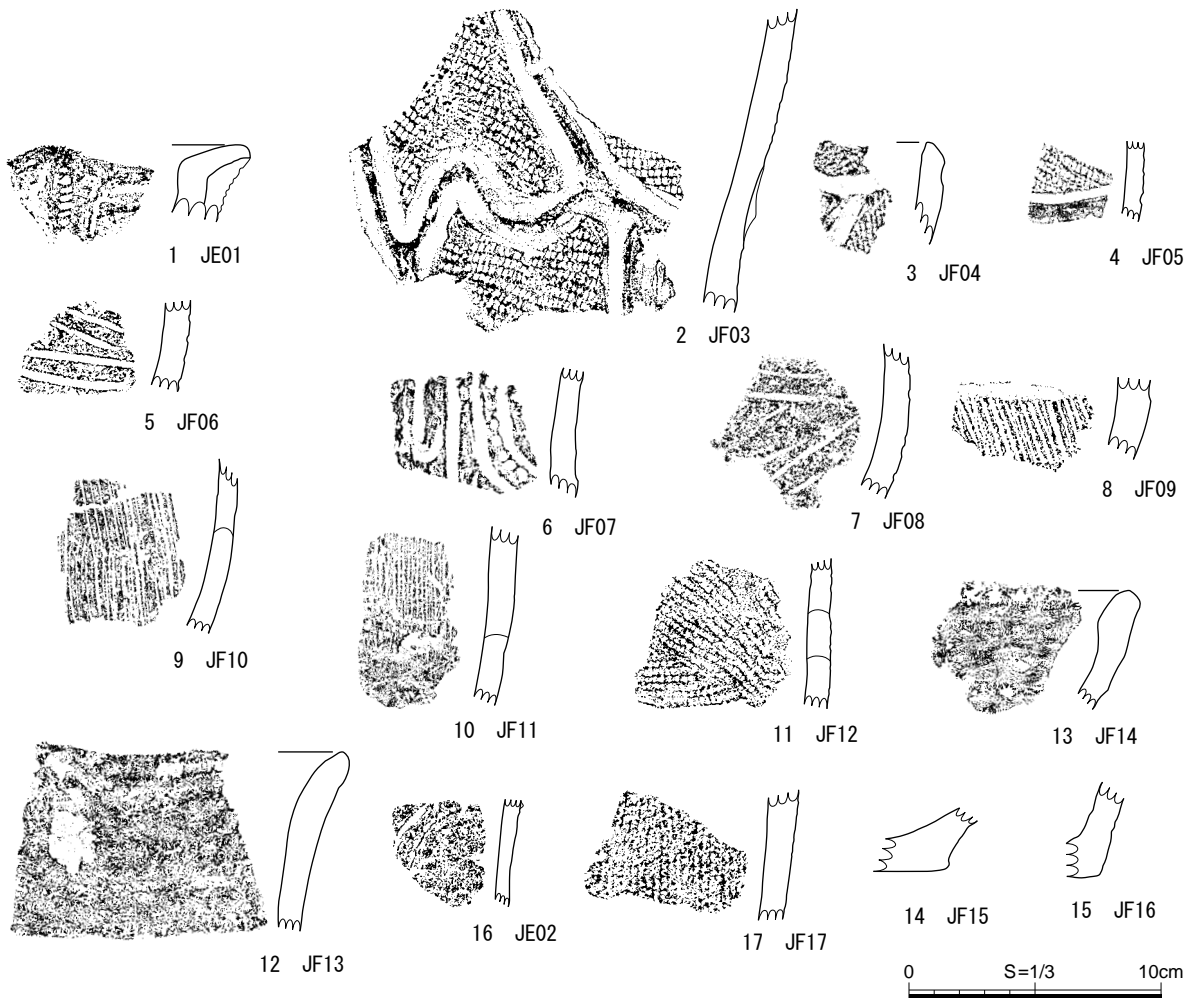
17は深鉢胴部片である。地文に単節R L 縄文が縦方向に施される。

S K 81 J 土坑 (第81図)

東側調査区K-49グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱd層である。東側は攪乱で壊されている。長軸844cm、幅64cm、深さ64cmの楕円形で、底部は椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S K 82 J 土坑 (第81図)

東側調査区L・M-75グリッドに位置する。掘り込み面は第Ⅱ層が削平されているため第Ⅲ層最上面である。長軸112cm、短軸76cm、深さ32cmの楕円形である。底部は椀状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。



第 82 図 土坑出土遺物

第 32 表 土坑出土縄文土器観察表

掲載番号 図版番号 図版番号	型式	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JE01 82-1 60-3-1	勝坂 3 式	深鉢	S K 23 J	— [4.3] —	口縁部片。突起部。 外傾する。	内面はやや丁寧な磨き。表面は隆帯による区画を配する。隆帯に刻み目。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
2 JF03 82-2 60-3-2	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 28 J	— [12.4] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は地文に単節 L R 縄文を斜位・横位に施文後、低い隆帯を波状に配する。隆帯脇は磨り消し縄文。	黄褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
3 JF04 82-3 60-3-3	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 52 J	— [4.0] —	口縁部片。波状口縁。やや内傾する。	内面はやや丁寧な磨き。表面は地文に原体不明の縄文。沈線による口縁区画を配する。沈線間は磨り消し縄文。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
4 JF05 82-4 60-3-4	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 52 J	— [3.2] —	胴部片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は地文に単節 R L 縄文施文後、沈線による区画を配する。磨り消し縄文。	黒褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
5 JF06 82-5 60-3-5	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 52 J	— [3.8] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は沈線による区画を配する。磨り消し縄文。	黒褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
6 JF07 82-6 60-3-6	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 52 J	— [4.9] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は地文に単節 L R 縄文を施文後、縦位に沈線を箠状に描く。沈線間は磨り消し縄文。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
7 JF08 82-7 60-3-7	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 52 J	— [6.3] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は横位・斜位に沈線を施文する。	黄褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・雲母を多量、5mm 大の石粒を微量含む。焼成は良好。
8 JF09 82-8 60-3-8	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 52 J	— [3.1] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は横位に沈線が巡り、沈線下に細沈線が斜位に施文される。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
9 JF10 82-9 60-3-9	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 52 J	— [6.2] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は縦方向に条線が施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
10 JF11 82-10 60-3-10	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 52 J	— [6.9] —	胴部片。胴下半部。	内面は丁寧な磨きだが、剥離著しい。表面は縦方向に条線が施され、下部は丁寧な磨き。	黒褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
11 JF12 82-11 60-3-11	加曾利 E 3 式	深鉢	S K 52 J	— [5.7] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。一部剥離。表面は地文に単節 L R 縄文が羽状に施される。部分的に磨り消す。	黄褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
12 JF13 82-12 60-3-12	加曾利 E 式	深鉢	S K 52 J	— [7.3] —	口縁部片。外傾する。口唇やや尖る。	内面はやや粗い磨き。表面は無文。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
13 JF14 82-13 60-3-13	加曾利 E 式	深鉢	S K 52 J	— [4.8] —	口縁部片。外傾する。口唇丸味。内面に稜あり。	内面は粗い磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
14 JF15 82-14 60-3-14	加曾利 E 式	深鉢	S K 52 J	— [2.3] —	底部片。	内面は粗い磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
15 JF16 82-15 60-3-15	加曾利 E 式	深鉢	S K 52 J	— [3.6] —	底部片。	内面は粗い磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
16 JE02 82-16 60-3-16	阿玉台式	深鉢	S K 57 J	— [4.4] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は細い隆帯による区画が配される。隆帯に沿って外側は角押文、内側は三角押文が施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
17 JF17 82-17 60-3-17	中期	深鉢	S K 80 J	— [4.6] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は地文に単節 R L 縄文が縦方向に施文される。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。

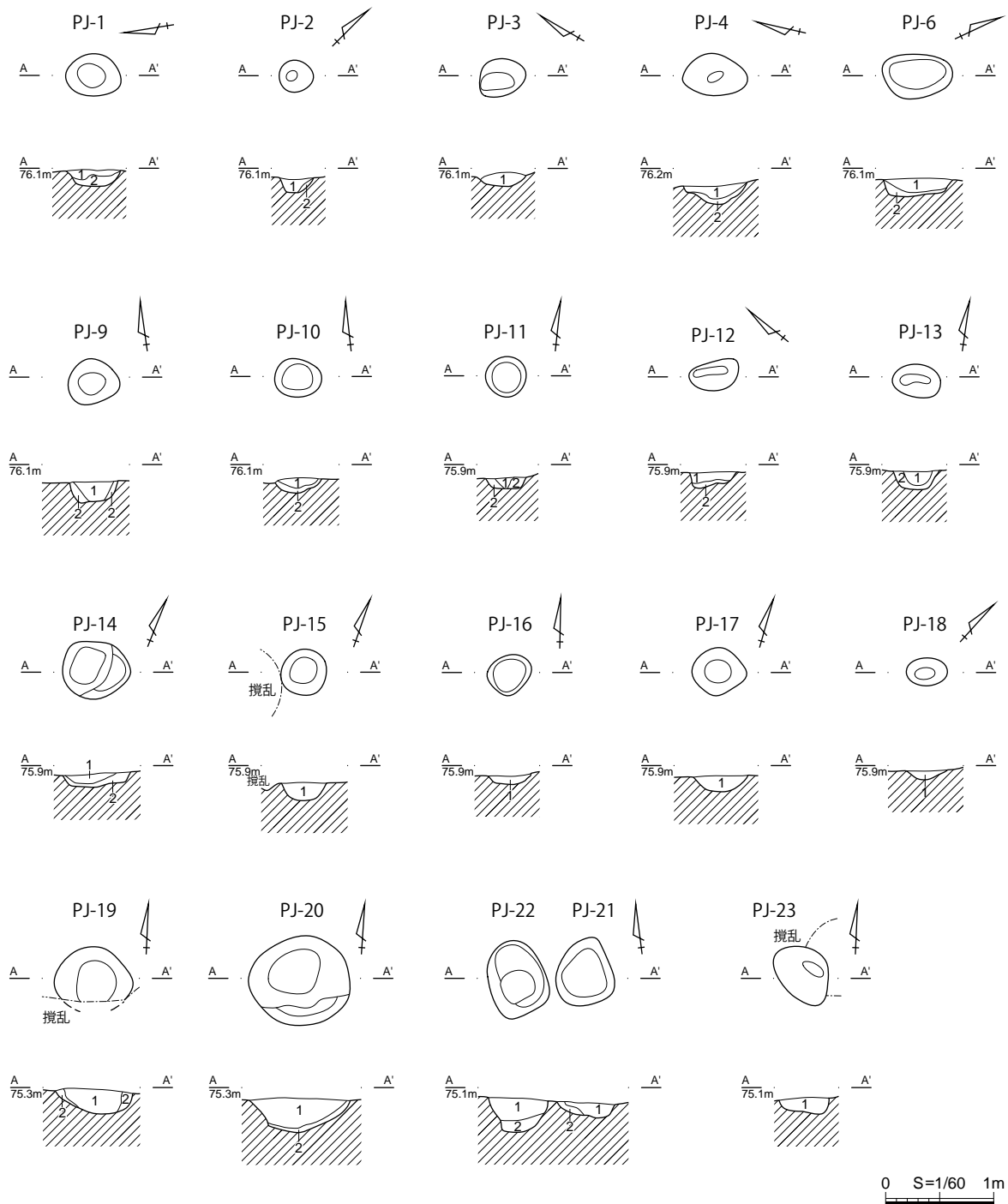
(5) 小穴

P J - 1 ~ 4・6・9 ~ 433・435 ~ 452 小穴 (第 83 ~ 103 図、第 33 ~ 40 表、図版 31-3 ~ 36-8・60-4-1・2)

縄文時代に属すると思われる小穴は、調査区全体で 448 基を確認した。径 15cm のものから 94cm まで規模は多様であるが、概ね浅く、柱穴と思われるような深さのある例は少ない。いずれも第 II 層下部から第 III 層上面にかけて掘り込み面が認められ、その多くは第 II c 層の暗褐色土を起源とする覆土をもつ径 1m 以内の小穴群である。

小穴の位置関係を見ると、西側調査区では調査区の南側に集中している。これは土坑のあり方に類似している。東側調査区においても調査区中央の北側は散漫に分布するが、希薄な部分を囲むかのように東西に集中的に分布している。特別な配列を構成する小穴群は見当たらない。

小穴内から遺物が出土した例はごく僅かである。P J - 277・431 から中期の土器片各 1 点、P J - 298 から中期の土器片 3 点、P J - 337 から加曾利 E 3 式の土器片 1 点が出土したほか、P J - 45・220・221・224 から礫が出土した。P J - 277・337 出土の土器各 1 点を図示する (第 103 図 1・2、第 33 表)。



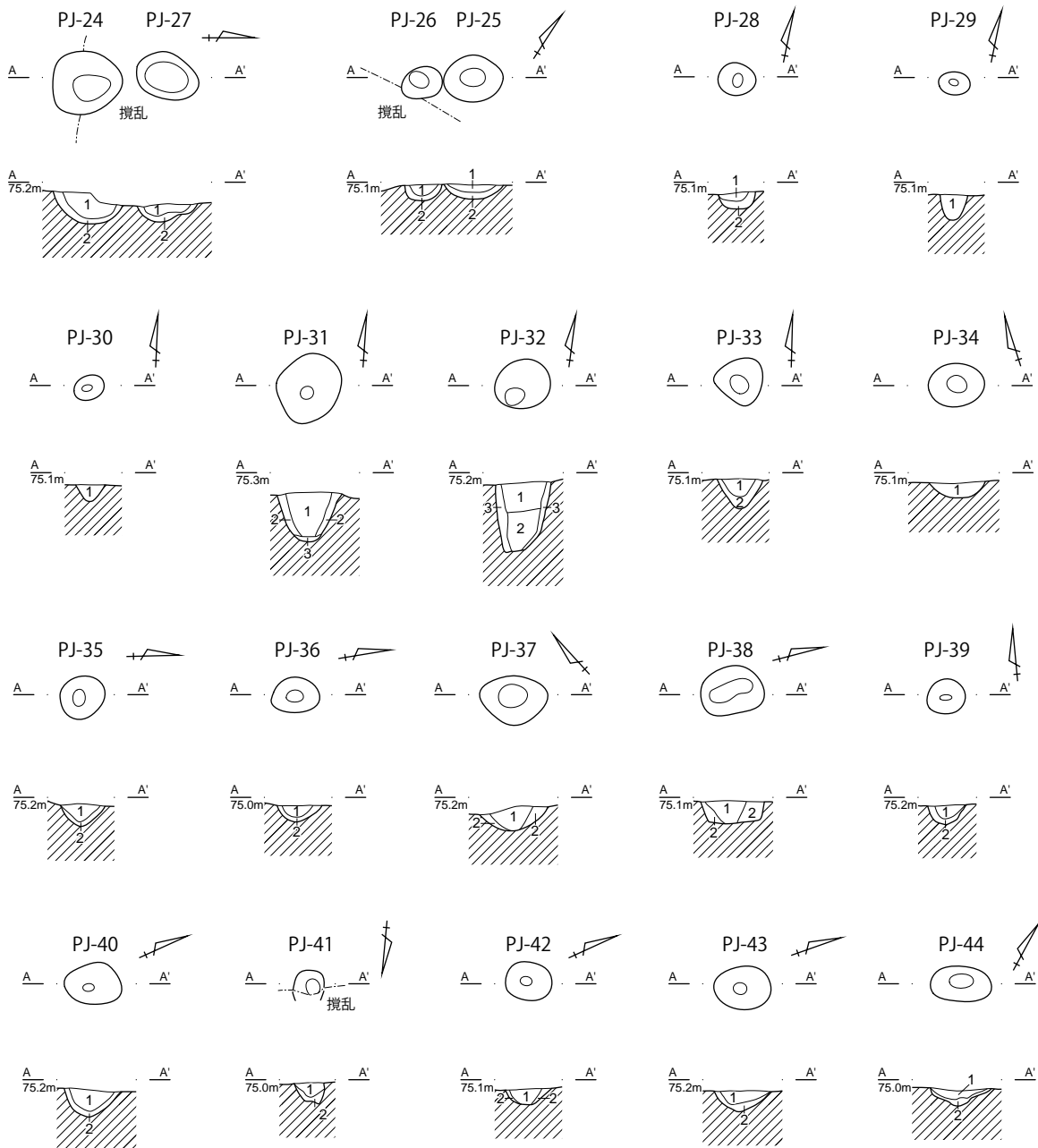
PJ-1・2・4・6・9～14・19～22 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-3・7・15～18・23 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。

第 83 図 PJ-1～23 小穴



0 S=1/60 1m

PJ-24 ~ 28・33・35 ~ 44 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 2cm) が混在する。締まりあり。

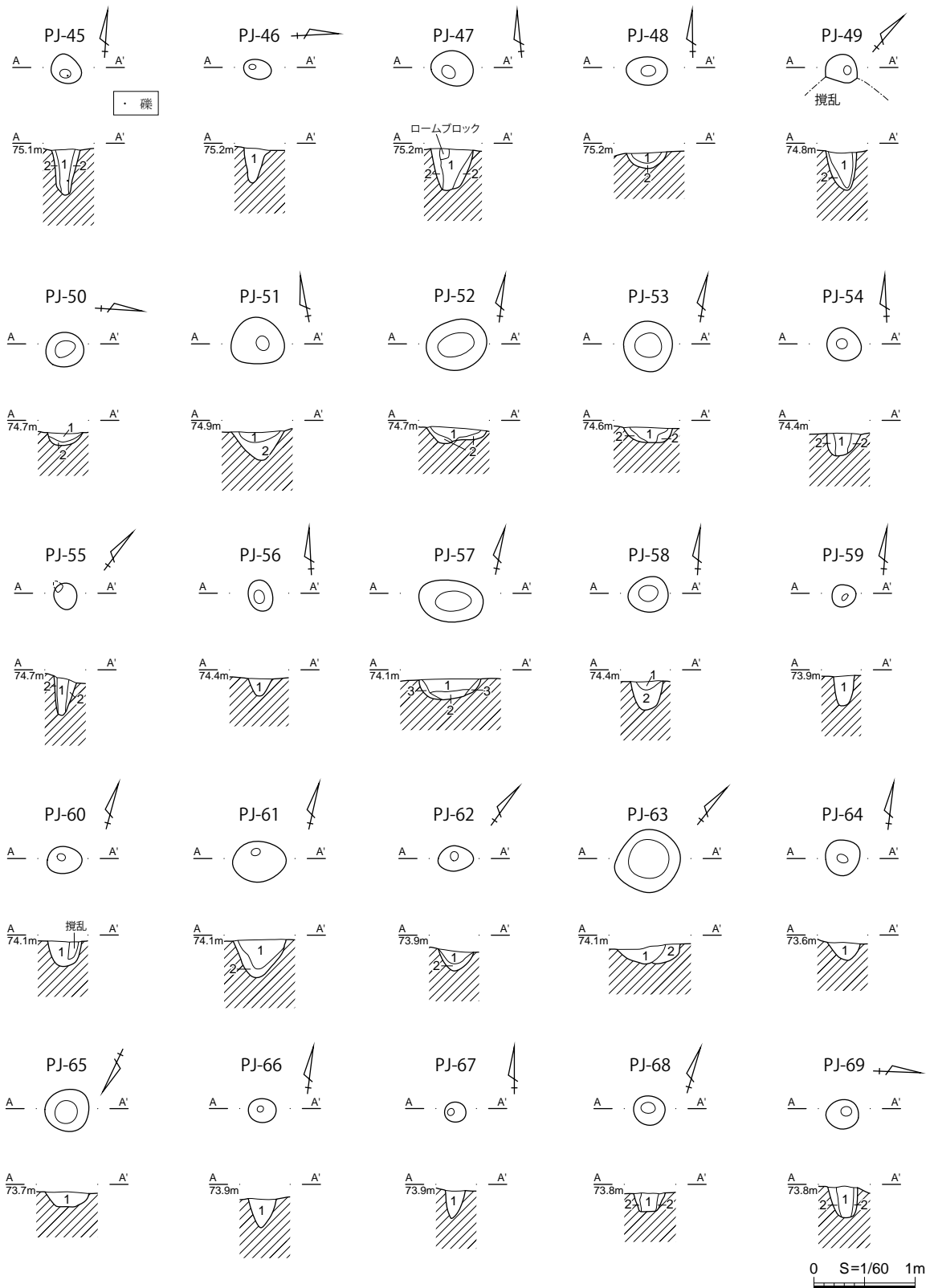
PJ-29・30・34 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む。締まりあり。

PJ-31・32 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1mm) ・赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) ・赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。締まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 2cm) が混在する。締まりあり。

第 84 図 PJ-24 ~ 44 小穴



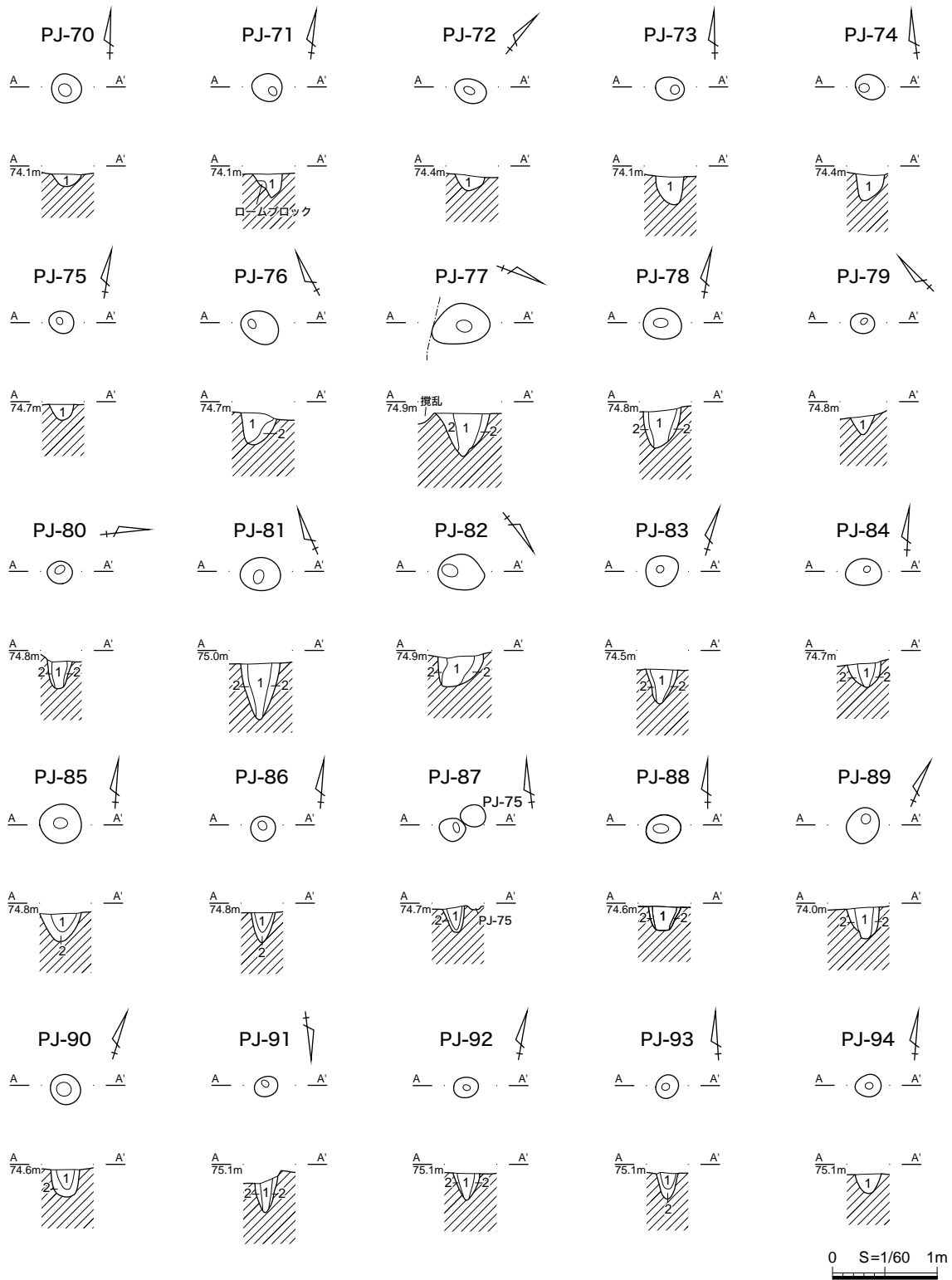
PJ-45・47～55・57・58・61～63・68・69 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-46・56・59・60・64～67 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) ・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。

第 85 図 PJ-45～69 小穴



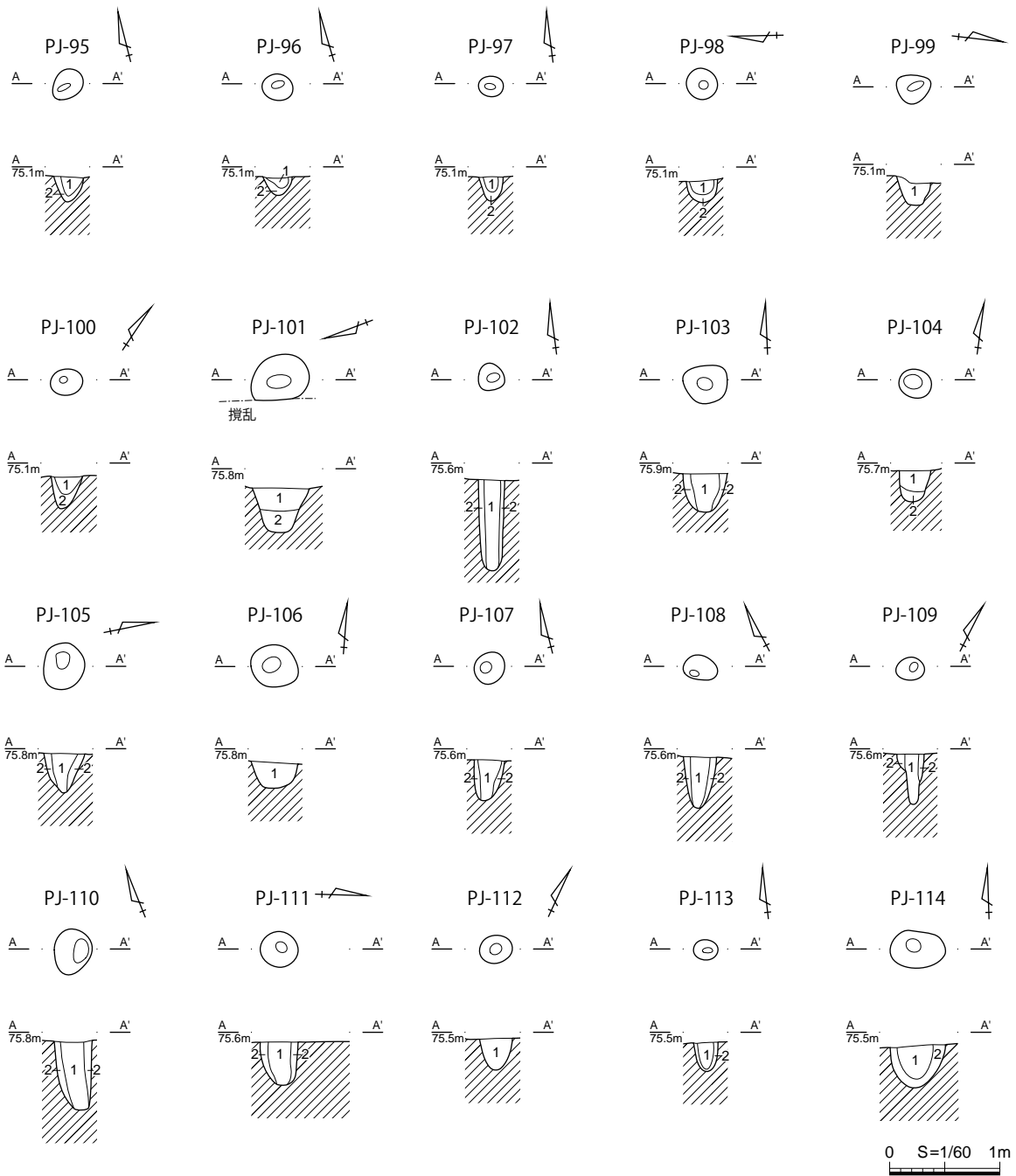
PJ-70～75・79・94 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm)・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。

PJ-76～78・80～93 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

第 86 図 PJ-70～94 小穴



PJ-95 ~ 98・100・101・104・113・114 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 2cm) が混在する。締まりあり。

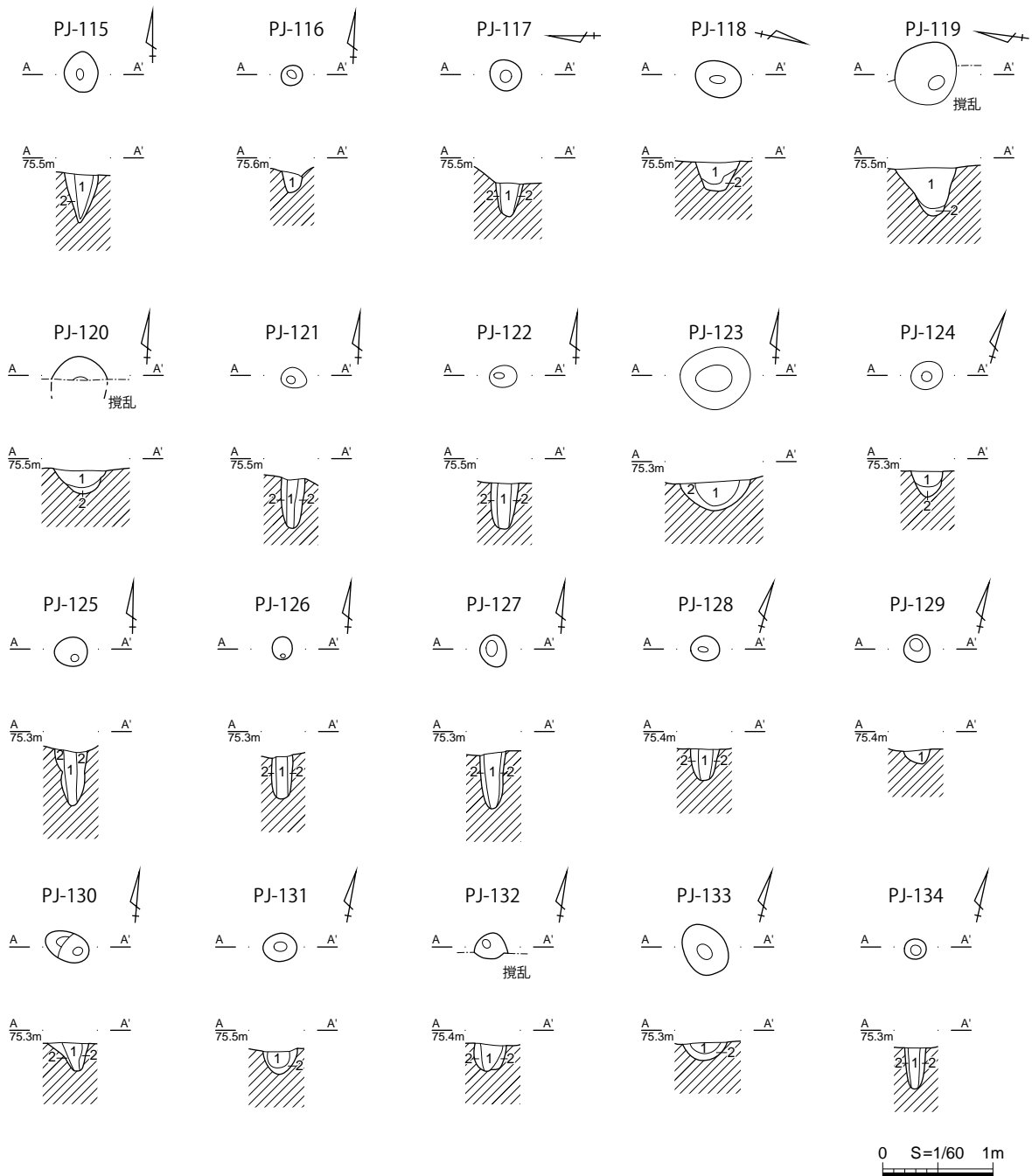
PJ-99・106・112 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) ・赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。締まりあり。

PJ-102・103・105・107 ~ 111 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) ・赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 2cm) が少量混在する。締まりあり。

第 87 図 PJ-95 ~ 114 小穴



PJ-117・121・122・125～128・130・132・134 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1mm) を少量含む。ロームブロック (径1～2cm) が混在する。締まりあり。

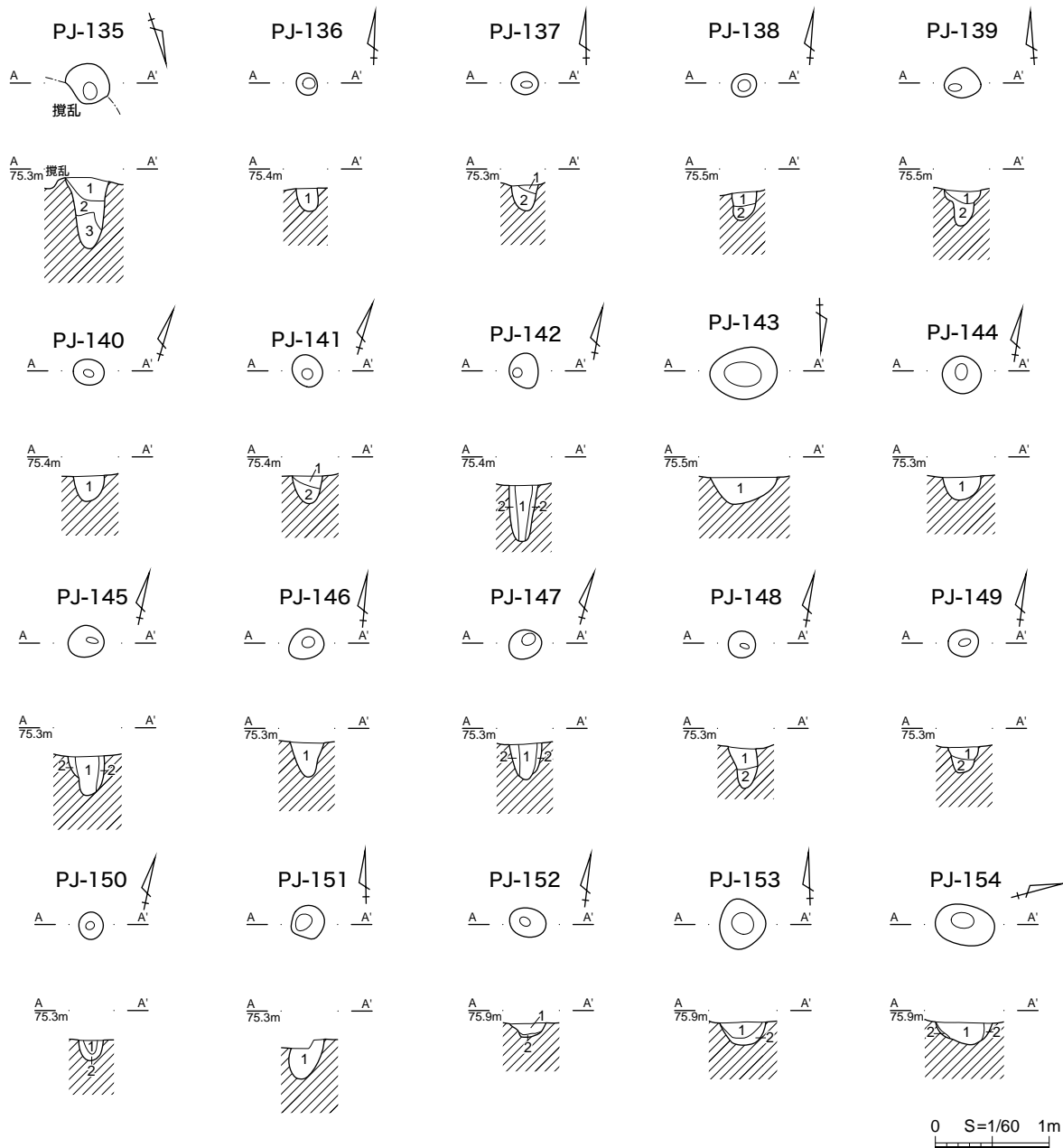
PJ-116・129 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1mm) ・赤色スコリア粒 (径1～2mm) を少量含む。締まりあり。

PJ-115・118～120・123・124・131・133 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1mm) を少量含む。ロームブロック (径1～2cm) が混在する。締まりあり。

第88図 PJ-115～134小穴



PJ-135 小穴土層説明

- 1 黒褐色土（10YR3/2） ローム粒（径1mm）を少量、赤色スコリア粒（径1～2mm）を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土（10YR3/4） ローム粒（径1mm）を少量含む。ロームブロック（径2～3cm）が多く混在する。締まりあり。
- 3 暗褐色土（10YR3/4） 2と同質だが、ロームブロックは減少する。締まりあり。

PJ-136・140・143・144・146・151 小穴土層説明

- 1 暗褐色土（10YR3/4） ローム粒（径1mm）・赤色スコリア粒（径1～2mm）を少量含む。締まりあり。

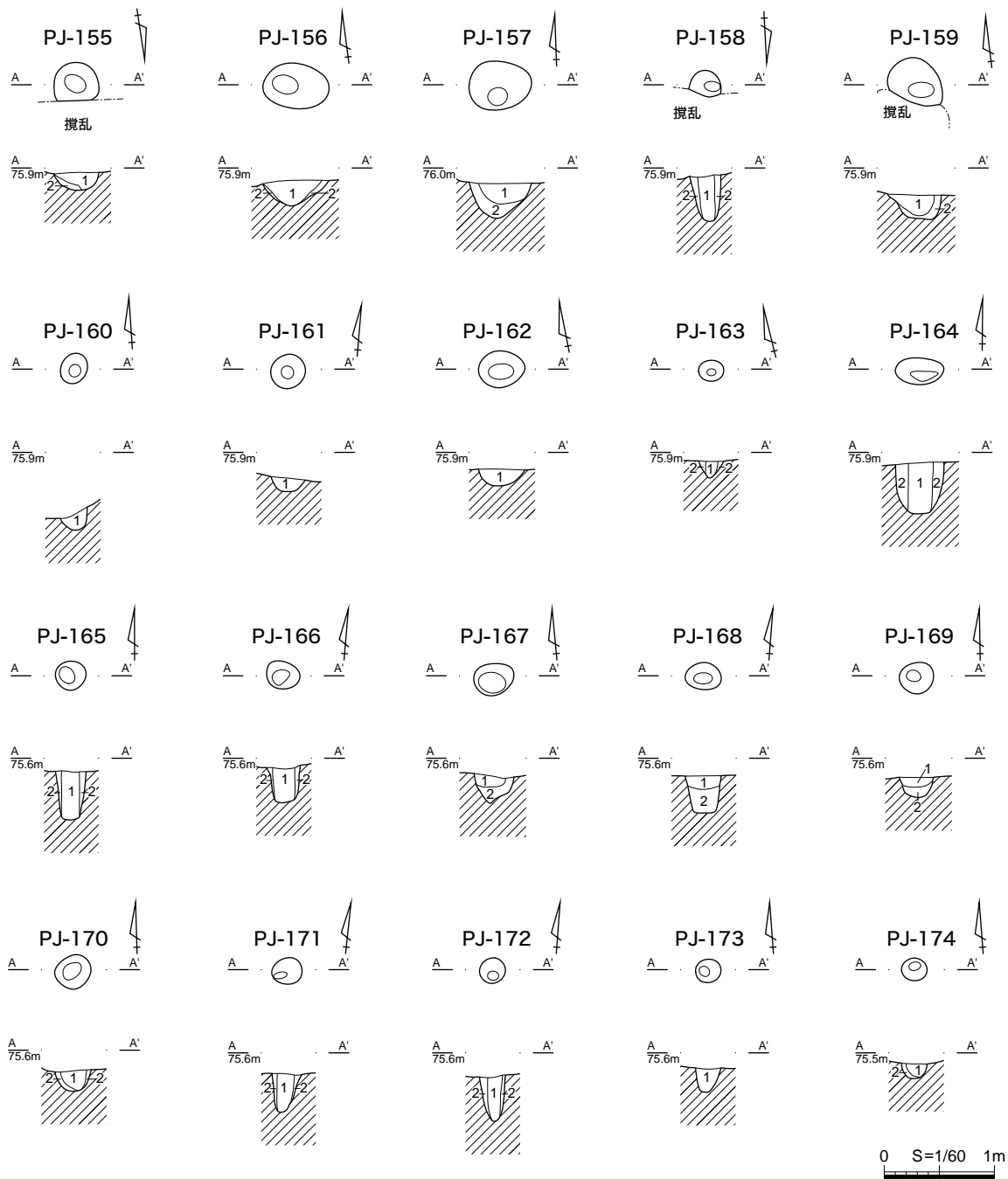
PJ-137～139・141・148～150・152～154 小穴土層説明

- 1 黒褐色土（10YR3/2） ローム粒（径1mm）を少量、赤色スコリア粒（径1～2mm）を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土（10YR3/4） ローム粒（径1mm）を少量含む。ロームブロック（径1～2cm）が混在する。締まりあり。

PJ-142・145・147 小穴土層説明

- 1 黒褐色土（10YR3/2） ローム粒（径1mm）を少量、赤色スコリア粒（径1～2mm）を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土（10YR3/3） ローム粒（径1mm）を少量含む。ロームブロック（径1～2cm）が混在する。締まりあり。

第89図 PJ-135～154小穴



PJ-155・157・159・167～169・174 小穴土層説明

- 1 黒褐色土（10YR3/2） ローム粒（径1mm）を少量、赤色スコリア粒（径1～2mm）を微量含む。縮まりあり。
- 2 暗褐色土（10YR3/4） ローム粒（径1mm）を少量含む。ロームブロック（径1～2cm）が混在する。縮まりあり。

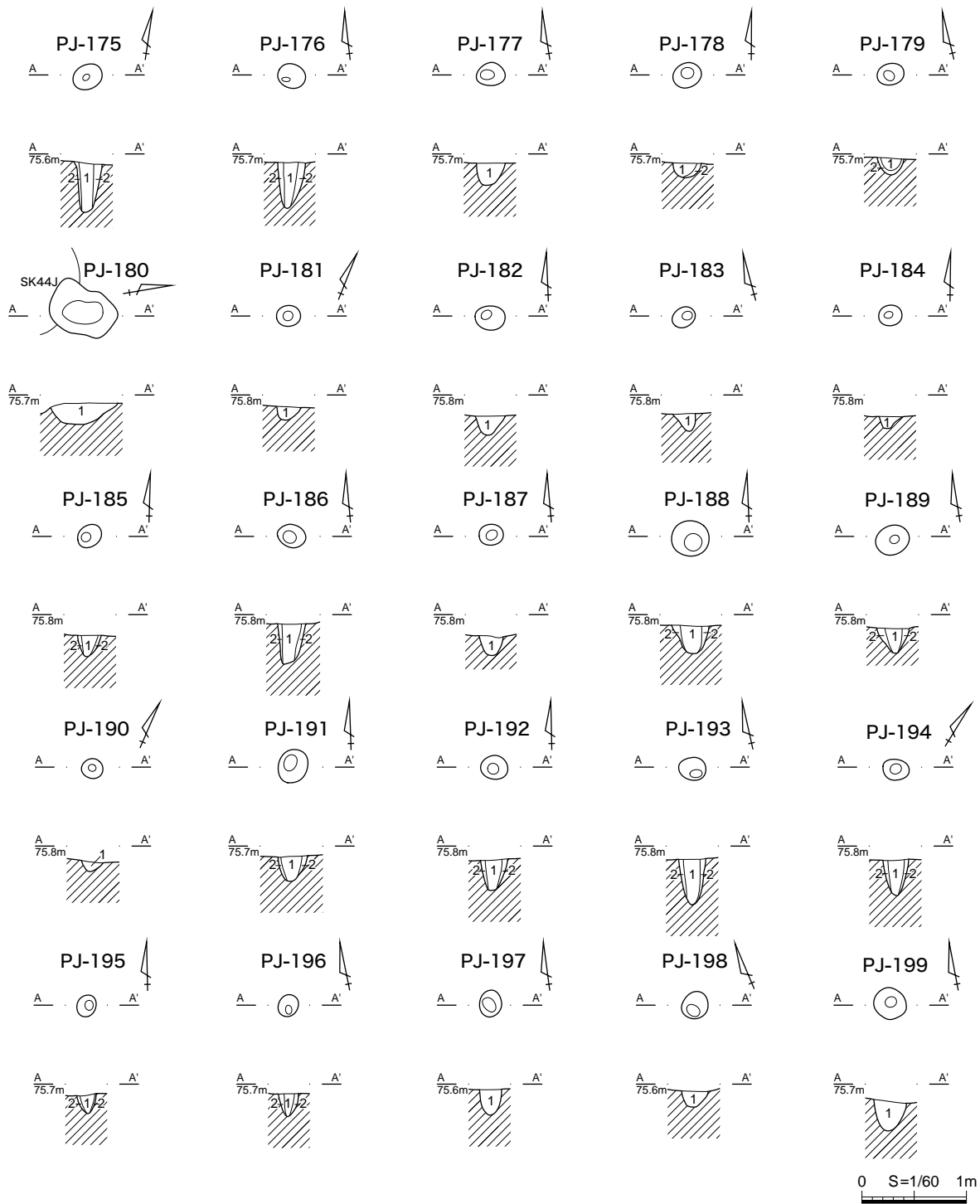
PJ-156・158・163～166・170～172 小穴土層説明

- 1 黒褐色土（10YR3/2） ローム粒（径1mm）を少量、赤色スコリア粒（径1～2mm）を微量含む。縮まりあり。
- 2 暗褐色土（10YR3/3） ローム粒（径1mm）を少量含む。ロームブロック（径1～2cm）が混在する。縮まりあり。

PJ-160～162・173 小穴土層説明

- 1 暗褐色土（10YR3/4） ローム粒（径1mm）・赤色スコリア粒（径1～2mm）を少量含む。縮まりあり。

第90図 PJ-155～174 小穴



PJ-175・176・185・186・188・189・191～196小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

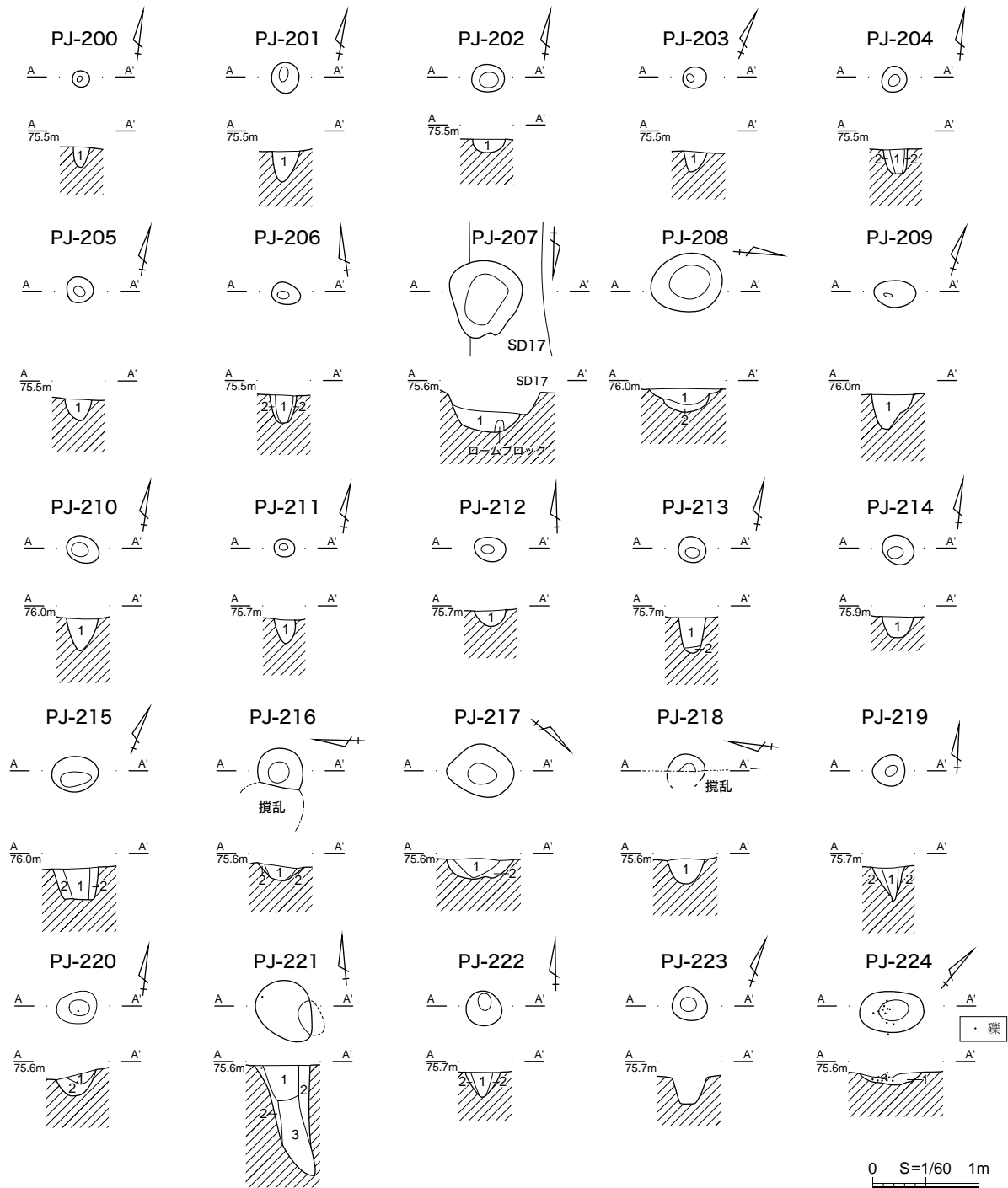
PJ-177・180～184・187・190・197～199小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) ・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。

PJ-178・179小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

第91図 PJ-175～199小穴



PJ-200～203・205・207・209～212・214・218 小穴土層説明

1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1mm)・赤色スコリア粒 (径1～2mm) を少量含む。締まりあり。

PJ-204・206・215・216・219・222 小穴土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1～2mm) を微量含む。締まりあり。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1mm) を少量含む。ロームブロック (径1～2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-224 小穴土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・赤色スコリア粒・炭化粒・焼土粒 (径1～2mm) を少量含む。締まりあり。

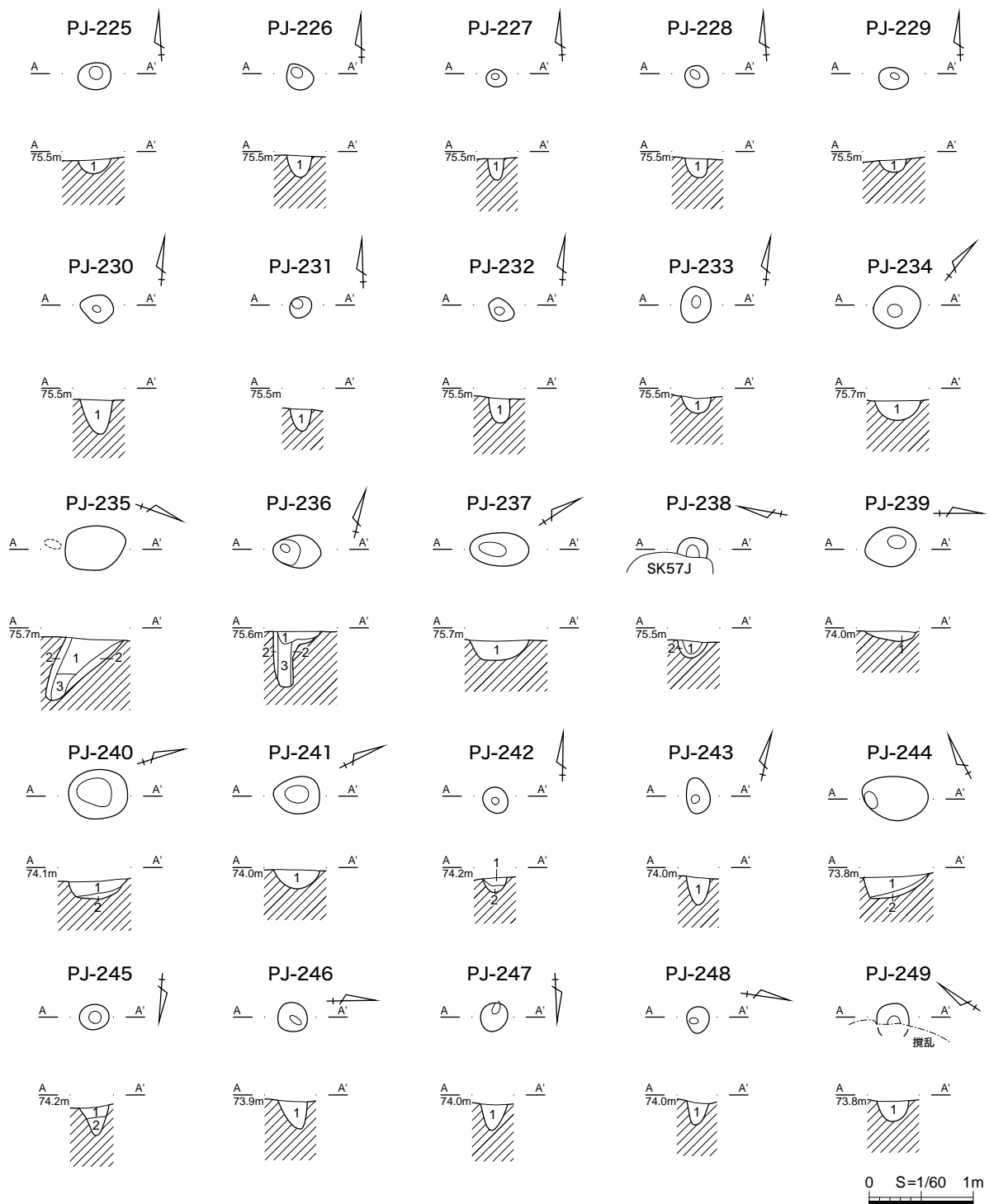
PJ-208・213・217・220 小穴土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1～2mm) を微量含む。締まりあり。
 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1mm) を少量含む。ロームブロック (径1～2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-221 小穴土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1～2mm) を微量含む。締まりあり。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1mm) を少量含む。ロームブロック (径1～2cm) が混在する。締まりあり。
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 2と同質だが、砂粒を多く含む脆弱。締まりなし。

第92図 PJ-200～224 小穴



PJ-225 ~ 234・237・239・241・243・246 ~ 249 小穴土層説明

1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1mm)・赤色スコリア粒 (径1~2mm) を少量含む。締まりあり。

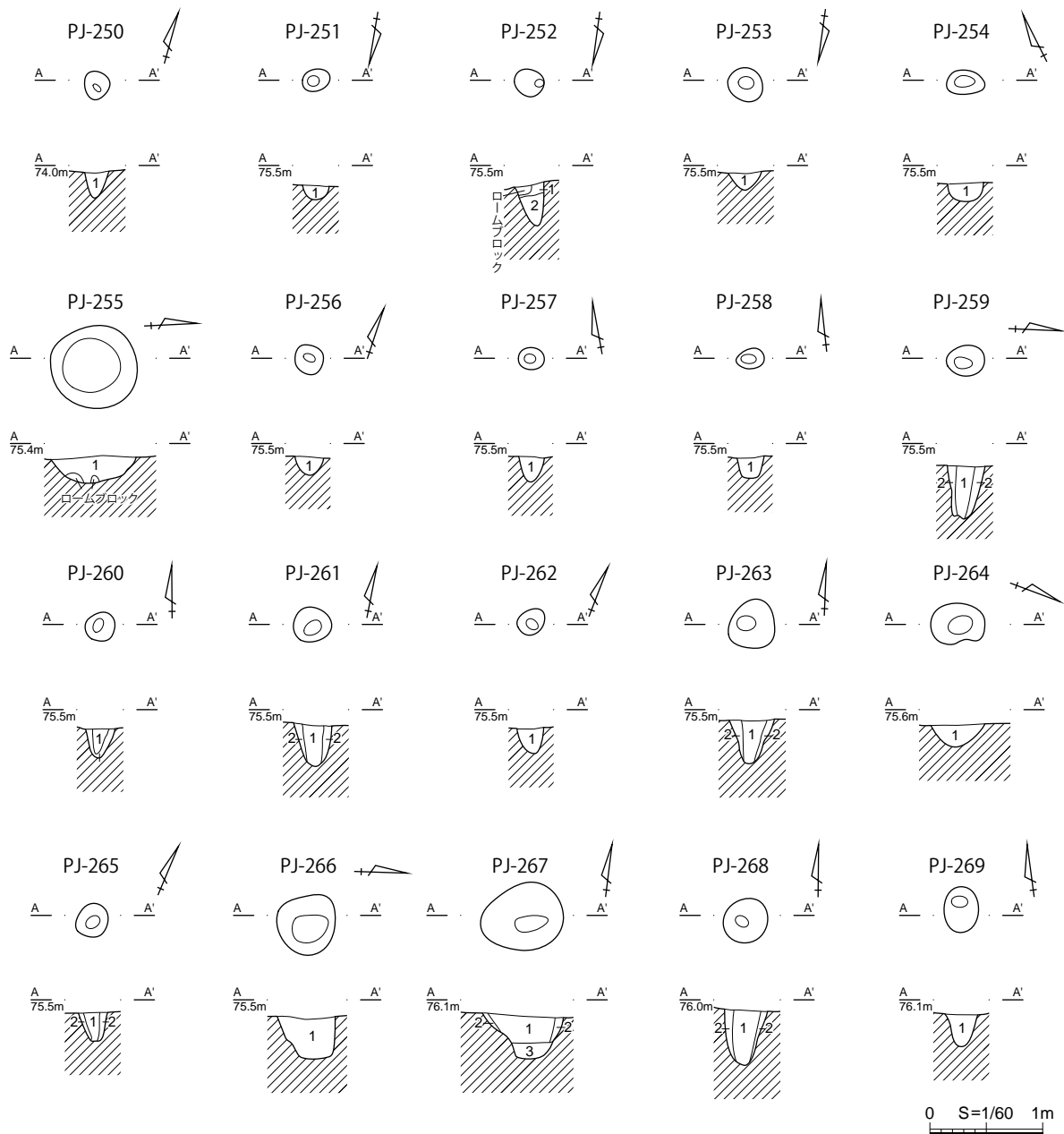
PJ-235・236 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1mm) を少量含む。ロームブロック (径1~2cm) が混在する。締まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 2と同質だが、砂粒を多く含む静寂。締まりなし。

PJ-238・240・242・244・245 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1mm) を少量含む。ロームブロック (径1~2cm) が混在する。締まりあり。

第93図 PJ-225 ~ 249 小穴



P J - 250・251・253～258・237・262・264・266・269 小穴土層説明

1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm)・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。

P J - 252・260 小穴土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

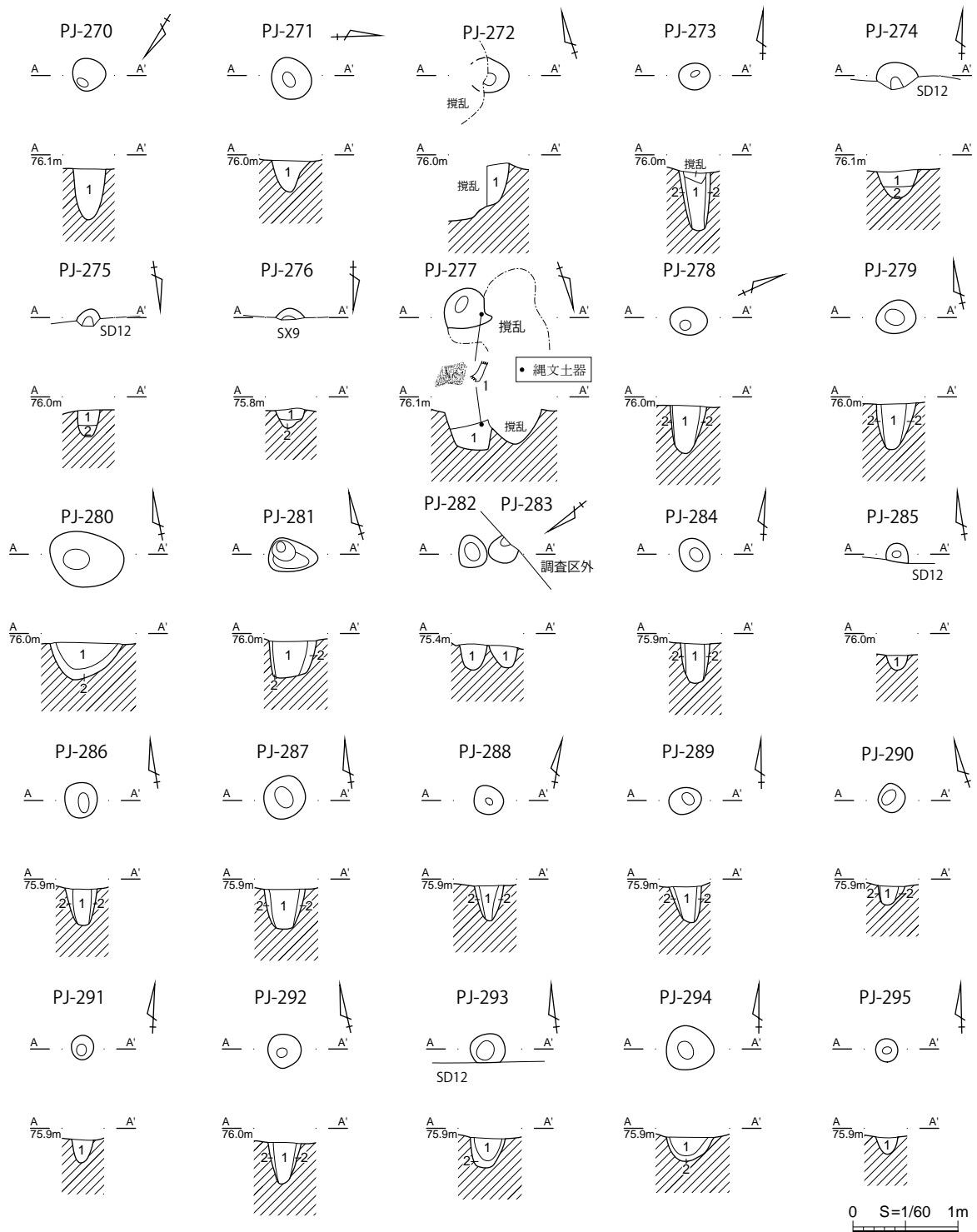
P J - 259・261・263・265・268 小穴土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

P J - 267 小穴土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。
 3 褐色土 (10YR4/4) ロームブロックが多く混在する。締まり弱い。

第 94 図 P J - 250～269 小穴



PJ-270 ~ 272・277・282・283・285・291・295 小穴土層説明

1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm)・赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を少量含む。締まりあり。

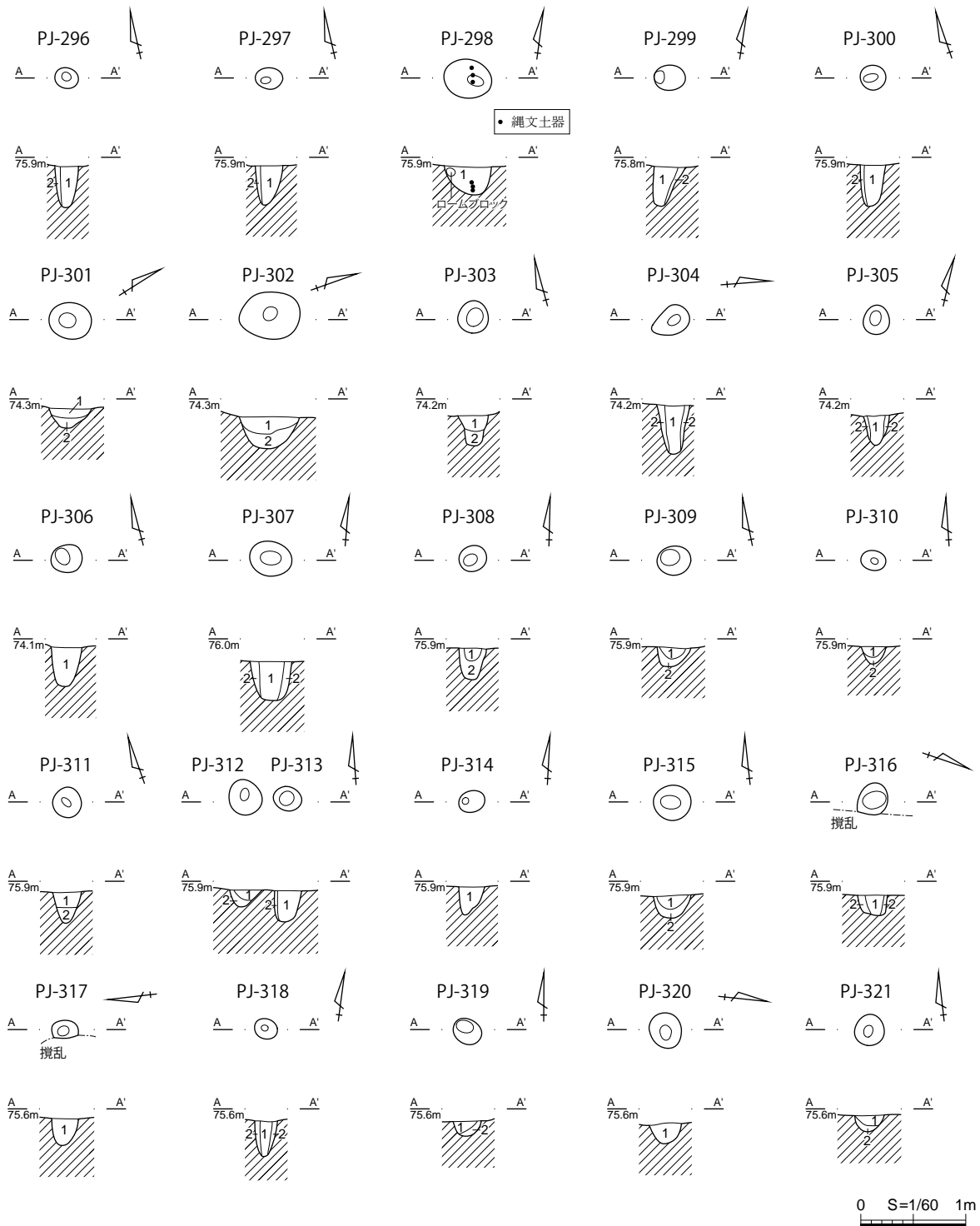
PJ-273・278・279・281・284・286 ~ 290・292 小穴土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を微量含む。締まりあり。
 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1~2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-274 ~ 276・280・293・294 小穴土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を微量含む。締まりあり。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1~2cm) が混在する。締まりあり。

第 95 図 PJ-270 ~ 295 小穴



PJ-296・297・299・300・304・305・307・313・316・318 小穴土層説明

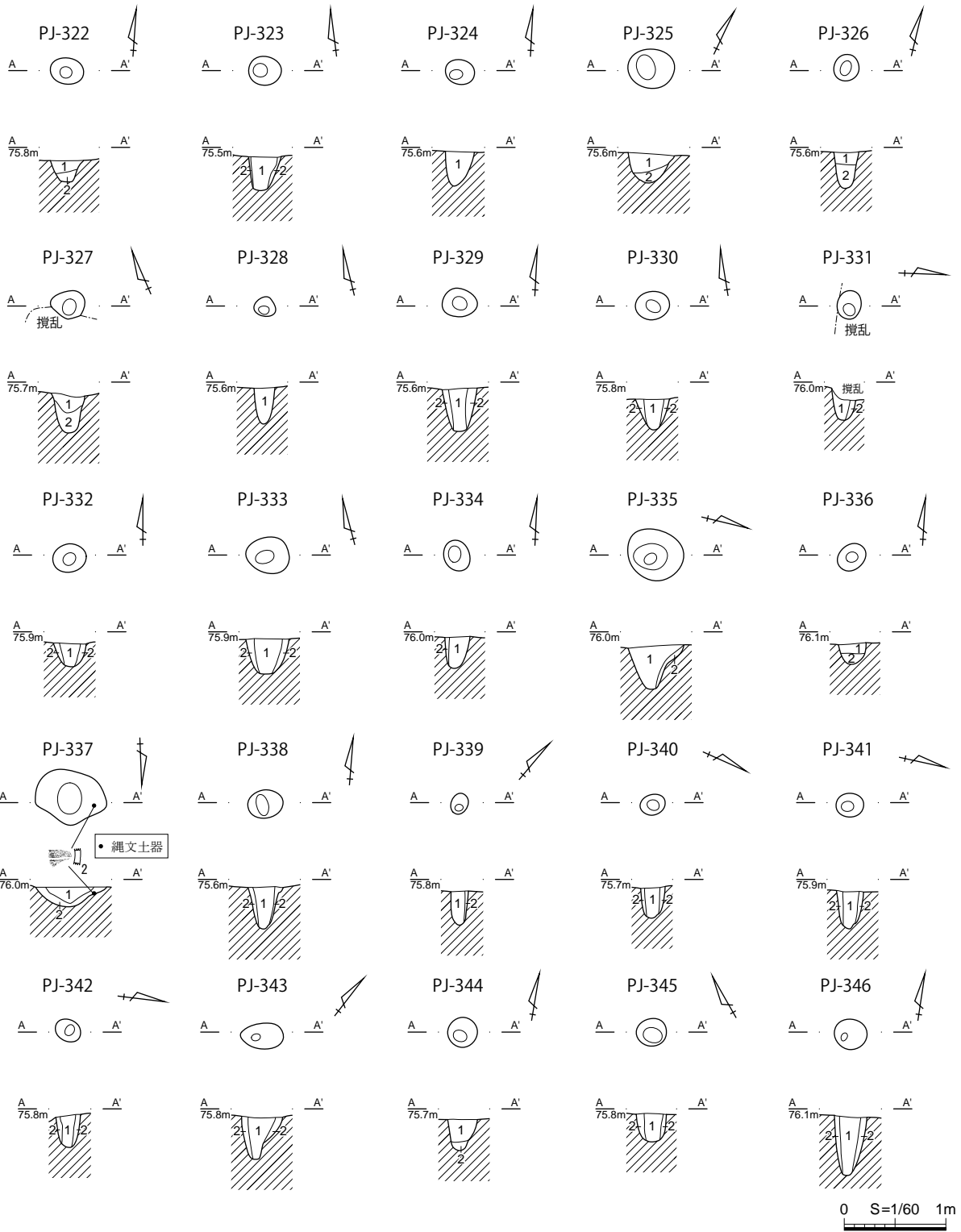
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1~2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-298・306・314・317・320 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm)・赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を少量含む。締まりあり。

PJ-301~303・308~313・315・319・321 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1~2mm) を微量含む締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1~2cm) が混在する。締まりあり。



PJ-322・325～327・336・337・344 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

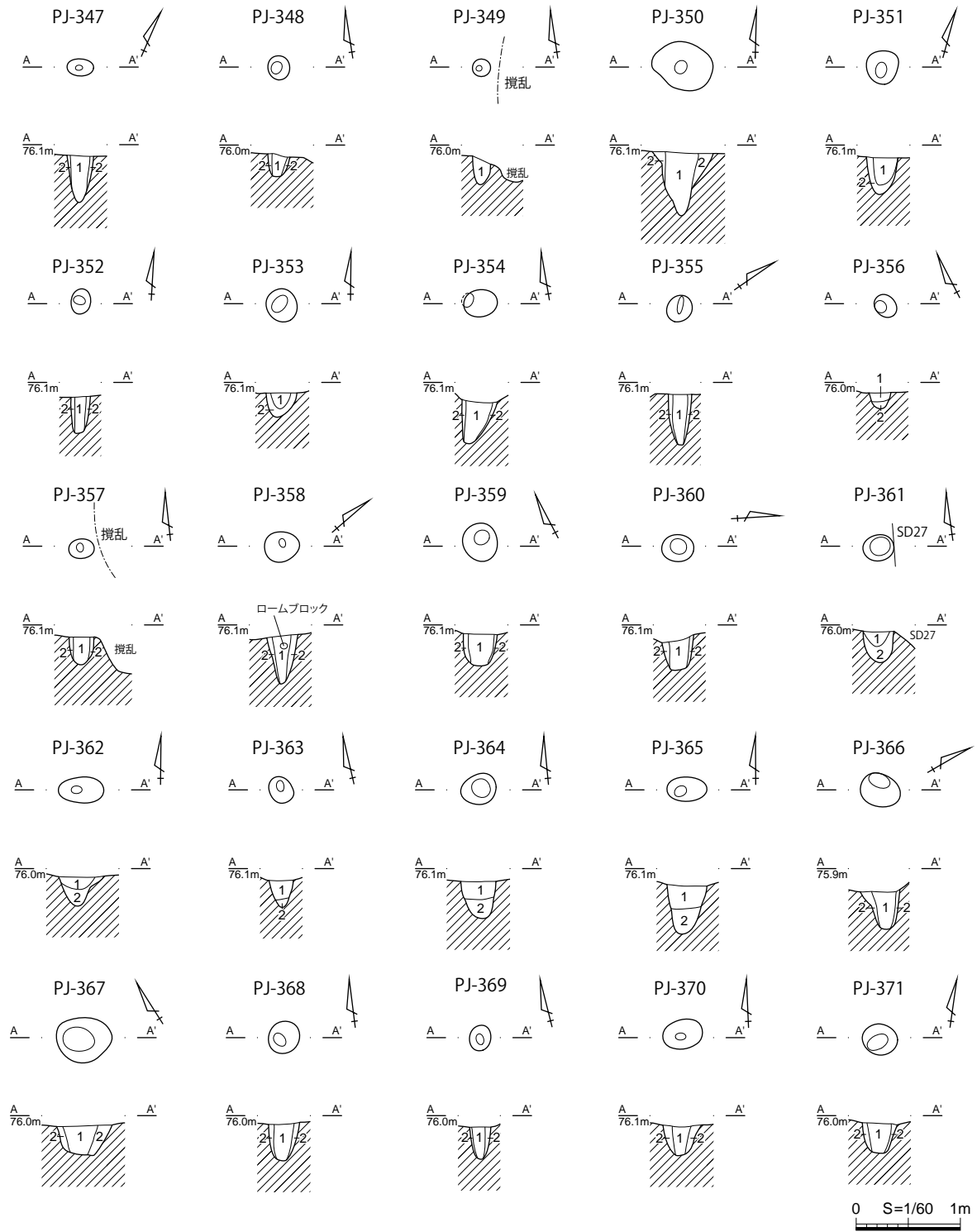
PJ-323・329～335・338～343・345・346 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-324・328 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) ・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。

第 97 図 PJ-322～346 小穴



P J - 347 ・ 348 ・ 350 ・ 352 ・ 354 ・ 355 ・ 357 ~ 360 ・ 366 ~ 371 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 2cm) が混在する。締まりあり。

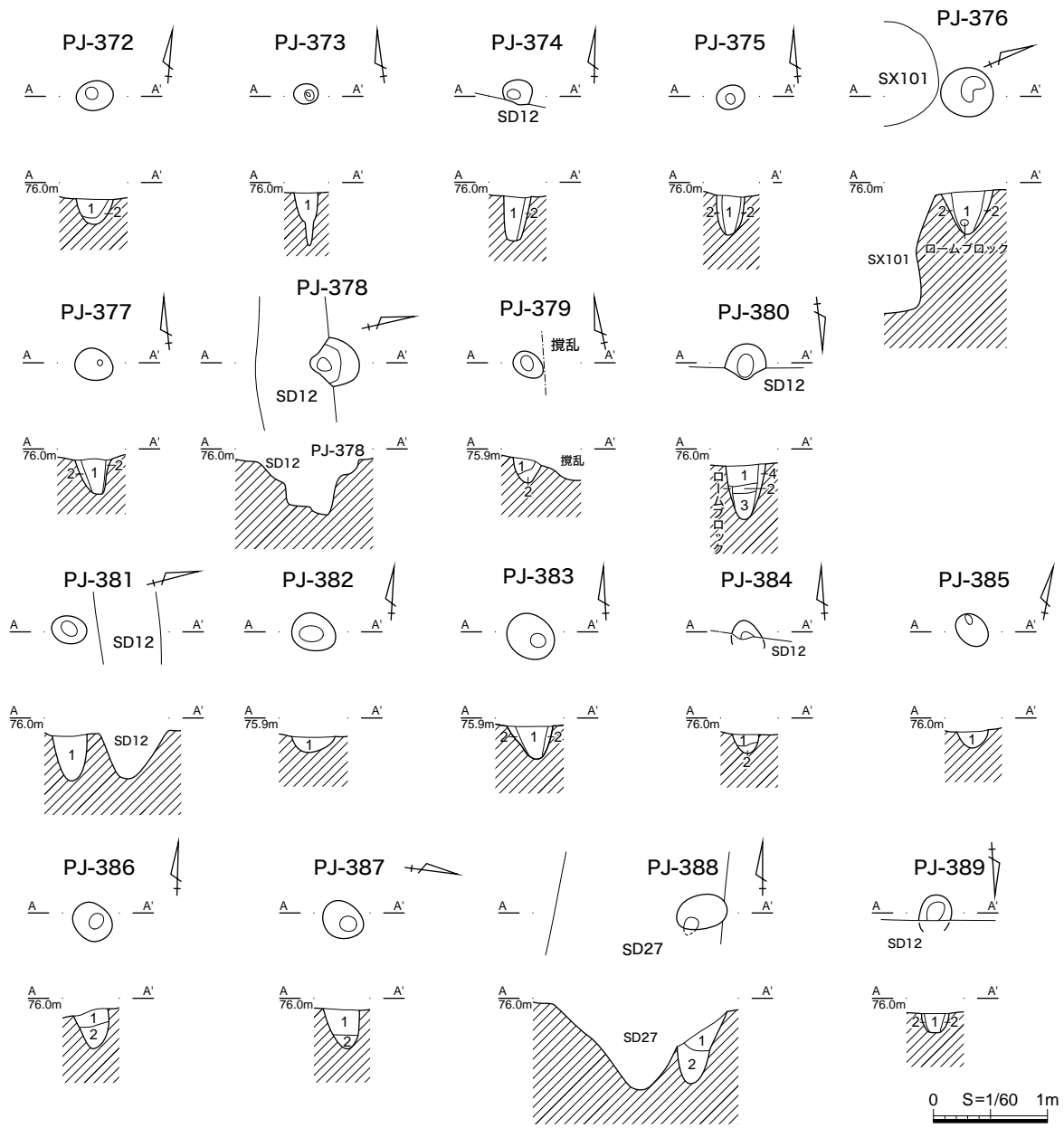
P J - 349 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) ・ 赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。締まりあり。

P J - 351 ・ 353 ・ 356 ・ 361 ~ 365 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 2cm) が混在する。締まりあり。

第 98 図 P J - 347 ~ 371 小穴



P J - 372・379・384・386～388 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

P J - 373・381・382・385 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm)・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。

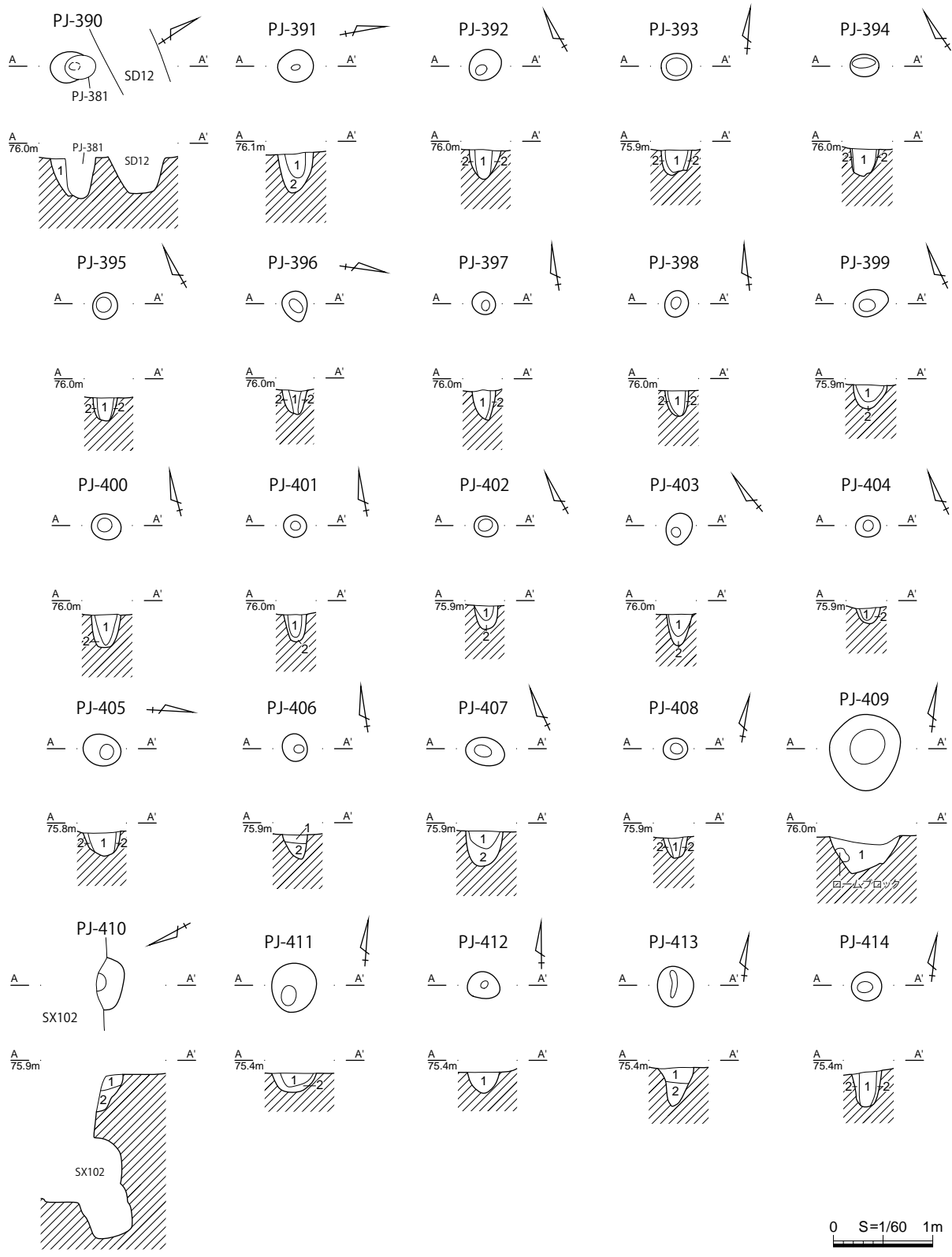
P J - 374～377・383・389 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

P J - 380 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。ロームブロック (径 2cm) が混在する。締まりあり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

第 99 図 P J - 372～389 小穴



PJ-390・391・399～404・406・407・410・411・413 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

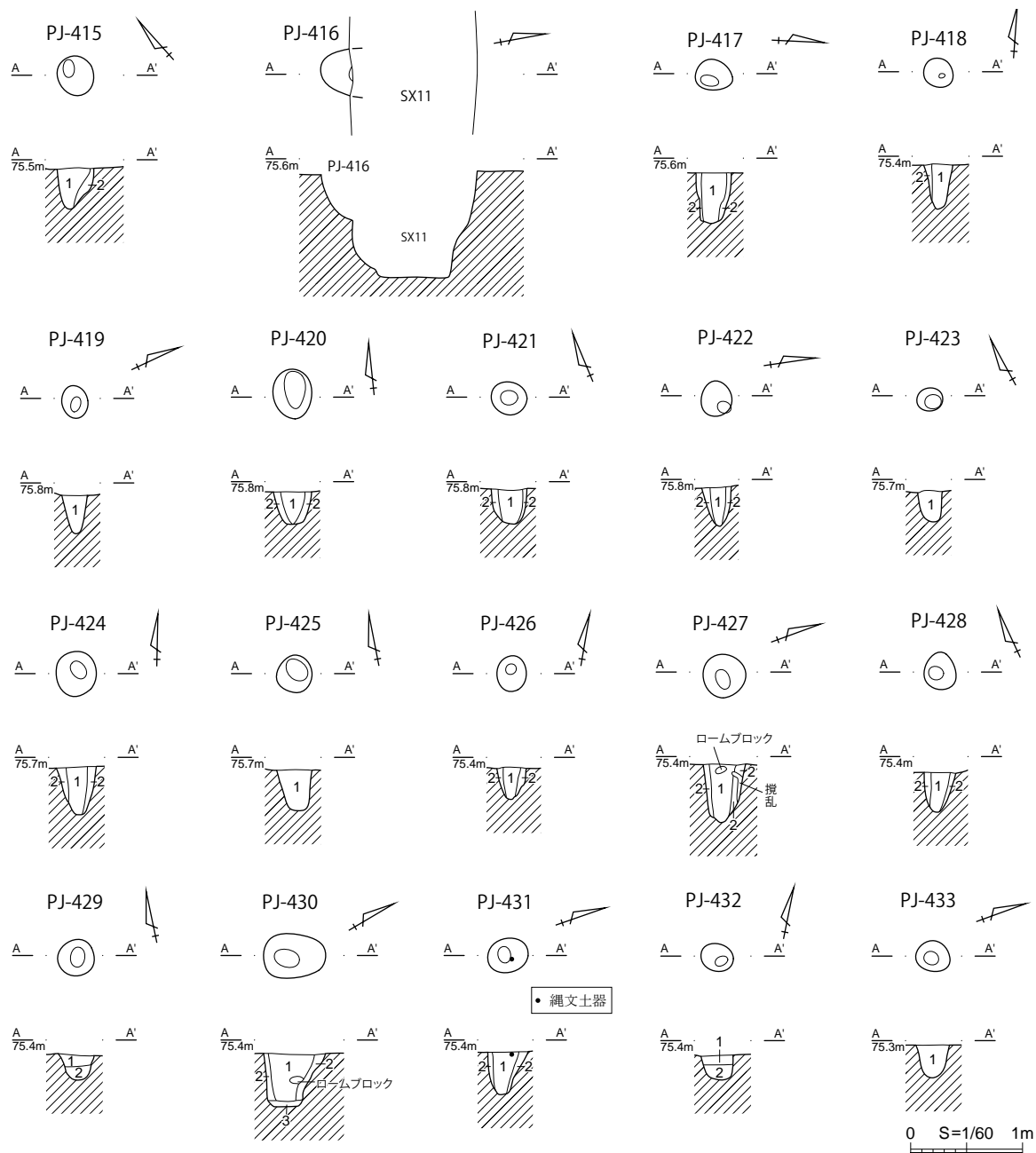
PJ-392～398・405・408・414 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-409・412 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm)・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。

第 100 図 PJ-390～414 小穴



PJ-415・417・418・420～422・424・426～428・430・431 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-419・423・425・433 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm)・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量含む。締まりあり。

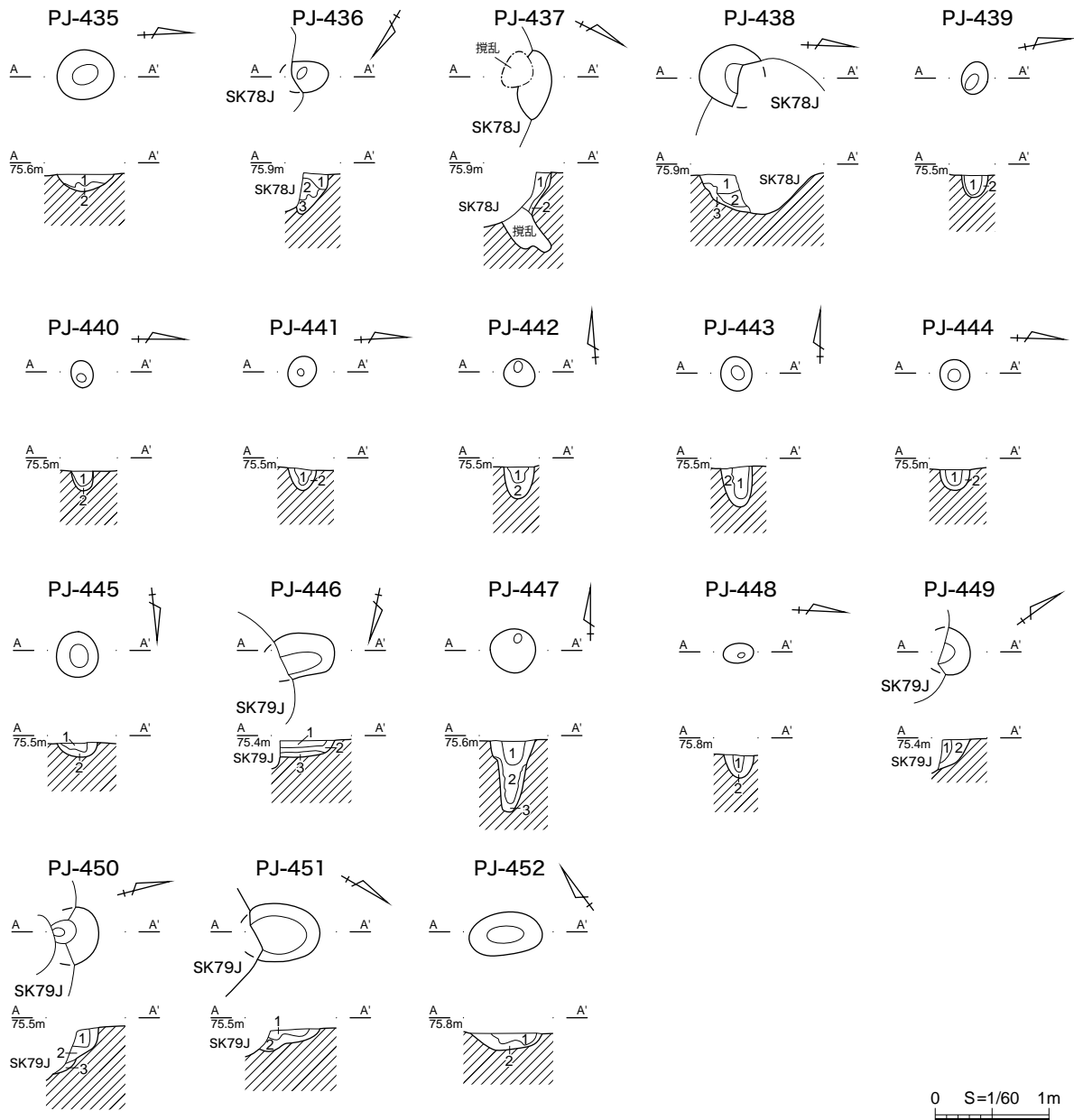
PJ-429・432 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。

PJ-430 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まりあり。
- 3 褐色土 (10YR5/6) ローム層。締まり強い。

第 101 図 PJ-415～433 小穴



P J - 435 ・ 437 ・ 439 ～ 445 ・ 448 ・ 449 ・ 451 ・ 452 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1 ～ 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ～ 2cm) が混在する。締まりあり。

P J - 436 ・ 438 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) が点在する。締まり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒 (径 1mm) が散在する。締まり弱い。

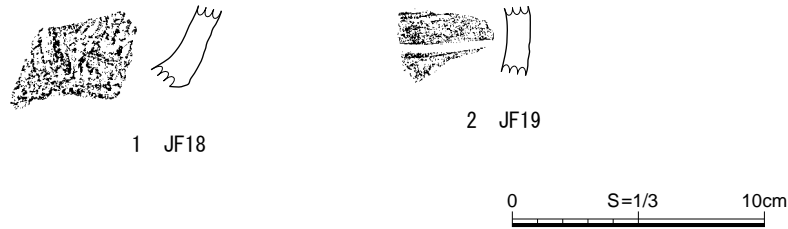
P J - 446 ・ 447 ・ 450 小穴土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1 ～ 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ～ 2cm) が混在する。締まりあり。
- 3 黄褐色土 (10YR5/8) ロームの再堆積。締まり弱い。

第 102 図 P J - 435 ～ 452 小穴

1はP J-277小穴覆土から出土した中期の深鉢底部片である。地文に単節R L縄文が縦方向に施される。

2はP J-337小穴覆土から出土した加曾利E 3式の深鉢胴部片である。地文に単節R L縄文が施された後、沈線が施文される。部分的に縄文を磨り消している。



第 103 図 小穴出土遺物

第 33 表 小穴出土縄文土器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JF18 103-1 60-4-1	中期	深鉢	P J-277	— [3.5] —	底部片。	内面は粗い磨き。表面は地文に単節R L縄文が施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
2 JF19 103-2 60-4-2	加曾利E 3式	深鉢	P J-337	— [2.8] —	胴部片。	内面丁寧な磨き。表面は地文に単節R L縄文施文後、横位に沈線が描かれる。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。

第 34 表 縄文時代小穴一覧表 (1)

遺構名	調査区	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺物				重複関係	備考
								土器	石器	礫	その他		
P J-1	A-1	N-5	0.5	0.38	0.158	楕円形	凹レンズ形						
P J-2	A-1	J-8	0.30	—	0.12	円形	凹レンズ形						
P J-3	A-1	H-9	0.42	0.35	0.14	楕円形	皿状						
P J-4	A-1	H-9	0.60	0.38	0.15	楕円形	播鉢状						
P J-6	A-1	I-6	0.65	0.42	0.15	楕円形	逆台形						
P J-9	A-1	H-12	0.48	0.45	0.18	楕円形	逆台形						
P J-10	A-1	H-12	0.45	0.35	0.15	楕円形	凹レンズ形						
P J-11	A-1	J-12	0.38	0.35	0.10	楕円形	逆台形						
P J-12	A-1	L-6	0.45	0.27	0.15	楕円形	逆台形						
P J-13	A-1	G-8	0.45	0.30	0.16	楕円形	逆台形						
P J-14	A-1	E・D-11	0.64	0.52	0.15	楕円形	皿状						
P J-15	A-1	I-11	0.42	—	0.16	円形	凹レンズ形						西側を攪乱される
P J-16	A-1	H-7	0.40	0.37	0.08	楕円形	凹レンズ形						
P J-17	A-1	M-5	0.52	0.43	0.15	楕円形	凹レンズ形						
P J-18	A-1	E-11	0.40	0.25	0.07	楕円形	凹レンズ形						
P J-19	B-1	AB-101	0.72	(0.50)	0.20	楕円形か	凹レンズ形						南側を欠損
P J-20	B-1	AD-102	0.94	0.80	0.32	楕円形	凹レンズ形						
P J-21	B-1	AE-99	0.60	0.52	0.12	楕円形	皿状						
P J-22	B-1	AE-99	0.68	0.53	0.32	楕円形	U字形						
P J-23	B-1	AD-98	0.60	0.45	0.15	楕円形	凹レンズ形						
P J-24	B-1	AD-97	(0.55)	0.50	0.26	楕円形	凹レンズ形						東側を攪乱される
P J-25	B-1	AD-96	0.50	0.40	0.12	楕円形	凹レンズ形						
P J-26	B-1	AD-96	0.30	0.25	0.15	楕円形	U字形						
P J-27	B-1	AE-97	0.55	0.40	(0.15)	楕円形	皿状						上部を攪乱される
P J-28	B-1	AE-97	0.33	0.25	0.15	楕円形	U字形						
P J-29	B-1	AD-96	0.28	0.20	0.22	楕円形	U字形						
P J-30	B-1	AD-96	0.26	0.20	0.15	楕円形	U字形						
P J-31	B-1	AD-97	0.60	0.55	0.43	楕円形	U字形						
P J-32	B-1	AD-96	0.46	—	0.58	円形	U字形						
P J-33	B-1	AD-96	0.40	—	0.27	不整形	U字形						
P J-34	B-1	AE-94	0.50	0.38	0.12	楕円形	凹レンズ形						
P J-35	B-1	AB-101	0.38	—	0.20	円形	播鉢状						
P J-36	B-1	AE-99	0.42	0.30	0.15	楕円形	凹レンズ形						

第 35 表 縄文時代小穴一覧表 (2)

遺構名	調査区	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺物				重複関係	備考
								土器	石器	礫	その他		
PJ-37	B-1	AD-97	0.60	0.45	0.20	楕円形	凹レンズ形						
PJ-38	B-1	AC-96	0.55	0.42	0.20	楕円形	逆台形						
PJ-39	B-1	AC-97	0.32	—	0.17	円形	凹レンズ形						
PJ-40	B-1	AC-97	0.5	0.35	0.25	楕円形	U字形						
PJ-41	B-1	AF-100	0.25	(0.20)	0.16	楕円形か	U字形						北側を欠損
PJ-42	B-1	AE-97	0.40	0.32	0.15	楕円形	凹レンズ形						
PJ-43	B-1	AB-97	0.50	0.35	0.16	楕円形	挿鉢状						
PJ-44	B-1	AE-96	0.55	0.30	0.15	楕円形	漏斗状						
PJ-45	B-1	AC-97	0.52	0.25	0.45	楕円形	U字形			1			
PJ-46	B-1	AB-97	0.28	0.18	0.35	楕円形	V字形						
PJ-47	B-1	AB-93	0.42	0.34	0.40	楕円形	U字形						
PJ-48	B-1	AC-100	0.42	0.36	0.15	楕円形	凹レンズ形						
PJ-49	B-1	AH-97	0.30	(0.25)	0.35	楕円形か	V字形						南側を欠損
PJ-50	B-1	AH・AI-98	0.37	0.32	0.13	楕円形	凹レンズ形						
PJ-51	B-1	AG-99	0.52	0.45	0.30	楕円形	V字形						
PJ-52	B-1	AI-96	0.60	0.48	0.15	楕円形	凹レンズ形						
PJ-53	B-1	AJ-97	0.50	—	0.15	円形	凹レンズ形						
PJ-54	B-1	AK-97	0.32	—	0.20	円形	U字形						
PJ-55	B-1	AH-95	0.25	0.22	0.35	楕円形	U字形						底面オーバーハング
PJ-56	B-1	AK-98	0.32	0.24	0.15	楕円形	U字形						
PJ-57	B-1	AN-95	0.65	0.40	0.20	楕円形	凹レンズ形						
PJ-58	B-1	AL-98	0.40	0.34	0.28	楕円形	U字形						
PJ-59	B-1	AN-95	0.20	—	0.30	円形	U字形						
PJ-60	B-1	AL-95	0.35	0.26	0.25	楕円形	U字形						
PJ-61	B-1	AL-95	0.53	0.40	0.38	楕円形	U字形						
PJ-62	B-1	AM-94	0.35	0.25	0.20	楕円形	U字形						
PJ-63	B-1	AM-91	0.60	0.58	0.16	胴張隅丸方形	凹レンズ形						
PJ-64	B-1	AP-95	0.35	—	0.16	円形	U字形						
PJ-65	B-1	AO-95	0.43	0.40	0.15	円形	逆台形						
PJ-66	B-1	AN-95	0.28	0.22	0.28	楕円形	V字形						
PJ-67	B-1	AM-95	0.20	—	0.25	円形	V字形						
PJ-68	B-1	AN-96	0.30	—	0.18	円形	逆台形						
PJ-69	B-1	AN-95	0.32	0.28	0.30	楕円形	U字形						
PJ-70	B-1	AL-94	0.30	—	0.12	円形	凹レンズ形						
PJ-71	B-1	AL-94	0.30	0.25	0.20	楕円形	U字形						
PJ-72	B-1	AJ-92	0.30	0.22	0.14	楕円形	凹レンズ形						
PJ-73	B-1	AL-96	0.28	0.22	0.25	楕円形	V字形						
PJ-74	B-1	AJ-98	0.28	0.22	0.25	楕円形	V字形						
PJ-75	B-1	AG-96	0.25	—	0.15	円形	U字形						
PJ-76	B-1	AI-94	0.40	0.30	0.30	楕円形	U字形						
PJ-77	B-1	AG-95・96	(0.55)	0.38	0.40	楕円形	V字形						南側を攪乱される
PJ-78	B-1	AG-95	0.36	0.28	0.34	楕円形	U字形						
PJ-79	B-1	AF-95	0.25	0.17	0.16	楕円形	V字形						
PJ-80	B-1	AG-96	0.25	0.20	0.25	楕円形	U字形						
PJ-81	B-1	AF-96	0.40	0.30	0.53	楕円形	V字形						
PJ-82	B-1	AF-91	0.43	0.34	0.26	楕円形	逆台形						
PJ-83	B-1	AJ-97・98	0.30	—	0.32	円形	V字形						
PJ-84	B-1	AG-95	0.35	0.24	0.33	楕円形	V字形						
PJ-85	B-1	AG-96	0.40	0.35	0.26	楕円形	V字形						
PJ-86	B-1	AF-94	0.25	—	0.28	円形	V字形						
PJ-87	B-1	AG-95	0.25	0.20	0.25	楕円形	V字形						
PJ-88	B-1	AH-91	0.34	0.28	0.24	楕円形	逆台形						
PJ-89	B-1	AL-91	0.35	0.30	0.28	楕円形	U字形						
PJ-90	B-1	AH-91	0.30	—	0.26	円形	U字形						
PJ-91	B-1	AA-95	0.22	0.18	0.30	楕円形	V字形						
PJ-92	B-1	AA-94	0.24	0.18	0.25	楕円形	V字形						
PJ-93	B-1	AB-94	0.23	—	0.25	円形	V字形						
PJ-94	B-1	AB-92	0.25	0.20	0.20	楕円形	U字形						
PJ-95	B-1	AB-93	0.42	0.24	0.22	楕円形	V字形						
PJ-96	B-1	AB-93	0.30	0.24	0.15	楕円形	U字形						
PJ-97	B-1	AB-93	0.24	0.18	0.20	楕円形	V字形						
PJ-98	B-1	AC-95	0.26	—	0.20	円形	U字形						
PJ-99	B-1	AC-96	0.30	0.25	0.20	楕円形	U字形						
PJ-100	B-1	AD-97	0.30	0.24	0.28	楕円形	V字形						
PJ-101	B-2	U-82	0.53	(0.40)	0.40	楕円形か	U字形						西側を攪乱される
PJ-102	B-2	V-84	0.25	—	0.80	不整形	U字形						
PJ-103	B-2	R-79	0.40	0.32	0.35	楕円形	U字形						
PJ-104	B-2	S-81	0.30	0.25	0.28	楕円形	U字形						
PJ-105	B-2	R-77	0.40	0.35	0.35	楕円形	V字形						
PJ-106	B-2	R-79	0.45	0.38	0.22	楕円形	U字形						
PJ-107	B-2	U-87	0.27	—	0.36	円形	U字形						
PJ-108	B-2	U-86	0.30	0.22	0.45	楕円形	U字形						
PJ-109	B-2	U-87	0.27	0.20	0.45	楕円形	U字形						壁面外傾

第 36 表 縄文時代小穴一覧表 (3)

遺構名	調査区	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺物				重複関係	備考
								土器	石器	礫	その他		
P J - 110	B - 2	R - 80	0.42	0.35	0.60	楕円形	U字形						
P J - 111	B - 2	M - 90	0.35	-	0.38	円形	U字形						
P J - 112	B - 2	R - 84	0.30	0.24	0.30	楕円形	U字形						
P J - 113	B - 2	W - 86	0.22	0.18	0.26	楕円形	U字形						
P J - 114	B - 2	W - 89	0.50	0.32	0.38	楕円形	U字形						
P J - 115	B - 2	W - 88	0.35	0.30	0.45	楕円形	V字形						
P J - 116	B - 2	Z - 83	0.20	-	0.16	円形	U字形						
P J - 117	B - 2	V - 88	0.30	-	0.30	円形	U字形						
P J - 118	B - 3	V - 97	0.43	0.30	0.25	楕円形	逆台形						
P J - 119	B - 3	Y - 95	0.55	-	0.45	円形	U字形						西側を攪乱される
P J - 120	B - 3	X - 95	0.5	(0.22)	0.28	円形か	凹レンズ形						南側を欠損
P J - 121	B - 3	V - 93	0.25	0.18	0.45	楕円形	U字形						
P J - 122	B - 3	X - 93	0.25	0.18	0.40	楕円形	U字形						
P J - 123	B - 3	Y - 96	0.65	0.55	0.26	楕円形	凹レンズ形						
P J - 124	B - 3	Z - 96	0.28	0.24	0.23	楕円形	U字形						
P J - 125	B - 3	AA - 96	0.30	0.25	0.50	楕円形	V字形						
P J - 126	B - 3	AA - 96	0.20	-	0.38	円形	U字形						
P J - 127	B - 3	AA - 97	0.28	0.24	0.50	楕円形	V字形						
P J - 128	B - 3	X - 96	0.26	0.22	0.30	楕円形	U字形						
P J - 129	B - 3	X - 98	0.25	-	0.12	円形	凹レンズ形						
P J - 130	B - 3	X - 97	0.43	0.25	0.25	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 131	B - 3	U - 92	0.32	0.25	0.20	楕円形	U字形						
P J - 132	B - 3	Y - 95	0.30	(0.22)	0.22	楕円形か	U字形						南側を欠損
P J - 133	B - 3	V・W - 97	0.48	0.38	0.15	楕円形	凹レンズ形						
P J - 134	B - 3	V - 99	0.20	-	0.36	円形	U字形						
P J - 135	B - 3	AA - 100	(0.35)	0.30	0.62	楕円形か	U字形						北側を欠損
P J - 136	B - 3	X - 97	0.18	-	0.20	円形	U字形						
P J - 137	B - 3	X - 97	0.24	0.20	0.32	楕円形	U字形						
P J - 138	B - 3	V - 94	0.20	-	0.25	円形	U字形						
P J - 139	B - 3	V - 93	0.32	0.25	0.30	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 140	B - 3	Z - 92	0.28	0.20	0.22	楕円形	U字形						
P J - 141	B - 3	Z - 92	0.28	0.24	0.22	楕円形	U字形						
P J - 142	B - 3	Z - 95	0.30	0.25	0.50	楕円形	U字形						
P J - 143	B - 3	T - 93	0.60	0.45	0.23	楕円形	凹レンズ形						
P J - 144	B - 3	U - 96	0.35	-	0.18	円形	U字形						
P J - 145	B - 3	U - 97	0.33	0.28	0.34	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 146	B - 3	U - 99	0.32	0.25	0.28	楕円形	V字形						
P J - 147	B - 3	W - 103	0.28	0.25	0.30	楕円形	V字形						
P J - 148	B - 3	AA - 95	0.31	0.25	0.35	楕円形	V字形						
P J - 149	B - 3	AA - 96	0.28	0.23	0.24	楕円形	U字形						
P J - 150	B - 3	AA - 96	0.25	0.20	0.18	楕円形	U字形						
P J - 151	B - 3	AA - 99	0.30	-	0.35	不整形	U字形						
P J - 152	B - 5	O - 68	0.32	0.25	0.13	楕円形	凹レンズ形						
P J - 153	B - 5	M - 69	0.45	0.40	0.20	楕円形	凹レンズ形						
P J - 154	B - 5	O - 69	0.52	0.35	0.18	楕円形	凹レンズ形						
P J - 155	B - 5	Q - 70	0.40	(0.34)	0.15	円形か	凹レンズ形						北側を欠損
P J - 156	B - 5	P - 69	0.58	0.40	0.23	楕円形	凹レンズ形						
P J - 157	B - 5	P - 70	0.55	0.45	0.32	楕円形	挿鉢状						
P J - 158	B - 5	Q - 71	0.30	(0.25)	0.40	楕円形か	U字形						北側を欠損
P J - 159	B - 5	AA・AB - 97	0.48	(0.36)	0.22	楕円形か	逆台形						南側を欠損
P J - 160	B - 5	H - 69	0.28	0.24	0.15	楕円形	凹レンズ形						
P J - 161	B - 5	H - 71	0.32	-	0.12	円形	凹レンズ形						
P J - 162	B - 5	J・K - 69	0.43	0.34	0.15	楕円形	凹レンズ形						
P J - 163	B - 5	U - 67	0.22	0.18	0.15	楕円形	V字形						
P J - 164	B - 5	T - 72	0.43	0.25	0.45	楕円形	U字形						
P J - 165	B - 5	AC - 72	0.30	0.25	0.43	楕円形	U字形						
P J - 166	B - 5	AC - 72	0.30	0.25	0.30	楕円形	U字形						
P J - 167	B - 5	AC・AD - 71	0.36	0.28	0.25	楕円形	V字形						
P J - 168	B - 5	AD - 70	0.34	0.25	0.34	楕円形	U字形						
P J - 169	B - 5	AC・AD - 70	0.3	-	0.18	円形	U字形						
P J - 170	B - 5	AC - 70	0.41	0.30	0.18	楕円形	U字形						
P J - 171	B - 5	AC - 70	0.25	0.22	0.34	楕円形	U字形						
P J - 172	B - 5	AC - 70	0.24	-	0.40	円形	U字形						
P J - 173	B - 5	AC - 68・69	0.22	-	0.20	円形	U字形						
P J - 174	B - 5	AA - 68	0.23	0.18	0.14	楕円形	凹レンズ形						
P J - 175	B - 5	AB - 68	0.28	0.24	0.45	楕円形	U字形						
P J - 176	B - 5	Y - 69	0.26	0.22	0.42	楕円形	V字形						
P J - 177	B - 5	Y - 69	0.28	0.22	0.22	楕円形	U字形						
P J - 178	B - 5	Y - 67	0.26	-	0.15	円形	凹レンズ形						
P J - 179	B - 5	W - 70	0.27	0.20	0.15	楕円形	U字形						
P J - 180	B - 5	W - 71	0.65	0.45	0.30	胴張隅丸方形	凹レンズ形					< S K 44 J	
P J - 181	B - 5	T - 69	0.23	0.20	0.13	楕円形	U字形						
P J - 182	B - 5	T - 71	0.30	0.24	0.17	楕円形	U字形						

第 37 表 縄文時代小穴一覧表 (4)

遺構名	調査区	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺物				重複関係	備考
								土器	石器	礫	その他		
P J - 183	B - 5	V - 71	0.22	0.20	0.17	楕円形	V字形						
P J - 184	B - 5	T - 71	0.22	0.19	0.12	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 185	B - 5	Q - 72	0.25	0.20	0.20	楕円形	V字形						
P J - 186	B - 5	R - 68	0.28	0.22	0.35	楕円形	U字形						
P J - 187	B - 5	R - 72	0.24	0.20	0.18	楕円形	V字形						
P J - 188	B - 5	P - 69	0.36	—	0.26	円形	U字形						壁面外傾
P J - 189	B - 5	Q - 69	0.32	0.26	0.24	楕円形	V字形						
P J - 190	B - 5	P - 71	0.20	—	0.08	円形	V字形						
P J - 191	B - 5	N - 69	0.33	0.29	0.24	楕円形	U字形						
P J - 192	B - 5	M - 71	0.26	0.22	0.28	楕円形	U字形						
P J - 193	B - 5	O - 70	0.25	0.20	0.43	楕円形	V字形						
P J - 194	B - 5	O - 72	0.26	0.18	0.32	楕円形	V字形						
P J - 195	B - 5	N - 69	0.20	—	0.16	円形	V字形						
P J - 196	B - 5	N - 70	0.20	—	0.20	円形	V字形						
P J - 197	B - 5	K - 69	0.25	0.20	0.25	楕円形	U字形						
P J - 198	B - 5	J - 69	0.26	0.24	0.15	楕円形	U字形						
P J - 199	B - 5	M - 70	0.30	—	0.28	円形	U字形						
P J - 200	B - 4	R - 93	0.16	—	0.18	円形	V字形						
P J - 201	B - 4	T - 96	0.30	0.25	0.28	楕円形	V字形						
P J - 202	B - 4	S - 97	0.32	0.25	0.13	楕円形	凹レンズ形						
P J - 203	B - 4	T - 98	0.23	0.18	0.19	楕円形	V字形						
P J - 204	B - 4	S - 96	0.24	—	0.24	円形	U字形						
P J - 205	B - 4	S - 98	0.25	—	0.20	円形	V字形						
P J - 206	B - 4	S - 99	0.28	0.20	0.26	楕円形	U字形						
P J - 207	B - 4	L・M - 90	0.70	(0.68)	(0.20)	不整楕円形	U字形					< S D 17	
P J - 208	B - 4	K - 81	0.65	0.55	0.22	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 209	B - 4	K - 79	0.40	0.25	0.30	楕円形	V字形						壁面外傾
P J - 210	B - 4	L - 79	0.32	0.22	0.28	楕円形	V字形						
P J - 211	B - 4	K - 89	0.20	0.15	0.22	楕円形	V字形						
P J - 212	B - 4	L - 85	0.30	0.23	0.15	楕円形	凹レンズ形						
P J - 213	B - 4	K - 88	0.25	—	0.32	円形	U字形						
P J - 214	B - 4	K - 82	0.30	0.25	0.20	楕円形	U字形						
P J - 215	B - 4	J - 79	0.45	0.32	0.28	楕円形	逆台形						
P J - 216	B - 6	AA - 74	0.43	(0.35)	0.14	楕円形か	凹レンズ形						西側を欠損
P J - 217	B - 6	AC - 73	0.63	0.50	0.18	楕円形	凹レンズ形						
P J - 218	B - 6	AC - 73	0.35	(0.16)	0.24	円形か	U字形						西側を欠損
P J - 219	B - 6	AC - 73	0.30	—	0.32	円形	V字形						
P J - 220	B - 6	AB - 73・74	0.38	0.30	0.20	楕円形	U字形				1		
P J - 221	B - 4	L・M - 96	0.62	0.52	1.04	楕円形	V字形				1		底面オーバーハング
P J - 222	B - 4	M - 95	0.33	—	0.23	円形	V字形						
P J - 223	B - 4	L - 96	0.35	0.32	0.25	楕円形	逆台形						
P J - 224	B - 4	N - 103	0.60	0.34	0.12	楕円形	皿状				13		
P J - 225	B - 4	L - 102	0.32	0.25	0.14	楕円形	凹レンズ形						
P J - 226	B - 4	L - 102	0.26	0.22	0.20	楕円形	U字形						
P J - 227	B - 4	M - 102	0.20	0.16	0.20	楕円形	U字形						
P J - 228	B - 4	M - 102	0.20	—	0.17	円形	U字形						
P J - 229	B - 4	M - 102	0.28	0.20	0.12	楕円形	U字形						
P J - 230	B - 4	L - 100	0.32	0.25	0.32	楕円形	V字形						
P J - 231	B - 4	M - 100	0.22	0.20	0.22	楕円形	U字形						
P J - 232	B - 4	M - 100	0.25	0.20	0.22	楕円形	U字形						
P J - 233	B - 4	N - 99	0.34	0.28	0.14	楕円形	凹レンズ形						
P J - 234	B - 4	N - 95	0.42	0.40	0.18	楕円形	凹レンズ形						
P J - 235	B - 4	M - 95	0.55	0.42	0.62	楕円形	U字形						底面オーバーハング
P J - 236	B - 4	N - 96	0.46	0.30	0.55	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 237	B - 4	N - 95	0.56	0.30	0.18	楕円形	凹レンズ形						
P J - 238	B - 4	M - 98	0.3	(0.20)	0.16	楕円形か	U字形					< S K 57	
P J - 239	B - 7	AM - 85	0.47	0.38	0.10	楕円形	凹レンズ形						
P J - 240	B - 7	AM - 85・86	0.57	0.47	0.18	楕円形	凹レンズ形						
P J - 241	B - 7	AM - 88	0.44	0.35	0.18	楕円形	凹レンズ形						
P J - 242	B - 7	AL - 89	0.25	0.22	0.12	楕円形	U字形						
P J - 243	B - 7	AM - 84・85	0.33	0.23	0.25	楕円形	V字形						
P J - 244	B - 7	AN - 86	0.64	0.42	0.20	楕円形	U字形						
P J - 245	B - 7	AL - 89	0.26	0.22	0.26	楕円形	V字形						
P J - 246	B - 7	AM - 88	0.28	—	0.25	円形	V字形						
P J - 247	B - 7	AL - 85・86	0.26	—	0.24	円形	V字形						底面オーバーハング
P J - 248	B - 7	AL - 85	0.26	0.22	0.20	楕円形	V字形						
P J - 249	B - 7	AL - 87	0.3	(0.18)	0.18	楕円形か	U字形						南側を欠損
P J - 250	B - 7	AN - 85	0.25	0.22	0.20	楕円形	V字形						
P J - 251	B - 4	I - 104	0.25	0.18	0.12	楕円形	U字形						
P J - 252	B - 4	I - 103	0.26	0.22	0.36	楕円形	V字形						
P J - 253	B - 4	I - 102	0.30	0.28	0.15	楕円形	V字形						
P J - 254	B - 4	O - 102	0.35	0.22	0.15	楕円形	U字形						
P J - 255	B - 4	P - 92	0.76	0.72	0.24	楕円形	凹レンズ形						

第 38 表 縄文時代小穴一覧表 (5)

遺構名	調査区	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺物				重複関係	備考
								土器	石器	礫	その他		
P J - 256	B - 4	S - 102	0.25	-	0.15	円形	U字形						
P J - 257	B - 4	O - 101	0.24	0.20	0.24	楕円形	V字形						
P J - 258	B - 4	O - 101	0.25	0.18	0.18	楕円形	U字形						
P J - 259	B - 4	P - 92	0.35	0.25	0.45	楕円形	U字形						
P J - 260	B - 4	M - 97	0.26	-	0.27	円形	V字形						
P J - 261	B - 4	P - 92・93	0.35	0.30	0.36	楕円形	U字形						
P J - 262	B - 4	M - 95	0.26	0.20	0.22	楕円形	U字形						
P J - 263	B - 4	N - 93	0.43	0.40	0.36	楕円形	U字形						
P J - 264	B - 4	O - 104	0.48	0.34	0.18	楕円形	凹レンズ形						
P J - 265	B - 4	R - 93	0.30	0.25	0.25	楕円形	U字形						
P J - 266	B - 4	R - 92	0.52	0.50	0.36	楕円形	逆台形						
P J - 267	A - 2	V - 62	0.74	0.58	0.36	楕円形	挿鉢形						
P J - 268	A - 2	V - 62	0.40	-	0.47	円形	U字形						
P J - 269	A - 2	V - 61	0.40	0.30	0.28	楕円形	U字形						
P J - 270	A - 2	S - 62	0.32	0.30	0.48	楕円形	V字形						
P J - 271	A - 2	V - 63	0.38	0.35	0.30	楕円形	V字形						
P J - 272	A - 2	T - 62	(0.20)	0.32	0.37	楕円形か	U字形か						西側を欠損
P J - 273	A - 2	U - 63	0.30	0.25	0.54	楕円形	U字形						
P J - 274	A - 2	S - 62	(0.25)	0.40	0.25	楕円形か	U字形					< S D12	
P J - 275	A - 2	S - 63	(0.15)	0.20	0.25	楕円形か	U字形					< S D12	
P J - 276	A - 2	M - 62	(0.10)	0.28	0.18	楕円形か	U字形					< S X 9	
P J - 277	A - 2	U - 61	(0.45)	(0.38)	(0.26)	楕円形か	逆台形	1					北側を攪乱される
P J - 278	A - 2	U - 62	0.35	0.26	0.44	楕円形	U字形						
P J - 279	A - 2	U - 62	0.38	0.30	0.44	楕円形	U字形						
P J - 280	A - 2	Q - 60	0.73	0.50	0.35	楕円形	凹レンズ形						
P J - 281	A - 2	U - 62	0.47	0.32	0.35	楕円形	逆台形						
P J - 282	A - 2	G - 66・67	0.29	0.25	0.25	楕円形	U字形						
P J - 283	A - 2	G - 66	(0.23)	0.25	0.20	楕円形か	U字形						南側調査区外
P J - 284	A - 2	U - 61	0.32	0.27	0.36	楕円形	U字形						
P J - 285	A - 2	T - 60	(0.18)	0.20	0.15	楕円形か	U字形					< S D12	
P J - 286	A - 2	U - 61	0.34	0.30	0.35	楕円形	U字形						
P J - 287	A - 2	U - 62	0.40	-	0.39	円形	U字形						
P J - 288	A - 2	U - 62	0.30	0.27	0.33	楕円形	V字形						
P J - 289	A - 2	T - 63	0.32	0.27	0.34	楕円形	V字形						
P J - 290	A - 2	T - 62	0.27	-	0.18	円形	U字形						壁面外傾
P J - 291	A - 2	U - 62・63	0.22	-	0.22	円形	V字形						
P J - 292	A - 2	T - 63	0.33	-	0.38	楕円形	V字形						
P J - 293	A - 2	S - 63	0.34	(0.26)	0.28	円形か	U字形					< S D12	
P J - 294	A - 2	T - 63	0.45	0.40	0.24	楕円形	凹レンズ形						
P J - 295	A - 2	S - 63	0.20	-	0.16	円形	U字形						
P J - 296	A - 2	T - 63	0.23	0.20	0.38	楕円形	V字形						
P J - 297	A - 2	T - 64	0.25	0.20	0.36	楕円形	V字形						
P J - 298	A - 2	V - 65	0.45	0.36	0.26	楕円形	凹レンズ形	3					
P J - 299	A - 2	W - 66	0.28	0.22	0.36	楕円形	U字形						
P J - 300	A - 2	T - 64	0.24	-	0.38	円形	U字形						
P J - 301	B - 7	AJ - 79	0.40	0.35	0.20	楕円形	挿鉢状						
P J - 302	B - 7	AK - 79	0.57	0.45	0.31	楕円形	凹レンズ形						
P J - 303	B - 7	AK - 85	0.3	-	0.29	円形	U字形						
P J - 304	B - 7	AK - 84	0.38	0.27	0.45	楕円形	U字形						
P J - 305	B - 7	AJ - 84	0.28	0.25	0.27	楕円形	V字形						
P J - 306	B - 7	AJ - 89	0.30	0.25	0.36	楕円形	U字形						
P J - 307	A - 2	R - 61	0.40	0.34	0.36	楕円形	U字形						
P J - 308	A - 2	R - 63	0.25	-	0.30	円形	U字形						
P J - 309	A - 2	Q - 63・64	0.32	0.27	0.20	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 310	A - 2	R - 64	0.24	0.20	0.18	楕円形	U字形						
P J - 311	A - 2	P - 63	0.28	-	0.30	円形	V字形						
P J - 312	A - 2	Q - 64	0.33	0.30	0.18	楕円形	凹レンズ形						
P J - 313	A - 2	Q - 64	0.28	0.22	0.28	楕円形	U字形						
P J - 314	A - 2	R - 65	0.25	0.18	0.25	楕円形	V字形						壁面外傾
P J - 315	A - 2	O - 64	0.35	-	0.22	円形	凹レンズ形						
P J - 316	A - 2	O - 66	(0.30)	0.28	0.20	楕円形か	U字形						東側を欠損
P J - 317	A - 2	M - 61	0.25	(0.18)	0.25	楕円形か	U字形						西側を欠損
P J - 318	A - 2	M - 61	0.23	0.19	0.32	楕円形	V字形						
P J - 319	A - 2	K - 62	0.28	0.22	0.15	楕円形	凹レンズ形						
P J - 320	A - 2	J - 60	0.35	0.30	0.19	楕円形	凹レンズ形						
P J - 321	A - 2	H - 64	0.29	-	0.15	円形	凹レンズ形						
P J - 322	A - 2	N - 65	0.34	0.25	0.20	楕円形	U字形						
P J - 323	A - 2	I - 63	0.33	0.28	0.33	楕円形	U字形						
P J - 324	A - 2	J - 66	0.30	0.23	0.33	楕円形	V字形						
P J - 325	A - 2	I - 66	0.45	0.38	0.30	楕円形	凹レンズ形						
P J - 326	A - 2	H - 66	0.25	-	0.35	円形	U字形						
P J - 327	A - 2	H - 66	0.35	0.28	0.38	楕円形	U字形						南側を攪乱される
P J - 328	A - 2	J - 66	0.23	0.18	0.35	楕円形	V字形						

第 39 表 縄文時代小穴一覧表 (6)

遺構名	調査区	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺物				重複関係	備考
								土器	石器	礫	その他		
P J - 329	A - 2	H - 66	0.35	0.28	0.42	楕円形	U字形						
P J - 330	A - 2	AA・AB - 64	0.35	0.25	0.30	楕円形	V字形						
P J - 331	A - 2	Z - 60	0.28	0.24	(0.20)	楕円形	U字形						全体を攪乱される
P J - 332	A - 2	Y - 64	0.33	0.28	0.24	楕円形	U字形						
P J - 333	A - 2	Y - 64	0.43	0.35	0.35	楕円形	U字形						
P J - 334	A - 2	W - 61	0.30	0.25	0.30	楕円形	U字形						
P J - 335	A - 2	X - 63	0.58	0.48	0.42	楕円形	V字形						壁面外傾
P J - 336	A - 2	Y - 60	0.31	0.24	0.20	楕円形	凹レンズ形						
P J - 337	A - 2	Y - 60・61	0.70	0.54	0.20	不整楕円形	凹レンズ形	1					
P J - 338	A - 2	AC - 66	0.34	0.28	0.40	楕円形	V字形						壁面外傾
P J - 339	A - 2	Z - 64	0.20	0.16	0.33	楕円形	V字形						
P J - 340	A - 2	Y - 64	0.25	0.20	0.28	楕円形	U字形						
P J - 341	A - 2	W - 64	0.28	0.24	0.36	楕円形	U字形						
P J - 342	A - 2	W - 64	0.28	0.22	0.32	楕円形	U字形						
P J - 343	A - 2	W - 63	0.43	0.24	0.40	楕円形	V字形						壁面外傾
P J - 344	A - 2	W - 61	0.28	-	0.30	円形	U字形						
P J - 345	A - 2	W - 62	0.30	0.25	0.28	楕円形	U字形						
P J - 346	A - 3	AC - 55	0.31	0.24	0.57	楕円形	V字形						
P J - 347	A - 3	AB - 55	0.26	0.15	0.45	楕円形	V字形						
P J - 348	A - 3	U - 59	0.22	-	0.20	円形	U字形						
P J - 349	A - 3	AB - 55	0.18	-	0.25	円形	V字形						
P J - 350	A - 3	AB - 55	0.56	0.45	0.58	不整楕円形	V字形						壁面外傾
P J - 351	A - 3	AA - 55	0.32	-	0.35	円形	V字形						
P J - 352	A - 3	X - 57	0.25	0.18	0.35	楕円形	U字形						
P J - 353	A - 3	X - 56	0.32	0.28	0.23	楕円形	U字形						
P J - 354	A - 3	W - 55	0.34	0.26	0.41	楕円形	V字形						底面オーバーハンゲ
P J - 355	A - 3	Y - 54	0.25	-	0.46	円形	V字形						
P J - 356	A - 3	Y - 54	0.25	0.20	0.15	楕円形	U字形						
P J - 357	A - 3	X - 54	0.25	0.18	0.25	楕円形	U字形						
P J - 358	A - 3	X - 53	0.33	0.28	0.45	楕円形	V字形						
P J - 359	A - 3	X - 54	0.36	0.33	0.30	楕円形	U字形						
P J - 360	A - 3	X - 54	0.41	0.36	0.28	楕円形	U字形						
P J - 361	A - 3	U - 57	0.30	0.25	0.30	楕円形	U字形						
P J - 362	A - 3	U - 55	0.43	0.24	0.28	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 363	A - 3	X - 53	0.26	0.22	0.26	楕円形	V字形						
P J - 364	A - 3	W - 53	0.35	0.28	0.35	楕円形	U字形						
P J - 365	A - 3	W - 53	0.37	0.22	0.46	楕円形	U字形						
P J - 366	A - 3	V - 55	0.40	0.30	0.35	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 367	A - 3	U - 54	0.54	0.44	0.28	楕円形	逆台形						
P J - 368	A - 3	U - 54	0.30	-	0.35	円形	U字形						
P J - 369	A - 3	U - 53	0.23	0.20	0.30	楕円形	V字形						
P J - 370	A - 3	W - 52	0.38	0.28	0.28	楕円形	U字形						
P J - 371	A - 3	V - 52	0.32	0.29	0.29	楕円形	U字形						
P J - 372	A - 3	U - 53	0.34	0.25	0.22	楕円形	凹レンズ形						
P J - 373	A - 3	U - 53	0.22	0.18	0.46	楕円形	V字形						壁面外傾
P J - 374	A - 3	T - 54	0.25	-	0.39	円形か	U字形					< S D 12	
P J - 375	A - 3	U - 52	0.25	0.20	0.35	楕円形	U字形						
P J - 376	A - 3	V - 51	0.45	-	0.38	円形	V字形						
P J - 377	A - 3	U - 51	0.34	0.28	0.32	楕円形	U字形						
P J - 378	A - 3	U - 52	(0.42)	0.42	(0.45)	楕円形か	U字形か				< S D 12		壁面外傾
P J - 379	A - 3	T - 54	0.28	0.21	0.20	楕円形	U字形						
P J - 380	A - 3	T - 53	(0.30)	0.35	0.45	楕円形	U字形				< S D 12		
P J - 381	A - 3	T - 52	0.31	0.24	0.40	楕円形	U字形						
P J - 382	A - 3	R・S - 50	0.40	0.32	0.12	楕円形	凹レンズ形						
P J - 383	A - 3	S - 52	0.44	0.36	0.29	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 384	A - 3	U - 50	(0.16)	0.25	0.16	楕円形か	U字形				< S D 12		
P J - 385	A - 3	R - 56	0.32	0.25	0.14	円形	凹レンズ形						
P J - 386	A - 3	S - 56・57	0.35	0.30	0.35	楕円形	U字形						
P J - 387	A - 3	S - 57	0.38	0.32	0.34	楕円形	U字形						
P J - 388	A - 3	U - 58	(0.45)	(0.3)	(0.41)	楕円形	U字形				< S D 27		底面オーバーハンゲ
P J - 389	A - 3	T - 59	(0.32)	0.26	0.18	楕円形か	U字形				< S D 12		
P J - 390	A - 3	T - 53	(0.15)	0.30	0.40	楕円形か	U字形か				< P J - 381		
P J - 391	A - 3	W - 54	0.35	0.31	0.39	楕円形	U字形						
P J - 392	A - 3	AB - 55	0.34	0.30	0.30	楕円形	U字形						
P J - 393	A - 3	AD - 57	0.30	0.25	0.25	楕円形	U字形						
P J - 394	A - 3	AC - 55	0.29	0.24	0.27	楕円形	U字形						
P J - 395	A - 3	AB - 55	0.25	-	0.25	円形	U字形						
P J - 396	A - 3	W - 55	0.30	0.26	0.25	楕円形	U字形						
P J - 397	A - 3	W - 54	0.25	0.21	0.30	楕円形	V字形						
P J - 398	A - 3	W - 54	0.25	-	0.25	円形	U字形						
P J - 399	A - 3	V・W - 52	0.35	0.26	0.25	楕円形	U字形						
P J - 400	A - 3	X - 53	0.30	0.25	0.30	楕円形	U字形						
P J - 401	A - 3	V - 54	0.22	-	0.26	円形	U字形						

第 40 表 縄文時代小穴一覧表 (7)

遺構名	調査区	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺物				重複関係	備考
								土器	石器	礫	その他		
P J - 402	A - 3	V - 52	0.25	0.20	0.25	楕円形	U字形						
P J - 403	A - 3	V - 52	0.33	0.26	0.32	楕円形	U字形						
P J - 404	A - 3	U - 50	0.25	0.20	0.15	楕円形	U字形						
P J - 405	A - 3	R - 51	0.39	0.31	0.22	楕円形	凹レンズ形						
P J - 406	A - 3	S - 53	0.24	0.27	0.25	楕円形	V字形						
P J - 407	A - 3	T - 53	0.40	0.28	0.35	楕円形	U字形						
P J - 408	A - 3	R - 55	0.25	0.20	0.20	楕円形	U字形						
P J - 409	A - 4	Q - 52	0.75	0.60	0.40	楕円形	揺鉢状						
P J - 410	A - 4	N - 57・58	0.50	(0.26)	0.35	楕円形か	U字形か					< S X 102	
P J - 411	A - 4	H - 57	0.49	0.44	0.18	楕円形	凹レンズ形						
P J - 412	A - 4	I - 58	0.34	0.26	0.21	楕円形	U字形						
P J - 413	A - 4	H・I - 59	0.40	0.35	0.38	楕円形	V字形						
P J - 414	A - 4	I - 57	0.30	—	0.35	円形	U字形						
P J - 415	A - 4	K - 59	0.35	0.32	0.36	楕円形	V字形						壁面外傾
P J - 416	A - 4	L - 58	(0.28)	(0.41)	(0.40)	楕円形か	U字形か					< S X 102	
P J - 417	A - 4	L - 57	0.34	0.29	0.45	楕円形	U字形						
P J - 418	A - 4	I - 58	0.28	0.24	0.40	楕円形	V字形						
P J - 419	A - 4	P - 58	0.30	0.22	0.34	楕円形	V字形						
P J - 420	A - 4	P - 57	0.45	0.35	0.28	楕円形	U字形						
P J - 421	A - 4	P - 56	0.30	—	0.30	円形	U字形						
P J - 422	A - 4	P - 58	0.32	0.28	0.34	楕円形	U字形						底面オーバーハング
P J - 423	A - 4	O - 52	0.23	0.20	0.28	楕円形	U字形						
P J - 424	A - 4	P - 51	0.40	0.35	0.42	楕円形	U字形						
P J - 425	A - 4	N - 57	0.32	0.30	0.36	楕円形	U字形						
P J - 426	A - 4	J - 54	0.33	0.26	0.29	楕円形	U字形						
P J - 427	A - 4	K - 53	0.38	—	0.50	円形	U字形						
P J - 428	A - 4	I - 54	0.35	0.28	0.35	楕円形	U字形						
P J - 429	A - 4	H - 54・55	0.33	—	0.22	円形	U字形						
P J - 430	A - 4	J - 54	0.55	0.39	0.45	楕円形	U字形						壁面外傾
P J - 431	A - 4	J - 53	0.35	0.30	0.38	楕円形	U字形	1					壁面外傾
P J - 432	A - 4	I - 53	0.30	0.24	0.22	楕円形	U字形						
P J - 433	A - 4	F - 57	0.30	0.26	0.30	楕円形	U字形						
P J - 435	A - 4	M - 48	0.50	0.43	0.15	楕円形	凹レンズ形						
P J - 436	A - 4	R - 49	(0.30)	0.27	0.36	楕円形か	U字形か					< S K 78 J	
P J - 437	A - 4	R - 49	0.60	(0.28)	(0.30)	楕円形	U字形か					< S K 78 J	
P J - 438	A - 4	R - 49	0.54	(0.35)	(0.32)	楕円形か	凹レンズ形か					< S K 78 J	
P J - 439	A - 4	K - 46	0.29	0.23	0.19	楕円形	U字形						
P J - 440	A - 4	K - 46	0.24	0.20	0.18	楕円形	U字形						
P J - 441	A - 4	L - 46	0.27	0.24	0.19	楕円形	V字形						
P J - 442	A - 4	L - 46	0.28	0.25	0.26	楕円形	U字形						
P J - 443	A - 4	M - 46	0.30	0.28	0.35	楕円形	U字形						
P J - 444	A - 4	K - 47	0.25	—	0.18	円形	U字形						
P J - 445	A - 4	K - 48	0.41	0.36	0.13	楕円形	皿状					< S K 79 J	
P J - 446	A - 4	M - 49	(0.48)	0.39	0.15	楕円形	皿状						
P J - 447	A - 4	P - 48	0.39	—	0.62	円形	U字形						壁面外傾
P J - 448	A - 4	Q - 49・50	0.28	0.18	0.20	楕円形	U字形						
P J - 449	A - 4	M - 50	(0.25)	0.40	(0.26)	楕円形か	凹レンズ形か					< S K 79 J	
P J - 450	A - 4	M - 50	(0.40)	0.49	(0.38)	楕円形か	揺鉢状か					< S K 79 J	
P J - 451	A - 4	M - 49	(0.58)	0.50	0.18	楕円形	皿状か					< S K 79 J	
P J - 452	A - 4	R - 50	0.64	0.38	0.16	楕円形	皿状						

2. 遺物

(1) 縄文土器 (第104～111図、第41～43表、図版61・62)

今回の調査で出土した縄文土器は371点を数える。そのうち遺構外からは273点が出土した。縄文土器の時期は早期と中期である。時期不明とした土器は、胎土や焼成などから多くは中期に帰属するものと思われる。

土器全体の分布状況は、西側調査区では調査区中央は希薄で、北側に多く分布する。東側調査区でも調査区中央は希薄で、南側を中心に分布している。こうした遺物の偏った分布状況は、遺構の分布状況に比例していること、また包含層が削平され残存していないことや攪乱によって遺構が壊されていることに関係するものと考えられる。

ここでは、早期茅山式、中期中葉勝坂1～3式、阿玉台I b・II式、中期後葉加曾利E 1～3式、曾利II・III式と中期の土器を扱う。土器は勝坂式と加曾利E式が主体を占める。

縄文土器の分類については、条痕文系土器・勝坂式土器・阿玉台式土器—『総覧縄文土器』(2008)、加曾利E式土器・曾利式土器—『縄文中期後半の問題 土器試料集成図集』(1980)の各文献を引用・参考にした。

早期の土器

茅山式 (第110図1～3、第41表、図版61-1～3)

1～3は深鉢胴部片である。1は縦方向の細い条痕文を施す。2は内面に縦方向の条痕文、表面は指頭圧痕が施される。3は表面に指頭圧痕と斜め方向に粗い条痕文が施文される。

中期の土器

勝坂式 (第110図4～34、第41・42表、図版61-4～35)

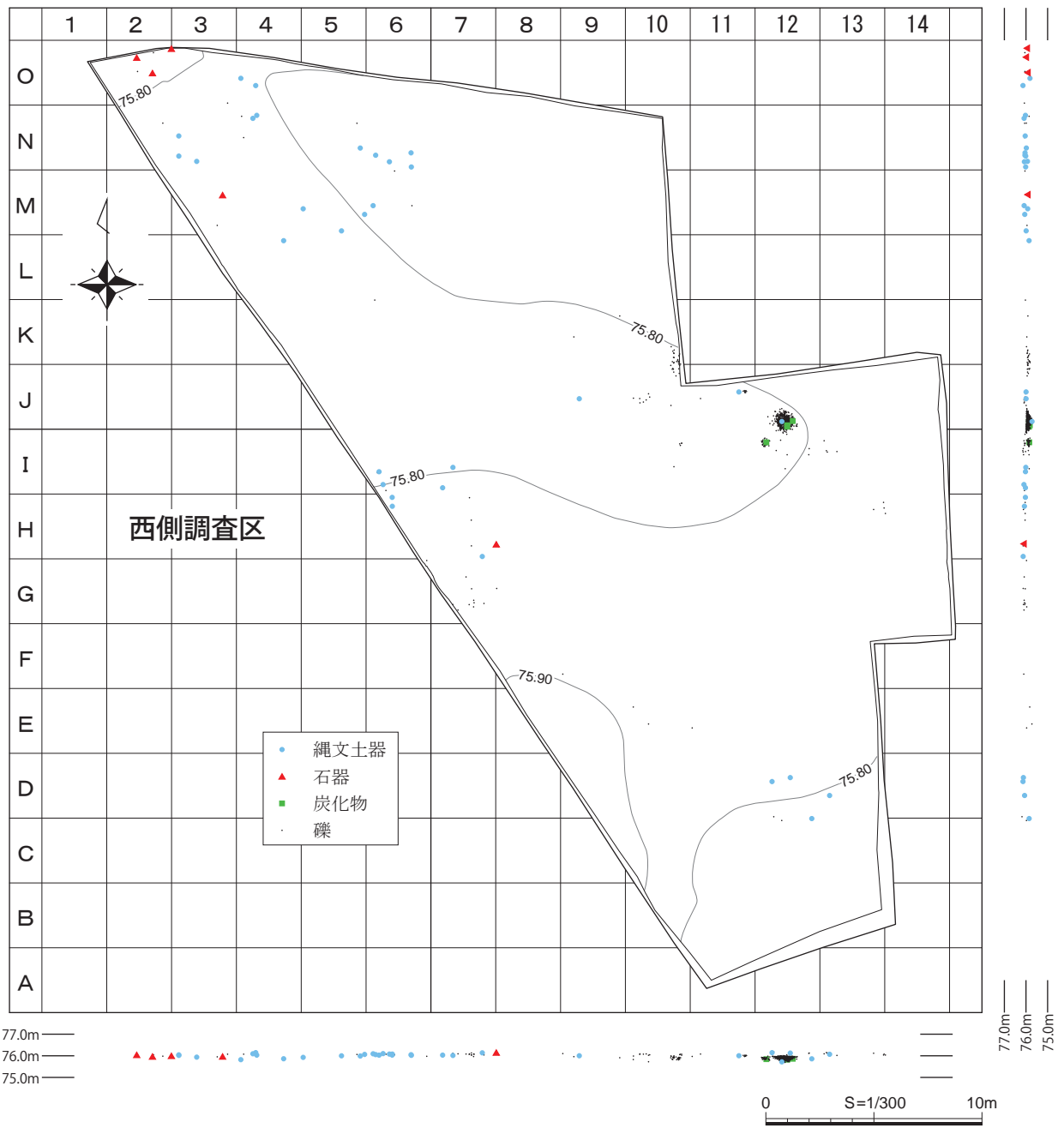
4～19は勝坂1式に分類される。4～6は深鉢口縁部片、7～9は浅鉢口縁部片である。10～19は深鉢胴部片である。4・13・14は隆帯による区画を配する。5～8・12・18は押引き文、角押文、爪形文で文様構成されている。10・11・17は隆帯に沿って角押文や三角押文が施される。10は横方向の隆帯上に突起が配される。13・14・19は隆帯に沿って沈線が描かれる。13～16・19は隆帯に刻み目が加えられる。9は無文だが、口唇部に爪形文が巡る。

20～29は勝坂2式に分類される。20は深鉢口縁部片、21～29は深鉢胴部片である。20・22・23は隆帯による区画が配される。20は楕円区画内に爪形文が、22は棒状工具による押圧文が加えられた隆帯区画内に爪形文と三角押文が、23は縦位の隆帯区画内に爪形文が施される。21は横方向の沈線と沈線による三角区画が配される。区画内に渦巻き状の沈線が施され、区画に沿って単節LR縄文が連続して押捺される。24は隆帯に沿って爪形文が、25は隆帯に沿って押引き文が、26は隆帯に沿って押引き文と三角押文が、28は隆帯に沿って爪形文が施される。27は波状沈線が横方向に施文され、沈線に沿って爪形文が巡る。29は横方向に数条の角押文が描かれる。

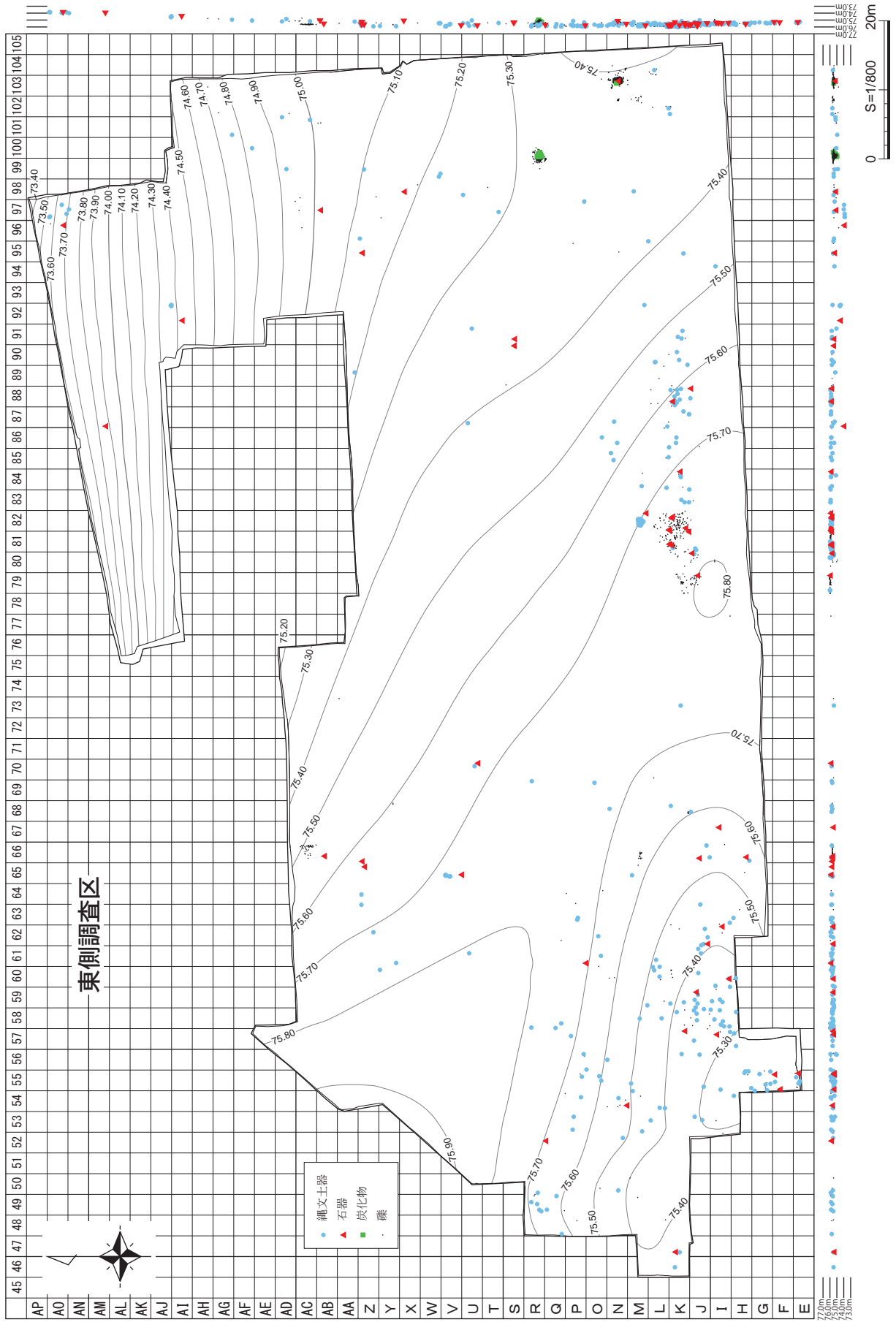
30～35は勝坂3式に分類される。30・31は深鉢口縁部片で、30は隆帯による耳状突起を配する。表面に角押文が施される。31は円環状と思われる隆帯突起に爪形文が施される。32～35は深鉢胴部片である。32は横方向の隆帯下に肋骨状に沈線が、34は横方向の隆帯に沿って沈線が描かれる。33は縦方向の沈線間に爪形文が充填される。35はV字状の沈線区画が配され、区画内に縦方向の平行沈線が施される。

阿玉台式 (第110図36～38、第42表、図版61-36～38)

36は阿玉台I b式に分類される。深鉢口縁部片で、口縁下に横位の細い角押文が2本平行して巡り、下位には角押文が斜めに施文される。



第 104 図 縄文時代遺物分布図（西側調査区）



第105図 縄文時代遺物分布図（東側調査区）

37・38は阿玉台Ⅱ式に分類される。深鉢胴部片で、37は低い隆帯による楕円区画が配され、隆帯脇に篋状工具による連続刺突文が施される。38は隆帯と沈線による区画が配され、表面にはやや幅広な爪形文が施される。

加曾利E式（第110図39～44・第111図45～71、第42・43表、図版61-39～44、図版62-45～71）

39・40は加曾利E 1式に分類される。深鉢口縁部片で、39は波状口縁で、内傾する。口唇部に幅広な溝が巡る。表面は渦巻き状に隆帯が配され、地文に撚糸 r が施文される。40は突起を有し、口縁は内傾する。表面は横位の隆帯が渦巻き状に配される。

41～47は加曾利E 2式に分類される。41～46は深鉢口縁部片、47は深鉢胴部片である。41は隆帯による楕円区画と渦巻き文が配され、地文に単節 R L 縄文が施文される。42は隆帯による楕円区画が配される。43・46は隆帯による区画が配され、地文に単節 R L 縄文が施文される。44は沈線による区画が配され、地文に単節 L R 縄文が施文される。45は幅広な沈線による渦巻き文が描かれる。47は低い隆帯による区画が配され、隆帯に沿って沈線が巡る。地文に単節 L R 縄文が施される。

48～56は加曾利E 3式に分類される。48・49は深鉢口縁部片、50～56は深鉢胴部片である。48は地文に縦方向の条線が施され、口縁下に2本の平行沈線が巡る。表面には連弧文が配される。49は地文に単節 R L 縄文が施文される。口縁下に2本の平行沈線が巡り、沈線間に棒状工具による円孔刺突文が施される。50・51は地文に縦方向の条線が施される。51は横方向に沈線が巡り、沈線下は無文である。52・53は地文に撚糸 r を縦方向に施文後、52は縦位の波状沈線が、53は沈線による曲線が描かれる。54～56は地文に単節 R L 縄文を施文後、縦方向に平行沈線を描く。沈線間は縄文を磨り消す。

57～71は加曾利E式に分類される。57～70は深鉢胴部片、71は深鉢底部片である。57・59～64・71は地文に単節 R L 縄文が、58は単節 L R 縄文が施文される。57は縄文施文後、沈線が縦方向に、58・59は縄文施文後、沈線が横方向に描かれる。65・66は地文に撚糸 r が縦方向に施文される。67・68は地文に単節 R L 縄文が施され、隆帯による区画が配される。69は横方向に波状沈線が施文される。70は縦位の条線が描かれる。71の底部付近は良く磨かれている。

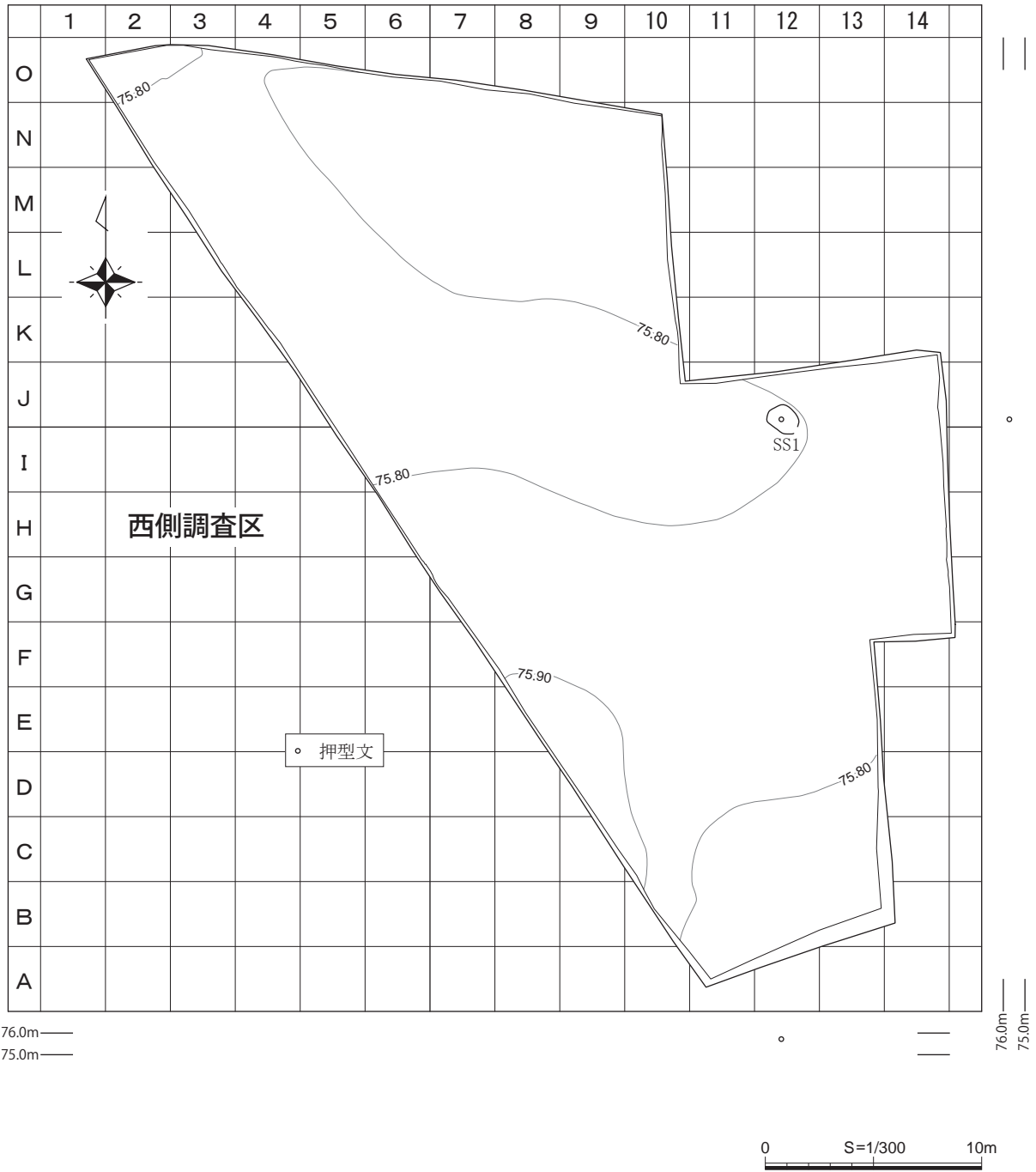
曾利式（第111図72～74、第43表、図版62-72～74）

72・73は曾利Ⅱ式に分類される。72は深鉢口縁部片で、内面に稜をもち、口唇は尖る。両面に斜め方向の集合沈線が施される。73は深鉢胴部片である。押し文が施された隆帯を横位に配し、隆帯下に縦位の集合沈線を描く。

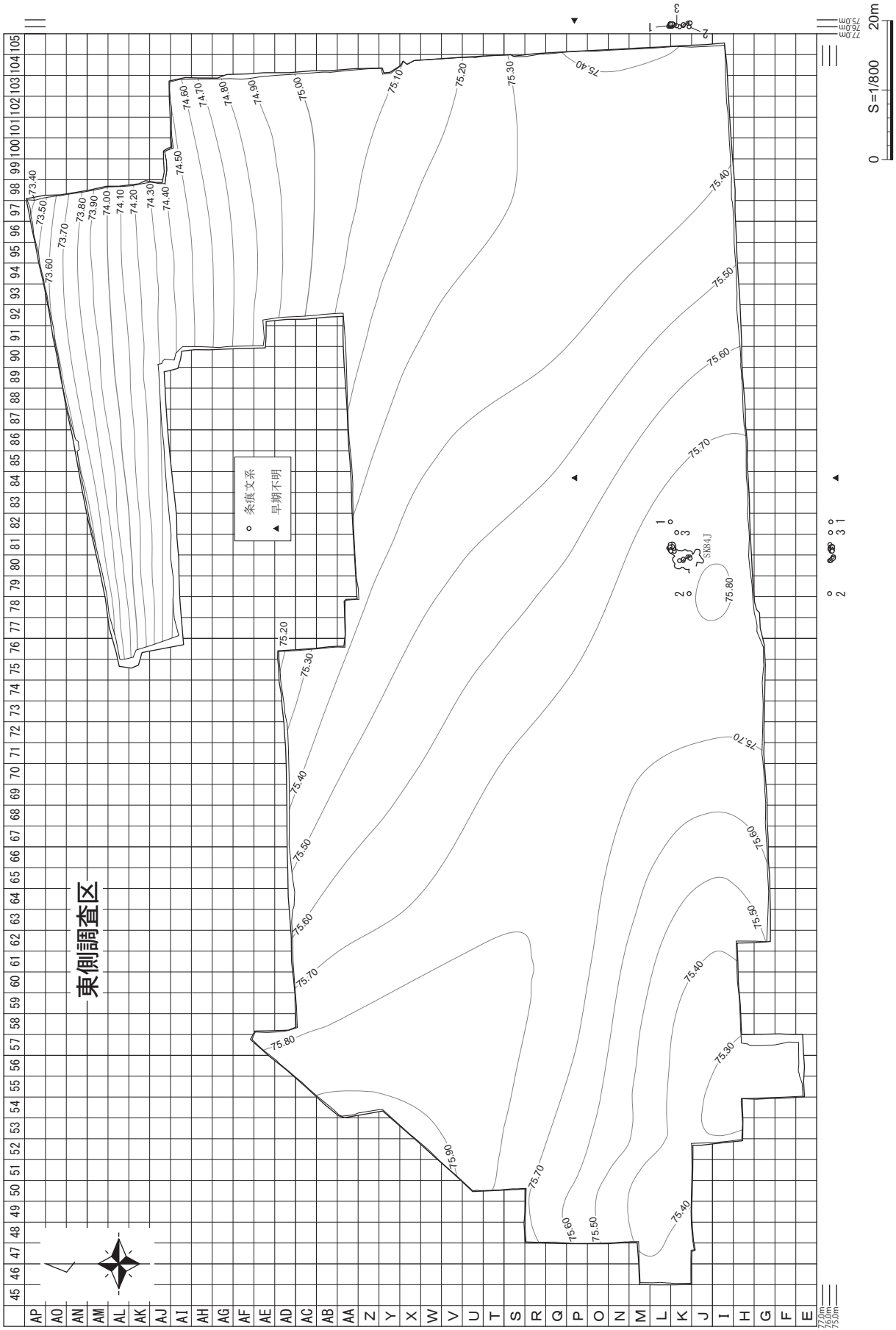
74は曾利Ⅲ式に分類される深鉢胴部片である。棒状工具による押圧文を加えた隆帯と集合沈線が縦方向に施される。

中期の土器（第111図75～81、第43表、図版62-75～81）

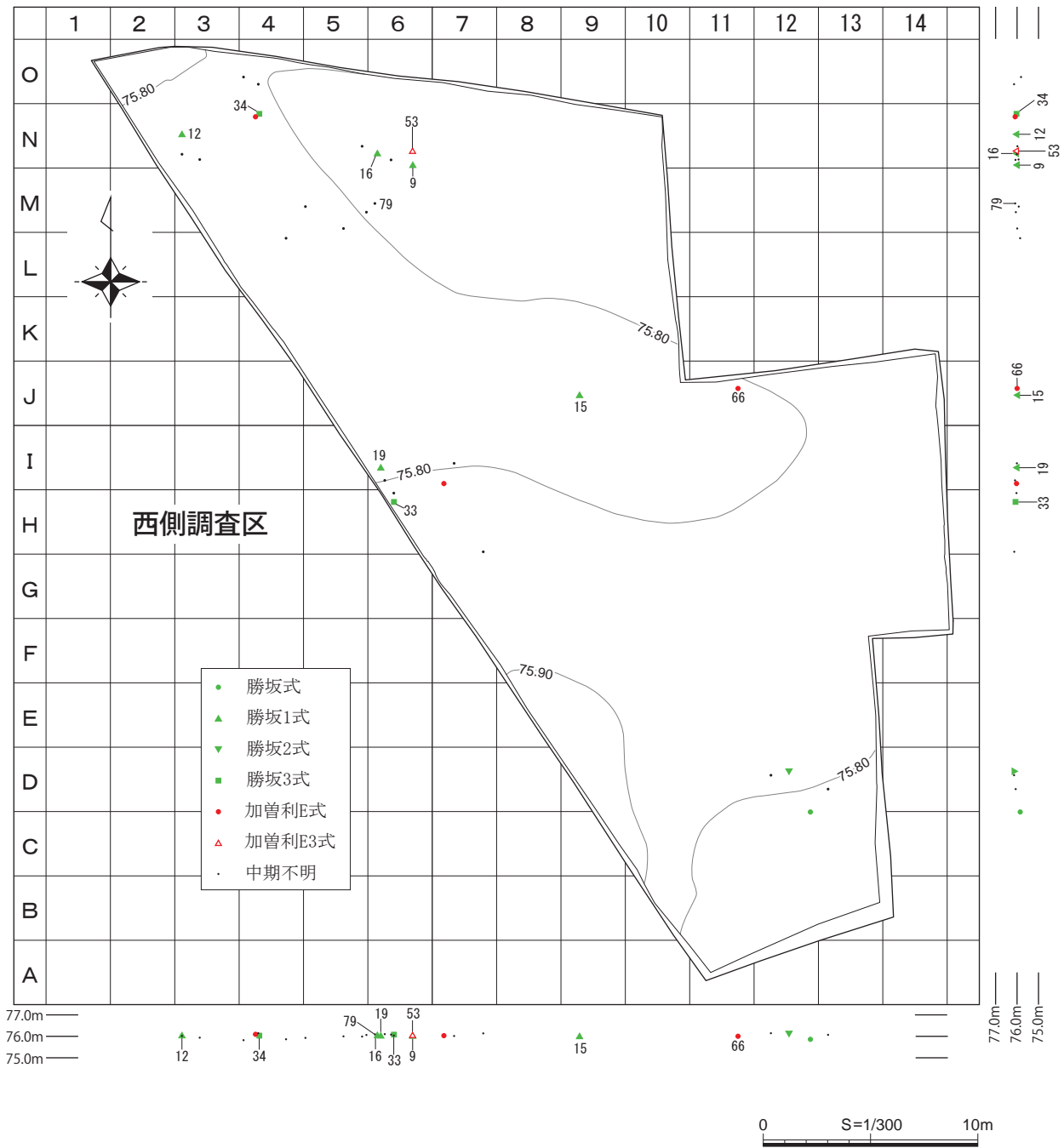
75～81は中期の土器である。75～77は深鉢口縁部片、78～81は深鉢胴部片である。すべて文様は無文であるが、胎土・焼成から中期とした。



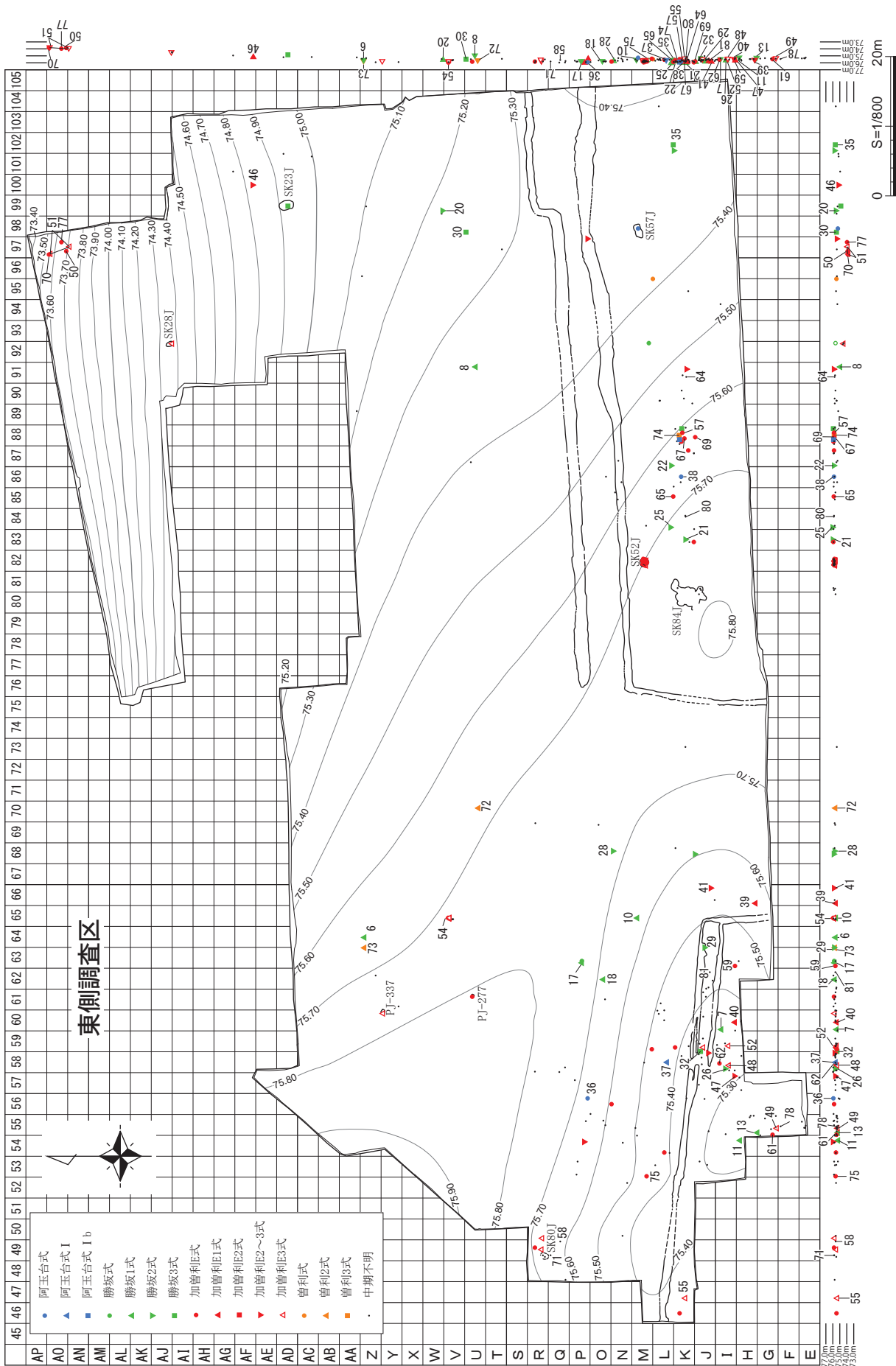
第 106 図 早期土器分布図（西側調査区）



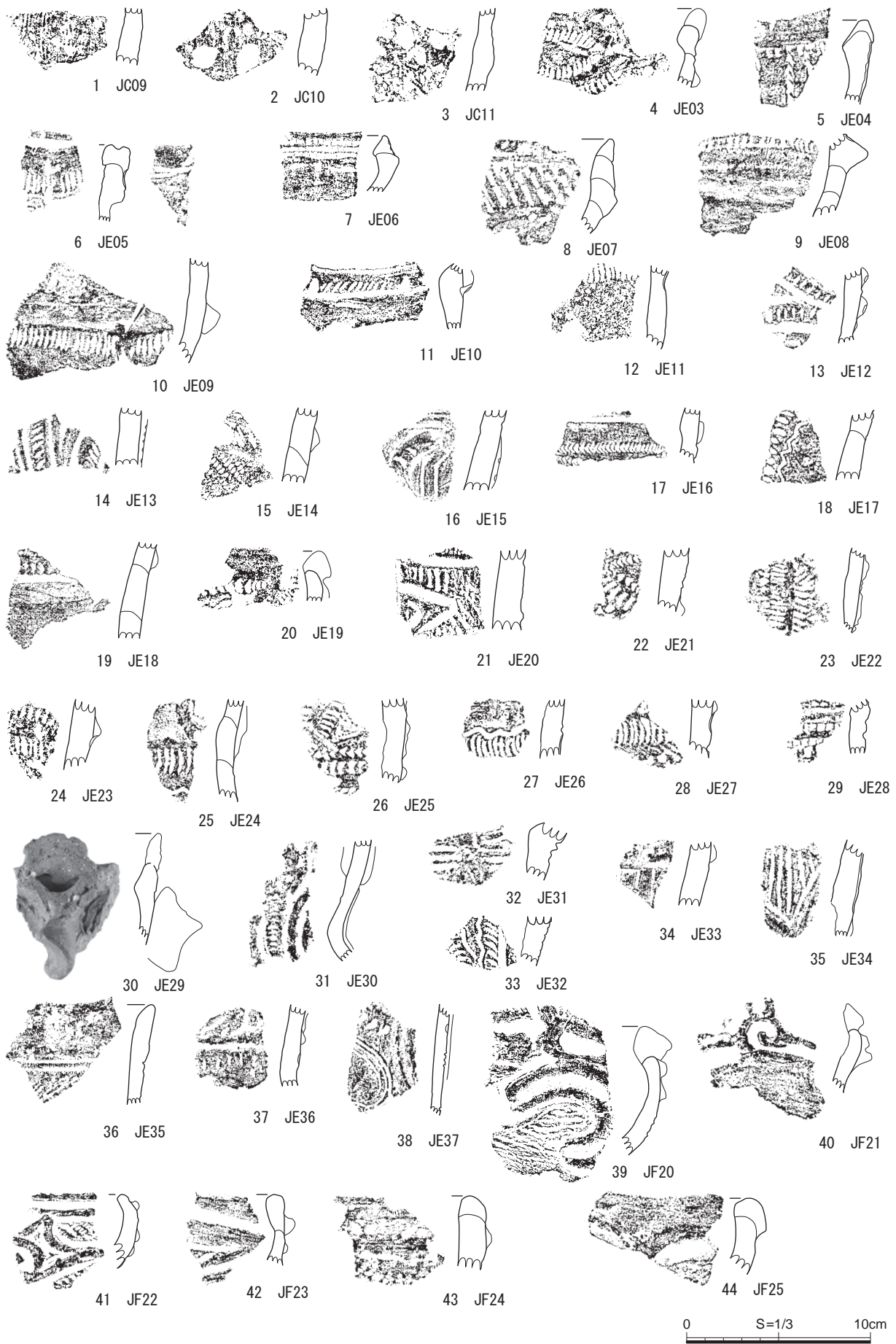
第 107 図 早期土器分布図 (東側調査区)



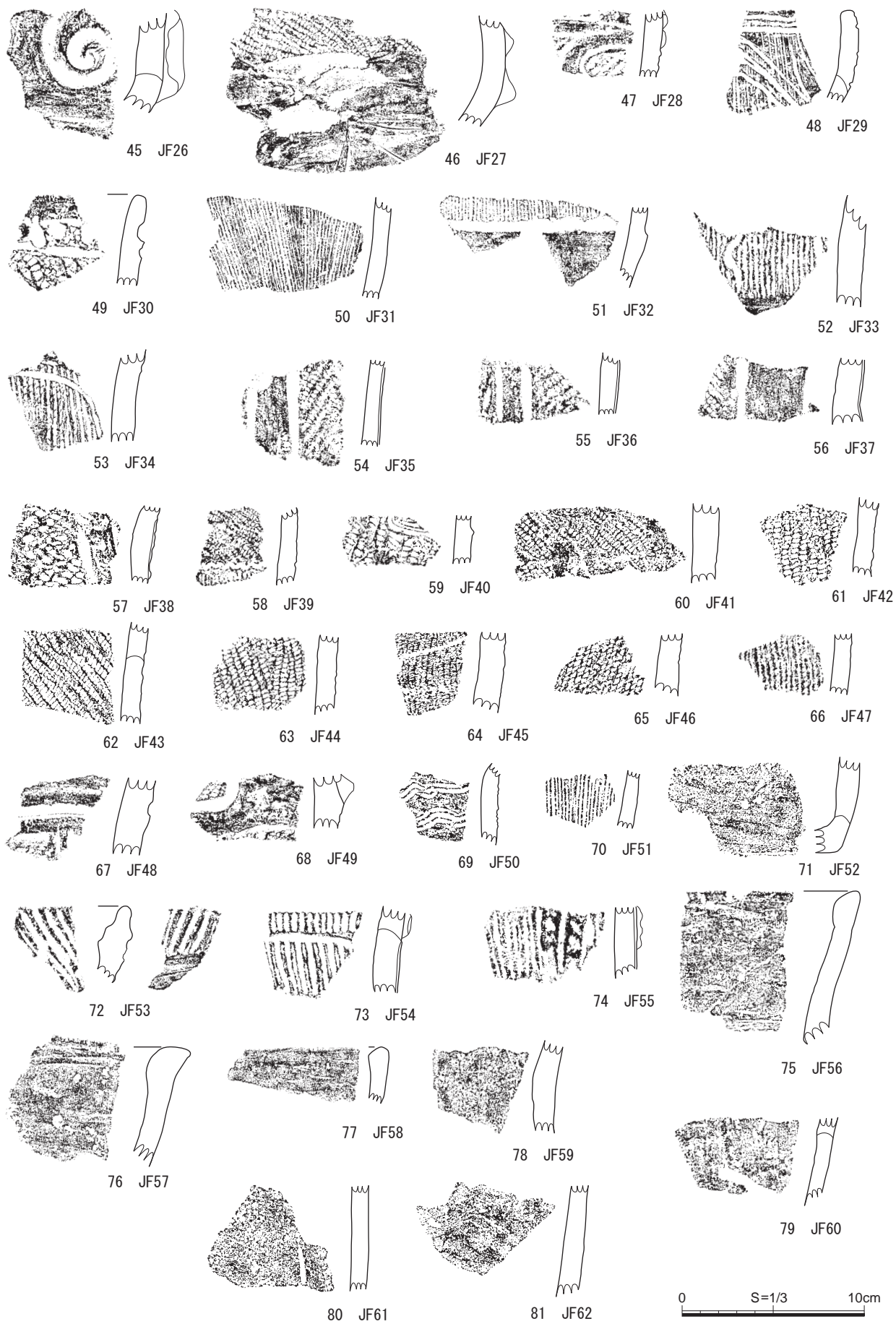
第 108 図 中期土器分布図（西側調査区）



第109図 中期土器分布図 (東側調査区)



第 110 図 遺構外出土遺物 (1)



第 111 図 遺構外出土遺物 (2)

第41表 遺構外出土縄文土器観察表(1)

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土位置・ 層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JC09 110-1 61-1-1	茅山式	深鉢	L-82 II c	[3.0] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面縦方向に細い条痕文。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を少量、繊維を微量含む。焼成は良好。
2 JC10 110-2 61-1-2	茅山式	深鉢	K-79 II c	[3.4] —	胴部片。	内面は粗い磨き。内面縦方向に条痕文。表面指頭圧痕。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を少量、繊維を微量含む。焼成は良好。
3 JC11 110-3 61-1-3	茅山式	深鉢	K-82 II c	[4.2] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面指頭圧痕。斜めに粗い条痕文。	赤褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母・繊維を少量含む。焼成は良好。
4 JE03 110-4 61-1-4	勝坂1式	深鉢	西側調査区 表土一括	[4.5] —	口縁部片。口縁は外傾する。内側に稜を持つ。口唇部尖る。突起を配する。	内面はやや粗い磨き。一部剥落。表面は降帯による楕円区画を配する。降帯に沿って角押文を施す。	灰褐色。胎土は密。1mmの細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
5 JE04 110-5 61-1-5	勝坂1式	深鉢	東側調査区 表土一括	[4.7] —	口縁部片。内側に稜を持つ。口唇部尖る。	内面は粗い磨き。表面は口縁に沿って角押文が、体部はペン先状工具による縦方向の押し文が施される。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・金雲母を多量含む。焼成は良好。
6 JE05 110-6 61-1-6	勝坂1式	深鉢	Z-64 II c	[4.3] —	口縁部片。波状口縁か。	内面は丁寧な磨き。口縁部に2本?の沈線が巡る。剥離あり。口唇部に沈線が巡る。表面は口縁に沿って角押文が施される。	黄褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
7 JE06 110-7 61-1-7	勝坂1式	浅鉢	I-60 II c	[3.1] —	口縁部片。口縁はくの字状に内傾する。	内面は丁寧な磨き。表面は口縁に沿って3本1単位の角押文が廻る。以下無文。	黄褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
8 JE07 110-8 61-1-8	勝坂1式	浅鉢	U-91 攪乱	[3.2] —	口縁部片。口縁はくの字状にやや内傾する。口唇部尖る。	内面は丁寧な磨き。表面は口縁直下に角押文が2本平行に廻り、以下斜めに角押文が施される。以下無文。	黄褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・雲母を極少量含む。焼成はやや不良。
9 JE08 110-9 61-1-9	勝坂1式	浅鉢	N-6 II c	[4.6] —	口縁部片。	内面は丁寧な磨き。朱彩あり。口唇部は平坦で爪形文が廻る。表面は無文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
10 JE09 110-10 61-1-10	勝坂1式	深鉢	M-65 II c	[5.7] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は平坦な降帯を横位に配し、突起部を表出。降帯片側に沿って幅広い角押文を施す。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
11 JE10 110-11 61-1-11	勝坂1式	深鉢	H-54 II c	[3.1] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は降帯を横位に配する。降帯片側に沿って幅広い角押文を施し、等間隔に竹管による刺突が加えられる。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
12 JE11 110-12 61-1-12	勝坂1式	深鉢	N-3 II c	[4.4] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は横方向に幅広い角押文が施される。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
13 JE12 110-13 61-1-13	勝坂1式	深鉢	H-55 II c	[3.8] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は降帯による区画を配する。降帯に沿って沈線が廻る。降帯上に刻み目を加える。	灰褐色。胎土はやや粗い。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
14 JE13 110-14 61-1-14	勝坂1式	深鉢	東側調査区 攪乱一括	[3.2] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は降帯による区画を配する。降帯に沿って沈線が廻る。降帯上に刻み目を加える。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、金雲母を微量含む。焼成は良好。
15 JE14 110-15 61-1-15	勝坂1式	深鉢	J-9 II c	[4.5] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は地文に単節 RL斜縄文が施され、刻みが加えられた降帯が横方向に配される。	橙褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
16 JE15 110-16 61-1-16	勝坂1式	深鉢	N-6 II c	[4.6] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は刻みが加えられた降帯による区画が配され、区画内は沈線がくの字状に施される。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
17 JE16 110-17 61-1-17	勝坂1式	深鉢	P-63 II c	[2.6] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は横方向に平坦な降帯が配され、降帯に沿って幅の異なる三角押文が数本平行して施される。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
18 JE17 110-18 61-1-18	勝坂1式	深鉢	O-62 II c	[4.1] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は縦方向に爪形文と沈線による山形文が施される。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
19 JE18 110-19 61-1-19	勝坂1式	深鉢	I-6 II c	[5.4] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は刻みが加えられた降帯が横位に配される。降帯に沿って沈線が廻る。体部は丁寧な磨きで無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
20 JE19 110-20 61-1-20	勝坂2式	深鉢	W-99 II c	[2.8] —	口縁部片。	内面は丁寧な磨き。表面は降帯による楕円区画が配される。区画内は爪形文が施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・金雲母を多量含む。焼成は良好。
21 JE20 110-21 61-1-21	勝坂2式	深鉢	K-83 II c	[4.9] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は沈線による三角区画中に渦巻文が施される。三角区画帯に沿って燃糸1が連続して押捺される。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
22 JE21 110-22 61-1-22	勝坂2式	深鉢	L-87 II c	[3.4] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は棒状工具による押圧文を有する降帯区画を配する。区画内は幅広い角押文と三角押文が降帯に沿って施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。
23 JE22 110-23 61-1-23	勝坂2式	深鉢	西側調査区 表土一括	[4.6] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は降帯による区画を配する。降帯に沿って幅広い角押文と刺突文が廻る。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。
24 JE23 110-24 61-1-24	勝坂2式	深鉢	西側調査区 表土一括	[4.3] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は降帯に沿って幅広い角押文が施される。	灰褐色。胎土はやや粗い。細砂粒を多量、3~5mm大の石粒・雲母を微量含む。焼成はやや不良。
25 JE24 110-25 61-1-25	勝坂2式	深鉢	L-84 II c	[5.8] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は降帯に沿って角押文と爪形文が廻る。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量、金雲母を微量含む。焼成は良好。
26 JE25 110-26 61-1-26	勝坂2式	深鉢	I-58 II c	[4.8] —	胴部片。	内面は粗い磨き。剥離あり。表面は降帯に沿って幅広い角押文と三角押文が平行に廻る。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・雲母を多量含む。焼成はやや不良。
27 JE26 110-27 61-1-27	勝坂2式	深鉢	試掘調査 4トレ一括	[3.2] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。剥離あり。表面は横方向に波状沈線が廻る。沈線に沿って爪形文が施される。	黄褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。

第 42 表 遺構外出土縄文土器観察表 (2)

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土位置・ 層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
28 JE27 110-28 61-1-28	勝坂 2 式	深鉢	N-68 II c	[3.2] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は隆帯に沿って幅広い角押文が廻る。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
29 JE28 110-29 61-1-29	勝坂 2 式	深鉢	J-63 II c	[3.2] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は横方向に数本単位で角押文が施される。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒を多量含む。焼成は良好。
30 JE29 110-30 61-1-30	勝坂 3 式	深鉢	U-98 II c	[7.7] —	口縁部片。突起部。	内面はやや粗い磨き。表面は隆帯による耳状の突起を配する。体部には角押文を施す。表面剥離あり。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・金雲母を多量含む。焼成は良好。
31 JE30 110-31 61-1-31	勝坂 3 式	深鉢	試掘調査 4トレー一括	[6.7] —	口縁部片。突起部。	内面は粗い磨き。表面は隆帯による円環状の突起を配する。一部欠損。懸垂隆帯上に爪形文が刻まれる。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒を多量、金雲母を少量含む。焼成は良好。
32 JE31 110-32 61-1-32	勝坂 3 式	深鉢	J-58 II c	[3.5] —	口縁部片。	内面は丁寧な磨きだが、剥離著しい。表面は沈線が肋骨状に施される。	赤褐色。胎土は密。細砂粒を多量、金雲母を微量含む。焼成はやや不良。
33 JE32 110-33 61-1-33	勝坂 3 式	深鉢	H-6 II c	[2.7] —	胴部片。	内面は丁寧な磨きだが、剥離している。表面は縦方向に沈線が施文される。沈線間に爪形文が充填される。	黒褐色。胎土は密。砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
34 JE33 110-34 61-1-34	勝坂 3 式	深鉢	N-4 II c	[3.7] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は横方向に隆帯が配され、隆帯に沿って沈線が廻る。体部は縦位の平行沈線が施される。	黒褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
35 JE34 110-35 61-1-35	勝坂 3 式	深鉢	L-101 II c	[5.6] —	胴部片。	内面は粗い磨きだが、一部剥離している。表面はV字状の沈線区画内に縦方向の平行沈線が充填される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量、金雲母を微量含む。焼成は良好。
36 JE35 110-36 61-1-36	阿玉台 I b 式	深鉢	P-56 II c	[5.7] —	口縁部片。口唇は丸味帯びる。	内面は丁寧な磨き。表面は口縁下に横方向に細い角押文が 2 本平行に廻る。体部無文か。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量、金雲母を少量含む。焼成は良好。
37 JE36 110-37 61-1-37	阿玉台 II 式	深鉢	L-58 II c	[4.5] —	胴部片。	内面粗い磨き。表面は隆帯による楕円形?区画を配する。体部に横位のへら状工具による連続刺突文。	橙褐色。胎土はやや粗い。細砂粒と金雲母を多量含む。焼成は良好。
38 JE37 110-38 61-1-38	阿玉台 II 式	深鉢	K-86 II c	[6.1] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は沈線と隆帯による区画を配する。体部に幅広い爪形文を施文する。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・金雲母を多量含む。焼成は良好。
39 JF20 110-39 61-1-39	加曾利 E 1 式	深鉢	H-66 II c	[6.9] —	口縁部片。波状口縁。内傾する。	内面は丁寧な磨き。口唇部に溝。表面は地文に燃糸 r を施し、渦巻状に隆帯を配する。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
40 JF21 110-40 61-1-40	加曾利 E 1 式	深鉢	I-60 II c	[4.7] —	口縁部片。突起あり。口唇一部欠損。やや内傾する。	内面は剥離。表面は渦巻状の隆帯を配する。	黄褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
41 JF22 110-41 61-1-41	加曾利 E 2 式	深鉢	J-66 II c	[4.9] —	口縁部片。内傾する。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節 RL 縄文を施し、隆帯による楕円区画・渦巻文を配する。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
42 JF23 110-42 61-1-42	加曾利 E 2 式	深鉢	試掘調査 1トレー一括	[4.1] —	口縁部片。内傾する。	内面は丁寧な磨き。表面は隆帯による楕円区画を配する。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
43 JF24 110-43 61-1-43	加曾利 E 2 式	深鉢	試掘調査 20トレー一括	[4.2] —	口縁部片。	内面はやや粗い磨き。表面は地文に単節 RL 縄文を施し、隆帯による区画を配する。	赤褐色。胎土はやや粗い。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
44 JF25 110-44 61-1-44	加曾利 E 2 式	深鉢	東側調査区 攪乱一括	[3.9] —	口縁部片。	内面は丁寧な磨き。表面は太い沈線による楕円区画?を配する。区画内に縄文を充填。原体不明。単節 LR か。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
45 JF26 111-45 62-1-45	加曾利 E 2 式	深鉢	試掘調査 表土一括	[5.8] —	口縁部片。口唇欠損。	内面は丁寧な磨き。表面は沈線による渦巻文を配する。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
46 JF27 111-46 62-1-46	加曾利 E 2 式	深鉢	A F-100 II c	[6.6] —	口縁部片。口唇欠損。	内面はやや粗い磨き。表面は隆帯による区画を配していたと思われるが隆帯剥落。区画内に単節 LR 縄文が施される。頸部は無文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量、金雲母を微量含む。焼成は良好。
47 JF28 111-47 62-1-47	加曾利 E 2 式	深鉢	I-57 II c	[4.3] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は低い隆帯による区画を配する。隆帯に沿って沈線が廻る。区画内に単節 LR 縄文を施文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
48 JF29 111-48 62-1-48	加曾利 E 3 式	深鉢	I-57 II c	[5.5] —	口縁部片。口唇は平坦。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に縦方向の条線が施文される。口縁直下に 2 本の平行沈線が廻る。体部に連弧文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
49 JF30 111-49 62-1-49	加曾利 E 3 式	深鉢	G-55 II c	[5.2] —	口縁部片。口唇は丸味帯びる。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節 RL 縄文を施す。口縁直下に口縁に沿って平行沈線を施し、沈線間に棒状工具による円形刺突文を配する。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
50 JF31 111-50 62-1-50	加曾利 E 3 式	深鉢	A O-97 II c	[5.2] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は縦方向に条線が施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
51 JF32 111-51 62-1-51	加曾利 E 3 式	深鉢	A N-97 II c	[4.7] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は縦方向に条線が施される。条線下に沈線が横位に廻り、以下無文帯となる。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
52 JF33 111-52 62-1-52	加曾利 E 3 式	深鉢	I-59 II c	[7.1] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は縦方向に燃糸 r を施文後、縦位に波状沈線を配する。	灰褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
53 JE34 111-53 62-1-53	加曾利 E 3 式	深鉢	N-6 II c	[5.4] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は縦方向に燃糸 r を施文後、2 本平行に弧状沈線を配する。	灰褐色。胎土はやや粗い。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
54 JF35 111-54 62-1-54	加曾利 E 3 式	深鉢	V-65 II c	[5.9] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は斜方向に単節 RL 縄文を施文後、縦位の平行沈線を施す。沈線間は磨り消し縄文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。

第43表 遺構外出土縄文土器観察表(3)

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土位置・ 層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
55 JF36 111-55 62-1-55	加曾利E 3式	深鉢	K-47 II c	— [3.7] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は斜めに単節RL縄文を施文後、縦位の平行沈線を施す。沈線間は磨り消し縄文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
56 JF37 111-56 62-1-56	加曾利E 3式	深鉢	西側調査区 攪乱一括	— [3.5] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は斜めに縄文(原形不明)を施文後、縦位の平行沈線を施す。幅広い沈線間は磨り消し縄文。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
57 JF38 111-57 62-1-57	加曾利E式	深鉢	K-88 II c	— [4.3] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は地文に粗い単節RL縄文を斜めに施文後、縦方向に沈線を配する。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
58 JF39 111-58 62-1-58	加曾利E式	深鉢	Q-49 II c	— [4.2] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は地文に単節LR縄文を斜めに施文後、横方向に波状沈線を廻らす。	赤褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
59 JF40 111-59 62-1-59	加曾利E式	深鉢	H-63 II c	— [3.0] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節RL縄文を斜めに施文後、横方向に沈線を配する。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
60 JF41 111-60 62-1-60	加曾利E式	深鉢	西側調査区 攪乱一括	— [4.2] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節RL縄文が斜めに施こされる。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
61 JF42 111-61 62-1-61	加曾利E式	深鉢	G-55 II c	— [4.4] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節RL縄文が縦方向に施こされる。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
62 JF43 111-62 62-1-62	加曾利E式	深鉢	I-58 II c	— [5.5] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節RL縄文が斜め方向に施こされる。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量に含む。焼成は良好。
63 JF44 111-63 62-1-63	加曾利E式	深鉢	西側調査区 攪乱一括	— [4.7] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は地文に単節RL縄文が縦方向に施こされる。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量に含む。焼成はやや良好。
64 JF45 111-64 62-1-64	加曾利E式	深鉢	K-91 II c	— [4.2] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は地文に単節RL縄文が縦方向に施こされる。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
65 JF46 111-65 62-1-65	加曾利E式	深鉢	L-85 II c	— [3.4] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は地文に撚り糸rが縦方向に施文される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
66 JF47 111-66 62-1-66	加曾利E式	深鉢	J-11 II c	— [3.4] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に撚り糸rが縦方向に施文される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
67 JF48 111-67 62-1-67	加曾利E式	深鉢	K-88 II c	— [5.1] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は低い隆帯による区画が配される。地文に単節RL縄文が縦方向に施文される。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
68 JF49 111-68 62-1-68	加曾利E式	深鉢	東側調査区 攪乱一括	— [3.3] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。一部剥離。表面は隆帯による区画が配される。区画内に単節RL縄文が施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
69 JF50 111-69 62-1-69	加曾利E式	深鉢	J-88 II c	— [4.0] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は横方向に2~3本1単位の波状沈線が施文される。連弧文系か。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、金雲母を少量に含む。焼成は良好。
70 JF51 111-70 62-1-70	加曾利E式	深鉢	AO-97 II c	— [3.5] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は縦方向に条線が施される。	黄褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
71 JF52 111-71 62-1-71	加曾利E式	深鉢	Q-49 II c	— [5.5] —	底部片。	内面は粗い磨き。表面は丁寧な磨き。地文に単節RL縄文が縦方向に施文される。底部は無文。	赤褐色。胎土は密だ。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
72 JF53 111-72 62-1-72	曾利II式	深鉢	U-70 II c	— [5.4] —	口縁部片。口唇部尖る。内面に稜を持つ。	内面は丁寧な磨き。両面に斜め方向の沈線を施す。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
73 JF54 111-73 62-1-73	曾利II式	深鉢	Z-63 II c	— [4.7] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面はヘラ状工具による押し文が加えられた隆帯を横位に配する。体部に縦方向の集合沈線を施す。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
74 JF55 111-74 62-1-74	曾利III式	深鉢	K-88 II c	— [4.3] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は棒状工具による押し文を加えた懸垂隆帯を2本配し、縦方向の集合沈線を施文する。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
75 JF56 111-75 62-1-75	中期	深鉢	M-53 II c	— [8.8] —	口縁部片。	内面は丁寧な磨き。表面は無文。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
76 JF57 111-76 62-1-76	中期	深鉢	試掘調査 11トレ一括	— [6.9] —	口縁部片。	内面は丁寧な磨き。一部剥離。表面は無文。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
77 JF58 111-77 62-1-77	中期	深鉢	AO-97 II c	— [3.2] —	口縁部片。	内面は丁寧な磨き。表面は無文。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
78 JF59 111-78 62-1-78	中期	深鉢	F-55 II c	— [5.4] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は無文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
79 JF60 111-79 62-1-79	中期	深鉢	M-6 II c	— [5.1] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
80 JF61 111-80 62-1-80	中期	深鉢	K-84 II c	— [5.8] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は無文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
81 JF62 111-81 62-1-81	中期	深鉢	J-62 II c	— [4.7] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は無文。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。

(2) 石器 (第112～119図、第44～46表、図版63-82～65-98)

縄文時代に属すると思われる石器は72点出土した。このうち遺構覆土に含まれていたのは3点で、包含層出土が47点、攪乱と思われるものは22点を数える。すべて単独出土であり、集中は殆ど見られないが、2点の打製石斧(85・86)は近接して出土している。器種では打製石斧が24点(33%)を占め、他にスタンプ形石器6点や石皿8点、敲石5点、礫器3点など、加工具が目立つ。

以下に主要な石器を図示し、説明する。なお、S D 8 溝状遺構より出土した2点の打製石斧は、溝状遺構の項で説明する(P 163)。

石 鏃 (第116図82、第44表、図版63-1)

東側調査区のB-2区南西隅の攪乱より出土した。暗灰色半透明のチャート製の凹基鏃である。長さ3cmとやや大型で、表裏面共に丁寧な剥離によって成形される。

スクレイパー (第116図83、第41表、図版63-1)

東側調査区AM-87グリッドの第Ⅱc層より出土した。半透明の良質な黒曜石の不定形剥片を素材とし、右側縁上部に裏面に向けた調整を施して刃部を作る。刃部は完成しておらず、未成品と思われる。石材の黒曜石は小深沢の産と同定された(第5章)。

打製石斧 (第116図84～87、第44表、図版63-1)

4点いずれも完成品で欠損はなく、使用痕跡の見られない資料である。

84は東側調査区M-82グリッドの第Ⅱc層より出土した。淡褐色の砂岩製の撥形石斧である。刃部は長軸に対して20°程傾く。表面に大きく原礫面を残す。厚みと重量感のある石器である。

85は東側調査区Z-66グリッドの第Ⅱc層より出土した。別の打製石斧86と近接して発見された。暗灰色の頁岩製の撥形石斧である。薄い剥片の両側縁に丁寧な調整を加えて成形する。刃部は極めて薄く、尖形を呈する。上端に原礫面を残す。全体として薄造りである。石材は限りなく粘板岩に近い頁岩と見られる。

86も東側調査区Z-65グリッドの第Ⅱc層で、85の打製石斧と近接して出土した。灰色の頁岩製の撥形石斧である。薄い剥片の両側縁に調整を施して成形される。表面の大半は原礫面である。刃部にはあまり調整を加えない。これも薄造りの石器である。85と86は石材と製作技術、器体の薄さなどが共通しており、特別な関連が伺われよう。

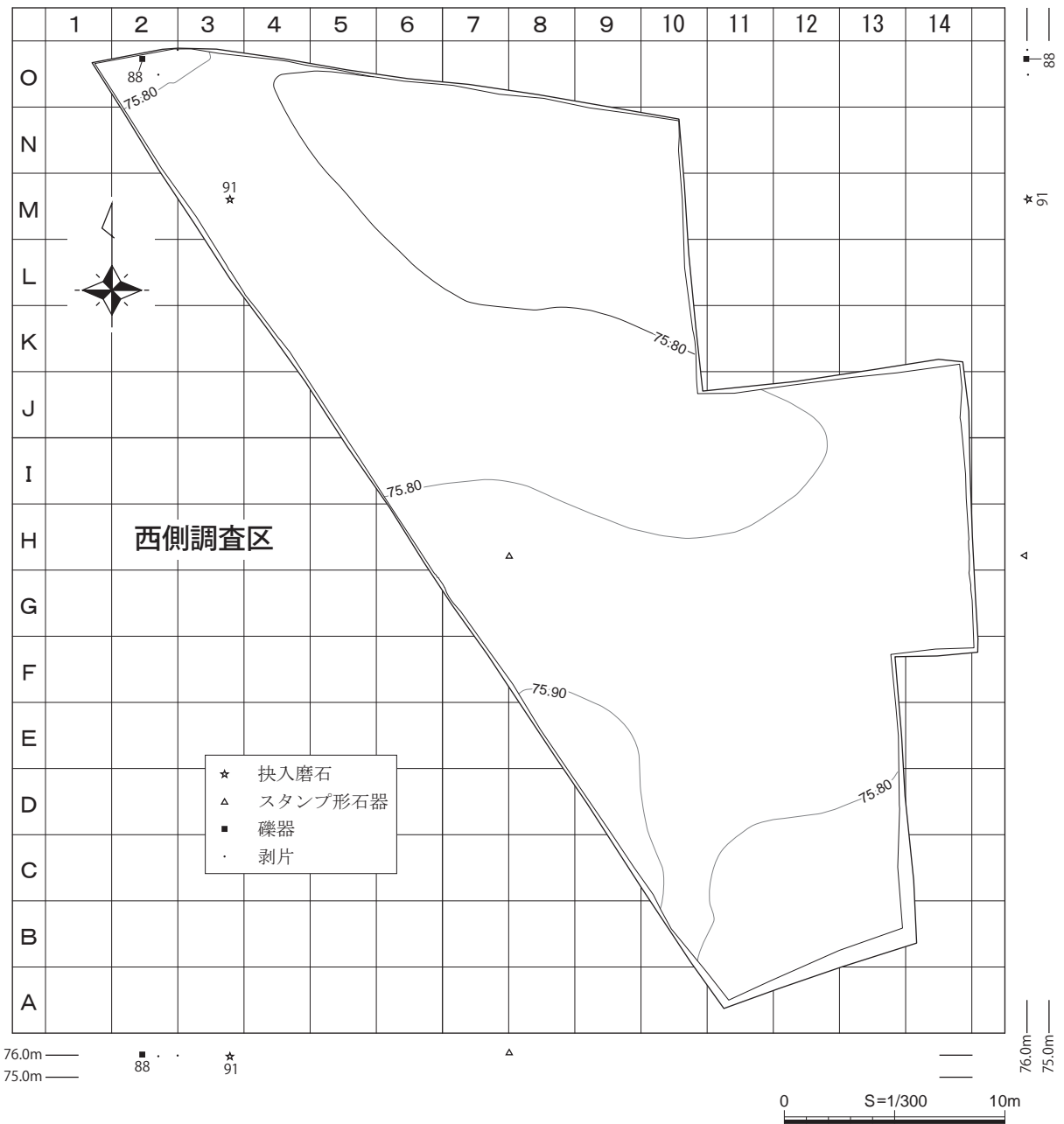
87は東側調査区のA-4区南部の攪乱から出土したもので、灰色の砂岩製の分銅形石斧である。小振りな剥片の周縁に調整を加えて粗く成形する。表面には原礫面を残す。側縁の抉り部分には敲打痕や磨耗痕が見られない。

礫 器 (第117図88～90、第44表、図版63・64-1)

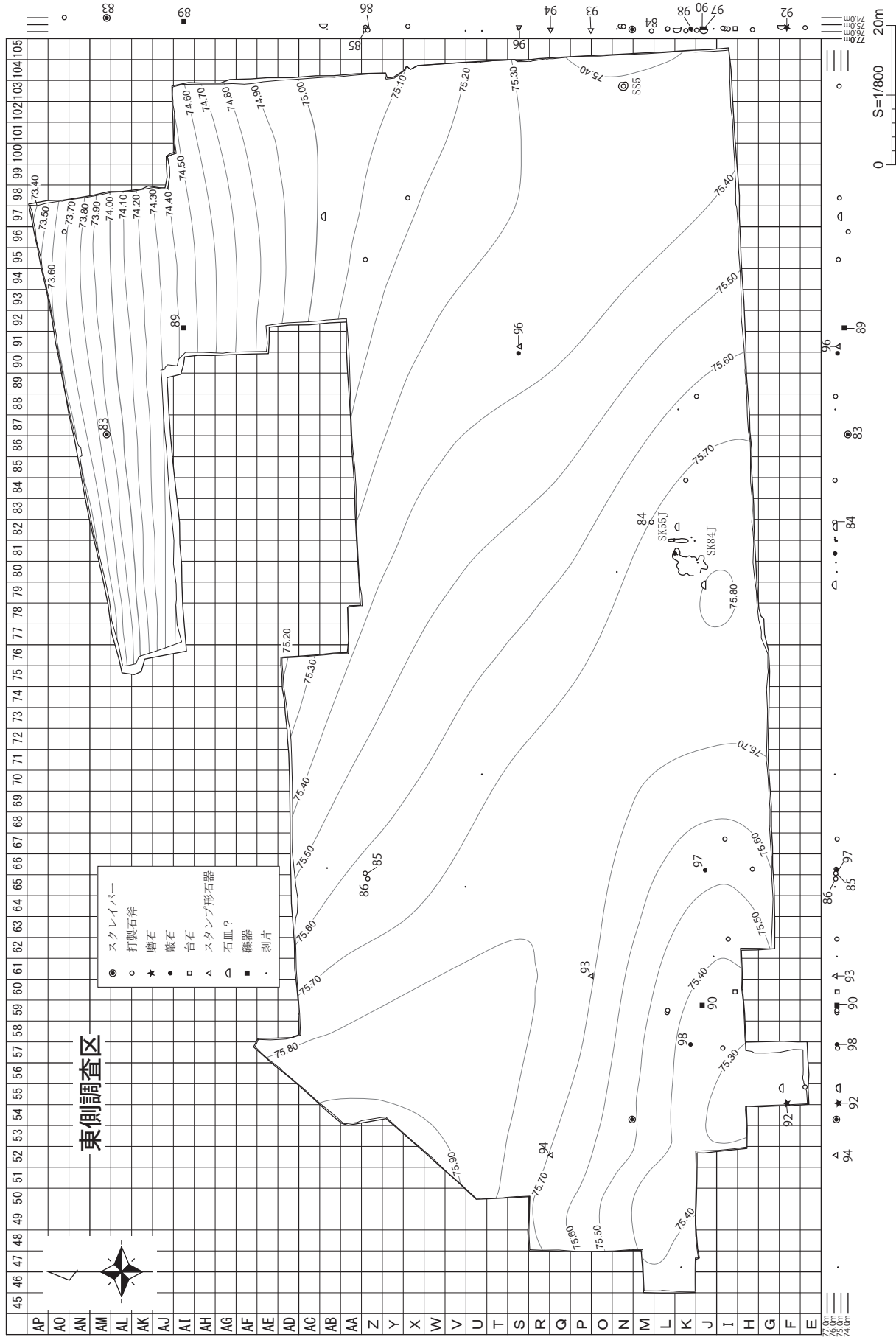
88は西側調査区O-2グリッドの第Ⅱc層から出土した。淡灰色のホルンフェルスの扁平礫を素材とし、一辺に一方向から連続した粗い剥離を加えるうち、本体を節理面で縦半分に打割ってしまったものである。よって、裏面は未加工の節理破損面であり、表面の調整剥離面は大半が打点部分を失っている。その結果、礫器としては薄手の器体となったが、破損によって目減りした刃部はまだ使用可能な状態である。肉眼では刃部に使用痕跡は認められない。完成品であるのか、破損品もしくは未成品と見なすか、判然としない。全体的に風化している。

89は東側調査区AI-92グリッドの第Ⅱc層より出土した。灰色のホルンフェルスの円礫を粗割りし、その一端に3～4回の剥離を一方向から施して刃部とする。やや小型ながら重量感があり、よく手に馴染む石器である。全体的に風化している。

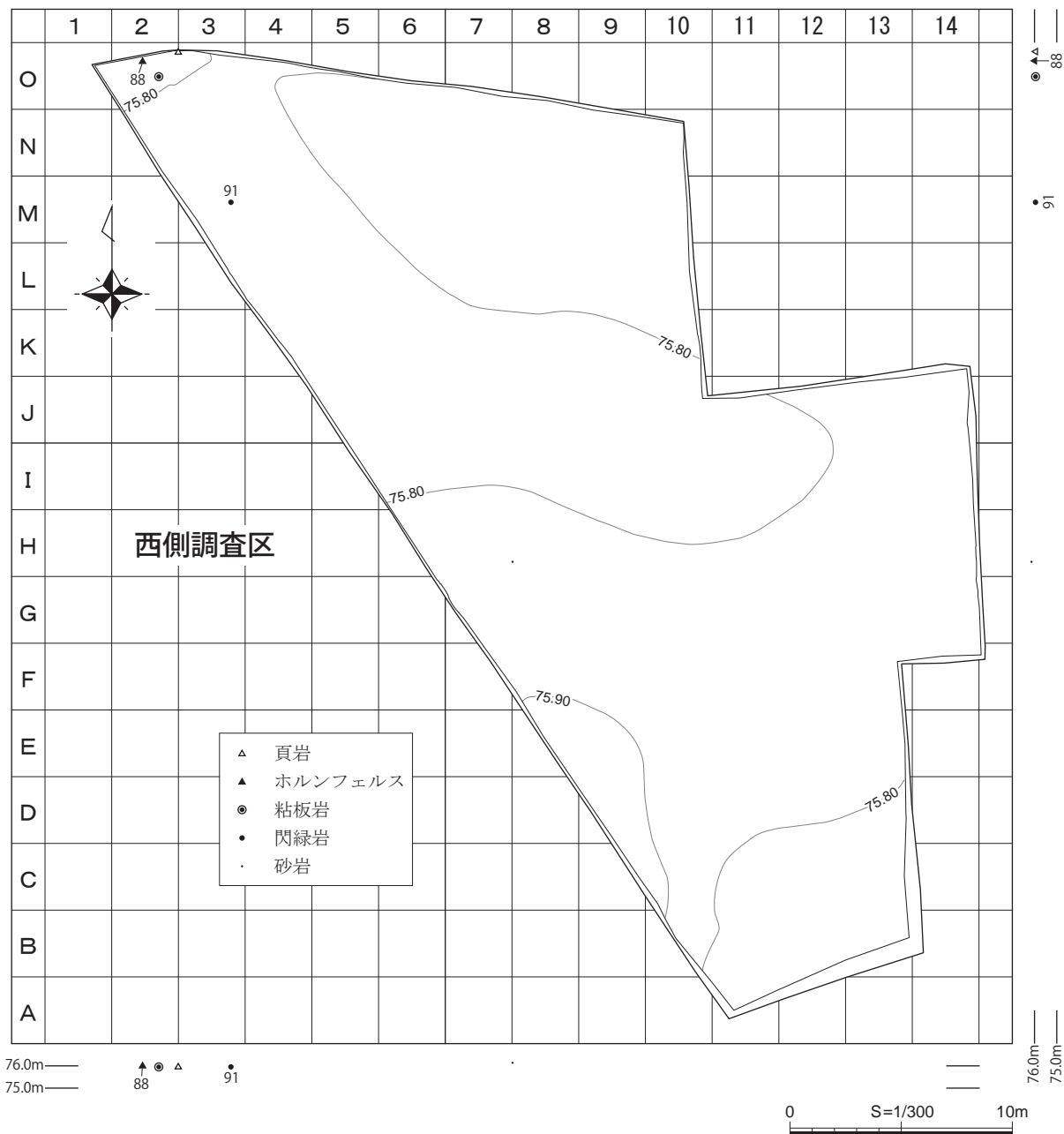
90は東側調査区J-59グリッドの第Ⅱc層より出土した重量感のある礫器である。淡黄灰色～灰色のホルンフェルスの円礫を縦に半割し、一辺に一方向から4～5回の剥離を加えて刃部を成形する。全体が風化している。



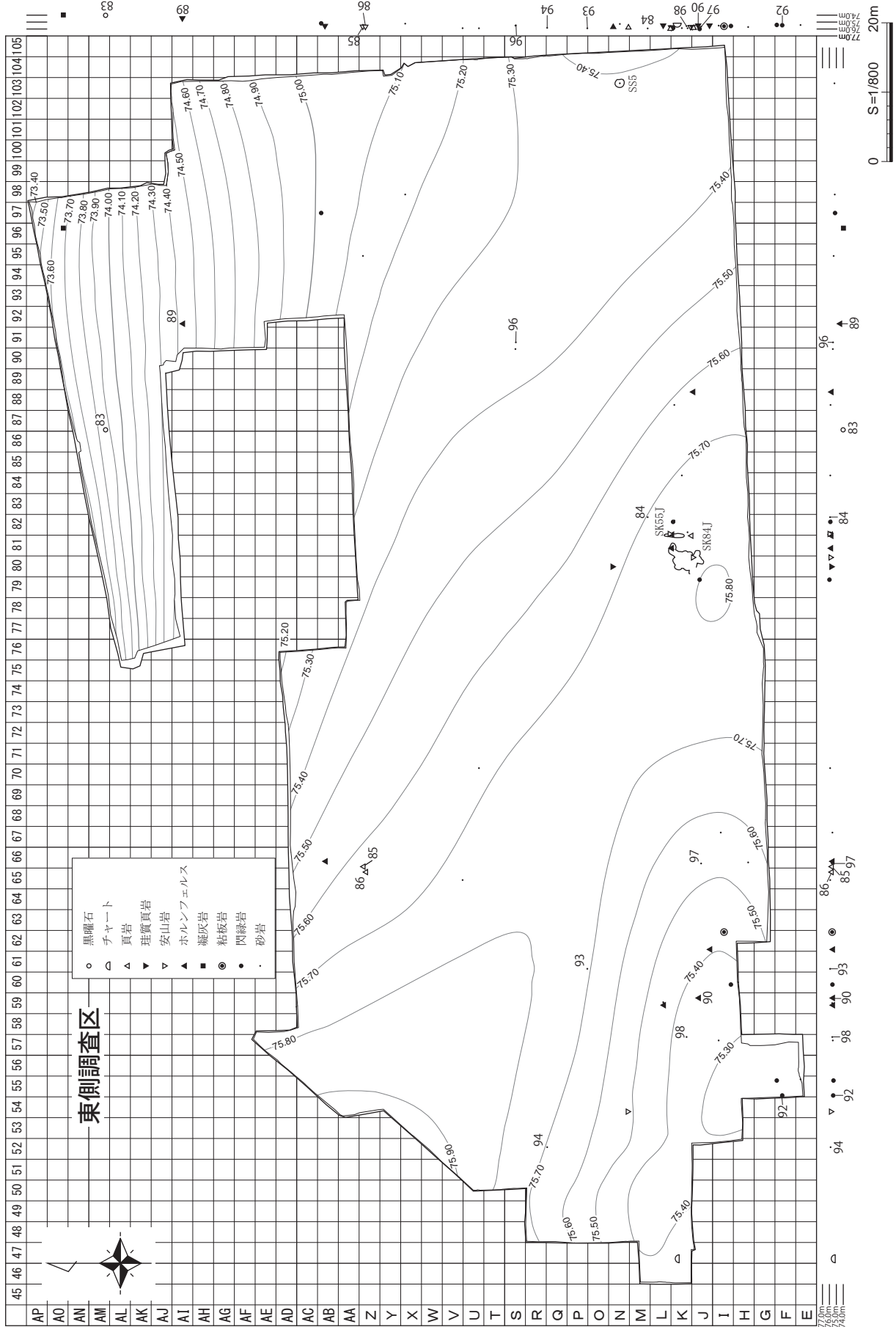
第 112 図 石器器種別分布図（西側調査区）



第 113 図 石器種類別分布図 (東側調査区)



第 114 図 石器石質別分布図 (西側調査区)



第 115 図 石器石質別分布図 (東側調査区)

挟入磨石（第117図91、第44表、図版64-1）

西側調査区M-3グリッドで第Ⅱc層より出土した。閃緑岩の扁平礫の両端に挟り加工を施し、上下縁には敲打を加えて平面を作出したもの。挟り部の中央にはわずかに潰れが見られる。表裏の原礫面は滑らかであるが、擦痕は見られない。上下縁から表裏面に向かってできた不規則な剥離面は、意図的な剥離加工ではなく、上下面の敲打作業の結果と考えられる。つまり上下の平面は、本資料を用いた敲打作業の結果形成された可能性が高い。両端の挟りに叉状の木枝を固定し、これを柄として硬質な台の上で何らかの敲打作業が行われたものと見る事ができようか。

凹磨石（第118図92、第44表、図版64-1）

東側調査区F-55グリッドの第Ⅱc層より出土した閃緑岩の円礫で、表面中央に敲打によって浅い凹みが作られる。右側縁中央部に挟りがあり、内部に若干の敲打痕を帯びる。意図的な加工ないし作業の結果と思われる。下半部を欠損する。

スタンプ形石器（第118図93・94、第119図95・96、第44表、図版64・65-1）

93は東側調査区P-61グリッドの第Ⅱc層より出土した。淡灰色の砂岩の細長い円礫を用い、一端を打割して使用面を作り、両側縁に剥離および敲打を加えて成形する。底部の使用面には若干の磨耗が見られ、頭部には使用痕と目される敲打痕を帯びる。右側縁下部の複数の剥離痕は、成形というより底面の下方向への敲打使用によって生じた破損と見られる。側縁の加工は、特に左側縁で原礫の「角」部分に集中していることから、手に保持し易い形態を求めて施されたものと考えられる。

94は東側調査区Q-52グリッドの第Ⅱc層より出土した。淡灰色の砂岩の厚みのある不定形礫を素材とし、一端を打割して使用面とし、両側縁と頭部に剥離および敲打を加えて成形する。使用面と目される底面には磨耗や敲打痕が殆ど見られない。底面周縁にも剥離痕が殆どなく、あまり使用されていないものと思われる。大振りで重量感のある石器であるが、側縁・頭部の加工によって持ち易い形態に作られたものである。全体に風化が見られる。

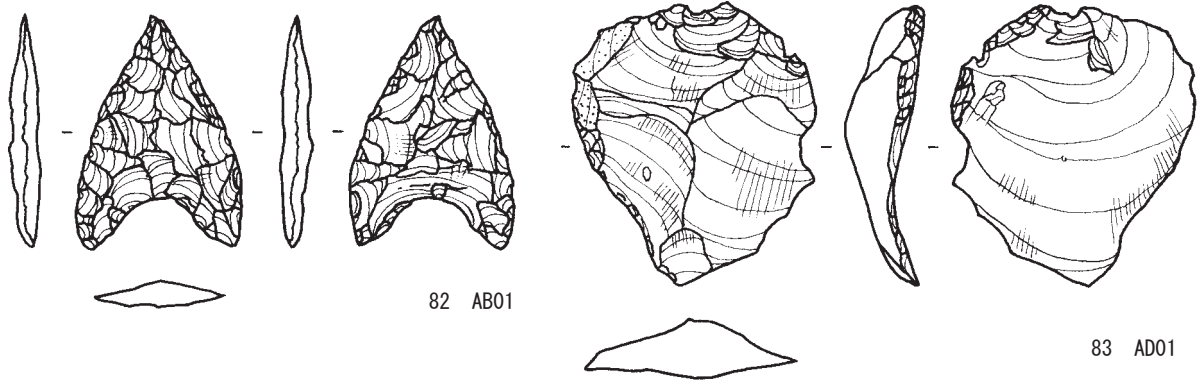
95は東側調査区のB-3区東部の攪乱より出土した。灰褐色の砂岩製で、断面三角形の細長い自然礫の一端を打割し、打割面の周縁から調整を施して平坦な使用面を作出したものである。全く使用痕跡を帯びない。側縁に加工を施さないのは、原礫自体が既に握り易い大きさ・形態であるためと考えられる。

96は東側調査区S-91グリッドの第Ⅱc層より出土した。灰色の砂岩の細長い自然礫である。器体成形のための加工は特に見られない。使用面と思われる底面は顕著に磨耗するが、使用によるものか自然面であるのか、判然としない。一方、底面周縁に二箇所の小剥離痕が見られ、底面の敲打使用による破損と考えられる。

敲石（第119図97・98、第44表、図版65-1）

97は東側調査区J-66グリッドの第Ⅱc層より出土したもので、淡灰色の砂岩のやや扁平な円礫を利用したもので、一端に使用の結果と思われる大きな剥離面と、複数の小さな剥離痕を帯びる。あるいは単純な礫器と見る事も可能である。

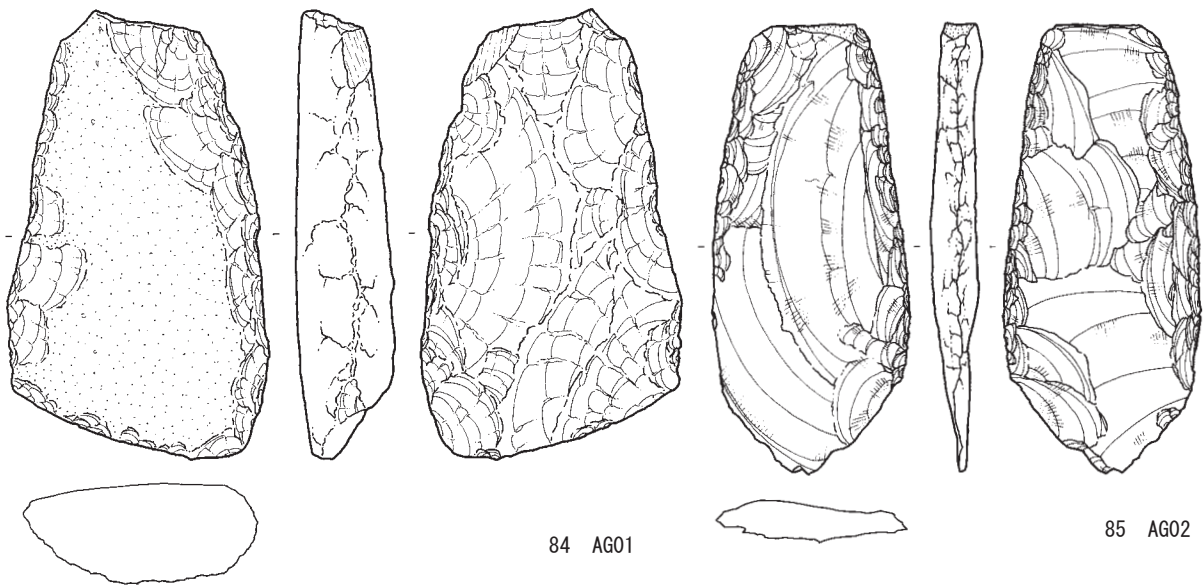
98は東側調査区K-57グリッドで第Ⅱc層より出土した。細長い三角形を呈するやや扁平な自然礫で、一端に敲打使用によると思われる複数の剥離痕が見られる。



82 AB01

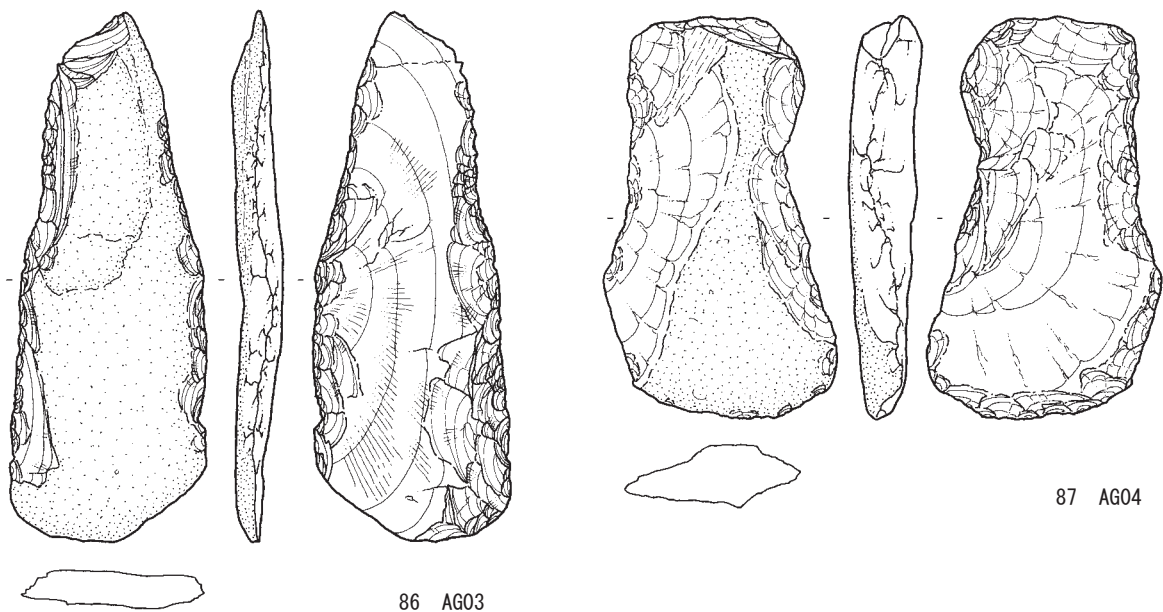
83 AD01

0 S=1/1 2cm



84 AG01

85 AG02

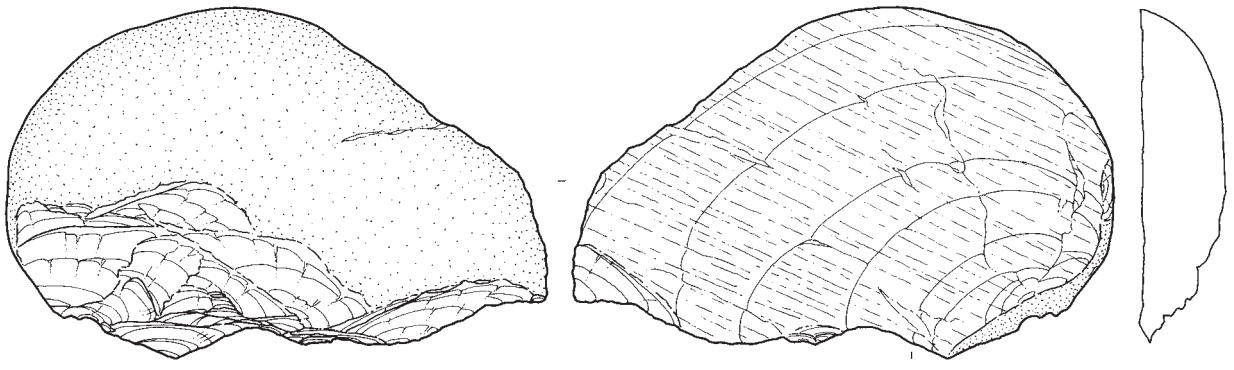


86 AG03

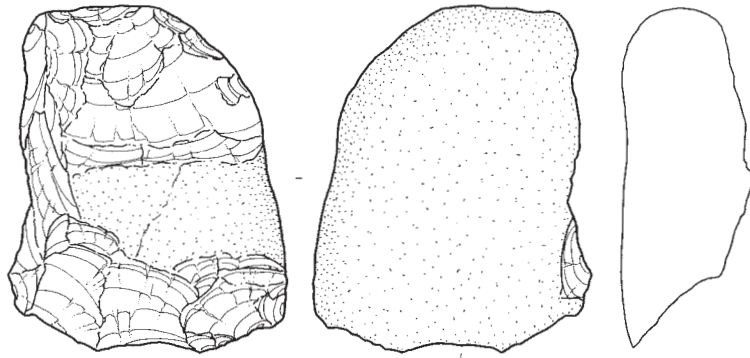
87 AG04

0 S=1/2 5cm

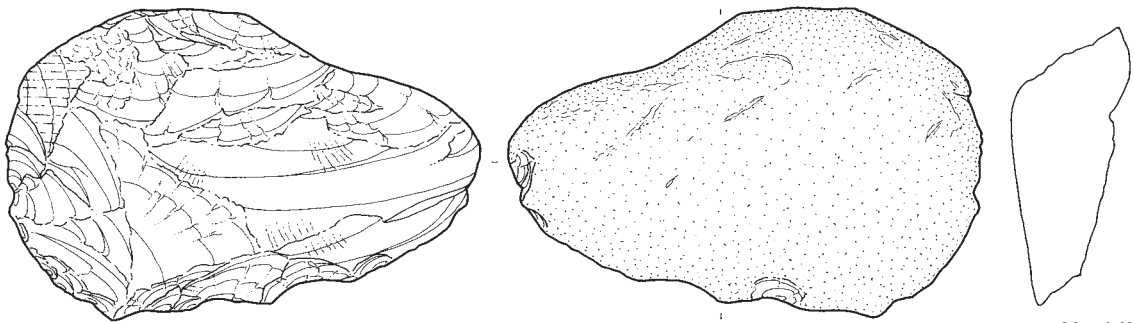
第 116 図 遺構外出土遺物 (3)



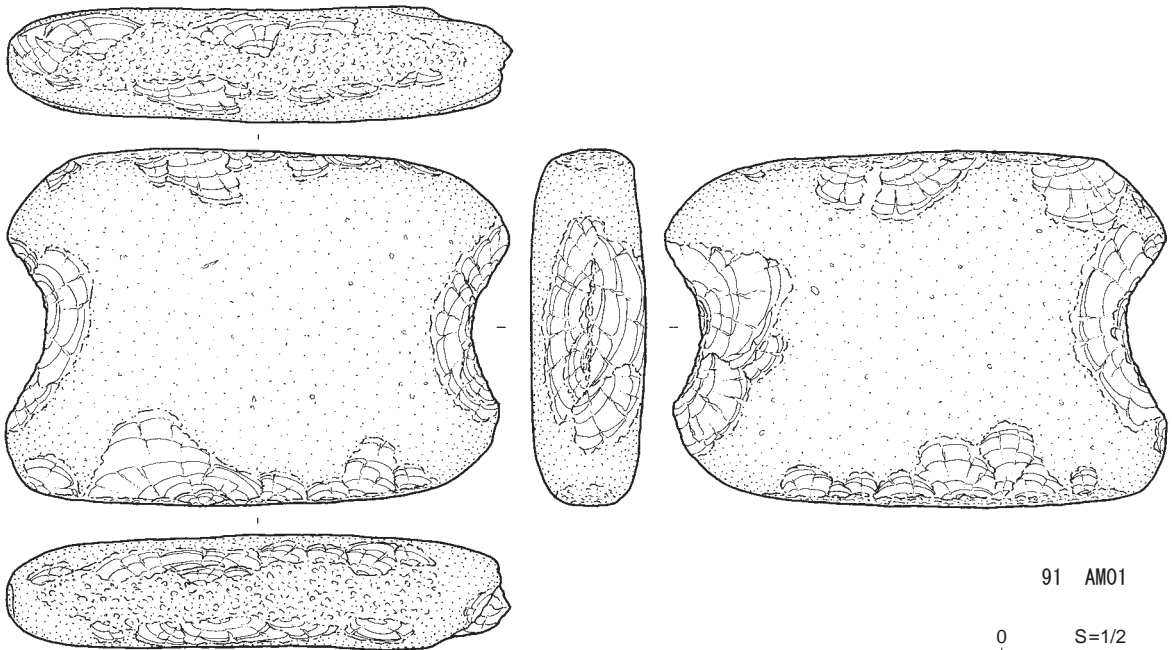
88 AJ01



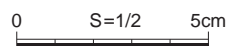
89 AJ02



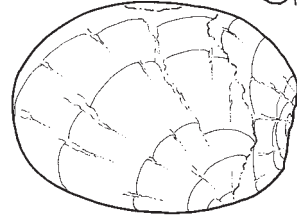
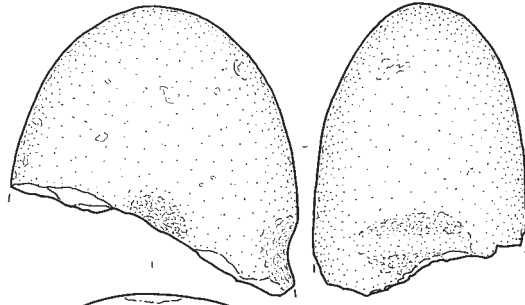
90 AJ03



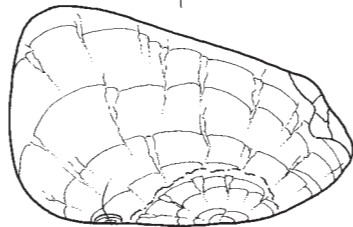
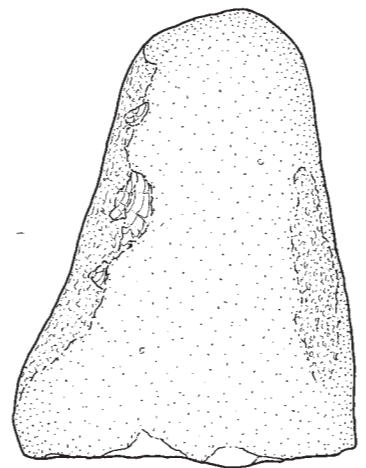
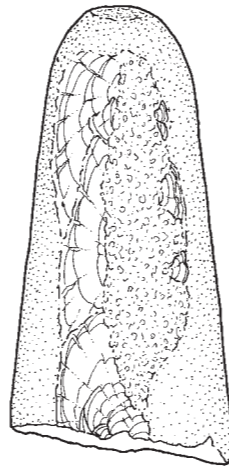
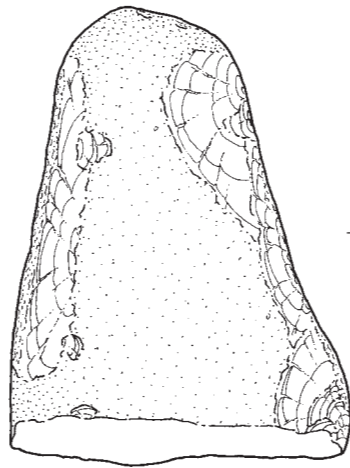
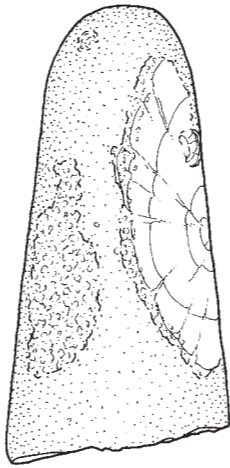
91 AM01



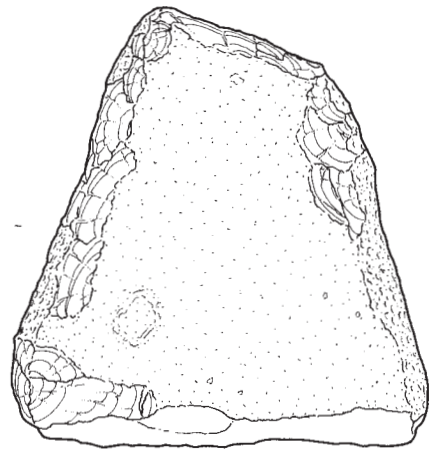
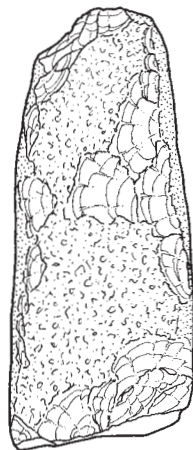
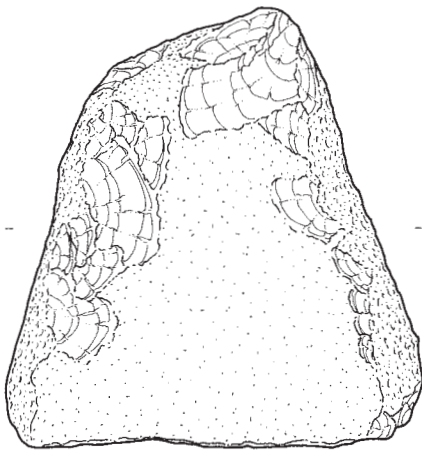
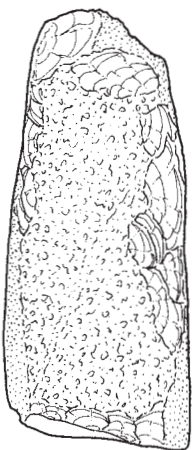
第 117 図 遺構外出土遺物 (4)



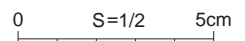
92 AL01



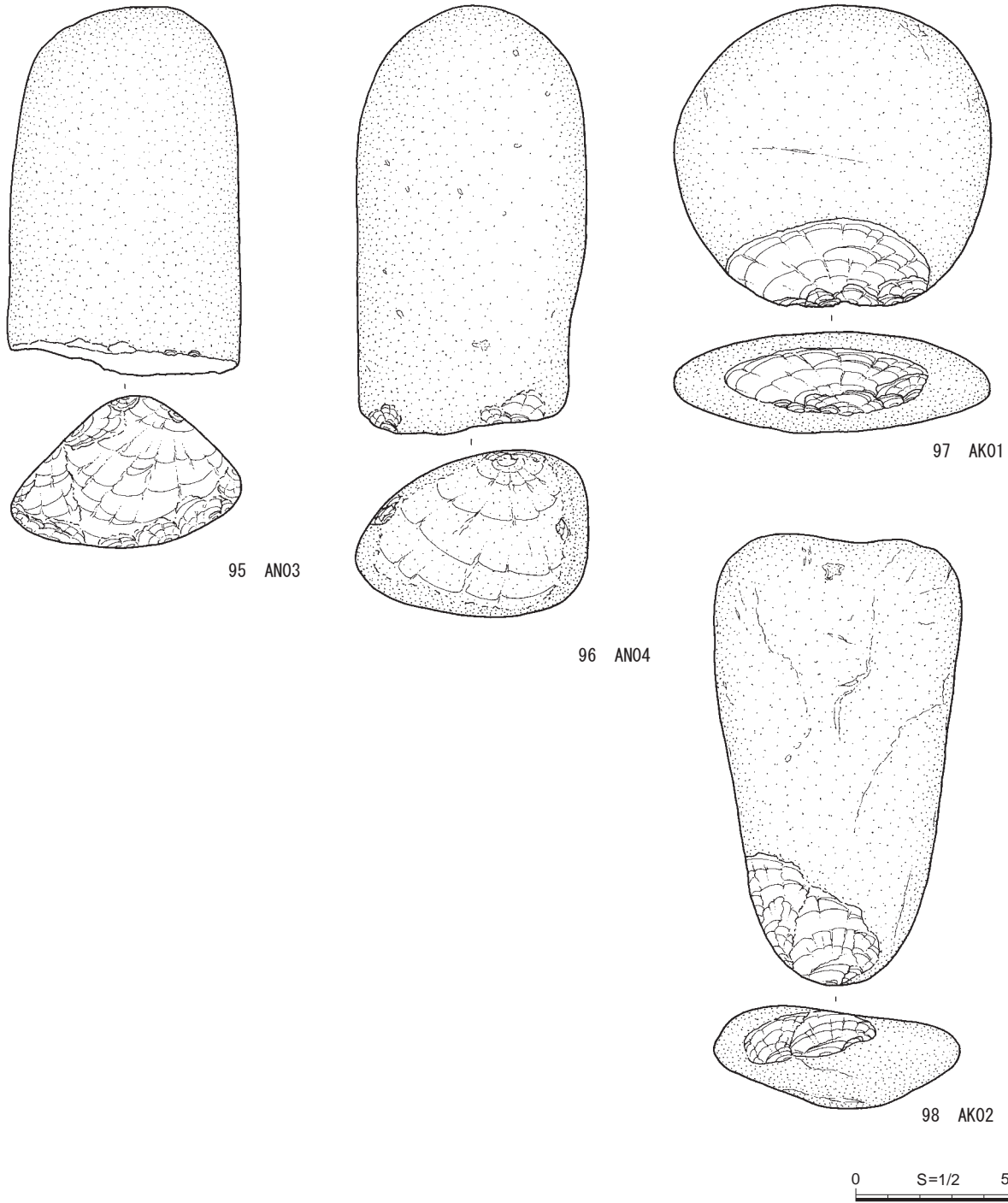
93 AN01



94 AN02



第 118 図 遺構外出土遺物 (5)



第 119 図 遺構外出土遺物 (6)

第 44 表 遺構外出土石器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	器 種	石 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
82 AB01 116-82 63-1-82	163	攪乱	東側調査区	石鏃	Ch	3.01	2.14	0.38	2.1	
83 AD01 116-83 63-1-83	2472	II c	A M-87	スクレイパー	Ob	3.68	3.19	0.69	5.7	未成品、小深沢
84 AG01 116-84 63-1-84	641	II c	M-82	打製石斧	Sa	11.59	6.82	2.55	248.3	
85 AG02 116-85 63-1-85	4330	II c	Z-66	打製石斧	Sh	11.70	5.15	1.12	85.4	
86 AG03 116-86 63-1-86	4332	II c	Z-65	打製石斧	Sh	13.76	5.09	1.00	93.2	
87 AG04 116-87 63-1-87	4427	攪乱	東側調査区	打製石斧	Sa	10.46	6.10	1.72	119.8	
88 AJ01 117-88 63-1-88	4811	II c	O-2	礫器	Ho	9.10	14.21	2.23	329.0	
89 AJ02 117-89 64-1-89	31	II c	A I-92	礫器	Ho	9.29	7.35	3.66	300.7	
90 AJ03 117-90 64-1-90	4486	II c	J-59	礫器	Ho	7.91	12.24	3.76	359.2	
91 AM01 117-91 64-1-91	4809	II c	M-3	抉入磨石	Di	9.26	13.04	3.02	685.1	上下面に敲打痕
92 AL01 118-92 64-1-92	4508	II c	F-55	凹磨石	Di	7.49	7.28	5.40	320.6	下部欠損
93 AN01 118-93 64-1-93	4308	II c	P-61	スタンプ形石器	Sa	11.50	8.93	5.59	677.7	頭部に敲打痕
94 AN02 118-94 65-1-94	4415	II c	Q-52	スタンプ形石器	Sa	11.23	10.62	4.75	856.3	全面風化
95 AN03 119-95 65-1-95	176	攪乱	東側調査区	スタンプ形石器	Sa	11.37	7.20	4.96	564.4	
96 AN04 119-96 65-1-96	167	II c	S-91	スタンプ形石器	Sa	13.06	7.34	5.27	806.0	底面摩耗
97 AK01 119-97 65-1-97	4323	II c	J-66	敲石	Sa	9.34	9.90	3.12	394.5	
98 AK02 119-98 65-1-98	4387	II c	K-57	敲石	Sa	13.99	7.76	3.14	493.5	

第 45 表 縄文時代出土石器器種一覧表

器種	出土地点	SS5	SL2	SK55J	包含層	SD8	SD9	SD25	攪乱・盛土層	総計	比率(%)
石鏃									1	1	1.4
スクレイパー					2					2	2.8
打製石斧		1			13	2	4	1	3	24	33.0
礫器					3					3	4.2
凹磨石					1					1	1.4
磨石							1			1	1.4
扶入磨石					1					1	1.4
スタンプ形石器					4		1		1	6	8.3
敲石					4		1			5	6.9
石皿?					4	1	3			8	11.1
台石					1					1	1.4
剥片			1	1	14	1	1		1	19	26.4
総計		1	1	1	47	4	11	1	6	72	100

第 46 表 縄文時代出土石器石質一覧表

石質	出土地点	SS5	SL2	SK55J	包含層	SD8	SD9	SD25	攪乱・盛土層	総計	比率(%)
黒曜石					1					1	1.4
安山岩			1		2					3	4.2
頁岩					4				1	5	6.9
珪質頁岩									1	1	1.4
チャート					1	1	1			3	4.2
凝灰岩					1					1	1.4
ホルンフェルス					8	1			1	10	13.9
砂岩		1		1	21	1	6	1	3	34	47.2
閃緑岩					7	1	4			12	16.7
粘板岩					2					2	2.8
総計		1	1	1	47	4	11	1	6	72	100

※但し、第 45・46 表の各比率結果は小数点以下第 3 位で四捨五入しているため、その合計は 100%にはならないが、総計のみ小数点第 1 位で四捨五入し、100%と表記している。

第3節 中世以降

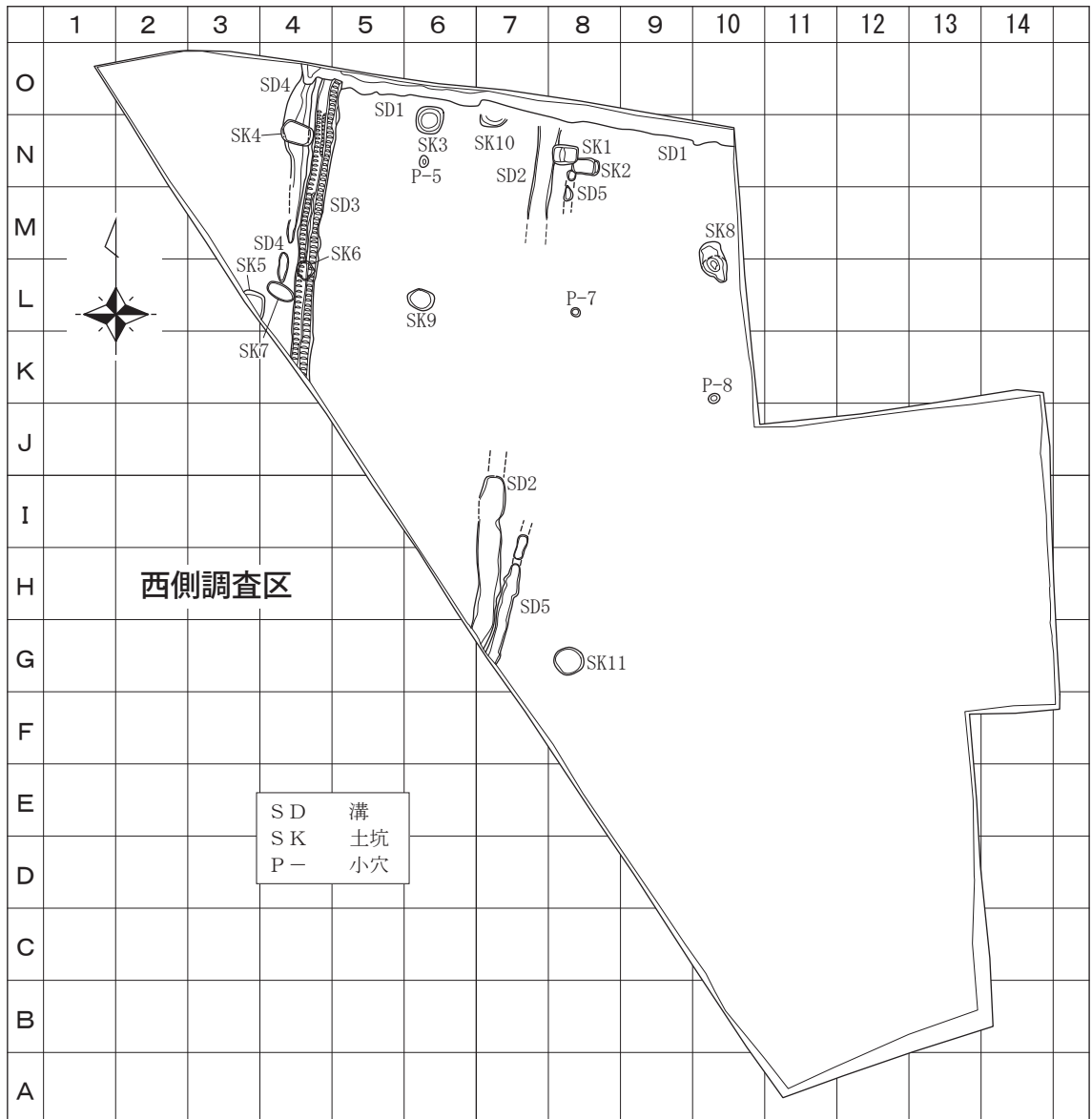
今回の調査では、中世以降の所属と思われる遺構・遺物が出土している。遺構は溝状遺構28条（SD 7 溝状遺構は遺構番号誤付与のため欠番、SD 20・21 溝状遺構は同一遺構であるため、遺構数は28条である）、土坑15基、柱穴列3基、地下室状遺構11基、不明遺構4基、小穴4本を確認した。以下に各遺構について図示し、説明する。なお、各遺構の出土遺物は遺構毎にまとめて記載した。

1. 遺 構

(1) 溝状遺構

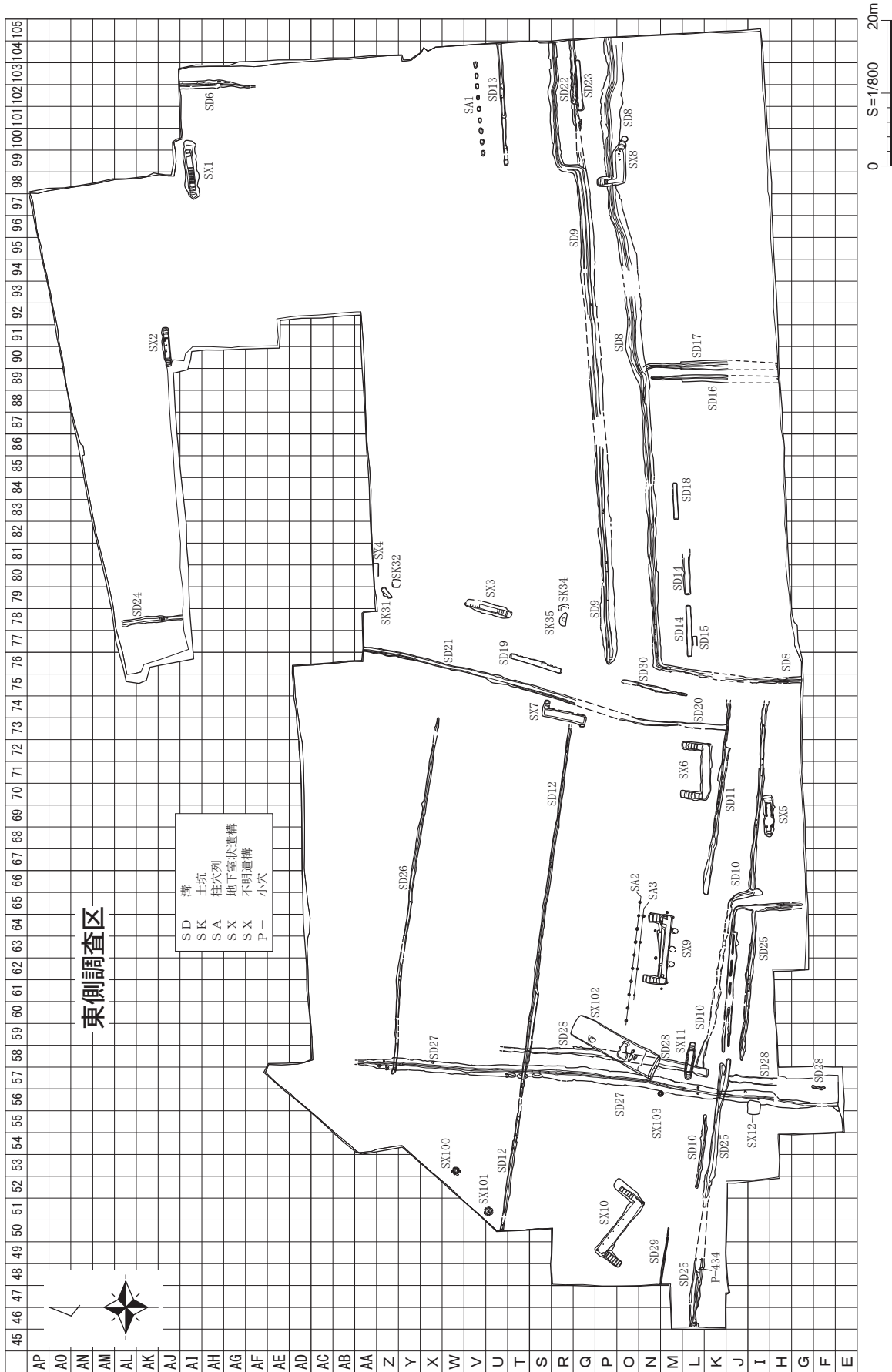
SD 1～30 溝状遺構（第120～139図、図版37-1～43-6）

東西調査区から確認された28条の溝状遺構は様々な幅・深さ・断面形状を見せるが、概して東西または南北方向に延びており、それ以外の方向を向くものは皆無である。これらの溝状遺構が水路あるいは境界溝や根切り溝にせよ、いずれも耕作や地割りに関わる遺構であることが推測される。なお、底部に長期にわたって水が流れた痕跡を示す溝がない事から、水路というより畑地の境界と根切り或いは道路状の遺構ではないかと考えられる。



第 120 図 中世以降遺構分布図（西側調査区）

0 S=1/300 10m



第 121 図 中世以降遺構分布図 (東側調査区)

なかでも東側調査区のSD8・SD25溝状遺構はほぼ直角に南方向に曲がる溝である。水路よりも境界や道路を意識した形態と思われる。また、SD9・SD10溝状遺構はかぎ状に屈曲する溝で、同じ用途が考えられる。

覆土には縄文土器・古代瓦・中世陶磁器・近世陶磁器等、多様な遺物が含まれていた。主要なものについては、各遺構の説明と共に述べる。

溝状遺構の正確な所属時期は不明であるが、いずれも表土や耕作土の下に確認面があることから、近代以前の所産であることは間違いない。

SD1 溝状遺構（第122・123図、第47・48表、図版37-1・2・66-1-1～6）

西側調査区北部を東西方向に走る溝だが、西側で終わっている。北側の大半は調査区外に入るため詳細は不明であるが、確認された長さは18.2m、幅0.68m、深さ50cmの溝である。断面は東壁でしか分らないが、段をもち、上部で緩やかな傾斜面となる。SD2～4溝状遺構を壊している。

覆土より縄文中期の土器3点、中世陶器3点、近世陶器1点が出土した。1は阿玉台式の深鉢胴部片である。隆帯による楕円区画内に縦位の沈線が充填される。2は勝坂2式の深鉢胴部片で、隆帯に沿って爪形文が巡る。3は加曾利E3式の深鉢胴部片で、沈線による区画内に細い沈線が充填される。4は12～13世紀の陶器皿の底部片である。5は15世紀の常滑産の陶器で捏鉢の底部片である。6は18世紀の瀬戸・美濃産の灰釉陶器で、皿の口縁部～底部片である。煤の付着が見られ、灯明皿に転用したものである。

SD2・5 溝状遺構（第122図、図版37-3～5）

西側調査区のSD1溝状遺構に直交するように南北方向に平行して走る2条の浅い溝で、SD1溝状遺構に壊されている。溝の中程は攪乱で消滅しているほか、中央部は掘り込みが明確ではない。南側は調査区外である。

SD2溝状遺構は、全長21.2m、幅1.6m、深さ16cmの溝で、断面は逆台形で底面はほぼ平坦である。覆土より縄文中期の土器2点が出土した。

SD5溝状遺構は、北側でSK1・2土坑に壊されているほか、掘り込みが浅く明確ではない。全長21.2m、幅0.36m、深さ4～6cmの溝である。断面は逆台形と思われ、一部に硬質面が見られた。遺物は含まない。

SD3・4 溝状遺構（第122図、図版37-6～8）

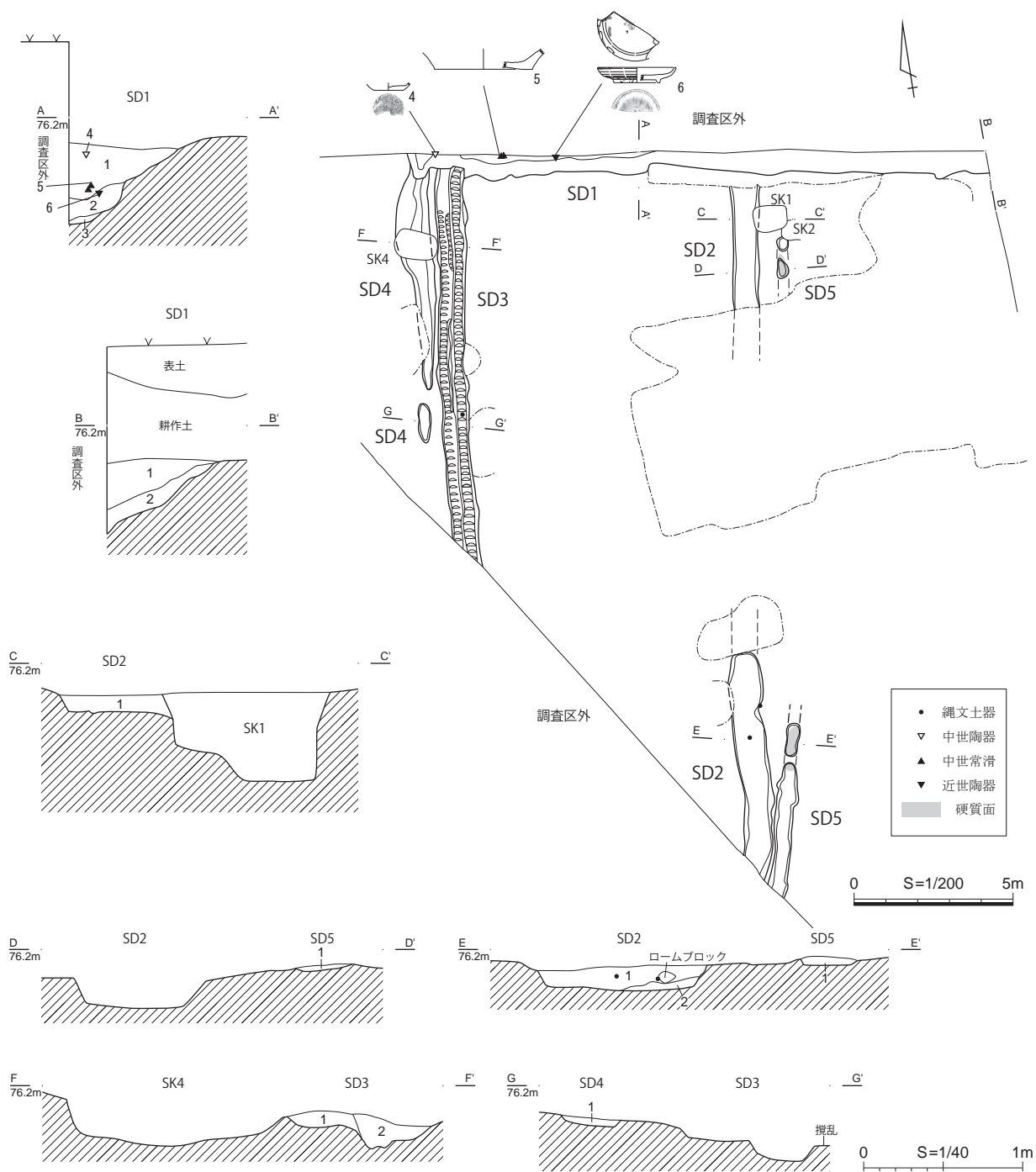
西側調査区のSD1溝状遺構の西端で直交するように南北方向に平行して走る2条の浅い溝で、SD1溝状遺構に壊されている。

SD3溝状遺構は、全長12.0m、幅0.9m、深さ10～20cmの溝である。底部は2条に分岐しているが、境壁は低く、別の溝とは考えられない。断面は東壁に段をもち、西壁は緩やかに立ち上がる。底面には鋤跡が連続して見られ、南から掘削したものと思われる。一部に硬質面が見られた。南側は調査区外である。覆土より縄文中期の土器1点が出土した。

SD4溝状遺構は、全長0.84m、幅0.38～1.2m、深さ0.06mの溝である。SK4土坑を壊している。南側で先細りとなり消滅する。一部に硬質面が見られた。遺物は含まない。

SD6 溝状遺構（第124図、図版38-1・2）

東側調査区北東部を南北に延びるが、南側は先細りとなり、攪乱によって消滅している。北側は調査区外に入るため詳細は不明である。確認された長さは8.64m、幅1.04m、深さ54～66cmの溝で断面は葉研状を呈する。底部には鋤跡が見られ、南から掘削されたもようである。遺物は含まない。



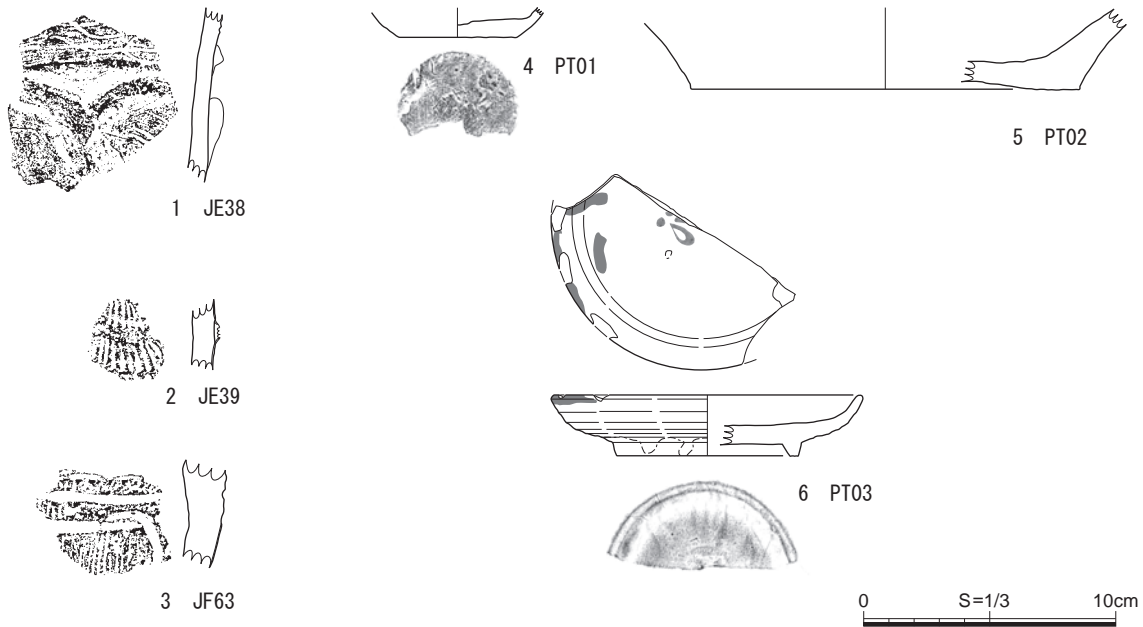
SD 1～4 溝状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まりやや弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 1 にロームブロック (径 1～2cm) が混在する。締まり弱い。
- 3 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック (径 1～2cm) が混在する。空隙多く締まりなし。

SD 5 溝状遺構土層説明

- 1 黒色土 (10YR2/1) 硬質層。ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まり強い。

第 122 図 SD 1～5 溝状遺構



第 123 図 SD 1 溝状遺構出土遺物

第 47 表 SD 1 溝状遺構出土縄文土器観察表

掲載番号 挿図番号 図版番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JE38 123-1 66-1-1	阿玉台式	深鉢	覆土上層	— [6.8] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は隆帯による楕円区画を配する区画内に斜位の沈線を充填。体部に波状沈線。	赤褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
2 JE39 123-2 66-1-2	勝坂 2 式	深鉢	覆土上層	— [3.3] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は隆帯(外面剥離あり)に沿って爪形文が巡る。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
3 JF63 123-3 66-1-3	加曾利 E 3 式	深鉢	覆土上層	— [3.9] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は沈線区画が配される。区画内は縦方向に細沈線が充填される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量、5~7mm 大の石粒を微量含む。焼成は良好。

第 48 表 SD 1 溝状遺構出土陶器観察表

掲載番号 挿図番号 図版番号	出土層位	材質	器種	遺存度	釉色 / 絵付	法量 (cm)				重量 (g)	主な文様 / 形態	備考	産地
						口径	底径	器高	最大径				
4 PT01 123-4 66-1-4	覆土上層	陶器	皿	底部片	外面：—・内面：自然釉／—	—	4.6	[1.2]	—	24.5	灰釉／—	ロケロ、胎土色：灰色 14~15 世紀	瀬戸
5 PT02 123-5 66-1-5	覆土中層	陶器	捏鉢	底部片	外面：—・内面：—／—	—	15.4	[3.2]	—	46.7		輪積み、胎土色：赤褐色 15 世紀	常滑
6 PT03 123-6 66-1-6	覆土中層	陶器	皿	口縁部 ~底部	外面：灰釉・内面：灰釉／—	(12.2)	7.2	2.4	—	62.1	内面：文様あり／丸形	ロケロ、削り高台、高台内無釉、胎土色：乳白色、目跡 1、口縁部打ち欠き、内面被熱痕、高台置付・高台内煤付着、灯明皿に転用 18 世紀	瀬戸・美濃

SD 8 溝状遺構 (第 125 ~ 128 図、第 49 ~ 53 表、図版 38-3 ~ 5・66-2-1 ~ 11)

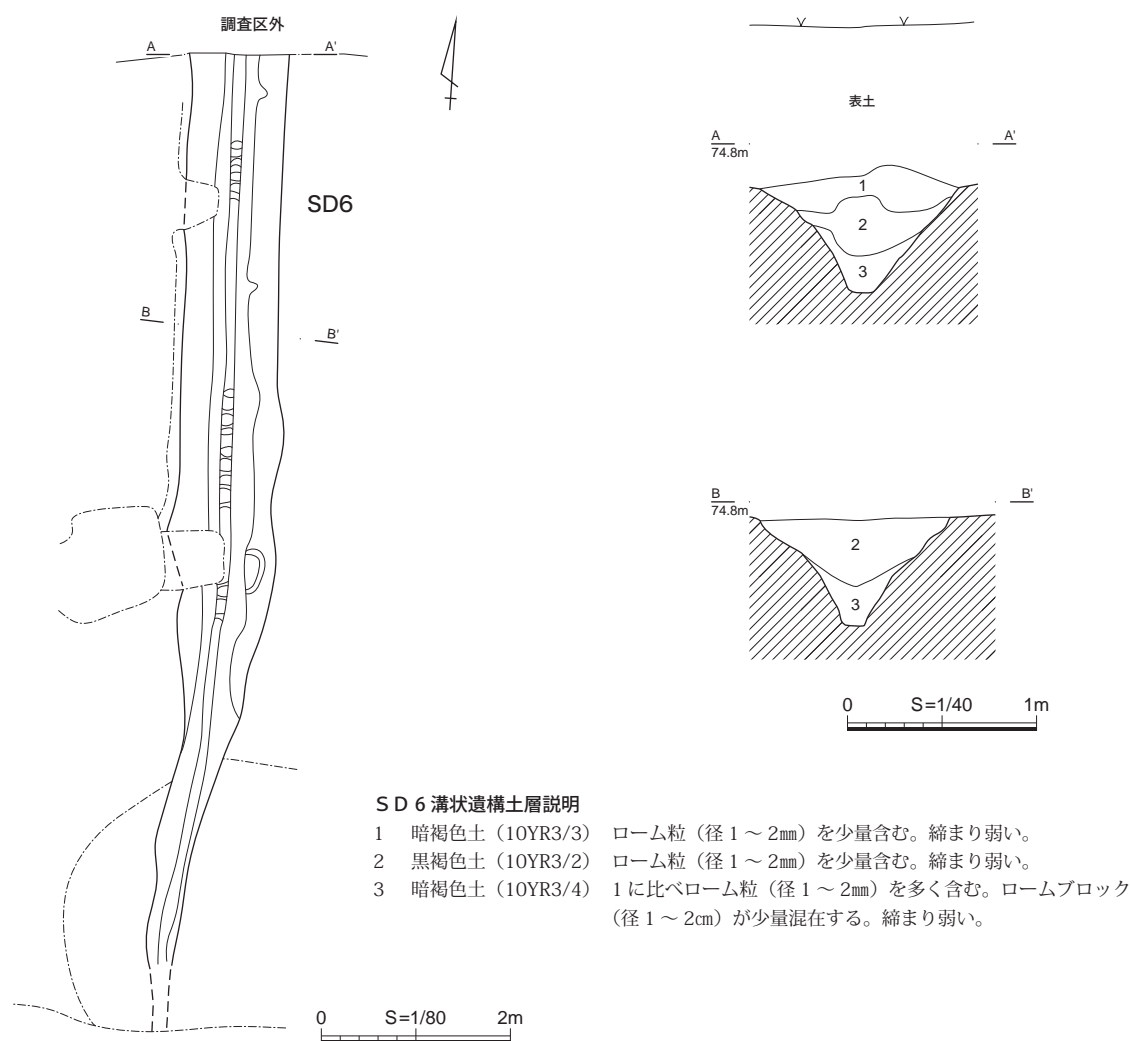
東側調査区の東側南寄りで東西方向に延びる。SK 8 地下室状遺構に壊されているほか、部分的に攪乱を受けている。西側は N-75 グリッド付近で直角に南下し、調査区外へ至る。全長は東西方向 86.6m、南北方向 20.4m、深さ 46 ~ 62cm である。断面の形状は一定ではなく中央は北壁に段を持ち、南壁は上部で緩やかに開き、東側と西側は葉研状を呈する。底面には鋤跡が見られ、東側は西から、西側は東から掘削したものと思われる。南北に延びる SD 17 溝状遺構との切り合い関係は明確でない。

覆土より縄文中期の土器 3 点、打製石斧 2 点、石皿 1 点、剥片 2 点、中世の白磁 1 点、陶器 7 点、近世の陶器 2 点、土製品 1 点、丸釘 1 点、蹄鉄 1 点が出土した。1 は加曾利 E 2 式の深鉢胴部片で、地文に捺糸 r を施文後、横方向に 2 本の平行沈線を施す。2 は加曾利 E 式の深鉢胴部片で、地文に単節 R L

縄文が施文される。3・4は打製石斧で、3は厚手の灰褐色のホルンフェルス製剥片を素材とし、主に表裏の両側縁から調整を加えて成形した撥形石斧である。全体に風化している。使用された痕跡は皆無である。4は暗灰色の砂岩の表皮剥片を利用し、主に表裏の両側縁から調整を施した分銅形石斧である。丁寧な成形が行なわれるが、素材の形態によって変則形の刃部となる。表面に原礫面を残す。刃部にはやや磨耗が見られ、両側縁の袢り部分には敲打による潰れが観察される。5は12～13世紀の中国産の磁器である。白磁の瓶の体部片であるが、四耳壺の可能性もある。6は15～16世紀の瀬戸・美濃産の陶器で、碗の底部片である。7は14～15世紀の常滑産の陶器で、片口鉢の口縁部片である。8は15世紀の常滑産の陶器で、甕の肩部片である。破断面の1面が摩耗しており、研磨具に転用したものである。9は信楽産の陶器で、鉢の体部片である。10は19世紀の小判形土製品である。型押しで布目痕が見られる。11は近世の南牧砥沢産の砥石である。

SD9溝状遺構（第125～127・129図、第54～56表、図版38-6・7・67-1-1～9）

東側調査区でSD8溝状遺構に平行して東西方向に延びるが、東側はR-99グリッド付近ではほぼ直角にクランク状に屈折する。全長85.8m、幅1.66～2.22m、深さ48～78cmである。底部は葉研状を呈し、断面の形状は北壁はテラス状の段をもち、南壁上部は緩やかに開く。底面には鍬跡が見られ、西から掘削したものと思われる。SD22溝状遺構との切り合い関係は明確ではないが、SD9溝状遺構の壁が残されていることから、SD9溝状遺構の方が新しいと思われる。



第 124 図 SD 6 溝状遺構

覆土より縄文土器2点、スタンプ形石器1点、打製石斧2点、石皿1点、剥片1点、古代瓦1点、中世の磁器3点、陶器4点、近世の磁器1点、陶器4点、砥石1点が出土した。1は古代の布目瓦で、男瓦の小破片である。凸面に布目が見られ、部分的にヘラナデが施される。2・4は13～14世紀の中国龍泉窯の青磁碗の体部片である。外面に鎬連弁文が描かれる。2は破断面の1面が摩耗しており、研磨具に転用したものである。3は14世紀の中国龍泉窯の青磁碗の体部片である。外面に鎬連弁文が描かれる。5は14～15世紀の常滑産の陶器で、片口鉢の口縁部～体部片である。6は18世紀の肥前産の磁器で、鉢の口縁部～底部片である。7は19世紀の瀬戸・美濃産の灰釉陶器で、腰鏝碗の底部片である。8は18世紀の瀬戸・美濃産の灰釉陶器で、鉢の底部片である。9は10円硬貨で、1951～1958年製造のいわゆる「ギザ十」である。

S D10溝状遺構（第131～133図、図版38－8・39－1）

東側調査区の西側南寄りで東西方向に走るが、東側は攪乱によって失われる。中央はI－65グリッド付近でほぼ直角にクランク状に屈折する。全長76.0m、幅0.42～0.84m、深さ30～42cmの溝である。断面は逆台形を呈し、北壁にわずかな段をもち、南壁は上部で緩やかな傾斜となる。底面には鋤跡が見られ、西から掘削したものと思われる。S D28溝状遺構の西側で一旦途切れるが、L－55グリッド付近で延長部が見られる。S D28溝状遺構との切り合い関係は明確でない。遺物は含まない。

S D11溝状遺構（第131～133図、図版39－2・3）

東側調査区でS D10溝状遺構に平行して東西方向に走るが、東側は攪乱によって失われ、西側は途切れる。全長67.0m、幅0.9～0.96m、深さ26～32cmの溝である。断面は北壁に段をもち、南壁は上部で緩傾斜となる。場所によって2条に分岐するが、境壁は低く、別の溝とは考えにくい。底面には鋤跡が見られ、西から掘削したものと思われる。S D20溝状遺構との切り合い関係は明確でない。覆土より近世の陶器1点が出土した。

S D12溝状遺構（第131～133図、図版39－4～7）

東側調査区西側のほぼ中央で東西方向に走るが、東側はS X 7地下室状遺構に壊され、西側は調査区外に延びる。全長69.8m、幅0.38～0.54m、深さ38～66cmの溝である。断面は筒状を呈するが、南壁は上部で斜面となる。底面には鋤跡が見られ、東から掘削されたものと思われる。S D26溝状遺構と平行するが、断面の形状が違うため、用途が異なるのであろう。S D27・28溝状遺構の上部を壊している。遺物は含まない。

S D13溝状遺構（第125図、図版39－8・40－1）

東側調査区東部で東西方向に作られているが、東側は調査区外に延び、西側は途切れる。全長16.6m、幅0.48～0.52m、深さ34～36cmの溝である。断面はU字状を呈する。底面には鋤跡が見られる。鋤跡は明確でないが西から掘削したものと思われる。遺物は含まない。

S D14溝状遺構（第125・130図、第57表、図版40－2・3・67－2－1）

東側調査区でS D 8溝状遺構に平行して東西方向に作られた小規模な溝である。東側は攪乱によって失われている。全長は13.4mだが、中央にブリッジを持つ。東側幅0.86m、深さ60cm、西側幅0.7m、深さ38cmである。断面は筒状を呈する。

覆土より近世の金属製品1点が出土した。1は19世紀の煙管の吸口部分である。

S D15溝状遺構（第125図、図版40-2・4）

東側調査区でS D14溝状遺構に隣接して平行する、東西方向に作られた小規模な溝である。西側は攪乱によって失われている。残存部分の全長は1.2m、幅0.54m、深さ38cmである。断面は逆台形を呈する。遺物は含まない。

S D16溝状遺構（第125図、図版40-5・6）

東側調査区でS D8溝状遺構に直交して南北方向に走るが、南側は攪乱によって失われるが、調査区南側でさらに南へ延長することが確認された。切り合い関係は明確でない。全長10.06m、幅0.88m、深さ40cmの溝である。断面は東壁に段をもち、南壁は上部で緩傾斜となる。覆土より中世の陶器1点、近世の磁器1点が出土した。

S D17溝状遺構（第125図、図版40-7）

S D16溝状遺構に平行して南北方向に走る。南側は攪乱によって失われ、調査区南側でさらに南へ延長することが確認された。全長11.02m、幅1.32m、深さ36cmの溝である。断面は東壁に段をもち、西壁はテラス状となり上部で緩傾斜となる。場所によって2条に分岐するが、境壁は低く、別の溝とは考えにくい。北側はS D8溝状遺構にあたり途切れるが、その切り合い関係は明確でない。覆土より縄文中期の土器2点、時期不明土器1点が出土した。

S D18溝状遺構（第125図、図版40-8・41-1）

東側調査区でS D8溝状遺構に平行して東西方向に走る小規模な溝である。S D14・15溝状遺構に形態が近似するが、掘り込みは浅い。全長5m、幅0.6m、深さ14cmの溝である。断面は逆台形を呈する。覆土より縄文中期の土器1点が出土した。

S D19溝状遺構（第134・137図、第58表、図版41-2・3・67-3-1）

東側調査区中央で南北方向に走る小規模な溝である。全長7.4m、幅0.78m、深さ34cmの溝である。断面は逆台形を呈する。S D14・15・18溝状遺構に形態が近似する。

覆土より近世の磁器1点が出土した。1は19世紀の肥前産の磁器で、皿の口縁部～底部片である。

S D20・21溝状遺構（第135・137図、第59表、図版41-4～7・67-4-1）

東側調査区中央で北東から南西にかけて延びる溝である。途中攪乱で失われているが、2条の溝は同一の遺構である。全長は51.0m、幅0.75～0.78m、深さ18～34cmである。断面は東壁に段をもち、西壁は上部で緩傾斜となる。北側は調査区外となるが、北側のS D24溝状遺構と繋がる可能性がある。本遺構は北側へ向かって下がって行き、S D24溝状遺構との比高差は最大約2mになる。S D20・21溝状遺構とS D24溝状遺構の間は5次調査が行われた部分であるが、溝状遺構は見つかっていない。

覆土より黒味の強い黒曜石の石刃状剥片を素材とするナイフ形石器1点が出土した。右側縁全体と左側縁下部に厚い角度の調整を施したもので、上部を欠損する。裏面の基部に若干の調整を加え、厚みをやや減じている。本来の所属層位は不明であるが、形態・製作技術から見て、第IV層の所産と推定される。

S D22溝状遺構（第125・127図、図版41-8・42-1）

東側調査区東部で東西方向に延びるが、東側は調査区外となる。S D23溝状遺構に壊されている。全長17.2m、幅0.98m、深さ18cmの溝である。断面は不整形な楕円状を呈する。遺物は含まない。

S D23溝状遺構（第125・127図、図版41-8・42-1）

東側調査区東部でS D22溝状遺構に平行して東西方向に延びる小規模な溝である。全長は6.80m、幅0.62m、深さ22cmである。断面は逆台形を呈する。S D14・15・18・19溝状遺構に形態が近似する。遺物は含まない。

S D24溝状遺構（第137図、図版42-2・3）

東側調査区北部で南北方向に延びる。北側は攪乱で失われており、南側は調査区外となる。S D20・21溝状遺構で触れたが、S D20・21溝状遺構と繋がる可能性がある。南側は全長は8.4m、幅0.84m、深さ40cm程である。断面は西壁に段をもち、東壁は上部で緩傾斜となる。底部には鋤跡が見られるが、南から掘削されたもようである。遺物は含まない。

S D25溝状遺構（第131・133・136図、第60表、図版42-4・5・67-5-1）

東側調査区西部でS D10溝状遺構の南側を東西方向に2条平行して走るが、東側ではほぼ直角に南下し、合流する。西側の一部と南側は攪乱によって失われ、それぞれ調査区外へ延びる。S D27溝状遺構の上部を壊し、S D28溝状遺構に壊されている。全長東西58.00m、南北7.60m、幅0.84～1.44m、深さ12～42cmの溝である。断面は東西方向の溝では南壁に段をもち、北壁は上部で緩傾斜となる。南北方向の溝では東壁に段をもち、西壁は上部で緩傾斜となるが、掘り込みの浅い場所では皿状を呈する。場所によって2条に分岐するが、境壁は低く、別の溝とは考えにくい。北側の溝は一旦途切れるが、西側で1条になる。南側の溝は西側で途切れる。底面には鋤跡が見られるが、東西方向の溝は西から、南北方向の溝は南から掘削されたものと思われる。

覆土より縄文土器1点、打製石斧の欠損品1点、中世の陶器1点が出土した。1は加曾利E2式の深鉢胴部片である。地文に条線を縦方向に施文後、縦に隆帯を垂下させる。

S D26溝状遺構（第131・133図、図版42-6・7）

東側調査区西部北側で東西方向に走る溝である。全長は49.4m、幅62cm、深さ18cmである。掘り込みが浅く断面は皿状である。底面には鋤跡が見られ、東から掘削されたものと思われる。S D27溝状遺構の上部を壊している。遺物は含まない。

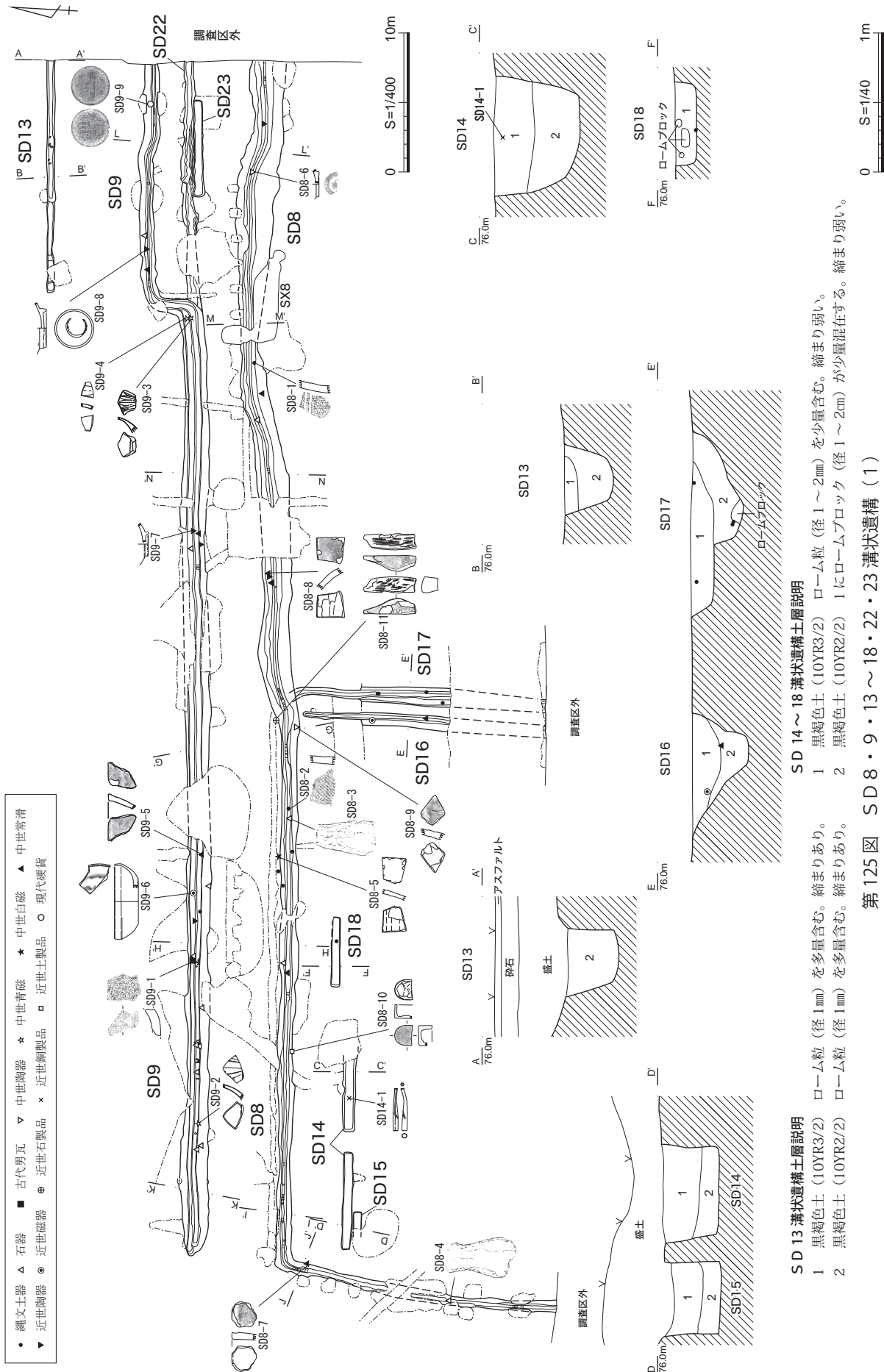
S D27溝状遺構（第138・139図、第61表、図版42-8・43-1～3・67-6-1・2）

東側調査区西部で南北方向に走る溝で、S D12・25・26溝状遺構に上部の一部を壊されている。北側は攪乱で失われている。南側は調査区外に延びる。全長は66.2m、幅1.35～1.86m、深さ64～96cmである。断面はV字状で壁は上部で外傾する。底部の一部で小穴が見られた。底面には鋤跡があり、北から掘削されたものと思われる。

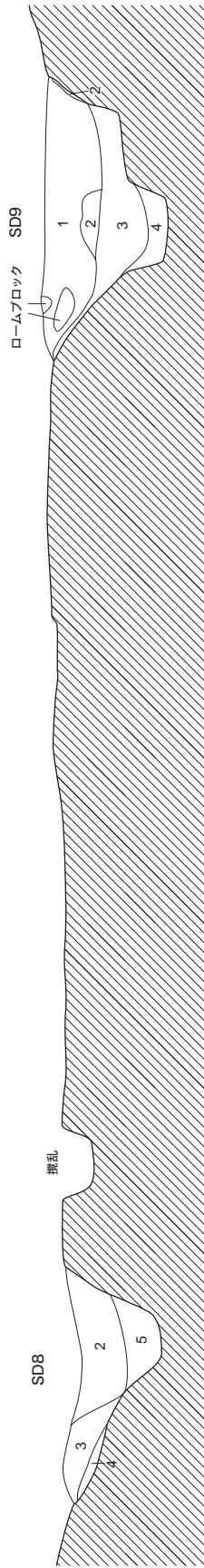
覆土より縄文中期の土器2点、中世の陶器4点が出土した。1は12～13世紀の美濃産の陶器で、壺の体部である。2は12世紀の常滑産の陶器で、捏鉢の体部～底部片である。本遺構は、近世以降の遺物を含まないことから中世に帰属する可能性が高い。

S D28溝状遺構（第131・133図、図版43-2・4）

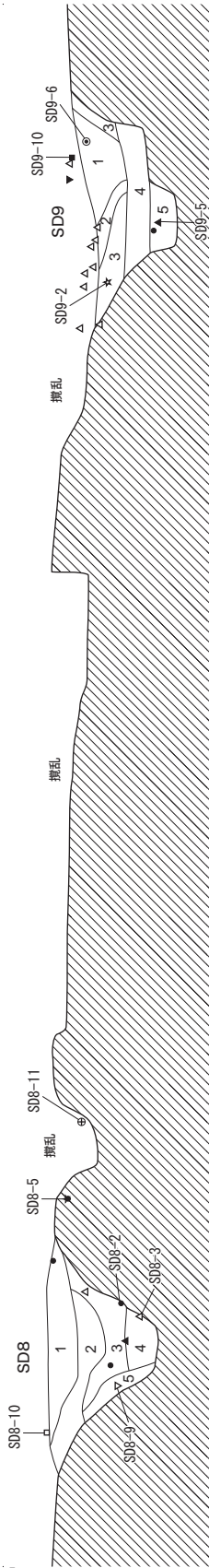
東側調査区西部でS D27溝状遺構に平行して南北方向に走る溝で、S D12・25・26溝状遺構・S X11地下室状遺構・S X102性格不明遺構に一部壊されている。南側は一部島状に残存するものの攪乱で失われている。全長は44.8m、幅0.32～1.2m、深さ12～28cmである。断面は凹レンズ状を呈する。底面に硬質面が見られた。覆土より縄文中期の土器3点が出土した。



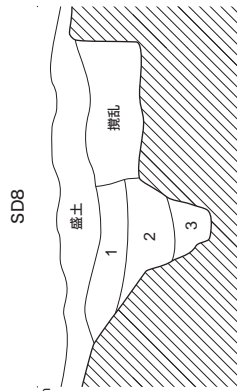
G 76.0m



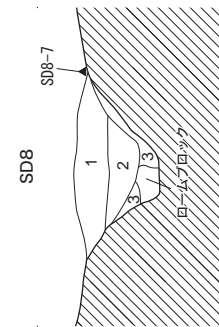
H 76.0m



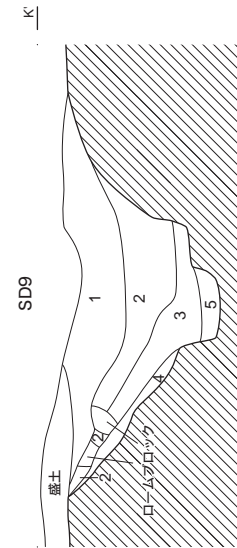
I 76.0m



J 76.0m



J' 76.0m



SD 8 溝状遺構土層説明

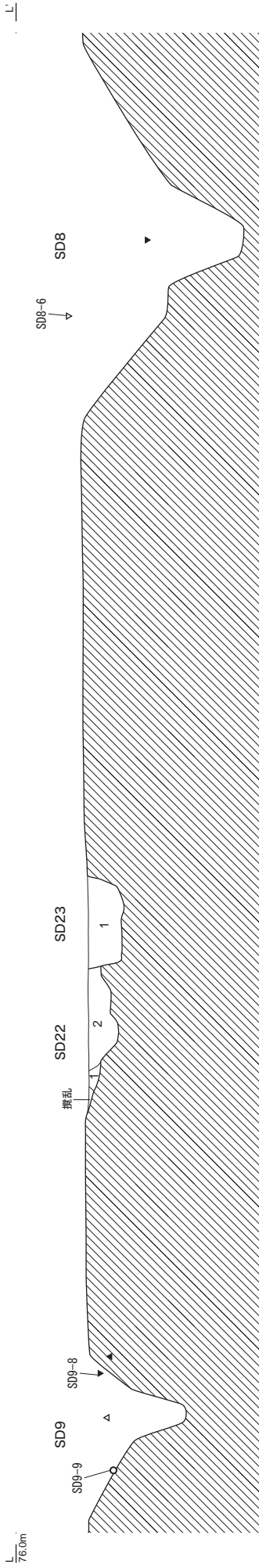
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1~2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 1と同質だが、ローム粒 (径1~2mm) を多く含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 1に類似するが、ロームブロック (径1~2cm) が多量混在する。締まりやや弱い。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 3に比べロームブロック (径1~2cm) が少量混在する。締まり弱い。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 2と同質。締まり弱い。

SD 9 溝状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径1mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 1にロームブロック (径1~2cm) が少量混在する。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径1mm) を多量、赤色スコリア粒 (径1mm) を微量含む。締まりあり。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 3に比べロームブロック (径1~2cm) が少量混在する。締まり弱い。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 2と同質。締まり弱い。



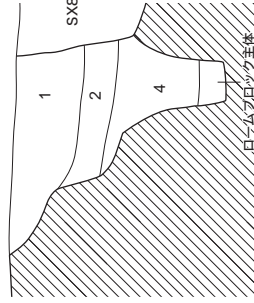
第126図 SD 8・9・13~18・22・23 溝状遺構 (2)



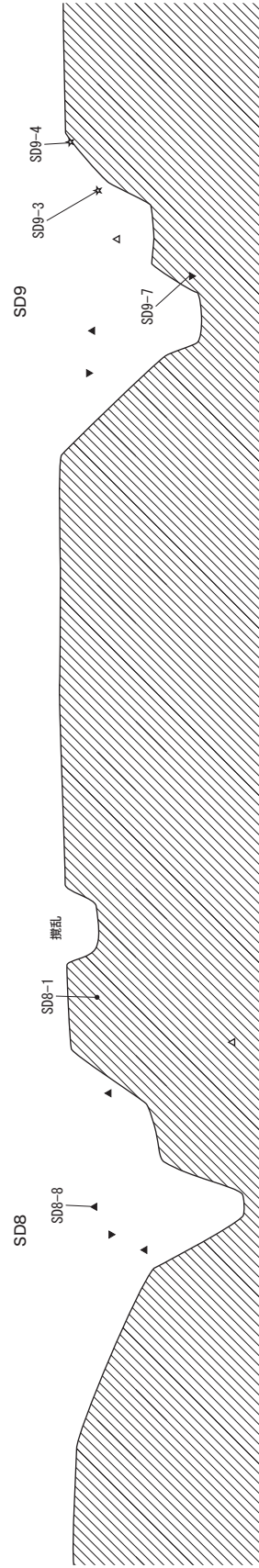
M
76.0m
SD8

SD 22・23 溝状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1~2cm) が少量混在する。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を多量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。

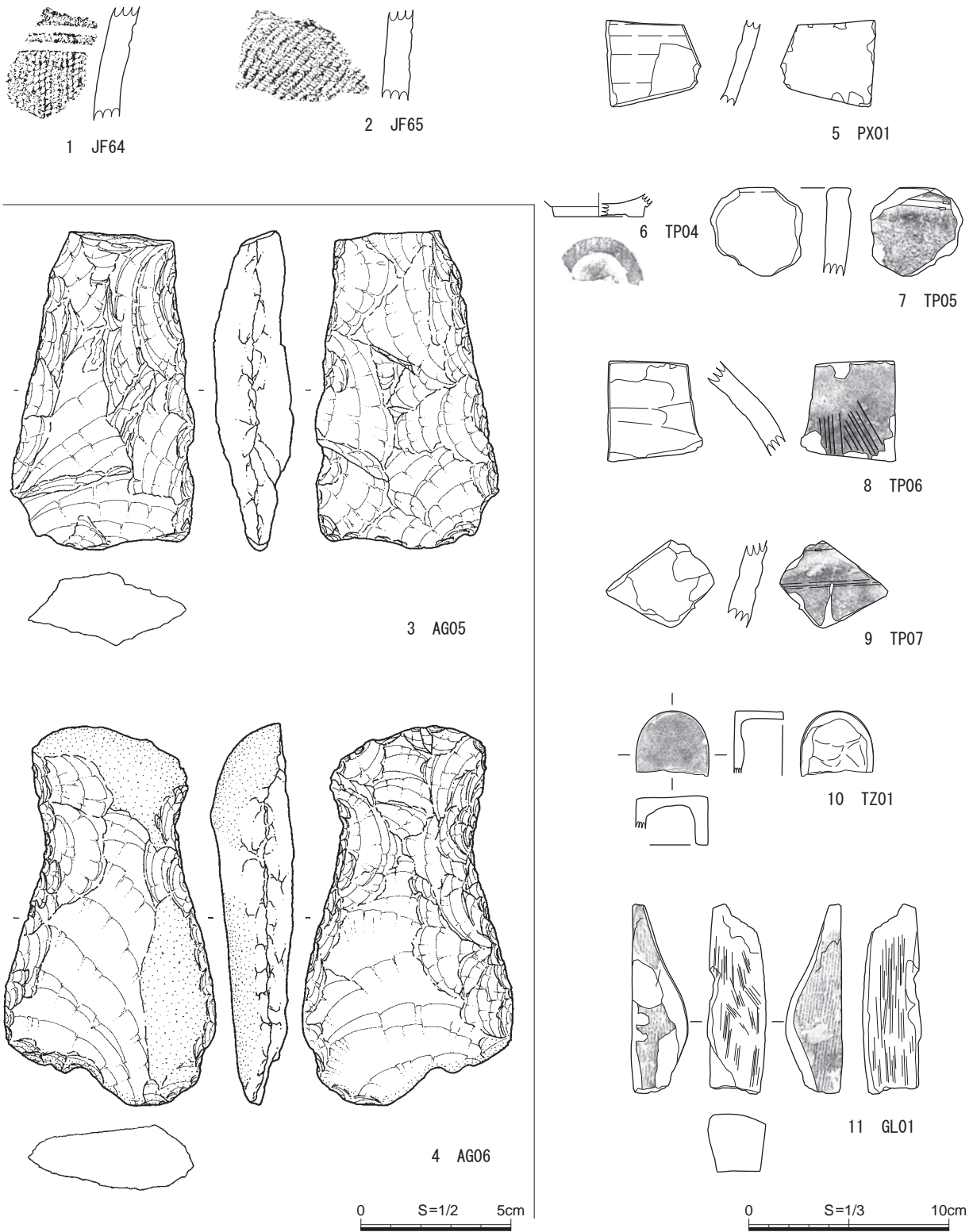


N
76.0m
SD8



0 S=1/40 1m

第 127 図 SD 8・9・13～18・22・23 溝状遺構 (3)



第 128 図 SD8 溝状遺構出土遺物

第 49 表 SD8 溝状遺構出土縄文土器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JF64 128-1 66-2-1	加曾利E2式	深鉢	覆土上層	[5.7] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は地文に燃糸r施文後、横位の平行沈線が施される。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
2 JF65 128-2 66-2-2	加曾利E式	深鉢	覆土上層	[4.4] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節RL縄文が斜めに施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。

第 50 表 SD 8 溝状遺構出土石器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
3 AG05 128-3 66-2-3	158	覆土	東側調査区	SD8	打製石斧	Ho	10.51	5.91	2.57	168.4	
4 AG06 128-4 66-2-4	802	覆土	東側調査区	SD8	打製石斧	S	12.63	6.99	2.62	219.1	刃部摩耗

第 51 表 SD 8 溝状遺構出土陶磁器観察表

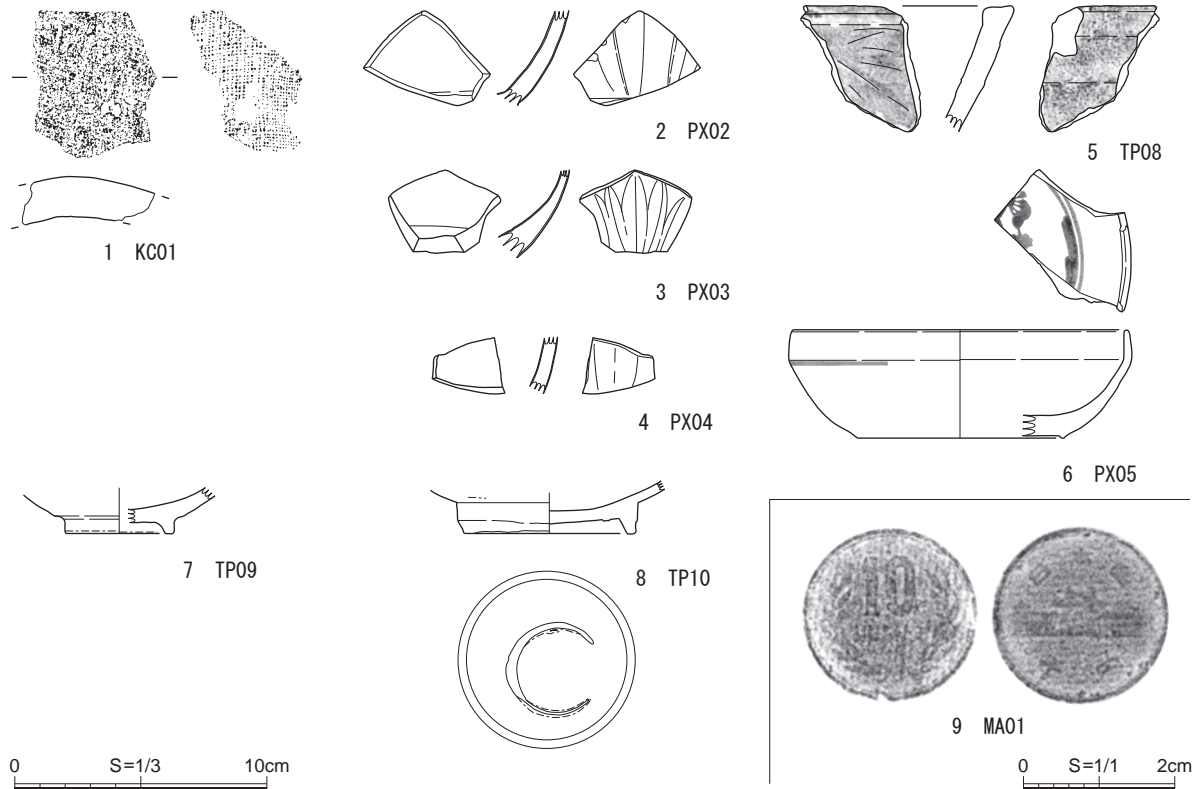
掲載番号 挿図番号 図版番号	出土層位	材質	器種	遺存度	釉色 / 絵付	法量 (cm)				重量 (g)	主な文様 / 形態	備考	産地	
						口径	底径	器高	最大径					
5 PX01 128-5 66-2-5	覆土上層	磁器	瓶	体部片	外面：-・内面： - / 白磁	-	-	[4.3]	-	24.3		ロクロ、胎土色：灰色 四耳壺か 12～13世紀	中国	
6 PT04 128-6 66-2-6	覆土上層	陶器	碗	底部片	外面：鉄釉・内面： - / -	-	4.4	[1.2]	-	13.4	天目形		ロクロ、胎土色：灰白色 15～16世紀	瀬戸・ 美濃
7 PT05 128-7 66-2-7	覆土上層	陶器	片口鉢	口縁部 片	外面：自然釉・内 面：- / -	-	4.4	[4.3]	-	31.7			輪積み、胎土色：赤褐色 14～15世紀（8型式）	常滑
8 PT06 128-8 66-2-8	覆土上層	陶器	甕	肩部片	外面：-・内面： - / -	-	-	[4.8]	-	44.4			輪積み、胎土色：灰色 破断面の1面が摩耗、研 磨具に転用 15世紀	常滑
9 PT07 128-9 66-2-9	覆土上層	陶器	鉢	体部片	外面：-・内面： - / -	-	-	[4.3]	-	24.3			輪積み、胎土色：灰色	信楽

第 52 表 SD 8 溝状遺構出土土製品観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	種別器種	出土層位	重量 (g)	最大長・最大幅・最大厚 (cm)	特徴	備考	産地
10 TZ01 128-10 66-2-10	小判形 土製品	覆土	14.3	[3.3]・3.6・2.5	型：型押、布目痕	19世紀	在地

第 53 表 SD 8 溝状遺構出土石製品観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	出土層位	材質	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	産地
11 GL01 128-11 66-2-11	覆土	安山岩 (ひん岩)	砥石	9.5	2.9	2.8	96.4	近世	南牧砥沢



第 129 図 SD 9 溝状遺構出土遺物

第54表 SD9 溝状遺構出土瓦観察表

掲載番号 挿図番号 図版番号	出土層位	狭端幅 広端幅 全長	厚さ (cm) 重量 (g)	素材	布目	凹面特徴	凸面叩き	凸面特徴	端面特徴	備考
1 KC01 129-1 67-1-1	覆土上層	- [6.6]	1.6 62.5	粘土紐	22×18	-	縄叩き	横へらナデ	-	古代

第55表 SD9 溝状遺構出土陶磁器観察表

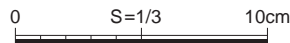
掲載番号 挿図番号 図版番号	出土層位	材質	器種	遺存度	釉色 / 絵付	法量 (cm)				重量 (g)	主な文様 / 形態	備考	産地
						口径	底径	器高	最大径				
2 PX02 129-2 67-1-2	覆土上層	磁器	碗	体部片	外面：青磁釉・内面：青磁釉／-	-	-	[3.8]	-	19.9	外面：鎚連弁文	ロクロ、胎土色：灰色 破断面の1面が摩耗、研磨具に転用 13～14世紀	中国 龍泉窯
3 PX03 129-3 67-1-3	覆土上層	磁器	碗	体部片	外面：青磁釉・内面：青磁釉／-	-	4.4	[3.4]	-	17.8	外面：鎚連弁文	ロクロ、胎土色：灰色 14世紀	中国 龍泉窯
4 PX04 129-4 67-1-4	覆土上層	磁器	碗	体部片	外面：青磁釉・内面：青磁釉／-	-	4.4	[2.2]	-	5.4	外面：鎚連弁文	ロクロ、胎土色：灰色 13～14世紀	中国 龍泉窯
5 PT08 129-5 67-1-5	覆土下層	陶器	片口鉢	口縁部～体部	外面：自然釉・内面：自然釉／-	-	-	[5.0]	-	34.4		輪積み、ナデ、内面櫛目 胎土色：赤褐色 14～15世紀(8型式)	常滑
6 PX05 129-6 67-1-6	覆土上層	磁器	鉢	口縁部～体部	透明釉／染付	(13.2)	(8.2)	4.3	-	30.4	外面：圏線、内面：文様あり / 切立形	ロクロ、蛇ノ目高台、焼成不良 18世紀	肥前
7 PT09 129-7 67-1-7	覆土下層	陶器	碗	底部片	灰釉、鉄釉／-	-	4.3	[1.8]	-	22.9		ロクロ、削り高台、高台豊付無釉、胎土色：灰白色、掛分、腰錆碗 19世紀	瀬戸・美濃
8 PT10 129-8 67-1-8	覆土上層	陶器	鉢	底部片	灰釉／-	-	6.3	[1.7]	-	71.4		ロクロ、削り高台、高台内無釉、高台内に別製品が付着、胎土色：灰色、 18世紀	瀬戸・美濃

第56表 SD9 溝状遺構出土金属製品観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	出土層位	材質	種別	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				径	幅	厚さ		
9 MA01 129-9 67-1-9	覆土上層	銅	10円硬貨	2.3	-	0.2	4.0	縁部：ギザ、いわゆる「ギザ十」(1951～1958年製造) 表：「日本国」、「十円」、平等院鳳凰堂 裏：「10」、常盤木



1 MW02



第130図 SD14 溝状遺構出土遺物

第57表 SD14 溝状遺構出土金属製品観察表

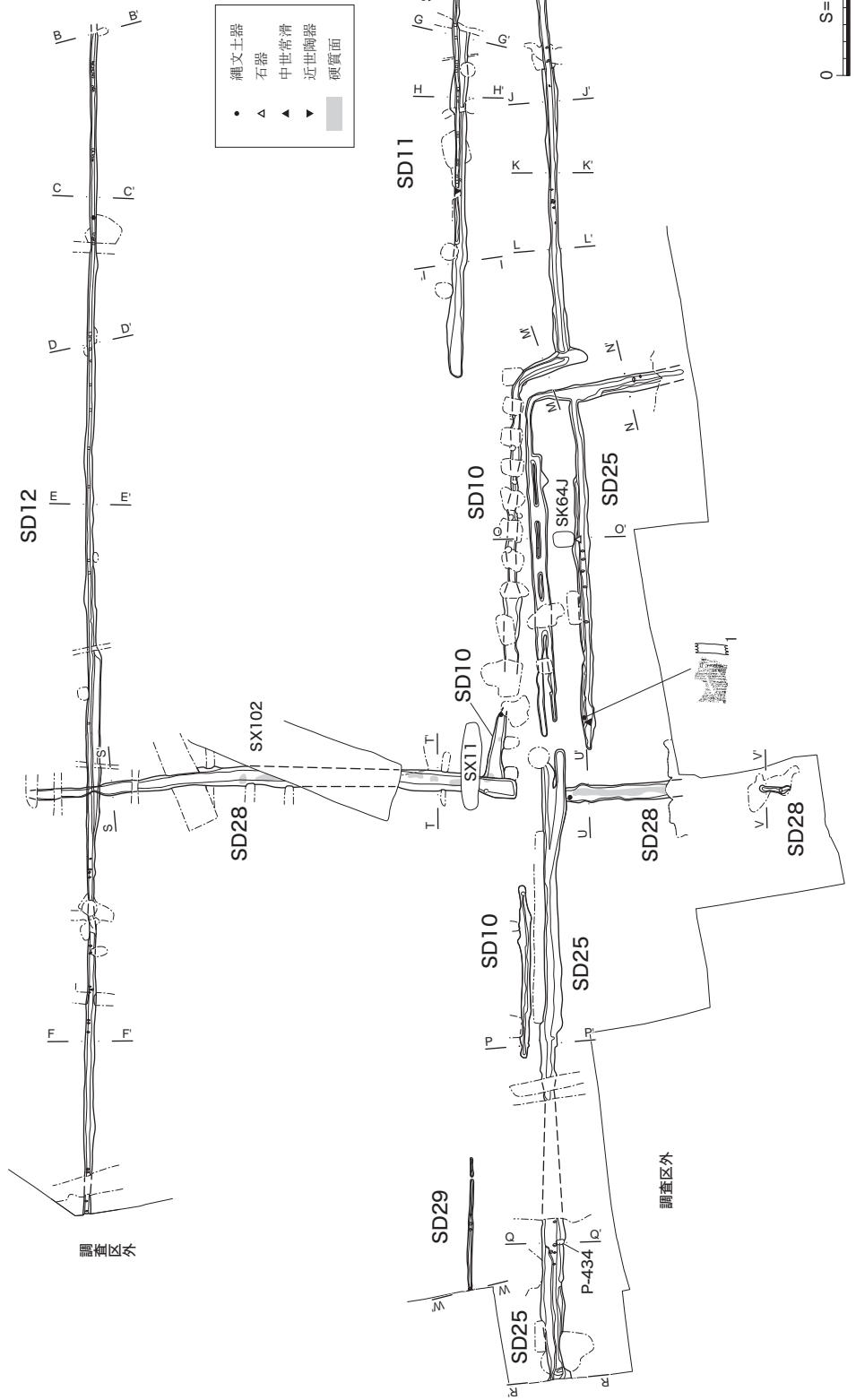
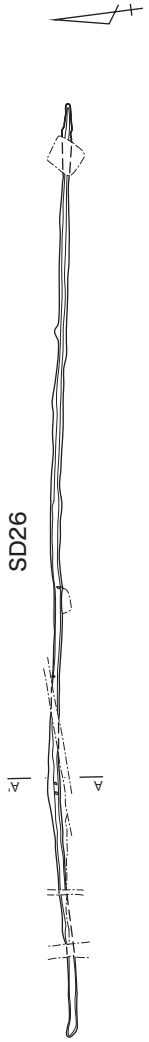
掲載番号 図面番号 図版番号	出土層位	材質	種別	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				全長	幅	厚さ		
1 MW02 130-1 67-2-1	覆土上層	真鍮	煙管 吸口	7.7	0.9	-	6.5	接合部径0.9cm、吸口径0.6cm 19世紀

SD29溝状遺構 (第131・133図、図版43-5・6)

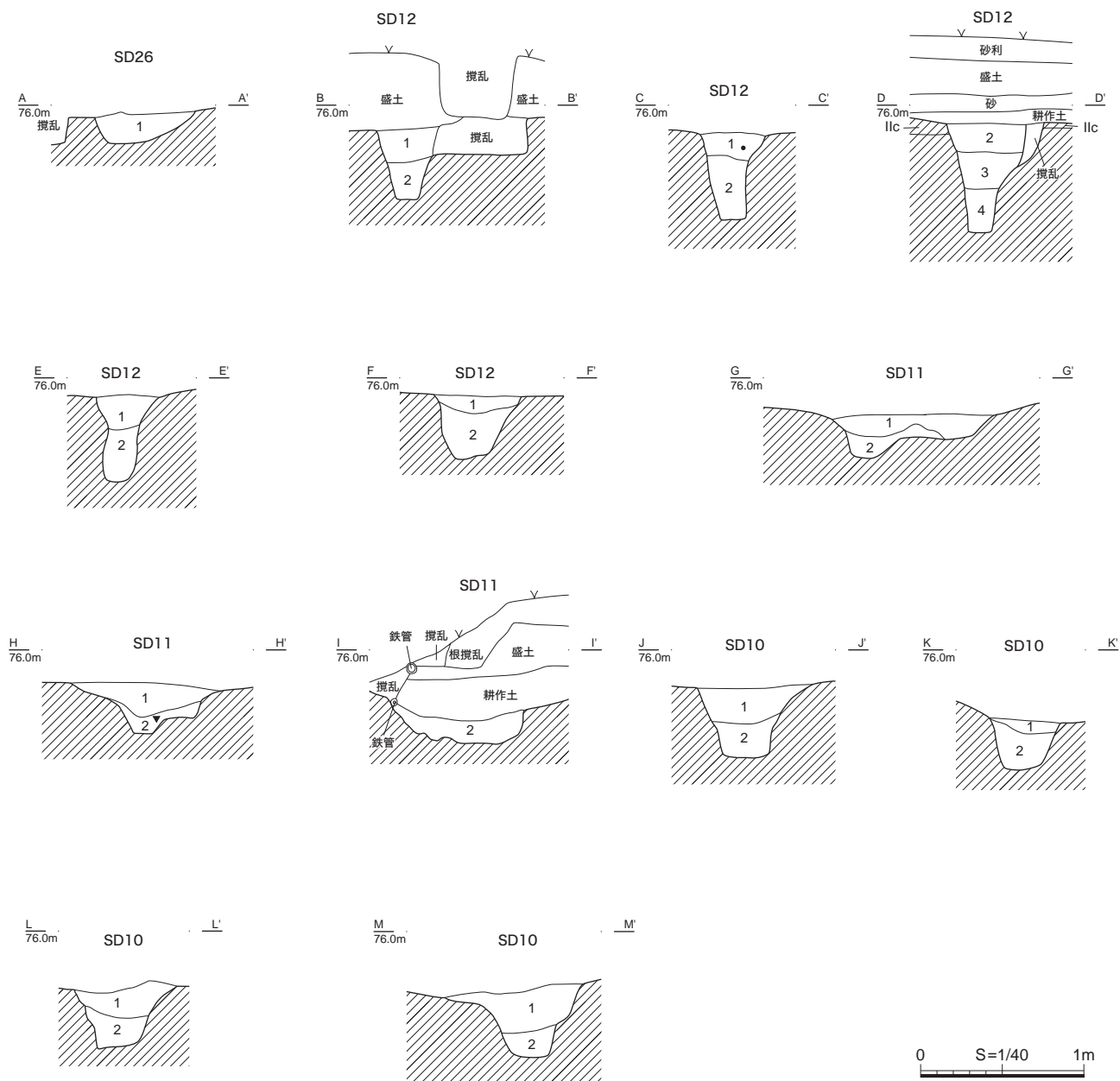
東側調査区西部で東西方向に走る溝であるが、西側は調査区外に延びる。全長は7.9m、幅0.26m、深さ28cmである。断面はU字状を呈する。遺物は含まない。

SD30溝状遺構 (第137図)

東側調査区中央部で南北方向に延びる小規模な溝である。全長は9.0m、幅0.7 m、深さ18cmである。断面は逆台形を呈する。遺物は含まない。



第131図 SD 10～12・25・26・28・29 溝状遺構(1)



SD 10・11 溝状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 1 と同質だが、ローム粒 (径 1～2mm) を多く含む。締まりあり。

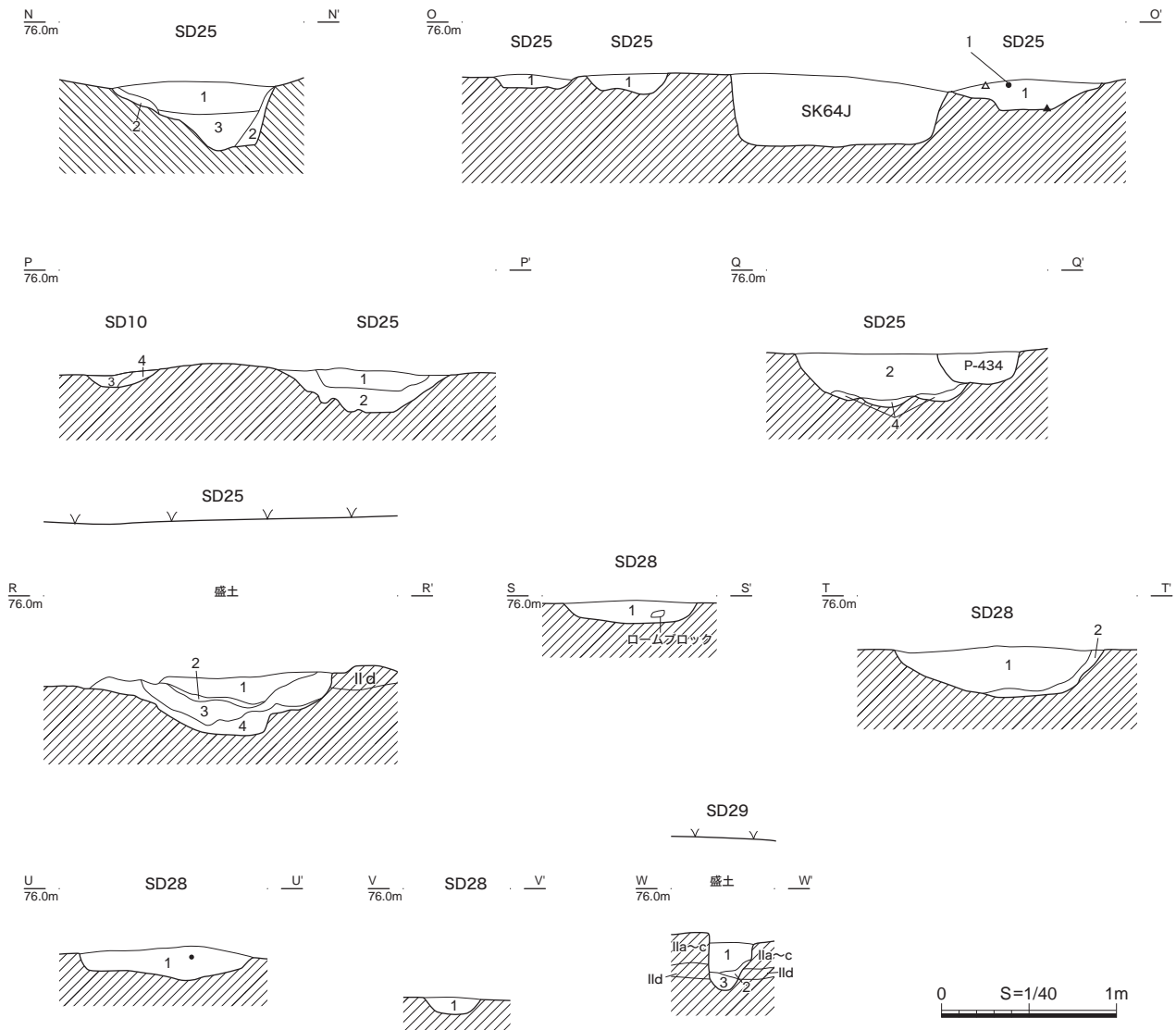
SD 12 溝状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 1 と同質だが、ロームブロック (径 1～2cm) を多く含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が少量混在する。
- 4 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック (径 1～2cm) を多量含む。締まり弱い。

SD 26 溝状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が少量混在する。締まりあり。

第 132 図 SD 10～12・25・26・28・29 溝状遺構 (2)



SD 25 溝状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を少量含む。部分的に細粒砂を含む。締まり弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック (径 2～6cm)・ローム粒 (径 1～10cm) が少量混在する。細粒砂を多量含む。締まりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1～3mm) を多量含む。下位に細粒砂を多量含む。締まりなし。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1～10mm) を多量含む。締まりなし。

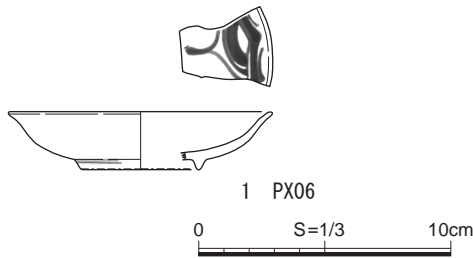
SD 28 溝状遺構土層説明

- 1 黒色土 (10YR2/1) ローム粒 (径 1～2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が微量混在する。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1～2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。ロームブロック (径 1～2cm) が多く混在する。締まりあり。

SD 29 溝状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 赤色スコリア粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まり弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 1 と第 II d 層茶褐色土 (第 II d 層) が混在する。締まり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 第 II d 層の再堆積。締まりあり。

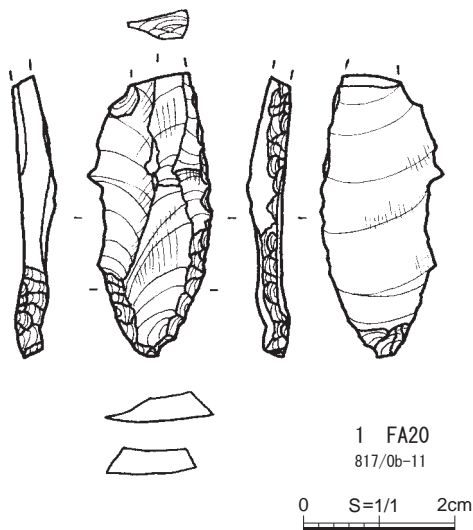
第 133 図 SD 10～12・25・26・28・29 溝状遺構 (3)



第 134 図 S D 19 溝状遺構出土遺物

第 58 表 S D 19 溝状遺構出土磁器観察表

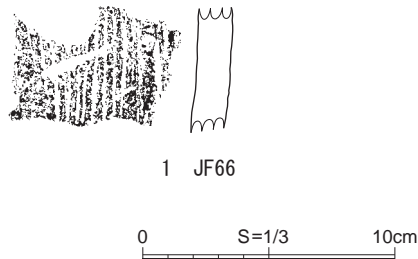
掲載番号 挿図番号 図版番号	出土 層位	材質	器種	遺存度	釉色 / 絵付	法量 (cm)				重量 (g)	主な文様 / 形態	備 考	産地
						口径	底径	器高	最大径				
1 PX06 136-1 67-3-1	覆土下層	磁器	皿	口縁部 ~底部	透明釉 / 染付	(10.5)	(4.6)	2.3	—	7.5	内面：文様あり / 端反形	ロクロ、胎土色：白色 19世紀	肥前



第 135 図 S D 20 溝状遺構出土遺物

第 59 表 S D 20 溝状遺構出土石器観察表

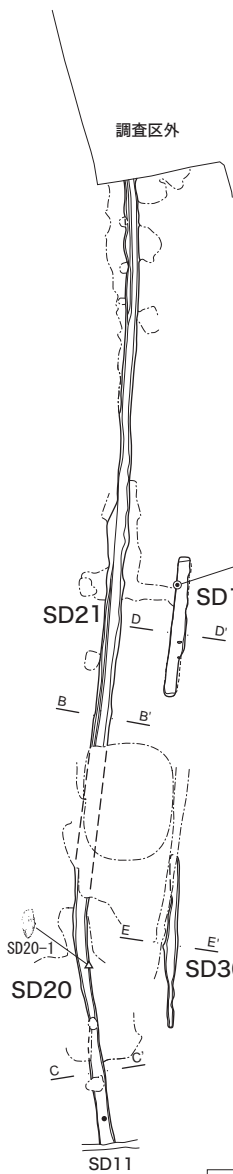
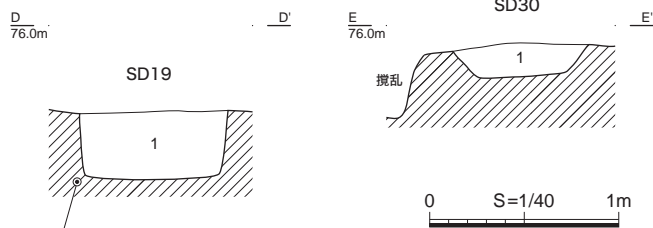
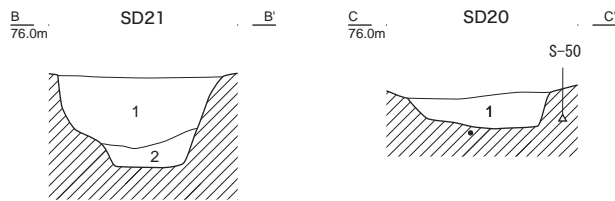
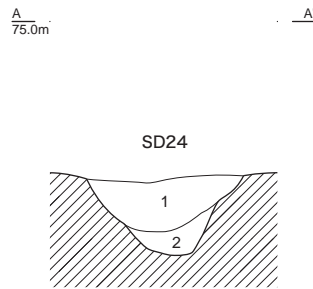
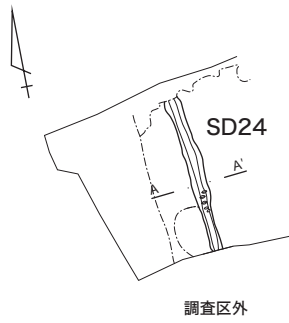
掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土位置	遺構名	器 種	石 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	接 合・備 考
1 FA20 137-1 67-4-1	817	覆土	東側調査区	SD20	ナイフ形石器	Ob-11	3.68	1.66	0.41	2.5	先端欠損



第 136 図 S D 25 溝状遺構出土遺物

第 60 表 S D 25 溝状遺構出土縄文土器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JF66 138-1 67-5-1	加曾利E 2式	深鉢	覆土上層	— [4.9] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は条線を施文後、縦方向に隆帯が配される。	黄褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。



SD 19・20 溝状遺構土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。締まり弱い。

SD 21 溝状遺構土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。締まり弱い。

2 黒褐色土 (10YR2/2) 1 と同質だが、ロームブロック (径 1 ~ 2cm) が混在する。締まり弱い。

SD 24 溝状遺構土層説明

1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。ロームブロック (径 1 ~ 2cm) が少量混在する。締まりあり。

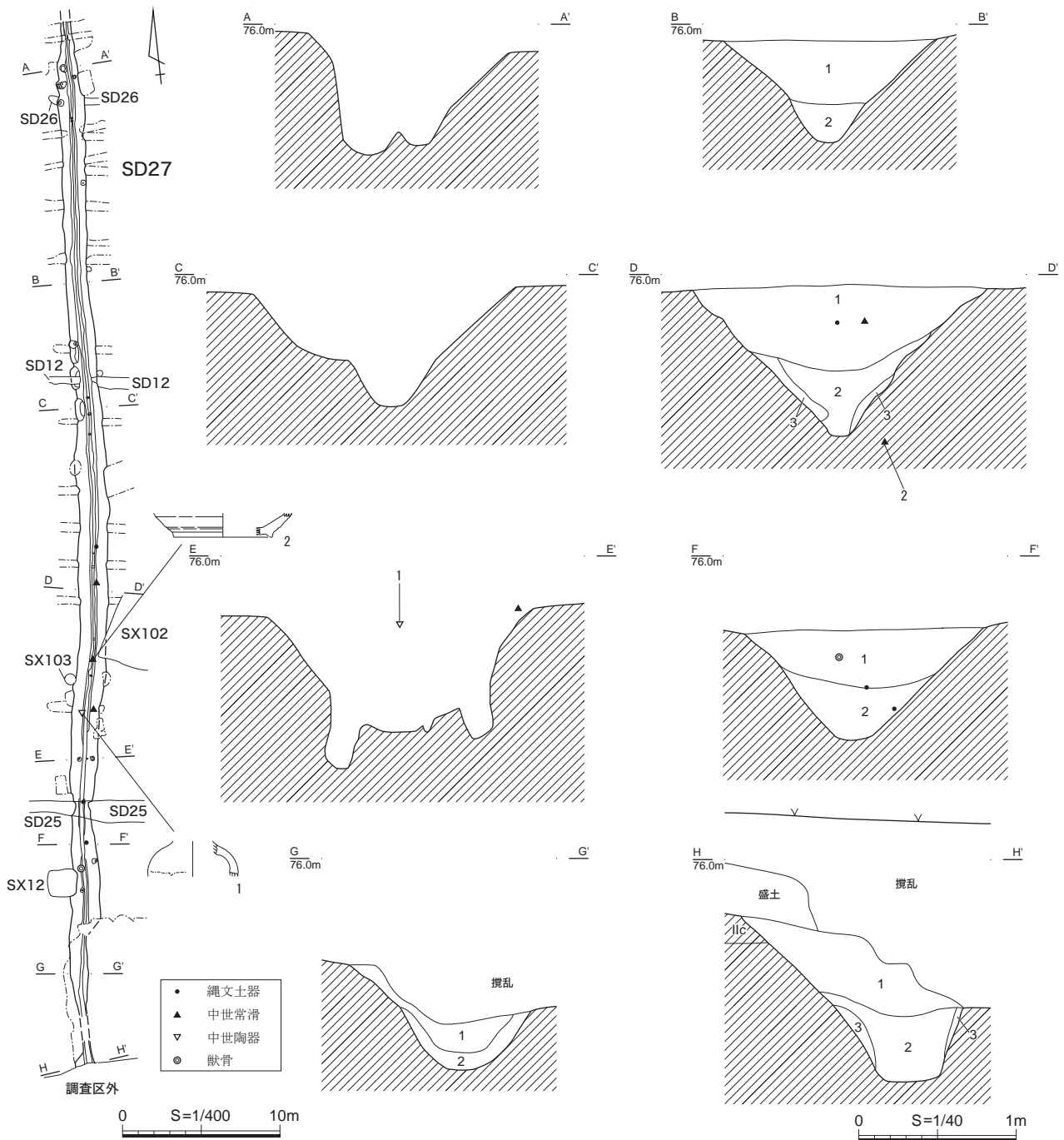
2 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を多量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。

SD 30 溝状遺構土層説明

1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 2 ~ 3mm) を多量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。下にロームブロック (径 1cm) が微量混在する。締まりやや弱い。

- 縄文土器
- ▲ 石器
- ◎ 近世磁器

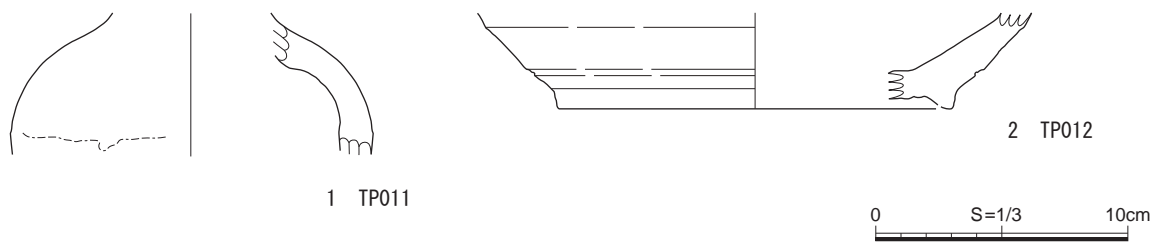
第 137 図 SD 19 ~ 21・24・30 溝状遺構



SD 27 溝状遺構土層説明

- 1 黒色土 (10YR2/1) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を少量含む。赤色スコリア粒 (径 1 ~ 2mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 黒色土 (10YR2/1) 1 にロームブロック (径 1 ~ 2cm) が少量混在する。締まりやや弱い。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。ロームブロック (径 1 ~ 2cm) が多く混在する。締まりあり。

第 138 図 SD 27 溝状遺構



第 139 図 SD 27 溝状遺構出土遺物

第 61 表 S D 27 溝状遺構出土陶器観察表

掲載番号 挿図番号 図版番号	出土 層位	材質	器種	遺存度	釉色 / 絵付	法量 (cm)				重量 (g)	主な文様 / 形態	備 考	産地
						口径	底径	器高	最大径				
1 TP11 139-1 67-6-1	覆土上層	陶器	壺	体部片	外面：自然釉・内 面：-/-	-	-	[5.6]	-	58.7		ロクロ、胎土色：灰色 12～13世紀	美濃
2 TP12 139-2 67-6-2	覆土下層	陶器	捏鉢	体部～ 底部	外面：自然釉・内 面：-/-	-	(15.7)	[3.8]	-	64.3		輪積み、ナデ、内面摩、 胎土色：灰色 13世紀	常滑

(2) 土坑

S K 1～11・31・32・34・35土坑（第140～142図、図版43-7～44-6）

中世以降のものと見られる15基の土坑が確認された。いずれも表土や耕作土の下に確認面があり、第Ⅱb層の黒色粗粒土を主体覆土としていることから、中世以降の所産と判断した。

S K 1土坑（第141図）

西側調査区N-8グリッドに位置する。S D 2 溝状遺構とS K 2土坑を壊している。平面形は隅丸長方形で、長軸1.05m、短軸84cm、深さ56cmである。断面は西壁にテラス状の段をもつ。壁はほぼ垂直で、壁面・床面共に平滑である。遺物は含まない。

S K 2土坑（第141図）

西側調査区N-8グリッドに位置する。S K 1土坑に北西隅を壊されている。平面形は隅丸長方形で、長軸1.12m、短軸69cm、深さ36cmである。断面は東壁にテラス状の段をもつ。西壁はほぼ垂直で、壁面・床面共に平滑である。遺物は含まない。

S K 3土坑（第141図）

西側調査区N・O-6グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、径1.1m程、深さ28cmで、断面は凹レンズ状を呈する。遺物は含まない。

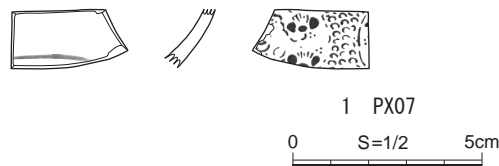
S K 4土坑（第140・141図、第62表、図版68-1-1）

西側調査区N-4グリッドに位置する。S D 4 溝状遺構に壊されている。平面形は隅丸長方形で、長軸1.36m、短軸92cm、深さ18cm程である。断面は皿状である。

覆土より近代の磁器1点が出土した。1は明治期の瀬戸・美濃産の磁器で碗の体部片である。

S K 5土坑（第141図）

西側調査区L-3・4グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。平面形は不明であるが、隅丸の方形ないし長方形であろうか。深さは32cm程で断面は逆台形である。遺物は含まない。



第 140 図 S K 4土坑出土遺物

第 62 表 S K 4土坑出土磁器観察表

掲載番号 挿図番号 図版番号	出土 層位	材質	器種	遺存度	釉色 / 絵付	法量 (cm)				重量 (g)	主な文様 / 形態	備 考	産地
						口径	底径	器高	最大径				
1 PX07 140-1 68-1-1	覆土	磁器	碗	体部片	透明釉 / 染付	-	-	[1.5]	-	3.6	外面：文様あり・内面： 罌線	ロクロ、胎土色：白色、 銅版転写 明治期	瀬戸・ 美濃

S K 6 土坑 (第141図)

西側調査区L—4グリッドに位置する。S D 3 溝状遺構を壊している。平面形は不整楕円で、長軸72cm、短軸67cm、深さ10cm程である。断面は皿状である。遺物は含まない。

S K 7 土坑 (第141図)

西側調査区L—4グリッドに位置する。平面形は楕円で、長軸1.22m、短軸64cm、深さ16cmである。断面は皿状である。遺物は含まない。

S K 8 a・b 土坑 (第142図)

西側調査区L・M—10グリッドに位置する。内部で切り合っている土坑である。S K 8 a土坑はS K 8 b土坑に壊されている。S K 8 a土坑は平面形は不明だが、楕円形であろうか。深さは36cmで断面皿状である。S K 8 b土坑は1.18×1.0m程の不整楕円形で、深さ36cmであるが、底部が北側に偏っている。遺物は含まない。

S K 9 土坑 (第142 図)

西側調査区L—6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸1.12m、短軸86cm、深さ14cmである。断面は皿状である。遺物は含まない。

S K 10 土坑 (第142図)

西側調査区N—7グリッドに位置する。北側は攪乱で失われているため、平面形は不明だが、楕円形であろうか。深さ24cmで、断面は凹レンズ状を呈する。遺物は含まない。

S K 11 土坑 (第142図)

西側調査区G—8グリッドに位置する。平面形は径1.2m程の円形で、深さは22cmである。断面は逆台形である。遺物は含まない。

S K 31 土坑 (第142図、図版43—7・8)

東側調査区Z—79グリッドに位置する。平面形はやや歪んだ隅丸長方形で、長軸1.84m、短軸53cm、深さ98cmである。断面は筒状で壁は垂直、壁面・床面共に平滑である。遺物は含まない。

S K 32 土坑 (第142図、図版44—1・2)

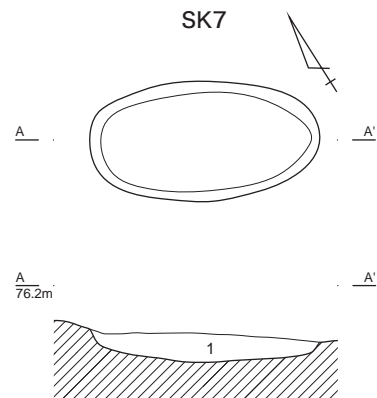
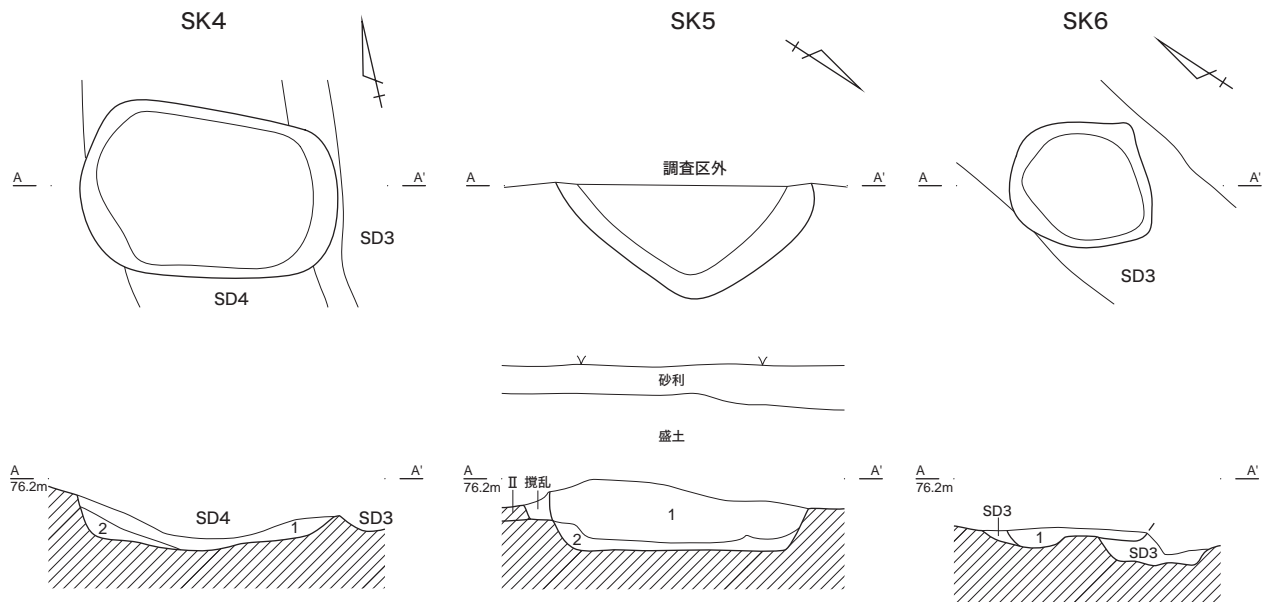
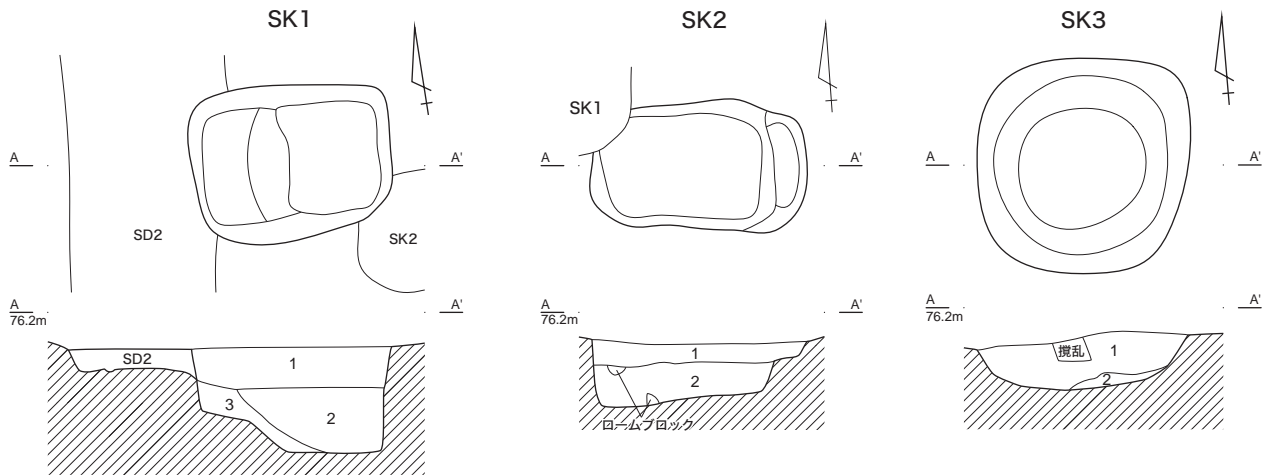
東側調査区Y・Z—80グリッドに位置する。中央部は攪乱で失われているが、平面形は径1.06m程の隅丸方形を呈する。断面は深さ32cmの逆台形である。S K 31に隣接する。遺物は含まない。

S K 34 土坑 (第142図、図版44—3・4)

東側調査区R—79グリッドに位置する。西側は攪乱でほとんどが消滅しているため、平面形は不明である。深さ46cmで、断面は凹レンズ状である。遺物は含まない。

S K 35 土坑 (第142図、図版44—5・6)

東側調査区R—78グリッドに位置する。東側は攪乱で上部が失われている。平面形は歪んだ楕円形を呈し、長軸1.82m、短軸92cm、深さ56cm程である。断面はU字状であろうか。S K 34に隣接する。遺物は含まない。

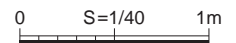


SK 1～8a・9・10 土坑土層説明

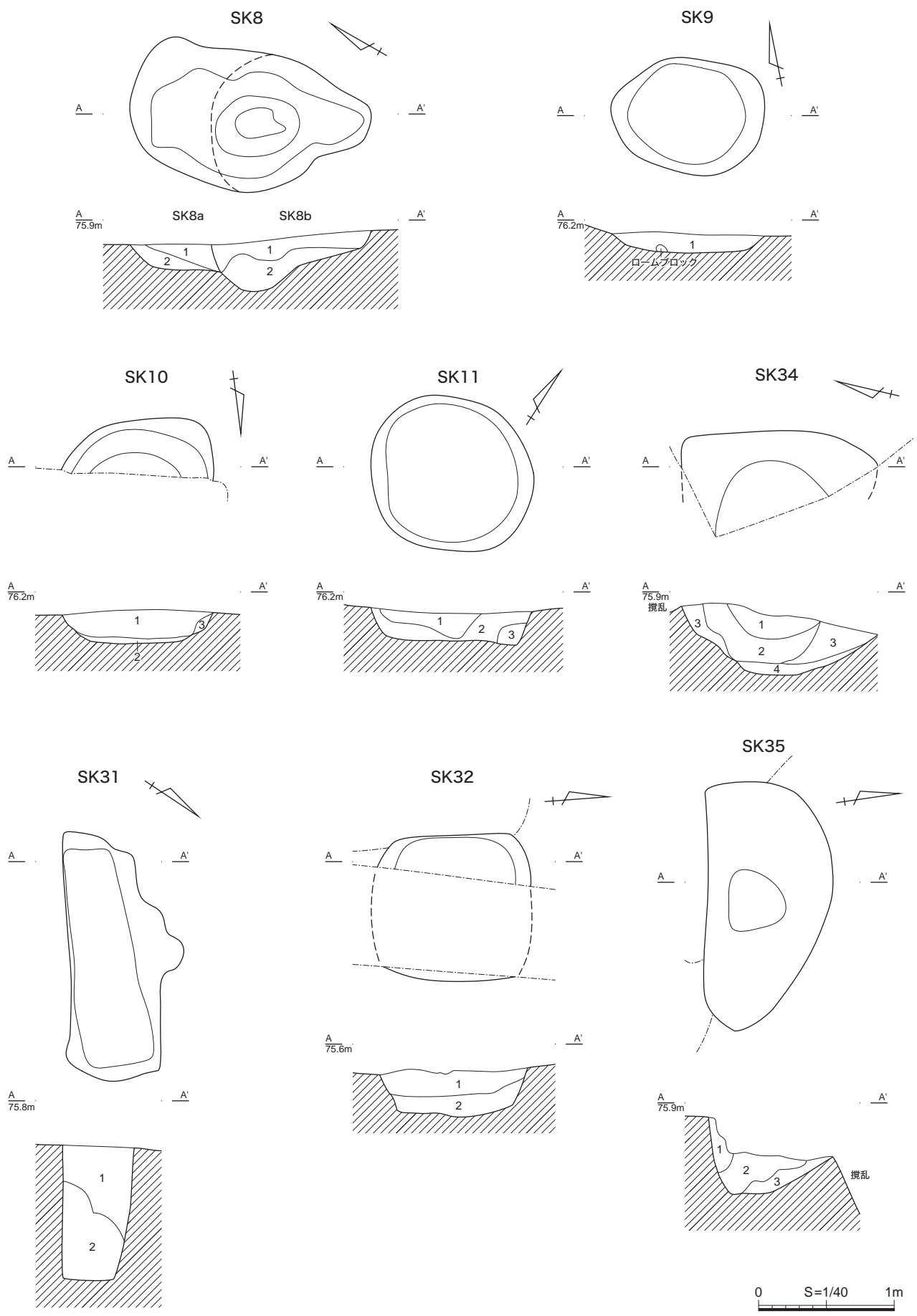
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 1 にロームブロック (径1～5cm) が少量混在する。締まり弱い。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 1 にロームブロック (径10～15cm) が多く混在する。締まり弱い。

SK 8b 土坑土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1mm)・ロームブロック (径1～2cm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 1 にロームブロック (径3～5cm) が少量混在する。締まり弱い。



第141図 SK 1～7 土坑



第142図 SK 8~11・31・32・34・35 土坑

S K 11 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 1 にロームブロック (径 1～5cm) が少量混在する。締まり弱い。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 2 にロームブロック (径 3～4cm) が多く混在する。締まり弱い。

S K 31・32 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1～2mm)・ロームブロック (径 1～3cm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 1 にロームブロック (径 3～5cm) が多く混在する。締まり弱い。

S K 34 土坑土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1mm) を少量、赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 1 と同質だが、ローム粒 (径 1mm) が僅かに混在する。締まりあり。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm)・ロームブロック (径 1～3cm) を少量含む。締まりやや弱い。
- 4 褐色土 (10YR4/4) 2 の黒褐色土とローム土が多く混在する。締まり弱い。

S K 35 土坑土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1mm)・赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1mm)・赤色スコリア粒 (径 1mm) を微量含む。締まりあり。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 2 の黒褐色土とローム土が多く混在する。締まり弱い。

(3) 柱穴列

S A 1～3 柱穴列 (第143図、図版44-7・8)

東側調査区の東側から 1 基、西側から 2 基が確認された。柱穴列はこの 3 基だけであり、用途については不明であるが、いずれもほぼ東西方向に並ぶ。S A 2・3 柱穴列は並列していることから、同じ遺構の可能性が考えられるが、南に位置する S X 9 地下室状遺構との関連は明確ではない。掘り込み面は II d 層である。第 II b 層の黒色の粗粒土を主体覆土としていることから、中世以降の所産と判断した。

S A 1 柱穴列 (第143図、図版44-7)

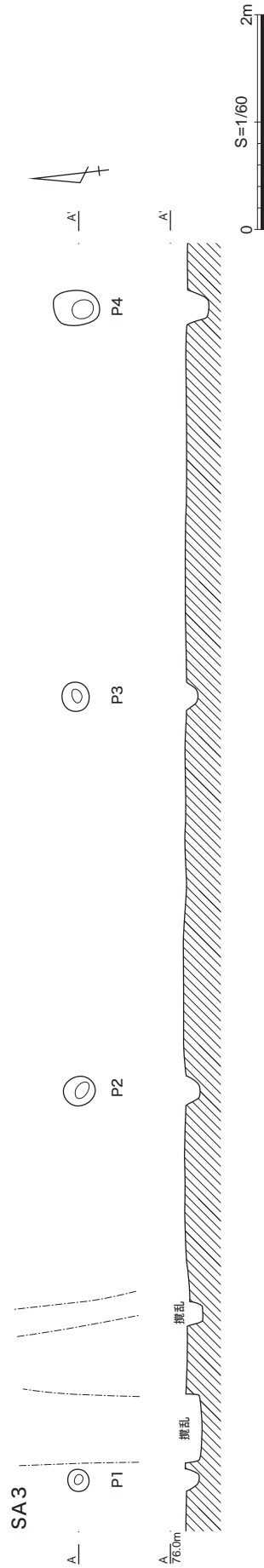
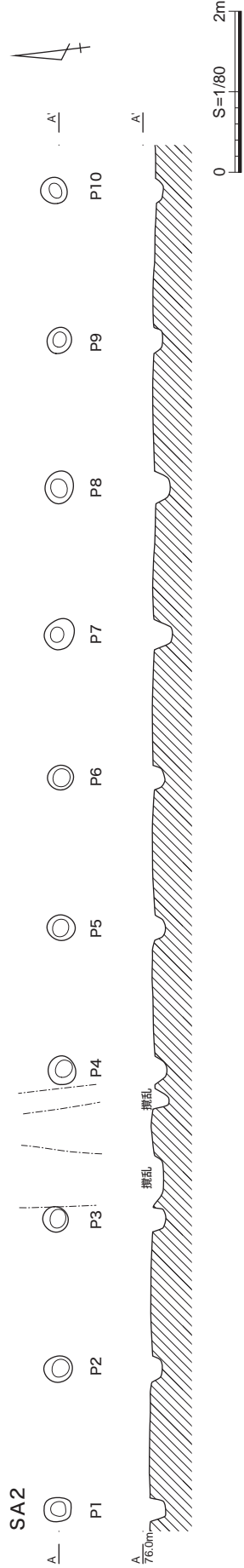
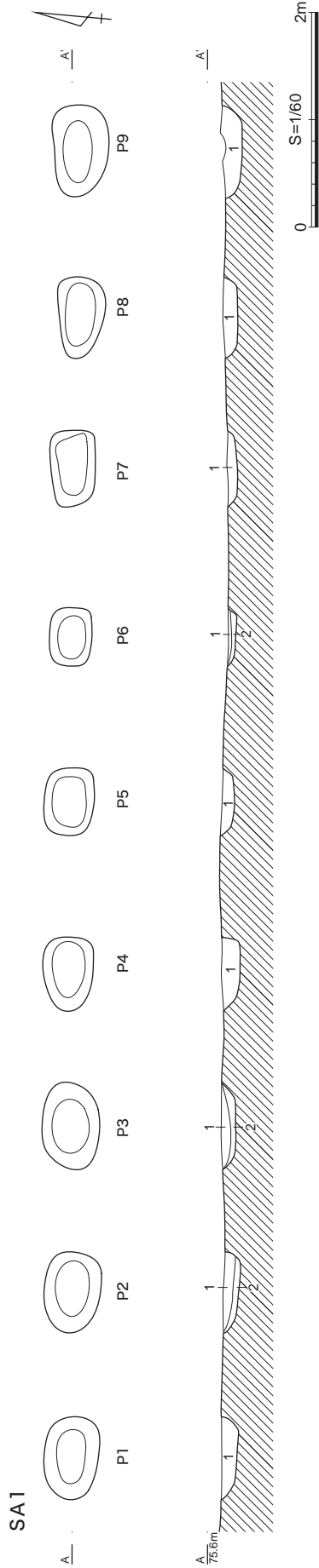
東側調査区東部に位置する。9 本の小穴からなり、東西方向に並ぶ。全長は 12.92m である。各小穴の平面形は楕円形を呈し、長軸 55～85cm、短軸 40～52cm、深さ 8～16cm、各小穴の間隔は中心で 1.5m 程である。遺物は含まない。

S A 2 柱穴列 (第143図、図版44-8)

東側調査区西部に位置する。10 本の小穴からなり、東西方向に並ぶ。全長は 16.6m である。各小穴の平面形は径 28～38cm の円形もしくは楕円形を呈し、深さ 12～16cm、各小穴の間隔は中心で 1.8m 程である。遺物は含まない。

S A 3 柱穴列 (第143図、図版44-8)

東側調査区西部に位置する。S A 2 柱穴列の南に並列しており、4 本の小穴からなる。全長は 11.16m で、各小穴の平面形は P 1～P 3 が径 20～30cm の円形、P 4 が 33×40cm の楕円形である。深さは 10～20cm を測る。各小穴の間隔は中心で 3.6m 程である。遺物は含まない。



SA1 柱穴列土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 2~3mm)・ロームブロック (径 1~2cm) を少量、赤色スコリア粒 (径 2mm) を微量含む。締まりやや弱い。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 赤色スコリア粒 (径 2mm) を微量含む。ロームブロック (径 1~2cm) が僅かに混在する。締まりあり。

第 143 図 SA 1 ~ 3 柱穴列

(4) 地下室状遺構

S X 1～11地下室状遺構（第144～157図、図版45－1～50－6）

11基の地下室状遺構はすべて東側調査区で見つかった。平面形は長楕円形、長方形、鋸形、L字形の4種類に分けられるが、L字形のものは一端が屈曲するものと両端が逆方向に屈曲するものがある。東西方向に作られているもの9基、南北方向に作られているもの2基である。規模は長さ5.4～9.55m、幅1.05～1.85m、深さ0.7～1.63mを測る。出土した遺物は極僅かである。規模・形状から戦時中に構築され使用されたものと思われる。遺跡が所在する日立製作所中央研究所は昭和15年から工事が始まり、創立は太平洋戦争終戦前の昭和17年4月である。『国分寺市史 下巻』（国分寺市編さん委員会1991）によると、国分寺町での初めての空襲警報の発令は昭和17年3月5日との記録があり、国分寺町は昭和20年1月9日、4月4日、5月25日、6月10日に空襲を受けたとされている。空襲に備えた防空演習や防空壕に関する記述も見られることから、これらの地下室状遺構は防空壕である可能性が高い。

S X 1地下室状遺構（第144図、図版45－1～5）

東側調査区北東部に位置する。掘り込み面は第Ⅱd層であるが、上部は攪乱されている。平面は楕円状の歪んだ長方形で、規模は長軸8.15m、短軸1.85m、深さ1.45mで、坑底付近は第Ⅵ層にまで達している。東西方向に作られており、長軸方向はN-86°-Eである。東西両端に開口部があり、それぞれに緩やかな階段が3段敷設されているが、開口部はやや南側を向く。南北の壁は上方に開くように立ち上がる。底面は平坦であるが、掘削痕と思われる細い溝状の掘り込みが数本見られる。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S X 2地下室状遺構（第145図、図版45－6～8）

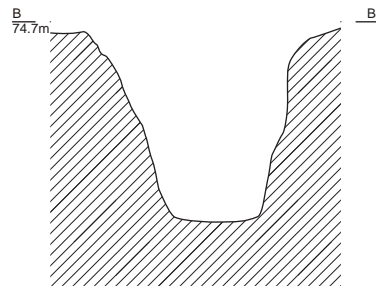
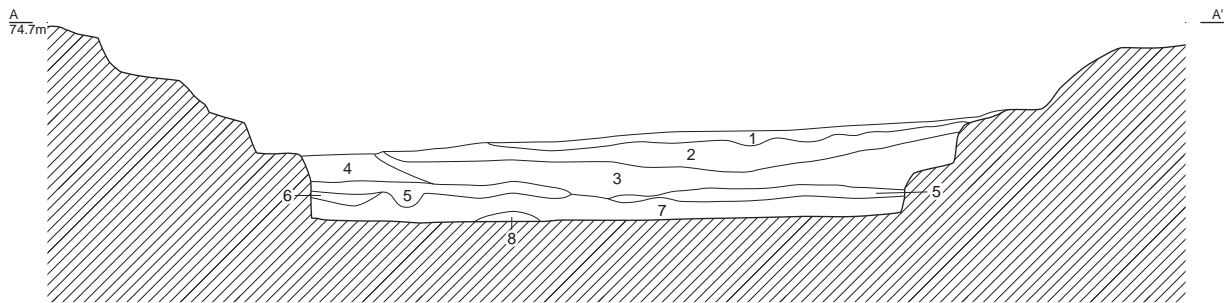
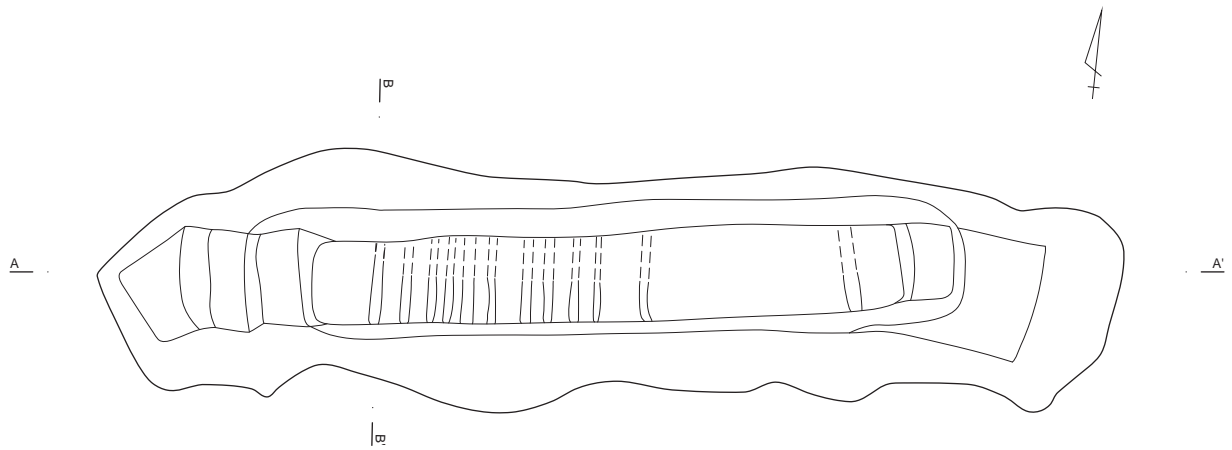
東側調査区北東部に位置する。遺構確認では攪乱と想定していたもので、確認面は第Ⅲ層である。平面は楕円状の歪んだ長方形で、規模は長軸5.4m、短軸1.05m、深さ98cmで、坑底付近は第Ⅴ層にまで達している。東西方向に作られており、長軸方向はN-85°-Eである。東西両端に開口部があり、それぞれに緩やかな階段が2～3段敷設されている。南北の壁は上方に開くように立ち上がる。底面は凹凸があり、部分的に掘削痕が見られる。遺物は含まない。

S X 3地下室状遺構（第146図、図版46－1～5）

東側調査区中央部に位置する。遺構確認では攪乱と想定していたもので、確認面は第Ⅲ層である。平面は楕円状の歪んだ長方形で、規模は長軸6.6m、短軸1.60m、深さ1.16mで、坑底付近は第Ⅴ層にまで達している。南北方向に作られており、長軸方向はN-15°-Eである。南北両端に開口部があり、それぞれに緩やかな階段が3段敷設されている。東西の壁は上方に開くように立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

S X 4地下室状遺構（第147図、図版46－6・7）

東側調査区中央北部に位置する。北側は調査区外になり、西側は攪乱で消滅している。確認面は第Ⅲ層である。平面は東西に長軸をもつ長方形と思われる。検出された規模は長軸1.9m、短軸0.7m、深さ1.06mで、坑底付近は第Ⅳ層の中程にまで達している。開口部は西側であろうか。壁は底面から垂直に立ち上がる。底面は平坦である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

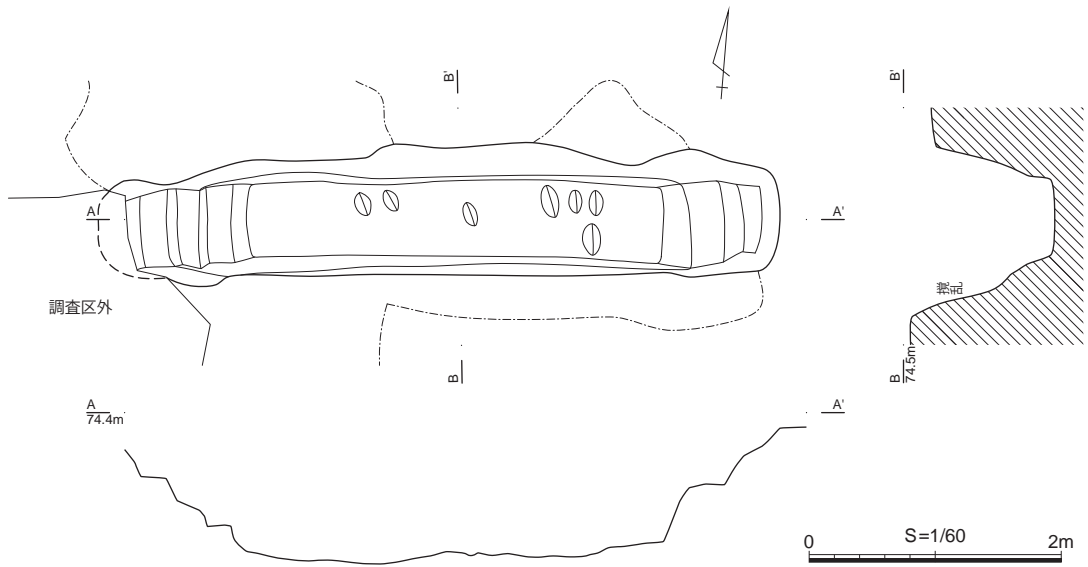


S X 1 地下室状遺構土層説明

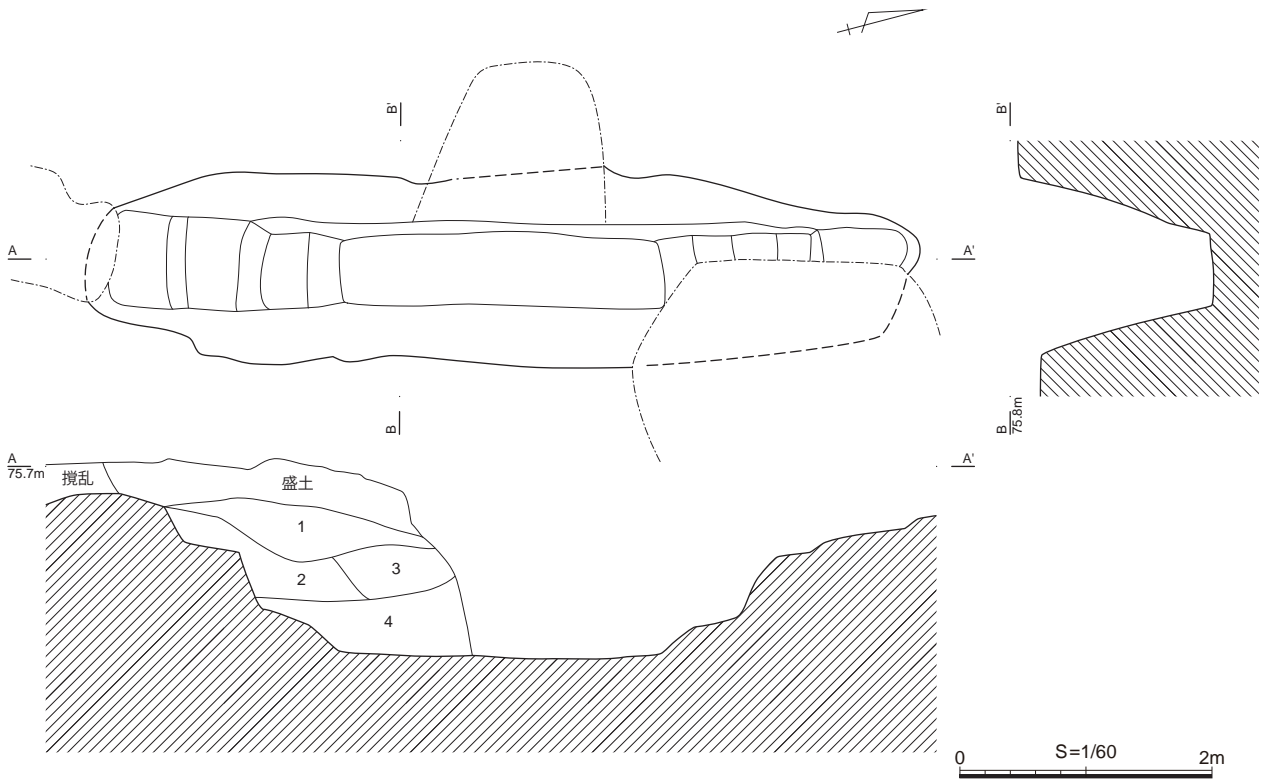
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 3 ~ 5mm) を多量含む。縮まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 1 と同質だが、ローム粒 (径 3 ~ 5mm) が少量混在する。縮まり弱い。
- 3 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック (径 3 ~ 5cm) が多く混在する。縮まりなく軟弱。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 2 ~ 3mm) を多量含む。縮まり弱い。
- 5 褐色土 (10YR4/6) 3 と同質で、ロームブロック (径 3 ~ 5cm) が多く混在する。縮まりなく軟弱。
- 6 黒褐色土 (10YR3/1) 1 と同質だが、ローム粒 (径 3 ~ 5mm) が少量混在する。縮まり弱い。
- 7 褐色土 (10YR4/4) 3・5 と同質で、ロームブロック (径 3 ~ 5cm) が多く混在する。縮まりなく軟弱。
- 8 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 2 ~ 3mm) を少量含む。縮まり弱い。

0 S=1/60 2m

第 144 図 S X 1 地下室状遺構



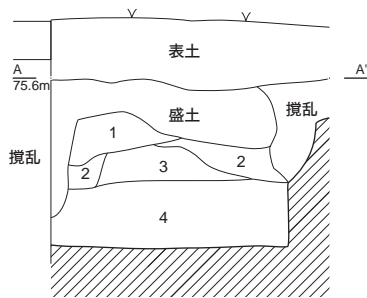
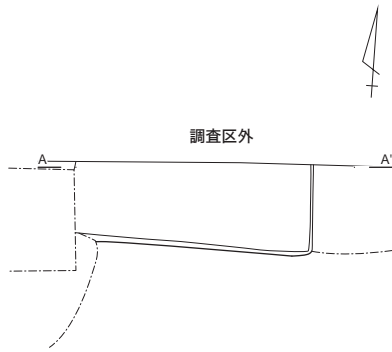
第145図 SX2地下室状遺構



SX3 地下室状遺構土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を多量含む。ロームブロック (径 2 ~ 3cm) が多く混在する。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 2 ~ 3mm) を多量含む。ロームブロック (径 5cm) が散在する。締まり弱い。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 1 と同質。締まりなく軟弱。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を多量含む。ロームブロック (径 5cm) が散在する。締まり弱い。

第146図 SX3地下室状遺構



0 S=1/60 2m

S X 4 地下室状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 1 にロームブロック (径 2～10cm) が多く混在する。締まり弱い。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 1 にロームブロック (径 1～5cm) が散在する。締まりやや弱い。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 1 と同質だが、下位にロームブロック (径 1～2cm) が散在する。締まりやや弱い。

第 147 図 S X 4 地下室状遺構

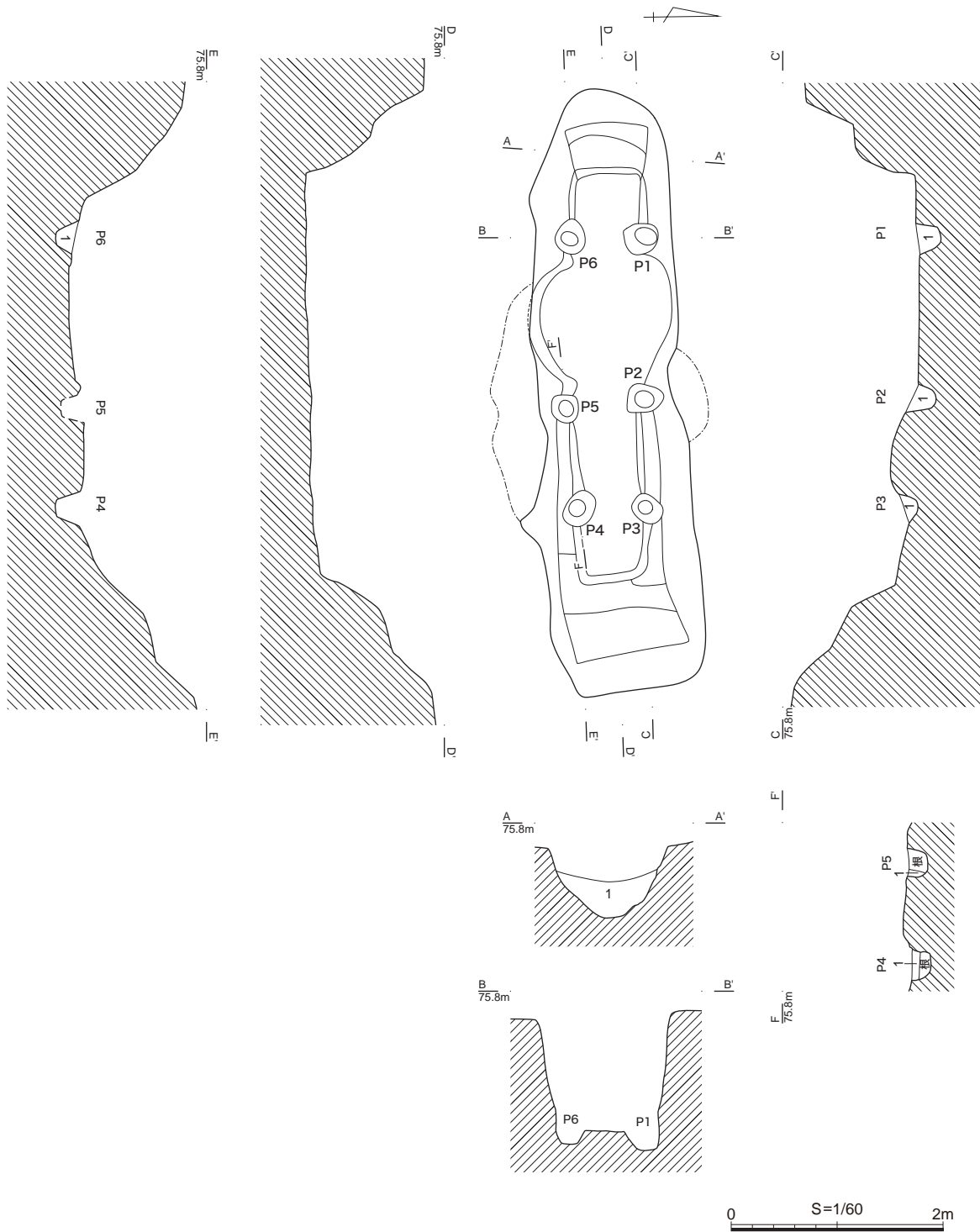
S X 5 地下室状遺構 (第148図、図版46-8・47-1～3)

東側調査区南端部に位置する。遺構確認では攪乱と想定していたもので、確認面は第Ⅲ層である。平面は楕円状の歪んだ長方形で、規模は長軸5.70m、短軸1.28m、深さ1.10mで、坑底付近は第Ⅴ層にまで達している。東西方向に作られており、長軸方向はN-86°-Eである。東西両端に開口部があり、それぞれに緩やかな階段が1段敷設されている。南北の壁は急角度に立ち上がる。底部の壁沿いには小穴が3本ずつ穿たれている。小穴は径25～35cm、深さ15～22cmである。天井を支える柱穴であろうか。底面は概ね平坦である。遺物は含まない。

S X 6 地下室状遺構 (第149・157図、第63表、図版47-4～8・68-2-1)

東側調査区南部に位置する。遺構周辺は攪乱によって第Ⅱ層が消失しているため、確認面は第Ⅲ層である。平面は鋸形を呈し、規模は長軸7.8m、短軸1.54m、深さ1.25mで、坑底付近は第Ⅵ層にまで達している。東西方向に作られており、長軸方向はN-87°-Wである。東西両端に開口部があり、開口部は北を向く。それぞれに緩やかな階段が6段敷設されている。階段部分はよく踏み固められている。両階段の最下段に、鉄板が敷設されていたものと思われる。床の南東隅に径35cm、深さ35cmの小穴が1本設けられているが、用途は不明である。床面は掘削後、10cm程埋め戻され締め固められている。西側に腐敗した木材が横たわっていたが、壁材であろうか。南北の壁は底面から急角度で立ち上がる。底面は概ね平坦である。床面から覆土は水平な堆積を示す。鉄片を覆土中に含むため、壕は埋没後、ごみ捨て場として利用されたものと思われる。

覆土よりプラスチック製品が1点出土した。1は歯ブラシで近代以降のものである。柄の孔部に紐の様なものが残存する。



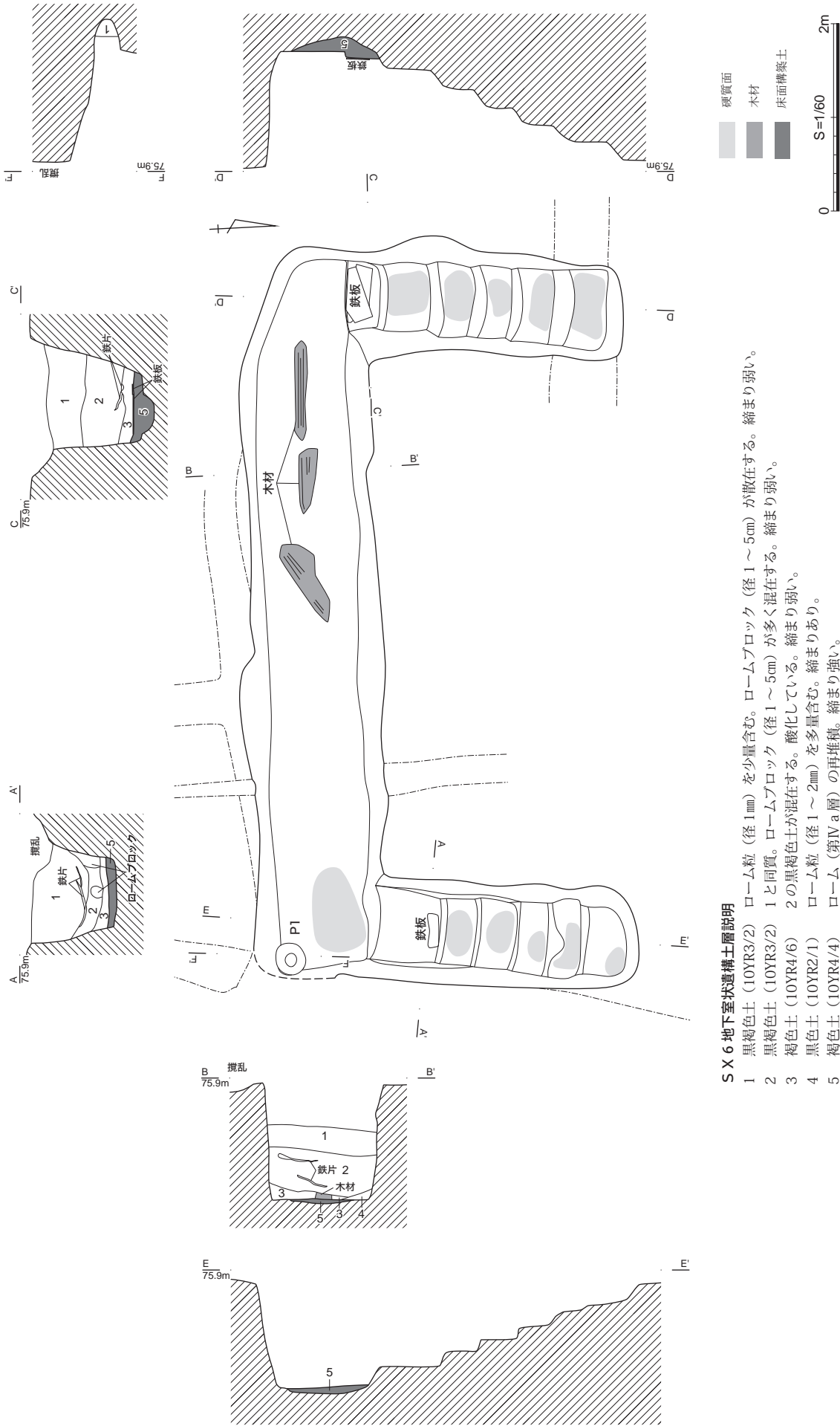
SX5 地下室状遺構土層説明

1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を多量含む。ロームブロック (径 2 ~ 3cm) が多く混在する。締まり弱い。

SX5 地下室状遺構ピット土層説明 (P 1 ~ 6)

1 暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土が少量混在。ロームブロック (径 2 ~ 3cm) が多く散在する。締まり弱く脆弱。

第 148 図 SX5 地下室状遺構



SX6 地下室状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 5cm) が散在する。縮まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 1 と同質。ロームブロック (径 1 ~ 5cm) が多く混在する。縮まり弱い。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 2 の黒褐色土が混在する。酸化している。縮まり弱い。
- 4 黒色土 (10YR2/1) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を多量含む。縮まりあり。
- 5 褐色土 (10YR4/4) ローム (第IV a層) の再堆積。縮まり強い。

P1 土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 5cm) が散在し、縮まり弱い。

第 149 図 SX6 地下室状遺構

S X 7 地下室状遺構（第150・157図、第63表、図版48-2）

東側調査区中央部に位置する。遺構周辺は攪乱によって第Ⅱ層が消失しているため、確認面は第Ⅲ層である。平面は楕円状のやや歪んだ長方形で、規模は長軸6.1m、短軸1.3m、深さ70cmで、坑底付近は第Ⅳ～第Ⅴ層にまで達している。南北方向に作られており、長軸方向はN-15°-Eである。南北両端に開口部があるが、それぞれ東と西にL字状に小さく屈曲している。緩やかな階段が1～2段敷設されている。壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は概ね平坦である。覆土は水平な堆積を示す。床面には炭状の物質が多く含まれる褐色土が3～5cm程堆積している。板材あるいは何らかの敷物が敷設されていたのだろうか。鉄管を覆土中に含むため、壕は埋没後、ごみ捨て場として利用されたものと思われる。

覆土よりガラス製品が1点出土している。2は近代以降のガラス製品で、瓶である。内側に鉄の塊が錆びた状態で残存しているが、どの様な製品なのかは不明である。

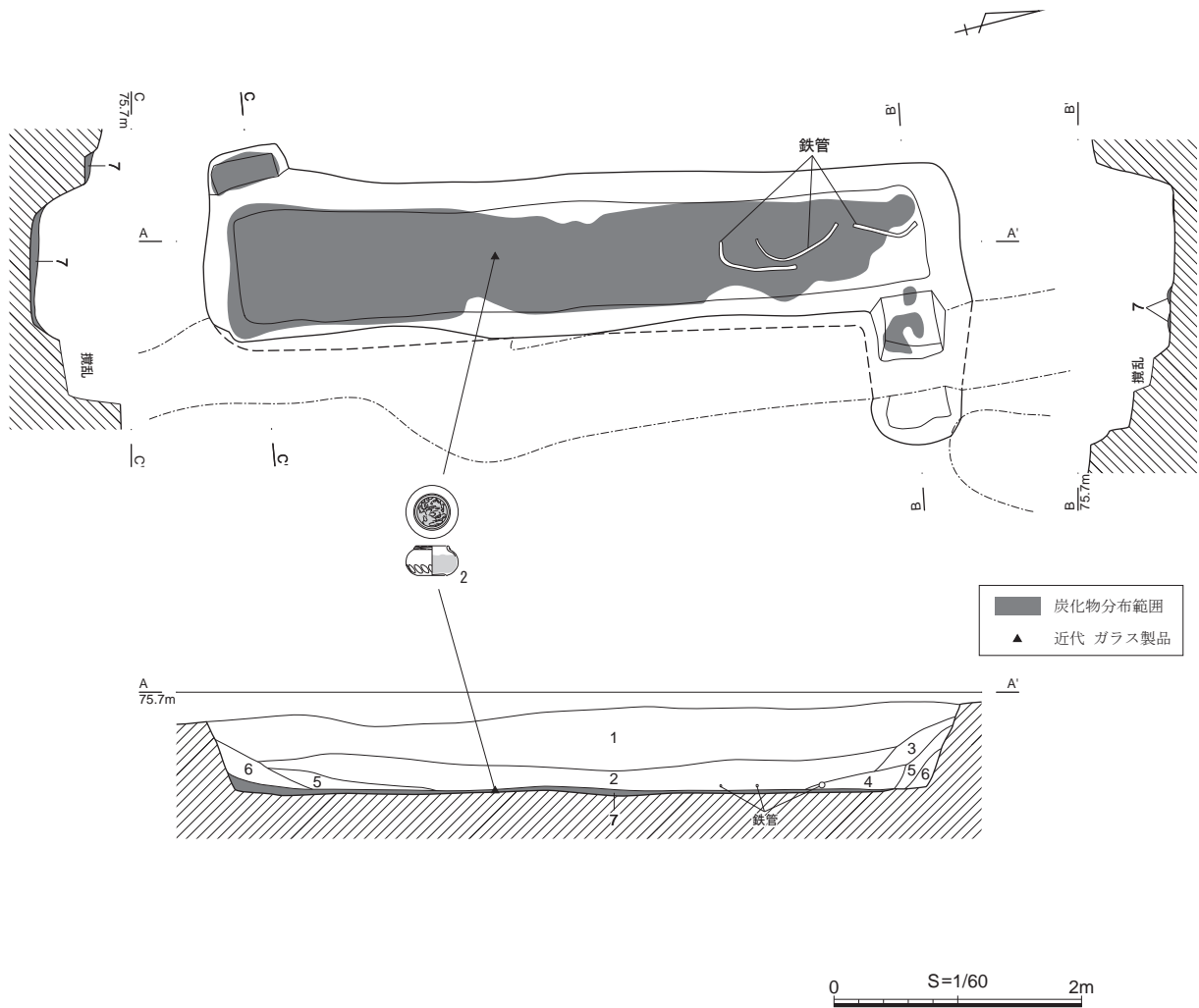
S X 8 地下室状遺構（第151・157図、第64表、図版48-3～6・68-2-3）

東側調査区東部に位置する。確認面は第Ⅱ層である。S D 8 溝状遺構を壊している。平面はL字形を呈し、規模は長軸6.75m、短軸1.8m、深さ1.28mで、坑底付近は第Ⅴ層にまで達している。東西方向に作られており、長軸方向はN-84°-Eである。東西両端に開口部があり、東側はやや南に傾き、西側は北を向く。それぞれに緩やかな階段が3～4段敷設されている。南北の壁は底面からやや急角度で立ち上がる。覆土は水平な堆積を示す。底面は概ね平坦である。部分的に掘削痕が見られる。鉄管を覆土中に含むため、壕は埋没後、ごみ捨て場として利用されたものと思われる。

覆土より近世の金属製品が1点出土している。3は寛永通寶である。寛文8年（1668年）初鑄の新寛永通寶である。

S X 9 地下室状遺構（第152・153図、図版48-7・8・49-1～5）

東側調査区西部に位置する。遺構周辺は攪乱によって第Ⅱ層が大部分消失しているため、確認面は第Ⅲ層である。主室と副室からなる。平面は鋸形を呈し、規模は長軸9.5m、短軸1.2m、深さ1.22mで、坑底付近は第Ⅴ層にまで達している。東西方向に作られており、長軸方向はN-85°-Wである。主室は東西両端に開口部があり、開口部は北を向く。それぞれに緩やかな階段が、東開口部は4段、西開口部は6段敷設されている。階段部分はよく踏み固められている。壁は底面から垂直に立ち上がるが、北壁は段が2箇所削り出されている。南壁には縦坑の副室が3箇所設けられている。副室の間隔は1.2～1.7mで、副室開口部は高さ0.95m、幅0.9～1.08m、深さ0.55～0.9mで、断面は長方形を呈する。また、南壁両隅に小穴が1本ずつ掘り込まれている。高さ35～37cm、幅30～33cm、深さ55～60cmで、断面は長方形を呈する。天井を支える柱穴であろうか。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。底面は平坦である。西側に径40cm、深さ15cmの方形の小規模な掘り込みがあるが、用途は不明である。底面には金属が腐食したような赤錆状の物質が薄く堆積している。原形は不明だが、薄い鉄板が敷設されていたのだろうか。地下室状遺構の周りに、径25～38cm、深さ10～38cmを測る小穴が壁際に4本設けられている。本遺構に伴うものと思われるが、詳細な用途は不明である。



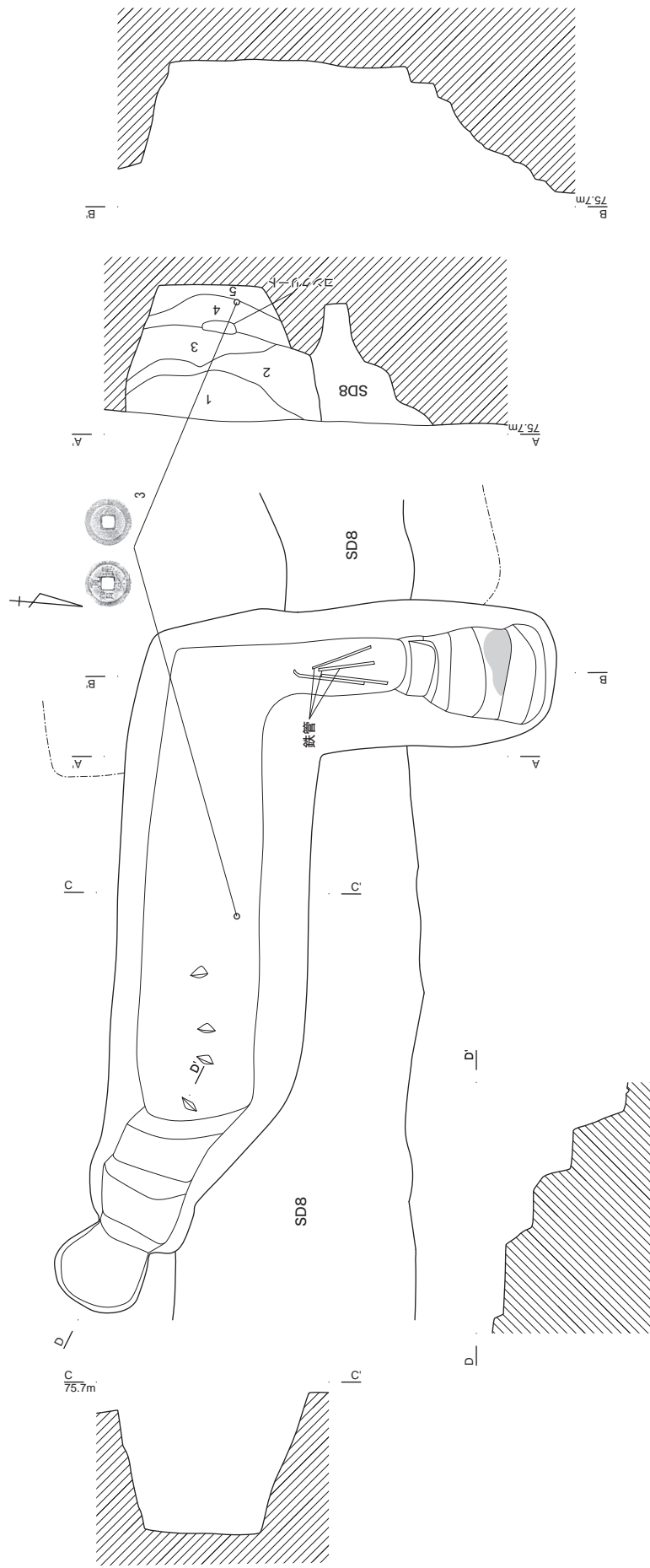
S X 7 地下室状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 5cm) が散在する。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 1 と同質。ロームブロック (径 1 ~ 5cm) が多く混在する。締まり弱い。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 5cm) が散在する。締まり弱い。
- 4 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 5cm) が散在する。締まり弱い。
- 5 黒色土 (10YR2/1) ローム粒 (径 1 ~ 2mm) を多量含む。締まりあり。
- 6 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1 ~ 5cm) が散在する。締まり弱い。
- 7 褐色土 (10YR4/4) 炭化物が多く混在する。締まり強い。

炭化物分布範囲

炭状の物質が床面で確認された。板あるいは敷物などを敷設していたのだろうか。

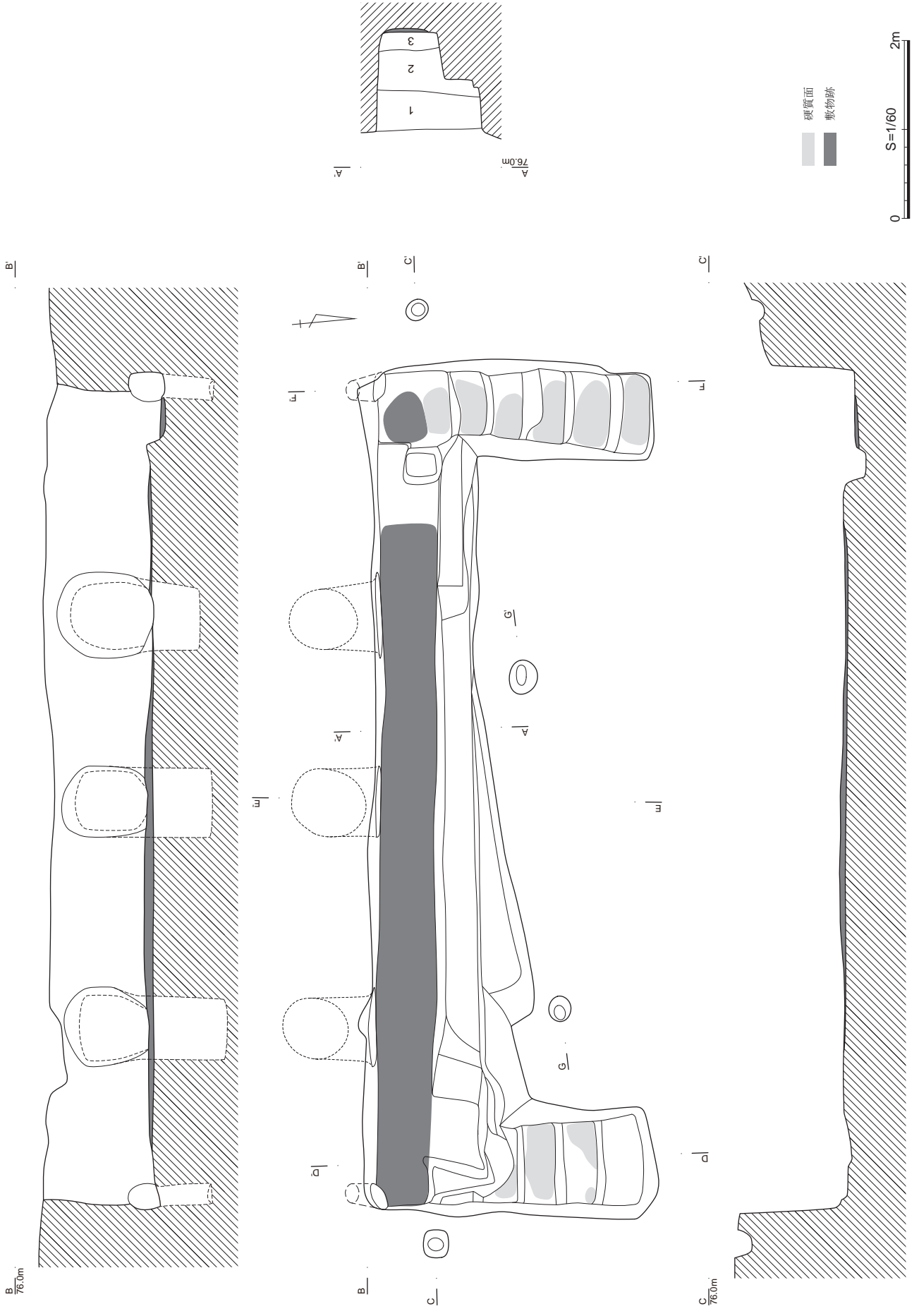
第 150 図 S X 7 地下室状遺構



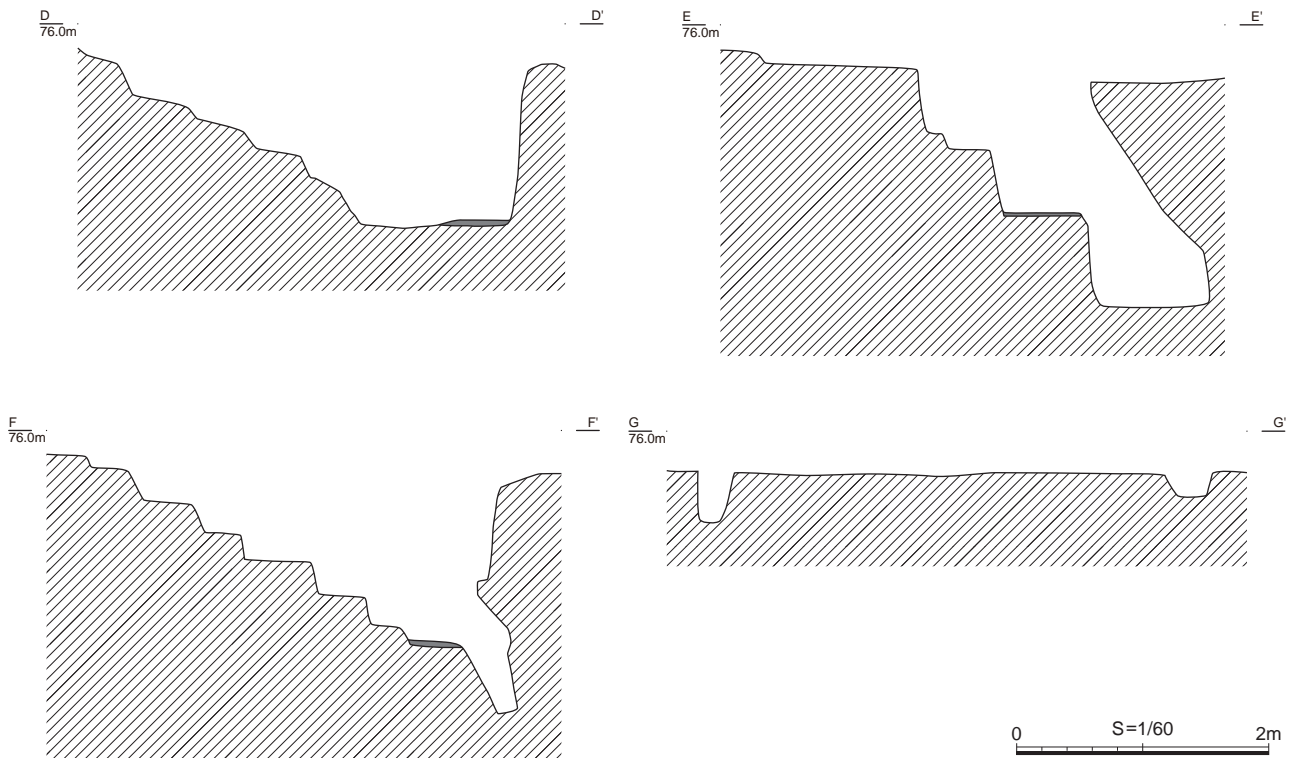
S X 8 地下室状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～5cm) が多く混在する。縮まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～5cm) が散在する。縮まり弱い。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 1～5cm) が多く混在する。縮まり弱い。
- 4 黒色土 (10YR2/1) ローム粒 (径 1～2mm) を多量含む。縮まりあり。
- 5 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック (径 1～5cm) が多く混在する。縮まり強い。

第 151 図 S X 8 地下室状遺構



第152図 SX9地下室状遺構(1)



S X 9 地下室状遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径 1mm) を少量含む。ロームブロック (径 2～5cm) が多く混在する。締まり弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 1 と同質。
- 3 黄褐色土 (10YR5/6) ロームブロック (径 2～5cm) が多く混在する。締まり弱い。

敷物跡

腐食した赤錆状の物質が床面で確認された。薄い鉄板を敷設していたのか。

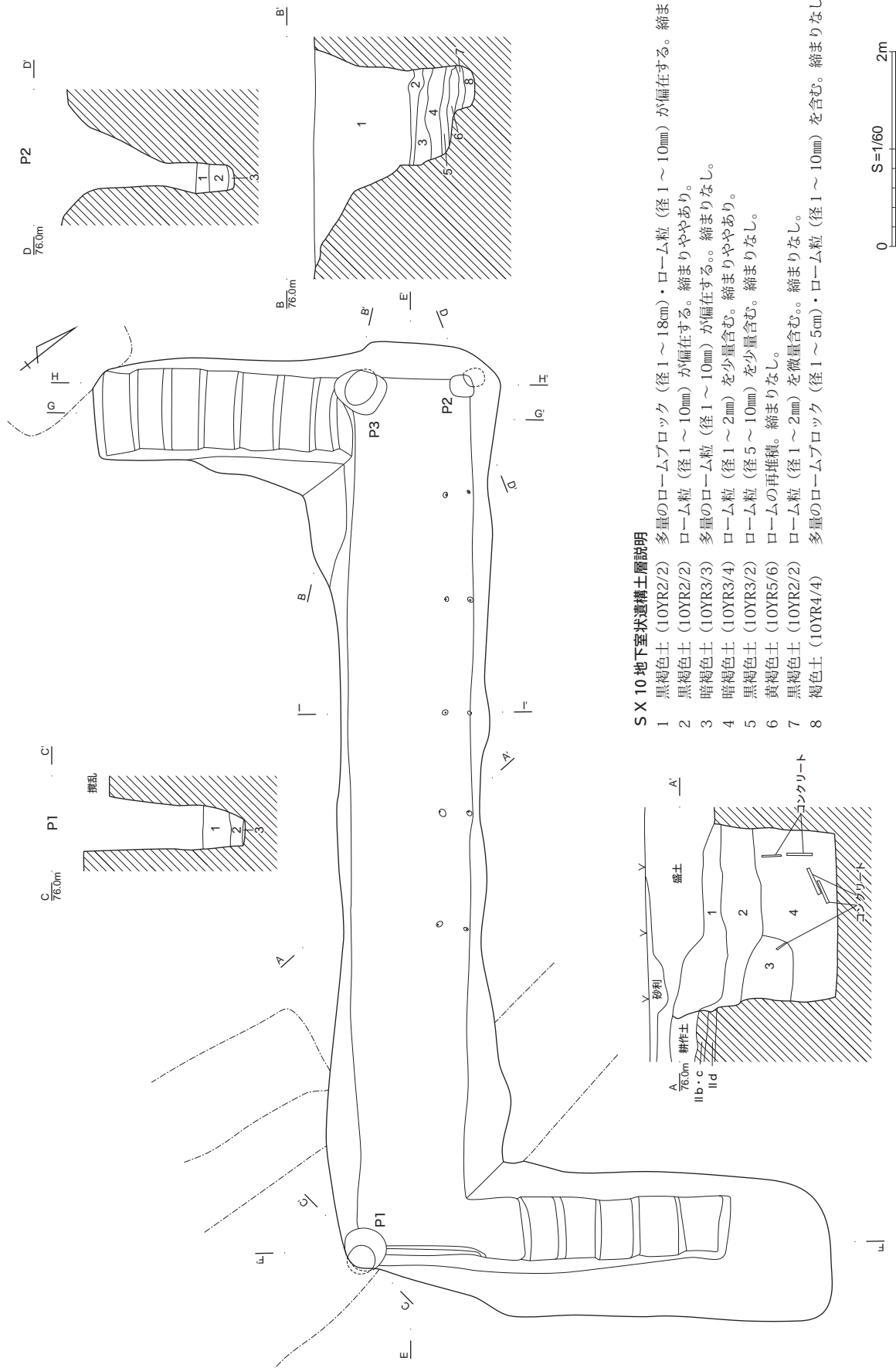
第 153 図 S X 9 地下室状遺構 (2)

S X 10 地下室状遺構 (第 154・155 図、図版 49-6～8・50-1～3)

東側調査区西端部で確認した。確認面は第 II d 層である。平面は L 字形で、両端にある開口部は異なる方向へ屈曲する。東開口部は北へ、西開口部は南に向く。規模は長軸 9.55m、短軸 1.53m、深さ 1.63m で、坑底付近は第 VII 層にまで達している。東西方向に作られており、長軸方向は N-54°-W である。東西両端の開口部は、それぞれに緩やかな階段が、東開口部は 5 段、西開口部は 7 段敷設されている。壁は底面から急な角度で立ち上がる。底面の南壁両端に小穴が 2 本、北壁西端に小穴が 1 本掘り込まれている。小穴は径 20～50cm、深さ 30～38cm である。天井を支える柱穴と思われる。また、北壁に沿って径 5～6cm、深さ 20～25cm の小ピットが 2 列 5 本ずつ平行して並ぶ。壁を保護する支柱跡であろうか。底面は平坦である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まないがコンクリート片などが混在することから、壕は埋没後、ごみ捨て場として利用されたものと思われる。

S X 11 地下室状遺構 (第 156 図、図版 50-4～6)

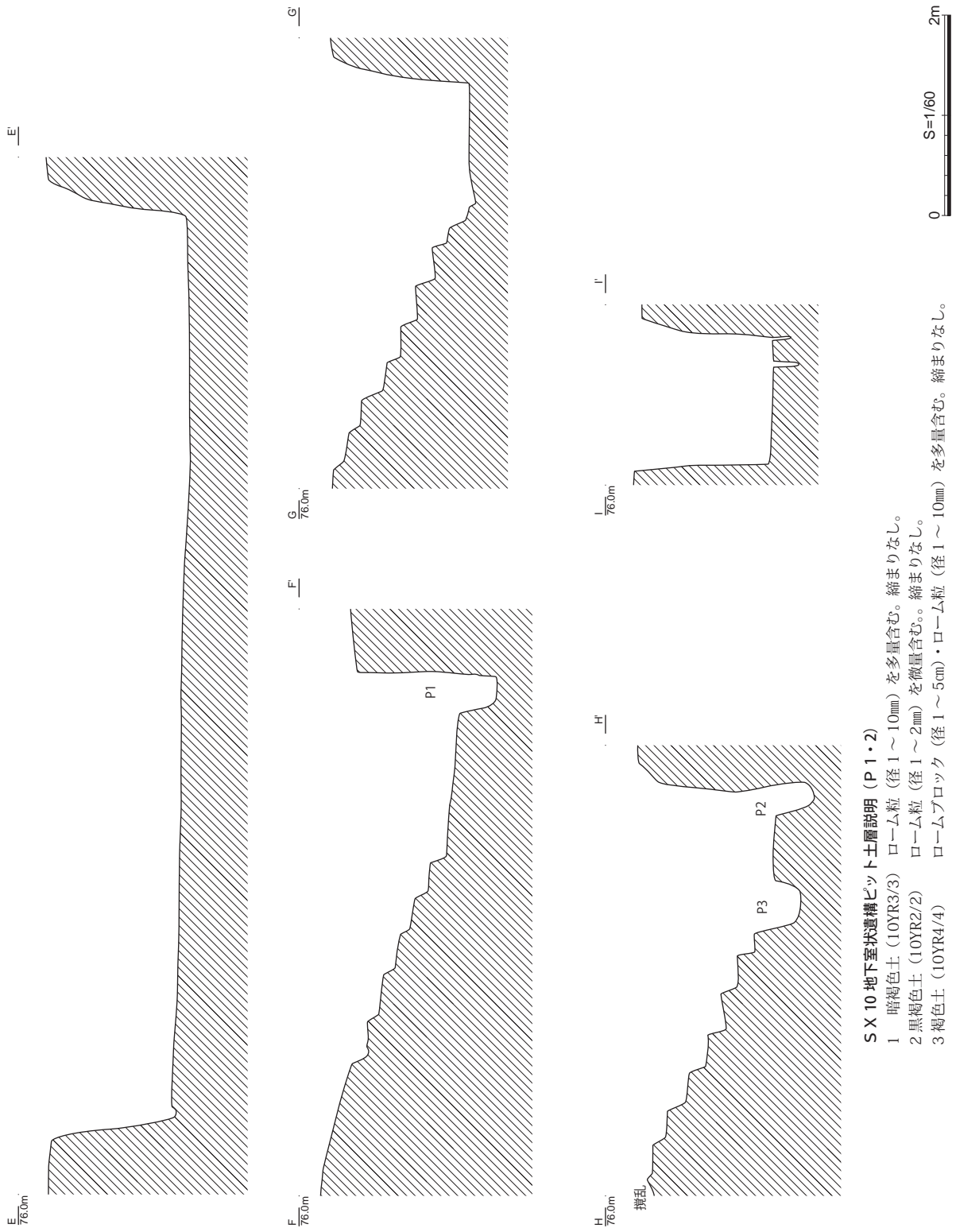
東側調査区西部で確認した。確認面は第 II d 層である。S D 28 溝状遺構を壊している。平面は楕円状のやや歪んだ長方形で、規模は長軸 5.15m、短軸 1.15m、深さ 1.1m で、坑底付近は第 V 層にまで達している。東西方向に作られており、長軸方向は N-85°-W である。東西両端に開口部があり、それぞれに緩やかな階段が 2 段敷設されている。南北両壁際に径 20×40cm、深さ 25cm 程の小穴が、北壁に 4 本、南壁に 3 本、約 30cm 間隔で設けられている。天井を支える柱穴であろうか。南北の壁は底面から急角度で立ち上がる。底面は平坦である。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。



SX 10 地下室遺構土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 多量のロームブロック (径1~18cm)・ローム粒 (径1~10mm) が偏在する。縮まりなし。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径1~10mm) が偏在する。縮まりややあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 多量のローム粒 (径1~10mm) が偏在する。。縮まりなし。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1~2mm) を少量含む。縮まりややあり。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径5~10mm) を少量含む。縮まりなし。
- 6 黄褐色土 (10YR5/6) ロームの再堆積。縮まりなし。
- 7 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径1~2mm) を微量含む。縮まりなし。
- 8 褐色土 (10YR4/4) 多量のロームブロック (径1~10mm) を含む。縮まりなし。

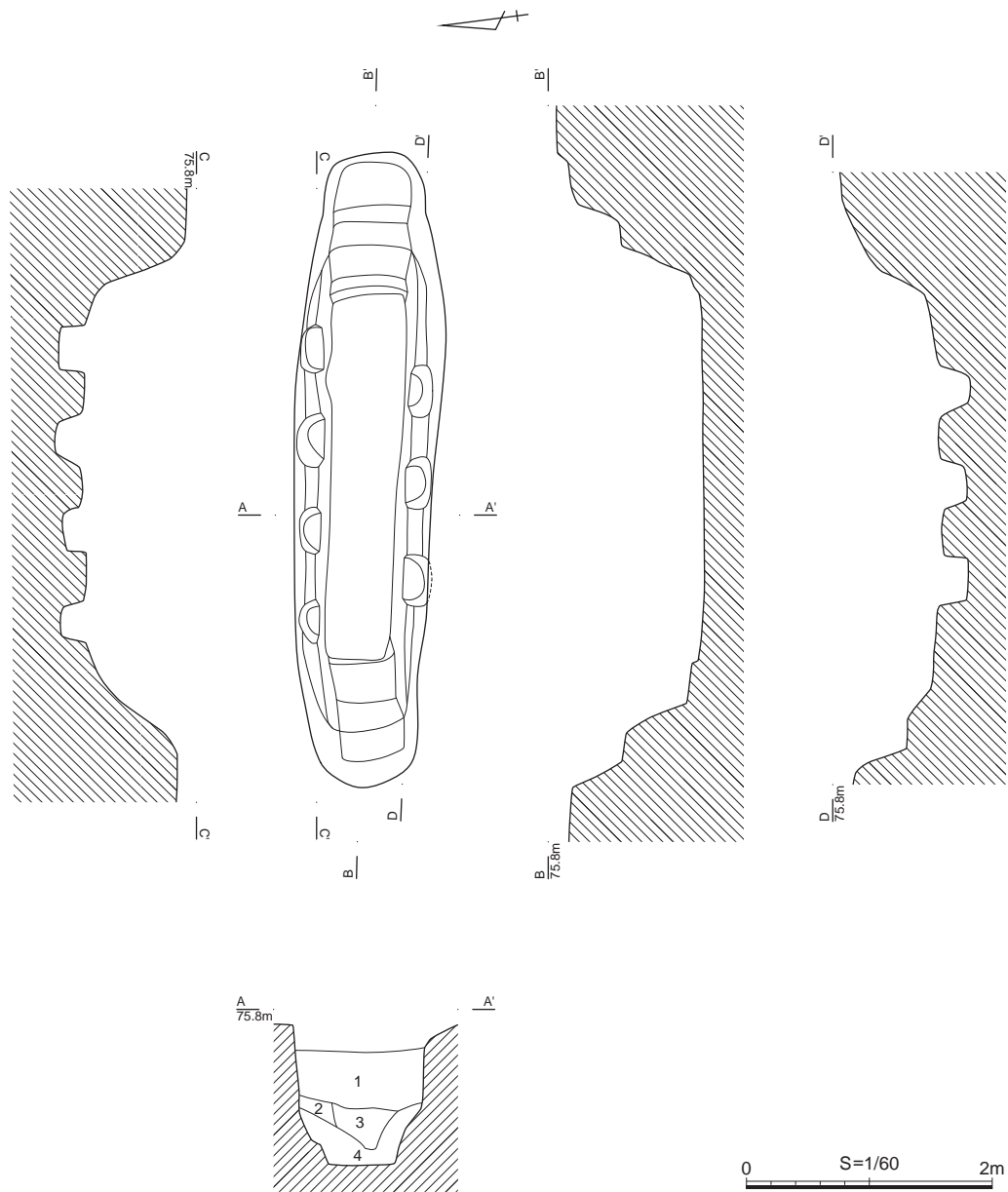
第154図 SX 10 地下室遺構 (1)



SX 10 地下室状遺構ビット土層説明 (P 1・2)

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径 1～10mm) を多量含む。締まりなし。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒 (径 1～2mm) を微量含む。締まりなし。
- 3 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック (径 1～5cm)・ローム粒 (径 1～10mm) を多量含む。締まりなし。

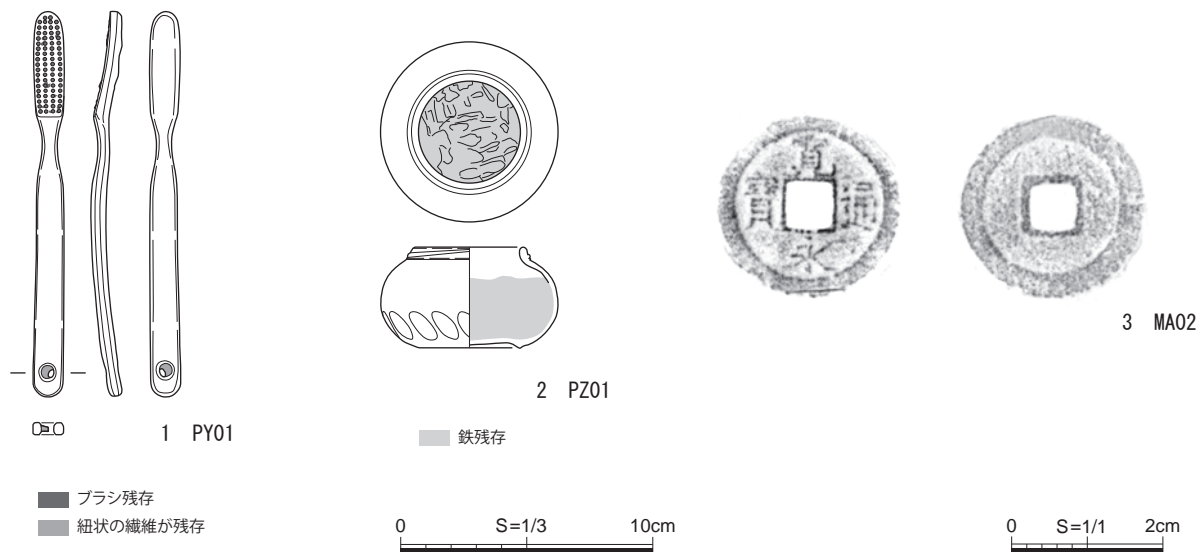
第 155 図 SX 10 地下室状遺構 (2)



S X 11 地下室状遺構土層説明

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック (径 1 ~ 5cm) を少量含む。締まり弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック (径 2 ~ 3cm) を少量含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) ロームブロック (径 2 ~ 3cm) が僅かに混在する。締まり弱い。
- 4 黄褐色土 (10YR4/6) ロームブロック (径 2 ~ 5cm) が多く混在する。締まり弱い。

第 156 図 S X 11 地下室状遺構



第157図 SX6・7・8地下室状遺構出土遺物

第63表 SX6・7地下室状遺構出土遺物観察表

掲載番号 挿入番号 図版番号	出土位置・ 層位	材質	器種	遺存度	釉色 / 絵付	法量 (cm)				重量 (g)	主な文様 / 形態	備考	産地
						口径	底径	器高	最大径				
1 PY01 157-1 68-2-1	SX6 覆土	プラス チック	歯ブラ シ	完形	-/-	長さ 15.8	幅 1.2	高さ 0.7	-	10.2		毛孔数74、柄穿孔径 0.7cm、毛残存、柄の孔 部に紐状の繊維残存。	近代以 降
2 PZ01 157-2 68-2-2	SX7 覆土下層	ガラス	瓶	完形	-/-	4.3	4.0	4.0	-	167.6	外面：文様あり	緑色・半透明、内側に鉄 が充填されている。重量 は鉄も含む。	近代以 降

第64表 SX8地下室状遺構出土金属製品観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	出土位置・ 層位	材質	種別	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				径	穿孔径	厚さ		
3 MA02 157-3 68-2-3	SX8 覆土下層	銅	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.6	新寛永通寶、寛文8年(1668年初鑄)

(5) 不明遺構

SX100～103不明遺構(第158・159図、図版50-7・8・51-1～3)

東側調査区で位置づけが不明な遺構が4基確認された。いずれも遺構確認では攪乱と想定していたものである。SX100・101・103は同じ形態を呈するが、所属時期や用途は不明である。SX102不明遺構は戦時中の防空壕或いは特殊遺構の可能性が考えられる。

SX100不明遺構(第158図、図版50-7)

東側調査区W-53グリッドに位置する。遺構周辺は第II層が消失しているため、確認面は第III層である。平面形は径95cmの略円形で、深さ74cmを測る。底面は25cm程オーバーハンクしている。壁は急角度で立ち上がる。底面は中央がやや盛り上がる。遺物は含まない。

S X 101不明遺構 (第158図、図版50-8)

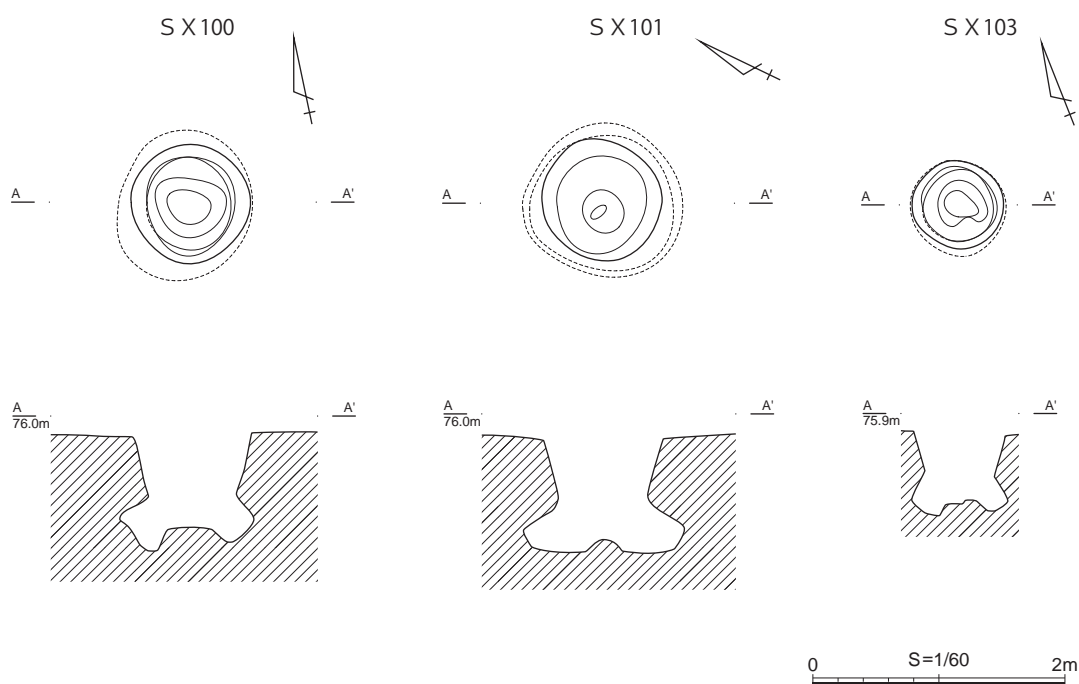
東側調査区U・V-51グリッドに位置する。遺構周辺は第Ⅱ層が消失しているため、確認面は第Ⅲ層である。平面形は径95cmの楕円形で、深さ90cmを測る。底面は30cm程オーバーハングしている。壁は急角度で立ち上がる。底面は中央が盛り上がる。S X 100不明遺構に隣接する。遺物は含まない。

S X 102不明遺構 (第159図、図版51-1・2)

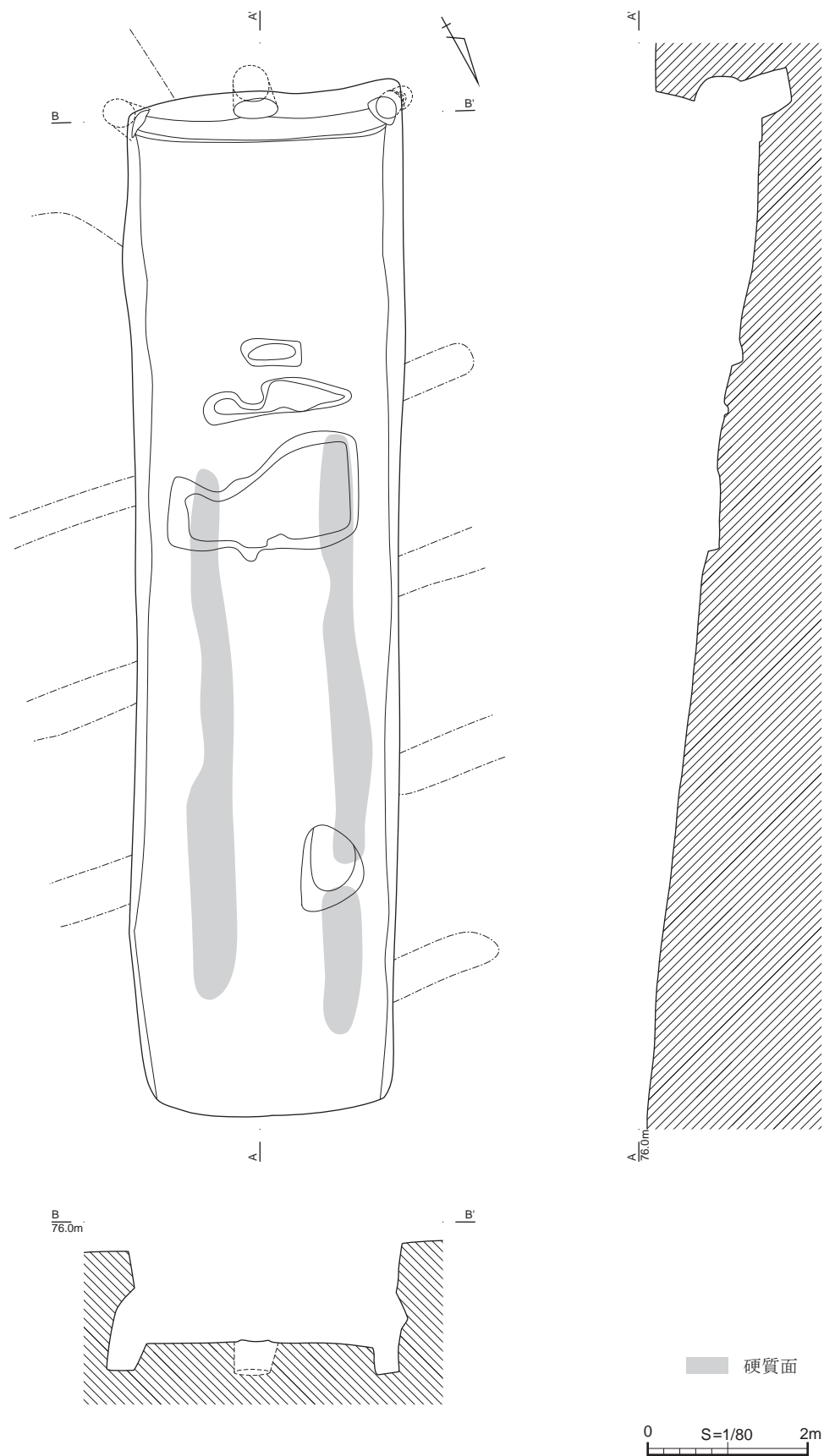
東側調査区S X 103不明遺構の北西に位置する。確認面は第Ⅱd層である。S D 27・28溝状遺構を壊している。平面形は隅丸長方形で、長さ12.8m、幅3.24m、深さ1.28mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、南方向に緩やかに傾斜している。底面に4ヶ所浅い窪みがある。2条の帯状に硬質面が認められた。長さ6.6～7.6m、幅0.45～0.6mである。遺構は南北方向に作られており、長軸方向はN-28°-Eである。南壁面には縦坑が3箇所設けられている。縦坑の間隔は1.2m程で、縦坑の開口部は高さ72～84cm、幅32～52cm、深さ32cm程である。形態から戦時中に構築され使用された防空壕か掩体壕の可能性が考えられるが、詳細は不明である。遺物は含まない。

S X 103不明遺構 (第158図、図版51-3)

東側調査区M・N-56グリッドに位置する。確認面はⅡd層である。平面形は径70cmの略円形で、深さ55cmを測る。底面は20cm程オーバーハングしている。壁は急角度で立ち上がる。底面は中央が盛り上がる。遺物は含まない。



第 158 図 S X 100・101・103 不明遺構

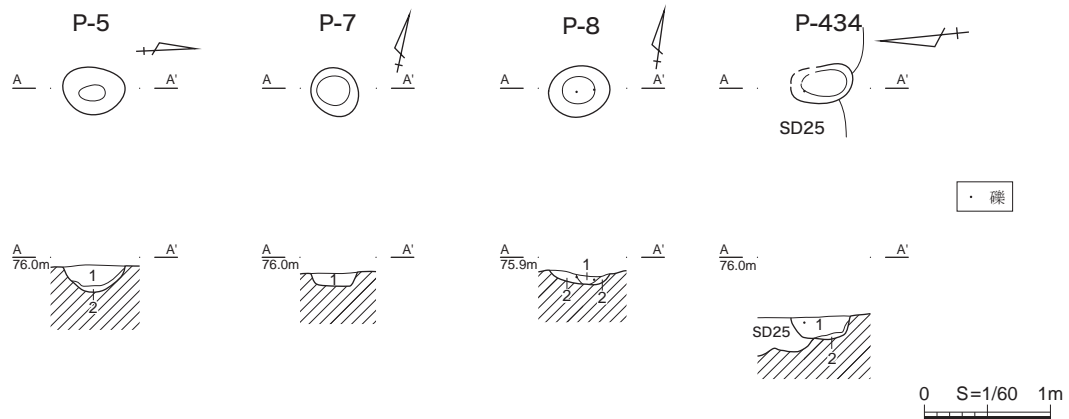


第 159 圖 SX 102 不明遺構

(6) 小穴

P-5・7・8・434小穴（第160図、第65表）

中世以降に属すると思われる小穴は、調査区全体で4基を確認した。規模は径40～50cmで、深さ10～28cm程の浅いものである。いずれも第Ⅱc層以下に掘り込まれた小穴で、第Ⅱb層などの黒褐色土を主体覆土とする。P-5・7・8小穴は西側調査区で見つかっている。東側調査区で確認されたP-434小穴はSD25溝状遺構を壊している。覆土に遺物は含まず、礫が僅かに混入する。



P-5・8・434 土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 赤色スコリア粒・ローム粒 (径1～2mm) を少量含む。締まりあり。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) 1層にロームブロック (径1～2cm) を多量含む。締まりあり。

P-7 土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 赤色スコリア粒・ローム粒 (径1～2mm) を少量含む。締まりあり。

第160図 P-5・7・8・434小穴

第65表 中世以降小穴一覧表

遺構名	調査位置	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺物				重複関係	備考
								土器	石器	礫	その他		
P-5	N-5	N-6	0.5	0.37	0.20	楕円形	凹レンズ形						
P-7	L-8	L-8	0.40	-	0.10	円形	筒状						
P-8	K-10	K-10	0.48	0.40	0.10	楕円形	皿状			2			
P-434	L-48	L-48	0.50	0.30	0.28	楕円形	凹レンズ形			1		SD25<	

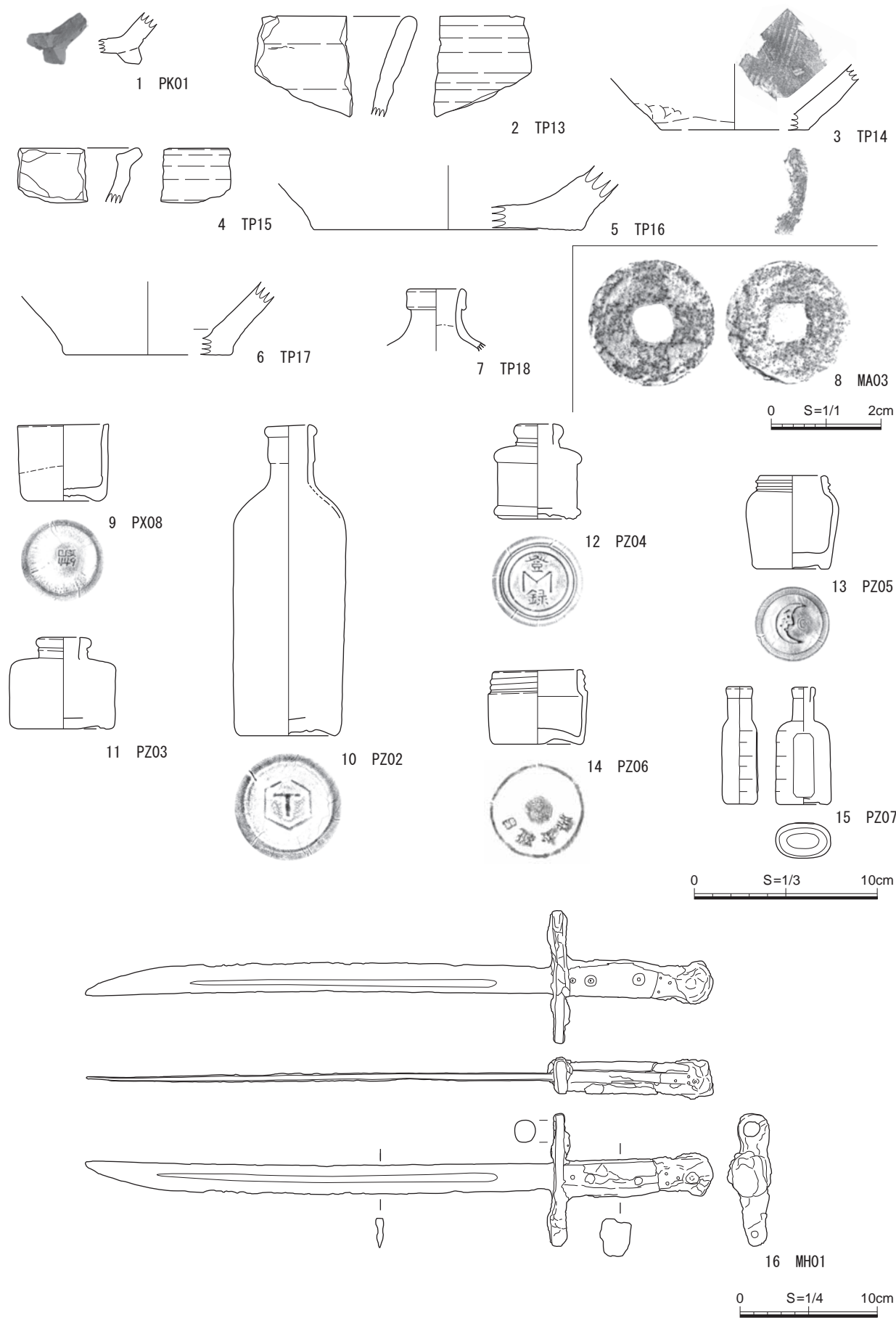
2. その他の遺物

ここでは、攪乱や盛土など遺構以外から出土した遺物を図示し、説明する。尚、S X 12は遺構確認では「ごみ穴」と想定して攪乱扱いにしたものであるが、出土遺物を図示するにあたって遺構名を付与した(第161図、第66・67表、図版69-1~16)。

中世以降の遺物の分類については、「全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(2005)、「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』NO. 2 日本貿易陶磁研究会(1982)、江戸陶磁土器研究グループ『江戸陶磁土器・土器の諸問題Ⅰ』(1992)、江戸陶磁土器研究グループ『江戸陶磁土器・土器の諸問題Ⅱ』(1996)、「近世幣制の成立」『図録日本の貨幣第2巻』(1973)、「近世幣制の展開」『図録日本の貨幣第3巻』(1974)、『日本の軍用銃と装具』(1995)の各文献を引用・参考にした。

1は9世紀中頃の須恵器で、椀の高台部である。2は12世紀の信楽産の陶器で、捏鉢の口縁部片である。胎土中に長石を多く含む。3は16～17世紀の瀬戸・美濃産の陶器で、擂鉢の底部片である。内面の擂目は摩耗している。4は瀬戸産の陶器で、古瀬戸の深皿の口縁部片である。5は14世紀の常滑産の陶器で、甕の底部片である。6は15世紀の常滑産の陶器で、捏鉢の底部片である。7は18～19世紀の瀬戸・美濃産の陶器である。高田徳利形の徳利の口縁部片である。8は元豊通寶で、元豊元年(1078年)初鑄である。

9から16はS X 12ごみ穴から出土した近代以降の遺物である。明治・大正期から昭和期にかけてのもので、銃剣が廃棄されていることから、ごみ穴は太平洋戦争後に掘削され、廃棄されたものと推測される。9は岐阜産の磁器で、筒形の容器である。完形品で底面に「岐449」の印がある。10は青色半透明のガラス瓶である。完形品で底面に「T」の印がある。11は緑色半透明のガラス瓶である。インク瓶の完形品である。12は青色半透明のガラス瓶である。完形品で底面に「登M録」の印がある。明治2年(1869年)創業の丸善雄松堂株式会社製のインク瓶である。内側にコルクが残存する。13は黒色不透明のガラス瓶である。完形品で底面に「月マーク・C」の印がある。明治20年(1887年)創業の花王株式会社製の化粧瓶で、本品は大正期のものである。14は緑色半透明のガラス瓶である。完形品で底面に「日靴塗聯」の印がある。昭和3年(1928年)創業の株式会社ライカ製の靴クリーム瓶である。15は無色透明のガラス瓶である。薬瓶の完形品である。16は銃剣である。1890年代に開発・採用された三十年式銃剣で、太平洋戦争終戦まで日本軍の主力銃剣として使用されたものである。全長45.8cm、刃長34.4cm、重量413.3gである。刃身は先細りの形状で、両面に彫溝が彫られている。柄を握った際に指が当たる部分は曲線的となり、角も丸められている。刃は全体的に欠けており、遺存状態は良くない。先端部分を見ると刃付けがされていないことから教練用だった可能性がある。



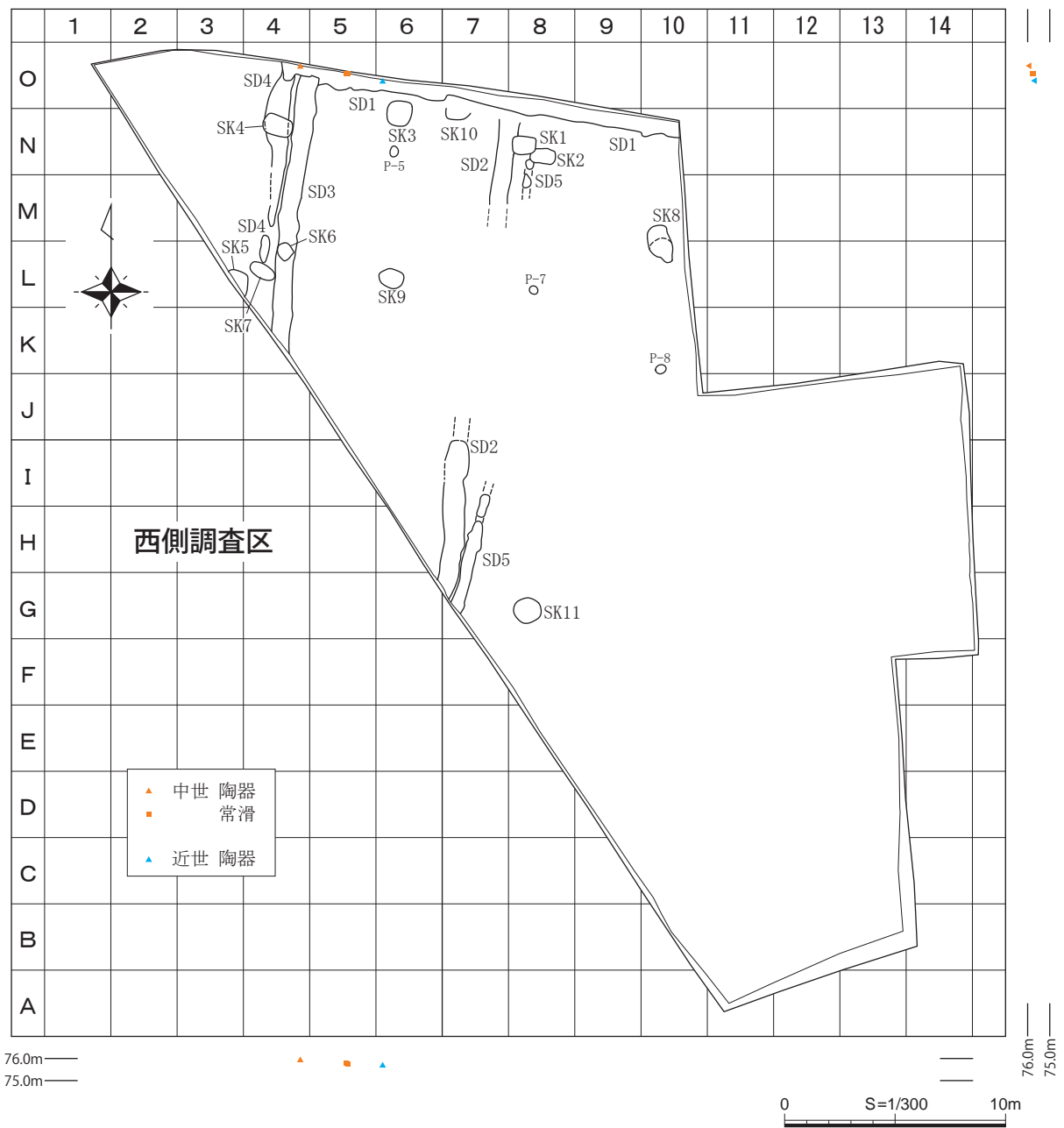
第 161 図 遺構外出土遺物

第 66 表 遺構外出土遺物観察表

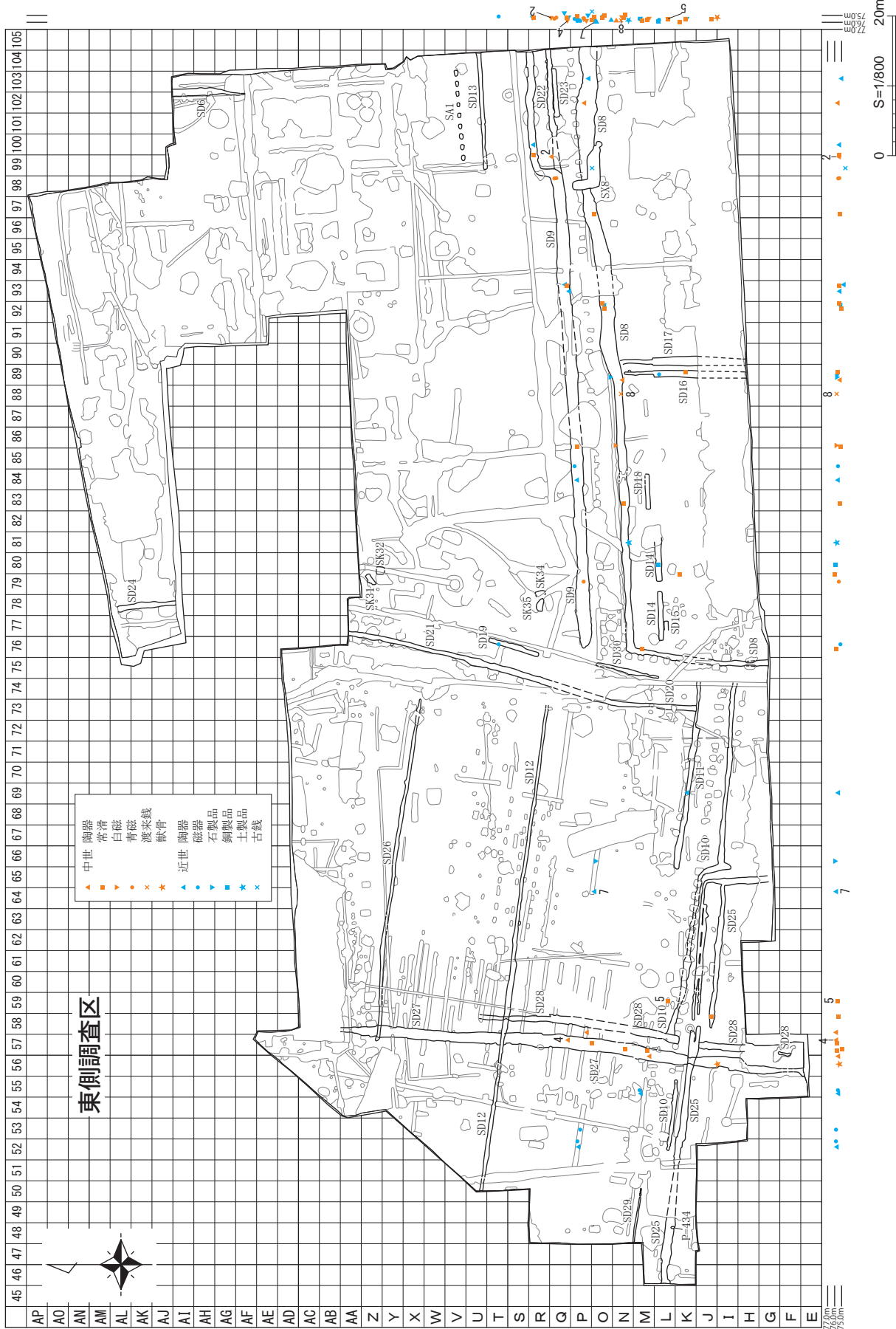
掲載番号 挿図番号 図版番号	出土位置・ 層位	材質	器種	遺存度	釉色 / 絵付	法量 (cm)				重量 (g)	主な文様 / 形態	備考	産地
						口径	底径	器高	最大径				
1 PK01 161-1 69-1-1	東側調査区 II c 層	須恵器	椀	底部		-	-	-	-			ロクロ 9世紀中頃	
2 TP13 161-2 69-1-2	Q-99 攪乱	陶器	捏鉢	口縁部 片		-	4.4	[5.5]	-	47.6		輪積み、ナデ、胎土色： 灰色、胎土中に長石が多 含 13世紀	常滑
3 TP14 161-3 69-1-3	東側調査区 攪乱	陶器	擂鉢	底部片	外面：鉄釉・内面： 鉄釉／-	-	(8.0)	[3.6]	-	55		ロクロ、内面擂目、擂目 摩耗 16～17世紀	瀬戸・ 美濃
4 TP15 161-4 69-1-4	Q-57 攪乱	陶器	深皿	口縁部 片	外面：灰釉・内面： -/-	-	-	[3.0]	-	17.2		ロクロ、胎土色：灰色 古瀬戸	瀬戸
5 TP16 161-5 69-1-5	L-59 攪乱	陶器	甕	底部片		-	(14.7)	[3.5]	-	131.6		輪積み、胎土色：灰色 14世紀	常滑
6 TP17 161-6 69-1-6	東側調査区 攪乱	陶器	捏鉢	底部片	外面：-・内面： 自然釉／-	-	(9.1)	[4.0]	-	57.7		輪積み、胎土色：赤褐色 15世紀	常滑
7 TP18 161-7 69-1-7	O-64 攪乱	陶器	徳利	口縁部 片	外面：灰釉・内面： -/-	2.9	-	[3.4]	-	11.1	高田徳利形	ロクロ、胎土色：灰色 18世紀末～19世紀	瀬戸・ 美濃
9 PX08 161-9 69-1-9	I-55・56 攪乱 (SX12)	磁器	容器	完形	外面：透明釉・内 面：透明釉／-	5.0	3.9	4.2	-	61.2	筒形	型、型押、胎土色：白色、 「岐 449」印	岐阜
10 PZ02 161-10 69-1-10	I-55・56 攪乱 (SX12)	ガラス	瓶	完形		2.3	5.2	16.9	-	205.2		青色・半透明、底部：六 角形に「T」印	
11 PZ03 161-11 69-1-11	I-55・56 攪乱 (SX12)	ガラス	瓶	完形		2.1	5.0	5.0	-	88.8		緑色・半透明、インク瓶	
12 PZ04 161-12 69-1-12	I-55・56 攪乱 (SX12)	ガラス	瓶	完形		1.8	3.9	5.2	-	62.6		青色・半透明、内側にコ ルク残存、底部：○に「登 M録」印、丸善のインク 瓶	
13 PZ05 161-13 69-1-13	I-55・56 攪乱 (SX12)	ガラス	瓶	完形		3.5	3.9	5.1	-	91.3		黒色・不透明、底部：「月 マーク・C」印、花王の 化粧瓶、大正期	
14 PZ06 161-14 69-1-14	I-55・56 攪乱 (SX12)	ガラス	瓶	完形		4.7	4.7	4.0	-	77.8		緑色・半透明、底部：「日 靴塗聯」印、ライカ靴ク リーム	
15 PZ07 161-15 69-1-15	I-55・56 攪乱 (SX12)	ガラス	瓶	完形		0.9	2.6	6.4	-	19.0		無色・透明、薬瓶	

第 67 表 遺構外出土金属製品観察表

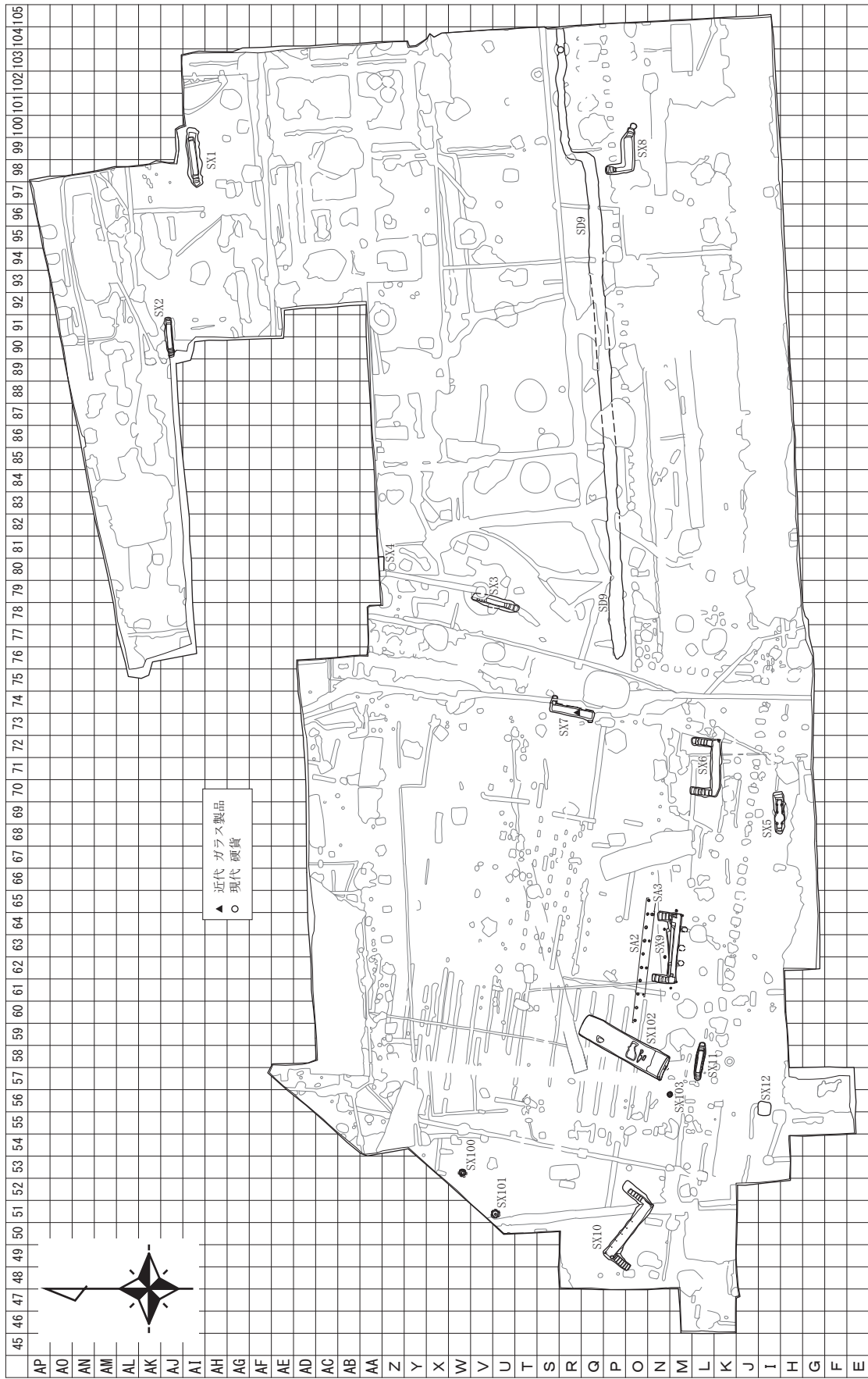
掲載番号 図面番号 図版番号	出土位置・ 層位	材質	種別	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				全長	幅	厚さ		
8 MA03 161-8 69-1-8	N-88 盛土	銅	元豊通寶	径 2.3	穿径 0.6	0.2	2.6	元豊元年 (1078年初鑄)
16 MH01 161-16 69-1-16	I-55・56 攪乱 (SX12)	鋼鉄	銃剣	45.8 (刃長 34.4)	9.7	2.2	413.3	三十年式銃剣



第 162 図 中世以降遺物分布図（西側調査区）



第 163 図 中世以降遺物分布図 (東側調査区)



第 164 図 近現代遺物分布図 (東側調査区)

第5章 自然科学分析

第1節 炭化物のAMS年代測定と樹種同定

1.炭化材の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadze・黒沼保子

(1) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第68表のとおりである。旧石器時代の試掘坑TP50(第VII層)から出土した炭化材No.769(PLD-36838)と、縄文時代のSS6集石土坑の覆土から出土した炭化材No.3566(PLD-36839)の、合計2点である。どちらも最終形成年輪は残存しておらず、部位不明であった。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

第68表 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-36838	遺構: TP50 遺物 No.769	種類: 炭化材(カバノキ属) 試料の性状: 最終形成年輪以外、部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-36839	遺構: SS6 遺物 No.3566	種類: 炭化材(クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外、部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)

(2) 結果

第69表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、第165図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代(yrBP)の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal4.3（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第 69 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-36838 TP50 No.769	-25.45 \pm 0.21	25773 \pm 87	25770 \pm 90	28241-27816 cal BC (68.2%)	28415-27631 cal BC (95.4%)
PLD-36839 SS6 No.3566	-28.47 \pm 0.18	4489 \pm 23	4490 \pm 25	3331-3264 cal BC (31.2%) 3245-3215 cal BC (13.9%) 3185-3157 cal BC (12.3%) 3126-3101 cal BC (10.8%)	3339-3206 cal BC (57.4%) 3196-3095 cal BC (38.0%)

(3) 考察

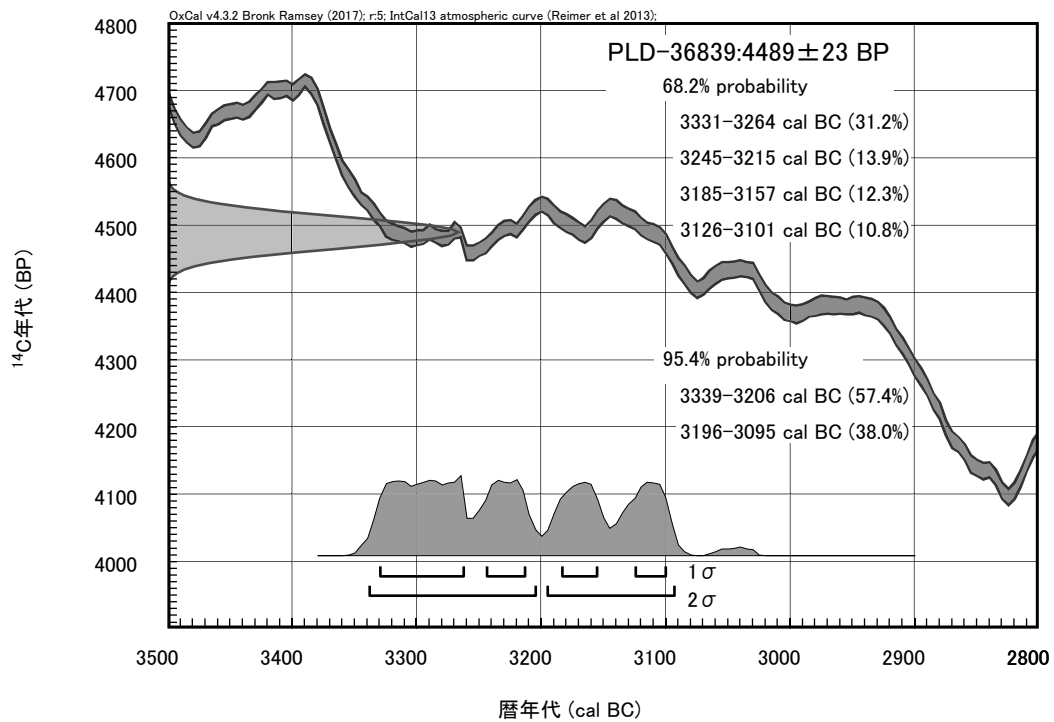
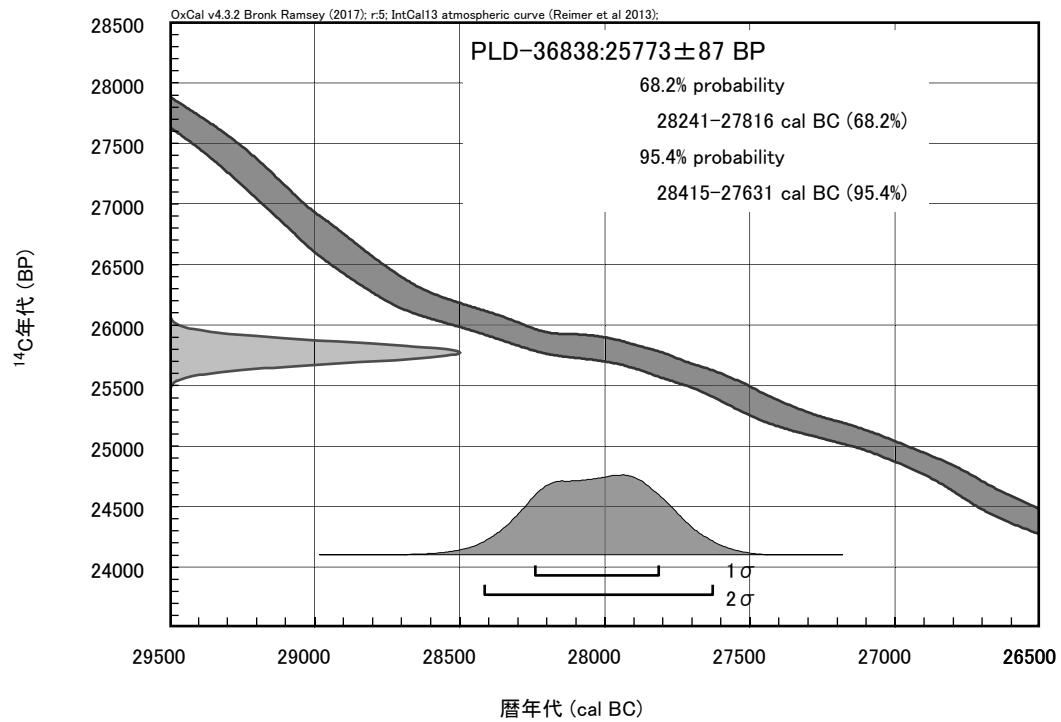
以下、各試料の暦年較正結果のうち 2σ 暦年代範囲（確率95.4%）に着目して、遺構ごとに結果を整理する。なお、縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係については小林（2017）を参照した。

TP50から出土した炭化材No.769（PLD-36838）は、28415-27631 cal BC（95.4%）であった。これは、後期旧石器時代後半に相当する暦年代であり、推定時期である旧石器時代に対してやや新しい。

SS6集石土坑から出土した炭化材No.3566（PLD-36839）は、3339-3206 cal BC（57.4%）および3196-3095 cal BC（38.0%）であった。これは、縄文時代中期前半に相当する暦年代であり、遺構の推定時期である縄文時代に対して整合的である。

引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1), 337-360.
- 小林謙一（2017）縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代—。263p, 同成社。
- 中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」：3-20, 日本第四紀学会。
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.



第 165 図 曆年較正結果

2. 炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

（1）試料と方法

試料は、旧石器時代の試掘坑 T P 50（第Ⅶ層）と縄文時代の S S 6 集石土坑の覆土から出土した炭化材が各 1 点で、合計 2 点である。年代測定の結果、T P 50 出土の炭化材は後期旧石器時代の後半、S S 6 集石土坑出土の炭化材は縄文時代中期前半に相当する暦年代範囲を示した。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径 1cm の真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

（2）結果

樹種同定の結果、T P 50 から出土した炭化材は広葉樹のカバノキ属であった。また、縄文時代の S S 6 集石土坑から出土した炭化材は広葉樹のクリであった。結果を第 70 表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を示す。

第 70 表 樹種同定結果

遺構名	資料 No.	樹種	形状	年代測定番号
旧石器試掘坑 TP50	769	カバノキ属	破片	PLD-36838
縄文時代 SS6 集石土坑	3566	クリ	破片	PLD-36839

1) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 写真 1 a- 1 c (SS6 No.3566)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

2) カバノキ属 *Betula* カバノキ科 写真 2 a- 2 c (TP50 No.769)

やや小型で丸い道管が、ほぼ単独でまばらに分布する散孔材である。道管の穿孔は 10 ～ 20 段程度の階段状である。放射組織はほぼ同性で、1 ～ 3 列幅である。道管相互壁孔は交互状で極めて小さく、密に分布する。

カバノキ属は温帯から亜寒帯に分布する落葉高木もしくは低木で、カバノキやミズメなど 11 種がある。材は全般的にやや重厚で、切削および加工は中庸である。

(3) 考察

旧石器時代の試掘坑TP50から出土した炭化材は、カバノキ属であった。年代測定の結果では後期旧石器時代の後半に相当する暦年代を示した。工藤（2012）によると、この暦年代は環境史の分類でMIS 3のEarly Cold（約38000～28000 cal BP）に相当する。この時期は寒冷化が進行し、関東平野ではカバノキ属やマツ属単維管束亜属などの冷温帯性落葉樹と亜寒帯性針葉樹の混交林が成立していたと推測されている（工藤，2012）。今回のカバノキ属の出土は、このような環境史とも整合的である。

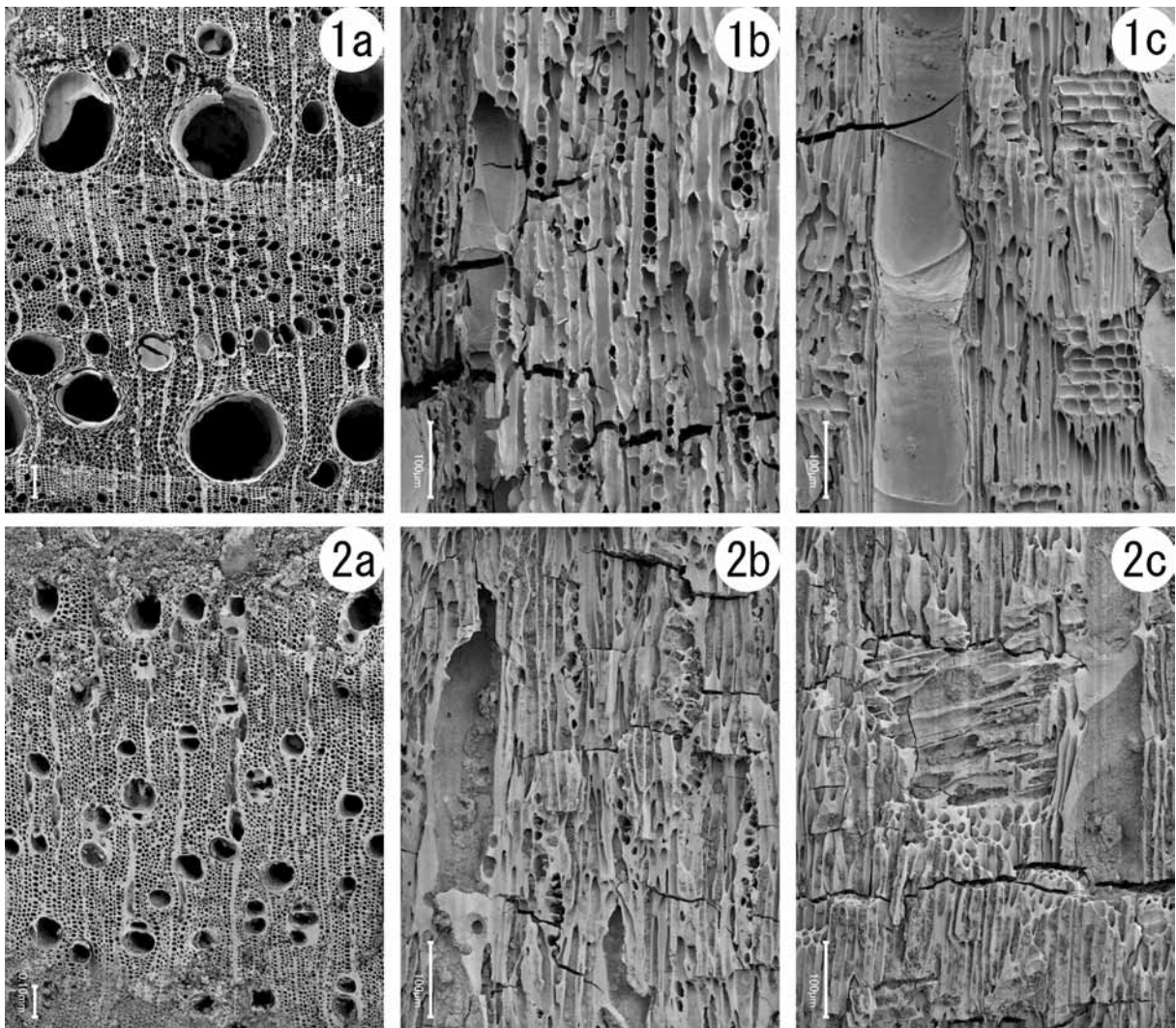
縄文時代のSS6集石土坑から出土した炭化材は、クリであった。年代測定の結果では縄文時代中期前半に相当する暦年代を示した。日本列島において、クリは縄文時代早期から利用が確認されているが、特に東日本では縄文時代中期以降に利用が増加する傾向があり（伊東・山田編，2012）、今回出土したクリも、この傾向に対して整合的である。SS6は集石土坑であり、確認されたクリは燃料材などの可能性がある。

引用・参考文献

平井信二（1996）木の太百科．394p，朝倉書店．

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—．449p，海青社．

工藤雄一郎（2012）旧石器・縄文時代の環境文化史．376p，新泉社．



炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クリ (SS6 No.769)、2a-2c. カバノキ属 (TP50 No.35566)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

第2節 蛍光X線分析を用いた黒曜石の原産地推定

三浦麻衣子（帝京大学文化財研究所）・二宮修治（東京学芸大学）
林 徹（国際基督教大学）

（1）分析資料

本分析に供した羽根沢遺跡第6・8次発掘調査より出土した黒曜石は、計115資料である。第71表に遺物No.、層位、遺構名、TP名（旧石器試掘坑）、時代、器種、石質についての記載を示した（遺物No.順に示してある）。資料が微小な個体であったため資料No.羽根沢085（遺物No.4660）を分析から除いた。なお、分析No.羽根沢076（遺物No.4620）は3個体が確認されたが同一個体と判断されたので最も大きな破片を分析に供した。最終的に合計114個体の分析を行った。本遺跡第6・8次調査出土黒曜石の母岩分類の結果を層序、所属遺構、その特徴等を第72表にまとめて示す。

（2）分析方法

2-1. 蛍光X線分析

黒曜石の化学組成の分析には、エネルギー分散型蛍光X線分析を用い、非破壊・非接触で測定を行った。分析条件を以下に示す。

分析装置には、日立ハイテクサイエンス製微小部エネルギー分散型蛍光X線分析装置SEA-5120Sを用いた。X線源ターゲットはモリブデン（Mo）である。管電圧45kV、管電流16~52 μ A、照射径1.8mm ϕ 、測定試料室雰囲気 大気、測定時間180秒である。測定に際しては機器内蔵CCDカメラ画像により試料表面を観察し、X線照射範囲をなるべく平滑で、水和等の劣化が認められない面とすることを心がけた。測定元素は、黒曜石の主成分元素である鉄（Fe）、カルシウム（Ca）、カリウム（K）の3元素と、この主成分元素と挙動に相関性のある微量成分元素のマンガン（Mn）、ストロンチウム（Sr）、ルビジウム（Rb）の3元素、計6元素である。これらの6元素は、黒曜石の産地間の識別・分類に特に有効であり、産地分析の指標元素となることから、筆者らは東日本の黒曜石の産地分析に有効であることを示してきた（建石ほか2011など）。本研究においてもこの6元素について定量分析を行い、装置内蔵のプログラムによるファンダメンタルパラメーター（FP）法によって6元素の酸化物（MnO、FeO、SrO、CaO、Rb₂O、K₂O）の和が100になるように規格化した。1資料について1~3箇所を測定し、3箇所の場合は平均値を分析値とした。

さらに、同一測定条件で関連する原産地黒曜石資料（小深沢、星ヶ塔A、星ヶ塔B、高原山、畑宿）、標準岩石（JR-1、和田峠産黒曜石）についても蛍光X線分析を行った。

産地分析のための基準資料として、栃木県高原山、長野県小深沢・男女倉・星ヶ塔・麦草峠、神奈川県畑宿、静岡県上多賀・柏峠、東京都神津島、新潟県板山、山形県月山、11か所の原産地黒曜石を使用した。各原産地黒曜石の分析値（代表値）を第73表に示す。

2-2. データ解析

遺跡出土黒曜石資料の分類と産地分析のために、クラスター分析を行った。クラスター分析にはIBM社製SPSS Statistics 23を使用した。距離尺度には標準化ユークリッド平方距離、分類手法にはWard法を選択し、Z得点で標準化した。分析の変数には測定6元素を用いた。

クラスター分析には、分析資料全点と上記の産地基準資料群を用い、両者の分類結果から大まかな原産地を推定した。さらに、東日本の主な原産地黒曜石資料11か所（第73表）と羽根沢遺跡第6・8次調査出土黒曜石資料1点ごとのクラスター分析を行い、その併合関係、併合距離から原産地を推定した。

分析資料全点と個別資料とのクラスター分析によっても、原産地の識別が明確にならない場合は、各原産地に分類された資料のみを選び、再度、原産地資料とクラスター分析を行うことで、より明確な産地推定を行った。

(3) 結果と考察

蛍光X線分析により同一測定条件での原産地黒曜石資料（小深沢、星ヶ塔A、星ヶ塔B、高原山、畑宿）、標準岩石（JR-1、和田峠産黒曜石）の分析結果を第74表に示す。東日本の主な原産地黒曜石資料11か所（第73表）と極めて良い一致が確認でき、本法による黒曜石の原産地推定の信頼性が得られた。

蛍光X線分析による羽根沢遺跡第6・8次調査出土黒曜石の6元素の分析結果とクラスター分析による原産地推定の最終的な結果（推定産地）を第75表に示してある。

羽根沢遺跡第6・8次調査出土黒曜石資料のクラスター分析の結果をデンドログラムとして第166図に示す。原産地に対応すると思われる4個のクラスターに分類された。

さらに、羽根沢遺跡第6・8次調査出土黒曜石資料115点の分析値（第71表）に東日本の主な原産地黒曜石資料11か所（第73表）を加えてクラスター分析を行った。その結果を第167図に示す。大きく4グループに分類され、第一クラスターには畑宿、第二クラスターには柏峠、上多賀、高原山、第三クラスターには小深沢、第四クラスターには星ヶ塔、板山、男女倉、神津島、麦草峠、月山（ここでは、星ヶ塔と神津島が同一クラスターを形成している）が含まれている。個々のクラスターに含まれた原産地がそれらのクラスターの原産地である可能性が高いと考えることができる。

羽根沢遺跡第6・8次調査出土黒曜石資料114点について、1点ごとに東日本の主な原産地黒曜石資料11か所（第73表）とのクラスター分析による原産地推定を行った。そのクラスター分析による結果の一例をデンドログラムで、推定された原産地（畑宿、柏峠、神津島、小深沢、星ヶ塔）ごとに、それぞれ第168～172図に示す。

これらの検討結果を踏まえて、最終的な羽根沢遺跡出土黒曜石の産地分析の結果を第75表に示す。今回、分析に供した羽根沢遺跡第6・8次調査出土黒曜石資料114点は、箱根・畑宿59点、伊豆・柏峠48点、神津島3点、和田峠・小深沢3点、下諏訪・星ヶ塔1点であった。推定原産地ごとに化学組成の特徴を第76表、層位順の推定原産地の内訳を第77表に示す。

国分寺市羽根沢遺跡第6・8次調査出土黒曜石資料の原産地推定の結果の一覧表を第78表にまとめて示す。時間の経過とともに、黒曜石の原産地の主体が箱根・畑宿から始まり、伊豆・柏峠に移行して行く様相を見ることができた。第Ⅶ層1点、第Ⅸa層2点の出土である神津島産黒曜石3点、縄文時代文化層と覆土、第Ⅲ層からの各1点出土した和田峠・小深沢産黒曜石3点、第Ⅴ層からの出土である下諏訪・星ヶ塔産黒曜石1点の存在は、大変興味深い。今後とも周辺遺跡も含め黒曜石の原産地推定を進めていく必要があるものと思われる。とりわけ、隣接する小金井市、小平市との連携を深め、組織的に産地分析を進めていく準備をしている。

さらに、遺跡出土黒曜石の原産地推定を進めるにあたって黒曜石原産地資料の産地分析データベース整備も行っている。今後、黒曜石の原産地データの蓄積を行い、産地分析の精度を上げていく予定である。

参考文献

建石徹・三浦麻衣子・村上夏希・井上優子・朴嘉瑛・津村宏臣・二宮修治 2011「栃木県・群馬県内諸遺跡出土黒曜石の産地分析 - 旧石器時代・縄文時代資料を中心として -」『一般社団法人日本考古学協会2011年度栃木大会研究発表資料集』
日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会

第 71 表 羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石（分析用資料）一覧

分析No	遺物No	層位	遺構名	TP・グリッド名	時代	器種	石質	接合	特記事項
羽根沢 001	27	Ⅲ層		AL-95	旧石器	剥片	Ob-2		
羽根沢 002	281	V層		TP76	旧石器	剥片	Ob-5		
羽根沢 003	372	Ⅶ層	ST4	TP75	旧石器	鋸歯縁石器	Ob-8		
羽根沢 004	373	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	剥片	Ob-8		
羽根沢 005	374	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	剥片	Ob-8		
羽根沢 006	375	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	ナイフ形石器	Ob-8		未成品
羽根沢 007	376	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	チップ	Ob-9		
羽根沢 008	386	Ⅶ層	ST5	TP76	旧石器	ナイフ形石器	Ob-8		
羽根沢 009	387	Ⅶ層	ST5	TP76	旧石器	ナイフ形石器	Ob-8		
羽根沢 010	388	Ⅶ層	ST5	TP76	旧石器	剥片	Ob-8		
羽根沢 011	394	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	剥片	Ob-8		
羽根沢 012	395	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	剥片	Ob-8		調整あり
羽根沢 013	396	Ⅸ層	ST5	TP76	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 014	397	Ⅸ層	ST5	TP76	旧石器	剥片	Ob-8		調整あり
羽根沢 015	543	Ⅶ層	ST2	TP43	旧石器	剥片	Ob-7		
羽根沢 016	546	Ⅸ a 層	ST2	TP43	旧石器	チップ	Ob-7		
羽根沢 017	547	Ⅸ a 層	ST2	TP43	旧石器	剥片	Ob-7		
羽根沢 018	765	V層		TP48	旧石器	剥片	Ob-6		ガジリあり
羽根沢 019	817	覆土	SD20		旧石器	ナイフ形石器	Ob-11		先端欠損
羽根沢 020	874	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 021	875	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 022	876	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 023	877	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 024	878	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 025	879	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 026	880	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 027	881	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	918 と接合	
羽根沢 028	882	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9		
羽根沢 029	883	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 030	884	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9		未成品
羽根沢 032	885	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9		
羽根沢 032	894	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-10		未成品
羽根沢 033	895	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	搔器	Ob-8		
羽根沢 034	897	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 035	898	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	使用剥片	Ob-8		
羽根沢 036	899	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9		
羽根沢 037	900	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9		先端部破片
羽根沢 038	901	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 039	902	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-10		未成品
羽根沢 040	904	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-8		下部破片
羽根沢 041	905	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 042	906	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9		
羽根沢 043	907	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 044	908	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9		未成品
羽根沢 045	909	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		ガジリあり
羽根沢 046	910	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 047	911	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 048	912	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	石核	Ob-9	943 と接合	
羽根沢 049	913	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9		
羽根沢 050	918	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	881 と接合	
羽根沢 116	919	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-8		
羽根沢 051	920	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9		
羽根沢 052	922	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9		
羽根沢 053	923	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 054	924	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 055	925	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 056	926	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9		未成品
羽根沢 057	927	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9		

分析No.	遺物No.	層位	遺構名	TP・グリッド名	時代	器種	石質	接合	特記事項
羽根沢 058	928	IX層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9		
羽根沢 059	929	IX層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		
羽根沢 060	941	IX層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		打面調整
羽根沢 061	942	IX層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9		調整あり
羽根沢 062	943	IX層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	912 と接合	
羽根沢 063	2472	包含層	包含層		縄文	スクレイパー	Ob		未成品
羽根沢 064	4326	IV層	IV層	TP97	旧石器	鋸歯縁石器	Ob-4		
羽根沢 065	4593	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3		
羽根沢 066	4596	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 067	4598	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 068	4599	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 069	4601	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3		
羽根沢 070	4604	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 071	4606	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 072	4616	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 073	4617	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	肖j片	Ob-3		
羽根沢 074	4618	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 075	4619	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 076	4620	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		3点あり・大1点測定
羽根沢 078	4624	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 079	4628	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 080	4631	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 081	4632	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	4683 と接合	
羽根沢 082	4633	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	ナイフ形石器	Ob-3		上部欠損
羽根沢 083	4634	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 084	4658	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 085	4660	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		微小のため計測不能
羽根沢 086	4666	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 087	4671	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	ナイフ形石器	Ob-3		
羽根沢 088	4672	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	4728, 4767 と接合	
羽根沢 089	4683	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	4632 と接合	
羽根沢 090	4684	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 091	4685	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 092	4688	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3		調整あり
羽根沢 093	4697	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 094	4699	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 095	4701	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 096	4703	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 097	4709	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 098	4717	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 099	4723	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		ガジリあり
羽根沢 100	4725	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		調整あり
羽根沢 101	4727	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	ナイフ形石器	Ob-3		
羽根沢 102	4728	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	4672, 4767 と接合	
羽根沢 103	4729	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 104	4736	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 105	4741	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		ガジリあり
羽根沢 106	4743	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 107	4744	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 108	4745	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 109	4746	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3		下部折れ
羽根沢 110	4754	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 111	4761	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3		
羽根沢 112	4764	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3		
羽根沢 113	4767	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	抉入石器	Ob-3	4672, 4728 と接合	
羽根沢 114	4777	Ⅲ～IV層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3		
羽根沢 115	5562	Ⅲ層		TP5	旧石器	剥片	Ob-1		

第 72 表 羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石母岩分類

母岩名	略称	層序	所属遺構	特 徴
黒曜石 1	Ob-1	Ⅲ層	単独	半透明、黒色（赤褐色）、微気泡多、夾雑物多
黒曜石 2	Ob-2	Ⅲ層	単独	半透明、暗灰色、微気泡多、夾雑物有
黒曜石 3	Ob-3	Ⅲ～Ⅳ層	ST7	半透明、暗灰色、クモリ
黒曜石 4	Ob-4	Ⅳ層	単独	半透明、黒色（淡褐色）、灰縞、微気泡多、夾雑物多
黒曜石 5	Ob-5	Ⅴ層	単独	半透明、黒灰褐色、微気泡多、夾雑物多
黒曜石 6	Ob-6	Ⅴ層	単独	透明、黒斑少、夾雑物少
黒曜石 7	Ob-7	Ⅶ～Ⅸ a 層	ST2	半透明、黒灰色、灰縞多（クモリ）
黒曜石 8	Ob-8	Ⅶ～Ⅸ層	ST4 - 6	透明、黒灰褐色、微気泡多、夾雑物多
黒曜石 9	Ob-9	Ⅶ～Ⅸ層	ST4 - 6	不透明、黒色（赤紫）、夾雑物多
黒曜石 10	Ob-10	Ⅶ～Ⅸ層	ST4 - 6	半透明、灰縞、夾雑物多
黒曜石 11	Ob-11	攪乱	SD20	半透明、黒灰色、黒縞、クモリ

第 73 表 東日本の主な黒曜石の原産地の科学組成（6 元素の酸化物の和を 100 として表記）

原産地名	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O
板山	3.6	26.7	0.4	18.5	1.2	49.7
月山	5.0	28.2	0.7	17.6	0.9	47.7
高原山	2.2	45.8	0.7	22.3	0.7	28.4
小深沢	4.5	26.0	0.1	14.1	2.1	53.3
星ヶ塔	3.6	25.3	0.3	13.9	1.1	55.8
男女倉	3.1	29.8	0.5	16.3	1.0	49.2
麦草峠	2.3	31.4	0.9	18.0	0.7	46.7
畑宿	3.2	59.0	1.1	24.6	0.1	12.1
神津島	3.8	32.7	0.6	20.6	0.6	41.6
上多賀	2.7	50.3	1.1	26.2	0.2	19.5
柏峠	2.3	48.1	0.8	24.4	0.4	24.0

第 74 表 今回の分析と同一条件で同時測定した原産地黒曜石と黒曜石標準岩石の分析結果（6 元素の酸化物の和を 100 として表記）

資料 No. (※)	原産地名	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O
84235	高原山	2.3	47.6	0.8	21.9	0.7	26.7
92085	小深沢	4.4	26.1	0.04	14.1	2.1	53.3
92087	小深沢	4.6	26.3	0.03	14.1	2.0	53.0
92167	星ヶ塔 A	5.3	26.8	0.01	13.1	2.5	52.3
92168	星ヶ塔 A	3.5	27.7	0.2	14.8	1.5	52.3
92170	星ヶ塔 B	3.3	25.0	0.3	14.8	1.1	55.6
92171	星ヶ塔 B	3.6	25.2	0.3	14.1	1.1	55.8
92152	星ヶ台 B	3.6	25.2	0.3	13.4	1.2	56.3
92153	星ヶ台 B	3.6	25.1	0.3	13.4	1.1	56.4
82074	畑宿	3.5	59.7	1.1	22.8	0.1	12.8
82075	畑宿	3.4	60.5	1.1	22.7	0.1	12.2
JR-1 標準岩石	和田峠	4.4	27.1	0.09	14.1	1.9	52.4

※ 「東京学芸大学文化財科学研究所の資料 No.」

第 75 表 蛍光 X 線分析の結果・産地分析の結果（推定原産地）
 ー羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石（6 元素の酸化物の和を 100 として表記）

分析No.	遺物No.	石質	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O	推定産地	併合距離	特記事項（併合関係）
羽根沢 001	27	Ob-2	4.4	27.2	0.04	13.9	2.1	52.3	小深沢	0.029	
羽根沢 002	281	Ob-5	3.4	59.8	1.1	22.5	0.16	13.1	畑宿	0.175	
羽根沢 003	372	Ob-8	3.7	61.0	1.1	21.9	0.08	12.4	畑宿	0.763	
羽根沢 004	373	Ob-8	3.2	59.2	1.1	23.4	0.17	13.0	畑宿	0.059	
羽根沢 005	374	Ob-8	3.4	60.5	1.1	22.5	0.11	12.4	畑宿	0.162	
羽根沢 006	375	Ob-8	3.5	59.8	1.1	22.9	0.13	12.6	畑宿	0.144	
羽根沢 007	376	Ob-9	3.7	61.2	1.1	21.9	0.09	12.0	畑宿	0.765	
羽根沢 008	386	Ob-8	3.3	60.2	1.0	22.7	0.18	12.6	畑宿	0.181	
羽根沢 009	387	Ob-8	3.5	60.1	1.1	22.9	0.14	12.3	畑宿	0.146	
羽根沢 010	388	Ob-8	3.0	59.6	0.98	23.4	0.09	12.9	畑宿	0.141	
羽根沢 011	394	Ob-8	3.3	60.6	1.2	22.3	0.15	12.4	畑宿	0.228	
羽根沢 012	395	Ob-8	3.4	59.9	1.1	23.6	0.10	11.9	畑宿	0.057	
羽根沢 013	396	Ob-9	3.1	59.8	1.1	23.3	0.15	12.6	畑宿	0.073	
羽根沢 014	397	Ob-8	3.4	59.3	1.1	23.3	0.14	12.7	畑宿	0.075	
羽根沢 015	543	Ob-7	3.7	33.4	0.6	21.0	0.6	40.8	神津島	0.015	
羽根沢 016	546	Ob-7	3.5	34.8	0.7	19.0	0.5	41.5	神津島	0.226	
羽根沢 017	547	Ob-7	3.6	33.8	0.66	21.1	0.5	40.3	神津島	0.079	
羽根沢 018	765	Ob-6	3.3	29.4	0.2	14.6	1.5	50.9	星ヶ塔	1.306	
羽根沢 019	817	Ob-11	5.4	27.9	0.01	12.3	2.7	51.8	小深沢	2.723	
羽根沢 020	874	Ob-9	3.4	59.9	1.0	23.1	0.07	12.6	畑宿	0.143	
羽根沢 021	875	Ob-9	3.6	60.4	1.1	22.1	0.26	12.5	畑宿	0.361	
羽根沢 022	876	Ob-9	3.5	60.2	1.1	22.9	0.09	12.3	畑宿	0.146	
羽根沢 023	877	Ob-9	3.6	62.1	1.2	21.8	0.12	11.3	畑宿	0.778	
羽根沢 024	878	Ob-9	3.3	60.9	1.3	22.4	0.08	12.1	畑宿	0.317	
羽根沢 025	879	Ob-9	3.8	59.8	1.1	22.7	0.19	12.4	畑宿	0.353	
羽根沢 026	880	Ob-9	3.1	59.9	1.1	23.0	0.18	12.7	畑宿	0.099	
羽根沢 027	881	Ob-9	3.2	60.0	1.1	22.3	0.23	13.2	畑宿	0.177	
羽根沢 028	882	Ob-9	3.5	60.6	1.1	22.5	0.13	12.2	畑宿	0.195	
羽根沢 029	883	Ob-9	3.2	59.8	1.1	23.0	0.21	12.7	畑宿	0.092	
羽根沢 030	884	Ob-9	3.2	60.0	1.1	23.1	0.08	12.7	畑宿	0.068	
羽根沢 032	885	Ob-9	3.8	61.2	1.2	22.1	0.10	11.6	畑宿	1.277	
羽根沢 032	894	Ob-10	3.5	59.8	1.1	22.8	0.04	12.8	畑宿	0.170	
羽根沢 033	895	Ob-8	3.3	59.9	1.1	22.6	0.18	13.0	畑宿	0.143	
羽根沢 34	897	Ob-9	3.5	60.4	1.1	22.4	0.01	12.6	畑宿	0.221	
羽根沢 035	898	Ob-8	3.1	60.4	1.1	23.1	0.09	12.2	畑宿	0.077	
羽根沢 036	899	Ob-9	3.2	61.5	0.90	22.8	0.02	11.6	畑宿	0.328	
羽根沢 037	900	Ob-9	3.4	58.6	1.1	23.7	0.16	13.1	畑宿	0.067	
羽根沢 038	901	Ob-9	3.4	60.7	1.1	23.0	0.15	11.7	畑宿	0.124	
羽根沢 039	902	Ob-10	3.4	59.4	1.0	23.0	0.14	13.0	畑宿	0.151	
羽根沢 040	904	Ob-8	3.3	59.4	1.1	23.1	0.14	13.0	畑宿	0.073	
羽根沢 041	905	Ob-9	3.4	59.7	0.99	23.0	0.06	12.8	畑宿	0.162	
羽根沢 042	906	Ob-9	3.2	61.1	0.80	22.6	0.03	12.2	畑宿	3.449	畑宿・上多賀との併合後
羽根沢 043	907	Ob-9	3.2	59.8	1.1	23.3	0.16	12.4	畑宿	0.066	
羽根沢 044	908	Ob-9	3.2	59.7	1.0	23.0	0.07	13.0	畑宿	0.126	
羽根沢 045	909	Ob-9	3.4	61.3	1.1	22.4	0.06	11.8	畑宿	0.183	
羽根沢 046	910	Ob-9	3.7	60.4	1.1	22.9	0.10	12.1	畑宿	0.250	
羽根沢 047	911	Ob-9	2.9	61.1	1.1	22.4	0.18	12.3	畑宿	0.228	
羽根沢 048	912	Ob-9	3.3	60.3	1.1	22.9	0.12	12.4	畑宿	0.095	
羽根沢 049	913	Ob-9	3.5	60.3	1.0	22.6	0.01	12.6	畑宿	0.245	
羽根沢 050	918	Ob-9	3.4	60.0	1.1	23.0	0.20	12.5	畑宿	0.119	
羽根沢 116	919	Ob-8	3.3	60.4	1.1	22.7	0.10	12.5	畑宿	0.117	
羽根沢 051	920	Ob-9	3.2	63.2	0.80	21.8	0.10	11.0	畑宿	5.280	畑宿・上多賀との併合後
羽根沢 052	922	Ob-9	3.0	60.1	1.0	22.9	0.04	13.0	畑宿	0.179	
羽根沢 053	923	Ob-9	3.2	60.3	1.1	23.0	0.01	12.4	畑宿	0.094	
羽根沢 054	924	Ob-9	3.2	60.7	1.0	22.5	0.10	12.5	畑宿	0.186	
羽根沢 055	925	Ob-9	3.1	61.3	1.1	22.3	0.14	12.1	畑宿	0.177	
羽根沢 056	926	Ob-9	3.4	58.8	1.0	24.0	0.01	12.7	畑宿	0.101	
羽根沢 057	927	Ob-9	3.7	60.0	1.1	22.6	0.08	12.6	畑宿	0.281	

分析No.	遺物No.	石質	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O	推定産地	併合距離	特記事項(併合関係)
羽根沢 058	928	Ob-9	3.3	60.7	1.1	22.9	0.10	11.9	畑宿	0.098	
羽根沢 059	929	Ob-9	3.4	61.0	1.0	21.9	0.08	12.6	畑宿	0.303	
羽根沢 060	941	Ob-9	3.5	59.8	1.1	22.4	0.17	13.0	畑宿	0.220	
羽根沢 061	942	Ob-9	3.9	59.5	1.1	22.2	0.14	13.2	畑宿	1.294	
羽根沢 062	943	Ob-9	3.7	60.5	1.1	22.6	0.19	11.9	畑宿	0.300	
羽根沢 063	2472	Ob	4.7	25.8	0.03	13.8	2.0	53.7	小深沢	0.057	
羽根沢 064	4326	Ob-4	3.5	61.3	1.1	21.9	0.09	12.2	畑宿	0.290	
羽根沢 065	4593	Ob-3	2.4	51.4	0.84	22.3	0.3	22.8	柏峠	0.201	
羽根沢 066	4596	Ob-3	2.0	50.2	0.74	23.2	0.4	23.5	柏峠	0.126	
羽根沢 067	4598	Ob-3	2.1	49.3	0.84	23.3	0.3	24.2	柏峠	0.087	
羽根沢 068	4599	Ob-3	2.2	49.8	0.67	23.4	0.3	23.7	柏峠	0.153	
羽根沢 069	4601	Ob-3	2.4	55.0	0.88	19.9	0.4	21.4	柏峠	0.404	
羽根沢 070	4604	Ob-3	2.4	48.8	0.79	23.4	0.3	24.3	柏峠	0.054	
羽根沢 071	4606	Ob-3	2.4	49.2	0.81	23.2	0.4	24.1	柏峠	0.052	
羽根沢 072	4616	Ob-3	2.4	50.4	0.56	23.6	0.3	22.8	柏峠	0.374	
羽根沢 073	4617	Ob-3	2.6	47.2	0.73	25.2	0.3	24.0	柏峠	0.119	
羽根沢 074	4618	Ob-3	2.3	48.7	0.67	24.0	0.4	24.0	柏峠	0.098	
羽根沢 075	4619	Ob-3	2.3	49.9	0.75	23.3	0.3	23.5	柏峠	0.077	
羽根沢 076	4620	Ob-3	2.3	49.5	0.68	22.6	0.3	24.6	柏峠	0.197	
羽根沢 078	4624	Ob-3	2.5	48.1	0.8	24.3	0.4	23.9	柏峠	0.025	
羽根沢 079	4628	Ob-3	2.3	47.9	0.8	23.6	0.4	25.1	柏峠	0.021	
羽根沢 080	4631	Ob-3	2.2	49.4	0.7	24.2	0.3	23.3	柏峠	0.085	
羽根沢 081	4632	Ob-3	2.3	53.5	0.8	20.6	0.3	22.5	柏峠	2.152	高原山・柏峠との併合後
羽根沢 082	4633	Ob-3	2.0	49.5	0.7	22.7	0.4	24.7	柏峠	0.196	
羽根沢 083	4634	Ob-3	2.3	48.9	0.8	24.4	0.3	23.3	柏峠	0.020	
羽根沢 084	4658	Ob-3	1.8	48.5	0.7	24.7	0.3	23.9	柏峠	0.206	
羽根沢 085	4660	Ob-3	微小のため計測不能								
羽根沢 086	4666	Ob-3	2.6	49.0	0.7	23.9	0.4	23.5	柏峠	0.121	
羽根沢 087	4671	Ob-3	2.4	48.1	0.8	24.1	0.3	24.3	柏峠	0.025	
羽根沢 088	4672	Ob-3	2.1	47.4	0.8	24.5	0.3	25.0	柏峠	0.044	
羽根沢 089	4683	Ob-3	2.3	48.9	0.8	23.1	0.3	24.6	柏峠	0.068	
羽根沢 090	4684	Ob-3	2.3	48.3	0.77	23.6	0.3	24.7	柏峠	0.041	
羽根沢 091	4685	Ob-3	2.1	48.1	0.81	24.4	0.3	24.4	柏峠	0.041	
羽根沢 092	4688	Ob-3	2.5	48.8	0.90	22.8	0.3	24.7	柏峠	0.170	
羽根沢 093	4697	Ob-3	2.4	49.3	0.75	23.1	0.3	24.2	柏峠	0.090	
羽根沢 094	4699	Ob-3	2.3	48.4	0.68	23.9	0.4	24.4	柏峠	0.086	
羽根沢 095	4701	Ob-3	2.3	48.5	0.75	24.1	0.3	24.1	柏峠	0.033	
羽根沢 096	4703	Ob-3	2.4	48.4	0.68	23.9	0.3	24.3	柏峠	0.109	
羽根沢 097	4709	Ob-3	2.3	47.6	0.86	24.6	0.3	24.4	柏峠	0.038	
羽根沢 098	4717	Ob-3	2.4	48.8	0.75	23.2	0.3	24.6	柏峠	0.080	
羽根沢 099	4723	Ob-3	2.2	47.3	0.78	24.5	0.4	24.9	柏峠	0.012	
羽根沢 100	4725	Ob-3	2.0	47.3	0.77	26.3	0.3	23.2	柏峠	0.165	
羽根沢 101	4727	Ob-3	2.4	47.3	0.75	24.8	0.3	24.5	柏峠	0.043	
羽根沢 102	4728	Ob-3	2.6	48.0	0.80	23.4	0.3	24.8	柏峠	0.103	
羽根沢 103	4729	Ob-3	2.1	47.2	0.56	25.3	0.2	24.6	柏峠	0.383	
羽根沢 104	4736	Ob-3	2.1	48.0	0.78	24.5	0.3	24.2	柏峠	0.042	
羽根沢 105	4741	Ob-3	2.2	48.0	0.75	23.6	0.3	25.1	柏峠	0.057	
羽根沢 106	4743	Ob-3	2.5	49.8	0.64	22.9	0.3	24.0	柏峠	0.256	
羽根沢 107	4744	Ob-3	2.4	48.2	0.72	23.7	0.3	24.6	柏峠	0.072	
羽根沢 108	4745	Ob-3	2.0	50.7	0.87	22.4	0.3	23.6	柏峠	0.233	
羽根沢 109	4746	Ob-3	2.4	47.8	0.72	24.4	0.4	24.3	柏峠	0.041	
羽根沢 110	4754	Ob-3	2.3	47.3	0.70	25.0	0.5	24.3	柏峠	0.084	
羽根沢 111	4761	Ob-3	2.7	50.4	0.80	22.3	0.3	23.6	柏峠	0.266	
羽根沢 112	4764	Ob-3	2.6	50.6	0.59	21.9	0.4	24.0	柏峠	1.360	高原山・柏峠との併合後
羽根沢 113	4767	Ob-3	2.4	46.9	0.77	24.5	0.4	25.1	柏峠	0.019	
羽根沢 114	4777	Ob-3	2.2	47.8	0.64	24.8	0.3	24.3	柏峠	0.167	
羽根沢 115	5562	Ob-1	3.2	59.7	1.0	23.4	0.10	12.5	畑宿	0.092	

第 76 表 羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石（原産地ごとの集計）（6 元素の酸化物の和を 100 として表記）

推定原産地		MnO	FeO	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O
畑宿（59 点）	平均値	3.4	60.3	1.1	22.7	0.10	12.4
	最大値	3.9	63.2	1.3	24.0	0.26	13.2
	最小値	2.9	58.6	0.8	21.8	0.01	11.0
	畑宿	3.2	59.0	1.1	24.6	0.1	12.1
	上多賀	2.7	50.3	1.1	26.2	0.2	19.5
柏峠（48 点）	平均値	2.3	49.0	0.7	23.6	0.3	24.0
	最大値	2.7	55.0	0.9	26.3	0.5	25.1
	最小値	1.8	46.9	0.6	19.9	0.2	21.4
	柏峠	2.3	48.1	0.8	24.4	0.4	24.0
	高原山	2.2	45.8	0.7	22.3	0.7	28.4
神津島（3 点）	平均値	3.6	34.0	0.7	20.4	0.5	40.9
	神津島	3.8	32.7	0.6	20.6	0.6	41.6
小深沢（3 点）	平均値	4.8	27.0	0.03	13.3	2.3	52.6
	小深沢	4.5	26.0	0.1	14.1	2.1	53.3
星ヶ塔（1 点）	遺物No.765	3.3	29.4	0.2	14.6	1.5	50.9
	星ヶ塔	3.4	25.3	0.3	13.9	1.1	55.8

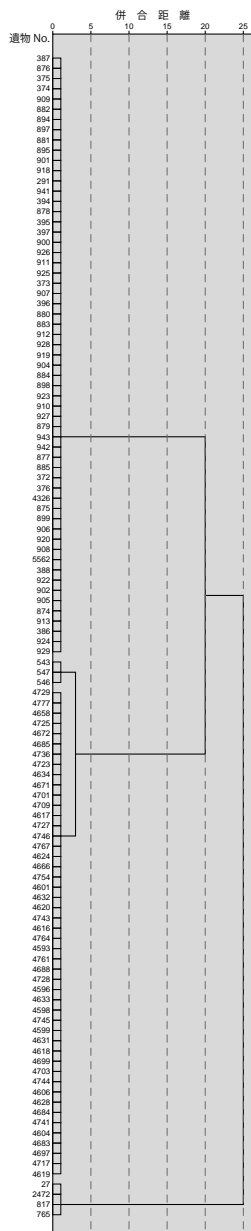
第 77 表 羽根沢遺跡第 6・8 次出土黒曜石の層位毎の推定原産地

分析No	遺物No	層位	遺構名	TP・グリッド名	時代	器種	石質	推定原産地	特記事項
羽根沢 019	817	覆土	SD20 溝		旧石器	ナイフ形石器	Ob-11	小深沢	先端欠損
羽根沢 063	2472	包含層	包含層		縄文	スクレイパー	Ob	小深沢	未成品
羽根沢 001	27	Ⅲ層		AL - 95	旧石器	剥片	Ob-2	小深沢	
羽根沢 115	5562	Ⅲ層		TP5	旧石器	剥片	Ob-1	畑宿	
羽根沢 065	4593	Ⅲ層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3	柏峠	
羽根沢 066	4596	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 067	4598	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 068	4599	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 069	4601	Ⅲ層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3	柏峠	
羽根沢 070	4604	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 071	4606	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 072	4616	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 073	4617	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 074	4618	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 075	4619	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 076	4620	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	3 点あり・大 1 点測定
羽根沢 078	4624	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 079	4628	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 080	4631	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 081	4632	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 082	4633	Ⅲ層	ST7		旧石器	ナイフ形石器	Ob-3	柏峠	上部欠損
羽根沢 083	4634	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 084	4658	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 085	4660	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	—	微小のため計測不能
羽根沢 086	4666	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 087	4671	Ⅲ層	ST7		旧石器	ナイフ形石器	Ob-3	柏峠	
羽根沢 088	4672	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 089	4683	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 090	4684	Ⅲ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 091	4685	Ⅲ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 092	4688	Ⅲ層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3	柏峠	調整あり
羽根沢 093	4697	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 094	4699	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 095	4701	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 096	4703	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 097	4709	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 098	4717	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 099	4723	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	ガジリあり
羽根沢 100	4725	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	調整あり
羽根沢 101	4727	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	ナイフ形石器	Ob-3	柏峠	
羽根沢 102	4728	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 103	4729	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 104	4736	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 105	4741	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	ガジリあり
羽根沢 106	4743	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	

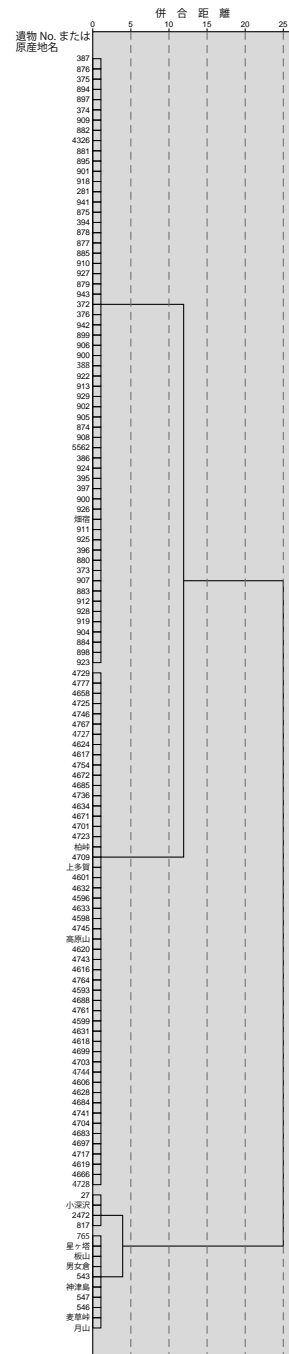
分析No	遺物No	層位	遺構名	TP・グリッド名	時代	器種	石質	推定原産地	特記事項
羽根沢 107	4744	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 108	4745	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 109	4746	Ⅲ～Ⅳ層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3	柏峠	下部折れ
羽根沢 064	4326	Ⅳ層		TP97	旧石器	鋸歯縁石器	Ob-4	畑宿	
羽根沢 110	4754	Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 111	4761	Ⅳ層	ST7		旧石器	細石刃	Ob-3	柏峠	
羽根沢 112	4764	Ⅳ層	ST7		旧石器	チップ	Ob-3	柏峠	
羽根沢 113	4767	Ⅳ層	ST7		旧石器	抉入石器	Ob-3	柏峠	
羽根沢 114	4777	Ⅳ層	ST7		旧石器	剥片	Ob-3	柏峠	
羽根沢 002	281	V層		TP76	旧石器	剥片	Ob-5	畑宿	
羽根沢 018	765	V層		TP48	旧石器	剥片	Ob-6	星ヶ塔	ガジリあり
羽根沢 003	372	Ⅶ層	ST4	TP75	旧石器	鋸歯縁石器	Ob-8	畑宿	
羽根沢 008	386	Ⅶ層	ST5	TP76	旧石器	ナイフ形石器	Ob-8	畑宿	
羽根沢 009	387	Ⅶ層	ST5	TP76	旧石器	ナイフ形石器	Ob-8	畑宿	
羽根沢 010	388	Ⅶ層	ST5	TP76	旧石器	剥片	Ob-8	畑宿	
羽根沢 015	543	Ⅶ層	ST2	TP43	旧石器	剥片	Ob-7	神津島	
羽根沢 020	874	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 021	875	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 022	876	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 023	877	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 024	878	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 025	879	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 026	880	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 027	881	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 028	882	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9	畑宿	
羽根沢 029	883	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 030	884	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9	畑宿	未成品
羽根沢 032	885	Ⅶ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9	畑宿	
羽根沢 016	546	Ⅸ a層	ST2	TP43	旧石器	チップ	Ob-7	神津島	
羽根沢 017	547	Ⅸ a層	ST2	TP43	旧石器	剥片	Ob-7	神津島	
羽根沢 004	373	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	剥片	Ob-8	畑宿	
羽根沢 005	374	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	剥片	Ob-8	畑宿	
羽根沢 006	375	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	ナイフ形石器	Ob-8	畑宿	未成品
羽根沢 007	376	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	チップ	Ob-9	畑宿	
羽根沢 011	394	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	剥片	Ob-8	畑宿	
羽根沢 012	395	Ⅸ層	ST4	TP75	旧石器	剥片	Ob-8	畑宿	調整あり
羽根沢 013	396	Ⅸ層	ST5	TP76	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 014	397	Ⅸ層	ST5	TP76	旧石器	剥片	Ob-8	畑宿	
羽根沢 032	894	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-10	畑宿	未成品
羽根沢 033	895	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	搔器	Ob-8	畑宿	
羽根沢 034	897	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 035	898	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	使用剥片	Ob-8	畑宿	
羽根沢 036	899	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9	畑宿	
羽根沢 037	900	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9	畑宿	先端部破片
羽根沢 038	901	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 039	902	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-10	畑宿	未成品
羽根沢 040	904	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-8	畑宿	下部破片
羽根沢 041	905	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 042	906	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9	畑宿	
羽根沢 043	907	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 044	908	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9	畑宿	未成品
羽根沢 045	909	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	ガジリあり
羽根沢 046	910	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 047	911	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 048	912	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	石核	Ob-9	畑宿	
羽根沢 049	913	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9	畑宿	
羽根沢 050	918	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 116	919	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-8	畑宿	
羽根沢 051	920	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9	畑宿	
羽根沢 052	922	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9	畑宿	
羽根沢 053	923	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 054	924	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 055	925	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 056	926	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	ナイフ形石器	Ob-9	畑宿	未成品
羽根沢 057	927	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9	畑宿	
羽根沢 058	928	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	チップ	Ob-9	畑宿	
羽根沢 059	929	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	
羽根沢 060	941	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	打面調整
羽根沢 061	942	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	調整あり
羽根沢 062	943	Ⅸ層	ST6	TP88	旧石器	剥片	Ob-9	畑宿	

第 78 表 層位別出土黒曜石の原産地推定結果

層位	遺構名	TP・グリッド名	資料数	畑宿	柏峠	神津島	小深沢	星ヶ塔	文化層
包含層	包含層		1				1		縄文
覆土	SD20		1				1		旧石器
Ⅲ層		AL-95	1				1		
		TP5	1	1					
Ⅲ層	ST7		26		26				
Ⅲ～Ⅳ層	ST7		17		17				
Ⅳ層	ST7		5		5				
Ⅳ層		TP97	1	1					
		TP48	1						
		TP76	1	1				1	
Ⅶ層		ST2	1			1			
		ST4	1	1					
		ST5	3	3					
		ST6	12	11					
Ⅸ a 層	ST2		2			2			
Ⅸ層		ST4	6	6					
		ST5	2	2					
		ST6	32	33					
小計			114	59	48	3	3	1	

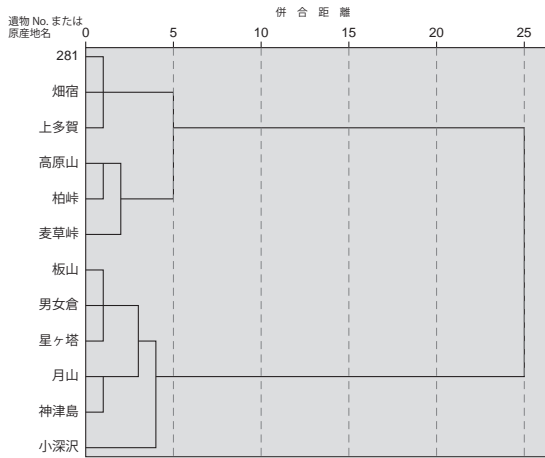


第 166 図 羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石のクラスター分析

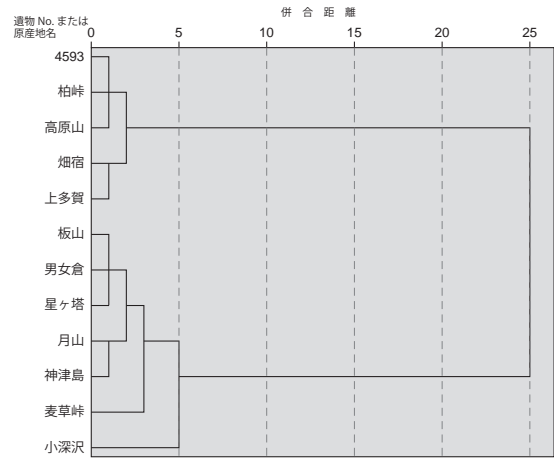


第 167 図 羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石＋東日本の主な原産地黒曜石のクラスター分析

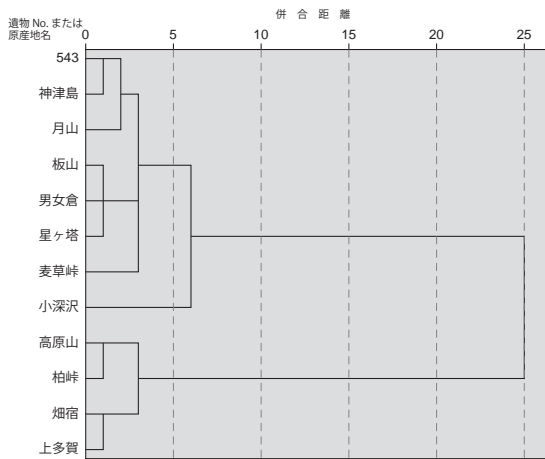
※第 166・167 図：図中の数値と文字は、羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石では遺物 No.、原産地黒曜石では原産地名を示す。



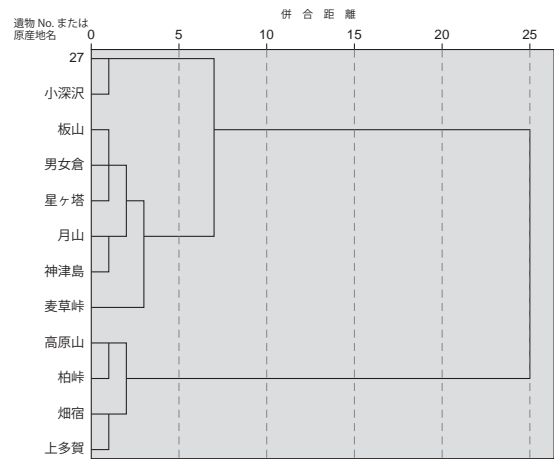
第 168 図 羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (畑宿) の例



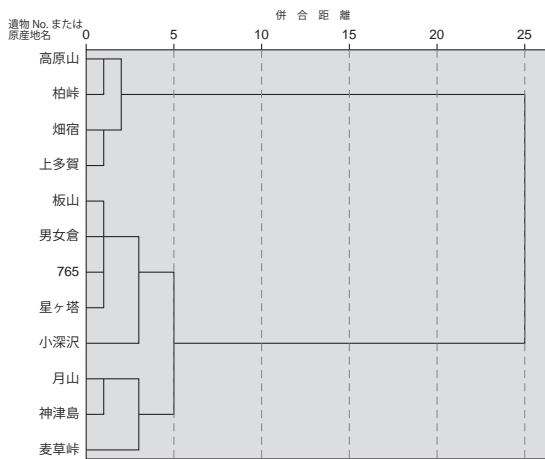
第 169 図 羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (柏峠) の例



第 170 図 羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (神津島) の例



第 171 図 羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (小深沢) の例



第 172 図 羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石の原産地推定 (星ヶ塔) の例

※第 168～172 図：東日本の主な原産地黒曜石＋羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石 1 点とのクラスター分析 (図中の数値と文字は、羽根沢遺跡第 6・8 次調査出土黒曜石では遺物 No.、原産地黒曜石では原産地名を示す。)

第6章 総括

今回の調査では旧石器時代・縄文時代及び古代以降の資料が出土したが、遺構としては縄文時代と中世以降に限られる。縄文時代では竪穴住居の検出はなく、集落の存在を明確に示すことはできなかった。遺物は広範に散在するような分布が見られた。以下に各時代の要点を述べる。

第1節 旧石器時代

今回の調査では、立川ローム第Ⅲ層から第Ⅹ層にわたる8単位の文化層（石器群）を確認した。それぞれの石器群の内容は比較的小規模ではあるが、第Ⅲ層～第Ⅳ層のS T 7石器集中及び第Ⅶ層～第Ⅸ層のS T 4～6石器集中ではまとまった資料が得られた。

【地形について】

本地点は野川の水源域であり、南の「恋ヶ窪谷」と東の「さんや谷」に囲まれた台地上の奥部に位置する。「さんや谷」はさらに北方で西に回り込むため、本地点の北側は谷に向かう緩斜面となる。更にT P 93 (M-55・56) からT P 119 (R-49) 付近を頂点として、T P 118 (G-55・56) やT P 121 (L-48) に向かって南西側にも下る緩斜面が見られ(第8・9図)、いわば南北に下る緩斜面に挟まれた鞍部とも言える(第5図)。この鞍部の峯付近では遺物は見つからず、南北両斜面をやや下ったあたりから各層で遺物が見られる。遺跡立地のこうした傾向の原因は不明であるが、利用水源の違いに起因する可能性がある。つまり、北斜面では「さんや谷」奥の水源を、南斜面では「恋ヶ窪谷」方面の水源を主に利用したと考えられる。「恋ヶ窪谷」は本地点からやや遠いが、谷がより長いため湧水も多く、水量は「さんや谷」より多かったと推測される。S T 4～6・7石器集中など各層の主要な石器群が南斜面に集中する事実も、水量の多い「恋ヶ窪谷」がより多くの動物を引きつけた良好な狩り場であったことを示唆すると言えようか。他に陽当たりや風回り、資源としての礫層との距離等の諸条件も考慮する必要がある。

【第Ⅲ層の尖頭器】

第Ⅲ層で得られた尖頭器(第14図1)は単独の出土であるが、周辺の遺跡では同様な資料の複数の出土例があり、特に「さんや谷」を挟んだ南東方向に立地する恋ヶ窪東遺跡の第22次調査では第Ⅲ層～第Ⅳ層で尖頭器の大規模な製作址が確認されており、本例と素材・形態・製作技法に類似点が多く、詳細は不明であるが、無関係とは考えにくい。

【第Ⅲ層～第Ⅳ層】

S T 7石器集中は石器製作址と見なされ、細石刃及び小型ナイフ形石器を中心とする。細石刃は周辺の遺跡でも多数確認されており、恋ヶ窪東、花沢西、恋ヶ窪南、No.37等の各遺跡で、野川の水源を廻るように広範に出土している。今回は細石刃核こそ含まれないが、同母岩の細石刃が複数確認され、本地点で製作が行なわれていた事は疑いない。また石核がないことから、細石刃製作後に石核が持ち出されたことも明らかであり、本地点で細石刃製作作業が完結したものではないことを示している。同じ母岩を用い、複数の地点で細石刃製作を行なった左証と言えよう。

S T 7石器集中の最たる特徴は、小型のナイフ形石器の目立つ点である。ナイフ8点のうち5点が1cm内外の小型品である。これらはサイズのためか定型石器と呼べる程規格的な形態を示さないが、側縁に施される角度の厚い調整剥離と鋭い先端形状を特徴とする。武蔵野台地では一般に立川ローム第Ⅲ層～第Ⅳ層上部に見られる事の多い石器であり、また北関東などでも群馬の武井遺跡等で古くより注目された(戸沢 1982)。その機能は詳らかではないが、一般に細石刃を伴うことが多い事から植刃器の

部品、特に先端に装着する刺突部品として利用された可能性が高い。今回出土した資料も、その意味で細石刃群と一括して捉える必要があろう。

【広範な垂直分布について】

ところで、第Ⅲ層～第Ⅳ層にわたるS T 7石器集中は第Ⅳ層上部に本体があると考えられるが、垂直分布の幅が特に広い理由は何であろうか。恋ヶ窪東遺跡の第22次調査でも、尖頭器等の大規模な製作址がやはり第Ⅲ層～第Ⅳ層に広く分布する点が目を引いた。両者に共通するのは上部ローム層というほぼ同じ層準であることと、小さなチップまで細大漏らさず丁寧な発掘調査を実施した点である。

立川ローム第Ⅲ層、いわゆるソフトロームは、本来第Ⅳ層と同質の火山灰土であったものが、乾燥気候等の影響で深い地割れ（クラック）を生じ、崩落と再堆積を繰り返した結果ソフト化したと考えられるが（橋本 2012他）、その過程で包含される遺物が上下に激しく動いたであろうことは想像に難くない。更に凍上現象や動植物による攪乱等も含めると、下位の層準に比べて第Ⅲ層～第Ⅳ層上部は遺物の垂直移動がより多かった可能性がある。殊に、チップ等の軽い小破片類は移動範囲が広いであろう。

また、垂直分布図（第15図、林他2017 p44 第17図等）に見る通り、分布の上下辺にはチップ類が集中する。小破片が移動し易い事実を如実に示していると思われるが、丁寧な調査によってこれらの小破片を漏らさず記録できれば、自ずと垂直分布範囲は広がることになる。調査方法によってその結果が異なる事は自明であるが、作業効率を求めることが常識とされる昨今の発掘調査体制にあっては、調査者の自戒を促すべき事実と言えよう。ただでさえ残存資料の少ない旧石器時代遺跡では、このほかに慎重な調査が行なわれるべきであろう。

【第Ⅶ層～第Ⅸ層】

S T 4～6石器集中は2種の黒曜石を主要石材とする石器製作址で、不定形なナイフ形石器群を中心とする。およそAT以前ではあまり規格的な定型石器は発達しないが、本例もその範疇を出ない。ただし、未成品や破損品が多い事から、完成品は持ち出されたとみるべきである。その中で、第45図の60のみはチャート製で先端の鋭い特異な形態を呈する、異質の存在である。こうした形態はあまり類例を見ず、ナイフ形石器の刺突具としての機能を如実に示しており、興味深い。

【礫群と炭化物集中】

礫群では第Ⅳ層のS R 3礫群が比較的まとまりを見せるが、それ以外は小規模で散漫なものである。第Ⅸ層以下のS R 1・2礫群は被熱痕跡のない事が特徴である。概して第Ⅶ層以下の礫群には被熱痕跡の認められない例が多いようである。ただし、火熱によって酸化・赤化し、煤や炭化物の付着した礫が土中深くに埋没して経年することで、還元したり炭化物の一部が風化消滅するなど、被熱痕跡の消滅について様々な要因を考える必要がある。今回は特に認められなかったが、炭化物集中との共伴関係も礫群加熱の根拠となり得ることは言うまでもない。

炭化物集中については、第Ⅵ層のS C 3炭化物集中の垂直分布（第38図）が特殊であり、上下2単位に分離可能かもしれない。本報告では、平面分布に分離できる様相が見られないため、単一の集中として扱ったが、課題を残す。TP50の第Ⅶ層より出土した炭化材1点について年代測定および樹種同定を行なった結果、約28,000年前のカバノキと判明した（第5章）。第Ⅵ層最下部に含まれる始良Tn火山灰（AT）は立川ロームを代表する年代指標のひとつとして知られ（町田・新井 1976）、その年代が約26,000年～29,000年前とされる（町田・新井 2003）事から、今回の年代値は層準と概ね整合するか、やや新しい年代と言えよう。

【黒曜石の産地同定】

今回出土した黒曜石資料はすべて産地推定分析を行なった。詳細は第5章に譲るが、概要としては伊豆・箱根系が大半を占めた。武蔵野台地の旧石器時代遺跡では各時期にわたって信州系黒曜石の顕著な利用が広く知られている。本遺跡で信州系が殆ど出土しなかった事は想定外であったが、これまでの市

内での分析例を見る限り、畑宿産や柏峠産は遍在しており（伊藤他 2010等）、むしろ信州系が欠落している理由が本遺跡の課題であろう。原産地の位置を考慮すれば、古い段階に近距離の石材を利用する可能性が大きい事は首肯できるが、信州のような遠隔地の石材が関東一円に普及する過程を明らかにする事も必要である。また、第Ⅶ層～第Ⅸ層のS T 2石器集中の黒曜石は神津島産とされた。昨今、旧石器時代の舟の存在について議論されているが、例えば蛍光X線分析で神津島産とされている黒曜石が、実際は伊豆半島等の未発見ないし消失した産地に属する可能性は皆無であろうか。十分に検討する余地があろう。

第2節 縄文時代

縄文時代の遺構は炉穴2基、集石土坑10基、陥し穴4基、土坑62基、小穴448基が確認された。

炉穴は西側調査区と東側調査区で1基ずつ検出された。2基は約200mの間隔があるもののほぼ東西方向に並ぶように位置している。S K 83 J 炉穴は長楕円形を呈し、南北に長軸をもつ。南北それぞれに炉部が構築されている。炉部が同時に使用されていたかは不明である。覆土には遺物は含まれていなかった。S K 84 J 炉穴は複数の炉部が構築された形態で、南北に長軸をもつ。15箇所で見つかった炉部は同時に使用されたものではなく、覆土の堆積状況から時間をかけて再構築されていた結果と考えられる。所属時期は、覆土から条痕文系の茅山式土器が比較的纏まって出土していることから早期後半の所産であろう。S K 83 J 炉穴は所属時期を判断する遺物がないものの、S K 84 J 炉穴と同じ層位から掘り込まれていることや長軸方向が同じであることから、同時期に属するものと推測される。炉穴は恋ヶ窪東遺跡第9・11次調査（上敷領他1990・2003）で1基、恋ヶ窪東遺跡第22次調査（林他2017）で8基が見つかった。

集石土坑は西側調査区で5基、東側調査区で5基検出された。西側調査区では5基の集石土坑が隣接するように集中して分布しているのに対し、東側調査区の集石土坑5基は東西方向に直線的に並ぶように点在する。いずれも調査範囲の南側に位置する。集石土坑は本遺跡の南側に位置する恋ヶ窪遺跡35次調査（星野他1994）で阿玉台期に属するものが1基見つかったほか、羽根沢遺跡第9・10次調査（林他2018）では4基が確認されている。これら4基の集石土坑が属する集落本体は、恋ヶ窪遺跡のある西側の台地上と考えられ、実際にこれまでに多くの中期の竪穴住居が見つかった。報文では、4基の集石土坑は南北に並ぶように位置しているが、この集石土坑群は西側の集落域の東端部に属し、そのため南北に並ぶ配置となったと推測している。集石土坑の所属時期については中期前半～後半であるが、土器小片1個ずつの出土からの確かな判断は難しい。今回確認された10基の集石土坑は南北に並ぶように配置されており、南側に展開する集落域の北端部に位置する。出土遺物は極めて少なく、S S 1 集石土坑から早期の押形文土器が1点、S S 5 集石土坑から打製石斧が1点出土したのみで、これだけで各集石土坑の詳細な所属時期を判断することは出来ないが、南側台地に展開する中期集落域の北縁部に分布していることから中期前半～後半の所産と考えて良いだろう。なお、自然科学分析の結果、S S 6 集石土坑から出土した炭化材はクリであった。年代測定の結果では中期前半に相当する暦年代が得られた。推定所属時期に整合する結果と言えよう（第5章）。

土坑のうち4基は陥し穴と見なされる。東側調査区の中央北側で1基、南側で3基検出された。いずれも長楕円の平面形とY字状の断面形を呈する掘り込みである。遺物はS K 55 J 陥し穴から剥片が1点出土しているほかは覆土に遺物は含まない。各陥し穴の所属時期は不明だが、規模・形態の類似から4基とも近い時期の所産であろう。また、台地南側には中期集落が真近に展開しているため、陥し穴群は集落が形成される以前のもと思われる。S K 33 J・55 J 陥し穴は斜面に対して直交に、S K 53 J・54 J 陥し穴は平行に作られているが、獣道に沿って構築された陥し穴群と見られる。陥し穴は隣接す

る羽根沢遺跡第9・10次調査（林他2018）でも3基が見つまっている。

陥し穴以外の土坑は63基が確認された。西側調査区では調査区南側に多く分布し、東側調査区では中央北側は希薄である。土坑群は中央北側を挟み、東西に広がる。覆土から遺物が出土した土坑は8基ではあるが、遺物は加曾利E式期が主体であり、土坑群は中期後葉の所産と考えて良いだろう。また、小穴を伴う土坑が数基見られるが、なかには陥し穴として利用していた可能性もあろうか。

小穴は448基が確認された。柱穴と見なされるような深さのあるものは少なく、多くは比較的浅い小土坑群を形成している。東側調査区では中央北側はやや希薄である。覆土から遺物が出土した小穴は8基ではあるが、遺物は中期が主体であり、小土坑群は中期の所産と考えて良いだろう。こうした遺構の分布状況から、縄文時代中期には台地の南側に居住域が展開しその北側には集石土坑や土坑群・小土坑群が広がるという集落構成が伺える。

縄文時代の遺物は4,568点を数える。内訳は、縄文土器371点、石器72点、礫4,125点である。縄文土器は文様や胎土などから型式時期が判明するものは、早期24点、中期329点、詳細時期不明18点である。

早期は押型文系樋沢式1点、条痕文系茅山式23点、中期は阿玉台式5点、勝坂式39点、加曾利E式82点、曾利式4点と形式不明の中期199点である。出土土器は縄文時代中期中葉から後葉の勝坂式と加曾利E式が主体で、羽根沢・恋ヶ窪遺跡の時期様相を示すものである。

縄文土器総数371点のうち、遺構内からは98点、遺構外からは273点が出土しているが、周辺遺跡と比較して出土量が極めて少ないのが特徴である。これは、遺構や包含層が攪乱等によって削平されていることも要因の一つだが、今回の調査区域は遺物の主要な廃棄場所からやや外れていた可能性がある。

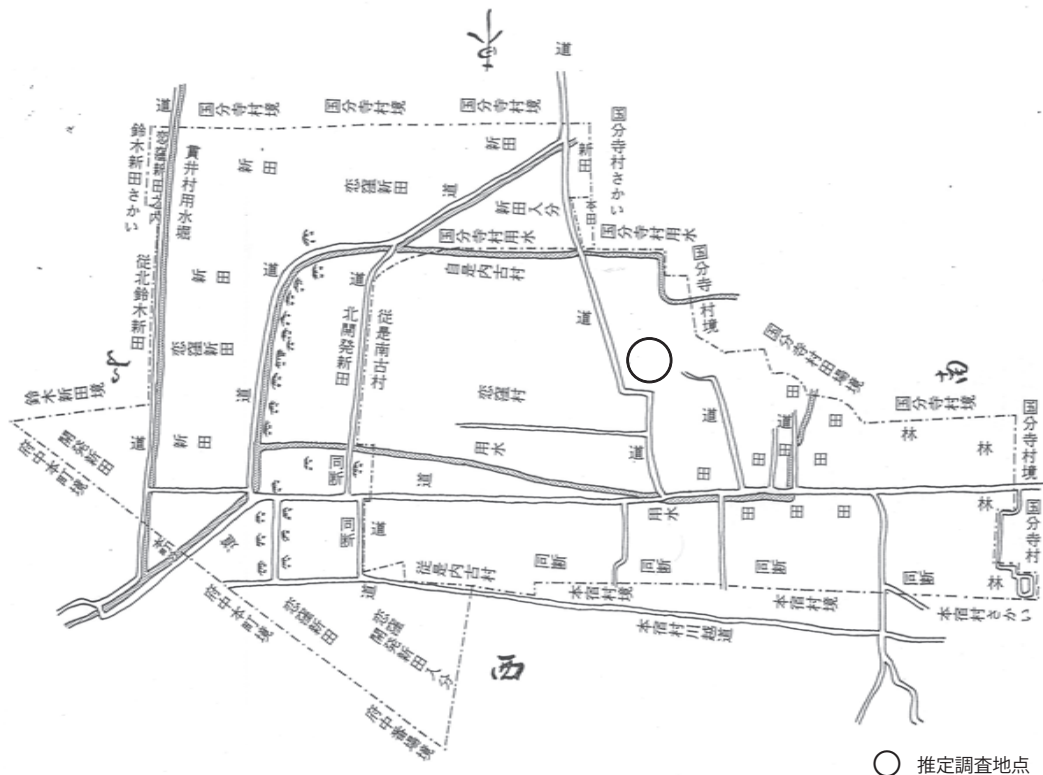
縄文時代の石器は数こそ少ないものの、狩猟具の鏃、工具の打製石斧の他にスタンプ形石器や礫器、磨石など加工具も目立つ、標準的な組成を示している。これらは土器同様、主に調査区南側に集中して分布しており、この領域が廃棄の場であるとする、当然その南側や西側の水源に近い台地上に集落の本体があると推定される。スタンプ形石器・磨石・石皿などは持ち歩かず、主に集落内で使用する道具と見なされるからである。

実際、本報告に併載される恋ヶ窪遺跡100次調査報告では、調査区の南側で中期の住居が出土している。遺物の分布から見る限り、この集落は更に南ないし東に展開するものと思われる。本調査区の南側で行なわれた羽根沢遺跡10次調査では、複数の集石土坑が南北に並んで出土し、その西側に集落の存在が示唆された（林他2018）。これも同じ集落の位置を示す別の証拠である。今後、羽根沢遺跡を調査する際に寄与するデータとなろう。

第117図91の抉入磨石は類例が少なく、市内では武蔵国分寺跡や恋ヶ窪南遺跡で数点出土しているのみで、近隣では府中市武蔵台遺跡で6点確認されている（河内1999）。本例は完形であり、整った形態をもつ希少な例である。縄文早期に特徴的に見られる石器として知られるが、付近より早期の炉穴や条痕文土器が出土しており、同時期の所産と思われる。

第3節 奈良・平安時代

須恵器と布目瓦の破片が若干得られたのみである。遺構は確認されなかった。これだけで当時の活動痕跡を判断することは出来ない。いずれも包含層や遺構覆土上層から出土しており、後世の農地改良等によって客土と共に外部から持ち込まれた可能性も考えられる。



第173図 年不詳恋ヶ窪村絵図（国分寺市市史編さん委員会 1982 に一部加筆）

第4節 中世以降

遺構は溝状遺構28条、土坑15基、柱穴列3基、地下室状遺構11基、不明遺構4基、小穴4本を確認した。

1. 溝状遺構

溝状遺構は調査区全体で見つかっている。すべて東西南北方向に設けられている。直角に曲がるものも目立つ。覆土には縄文土器・古代瓦・中世陶磁器や銭貨・近世陶磁器等、多様な遺物が含まれていたが、これらの遺物をもって溝状遺構の所属時期を決定する事は難しい。また、機能に関しては底部に明確な水流の痕跡がないことから、基本的には耕作関連の境界溝ないし根切り溝と考えられる。調査範囲のほぼ全域にわたって表土下に耕作土が見られることから、本地域が相当の期間、耕作地として活用されてきたことが伺える。

当該地は近世の「年不詳恋ヶ窪村絵図」（第173図）によると、恋ヶ窪村の南東付近にあたる国分寺村境に位置している。恋ヶ窪村は、江戸初期には府中領に属し、東南は国分寺、西は内藤新田、北は戸倉・鈴木新田に接していた。御料地であったため、代官が配置され新田検地が行われた。村内の家数は凡そ24軒で、そのうち17人は百姓であった。村の中央に南北に走る川越への通路があり、村内には貫井用水、国分寺村用水、村田の用水が引かれていた。また、村の中央に鎮守である熊野権現社や南に東福寺などの神社仏閣が建立されていた（蘆田編 1957）。第174図は旧恋ヶ窪村周辺の地籍図（昭和2年）に調査地点を落とし込んだ図であるが、調査地点は村の中央南側、宇天王上と宇羽根澤にまたがっている。恋ヶ窪遺跡第100次調査地点は字天王上に位置する。調査地点は大正7年（1918年）に資産家今村清之助の子息である今村繁三が別荘地として所有する。その後、昭和15年（1940年）には日立製作所中央研究所（以下、日立中研と略）の所有となる。拡大した旧恋ヶ窪村周辺の地籍図（昭和2年）に、今回の調査地点と周辺の羽根沢遺跡第9・10次調査地点、恋ヶ窪遺跡第94次調査地点、恋ヶ窪遺



第174図 旧恋ヶ窪村周辺の地籍図と調査地点の位置 (昭和2年「国分寺村全図」をトレース)



第175図 旧恋ヶ窪村周辺の地籍図と溝状遺構（昭和2年「国分寺村全図」より転用）

跡第100次調査地点で確認された東西南北に走る溝状遺構（以下SDと略）を照らし合わせてみると、地図にある道や畑地の境界に重なるであろう溝が見受けられる（第175図）。以下、地籍図にある番地を目印に見てみる。

本調査地点の西側調査区のSD1・3・4は、409番地から南に通る道と217-I番地で東西に通る道と十字に交差する道にほぼ重なる。東側調査区のSD10・25は、237-2番地から南に通る道と234・239番地で東西に交差する道に該当しようか。また、SD20・21・24は小字境界に、8・9は、312-3番地から南に通る道と285番地で右に折れる道に概ね重なる。SD6は312-2番地と308-2番地の地境の根切り溝であろうか。

その他に、SD27は出土遺物から中世に帰属する可能性が高く、恋ヶ窪遺跡第94次調査地点で検出されたSD26は延長部分と目される。SD26は報文によると溝付近の表土層中から常滑陶器が2点出土しており、それよりも新しい時期の遺物は他に含まれていないため、SD26は中世に帰属する可能性を指摘している（依田他 2016）。

羽根沢遺跡第9・10地点のSD8・9は、283・284番地で東西に通る道に、SD11～15は、243・257番地でTの字状に南に下る道に相当しようか。SD20は本調査地点のSD21に繋がる可能性がある。また、SD5・6・9・10は、279～283番地の南側を東西に延びる道、SD1は境界溝であろうか。SD4は282番地と284番地の筆境にほぼ重なる。

恋ヶ窪遺跡第100次調査地点で確認されたSD1は、形態から近代以前の道路状遺構と推測されたが、219・233番地付近に東西に通る道はない。恐らく232番地と233番地の筆境の根切り溝であろう。

4地点の溝状遺構を昭和2年の地籍図に照らし合わせて概観したが、調査地周辺は古くから耕作地として活用されてきた地域で、道や地境が時代ごとに変化している。そのため必ずしも当時のものとは限らないが、溝状遺構の性格を判断する上で参考にしたい。

2. 地下室状遺構

地下室状遺構は東側調査区で11基確認された。平面形から次の4種類の形態に分類される。長楕円形タイプ、長方形タイプ、鋸形タイプ、L字形タイプである（第176図）。規模は長軸5.4～9.55m、短軸1.1～1.85m、深さ0.7～1.63mである。いずれも抗底付近は第IV層～第VII層まで掘り込まれており、床面は概ね平坦である。壕の役割を終えた後、その多くはごみ捨て場として利用され埋没したようである。

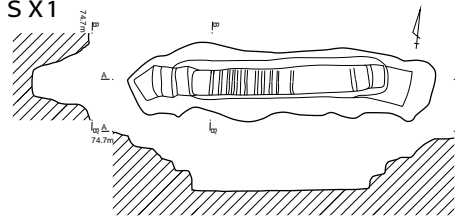
長楕円形タイプの地下室状遺構は5基である。SX1・2・5・11地下室状遺構は東西方向に長軸を持ち、SX3地下室状遺構は南北方向に長軸を持つ。SX1～3・5・11地下室状遺構は両端に階段状の開口部を持つ。SX1・2地下室状遺構の床面には掘削の際の工具痕が残る。SX5・11地下室状遺構の壁際には小穴が設けられているが、屋根や壁面を支える支柱跡であろうか。

長方形タイプの地下室状遺構は1基である。SX4地下室状遺構の北側は調査区域外に延び、西側は攪乱で消滅しているため全様は不明だが、東側には開口部がないので、おそらく開口部は西側に設けられていたと思われる。東西方向に長軸を持つ。壁は床面から垂直に立ち上がる事から竪坑状の遺構である可能性が高い。

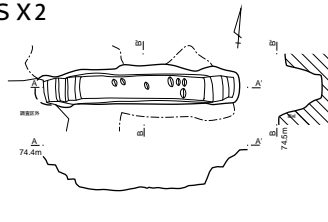
鋸形タイプの地下室状遺構は2基で、東西方向に長軸を持つ。SX6・9地下室状遺構は両端に階段状の開口部があり、いずれも北側を向く。階段部分は固く踏み込まれている。SX6地下室状遺構の床面は掘削後、埋め戻され踏み固められている。東隅に1本だけ小穴が掘り込まれているが、屋根や壁面を支える支柱跡であろうか。近代以降の歯ブラシが出土した。SX9地下室状遺構の床面には金属が腐食した様な赤錆状の物質が一面に薄く堆積しており、鉄板などの金属板が敷かれていた可能性がある。南壁には縦坑の副室が3箇所設けられているが、用途は不明である。また、東西両端に小穴が掘り込ま

長楕円形

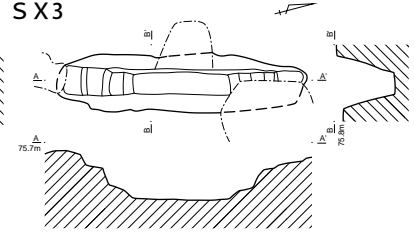
SX1



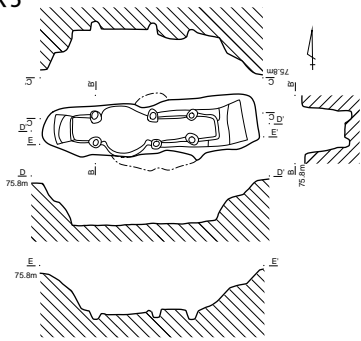
SX2



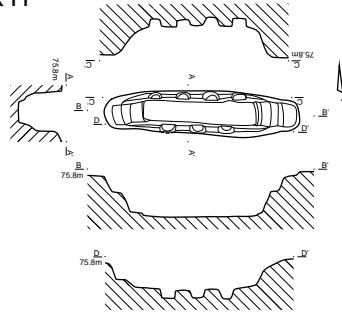
SX3



SX5

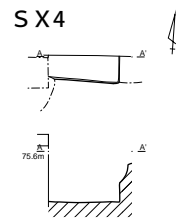


SX11



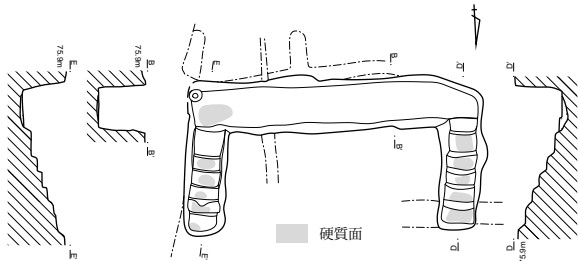
長方形

SX4

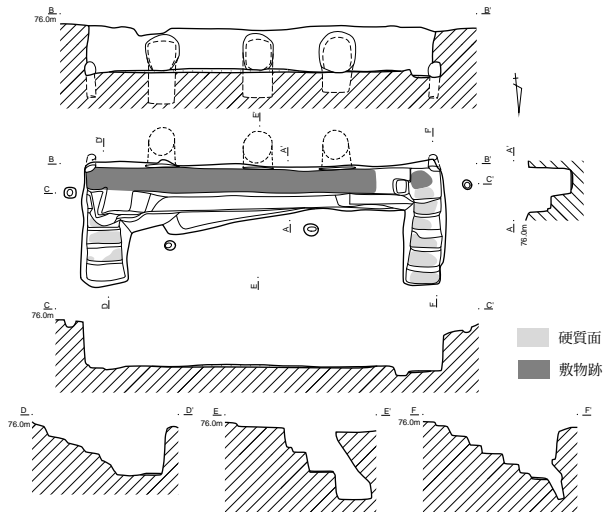


鋸形

SX6

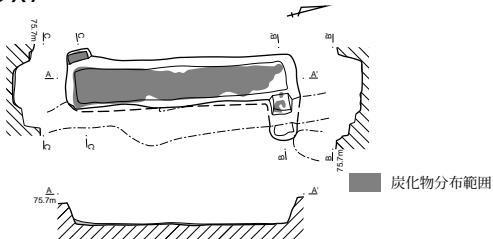


SX9

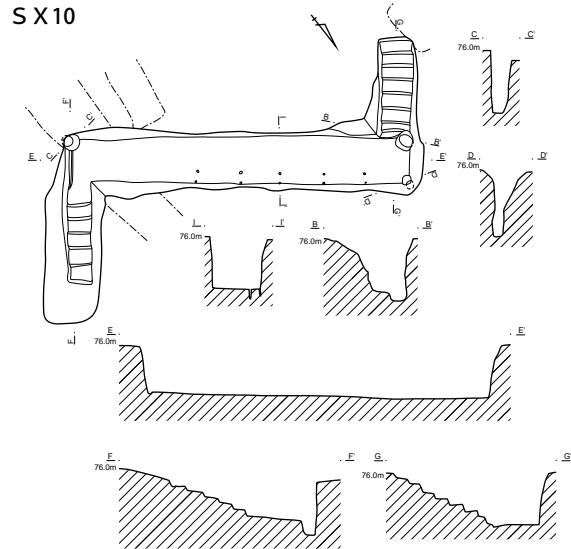


L字形

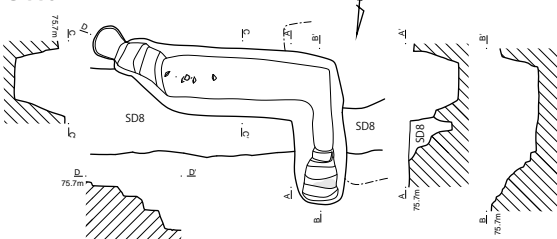
SX7



SX10



SX8



0 S=1/200 5m

第176図 形態別地下室状遺構

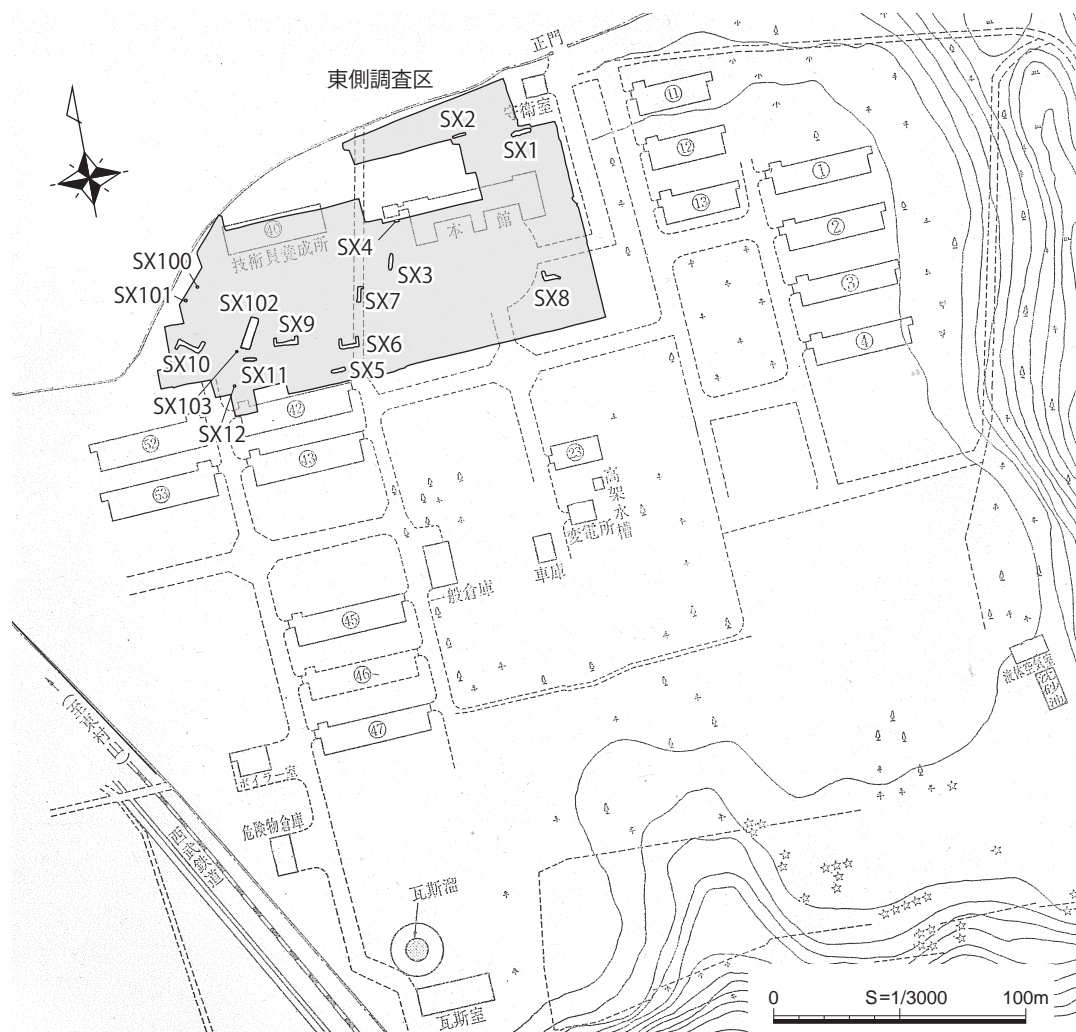
れており、屋根や壁面を支える支柱跡かと思われる。同じように豪周辺にも小穴が4本設けられている。

L字形タイプの地下室状遺構は3基である。SX7地下室状遺構は南北方向に長軸を持つ。開口部は南北両端に持つが、階段部分はそれぞれ東西に小さくL字状に屈曲する。床一面に炭状の物質を多く含む褐色土が薄く堆積している。板材などが敷かれていたものと思われる。近代以降のガラス瓶が出土した。SX8地下室状遺構は東西方向に長軸を持つ。開口部は東西両端にあるが、東側の階段部分はやや南を向くのに対し西側の階段部分はL字状に北側に屈曲する。床面に掘削痕が見られる。寛文8年(1668)の新寛永通寶が出土している。SX10地下室状遺構は東西方向に長軸を持つ。開口部は東西両端にあるが、東開口部は北側へ、西開口部は南側にそれぞれL字状に屈曲する。床面南壁の両端と北壁の西端に小穴が掘り込まれているが、屋根や壁面を支える支柱跡かと思われる。また、北壁に沿って小ピットが5本ずつ平行して設けられているが、壁を保護する為の柱穴であろうか。

これらの地下室状遺構は日立中研構内に存在するが、昭和15年12月1日、臨時中央研究所建設事務所が国分寺駅前に設置され、その後、昭和16年4月に、事務所は現在の構内に移転した。昭和15年3月に設立が計画され、工事着手～完了は昭和15年6月～同20年2月の予定であった。昭和15年5月に認可を受け、工事は3期に分けて実施された。

第1期 昭和15年12月～同16年4月

1、2、3、4号および23号建家落成。



第177図 戦時中の日立中研建家と地下室状遺構配置図 (株式会社日立製作所中央研究所30年史編さん委員会1972に一部加筆)

第2期 昭和16年3月～同16年12月

42、43、45、46、47、11、12、52、53号建家、変電所、車庫、危険物倉庫、一般倉庫、ガス発生室、液体空気室、ボイラー室完成。

第3期 昭和16年10月～同17年12月

本館、守衛室、13号建家完成。

第177図は、昭和17年12月時点の構内の木造建家の配置を示している（株式会社日立製作所中央研究所30年史編さん委員会 1972）。検出された地下室状遺構は、規模・形状から戦時中に構築され使用された防空壕と推測される。国分寺町での初めての空襲警報発令は昭和17年3月5日のことである。防空演習が行われた記述も残されている。国分寺町への空襲は昭和20年1月9日、4月4日、5月25日、6月10日の少なくとも4回あったとされている。国分寺町には昭和19年の時点で日立中研のほか小林理研製作所、東京硝子製作所や軍事関連と考えられる中央工業南部工場（銃工場）、日本航空補機株式会社などいくつかの工場、研究所が戦時下に設立されたが、当地域を直接攻撃目標とするものではなく、中島飛行機製作所や立川飛行機製作所、陸軍航空工廠を擁する武蔵野、立川、八王子など軍需工場が多く集まる三多摩地方を空襲することが目的であったようだ。そのため国分寺町は攻撃機の進入、通過、退去の通路になっており、その際いくつかの余波を被ったものと言える（国分寺市 1991）。当時の状況から11基の防空壕が構築された時期は時間的にあまり差がないものと推察される。戦争が激化するなか日立中研構内においても防空演習が盛んに行われたことであろう。S X 12ごみ穴から見つかった三十年式銃剣は、このことを裏付ける資料と言える。『ふるさと国分寺のあゆみ』（2007）によると西町2-27-8にある観音寺境内には多くの防空壕があったと記されている。しかし、国分寺市内での防空壕の資料は乏しく、今回の調査で纏まって発見されたことは、戦時下の国分寺町の様子を知る上で貴重なものである。なお、S X 102不明遺構は隅丸長方形を呈する大型遺構である。開口部は見当たらないが、形態から戦時下に構築・使用された防空壕或いは何かしらの物資を隠蔽するための掩体豪などの特殊な遺構であった可能性が考えられる。また、S X 100・101・103不明遺構も防空壕が集中する場所に位置することから、戦時中に使用された遺構であったのかもしれない。

3. 国分寺市内の防空壕

次にこれまでに国分寺市内で確認された防空壕について触れておく。今回の調査地点を含めて19地点で防空壕が確認されている（第178・179図・第79表）。そのうち本調査地点を除く7地点8基を掲載する。

2は南町一丁目12-10に所在する。個人住宅建設予定地で建物基礎工事の掘削作業中に、法面から見つかった。工事で室の天井や入口部は壊されて構造の詳細は不明だが、国分寺崖線の斜面を利用した横穴状の地下室である。東西方向に長軸を持つ。規模は残存部で6m×2mである。旧宅の庭先に木枠を巡らした開口部があり、その開口部から奥壁までは7m程である。突き当りで左右と正面側にそれぞれ1室の計3室の空間に分かれている。西側の室の壁面奥に、掘削の際の工具痕が残っていたが、室内には遺留品等はなかった。当該地周辺の中央線南側崖線沿いには同種の横穴状の防空壕が幾つも点在していたようだ（武蔵国分寺跡資料館 2014）。

5は本町三丁目2に所在する。J R国分寺駅北口再開発事業地内にある多根果実店の旧店舗床下から見つかった。地下室は90cm角の方形の間口が1.7mの距離を隔てて2箇所東西に並ぶ竪坑で、その上は鉄板で蓋が被されていた。竪坑は開口部から室底まで約2.7mを測る。地下室の平面は幅1.9m、奥行3.3mのやや東西に長い歪な形状を呈する。断面は天井の中心部分が最も高いドーム形で、天井高は1.7m程を測る。東壁面の中腹付近には柵状のテラスが設けられていて、その右奥壁には鉄製の扉が掛かっていた。戦前に店舗を構えた際に、販売用の果実を保管する目的で掘った地下室だったが、所有者であっ

た方の話では、戦時中の空襲時には家族が待避する防空壕として利用したそうである（武蔵国分寺跡資料館 2014）。

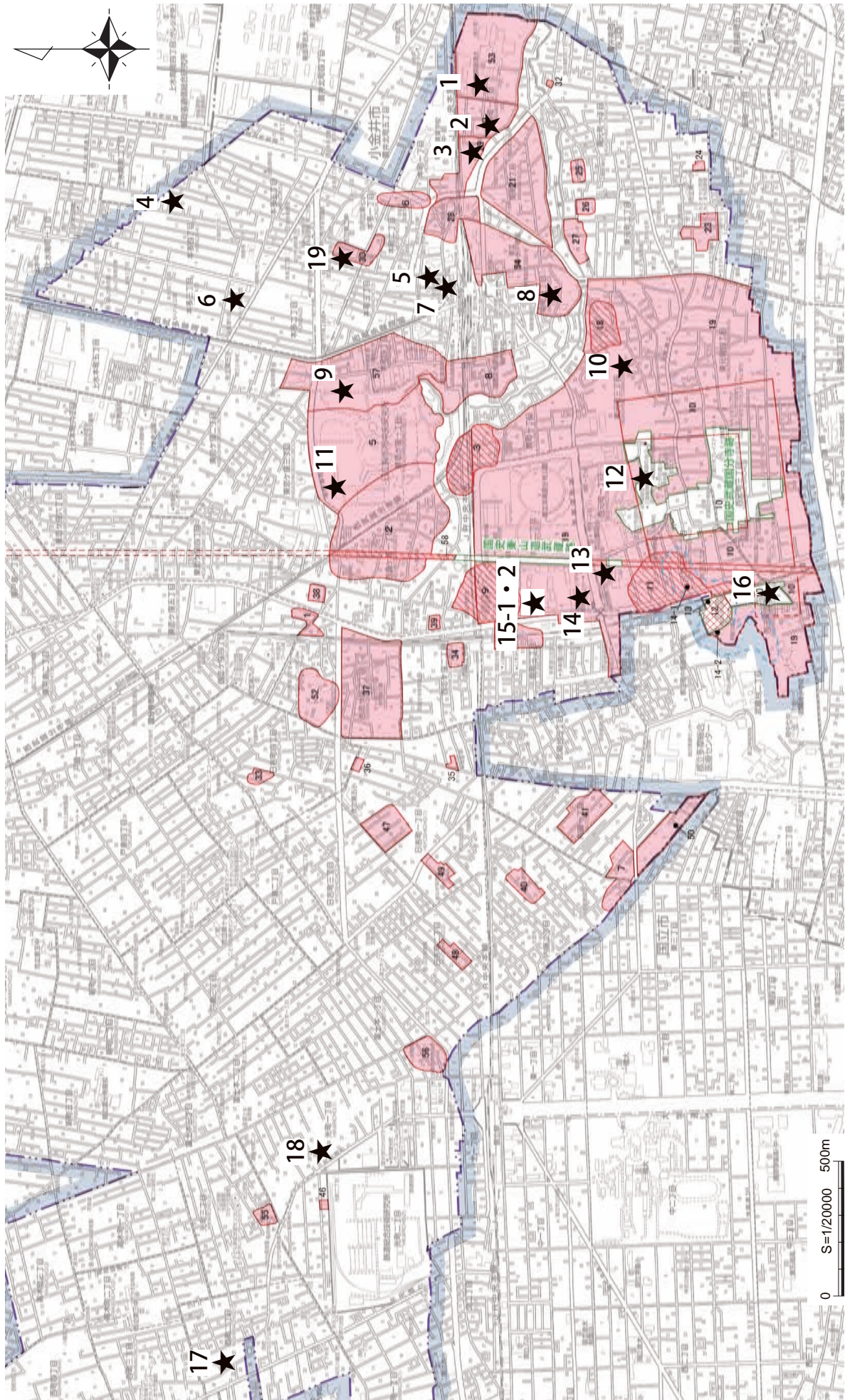
7は本町三丁目1-1番地先に所在する。国分寺駅北口再開発事業地内で確認された。地下室状遺構は竪坑の開口部を持ち、主室と副室に分れている。主室は東西1.1m、南北5.2mを測り、南北に長軸を持つ長方形の平面プランを呈する。竪坑の開口部は主室の南北両端にあり、地表面から底面までの深さは2.9mを測る。坑底付近は第IX～第X層に達しており、主室の底面はほぼ平坦状を呈するがやや南に低く傾斜する。想定天井高は約1.7～2.0m程である。四周を巡る壁面は、垂直に立ち上がる。北壁面は壁底に小室が掘り込まれており、直上の壁上部から開口部にかけてロームを削って緩やかな階段が4段敷設されている。南壁面は中腹に壁面に対して横方向に3段の階段が削り出され、壁面は開口部に向かってやや緩やかに立ち上がる。また、主室東面の北寄りには奥行約2m、幅1.62m、高さ1.6mの不整形形状の副室を伴う。主室から副室へは通路があり、通路部には主室と副室を遮断する木製の扉の痕跡が認められた。さらに、主室西壁にはいたる所に鉄釘を打ち付けた痕跡と見られる円形の鉄錆があり、壁面に何らかの板材が貼ってあったものと思われる。出土遺物は近世から近現代に至る陶磁器やガラス製品、プラスチック製品、硯などが見つかった（増井他 2017）。

13は西元町二丁目17-16に所在する。武蔵国分寺跡第707次調査で確認された。開口部は1m四方の竪坑になっていて、南に向かって横室を伴うものである。天井部は埋没を免れ残存していた。南北方向に長軸を持つ。横室内部の平面形状は、長辺約2.4m、短辺約1.7mの長方形を呈し、床面から天井部までの高さは約1.8mである。天井部はアーチ状で奥に向かって平坦になる。遺物は、近現代の指輪やガラス片、貝殻、陶磁器、絶縁配線器具が出土した。豪の役割を終えた後にごみ捨て場として利用され、やがて埋没したものと考えられる（増井他 2017）。

14は泉町二丁目3・4番に所在する。日影山遺跡の調査で確認されたSX-73である。北東部は攪乱により壊されている。平面形は張出し部を北側にもった柄鏡型を呈する。張出し部は5段程の階段状になっている。南北方向に長軸を持つ。規模は主体部の径8.2m、張出し部は長軸2.4m、短軸1.4m、主体部底面までの深さ1.8mを測る。底面はIV層中段まで掘削され、平坦に構築されているが、中央部は半円状に盛り上がっている。盛り上がり部分の規模は、径3.5m、中心の高さ約40cmを測る。盛り上がり部分の上段に円形のピット4本、周辺部に長方形のピット12本が巡る。北東壁下に周溝状の溝がある。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がるが、上部は急角度で立ち上がる。遺物は、ピット内から釘状の鉄片が1点と拳大より小さな自然礫が多数出土した。支脚等の根固めのものと思われる。規模・形状から高射砲設置跡と考えられたが、確証は得られていない。構造上の特徴から何らかの特殊な性格を有した遺構であったと推測された（西国分寺地区遺跡調査会 1999）。

15-1は泉町二丁目6番に所在する。日影山遺跡の調査で確認されたSX-84である。平面形は東西方向に長軸を持つ、やや楕円状の歪んだ長方形を呈する。規模は長軸8.4m、短軸1.8m、深さ1.0mを測る。底面はIV層中段まで掘削され、ほぼ平坦に構築されているが西側部分は一段上がっている。西壁面は2段の階段状の段差になっているが、他は底面から急角度で立ち上がっている。覆土の堆積状態からは自然埋没と思われる。遺物は底面近くから薬莢および鉄片数点が出土した（西国分寺地区遺跡調査会 1999）。

15-2は15-1と同じ日影山遺跡の調査で確認されたSX-85で、15-1のSX-84のすぐ西側に位置する。南北に長軸を持ち、平面形は長軸中央部分が膨らんだ状態のやや歪んだ長方形を呈する。規模は長軸8.8m、短軸1.7m、深さ1.2mを測る。底面はIV層中段まで掘削し構築されているが凹凸が激しく、5箇所にわたり土坑状の大きな窪みがある。壁の東西面は屈折した立ち上がり方を呈し、底面から中段まではほぼ垂直だがそれより上は外側に向かって急角度で立ち上がっている。また、南北両面は4～5段の階段状になっている。覆土の堆積状態からは自然埋没と思われる。遺物は南側底面近くか



第 178 図 国分寺市内の防空壕分布図

第79表 国分寺市内の防空壕一覧表

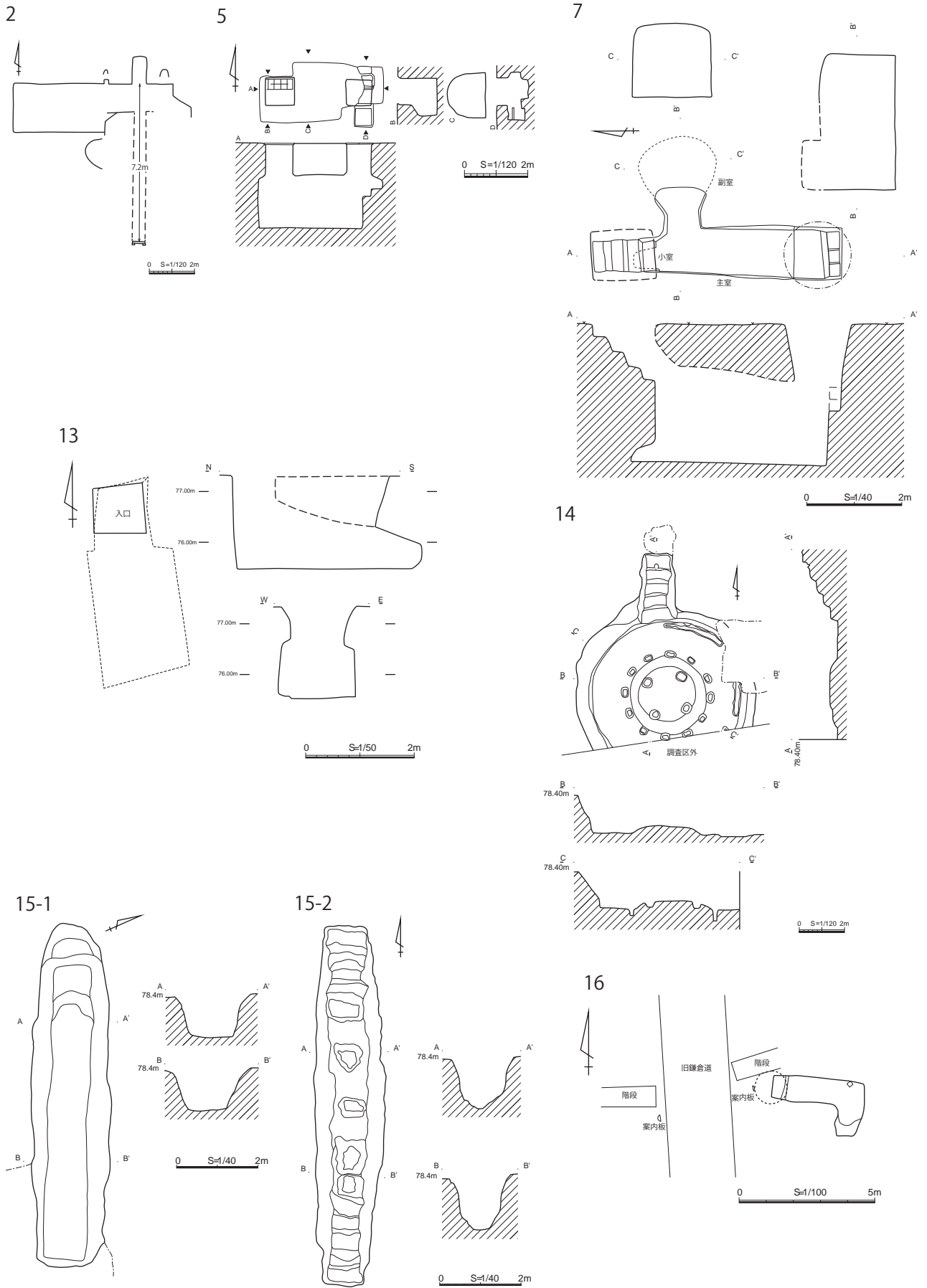
※スクリーントーンは掲載した防空壕

番号	所在地	遺跡名	遺構・規模	遺物	出典
1	南町 1-10-11	東京経済大学構内遺跡	当時の建物の軒先に掘られており、軒先を伸ばす形で屋根が掛けられていた。対空砲弾の時限信管が屋根に当たった。底部はコンクリートで固められていた。		聞取りによる。
2	南町 1-12-10	殿ヶ谷戸北遺跡	東西 6 × 2m (残存部) 横穴壕 南入口から奥壁まで 7m		資料館だより 19 号
3	南町 1 丁目 (中央線南側)	No.29・殿ヶ谷戸北遺跡	横穴壕が並んでいた。		
4	本多 4-13-35	包蔵地外	コンクリート製		聞取りによる。
5	本町 3-2	包蔵地外	東西 3.3 × 1.9 × 高 1.7m 東西二箇所に入口 0.9m 四方 底まで地表から 2.7m		資料館だより 19 号
6	本多 3-2-19	包蔵地外			絵・写真あり。
6	本多 3-2-19	包蔵地外			絵・写真あり。
7	本町 3-1-1 先	包蔵地外	南北 5.2 × 1.1 × 高 1.7 ~ 2.0 (主室), 2.0 × 1.6 × 高 1.6 (副室) 南北階段・梯子	陶磁器 (明治)・大型罫子・陶器製帽子掛け・硯・プラスチック製櫛・絶縁配線器具	平成 27 年度年報 (100-109 頁)
8	南町 3-7-14	花沢東遺跡第 15 次調査			平成 30 年度報告予定 (平成 29 年度概報)
9	東恋ヶ窪 1-280	恋ヶ窪東遺跡			聞取りによる。
10	東元町 3-1436-20	武蔵国分寺跡第 736 次調査	東西 4 × 1.5m (残存部) 横穴壕南入口		平成 31 年度報告予定 (平成 30 年度概報)
11	東恋ヶ窪 1-280	羽根沢遺跡第 6・8 次調査	11 基検出	硝子製品・プラスチック製品・銭貨	羽根沢遺跡第 6・8 次調査 (2018)
12	西元町 1-13-10 (武蔵国分寺跡資料館)	武蔵国分寺跡・史跡地内	東西 横穴壕南入口		写真あり。
13	西元町 2-17-16	武蔵国分寺跡第 707 次調査	約 2.4 × 1.7m × 高さ 1.8m 入口は約 1m, 立坑 入口付近がアーチ状で、奥に向かって平らになる。	指輪・ガラス片・陶磁器・絶縁配線器具	平成 27 年度概報 (61 ~ 79 頁)
14	泉町 2-3 ~ 4 (多喜窪通り沿い)	日影山遺跡	径 8.2+ 張出部 2.3 × 1.4 × 深 1.8m	河原石	日影山・東山道武蔵路 (1999)
15-1	泉町 2-6 (駐車場付近)	日影山遺跡	東西 8.4 × 1.8 × 深 1.0m 西階段	大砲の葉莢と思われる鉄片	日影山・東山道武蔵路 (1999)
15-2	泉町 2-6 (駐車場付近)	日影山遺跡	南北 8.8 × 1.7 × 深 1.2m 南北階段	12.7m 機銃弾 (おそらく日本軍)	日影山・東山道武蔵路 (1999)
16	西元町 4-1	武蔵国分寺跡第 599 次調査	東西 3.4 × 1m (主室) 奥で 屈折し 1m 横穴壕西入口	陶器類 (昭和)・女瓦・石器 (縄文)	平成 16・17 年度年報 (68-69 頁)
17	西町 2-27-8 (観音寺)	包蔵地外	砂利取り穴を転用しているため、深度は礫層。学校の用品を受け入れることができるほどの大きさがあつた。		佐藤多持『戦時下の絵日誌: ある美術教師の青春』けやき出版 (1985)
18	光町 1-29	包蔵地外	崖線沿いの用水を渡ったところにある横穴壕。		聞取りによる。
19	本町 2-25-8	No.30 遺跡		陶磁器・ガラス製品	平成 31 年度報告予定

ら大砲の葉莢と思われる鉄片数点が出土した (西国分寺地区遺跡調査会 1999)。

16は西元町四丁目 1 地内の伝鎌倉街道切通し東側に開口した横穴壕である。武蔵国分寺跡第 599 次調査で確認された。詳細な資料が無いため全様は不明だが、長さ 3.4m、幅約 1 m で東西方向に長軸を持つ。開口部から奥は南に向かって 1 m 程 L 字状に屈曲する。周辺から昭和期の陶器等が採集されている (上敷領 2007)。

国分寺市内の 7 地点で確認された 8 基の防空壕を見てきたが、崖線沿いでは斜面を利用した横穴壕が構築されたようだ。竪坑壕は階段が一部敷設されるものもあるが、基本的には梯子等を据えて昇降していたものと思われる。15-1・2 は開口部に階段施設を有する壕で、本遺跡から検出された長楕円形タイプの地下室状遺構と同類である。また、本遺跡の S X 4 地下室状遺構はその形態から竪坑壕と目される。国分寺市内にはまだ多くの防空壕が存在していたと思われるが、詳細な記録を留めた事例は少ない。戦時下の国分寺町の様子を知る上でこうした防空壕など戦争遺構は貴重な資料であり、今後の調査に委ねたい。なお、市内の防空壕集成データベース (第 178・179 図、第 79 表) は、国分寺市教育委員会の中野純氏より提供を受けた。



第 179 図 国分寺市内の防空壕 (縮尺は任意)

4. 国分寺市周辺の防空壕

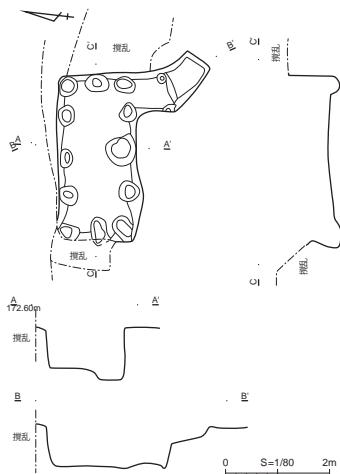
次に国分寺市周辺では、立川市富士見町4丁目に山中坂防空壕跡がある。陸軍立川航空工廠のあった場所で、多くの航空関係施設や工場が集まっていた。残堀川に沿った立川崖線を利用した横穴式の防空壕である。昭和20年4月4日未明の空爆で直撃を受けて、多くの犠牲者を出した。現在では供養のための地蔵堂と歌碑が建立されている（増田 2017）。

西多摩郡日の出町大字平井字三吉野井戸端1454番地他・あきる野市引田字阿岐野13番地他に所在する三吉野遺跡群井戸端地区・阿岐野遺跡からは防空壕が6基検出された（和田他 1999）。陸軍立川航空工廠の分廠である五日市分廠があった場所で、M3・4号防空壕は軍事施設内に、M6号防空壕は旧阿岐留病院の敷地内に構築されている（第180図）。防空壕から出土している遺物は、防空壕の役割を終えた後、ごみ捨て場として使用しているため多数出土している。

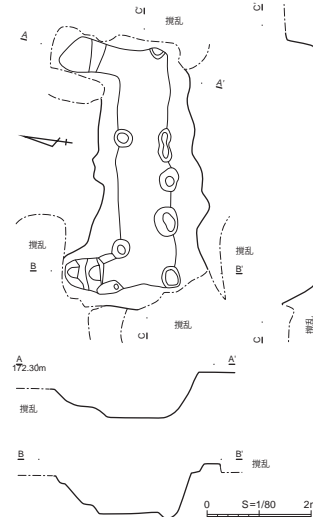
M3号防空壕の平面形はL字形を呈する。南東隅の開口部の階段は1段である。東西に長軸を持ち長径は推定3.2m、短径1.6m、深さ97.4cmを測る。壁際に14本の小穴があり、壁の土留めと屋根支えの柱穴と思われる。防空壕に伴う遺物はない。

M4号防空壕の平面形は鋸形を呈する。開口部は2箇所あり、北東側の階段は1段、北西側の階段は2段である。東西に長軸を持ち長径は残存部で5.3m、短径2.0m、深さ1.1mを測る。壁際に8本の小穴があり、壁の土留めと屋根支えの柱穴と思われる。遺物は陶器、ガラス製品、金属製品等で、調査地

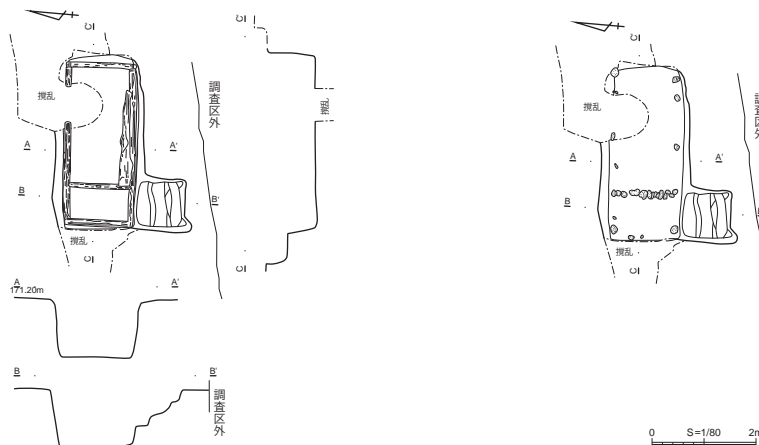
M3号防空壕



M4号防空壕



M6号防空壕



第 180 図 三吉野遺跡群井戸端地区・阿岐野遺跡の防空壕（縮尺は任意）

が軍事施設の一部だったことを示す、真鍮製の飛行機部品が出土している。

M6号防空壕の平面形はL字形を呈する。南側開口部の階段は3段である。東西に長軸を持ち長径は残存部で3.4m、短径1.7m、深さ1.12mを測る。壁際に柱をたてる為の木枠が置かれている。木枠は北側と南側には丸太材、東側と西側には角材が使用されている。地下室内を入口部と地下室に分ける為に使用していた木材も検出された。木枠と壁の間には土留めのための板材が置かれ、板材と壁の間にはローム土が詰められていた。木枠の下には木枠が沈み込まないようにするための礎石が置かれている。遺物は陶磁器、ガラス製品、土師質製品、金属製品等である。

以上、国分寺市内及び周辺地域の防空壕を概観してきたが、全体的に記録が乏しく断片的な資料に限られてしまう。太平洋戦争終戦から70余年、人々の記憶から悲惨な戦争が忘れ去られようとしている昨今、発掘調査によって防空壕の記録を残していく意義は大きい。

中世以降の遺物は、中世の陶磁器、近世の陶磁器・金属製品・石製品・土製品、近現代の陶磁器・ガラス製品・鉄製品である。なかでも特徴的な遺物は、S X12ごみ穴から見つかった戦時中の三十年式銃剣で、日立中研構内で確認された多くの防空壕では、戦時下に防空演習が行われていた様子を知る貴重な資料である。その他、銃剣以外にも時代を象徴するようなガラス製品等の遺物が出土していることにも注目したい。

第5節 自然科学分析

自然科学分析では、旧石器試掘抗T P50の第Ⅶ層から出土した炭化材と縄文時代S S6集石土坑の覆土から出土した炭化材を対象に行ったほか、黒曜石に関しては産地分析を行った。

旧石器試掘抗T P50の炭化物はC14年代では 25770 ± 90 が、暦年代では28415-27631 cal BC (95.4%)という数値が与えられた。これは出土した第Ⅶ層の年代としてはやや新しい年代である。樹種は広葉樹のカバノキ属であった。この時期は寒冷化が進行し、関東平野では冷温帯性落葉樹のカバノキ属と亜寒帯性針葉樹のマツ属の混交林が成立していたと推測されている。S S6集石土坑の炭化物はC14年代では 4490 ± 25 が、暦年代では3339-3206 cal BC (57.4%)及び3196-3095 cal BC (38.0%)という数値が与えられた。これは縄文時代中期前半に相当する。炭化材はクリであった。クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、東日本では中期以降に利用が増加する傾向があり、燃料材などに利用した可能性が示された。

黒曜石の産地分析は蛍光X線分析によって行われた。対象資料は114点である。時代別には縄文時代1点のほかは全て旧石器時代に属するものである。出土層位は縄文時代包含層1点、SD20溝状遺構覆土1点と以下旧石器時代の第Ⅲ層28点、第Ⅲ～Ⅳ層17点、第Ⅳ層6点、第Ⅴ層2点、第Ⅶ層16点、第Ⅸa層2点、第Ⅸ層41点である。産地分析のための基準資料として、栃木県高原山、長野県小深沢・男女倉・星ヶ塔・麦草峠、神奈川県畑宿、静岡県上多賀・柏峠、東京都神津島、新潟県板山、山形県月山の11か所の原産地黒曜石が使用された。分析の結果、原産地は箱根・畑宿59点、伊豆・柏峠48点、神津島3点、和田峠・小深沢3点、下諏訪・星ヶ塔1点であることが示され、本遺跡における黒曜石の原産地の主体が箱根と伊豆であることが判明した。そして時間の経過とともに、黒曜石の原産地の主体は箱根・畑宿から始まり、伊豆・柏峠に移行して行く様相が見られた。主体とする原産地以外の存在もあり、当時の活動の広さが窺える。今回は、炭化材と黒曜石を対象に年代測定と樹種同定および産地分析を行ったが、本遺跡の生活環境を知る上で貴重な分析結果を得ることが出来た。

引用・参考文献

- 蘆田伊人編 1957 「大日本地詩体系（4）」『新編武蔵風土記稿 第4巻』雄山閣
- 安孫子昭二 1974 『貫井南一縄文中期前半の土器』小金井市貫井南遺跡調査報告
- 安孫子昭二・広瀬昭弘他 1979 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ』国分寺市教育委員会・恋ヶ窪遺跡調査会
- 伊藤 健他 2010 『府中市 武蔵国分寺跡関連遺跡・武蔵台遺跡―多摩総合医療センター（仮称）等建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第239集
- 井上慎也 1997 『多摩蘭坂遺跡Ⅱ―都営内藤1丁目第3団地建設に伴う事前調査』国分寺市遺跡調査会
- 今西嘉寿知 1973 「近世幣制の成立」『図録日本の貨幣第2巻』所収
- 今西嘉寿知 1974 「近世幣制の展開」『図録日本の貨幣第3巻』所収
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 小川望他編 2007 『考古学が語る日本の近現代』ものが語る歴史14 同成社
- 小野本敦 2008 『東山道武蔵路発掘調査概報Ⅰ―都市計画道路3・4・6号線築造工事に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 小野本敦 2012 『平成22年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 神奈川考古同人会 1980 『縄文時代中期後半の問題 土器試料集成図集』神奈川考古第10号
- 株式会社日立製作所中央研究所30年史編さん委員会 1972 『日立製作所中央研究所史1』株式会社日立製作所中央研究所
- 上敷領久 1999 『多摩蘭坂遺跡Ⅲ―都営内藤1丁目第4団地建設に伴う事前調査』国分寺市遺跡調査会
- 上敷領久 2003 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅲ―都営本町4丁目団地建設に伴う事前調査』国分寺市遺跡調査会
- 上敷領久 2007 『平成16・17年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 上敷領久他 2007 『花沢西遺跡発掘調査概報Ⅰ』国分寺市遺跡調査会
- 上敷領久他 2008 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅴ』国分寺市教育委員会
- 上敷領久他 2014 『平成24年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 上村昌男他 1991 『国分寺市 No.37 遺跡調査概報Ⅰ』国分寺市遺跡調査会
- 上村昌男 1996 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅶ』国分寺市遺跡調査会
- 上村昌男 2000 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅱ―丸紅株式会社共同住宅建設に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 上村昌男他 2006 『武蔵国分寺跡発掘調査概報26―北方地区・平成8～10年度西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 河内公夫他 1999 『武蔵台遺跡Ⅳ』都立府中病院内遺跡調査会
- 合田芳正他 2005 『武蔵国分寺跡発掘調査概報30』国分寺市遺跡調査会
- 国分寺市市史編さん委員会 1982 『国分寺市史料集（Ⅱ）武蔵野新田開発関係文書・川崎平右衛門関係文書』
- 国分寺市遺跡調査会 2018 『武蔵国分僧寺跡発掘調査報告書』
- 国分寺市教育委員会 2007 『ふるさと国分寺のあゆみ』国分寺市史編さん委員会 ふるさと文化財課
- 国分寺市 1990 『国分寺市史 中巻』国分寺市史編さん委員会
- 国分寺市 1991 『国分寺市史 下巻』国分寺市史編さん委員会
- 小林達雄編 1989 『縄文土器大観 「1.草創期 早期 前期」「2.中期Ⅰ」「3.中期Ⅱ』株式会社 小学館
- 小林達雄編 2008 『総覧縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会 株式会社アム・プロモーション
- 坂詰秀一・上村昌男 2000 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅱ』国分寺市遺跡調査会
- 坂詰秀一・上敷領久 2003 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅲ』国分寺市遺跡調査会
- 実川順一他 1987 『恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報―都営国分寺第8都営住宅建設に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 須川薫雄 1995 『日本の軍用銃と装具』図書刊行会
- 滝口 宏・広瀬昭弘他 1988 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅳ』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 立川明子 2009 『平成19年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 立川明子 2010 『平成20年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 立川明子 2011 『平成21年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 寺前めぐみ他 2013 『平成23年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会

- 戸沢充則 1982 「3 関東地方の先土器時代」『日本の考古学Ⅰ』河出書房
- 永峯光一・広瀬昭弘・秋山道生他 1979 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 永峯光一・広瀬昭弘・秋山道生他 1980 『東京都国分寺市恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ』恋ヶ窪遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 永峯光一・広瀬昭弘・秋山道生他 1982 『東京都国分寺市恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅲ』恋ヶ窪遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 中野晴久 2005 「常滑・渥美」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～実行委員会
- 中村雄紀・上敷領久 2007 『花沢西遺跡発掘調査概報Ⅰ』国分寺市遺跡調査会
- 中村雄紀・森崎一貴 2003 『国分寺市No.37遺跡発掘調査概報Ⅱ—シーズクリエイト株式会社共同住宅建設に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 中村雄紀・上敷領久 2007 『花沢西遺跡発掘調査概報Ⅰ—野村不動産株式会社共同住宅建設工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 西国分寺地区遺跡調査会 1999 『武蔵国分寺跡北方地区日影山遺跡・東山道武蔵路』
- 橋本真紀夫 2012 「縄文時代草創期の地形環境」『国立歴史民族博物館研究報告 第172集』国立歴史民族博物館
- 八王子市宇津木台地区遺跡調査会 1987 『宇津木台遺跡群Ⅸ 1982～84年度（D地区）発掘調査報告所（2）』
- 林 徹他編 2017 『東京都国分寺市恋ヶ窪東遺跡発掘調査報告所 第22次調査』共和開発株式会社
- 林 徹他編 2018 『東京都国分寺市羽根沢遺跡発掘調査報告所 第9・10次調査』共和開発株式会社
- 兵庫県埋蔵銭調査会 1996 『日本出土銭総覧』
- 広瀬昭弘他 1990 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅰ—山一証券国分寺独身寮建設に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 福島宗久他 2003 『武蔵国分寺跡遺跡北方地区—西国分寺地区土地区画整理事業に伴う調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第136集
- 藤澤良祐 2005 「施釉陶器生産技術の伝播」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～実行委員会
- 星野亮勝・上村昌男・上敷領久 1992 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅵ—日立中央研究所研究棟・食堂・プール更衣室建設工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 堀内秀樹 1992 「東京大学本郷構内の遺跡統一編年試案」『江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅰ』江戸陶磁土器研究グループ
- 堀内秀樹 1996 「東京大学本郷構内の遺跡出土陶磁器の編年的考察」『江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ』江戸陶磁土器研究グループ
- 増井有真他 2016 『平成26年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 増井有真他 2017a 『平成27年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』国分寺市教育委員会
- 増井有真他 2017b 『平成27年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 増田康夫 2017 『多摩の戦争遺跡』株式会社新日本出版社
- 町田洋・新井房夫 1976 「広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義」『科学』46
- 町田洋・新井房夫 2003 『新編 火山灰アトラス』東京大学出版界
- 三木 弘 1985 『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅸ—北方地区・鉄道学園内下水道工事に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 三木 弘他 1988 『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅹ—リクルートコスモスマンション建設に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 武蔵国分寺跡資料館 2014.8 『武蔵国分寺跡資料館だより』第19号
- 吉田 格他 1982 『神谷原Ⅱ』八王子市栲田遺跡調査会
- 吉田 格・上村昌男他 1996 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅶ—国分寺市公共下水道面整備中部地区号工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 吉田 格・上村昌男他 1997 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅷ—国分寺市公共下水道面整備工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 依田亮一他 2016 『恋ヶ窪遺跡調査概報Ⅸ第94次調査—日立製作所中央研究所構内純水設備付属建屋建設に伴う調査—』株式会社日立製作所中央研究所・国分寺市遺跡調査会

- 依田亮一他 2018 『国指定史跡武蔵国分僧寺跡発掘調査報告書Ⅱ〔遺物編〕』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 和田 哲 1975 『西上遺跡—縄文中期文化の研究—』昭島市教育委員会
- 和田 哲他 1999 『三吉野遺跡群井戸端地区・阿岐野遺跡発掘調査報告所—都道第165号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財調査—』日の出町遺跡調査会

写真図版



1-1 調査地点周辺の旧景観（上が北 1947年10月24日 米軍撮影）



2-1 調査区俯瞰（上が北）



3-1 A-1区古代確認面調査終了全景(北側東から)



3-2 A-1区古代確認面調査終了全景(中央東から)



3-3 A-1区古代確認面調査終了全景(南側東から)



3-4 A-1区縄文確認面調査終了全景(北側東から)



3-5 A-1区縄文確認面調査終了全景(中央東から)



3-6 A-1区縄文確認面調査終了全景(南側東から)

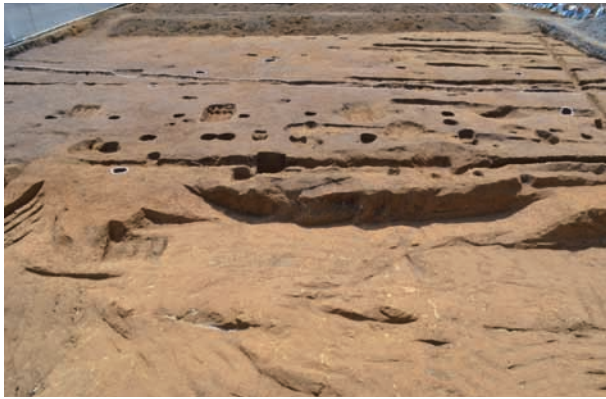


3-7 A-1区旧石器調査終了全景(南から)



3-8 A-2区古代確認面調査終了全景(北側北から)

図版 4



4-1 A-2区古代確認面調査終了全景(中央北から)



4-2 A-2区古代確認面調査終了全景(南側南から)



4-3 A-2区縄文確認面調査終了全景(北側東から)



4-4 A-2区縄文確認面調査終了全景(中央南から)



4-5 A-2区縄文確認面調査終了全景(南側南から)



4-6 A-2区旧石器調査終了全景(北側南から)



4-7 A-2区旧石器調査終了全景(中央南から)



4-8 A-2区旧石器調査終了全景(南側南から)



5-1 A-3区古代確認面調査終了全景(西側南から)



5-2 A-3区古代確認面調査終了全景(東側南から)



5-3 A-3区縄文確認面調査終了全景(西側南から)



5-4 A-3区縄文確認面調査終了全景(東側南から)



5-5 A-3区旧石器調査終了全景(西から)



5-6 A-4区古代確認面調査終了全景(東側北から)



5-7 A-4区古代確認面調査終了全景(西側北から)



5-8 A-4区縄文確認面調査終了全景(東側北から)

図版 6



6-1 A-4区縄文確認面調査終了全景（西側北から）



6-2 A-4区旧石器調査終了全景（北から）



6-3 A-4区南拡張部古代確認面調査終了全景
（北から）



6-4 A-4区南拡張部縄文確認面調査終了全景
（北から）



6-5 A-4区南拡張部旧石器調査終了全景（北から）



6-6 A-4区西拡張部古代確認面調査終了全景
（北から）



6-7 A-4区西拡張部縄文確認面調査終了全景
（北から）



6-8 A-4区西拡張部旧石器調査終了全景（北から）



7-1 B-1区縄文確認面調査終了全景（南から）



7-2 B-1区旧石器調査終了全景（東側南から）



7-3 B-1区旧石器調査終了全景（西側南から）



7-4 B-2区縄文確認面調査終了全景（上が北）



7-5 B-2区縄文確認面調査終了全景（東から）



7-6 B-2区縄文確認面調査終了全景（西から）



7-7 B-2区旧石器調査終了全景（東から）



7-8 B-3区古代確認面調査終了全景（西から）

図版 8



8-1 B-3区縄文確認面調査終了全景（西から）



8-2 B-3区旧石器調査終了全景（西から）



8-3 B-4区古代確認面調査終了全景（北東側西から）



8-4 B-4区縄文確認面調査終了全景（北東側西から）



8-5 B-4区旧石器調査終了全景（北東側西から）



8-6 B-4区縄文確認面調査終了全景（西側東から）



8-7 B-4区縄文確認面調査終了全景（西端側東から）



8-8 B-4区旧石器調査終了全景（西側東から）



9-1 B-4区古代確認面調査終了全景
(東側中央西から)



9-2 B-4区古代確認面調査終了全景(東側西から)



9-3 B-4区縄文確認面調査終了全景
(東側中央西から)



9-4 B-4区縄文確認面調査終了全景(東側西から)



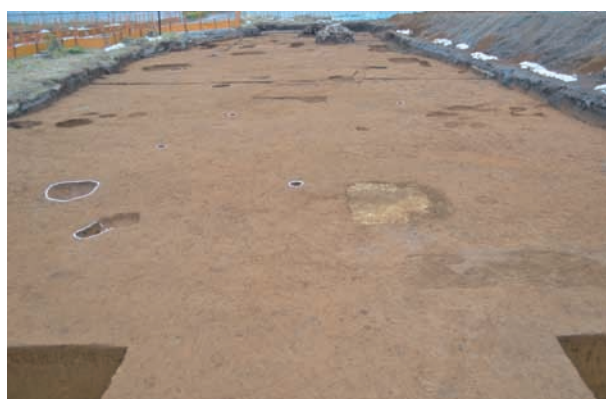
9-5 B-4区旧石器調査終了全景(西から)



9-6 B-5区縄文確認面調査終了全景(北側南から)



9-7 B-5区旧石器調査終了全景(北側南から)



9-8 B-5区縄文確認面調査終了全景(南側北から)

図版 10



10-1 B-5区旧石器調査終了全景（南側北から）



10-2 B-6区縄文確認面調査終了全景（北側南から）



10-3 B-6区旧石器調査終了全景（北側南から）



10-4 B-6区縄文確認面調査終了全景（南側南から）



10-5 B-6区古代確認面調査終了全景（北側東から）



10-6 B-6区縄文確認面調査終了全景（北側東から）



10-7 B-7区縄文確認面調査終了全景（南側西から）



10-8 B-7区縄旧石器調査終了全景（南側南から）



11-1 TP 118 調査終了全景 (西から)



11-2 TP 118 基本層序西壁 (東から)



11-3 TP 121 ST 7 石器集中 (第III層-1北から)



11-4 TP 121 ST 7 石器集中 (第III層-2北から)



11-5 TP 121 ST 7 石器集中 (第IV層北から)



11-6 TP 121 ST 7 石器集中 ナイフ形石器 (No. 2) 出土状況 (第III層東から)



11-7 TP 121 ST 7 石器集中 石核 (No.12) 出土状況 (第III層東から)



11-8 TP 121 ST 7 石器集中 石刃 (No.13) 出土状況 (第III層東から)

図版 12



12-1 TP 121 ST 7石器集中 細石刃 (No.17)
出土状況 (第III層北から)



12-2 TP 121 ST 7石器集中 剥片 (No.34)
出土状況 (第IV層西から)



12-3 TP 3 調査終了全景 (西から)



12-4 TP 3 南壁 (北から)



12-5 TP 3 ST 8石器集中 (第IV層東から)



12-6 TP 3 SC 1炭化物集中 (第IV層南から)



12-7 TP 65 調査終了全景 (北から)



12-8 TP 65 東壁 (西から)



13-1 TP 65 南壁 (北から)



13-2 TP 65 SR 3 礫集中 (第V層北から)



13-3 TP 14 調査終了全景 (北から)



13-4 TP 14 東壁 (西から)



13-5 TP 14 南壁 (北から)



13-6 TP 14 SC 2 a 炭化物集中 (第V層東から)



13-7 TP 52 調査終了全景 (北から)



13-8 TP 52 東壁 (西から)

図版 14



14-1 TP 52 南壁 (北から)



14-2 TP 52 ST 3 石器集中 (第VI層東から)



14-3 TP 17 調査終了全景 (北から)



14-4 TP 17 東壁 (西から)



14-5 TP 17 南壁 (北から)



14-6 TP 17 ナイフ形石器 (No.52) 出土状況 (第V層東から)



14-7 TP 38 調査終了全景 (北から)



14-8 TP 38 東壁 (西から)



15-1 TP 38 南壁 (北から)



15-2 TP 38 ST 1 石器集中 (第VI層北から)



15-3 TP 15 調査終了全景 (北から)



15-4 TP 15 東壁 (西から)



15-5 TP 15 南壁 (北から)



15-6 TP 15 SC 3 炭化物集中 (第VI層北から)



15-7 TP 41 調査終了全景 (北から)



15-8 TP 41 東壁 (西から)

図版 16



16-1 TP 41 南壁 (北から)



16-2 TP 41 SC 5炭化物集中 (第VI層南から)



16-3 TP 43 調査終了全景 (北から)



16-4 TP 43 東壁 (西から)



16-5 TP 43 南壁 (北から)



16-6 TP 43 ST 2石器集中 (第VI・第VII層西から)



16-7 TP 75・76 調査終了全景 (北から)



16-8 TP 75・76 東壁 (西から)



17-1 TP 75・76 南壁 (北から)



17-2 TP 75 ST 4 石器集中 (第VII~第IX層西から)



17-3 TP 76 ST 5 石器集中 (第VII層北から)



17-4 TP 88 調査終了全景 (東から)



17-5 TP 88 西壁 (東から)



17-6 TP 88 南壁 (北から)



17-7 TP 88 ST 6 石器集中 (第VII・第IX層東から)



17-8 TP 50 調査終了全景 (北から)

図版 18



18-1 TP 50 東壁 (西から)



18-2 TP 50 南壁 (北から)



18-3 TP 50 SC 6 炭化物集中 (第VI・第VII層北から)



18-4 TP 74 調査終了全景 (北から)



18-5 TP 74 東壁 (西から)



18-6 TP 74 南壁 (北から)



18-7 TP 74 SC 7 炭化物集中 (第VII層南から)



18-8 TP 30 調査終了全景 (北から)



19-1 TP 30 東壁 (西から)



19-2 TP 30 南壁 (北から)



19-3 TP 30 SC 4炭化物集中 (第IX層北から)



19-4 TP 112 調査終了全景 (南から)



19-5 TP 112 東壁 (西から)



19-6 TP 112 南壁 (北から)

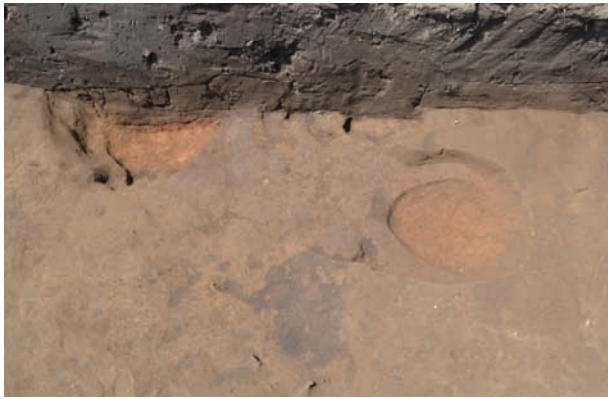


19-7 TP 112 遺物出土状況 (第IX・第X層南から)



19-8 TP 112 使用剥片 (No.70) 出土状況 (第X層南から)

図版 20



20-1 SK 83 J 炉穴完掘全景 (東から)



20-2 SK 83 J 炉穴南北断面 (東から)



20-3 SK 84 J 炉穴完掘全景 (西から)



20-4 SK 84 J 炉穴南北断面 (東から)



20-5 SK 84 J 炉穴遺物出土状況 (南から)



20-6 SS 1 集石土坑検出全景-1 (南から)



20-7 SS 1 集石土坑検出全景-2 (南から)



20-8 SS 1 集石土坑東西断面 (南から)



21-1 SS1集石土坑完掘全景（南から）



21-2 SS2集石土坑検出全景（東から）



21-3 SS2集石土坑南北断面（西から）



21-4 SS2集石土坑完掘全景（東から）



21-5 SS3集石土坑検出全景（南から）



21-6 SS3集石土坑東西断面（南から）



21-7 SS3集石土坑完掘全景（南から）



21-8 SS4集石土坑検出全景（西から）

図版 22



22-1 SS4集石土坑南北断面（西から）



22-2 SS4集石土坑完掘全景（西から）



22-3 SS5集石土坑検出全景（南から）



22-4 SS5集石土坑東西断面（南から）



22-5 SS5集石土坑完掘全景（南から）



22-6 SS6集石土坑検出全景（東から）



22-7 SS6集石土坑東西断面（南から）



22-8 SS6集石土坑炭化物検出状況（北から）



23-1 SS 6 集石土坑完掘全景 (南から)



23-2 SS 7 集石土坑検出全景 (南から)



23-3 SS 8 集石土坑検出全景 (南から)



23-4 SS 9 集石土坑検出全景 (南から)



23-5 SS 10 集石土坑検出全景 (東から)



23-6 SS 10 集石土坑南北断面 (東から)



23-7 SK 33 J 陥し穴完掘全景 (東から)



23-8 SK 33 J 陥し穴南北断面 (西から)

図版 24



24-1 SK 53 J 陥し穴完掘全景 (西から)



24-2 SK 54 J 陥し穴完掘全景 (西から)



24-3 SK 54 J 陥し穴南北断面 (東から)



24-4 SK 55 J 陥し穴完掘全景 (南から)



24-5 SK 55 J 陥し穴東西断面 (南から)



24-6 SK 13 J 土坑完掘全景 (西から)



24-7 SK 13 J 土坑東西断面 (北から)



24-8 SK 16 J 土坑完掘全景 (南から)



25-1 SK 16 J 土坑東西断面 (南から)



25-2 SK 20 J 土坑完掘全景 (西から)



25-3 SK 20 J 土坑南北断面 (西から)



25-4 SK 24 J 土坑完掘全景 (南から)



25-5 SK 24 J 土坑東西断面 (南から)



25-6 SK 27 J 土坑完掘全景 (東から)



25-7 SK 27 J 土坑南北断面 (東から)



25-8 SK 28 J 土坑完掘全景 (東から)

図版 26



26-1 SK 28 J 土坑南北断面 (東から)



26-2 SK 29 J 土坑完掘全景 (東から)



26-3 SK 29 J 土坑南北断面 (東から)



26-4 SK 37 J 土坑完掘全景 (東から)



26-5 SK 37 J 土坑南北断面 (東から)



26-6 SK 38 J 土坑完掘全景 (南から)



26-7 SK 38 J 土坑東西断面 (南から)



26-8 SK 42 J 土坑完掘全景 (東から)



27-1 SK 42 J 土坑南北断面 (東から)



27-2 SK 46 J 土坑完掘全景 (南から)



27-3 SK 46 J 土坑東西断面 (南から)



27-4 SK 49 J 土坑完掘全景 (東から)



27-5 SK 49 J 土坑南北断面 (東から)



27-6 SK 50 J 土坑完掘全景 (東から)



27-7 SK 50 J 土坑南北断面 (東から)



27-8 SK 51 J 土坑完掘全景 (南から)

図版 28



28-1 SK 51 J 土坑東西断面 (南から)



28-2 SK 52 J 土坑完掘全景 (南から)



28-3 SK 52 J 土坑遺物出土状況 (南から)



28-4 SK 52 J 土坑東西断面 (南から)



28-5 SK 57 J 土坑完掘全景 (南から)



28-6 SK 57 J 土坑東西断面 (南から)



28-7 SK 59 J 土坑完掘全景 (北から)



28-8 SK 59 J 土坑東西断面 (北から)



29-1 SK 62 J 土坑完掘全景 (南から)



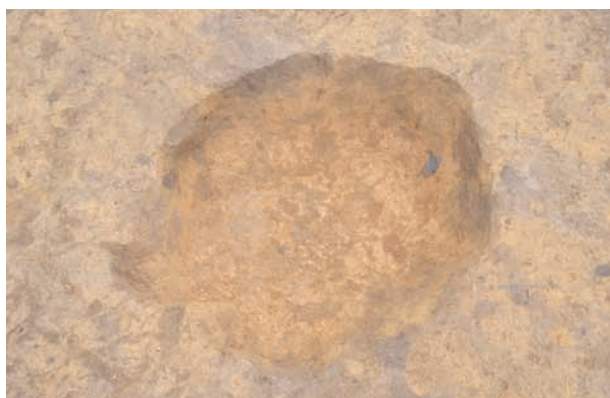
29-2 SK 62 J 土坑東西断面 (南から)



29-3 SK 66 J 土坑完掘全景 (南から)



29-4 SK 66 J 土坑南北断面 (東から)



29-5 SK 67 J 土坑完掘全景 (南から)



29-6 SK 67 J 土坑東西断面 (南から)



29-7 SK 68 J 土坑完掘全景 (東から)



29-8 SK 68 J 土坑南北断面 (東から)

図版 30



30-1 SK 71 J 土坑完掘全景 (南から)



30-2 SK 71 J 土坑東西断面 (南から)



30-3 SK 72 J 土坑完掘全景 (南から)



30-4 SK 72 J 土坑東西断面 (南から)



30-5 SK 75 J 土坑完掘全景 (南から)



30-6 SK 75 J 土坑東西断面 (南から)



30-7 SK 78 J 土坑完掘全景 (南から)



30-8 SK 78 J 土坑東西断面 (南から)



31-1 SK 79 J 土坑完掘全景 (東から)



31-2 SK 79 J 土坑南北断面 (東から)



31-3 PJ-32 小穴完掘全景 (南から)



31-4 PJ-32 小穴東西断面 (南から)



31-5 PJ-45 小穴完掘全景 (南から)



31-6 PJ-45 小穴東西断面 (南から)



31-7 PJ-46 完掘全景 (東から)



31-8 PJ-46 小穴南北断面 (東から)

図版 32



32-1 PJ-55 小穴完掘全景 (南から)



32-2 PJ-55 小穴東西断面 (南から)



32-3 PJ-109 小穴完掘全景 (南から)



32-4 PJ-109 小穴東西断面 (南から)



32-5 PJ-115 小穴完掘全景 (南から)



32-6 PJ-115 小穴東西断面 (南から)



32-7 PJ-127 小穴完掘全景 (南から)



32-8 PJ-127 小穴東西断面 (南から)



33-1 PJ-142 小穴完掘全景 (南から)



33-2 PJ-142 小穴東西断面 (南から)



33-3 PJ-172 小穴完掘全景 (南から)



33-4 PJ-172 小穴東西断面 (南から)



33-5 PJ-175 小穴完掘全景 (南から)



33-6 PJ-175 小穴東西断面 (南から)



33-7 PJ-186 小穴完掘全景 (南から)



33-8 PJ-186 小穴東西断面 (南から)

図版 34



34-1 PJ-193 小穴完掘全景 (南から)



34-2 PJ-193 小穴東西断面 (南から)



34-3 PJ-221 小穴完掘全景 (南から)



34-4 PJ-221 小穴東西断面 (南から)



34-5 PJ-273 小穴完掘全景 (南から)



34-6 PJ-273 小穴東西断面 (南から)



34-7 PJ-297 小穴完掘全景 (南から)



34-8 PJ-297 小穴東西断面 (南から)



35-1 PJ-304 小穴完掘全景 (東から)



35-2 PJ-304 小穴南北断面 (東から)



35-3 PJ-318 小穴完掘全景 (南から)



35-4 PJ-318 小穴東西断面 (南から)



35-5 PJ-373 小穴完掘全景 (南から)



35-6 PJ-373 小穴東西断面 (南から)



35-7 PJ-381 小穴完掘全景 (東から)



35-8 PJ-381 小穴南北断面 (東から)

図版 36



36-1 PJ-417 小穴完掘全景 (東から)



36-2 PJ-417 小穴南北断面 (東から)



36-3 PJ-418 小穴完掘全景 (南から)



36-4 PJ-418 小穴東西断面 (南から)



36-5 PJ-424 小穴完掘全景 (南から)



36-6 PJ-424 小穴東西断面 (南から)



36-7 PJ-447 小穴完掘全景 (南から)



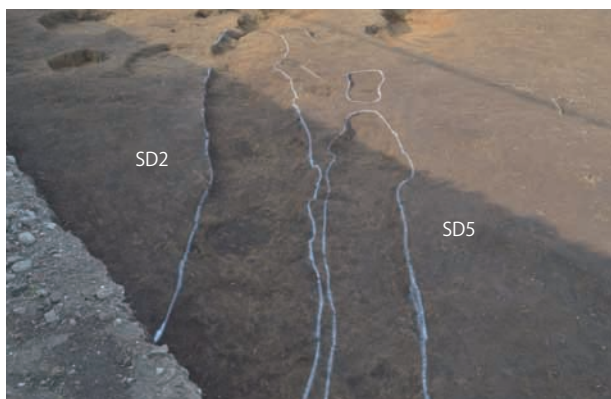
36-8 PJ-447 小穴東西断面 (北から)



37-1 SD1 溝状遺構完掘全景 (東から)



37-2 SD1 溝状遺構南北断面 (西から)



37-3 SD2・5 溝状遺構完掘全景 (南から)



37-4 SD2 溝状遺構東西断面 (南から)



37-5 SD5 溝状遺構東西断面 (南から)



37-6 SD3・4 溝状遺構完掘全景 (北から)



37-7 SD3 溝状遺構東西断面 (南から)



37-8 SD4 溝状遺構東西断面 (南から)

図版 38



38-1 SD6 溝状遺構完掘全景 (南から)



38-2 SD6 溝状遺構東西断面 (南から)



38-3 SD8・9 溝状遺構完掘全景 (東から)



38-4 SD8 溝状遺構西側南北断面 (東から)



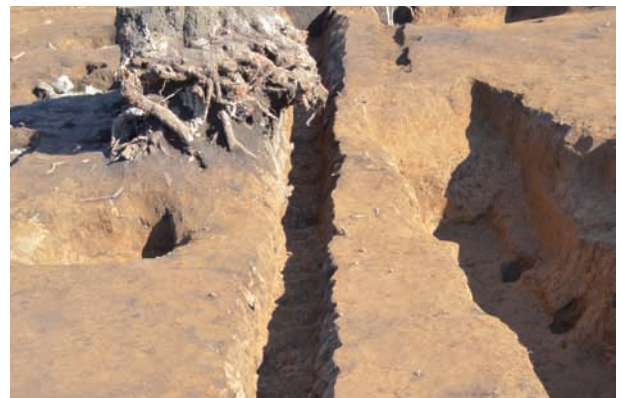
38-5 SD8 溝状遺構東側南北断面 (東から)



38-6 SD9 溝状遺構西側南北断面 (東から)



38-7 SD9 溝状遺構東側南北断面 (東から)



38-8 SD10 溝状遺構完掘全景 (西から)



39-1 SD 10 溝状遺構南北断面 (東から)



39-2 SD 11 溝状遺構完掘全景 (西から)



39-3 SD 11 溝状遺構南北断面 (西から)



39-4 SD 12 溝状遺構東側完掘全景 (西から)



39-5 SD 12 溝状遺構中央完掘全景 (東から)



39-6 SD 12 溝状遺構西側完掘全景 (東から)



39-7 SD 12 溝状遺構南北断面 (東から)



39-8 SD 13 溝状遺構完掘全景 (西から)

図版 40



40-1 SD 13 溝状遺構南北断面 (西から)



40-2 SD 14・15 溝状遺構完掘全景 (東から)



40-3 SD 14 溝状遺構南北断面 (東から)



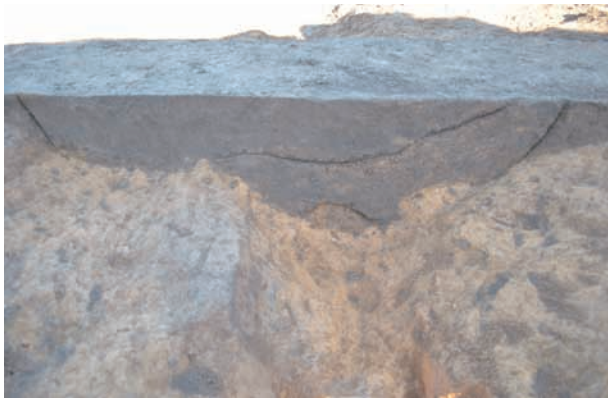
40-4 SD 15 溝状遺構南北断面 (東から)



40-5 SD 16・17 溝状遺構完掘全景 (北から)



40-6 SD 16 溝状遺構東西断面 (南から)



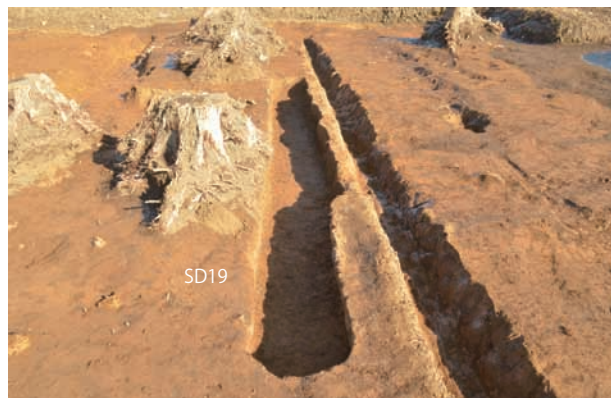
40-7 SD 17 溝状遺構東西断面 (南から)



40-8 SD 18 溝状遺構完掘全景 (東から)



41 - 1 SD 18 溝状遺構南北断面 (東から)



41 - 2 SD 19 溝状遺構完掘全景 (南から)



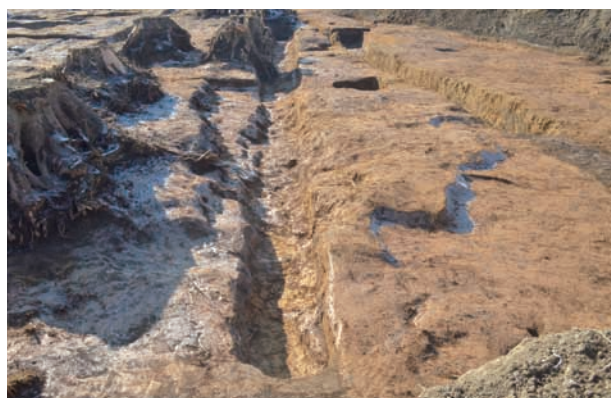
41 - 3 SD 19 溝状遺構東西断面 (南から)



41 - 4 SD 20 溝状遺構完掘全景 (南から)



41 - 5 SD 20 溝状遺構東西断面 (南から)



41 - 6 SD 21 溝状遺構完掘全景 (北から)



41 - 7 SD 21 溝状遺構東西断面 (北から)



41 - 8 SD 22・23 溝状遺構完掘全景 (西から)

図版 42



42-1 S D 22・23 溝状遺構南北断面（西から）



42-2 S D 24 溝状遺構完掘全景（南から）



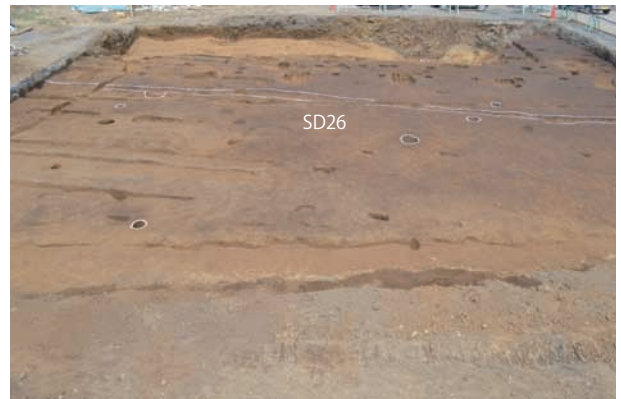
42-3 S D 24 溝状遺構東西断面（南から）



42-4 S D 25 溝状遺構完掘全景（西から）



42-5 S D 25 溝状遺構東西断面（南から）



42-6 S D 26 溝状遺構完掘全景（南から）



42-7 S D 26 溝状遺構南北断面（東から）



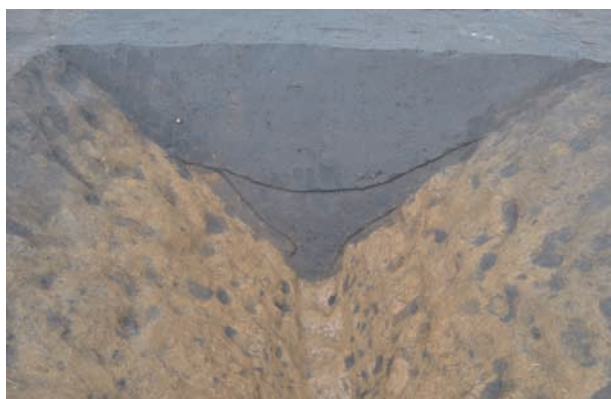
42-8 S D 27・28 溝状遺構北側完掘全景（南から）



43 - 1 SD 27 溝状遺構北側東西断面 (北から)



43 - 2 SD 27・28 溝状遺構南側完掘全景 (南から)



43 - 3 SD 27 溝状遺構南側東西断面 (南から)



43 - 4 SD 28 溝状遺構南側東西断面 (北から)



43 - 5 SD 29 溝状遺構完掘全景 (東から)



43 - 6 SD 29 溝状遺構南北断面 (東から)



43 - 7 SK 31 土坑完掘全景 (東から)



43 - 8 SK 31 土坑南北断面 (東から)

図版 44



44-1 SK 32 土坑完掘全景 (東から)



44-2 SK 32 土坑南北断面 (東から)



44-3 SK 34 土坑完掘全景 (西から)



44-4 SK 34 土坑南北断面 (西から)



44-5 SK 35 土坑完掘全景 (東から)



44-6 SK 35 土坑南北断面 (東から)



44-7 SA 1 柱穴列完掘全景 (南から)



44-8 SA 2・3 柱穴列完掘全景 (西から)



45 - 1 SX1 地下室状遺構完掘全景 (東から)



45 - 2 SX1 地下室状遺構完掘全景 (西から)



45 - 3 SX1 地下室状遺構西側階段 (東から)



45 - 4 SX1 地下室状遺構東側階段 (西から)



45 - 5 SX1 地下室状遺構東西断面 (南東から)



45 - 6 SX2 地下室状遺構完掘全景 (東から)



45 - 7 SX2 地下室状遺構完掘全景 (西から)



45 - 8 SX2 地下室状遺構西側階段 (東から)

図版 46



46-1 S X 3 地下室状遺構完掘全景 (南から)



46-2 S X 3 地下室状遺構完掘全景 (北から)



46-3 S X 3 地下室状遺構南側階段 (北から)



46-4 S X 3 地下室状遺構北側階段 (南から)



46-5 S X 3 地下室状遺構南北断面 (東から)



46-6 S X 4 地下室状遺構完掘全景 (西から)



46-7 S X 4 地下室状遺構東西断面 (南から)



46-8 S X 5 地下室状遺構完掘全景 (西から)



47-1 SX5地下室状遺構東側階段（西から）



47-2 SX5地下室状遺構北側ピット（南から）



47-3 SX5地下室状遺構南側ピット（北から）



47-4 SX6地下室状遺構完掘全景（南から）



47-5 SX6地下室状遺構完掘全景（北から）



47-6 SX6地下室状遺構東側階段（南から）



47-7 SX6地下室状遺構西側階段（南から）



47-8 SX6地下室状遺構南北断面（東から）

図版 48



48-1 SX7地下室状遺構完掘全景（南から→北から）



48-2 SX7地下室状遺構南北断面（東から）



48-3 SX8地下室状遺構完掘全景（南から）



48-4 SX8地下室状遺構東側階段（西から）



48-5 SX8地下室状遺構北側階段（南から）



48-6 SX8地下室状遺構南北断面（西から）



48-7 SX9地下室状遺構完掘全景（北から）



48-8 SX9地下室状遺構完掘全景（西から）



49-1 S X 9 地下室状遺構東側階段 (南から)



49-2 S X 9 地下室状遺構西側階段 (南から)



49-3 S X 9 地下室状遺構底面 (西から)



49-4 S X 9 地下室状遺構副室 (北から)



49-5 S X 9 地下室状遺構南北断面 (西から)



49-6 S X 10 地下室状遺構東側完掘全景 (北から)



49-7 S X 10 地下室状遺構東側階段 (南から)



49-8 S X 10 地下室状遺構東側南北断面 (東から)

図版 50



50-1 S X 10 地下室状遺構西側完掘全景 (南から)



50-2 S X 10 地下室状遺構西側完掘全景 (北から)



50-3 S X 10 地下室状遺構西側東西断面 (北から)



50-4 S X 11 地下室状遺構完掘全景 (西から)



50-5 S X 11 地下室状遺構西側階段 (東から)



50-6 S X 11 地下室状遺構南北断面 (西から)



50-7 S X 100 不明遺構完掘全景 (南から)



50-8 S X 101 不明遺構完掘全景 (北から)



51-1 SX 102 不明遺構完掘全景（北から）



51-2 SX 102 不明遺構南壁（北から）



51-3 SX 103 不明遺構完掘全景（南から）



51-4 作業風景



51-5 作業風景



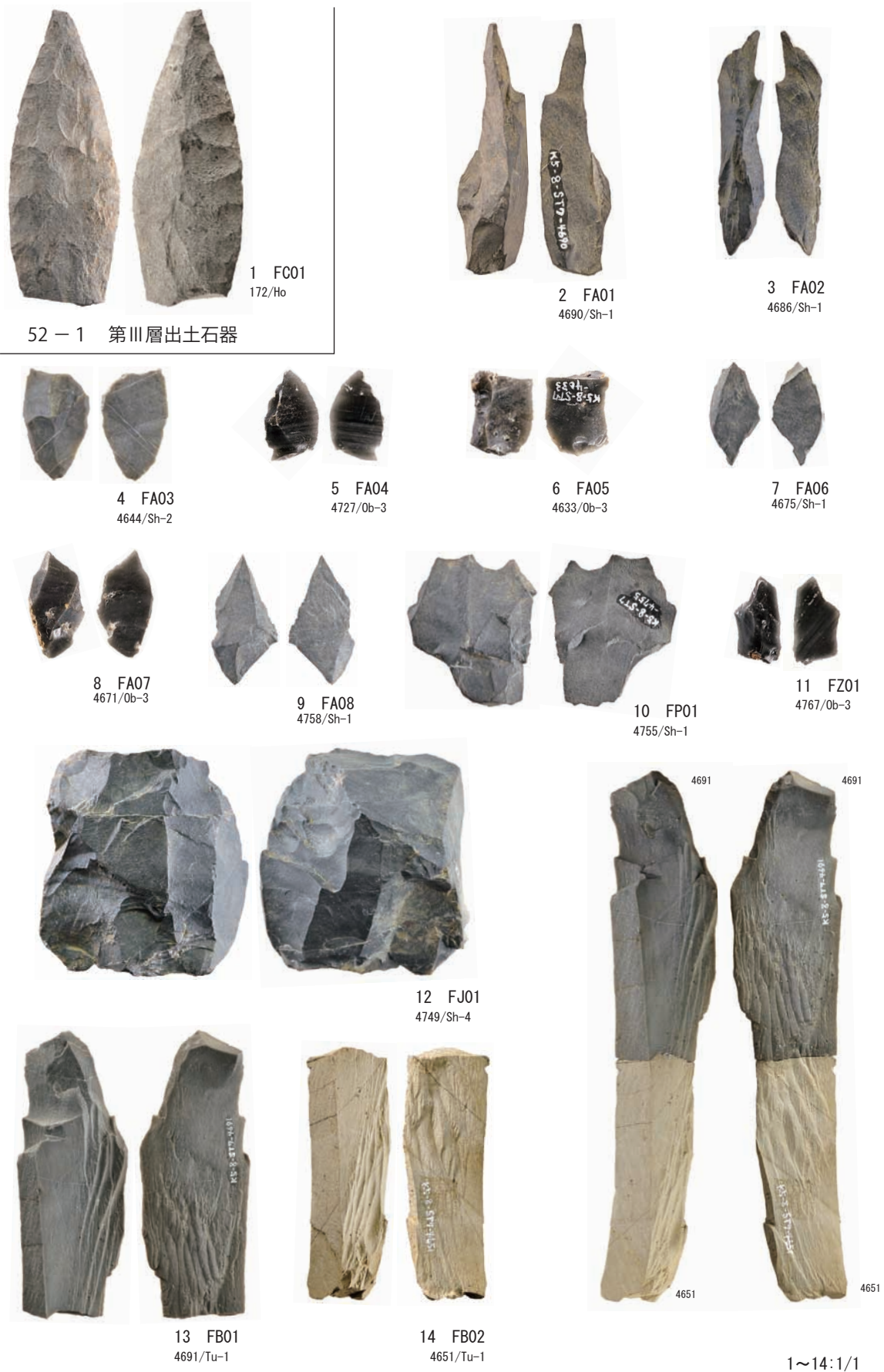
51-6 作業風景



51-7 作業風景



51-8 作業風景



52 - 1 第三層出土石器

52 - 2 第三~第四層出土石器 (1)



15 FB03
4715/Sh-2



16 FH01
4724/Sh-1



17 FH02
4593/Ob-3



18 FH03
4746/Ob-3



19 FH04
4688/Ob-3



20 FH05
4761/Ob-3



21 FH06
4721/Sh-1



22 FH07
4601/Ob-3



23 FL01
4617/Ob-3



24 FL02
4623/Sh-2



25 FL03
4776/Sh-1



26 FL04
4708/Sh-1



27 FL05
4662/Sh-1



28 FL06
4712/Sh-1



29 FL07
4711/Sh-1



14~29:1/1



30 FL08
4737/Sh-1



31 FL09
4719/Sh-1



32 FL10
4706/Sh-1



4706



33 FL11
4698/Sh-1



4698

4775



34 FL12
4775/Sh-1



35 FL13
4695/Sh-2



36 FL14
4773/Sh-2



37 FL15
4611/Sh-2



4611



38 FL16
4613/Sh-1



39 FL17
4603/Sh-1



4603

4613

30~39:1/1



55 - 1 第IV層出土石器 (1)



44 FL21
5556/An-2



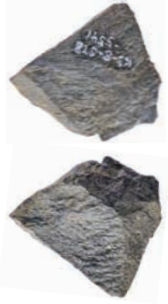
45 FL22
5546/An-2



48 FL25
5545/An-2



49 FL26
5555/An-2



47 FL24
5541/An-2



5549



5549

5545

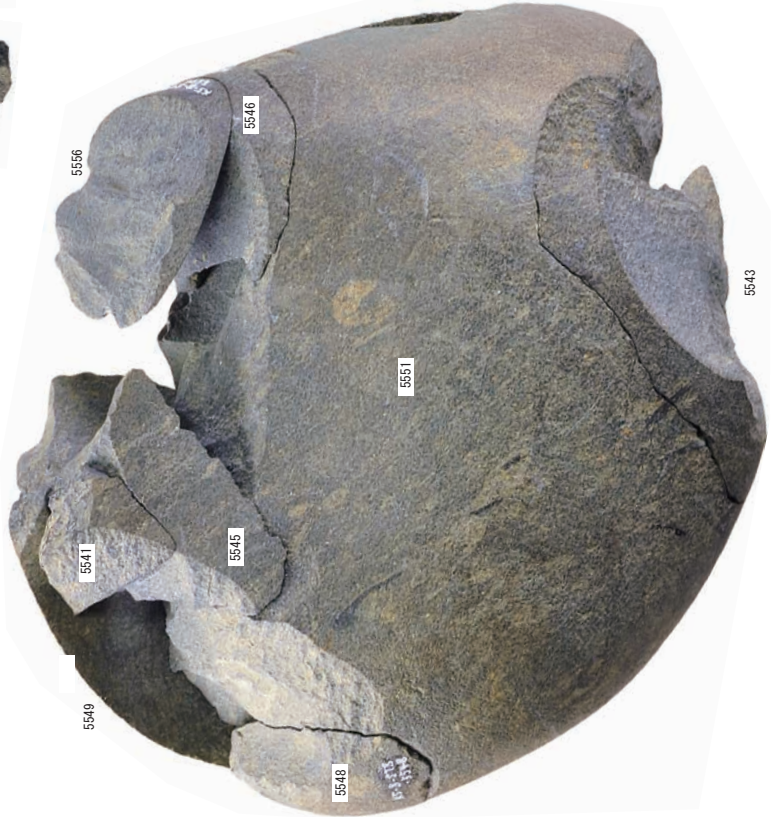
5546

5547

5551

5548

5543



5549

5541

5545

5546

5551

5548

5543

44 · 45 · 47 ~ 49 : 1/1



50 FA09
764/Sh-5



51 FA10
4326/Ob-4



53 FJ03
787/Ch-4



52 FA11
36/Sh-6



57-1 第IV層出土石器

57-2 第V層出土石器



54 FJ04
226/An-4



55 FN01
227/S-1

58 - 1 第VI層出土石器



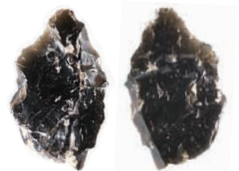
56 FA12
375/Ob-8



57 FZ02
372/Ob-8



58 FA13
387/Ob-8



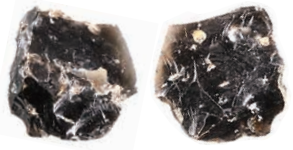
59 FA14
386/Ob-8



61 FA16
882/Ob-9



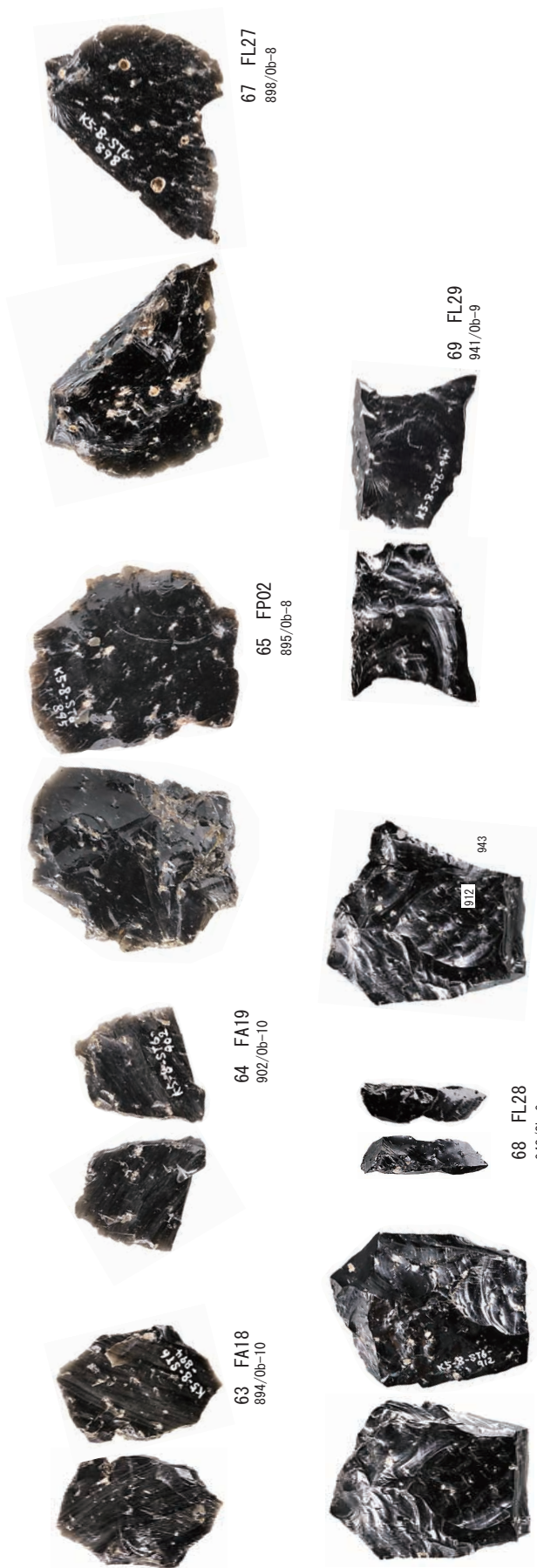
60 FA15
921/Ch-9



62 FA17
904/Ob-8

58 - 2 第VII~第IX層出土石器 (1)

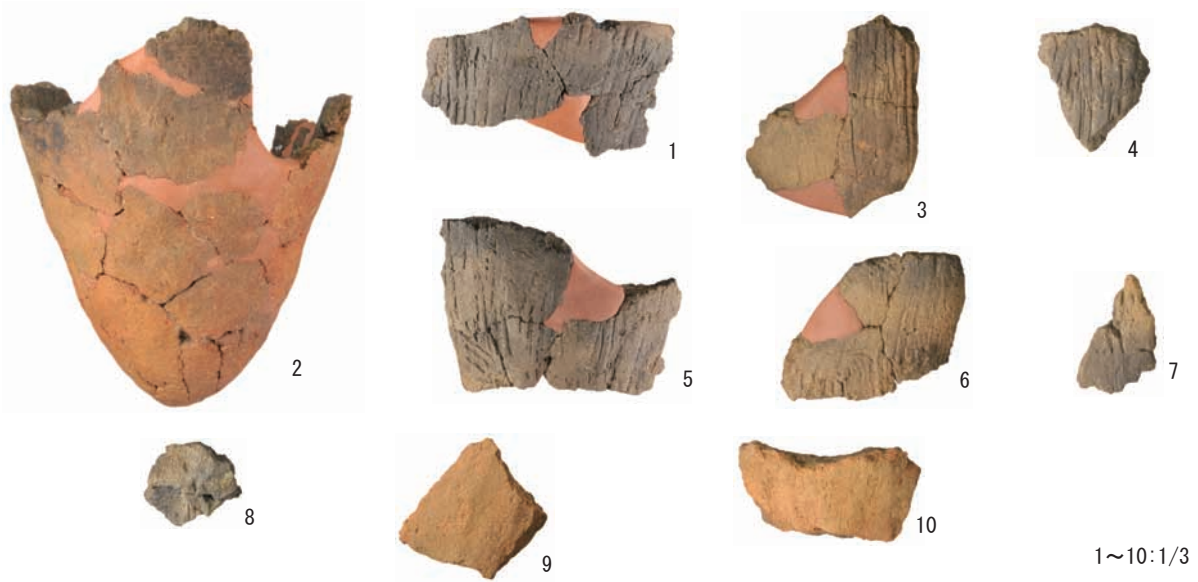
56~62:1/1



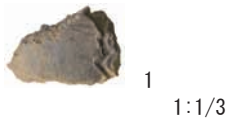
59 - 1 第VII~第IX層出土石器 (2)



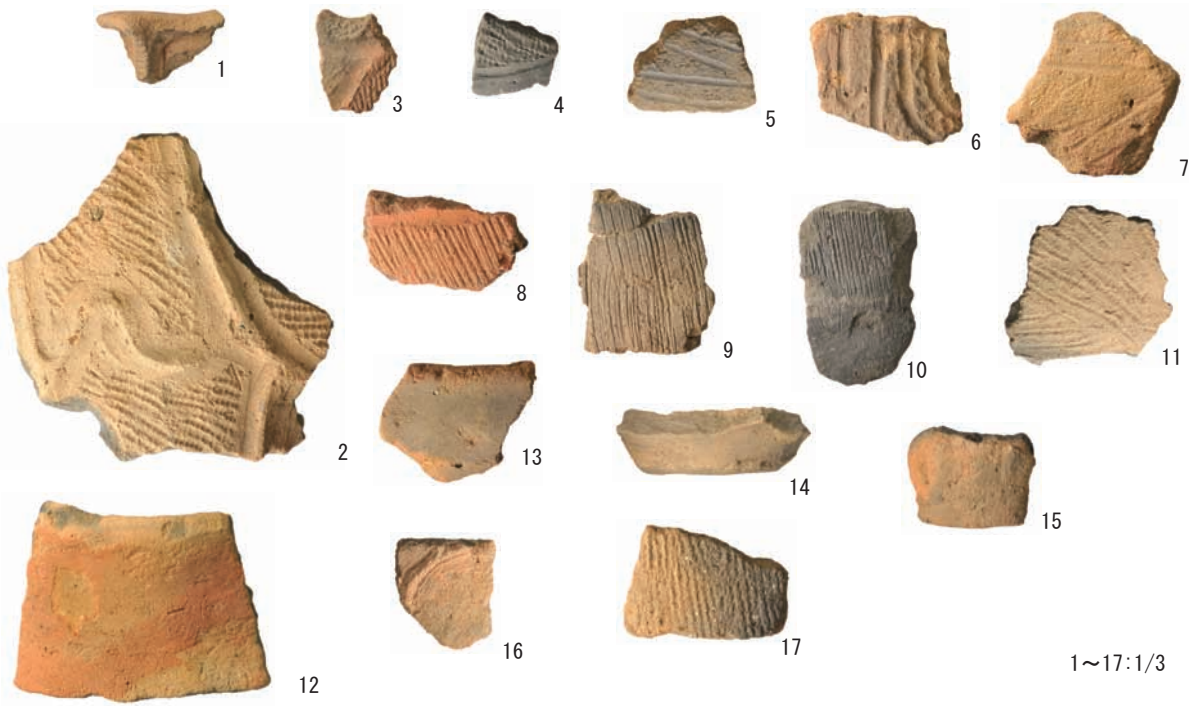
59 - 2 第X層出土石器



60-1 SK 84 J 炉穴出土遺物



60-2 SS 1 集石土坑出土遺物

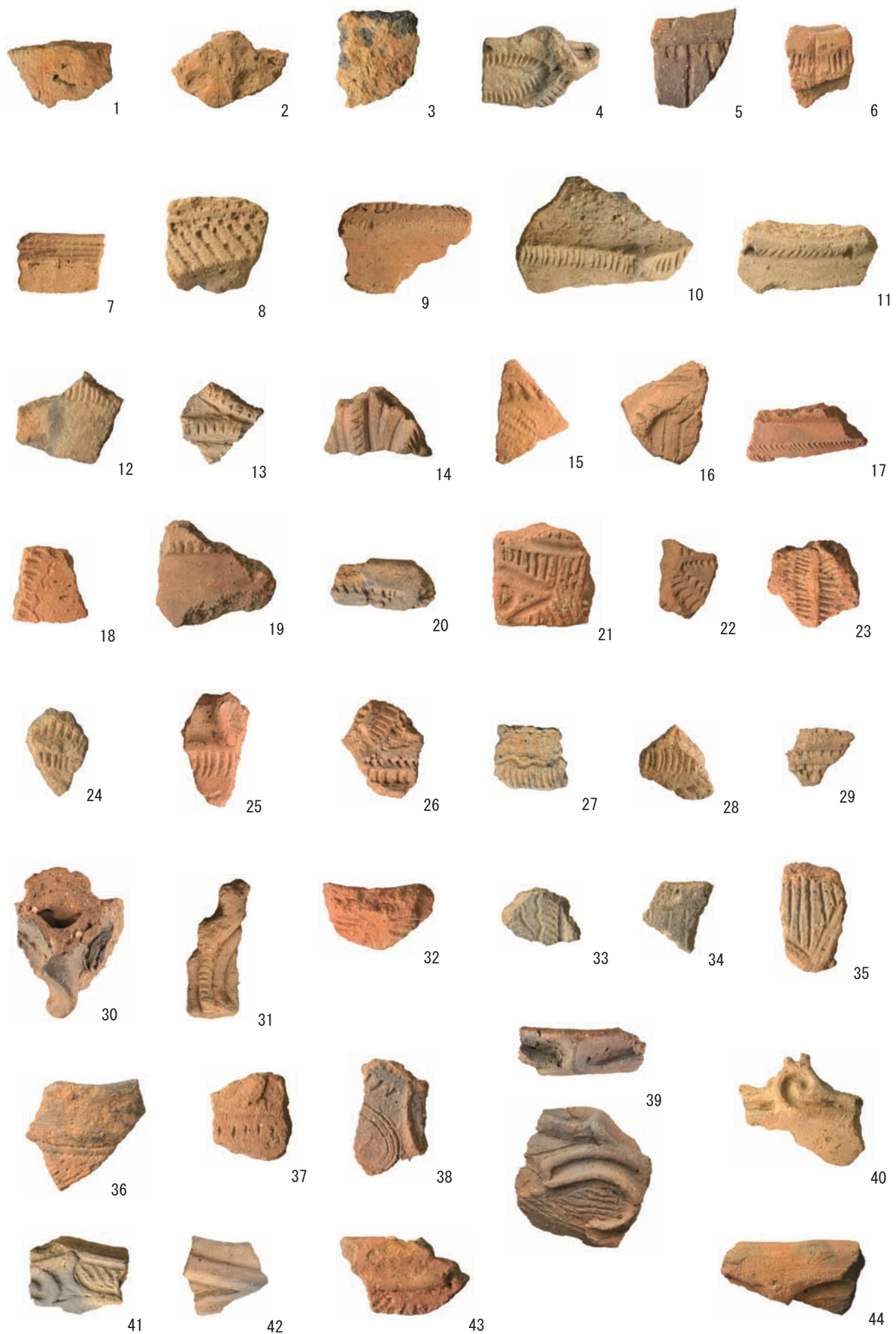


60-3 土坑出土遺物



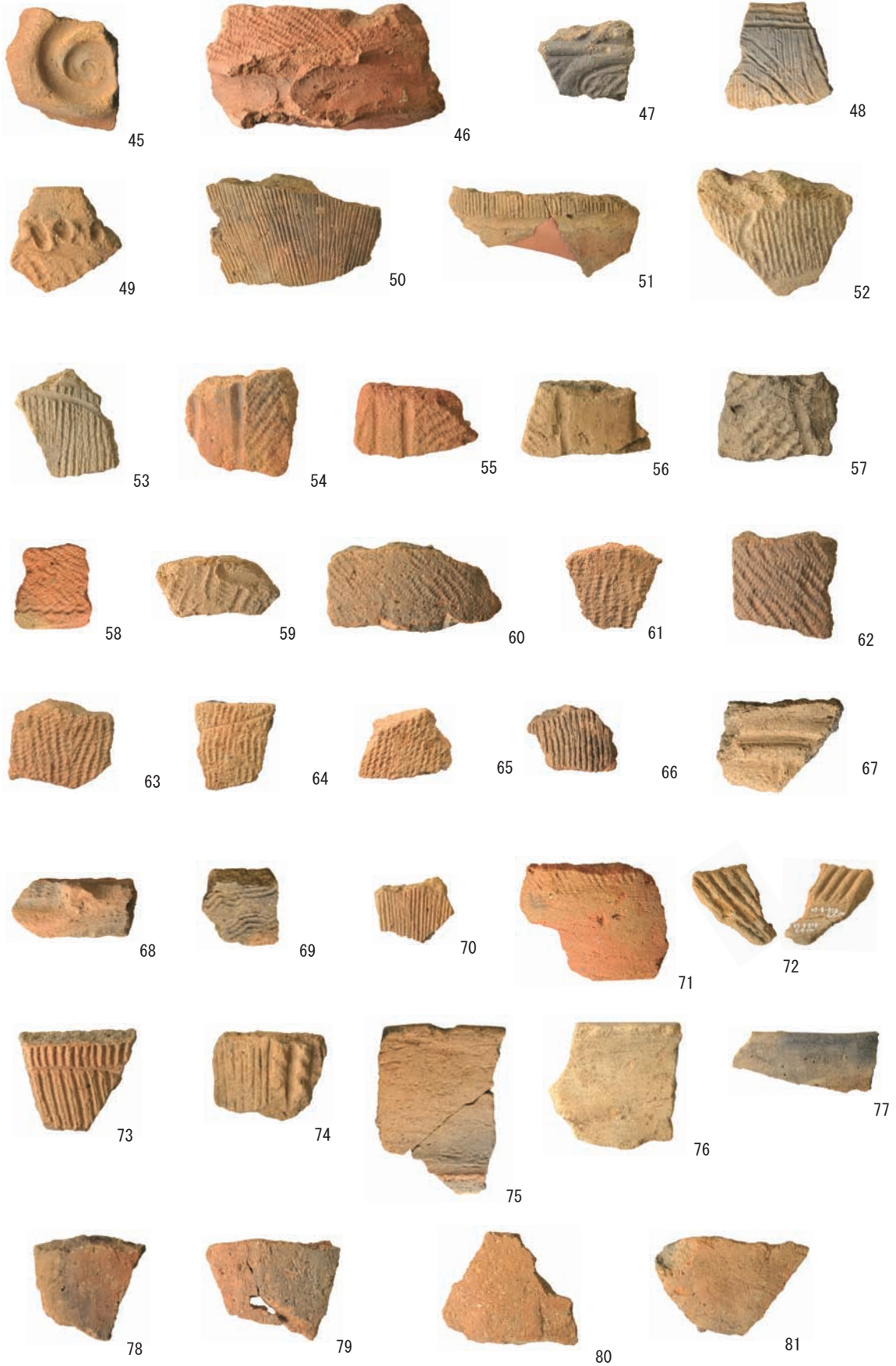
1·2:1/3

60-4 小穴出土遺物



1~44:1/3

61 - 1 縄文時代遺構外出土遺物 (1)



45~81:1/3



82



83

82・83:1/1



84



85



86



87



88

84~88:1/2



64 - 1 縄文時代遺構外出土遺物 (4)

89~93:1/2



94



95



96



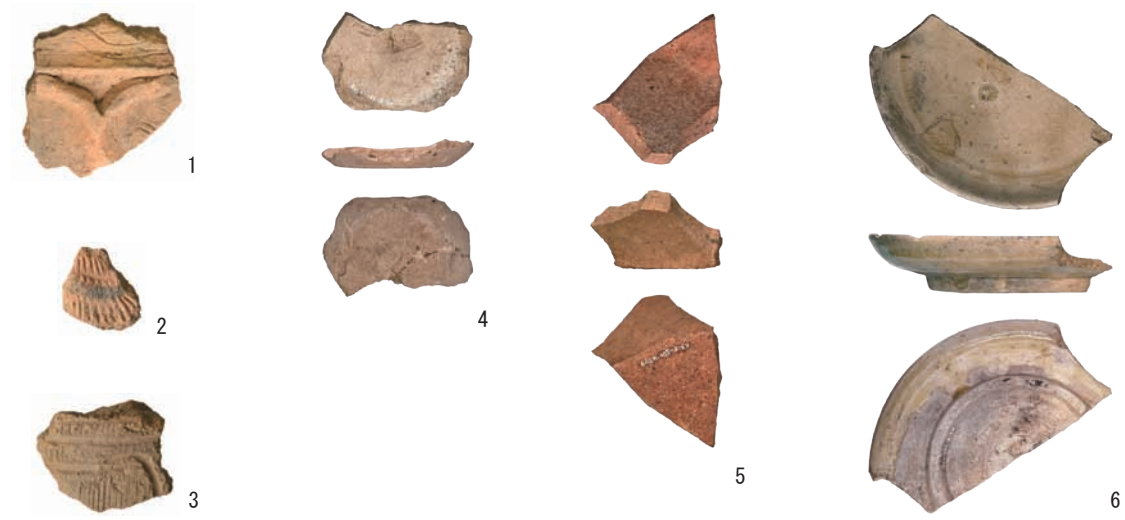
97



98

94~98:1/2

图版 66



66-1 SD 1 溝状遺構出土遺物



1・2, 5~11: 1/3
3・4: 1/2

66-2 SD 8 溝状遺構出土遺物



1~8:1/3
9:1/1

67-1 SD 9 溝状遺構出土遺物



67-2 SD 14 溝状遺構出土遺物



67-3 SD 19 溝状遺構出土遺物



67-4 SD 20 溝状遺構出土遺物



67-5 SD 25 溝状遺構出土遺物



67-6 SD 27 溝状遺構出土遺物





68-1 SK 4 土坑出土遺物



1 · 2:1/3
3:1/1

68-2 SX 6 · 7 · 8 地下室状遺構出土遺物



1~7、9~15:1/3
 8:1/1
 16:1/4

69 - 1 中世以降遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とうきょうとこくぶんじし はねざわいせきはつくつちようさほうこくしよ だい6・8じちようさ							
書名	東京都国分寺市 羽根沢遺跡発掘調査報告書 第6・8次調査							
副書名	公園造成工事及び集合住宅建設工事に伴う調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	石村 崇 伊庭彰一 林 徹 伊藤 茂 佐藤正教 廣田正史 山形秀樹 Zaur Lomtadidze 黒沼保子 三浦麻衣子 二宮修治 依田亮一							
編集機関	共和開発株式会社							
所在地	〒183-0005 東京都府中市若松町2-8-16 第一フラワーマンション601 (TEL) 042-335-1181							
発行年月日	2019年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はねざわいせき 羽根沢遺跡	とうきょうと 東京都 こくぶんじしひがしこいがくほ 国分寺市東恋ヶ窪 ちようめ ほん 一丁目280番	13214	5	35° 42' 15'	139° 28' 18'	2015.04.06 ～2016.10.27	13,745 m ²	公園造成工事及 び集合住宅建設 工事に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
羽根沢遺跡	集落跡	旧石器時代		石器集中部8箇所 礫群3箇所 炭化物集中部7箇所		石器(ナイフ形石器・細 石刃・石核)		自然科学分析の 結果、旧石器時 代の試掘抗TP 50出土の炭化材 はカバノキ属で、 後期旧石器時代 後半に相当する 暦年代を示した。 また、 縄文時代のSS6 集石土坑出土の 炭化材はクリで、 縄文時代中期前 半に相当する暦 年代を示した。
		縄文時代		炉穴2基 集石土坑10基 陥し穴4基 土坑63基 小穴448基		縄文土器(早・中期) 石器		
		奈良・平安時代				須恵器 瓦		
		中世以降		溝状遺構28条 土坑15基 柱穴列3基 地下室状遺構11基 不明遺構4基 小穴4基		陶器 磁器 金属製品 ガラス製品 銃剣 銭貨		
要約	旧石器時代の調査では、石器集中7箇所からナイフ形石器を主体に多様な石器が検出された。縄文時代では、竪穴住居の発見はなかったが、早期の炉穴2基、中期以前の陥し穴4基が検出されたほか、中期の集石土坑や土坑群・小土坑群が南に展開する居住域の北側に広がる様子が伺えた。また、奈良・平安時代の須恵器や銭貨・瓦がわずかに得られた。中世以降では28条の溝状遺構が確認され、日立中研建設前の地籍図によると、溝状遺構の一部は当時の道や畑地の境界に相当することが予想される。11基の地下室状遺構は戦時中に構築・使用された防空壕と見られる。戦時中日立中研構内では防空演習が行われていたことが伺える。ごみ穴から訓練用と思われる三十年式銃剣が見つかった。国分寺市内での防空壕の資料は乏しく、今回纏まって防空壕が見つかったことは、戦時下の国分寺町の様子を知る上で貴重なものである。							

文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なく、この報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出典を明記してください。

この報告書に係る記録図面類（写真を含む）は、国分寺市教育委員会で保管していますので、利用する場合は国分寺市教育委員会に連絡して、必要な手続きをとってください。

第2編

東京都国分寺市

恋ヶ窪遺跡発掘調査報告書

第100次調査

— 日立製作所中央研究所構内特高変電所建設工事に伴う調査 —

2019年1月

共和開発株式会社

例 言

1. 本書は、東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目 280 番 4 に所在する恋ヶ窪遺跡（国分寺市 N0.2 遺跡）第 100 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社日立製作所中央研究所・国分寺市教育委員会・共和開発株式会社の三者による協定を締結し、国分寺市教育委員会が実施し、共和開発株式会社が支援業務を行なった。
3. 本調査にかかる費用は、全て株式会社日立製作所中央研究所が負担した。
4. 発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業は、下記の期間に実施した。
現地発掘調査 平成 29 年 12 月 13 日から平成 30 年 1 月 25 日
出土品等整理作業 平成 30 年 1 月 29 日から平成 30 年 7 月 20 日
報告書作成作業 平成 30 年 7 月 30 日から平成 31 年 1 月 31 日
5. 発掘調査・出土品等整理・報告書作成作業は以下の体制で実施し、発掘調査は国分寺市教育委員会の増井有真・島田智博が担当し、発掘調査および出土品等整理・報告書作成作業の一部は、共和開発株式会社へ委託し、本山真一（現場代理人）・伊庭彰一・林 徹が作業を補佐した。
6. 本書の編集は、伊庭彰一が中心となっており、各原稿の執筆分担は以下の通りである。
第 1 章 島田智博
第 2・3 章 伊庭彰一
第 4 章 伊庭彰一・林 徹
第 5 章 依田亮一（国分寺市教育委員会）
7. 遺跡の略記号は「K 2 - 100」とし、図面・写真や出土遺物の注記等はこの表記を用いた。
8. 発掘調査における出土遺物および図面・写真等の記録類は、一括して国分寺市教育委員会で保管している。
9. 発掘調査および出土品等整理・報告書作成作業の参加者は、以下のとおりである。
川戸直子 齋藤京子 後藤克樹 佐藤 徹 高田彩子 高森裕一 武内良太 土田雅美 福井泰弘

凡例

1. 遺構の表記は、以下の略号を用いた。また、縄文時代の遺構については、集石を除き末尾に「J」を付した。
S I：竪穴建物跡 S D：溝 S K：土坑 P J：縄文時代小穴
2. 遺構平面図・断面図で使用した標高はT. P. (Tokyo Peil) である。国家座標については世界測地系座標を使用している。
3. 調査区内のグリッドは、国家座標系に合わせて3 m × 3 m で設定し、南北はアルファベット、東西はアラビア数字で表記した。
4. 実測図の縮尺については、それぞれの図に記した。
5. 遺構平面図・断面図で使用した線種は以下のとおりである。

----- 推定線 - - - - - 攪乱 オーバーハンゲ

6. 挿図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

遺構

//// //// //// //// //// 断面地山

7. 遺構・遺物に関する表において、() は推定値、[] は残存値を表す。また、単位には特に記載のないものはすべて「cm」、重さは「g」である。
8. 遺物実測図および遺物写真に付した番号は、掲載番号－遺物記号、番号の順で表記し、「1－JE01」の様に記載した。
9. 遺物記号は以下のとおりである。
中世以降
 中近世陶器 PT
縄文時代
 土器：中期前半 JE 中期後半 JF 土製品 DE
 石器：打製石斧 AG 石鏃 AB 石核 AW 磨石 AL 剥片 AT
10. 石質については、以下の略称を用いた。
 チャート (Ch) 黒曜石 (Ob) 砂岩 (Sa)

目次

例言

凡例

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 調査地区の概観	2
第1節 遺跡の立地と地理的環境	2
第2節 周辺の遺跡	2
第3節 基本層序	12
第3章 調査経過	14
第1節 調査方法	14
1. 発掘調査の工程	14
2. 調査の記録	14
第2節 調査経過	14
第3節 整理作業の方法	15
第4節 整理作業の経過	15
第4章 遺構と遺物	17
第1節 縄文時代	17
1. 遺構	17
(1) 竪穴住居	17
(2) 土坑	20
(3) 小穴	20
2. 遺物	24
(1) 縄文土器	24
(2) 石器	24
第2節 中世以降	26
1. 遺構	26
(1) 溝状遺構	26
(2) 土坑	26
第5章 総括	29
引用・参考文献	31
写真図版	
報告書抄録	
奥付	

挿図目次

第 1 図	遺跡の位置	3	第 9 図	S I 1 J 竪穴住居	18
第 2 図	調査地点と周辺の埋蔵文化財包蔵地	4	第 10 図	S I J 竪穴住居出土遺物	19
第 3 図	恋ヶ窪遺跡の既往の発掘調査地点位置図	6	第 11 図	S K 1・5～7 J 土坑・P J—1 小穴	21
第 4 図	周辺の地形図	11	第 12 図	S K 1・5・6 J 土坑出土遺物	22
第 5 図	旧石器試掘抗配置図・基本層序 (TP1 南壁)	12	第 13 図	遺構外出土遺物	25
第 6 図	旧石器試掘抗断面図	13	第 14 図	S D 1 溝状遺構・S K 2～4 土坑	27
第 7 図	調査区グリッド位置図・区割図	15	第 15 図	S D 1 溝状遺構・S K 2～4 土坑出土遺物	28
第 8 図	遺構配置図と遺物分布図	16	第 16 図	恋ヶ窪遺跡の竪穴住居分布図	30

表目次

第 1 表	周辺遺跡一覧表	5	第 8 表	武蔵国分寺跡 (国分寺市 No.19) 調査履歴表	11
第 2 表	羽根沢遺跡 (国分寺市 No. 5) 調査履歴表 (昭和 52 年～平成 29 年度)	7	第 9 表	S I 1 J 竪穴住居出土縄文土器観察表	19
第 3 表	恋ヶ窪東遺跡 (国分寺市 No.57) 調査履歴表 (昭和 52 年～平成 28 年度)	7	第 10 表	S I 1 J 竪穴住居出土石器観察表	19
第 4 表	恋ヶ窪遺跡 (国分寺市 No. 2) 調査履歴表 (昭和 49 年～平成 29 年度) 1	8	第 11 表	土坑出土縄文土器観察表	23
第 5 表	恋ヶ窪遺跡 (国分寺市 No. 2) 調査履歴表 (昭和 49 年～平成 29 年度) 2	9	第 12 表	土坑出土土製品観察表	23
第 6 表	恋ヶ窪南遺跡 (国分寺市 No. 3) 調査履歴表	10	第 13 表	土坑出土石器観察表	23
第 7 表	花沢西遺跡 (国分寺市 No. 8) 調査履歴表	10	第 14 表	遺構外出土縄文土器観察表	25
			第 15 表	遺構外出土石器観察表	25
			第 16 表	溝状遺構・土坑出土縄文土製品観察表	28

写真図版目次

図版 1	1 調査区西側 A 区古代確認面調査終了全景 (東から)	7 S I J 竪穴住居遺物出土状況 (北から)
	2 調査区西側 A 区縄文確認面調査終了全景 (東から)	8 S I J 竪穴住居遺物出土状況 (北から)
	3 調査区西側 B 区古代確認面調査終了全景 (北から)	図版 4
	4 調査区西側 B 区縄文確認面調査終了全景 (北から)	1 S I J 竪穴住居 P 1 完掘全景 (南から)
	5 調査区西側 C 区古代確認面調査終了全景 (東から)	2 S I J 竪穴住居 P 2 完掘全景 (南から)
	6 調査区西側 C 区縄文確認面調査終了全景 (東から)	3 S I J 竪穴住居 P 3・7 完掘全景 (東から)
	7 調査区西側 D 区古代確認面調査終了全景 (北から)	4 S I J 竪穴住居 P 4 完掘全景 (北から)
	8 調査区西側 D 区縄文確認面調査終了全景 (北から)	5 S I J 竪穴住居 P 5・6 完掘全景 (東から)
図版 2	1 調査区西側旧石器調査終了全景 (東から)	6 S K 1 J 土坑完掘全景 (東から)
	2 調査区東側古代確認面調査終了全景 (北から)	7 S K 5 J 土坑完掘全景 (東から)
	3 調査区東側縄文確認面調査終了全景 (北から)	8 S K 5 J 土坑遺物出土状況 (東から)
	4 調査区東側旧石器調査終了全景 (北から)	図版 5
	5 1 号試掘抗完掘全景 (北から)	1 S K 6 J 土坑完掘全景 (北から)
	6 2 号試掘抗完掘全景 (北から)	2 S K 7 J 土坑完掘全景 (東から)
	7 3 号試掘抗完掘全景 (北から)	3 P J—1 小穴完掘全景 (東から)
	8 S I J 竪穴住居検出全景 (北から)	4 S D 1 溝状遺構完掘全景 (西から)
図版 3	1 S I J 竪穴住居完掘全景 (北から)	5 S D 1 溝状遺構南北断面 (西から)
	2 S I J 竪穴住居完掘全景 (西から)	6 S K 2 土坑完掘全景 (北から)
	3 S I J 竪穴住居硬質面 (北から)	7 S K 3 土坑完掘全景 (北から)
	4 S I J 竪穴住居東西断面 (北から)	8 S K 4 土坑完掘全景 (東から)
	5 S I J 竪穴住居遺物出土状況 (北から)	図版 6
	6 S I J 竪穴住居遺物出土状況 (北から)	1 S I 1 J 竪穴住居出土遺物
		2 S K 1・5・6 J 土坑出土遺物
		図版 7
		1 縄文時代遺構外出土遺物
		2 S D 1 溝状遺構・S K 2～4 土坑出土遺物

第1章 調査に至る経緯

株式会社日立製作所中央研究所（以下日立中研）は東京都国分寺市東恋ヶ窪1丁目に所在し、三方を野川の開析谷に囲まれた野川源流域の舌状台地上に位置する。敷地は20万㎡を優に超え、武蔵野の面影を残す貴重な自然が残されている。野川の源泉を崖下に臨み、水利に恵まれた集落を営むに優れた当地周辺では、既往の調査で縄文時代中期を中心とする竪穴住居・土坑等の遺構・遺物が数多く出土している。

こうした環境にある日立中研内で、「日立製作所中央研究所構内特高変電所更新計画」工事が実施されることとなった。これに伴い、平成29年9月20日に日立中研から国分寺市教育委員会ふるさと文化財課（以下、市教委と略）へ埋蔵文化財の取り扱いについて照会が寄せられた。建設予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である恋ヶ窪遺跡（国分寺市No. 2遺跡）に該当するため、市教委は日立中研に対し文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出の提出が必要であることを伝えた。

その後、平成29年9月28日付で日立中研から文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された（国教教ふ収第654号）。特高変電所建物の基礎構造は深度1.4mを超える掘削を伴うため、遺跡への影響が及ぶ可能性が想定された。

このため市教委は「工事等により埋蔵文化財が掘削されるため事前調査が必要である」との意見を付けて東京都教育委員会（以下、都教委と略）へ届出を進達するとともに、日立中研へその旨を明記した埋蔵文化財協議書を返送した。

返送後、ただちに市教委は日立中研と工事に先立つ発掘調査実施に向け調整を行い、平成29年12月12日付で日立中研、市教委、及び株式会社共和開発（以下、共和開発と略）の3者間で「株式会社日立中央研究所 特高変電所更新計画」工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結した。発掘調査は市教委が主体となり、共和開発が請負う形で12月12日に開始し、翌平成30年1月31日まで実施し、調査期間中は市教委学芸員が適宜調査についての必要事項を指示・指導・確認を行うこととした。調査終了後は、引き続き共和開発が出土品整理の実務作業を行い、報告書を作成することとした。なお報告書の刊行は、北側隣接地で平成27年から28年に実施した『(仮称)国分寺市東恋ヶ窪1丁目計画工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（羽根沢遺跡第6・8次調査）』に合わせて収載した。

なお本発掘調査で出土した遺物については、平成30年1月31日付で市教委から都教委へ埋蔵文化財保管証が提出され（国教教ふ発第193号）、都教委から市教委へ同年2月15日付で「埋蔵物の文化財認定について（通知）」（29教地管理第2551の2）が送付された。

第2章 調査地区の概観

第1節 遺跡の立地と地理的環境

今回の調査地点は国分寺市東恋ヶ窪一丁目280番に所在する株式会社日立製作所中央研究所の構内の西辺部に位置し、恋ヶ窪遺跡（国分寺市N0. 2）の中央北部に相当する（第1・2図）。

野川は、関東南部の扇状台地である武蔵野台地の南部を東流し、恋ヶ窪遺跡は、その水源域に広がる遺跡群のひとつである。武蔵野台地は関東西部の山地より東京湾に向かって東へ緩やかに傾斜する、東西50km、南北40kmに及ぶ広大な台地である。その中央部から東方には湧水を集めた河川によって4万年以上前に開析された谷地形が数多く見られるが、特に南部では古多摩川の大規模な浸食によって「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として、上位の武蔵野段丘と下位の立川段丘とに区分され、両段丘の比高差は、その後に火山灰等の土壌堆積も追加され、現在10～20mを有する。

この崖線に沿って、湧水を集めて東流する多摩川の支流のひとつが野川である。野川の源流は日立中央研究所の構内で、東側を南北に走る「さんや谷」と南から西方に伸びる「恋ヶ窪谷」の二股に分かれるが、恋ヶ窪遺跡は両者に挟まれた東西約600m、南北約400m、標高約76.5mの舌状台地上に位置する（第3・4図）。

今回の調査地点は恋ヶ窪谷から北へ約220m、さんや谷から260m入った平坦地で、台地のほぼ中央西寄りには西武国分寺線が南北に走り、線路を挟んだ東側が中央研究所構内、西側が低層住宅地となっている。

第2節 周辺の遺跡

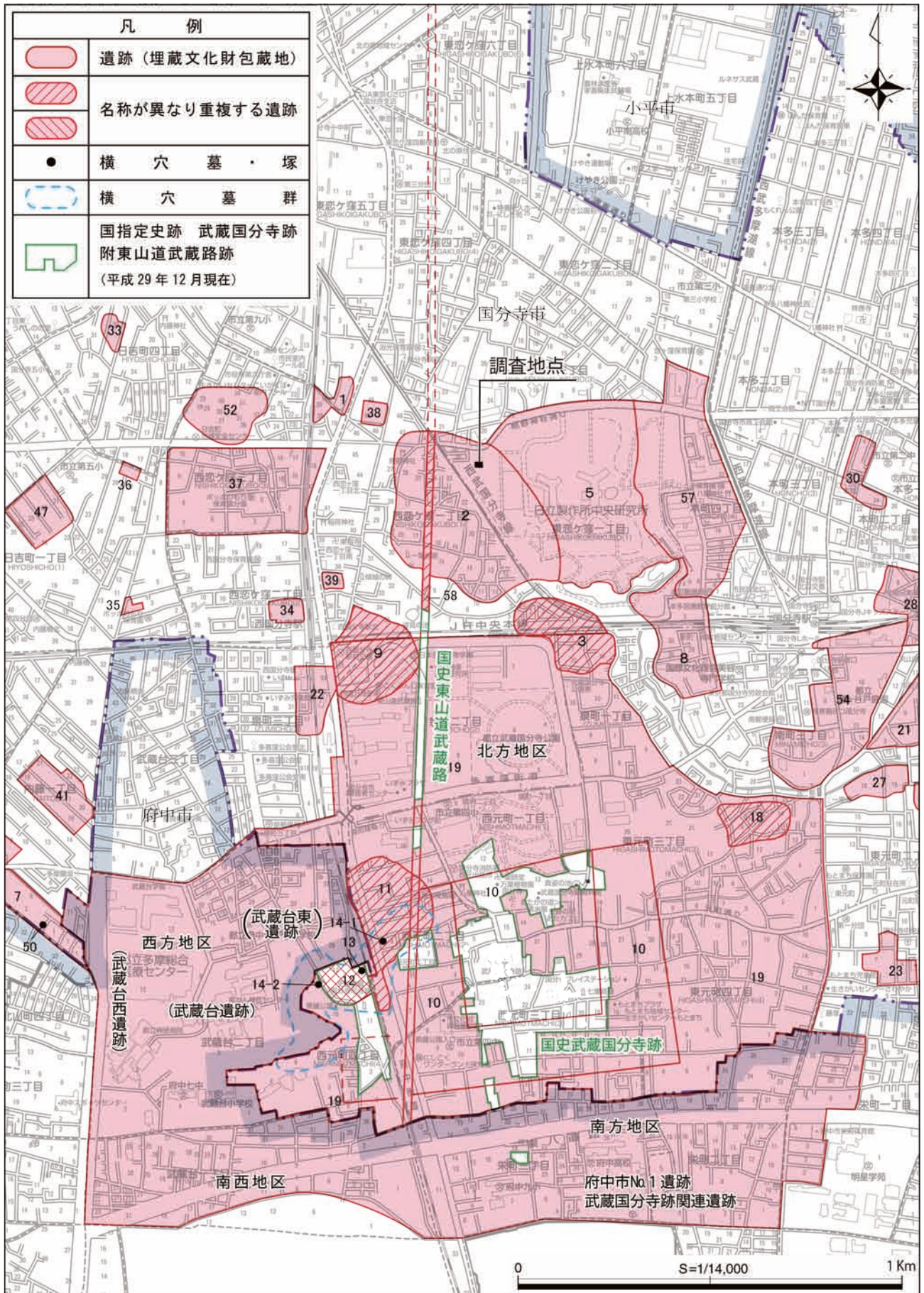
遺跡が占地する舌状台地は、古くから水資源に恵まれていることから、旧石器時代から縄文時代にかけての生活址が累積している。中央の小支谷を介して西側が恋ヶ窪遺跡、東側が羽根沢遺跡に分かれ、いずれも縄文中期の集落跡として周知されている。恋ヶ窪遺跡では勝坂式期と加曽利E式期の住居跡がこれまでに多数確認されているが、主体は勝坂式期の住居跡である。今回の調査で加曽利E式期の住居跡が1軒検出されたが、集落の北限に位置するものと推測される。

さんや谷を挟んだ東側の台地には恋ヶ窪東遺跡・花沢西遺跡、恋ヶ窪谷の南側台地に恋ヶ窪南遺跡・日影山遺跡・武蔵国分寺跡北方地区、恋ヶ窪谷の北側には市内で初めて旧石器が発見された熊ノ郷遺跡がある。なかでも恋ヶ窪東遺跡は、縄文草創期から後期にかけて長期にわたり営まれた大集落で、恋ヶ窪遺跡とともに野川源流域における縄文時代の生活様相を探るうえで極めて重要な遺跡である。平成27年に行われた恋ヶ窪東遺跡第22次調査では、大量の尖頭器を製産した旧石器時代の生活址も発見されている（林他2017）。その様相は、恋ヶ窪谷の南側に展開する台地にも続き、旧石器時代から縄文時代にわたる遺跡が濃密に分布する。

更に、奈良時代には立川段丘面に市名の由来でもある武蔵国分寺が創建され、東山道武蔵路を含む奈良時代から平安時代にわたる広域の遺跡群が崖線の上下に遺されている。それ以降の遺跡はあまり顕著には見られないが、最近の調査結果によると中世や近世以降の活動痕跡も断片ながら確認されている（依田他2018、第1～8表）。



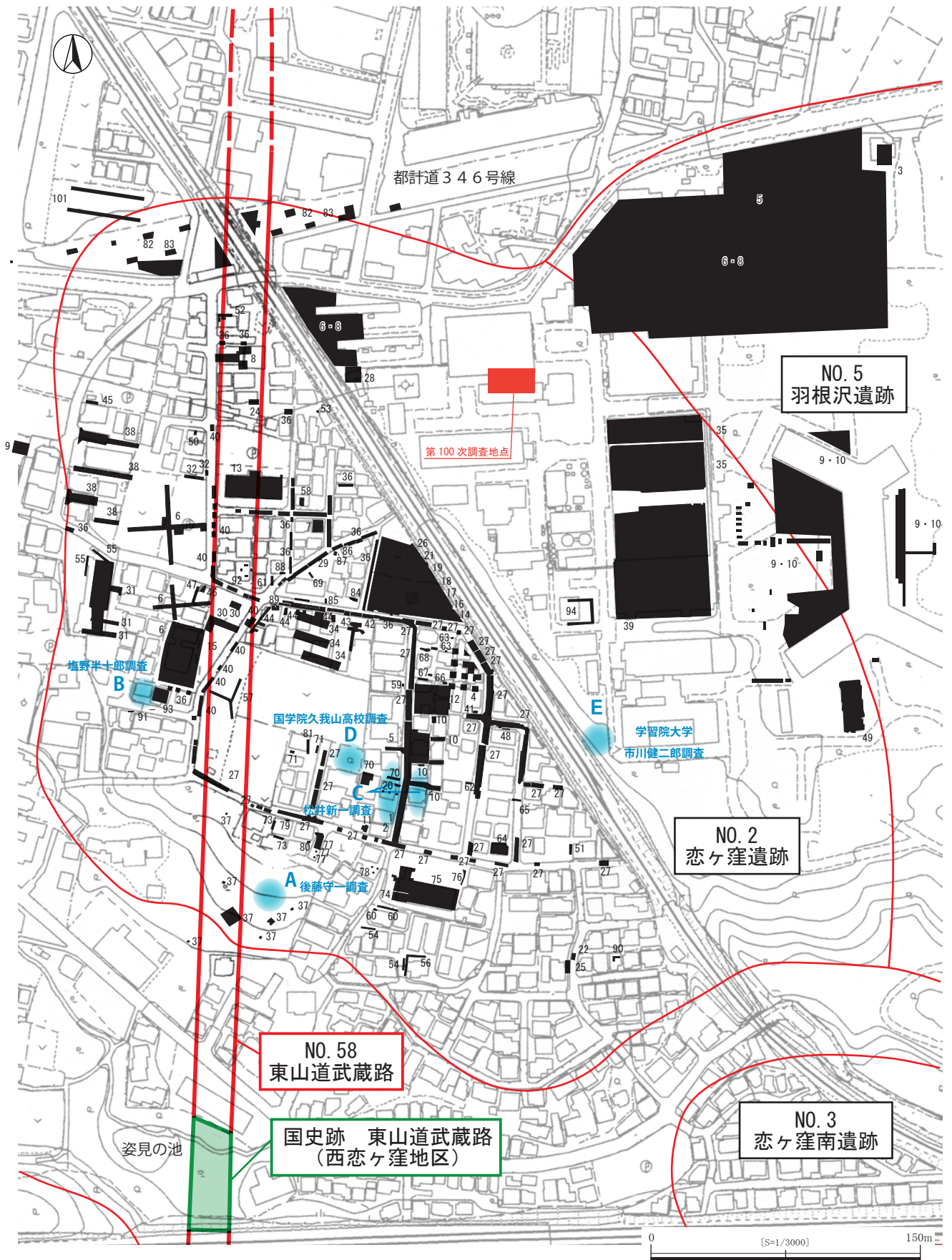
第1図 遺跡の位置



第2図 調査地点と周辺の埋蔵文化財包蔵地

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	所在地	時代
1	熊ノ郷遺跡	集落跡	西恋ヶ窪三丁目19 西恋ヶ窪四丁目1・6・7付近	旧石器・縄文
2	恋ヶ窪遺跡	集落跡	西恋ヶ窪一丁目3・10～27、28～30・47 東恋ヶ窪一丁目付近、三丁目20・21	旧石器・縄文（早・中・後）・中世
3	恋ヶ窪南遺跡	集落跡	恋ヶ窪一丁目1～3・5・51、東恋ヶ窪一丁目 泉町一丁目18・20～22、二丁目7付近	旧石器・縄文（早・中）
5	羽根沢遺跡	集落跡	東恋ヶ窪一丁目付近	旧石器・縄文（早・中）
8	花沢西遺跡	集落跡	南町三丁目24・26～30 本町四丁目2～6 泉町一丁目14 東恋ヶ窪一丁目付近	旧石器・縄文・弥生
9	日影山遺跡	散布地	泉町二丁目9 西恋ヶ窪一丁目8・34・35付近	旧石器・縄文（中）・奈良・平安
10	武蔵国分寺跡 (僧尼寺)	寺院跡	西元町一丁目1・2・13～15 西元町二丁目1～7・11～14 西元町三丁目2～28 西元町四丁目1～5・9～11 東元町三丁目9・18～20 東元町四丁目6～10・19・20付近	奈良・平安
11	多喜窪遺跡	集落跡	西元町二丁目7～16 西元町四丁目10～12付近	縄文（中）・旧石器
12	伝祥庵寺跡	寺院跡	西元町四丁目12付近	歴史
13		塚	西元町四丁目11付近	歴史
14	多喜窪横穴墓群	横穴墓	西元町二丁目8～11付近-1号墓 西元町四丁目10付近-2号墓	奈良
18	八幡前遺跡	散布地	東元町三丁目13・14～16・24・25付近	縄文（中・後）
19	武蔵国分寺跡	集落跡・道路跡	東元町三丁目1～25・31・33・34 東元町四丁目 西元町一丁目～四丁目 泉町一丁目5～11・18～21 泉町二丁目、三丁目3・16付近 西恋ヶ窪一丁目8	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世
22	恋ヶ窪廃寺跡	寺院跡	泉町三丁目17・27・30～33・35・36付近	縄文・平安～室町
37		散布地	西恋ヶ窪三丁目1～3・5～18付近	旧石器・縄文・奈良・平安
38		散布地	西恋ヶ窪一丁目49付近	縄文・奈良・平安
52		散布地	西恋ヶ窪三丁目26～31・33～36 日吉町四丁目12・13付近	旧石器
54	花沢東遺跡	集落跡	南町二丁目14～16・18 南町三丁目1・7～9付近	旧石器・縄文
57	恋ヶ窪東遺跡	集落跡	本町四丁目4～11・14～25 東恋ヶ窪一丁目、二丁目1・2付近	旧石器・縄文（草～後）
58	東山道武蔵路	道路跡	西恋ヶ窪一丁目8・9・15～18・24・25・47 東恋ヶ窪三丁目21	奈良・平安



第3図 恋ヶ窪遺跡の既往の発掘調査地点位置図

第2表 羽根沢遺跡（国分寺市 No. 5）調査履歴表（昭和52年～平成29年度）

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1		欠番							
2	S61	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	170.9	SU3/SS4/SK6/PJ64	広瀬	12	上村他1992
3	S62	公共工事	本調査	東恋ヶ窪1-280	204.5	SKJ1/PJ26	広瀬	1	未報告
4	S63	公共工事	本調査	東恋ヶ窪1-280	210.9	SKJ1/PJ26	広瀬	1	未報告
5	H2	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	1037.1	PJ23	板倉	1	上村他1992
6	H26	プラント	試掘	東恋ヶ窪1-280	1480.0	SK28/P313 中世以降SD22/SK1	共和開発	1	未報告
7	H27	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	411.0	SK2	増井	1	増井・依田 2017
8	H27	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	13744.5	ST7/SR3/SC6/SS9/SKJ83/PJ452 中世以降SD29/SA1/SX15	共和開発	29	本報告書
9	H28	プラント	試掘	東恋ヶ窪1-280	304.5	SK4/SD4/P29	共和開発	1	林他2018
10	H28	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-280	2512.4	SKP1/SIJ1/SKJ9/SS4/PJ86 中世以降SK3/SD21/SX2/P26	共和開発 林	43	林他2018

第3表 恋ヶ窪東遺跡（国分寺市 No.57）調査履歴表（昭和52年～平成28年度）

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1	S52	倉庫建設	本調査	本町4-21-10	18.0	SI1	広瀬	1	未報告
2	S59	公共下水道 本町四丁目(339号線)	本調査	本町4	174.6	SI1/SKJ1	広瀬	1	上村1997
3	S60	公共下水道 中部5号幹線	本調査	本町4	277.0	SKJ1	広瀬	1	上村1997
4	S62	東電地中線	本調査	本町4-2810	12.1	SI1	広瀬	1	未報告
	S63	東電地中線	本調査	本町4-2811	16.7	SU1/SS3/P3	広瀬	5	未報告
5	H1	社員寮建設	本調査	本町4-2874-3・8	836.2	SI2/SS2/SKJ2/P73	広瀬	25	広瀬他1990
6	H1	道路建設 (市道幹6号線)	本調査	本町4-17先	201.7	SI1/SU2/SS1/SKJ4/P36	上村	4	未報告
7	H1	共同住宅	本調査	本町4-20	159.6	SKJ3/P27	上村	1	未報告
8	H2	共同住宅	本調査	本町4-2820-181	560.6	SI2/SS2/SKJ23/P25	板倉	13	未報告
9	H2~4	都営住宅	本調査	本町4-17~19	5647.1	(11次調査の項参照)	上村	710	上敷領他2003
10	H5	共同住宅	本調査	本町4-2810-99	132.1	SI1/SKJ5/P36	岩崎	1	未報告
11	H6~8	都営住宅	本調査	本町4-2810	6292.3	SB5/SI189/SU7/SS61/SKJ341/	上村	1406	上敷領他2003
12	H8	分譲住宅	本調査	本町4-18-4	19.3	SI1/SKJ1/P2	上村	1	未報告
13	H11	共同住宅	本調査	本町2874-3・8	546.8	SKJ1/P40	上村	1	上村2000
14	H12	共同住宅	本調査	東恋ヶ窪2-1-1他	271.5	P52	上村	1	未報告
15	H12	共同住宅	本調査	東恋ヶ窪2-1-2他	370.5	SS1/SKJ12/P120	上村	2	未報告
16	H12	共同住宅	本調査	本町4-24-28	140.0	SS5/SKJ1/P3	小野本	1	未報告
17	H18	個人宅造	本調査	本町4-25-1	9.8	P1	小野本	1	上敷領他2008
18	H18	神社社殿建設	本調査	本町4-22	80.5	SKJ3/P29/歴史時代SX1	小野本	2	未報告
19	H19	分譲住宅	確認調査	本町4-25-9	10.7		立川	1	立川2009
20	H20	個人宅造	本調査	本町4-21-24	7.2		立川	0	立川2010
21	H22	集合住宅	確認調査	本町4-25-7	11.7		上敷領	1	小野本他2012
22	H26	集合住宅	本調査	本町4-2820-1,2 4-2819-1,2,4 2819	2351.0	ST19/SR16/SS15/SK34/P118/ 歴史時代SX2	共和開発 林	150	林他2017
23	H26	店舗建設	確認調査	本町4-21-29	7.8	PJ2	増井	1	増井他2016
24	H26	宅地分譲	確認調査	本町4-2875-1	160.0		中元	0	増井他2017
25	H27	分譲住宅	確認調査	本町4-24-31	27.6	PJ3	増井	1	増井他2017

第4表 恋ヶ窪遺跡（国分寺市 No. 2）調査履歴表（昭和49年～平成29年度）1

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1	S49	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1-19-20	36.0	SI2	安孫子		永峯他 1979
2	S52	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-19-21	180.0		安孫子	146	永峯他 1979
4	S51	学術	確認調査	西恋ヶ窪 1-20-14～16	110.0	SS1/SK4	安孫子	11	永峯他 1980
5	S52	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-10	20.0	SI3/SK1	安孫子	48	永峯他 1980
6	S52	学術	確認調査	西恋ヶ窪 1-17-25	337.0	SI1/SK2 歴史 SZ1	安孫子	27	永峯他 1980
7	S53	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-23-16	24.0	SI3	広瀬	3	永峯他 1980
8	S53	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-24-35	100.0	SK2/P11 歴史 SD2	広瀬	1	永峯他 1980
9	S53	学術	確認調査	西恋ヶ窪 1-187	60.0		広瀬		立川 2007
10	S54	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-20	212.5	SI10/SS3/SK7/P11	広瀬	75	永峯他 1982
11	S54	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-2	16.0		広瀬	1	未報告
12	S54	学術	確認調査	西恋ヶ窪 1-20	264.0	SI3/SU3/SS5/SK17	広瀬	70	滝口他 1988
13	S55	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-24-16	378.0	SS1/SK3/P55 歴史 SD1/SK6	広瀬	6	滝口他 1988
14	S55	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	366.0	SI18/SK1	広瀬	60	上敷領他 1991・2008
15	S56	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-17-24	640.0	ST2/SI2/SK8 旧石器 1層	広瀬	3	滝口他 1988
16	S56	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	163.0	SI6	広瀬	28	上敷領他 1991・2008
17	S57	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	220.0	SI6/SX53	広瀬	40	上敷領他 1991・2008
18	S57	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	220.0	SI8/SX4	広瀬	40	上敷領他 1991・2008
19	S59	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	240.0	SI9/SX1	広瀬	65	上敷領他 1991・2008
20	S59	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-5	2.6		広瀬	1	未報告
21	S60	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	243.5	SI9/SX2	広瀬	52	上敷領他 1991・2008
22	S60	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-13	6.0	SS1	広瀬	4	吉田他 1996
23	S60	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1	722.0		広瀬	6	吉田他 1996
24	S61	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-24-23	17.0	P3	広瀬	1	未報告
25	S61	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-13-1	14.0	SS1	広瀬	2	未報告
26	S61	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-22	222.0	SI6	広瀬	25	上敷領他 1991・2008
27	H1	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	296.3	SI3/SK1/P15	広瀬	32	吉田他 1996
27	H2	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	63.2	SI10/SS4/SK8/P44	上村	10	吉田他 1996
27	S61	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	185.0	SI9/SU1/SS2/SK16/P63	広瀬	9	吉田他 1996
27	S62	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	295.0	SI7/SK25/P98 歴史 SD1	広瀬	13	吉田他 1996
27	S63	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1-167 先	206.7	SI1/P54	広瀬	33	吉田他 1996
28	S62	鉄塔建設	本調査	西恋ヶ窪 1-210・217	142.1	P2	広瀬	1	未報告
29	S62	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-224-3	3.1	SI1	広瀬	2	未報告
30	S62	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-171	81.4	SI1/P10 歴史 SD2	広瀬	14	未報告
31	S63	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-171	128.7	ST1/SK3/P10 旧石器・中近世 陶磁器	広瀬	1	未報告
32	H1	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-25-4	18.7		広瀬		立川 2009
33	H1	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	2712.0		広瀬		未報告
34	H1	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-18-9～11	216.0	SI10/SS1/SK4	広瀬	21	未報告
35	H2	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280 地内	1678.0	SI3/SS2/SK9/P61	広瀬	66	星野他 1992
36	H2	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内			上村	1	吉田他 1997
36	H2	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	114.0	SI11/SS1/SK1/P74 歴史 SK4	上村	18	吉田他 1997
36	H3	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	333.9	SI13/SK2/P8 歴史 SD3	上村	55	吉田他 1997
36	H4	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	173.3	SI10/SK7/P39 歴史 SD1/SK1	上村	15	吉田他 1997
37	H2	学術	本調査	西恋ヶ窪 1-15-2・4・23 ～25	79.7	SI1/SK1	上村	1	未報告
38	H3	公共工事	本調査	西恋ヶ窪 1-26-1・16	275.0	歴史 SD1	上村	1	未報告
39	S57	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280 地内	1077.0		広瀬		星野他 1992
39	S58	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280 地内	2653.1	SI7/SS1/SK17/P154	広瀬	43	星野他 1992
40	H3	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	538.2		上村	2	吉田他 1997
40	H4	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	89.5	SI1/P2 歴史 SD4/SK2	上村	2	吉田他 1997
40	H5	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	187.6	SI5/SK1/P8 歴史 SD4	上村	5	吉田他 1997
41	H4	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-13	4.0	SI2	上村	1	未報告
42	H4	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-18-9	8.8	P13	上村	2	未報告
43	H4	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-18-9	21.3	P28	上村	3	未報告
44	H4	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-18-11・12	57.6	SI7/SK3/P3	上村	20	未報告

第5表 恋ヶ窪遺跡（国分寺市 No. 2）調査履歴表（昭和49年～平成29年度）2

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
45	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-26-3	5.8		上村		立川 2009
46	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-44	3.6		上村	1	未報告
47	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-36・37	8.3	P4	上村	1	未報告
48	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-21-20	4.0	P4	上村	1	未報告
49	H5	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1-280	141.2	P9	上村	1	未報告
50	H6	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-25-7	2.0		上村		立川 2009
51	H6	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-21-4	4.0	SI1	上村	1	未報告
52	H7	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-24-43	7.4	歴史 SD1	上村		未報告
53	H7	個人宅造	本調査	東恋ヶ窪 1-23-33	1.0		上村		立川 2009
54	H7	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-14-10・13・31	10.6		上村		未報告
55	H7	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-28-1 他	316.5	ST1/SR1/P2	上村	1	未報告
56	H7	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-14-10・11	18.5	SK1/P1	上村	1	未報告
57	H7	公共工事	本調査	西恋ヶ窪 1-18	46.2	P4 歴史 SD2	上村	1	未報告
58	H7	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-21	10.3		上村	1	未報告
59	H8	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-15	1.0		上村		立川 2009
60	H8	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-14-10・28	5.3	旧石器礫群 1 VI層	上村	1	未報告
61	H8	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-24-2	5.0	SU1/SK1/P10	上村	1	未報告
62	H8	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-6	1.6		上村		立川 2009
63	H10	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-48	0.7	P1	上村	1	未報告
64	H10	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-21-25	1.4		上村	1	未報告
65	H10	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-11-3	3.0		上村	1	未報告
66	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-55	5.6	SK1	上村		未報告
67	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-54	2.7	SK1/P1	上村	1	未報告
68	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-53	4.9	SK6/P2	上村	1	未報告
69	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-9	6.4	SI1	上村	1	未報告
70	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-19-6.7.8	35.1	SS1/SK4/P7	上村	2	未報告
71	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-18-31.32	6.0	SK1/P2	上村	1	未報告
72	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-20-47	3.4	SK1	上村	1	未報告
73	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-15-26.28	7.9	SI1	上村	1	未報告
74	H13	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-14-9.33	34.0	P5 歴史 SD2	上村	1	未報告
75	H13	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1-14-9.33	369.4	SS4/SK3/P51 歴史 SD1/SK3	上村	19	未報告
76	H16	道路工事	確認調査	西恋ヶ窪 1-15-13.25	66.7	P3 歴史 SD2	上村	1	未報告
77	H16	道路工事	本調査	西恋ヶ窪 1-15-13.25	66.7	SK2 歴史 SD2	上村	1	未報告
78	H16	集合住宅	確認調査	西恋ヶ窪 1-15-30.31	5.3		上村		上敷領 2008
79	H16	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-15-34	1.0		上村		上敷領 2008
80	H16	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-15-35	1.0		上村		上敷領 2008
81	H18	分譲住宅	確認調査	西恋ヶ窪 1-20-10	7.2	歴史 SD1/SK1/P3	立川	1	立川 2008
82	H19	公共工事	確認調査	西恋ヶ窪 1-47、東恋ヶ窪 3-21	386.5	ST1 歴史 SK1/SF1 ※ SD2	小野本	1	小野本 2008
83	H19	公共工事	本調査	西恋ヶ窪 1-47、東恋ヶ窪 3-21	366.6	SC3/P1 歴史 SD2/P5	小野本	1	小野本 2008
84	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-15	10.0	P5 歴史 SD2	小野本	1	立川 2011
85	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-18	2.3	SK1/P2	立川	1	立川 2011
86	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-19	3.8	SI1/SK1/P1	小野本	1	立川 2011
87	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-22-16	4.0	SI1/SK1	小野本	3	立川 2011
88	H23	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-25-40	7.4		小野本	0	寺前他 2013
89	H23	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-18-16	8.0	SI1/SK1	寺前	1	寺前他 2013
90	H23	分譲住宅	確認	西恋ヶ窪 1-1282-28	3.8		寺前	0	寺前他 2013
91	H24	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-1	3.6		中道	0	上敷領他 2013
92	H24	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-24-12	13.9	SI1 歴史 SD1	中道	2	上敷領他 2013
93	H25	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-11	44.3	SI1	中道	2	上敷領他 2014
94	H26	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1-280 地内	65.4	SS1/SK1 歴史 SD1	上敷領	4	依田他 2016
95	H27	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-23-8	4.0		増井	1	増井他 2016
96	H27	分譲住宅	確認	西恋ヶ窪 1-22-2	21.1	PJ2	増井	1	増井他 2016
97	H27	集合住宅	確認	西恋ヶ窪 1-29-2、729-3、-5の各一部	27.6	PJ13	依田	1	増井他 2016
98	H28	分譲住宅	確認	西恋ヶ窪 1-28-9	40.9	SX3	増井	1	増井他 2017
99	H29	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1-17-35	14.8	なし	増井	1	未報告
100	H29	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1-280 地内	383.11	SIJ1/SKJ4/PJ1 歴史 SD1/SK3	島田	1	本報告
101	H29	集合住宅	確認	西恋ヶ窪一丁目 47・3・4・5	29.79	なし	増井	1	未報告
102	H30	宅地造成	確認	西恋ヶ窪 1-25-1 先	47.1	SX5～9	寺前	1	未報告

第6表 恋ヶ窪南遺跡（国分寺 No. 3）調査履歴表

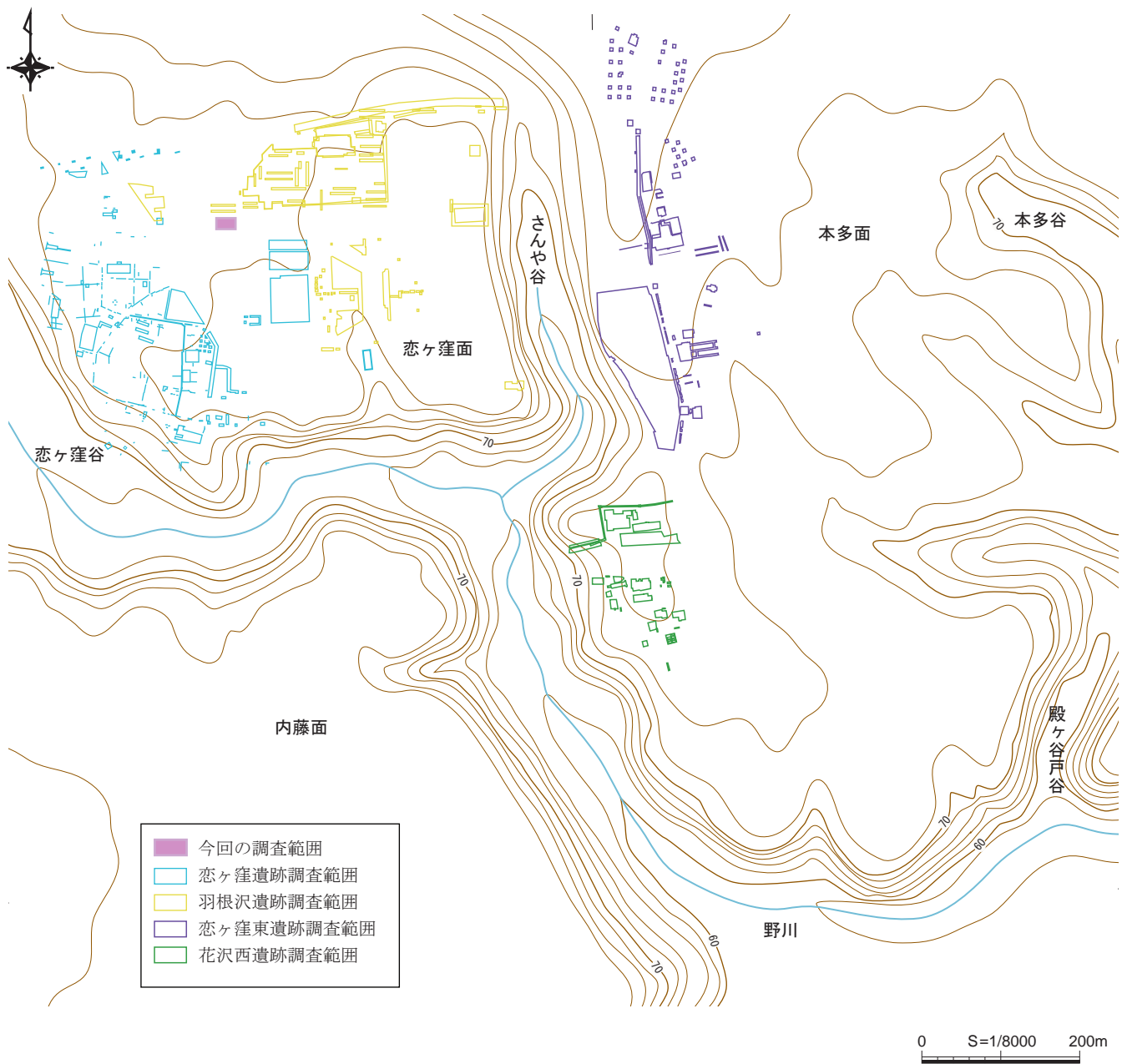
次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1	S59	公共工事	本調査	泉町1-20.21	3240.00	SI7/SS1	広瀬 実川	453	恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報Ⅰ 広瀬他 1987
2	S60	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-1~2	187.50	SI31/SS9/SK55	広瀬	9	恋ヶ窪遺跡調査報告 Ⅶ 上村 1996
3	S60	公共工事	本調査	東恋ヶ窪1-1234	255.00	SS1/SK1	広瀬	1	未報告
4	H19	個人宅造	確認調査	泉町1-2471-21 (1-18-15)	55.89	SS1/SK3	立川	1	平成19年度埋蔵文化財調査年報 立川 2009
	H19	個人宅造	本調査	泉町1-2471-21 (1-18-15)	57.20	SS1/SK3	立川		平成19年度埋蔵文化財調査年報 立川 2009

第7表 花沢西遺跡（国分寺 No. 8）調査履歴表

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1	S52	共同住宅	本調査	南町3-29-7	200.0	ST2/SKJ5	安孫子	4	未報告
2	S52	共同住宅	本調査	本町4-3-17	335.0	SI1/SU3/SS1/SKJ3	広瀬	14	未報告
3	S52	公共工事	本調査	本町4-3先	26.0	SKJ2	広瀬	1	未報告
	S53	公共工事	本調査	本町4-3先					
4	S59	市下水道	本調査	本町4-3先	20.0	SU1/SS1	広瀬	2	上村 1997
5	S59	市下水道	立会	南町3-29先				1	未報告
6	S60	市下水道	本調査	南町3-29先	89.00	SS2/SKJ1	広瀬	7	上村 1997
7	H3	公共工事	本調査	本町4丁目 東恋ヶ窪1丁目地内	323.6	SR3/SKJ7	上村	15	未報告
8	H7	民間	本調査	南町3-2801- 16.18.21	317.2	ST1/SU1/SKJ4	上村	15	未報告
9	H8	個人宅造	本調査	南町3-2081-27	5.4		上村	1	小野本他 2012
10	H8	民間	本調査	南町3-27-6	42.30		上村	0	未報告
11	H10	個人宅造	本調査	南町3-2802-15	4.00	SS1	上村	1	小野本他 2012
12	H12	民間	本調査	南町3-2802-10他	151.44	SKJ2	上村	0	未報告
13	H13	個人宅造	本調査	南町3-30-1	4.9		上村	0	立川他 2010
14	H14	個人宅造	本調査	南町3-29-19	6.0		上村	1	小野本他 2012
15	H16	確認整備	確認調査	南町3-30-12	98.98	SKJ1	上村	1	上敷領 2007
16	H16	個人宅造	本調査	南町3-30-12	8.7		上村	0	上敷領 2007
17	H17	個人宅造	本調査	本町4-3-13	2.8		上村	0	上敷領 2007
18	H17	民間	本調査	本町4-2803-1他	642.9	ST15/SR5/SKJ3	上敷領	7	上敷領 2007
19	H17	個人宅造	本調査	南町3-2799-20	62.15	ST1/SR2	上村	1	上敷領 2007
20	H19	個人宅造	本調査	南町3-26-25	1.8		小野本	1	立川他 2009
21	H20	民間	確認調査	南町3-28-6	5.37		立川	1	立川他 2010
22	H23	民間	確認調査	南町3-28-6	12.60	SKJ1	小野本	0	寺前他 2013
23	H26	民間	確認調査	南町3-30-7	3.26		増井	0	増井他 2016
24	H26	民間	確認調査	本町4-2803-3	15.01		増井	1	増井他 2016
25	H29	民間	確認調査	南町3-28-8	74.24		増井	1	寺前他 2019

第8表 武蔵国分寺跡（国分寺市 No.19）調査履歴表

回数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (㎡)	発見された主な遺構	担当者	遺物箱数	文献
168	S57	排水改良工事	試掘調査	泉町二丁目 6-7	2,250	SD1	有吉	—	三木他 1985
190	S58	排水改良工事	本調査	泉町二丁目 6-7	277	SB2/SI1/SX1/SD2	三木	4	三木他 1985
288	S62	共同住宅建設	本調査	泉町一丁目 2418-2,7,9,12,13	1,290		三木	16	三木他 1988
421	H8	土地区画整理	本調査	泉町二丁目	2,419	SI1/SD9	上村	32	上村他 2006
G-136	H7	土地区画整理	本調査	泉町二丁目	54,800	石器集中部 106/ 住居跡 70/ 掘立柱建物 1/ 道路跡 7	東京都埋蔵文化財センター	172,641点	福嶋他 2003

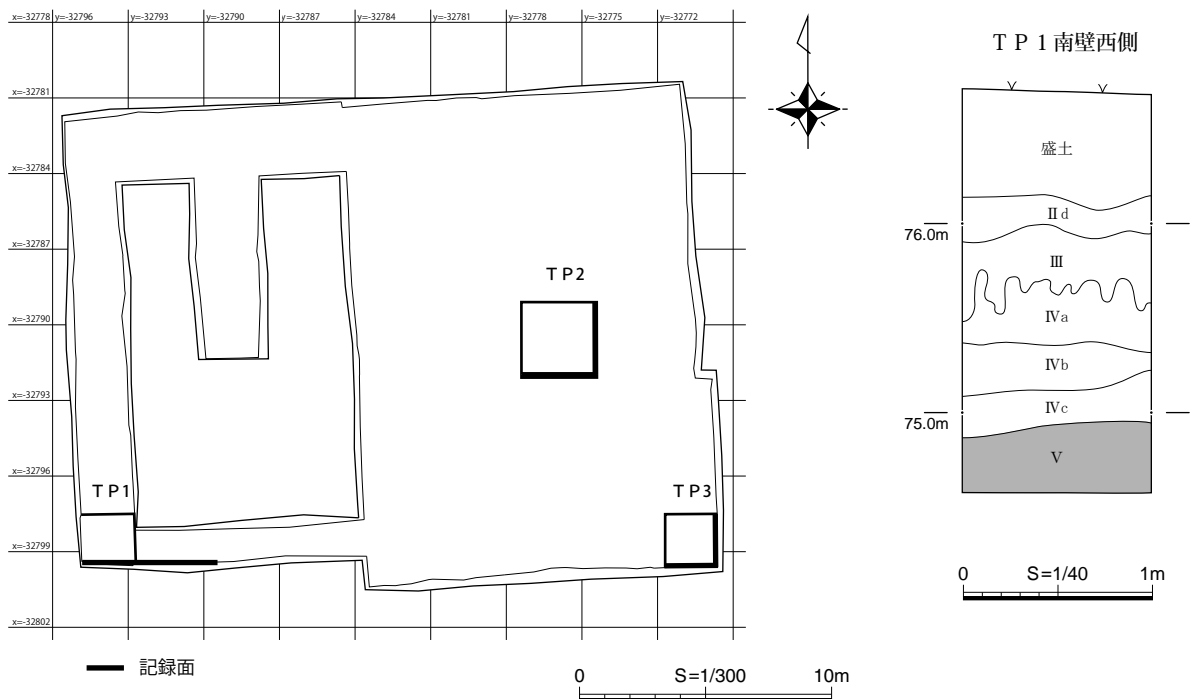


第4図 周辺の地形図

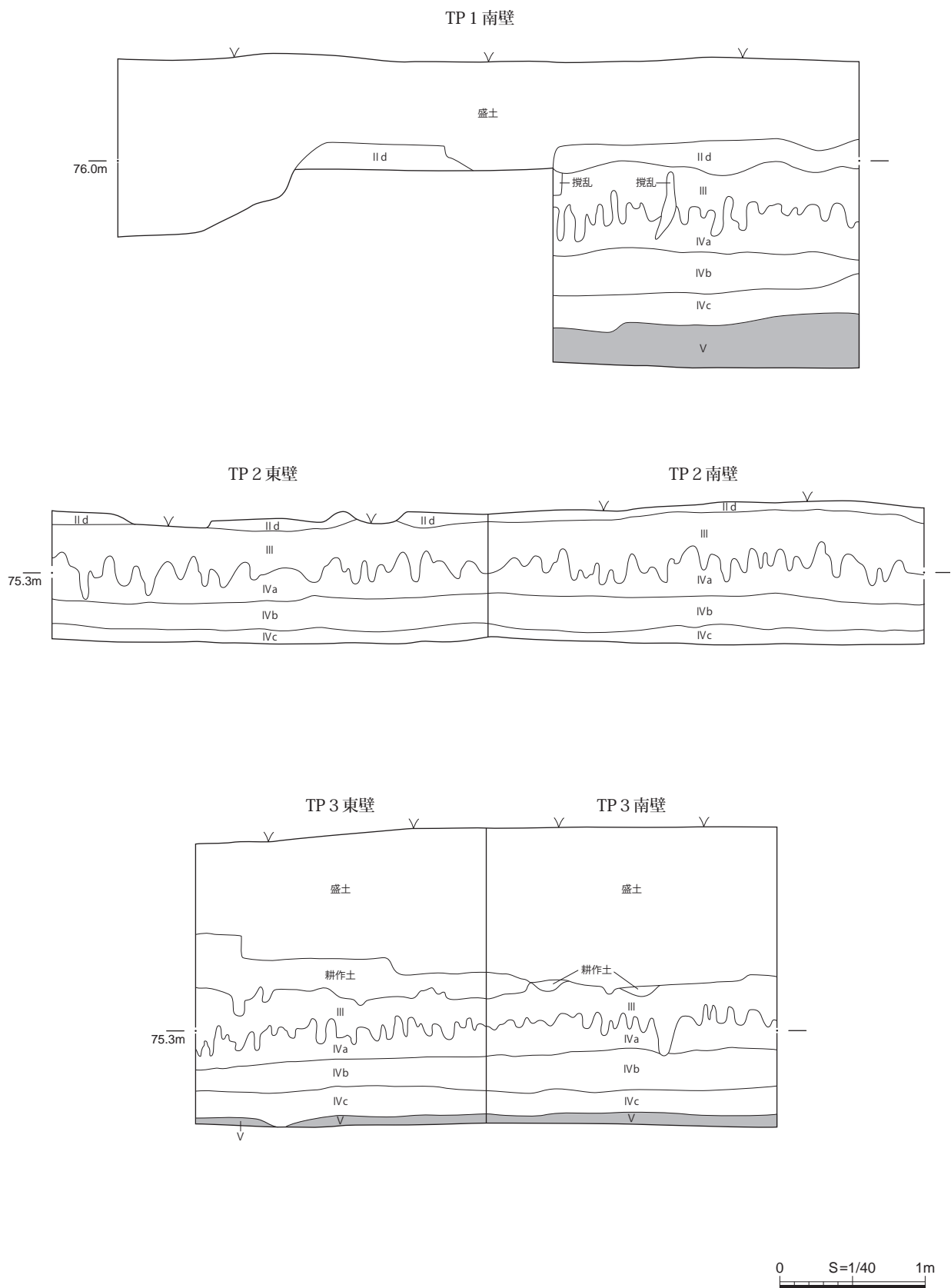
第3節 基本層序

調査区西側C区に1号試掘坑（TP1）、東側に2・3号試掘坑（TP2・3）を設定して旧石器の調査を行ったが、遺構・遺物は見つからなかった。1号試掘坑の南壁を基本層序として（第5図に示した）。調査区は全体的に攪乱や耕作によって削平されているが、土層堆積状況を見ると、西側調査区から東側調査区に向かって僅かに低く傾斜している（第6図）。また、西側調査区の北側では、部分的に縄文時代の遺物包含層である第IIc層が確認された。なお、層名は武蔵野台地の標準名を用いるが、国分寺市では異なる名称を用いるため、説明の中で併記する（坂詰他2003）。

第IIc層 暗褐色土（10YR3/4）	赤色スコリア粒（径1～2mm）を少量に含む。締まりあり。縄文包含層。国分寺IIIb相当。
第II d層 にぶい黄褐色土（10YR6/4）	ローム漸移層。しまり、粘性ともに強い。国分寺IIIc相当。
第III層 明黄褐色土（10YR7/6）	ソフトローム層。しまり、粘性ともに強い。国分寺IV相当。
第IVa層 黄橙色土（10YR7/8）	スコリア粒量（径1～3mm）を少量に含む。しまり、粘性ともに強い。国分寺Va相当。
第IVb層 黄橙色土（10YR7/8）	第IVa層と同質だが、色調やや暗く、スコリア粒量（径1～3mm）が多い。しまり、粘性ともに強い。国分寺Vb相当。
第IVc層 黄橙色土（10YR7/8）	第IVa層と同質だが、黒色スコリア粒径1～3mmが増える。しまり、粘性ともに強い。国分寺Vc相当。
第V層 明黄褐色土（10YR6/6）	第1黒色帯。しまり、粘性ともに強い。国分寺VI相当。



第5図 旧石器試掘坑配置図・基本層序（TP1南壁）



第 6 图 旧石器试掘坑断面图

第3章 調査経過

第1節 調査方法

1.発掘調査の工程

調査は、便宜上調査区を西側（A～D区）と東側に分割して随時行った。調査面積は、約383.11㎡で、平均して0.75mほどの深さまで掘り下げた。

調査区内のグリッドは、公共座標x=-32,778.00、y=-32,796.00を起点に、東方向へ1～9、北方向へA～Hを3mごとに番号を付し、3mメッシュを設定した（第7図）。

表土は重機によって除去し、まず残存する第Ⅱ層での遺構確認と出土遺物の位置を記録した。その後、人力によって第Ⅲ層まで掘り下げ、遺構確認と出土遺物の位置を記録した。遺構は覆土の堆積状況を記録し、完掘後に写真撮影を行った。縄文時代の遺構調査後に、旧石器時代の調査のために、2m四方の試掘坑（TP1・3）を2箇所、3m四方の試掘坑（TP2）を1箇所もうけ、現況地盤から約2.0mの深さまでローム層を掘り下げて調査した。

それぞれ各区調査終了後に全景写真撮影及び測量を行った。

その後、埋め戻し作業を経て、重機・機器材・仮設の撤収を順次行い、すべての現場作業を終了した。

2.調査の記録

遺構平面図測量及び遺物出土地点の記録は光波測量機を用い、データー分析は自社プログラムを使用し、Adobe社製のイラストレーターによって図化した。写真記録はモノクロ写真・リバーサル写真・デジタル写真をそれぞれ用いた。

第2節 調査経過

2017年12月13日より2018年1月19日まで発掘調査を行い、1月25日に現地作業をすべて終了した。
2017年（平成29年）

12月13日 調査区西側 重機による表土除去作業を開始する。

12月15日 調査区西側 遺構の調査を開始する。

12月20日 調査区西側 旧石器時代の調査を開始する。

12月22日 調査区西側 調査終了。

12月25日 調査区東側 重機による表土除去作業を開始する。

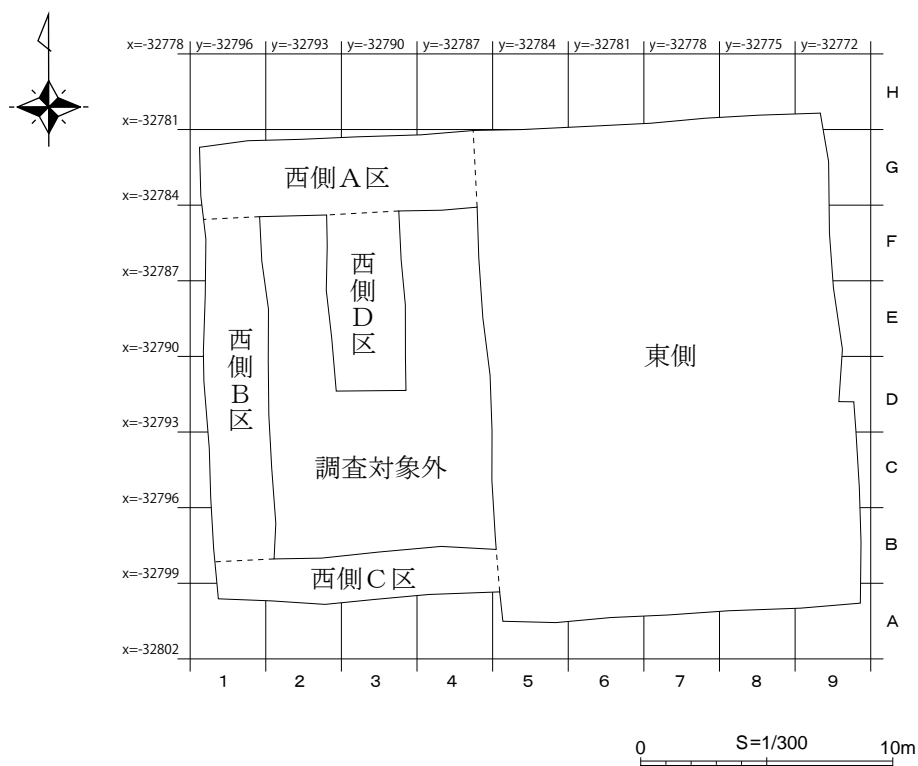
2018年（平成30年）

1月10日 調査区東側 遺構の調査を開始する。

1月16日 調査区東側 旧石器時代の調査を開始する。

1月19日 調査区東側 全ての調査を終了する。国分寺市ふるさと文化財課による終了確認。撤収準備を行う。

1月25日 撤収作業を行い、現地での全ての作業を終了する。



第7図 調査区グリッド位置図・区割図

第3節 整理作業と方法

今回の調査で得られた遺物は、縄文時代の遺物と近代の遺物であった。遺物等の整理作業は以下の手順で行った。また、遺物の分類基準は本書第1編の羽根沢遺跡第6・8次調査に準ずる。

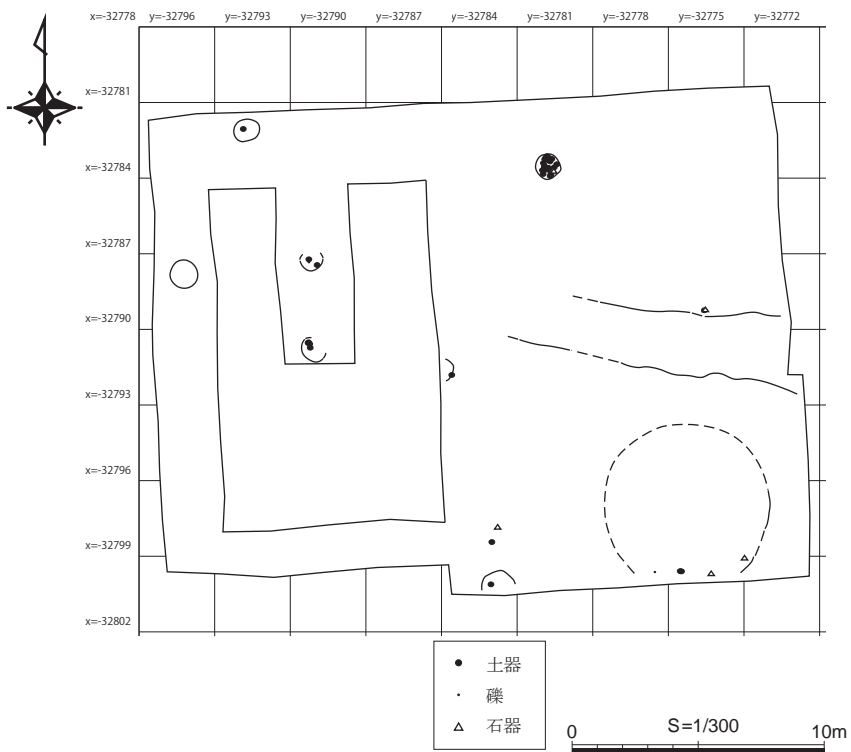
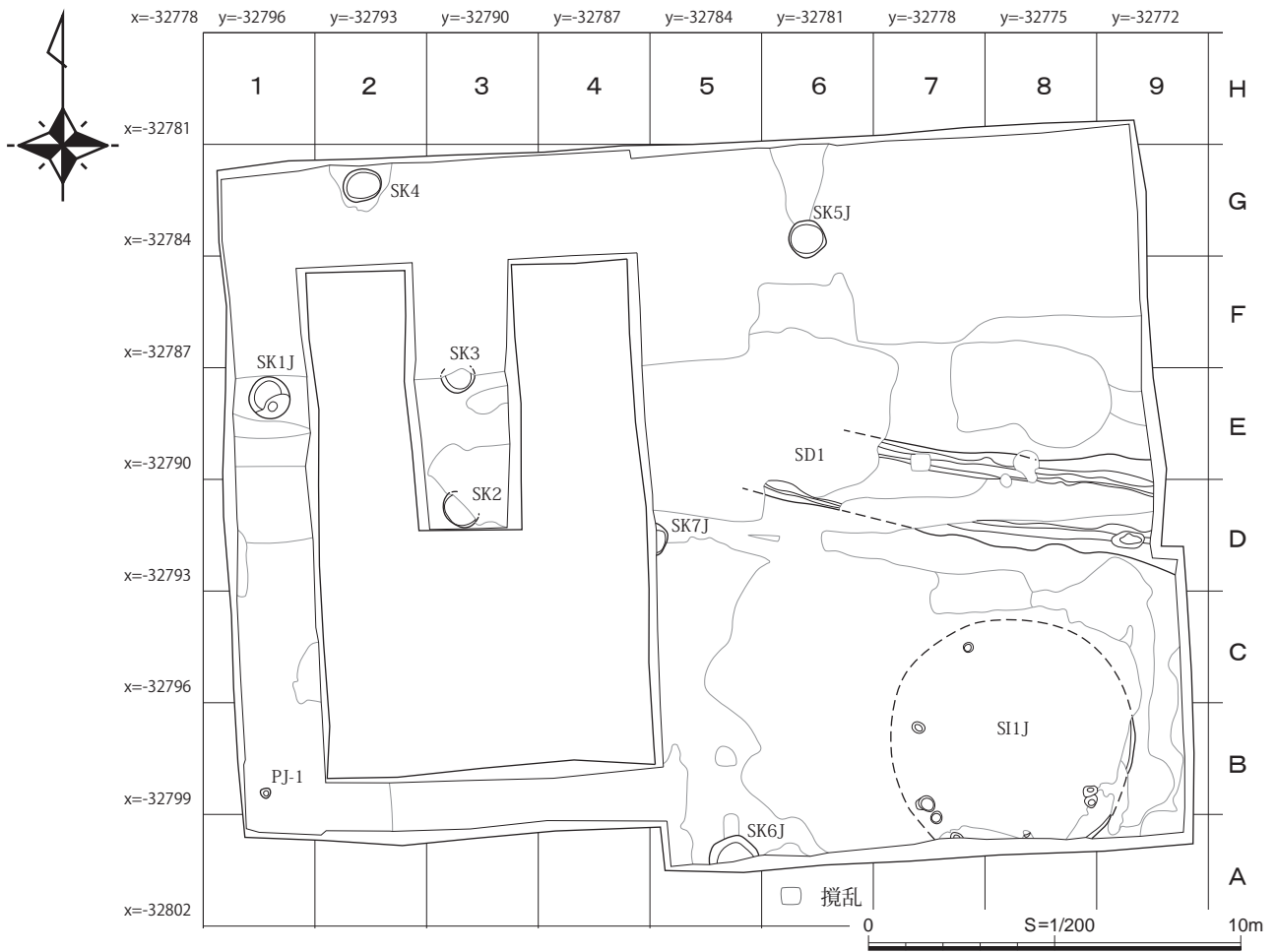
1. 遺物は水洗・注記の後、種別の分類と観察を経て各台帳を整備する。
2. 土器は型式分類と個体分類を行い、接合作業及び実測・拓本等の図化作業を進める。
3. 石器は器種分類を経て実測図を作成する。
4. 遺構・層序等の原図は整理し、必要なものを選別して報告用に図化する。
5. 遺物の写真撮影を行い、調査写真は台帳を整備し、アルバム・データ共に整理する。

第4節 整理作業の経過

整理・報告書作成作業は、平成29年5月22日より共和開発株式会社聖蹟桜ヶ丘研修センター（以下、研修センター）にて、現場で作成した図面・写真などの整理、遺物の洗浄・注記の後、遺構図の作成ならびに遺物の分類・接合を行った。その後、11月20日より遺物の実測図作成・拓本採取を開始し、引き続きデジタルトレース、遺物写真撮影を行い、平成30年7月1日より報告書の編集を開始した。

なお、平成29年8月18日、平成30年5月16日、9月14日の計3回にわたり、研修センターにて国分寺市教育委員会文化財担当者と報告書作成方針ならびに進捗状況の工程会議を設けた。

整理作業・報告書作成にかかわる全ての作業は、平成31年1月31日に本書の発行をもって終了した。



第8図 遺構配置図と遺物分布図

第4章 遺構と遺物

第1節 縄文時代

今回の調査で検出された縄文時代の遺構は、竪穴住居1軒、土坑4基、小穴1基である(第8図)。確認面は第Ⅱd層～第Ⅲ層上面である。出土した遺物は総数99点を数える。土器は中期の勝坂式と加曽利E式が主体を占める。そのうち遺構内から出土した縄文時代の遺物は56点である。内訳は、縄文土器46点、石器6点、土製品1点、礫3点である。縄文土器の時期は、中期中葉勝坂式4点、中期後葉加曽利E式22点及び曾利式6点、中期12点、詳細時期不明2点である。石器は石鏃1点、石核1点、打製石斧1点、磨石1点、剥片2点である。土製品は土製円盤である。

縄文土器の分類については、勝坂式土器—小林達雄編『総覧縄文土器』(2008)、加曽利E式土器・曾利式土器—神奈川考古同人会『縄文中期後半の問題 土器試料集成図集』(1980)の各文献を引用・参考にした。

1. 遺構

(1) 竪穴住居

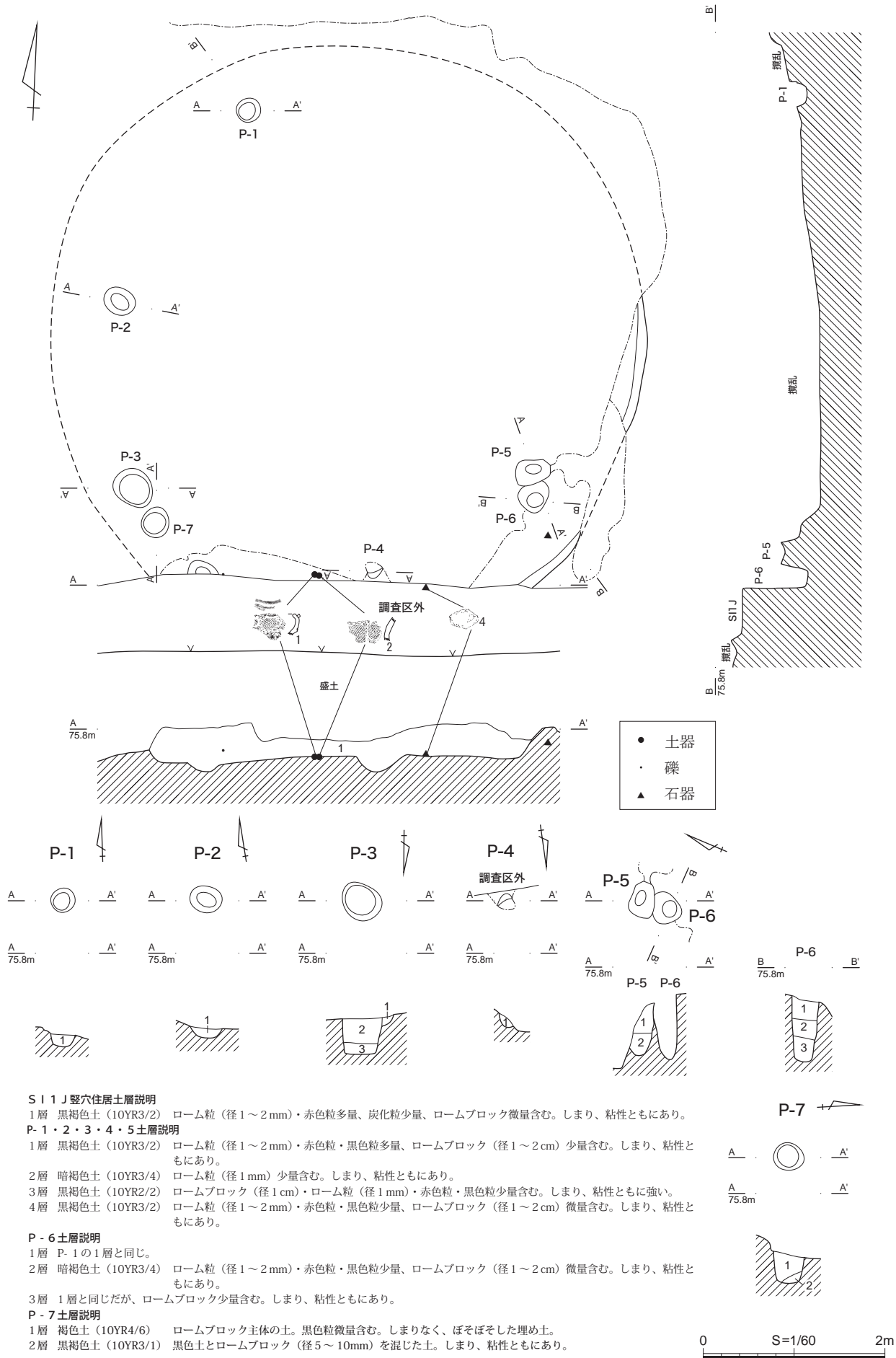
S11J 竪穴住居(第9・10図、第9・10表、図版2-8、3-1~8、4-1~5、6-1)

調査区東側で検出した。壁は南東側の一部と調査区南壁で確認されたが、大部分が攪乱によって消滅している。床面もほとんどが削平されているため全容は不明であるが、平面形は径6.5m程の円形と推定される。竪穴の掘り込みの深さは残存部最大で30~35cmを測り、床面からの立ち上がりは緩い曲面を描く。床面には柱穴と目される小穴が7本確認された。小穴は径25~45cm、深さは浅いもので10cm、最大で68cmを測る。壁に沿って巡るように掘り込まれている。

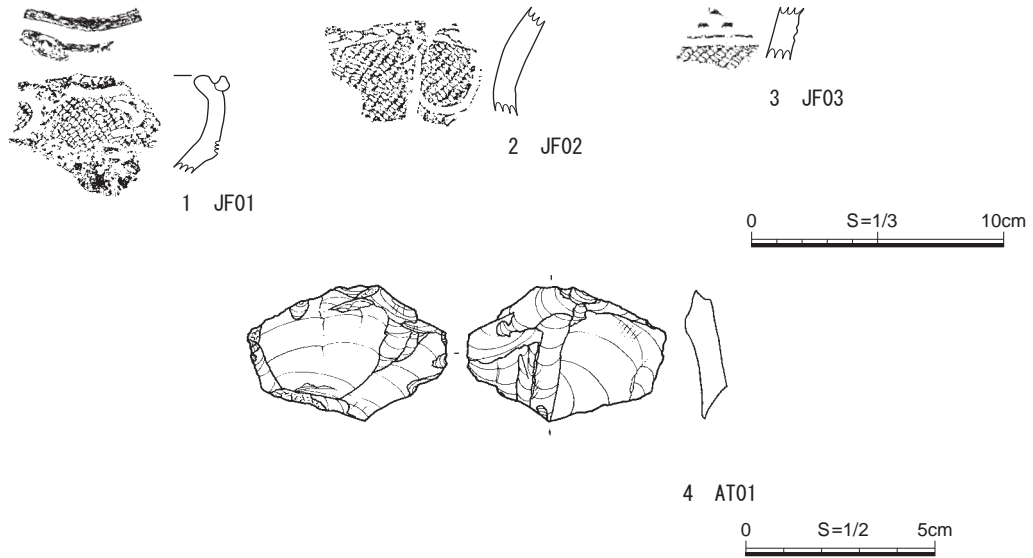
遺物は土器6点、石器2点、礫1点が出土し、土器は加曽利E2式2点、中期4点、石器はチャートとホルンフェルスの剥片である。床面から加曽利E2式土器が出土していることから、住居の所属時期は中期後半と推測される。

1は加曽利E2式の深鉢口縁部片で、口縁は内傾し、キャリパー形の器形を呈する。口唇部に溝が巡り、隆帯による区画内に単節RL縄文と、隆帯に沿って沈線が施文される。頸部は無文である。2は加曽利E2式の深鉢胴部片で、地文に単節RL縄文が施され、横方向に沈線が巡り、沈線に沿って刺突文が施される。胴部には連弧文状の沈線が配される。3は加曽利E式の深鉢胴部片で、地文に単節RL縄文が施され、横方向に沈線が描かれる。

4は住居南側の攪乱際で床面より出土した、暗青灰色の半透明なチャート製横長剥片である。表裏の縁辺に数箇所の小さな剥離痕が見られるが、意図的な調整とは思われない。ホルンフェルスの剥片は住居南東部の壁際、覆土の上部より出土したもので、加工は皆無であり、全面が著しく風化し、図示に耐えない。



第9図 S11J竪穴住居



第10図 S I I J 竪穴住居出土遺物

第9表 S I I J 竪穴住居出土縄文土器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JF01 10-1 6-1-1	加曾利 E2 式	深鉢	床面直上	— [4.1] —	口縁部片。内傾する。	内面は丁寧な磨き。口唇部に溝が巡る。表面は隆帯による区画が配され、区画内に単節 R L 縄文。隆帯に沿って沈線が施される。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量、金雲母を微量含む。焼成は良好だが、二次焼成のためやや脆弱。剥離あり。
2 JF02 10-2 6-1-2	加曾利 E2 式	深鉢	床面直上	— [4.2] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節 R L 縄文。横位に沈線が巡り、沈線に沿って刺突文。胴部に連弧文が描かれる。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量、金雲母を微量含む。焼成は良好。
3 JF03 10-3 6-1-3	加曾利 E 式	深鉢	覆土下層	— [3.3] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節 R L 縄文。横位に沈線が施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。

第10表 S I I J 竪穴住居出土石器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土区	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
4 AT01 10-4 6-1-4	40	覆土上層	調査区 東側	S I I J	剥片	Ch	3.55	5.28	1.21	19.9	

(2) 土坑

SK1J土坑(第11・12図、第11～13表、図版4-6、6-2)

調査区西側B区で確認した。平面形は径98cm程の円形で、底部までの深さは18cmを測り、断面碗形を呈する。覆土は水平な堆積を示す。覆土から縄文土器1点が出土した。

1は加曾利E2式の深鉢胴部片である。沈線区画内に短沈線が縦方向に施される。

SK5J土坑(第11・12図、第11～13表、図版4-7・8、6-2)

調査区東側北部で確認した。上部は攪乱によって削平されている。平面形は径86cm程の歪んだ円形で、深さ83cmの筒状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。覆土中から土器25点、土製品1点、石器1点、礫1点が出土した。土器は勝坂式2点、曾利式6点、加曾利E式9点、中期1点、土製品は中期の土製円盤、石器は石鏃である。遺物は覆土下部に集中する。土器は加曾利E2式が主体であり、曾利II式を伴う事から、土坑は中期後半の所産と推測される。

2・3は勝坂2式の深鉢胴部片である。2は刻み目が施された隆帯が渦巻き状に配され、隆帯に沿って沈線が施文される。3は交互に刻みが施された隆帯が配され、横方向の沈線が描かれる。4～7は曾利II式の深鉢で、4は口縁部片である。波状粘土紐下に平行沈線が数本みられる。5～7は胴部片で、5は波状粘土紐が配され、斜行沈線が描かれる。6は波状粘土紐が巡る。7は隆帯に沿って波状沈線が施され、縦位の沈線が描かれる。8・9は曾利式の深鉢胴部片で、縦方向に条線が施される。10～14は加曾利E2式の深鉢胴部片である。10は地文に単節RL縄文を施文後、縦方向に波状隆帯が垂下する。11は地文に単節LR縄文を施文後、縦方向に懸垂沈線と波状沈線が描かれる。12～14は地文に単節RL縄文が施文され、連弧文が描かれる。15～18は加曾利E式の深鉢胴部片である。15は地文に単節RL縄文が施文される。16～18の表面は無文であるが、胎土・焼成から加曾利E式とした。19は中期の底部片で、表面・底面は無文である。20は文様はないが、中期の土器片を利用した土製円盤である。側面は丁寧に磨かれている。

21は覆土上部から出土したチャート製の石鏃である。光沢の強い暗灰色のチャート製の小型凹基鏃である。表裏共に丁寧に細かい調整を加えて成形する。左脚の先端と右脚を欠損する。

SK6J土坑(第11・12図、第11表、図版5-1、6-2)

調査区東側南部で確認した。南側は調査区外へ延びる。平面形は円形若しくは楕円形を呈するものと思われる。残存規模は径1.2m、深さ83cmの筒状を呈する。覆土は水平な堆積を示す。覆土中から土器2点が出土した。

22は勝坂2式の深鉢胴部片である。刻みが施された隆帯が配され、隆帯に沿って沈線が施文される。23は中期の深鉢口縁部片である。口縁は内傾し、表面は無文である。

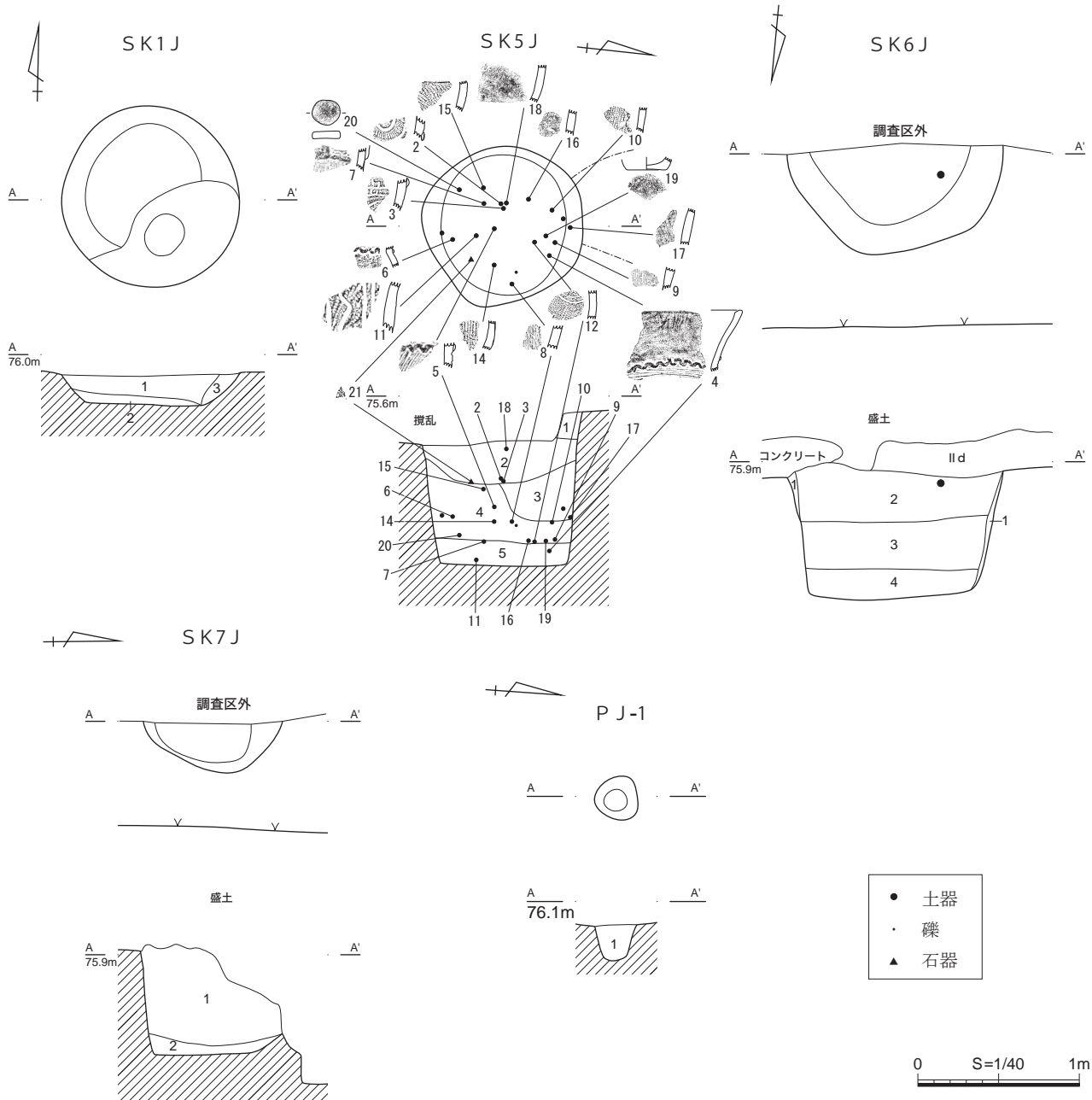
SK7J土坑(第11図、図版5-2)

調査区東側西部で確認した。西側は調査対象外の区域へ延びる。北側上部は壊されている。平面形は円形若しくは楕円形であろうか。残存規模は径76cm、深さ68cmで筒状を呈するものと思われる。覆土は水平な堆積を示す。遺物は含まない。

(3) 小穴

PJ-1小穴(第11図、図版5-3)

調査区西側C区で確認した。平面形は径26cmの歪んだ円形で、深さ22cmである。断面はU字状を呈する。覆土は単層で、遺物は含まない。



SK1 J 土坑土層説明

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・赤色粒 (径1~5mm) 微量含む。しまり、粘性ともに強い。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1~5mm)・ロームブロック (径1~3cm) 少量、赤色粒微量含む。しまり、粘性ともにややあり。
- 3層 明黄褐色土 (10YR6/6) ロームブロック主体。しまりあり、粘性ややあり。

SK5 J 土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・赤色粒 (径1~2mm) 多量含む。しまり、粘性ともに強い。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・赤色粒 (径1~2mm) 多量含む。しまり、粘性ともに強い。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2) 2層に同じだが、ロームブロック (径2~3cm) 少量含む。しまり、粘性ともに強い。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2) 2層に類似するが、やや大きい粒子 (径2~3mm) 多量含む。しまり、粘性ともに強い。
- 5層 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒・赤色粒 (径1~2mm) 少量含む。色調やや暗い。しまり、粘性ともに強い。

SK6 J 土坑土層説明

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1mm) 少量含む。しまり、粘性ともに強い。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・赤色粒・黒色粒 (径1~2mm) 多量含む。しまり、粘性ともに強い。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・赤色粒・黒色粒 (径1~2mm) 多量含む。しまり、粘性ともに強い。
- 4層 黒褐色土 (10YR3/2) 2層にロームブロック (径2~3cm) 少量含む。しまり、粘性ともに強い。

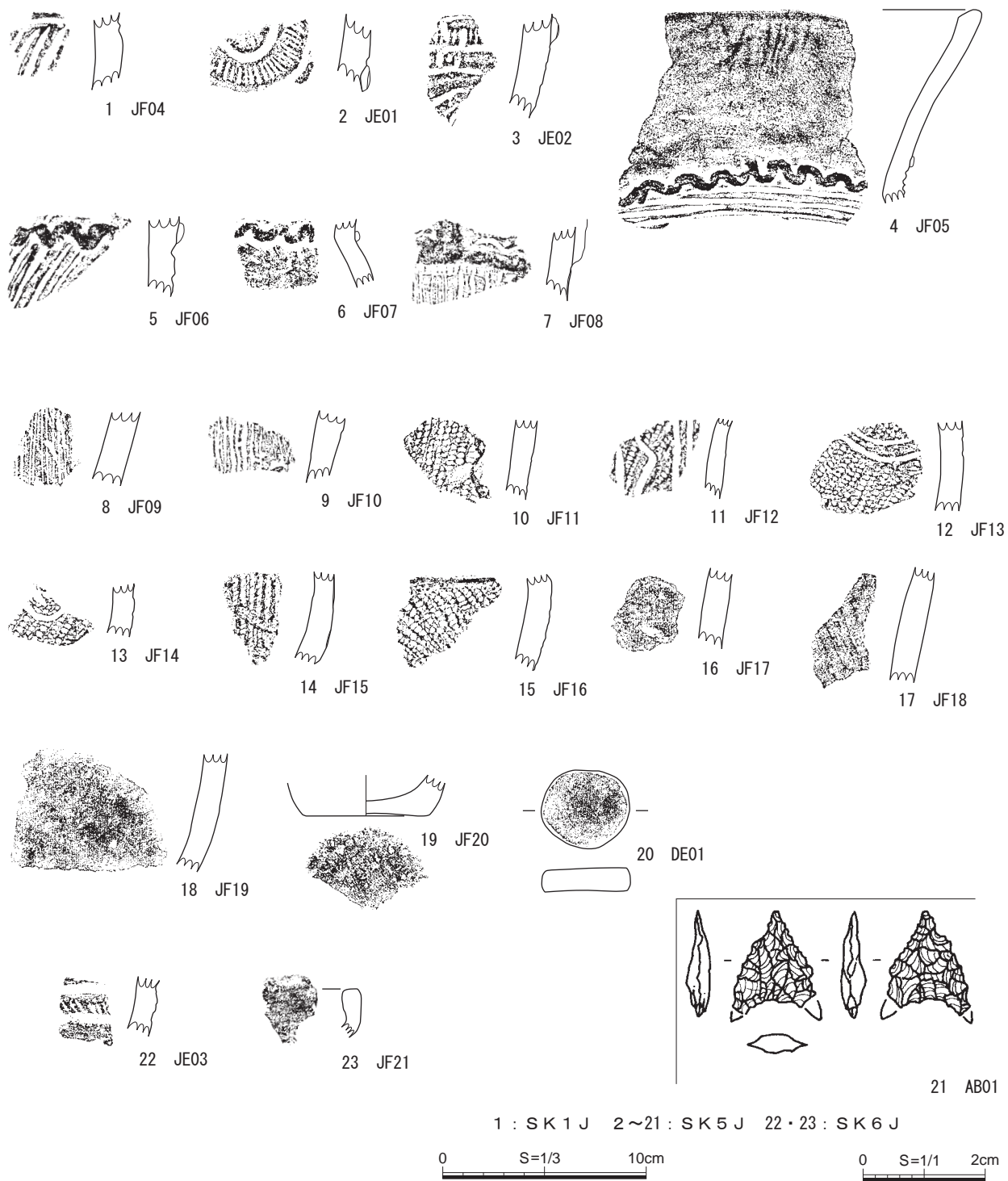
SK7 J 土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・赤色粒・黒色粒 (径1~2mm) 多量含む。しまり、粘性ともに強い。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 2層にロームブロック (径2~3cm) 少量含む。しまり、粘性ともに強い。

P J - 1 小穴土層説明

- 1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・赤色粒 (径1~3mm) 微量含む。しまり、粘性ともに強い。

第11図 SK1・5~7 J 土坑・P J-1 小穴



第 12 図 SK 1・5・6 J 土坑出土遺物

第 11 表 土坑出土縄文土器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JF04 12-1 6-2-1	加曾利 E2 式	深鉢	S K 1 J	[4.5] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は沈線による区画内に短沈線が縦位に充填される。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、金雲母を少量含む。焼成は良好。
2 JE01 12-2 6-2-2	勝坂 2 式	深鉢	S K 5 J	[3.6] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は刻み目が加えられた隆帯が渦巻き状に配される。隆帯に沿って沈線が巡る。	黒褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
3 JE02 12-3 6-2-3	勝坂 2 式	深鉢	S K 5 J	[5.4] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は交互に刻み目が加えられた隆帯が配される。胴部は横位の沈線が描かれる。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を極微量含む。焼成は良好。
4 JF05 12-4 6-2-4	曾利 II 式	深鉢	S K 5 J	[10.2] —	口縁部片。	内面は丁寧な磨き。剥離あり。表面は波状隆帯が巡る。隆帯に沿って数本平行沈線が配される。	黒褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
5 JF06 12-5 6-2-5	曾利 II 式	深鉢	S K 5 J	[4.7] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は波状隆帯が巡り、胴部は斜位の沈線が施される。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
6 JF07 12-6 6-2-6	曾利 II 式	深鉢	S K 5 J	[3.3] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は波状隆帯が巡る。	黄褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
7 JF08 12-7 6-2-7	曾利 II 式	深鉢	S K 5 J	[3.9] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は隆帯に沿って波状沈線が施される。胴部は縦位の沈線が描かれる。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
8 JF09 12-8 6-2-8	曾利式	深鉢	S K 5 J	[4.0] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は縦方向に条線が描かれる。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
9 JF10 12-9 6-2-9	曾利式	深鉢	S K 5 J	[3.6] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は縦方向に条線が描かれる。	灰褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
10 JF11 12-10 6-2-10	加曾利 E2 式	深鉢	S K 5 J	[4.6] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節 R L 縄文を施した後、縦位に波状隆帯が配される。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
11 JF12 12-11 6-2-11	加曾利 E2 式	深鉢	S K 5 J	[3.6] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節 L R 縄文を施した後、縦位に沈線と波状沈線が描かれる。	黒褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
12 JF13 12-12 6-2-12	加曾利 E2 式	深鉢	S K 5 J	[4.8] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節 R L 縄文。胴部に連弧文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
13 JF14 12-13 6-2-13	加曾利 E2 式	深鉢	S K 5 J	[2.8] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節 R L 縄文。胴部に連弧文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
14 JF15 12-14 6-2-14	加曾利 E2 式	深鉢	S K 5 J	[4.6] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文に単節 R L 縄文。胴部に連弧文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
15 JF16 12-15 6-2-15	加曾利 E 式	深鉢	S K 5 J	[4.5] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。煤付着。表面は地文に単節 R L 縄文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量、金雲母を微量含む。焼成は良好。
16 JF17 12-16 6-2-16	加曾利 E 式	深鉢	S K 5 J	[3.7] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は無文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
17 JF18 12-17 6-2-17	加曾利 E 式	深鉢	S K 5 J	[4.6] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
18 JF19 12-18 6-2-18	加曾利 E 式	深鉢	S K 5 J	[5.8] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母・金雲母を微量含む。焼成は良好。
19 JF20 12-19 6-2-19	中期	深鉢	S K 5 J	[2.0] —	底部片。	内面は丁寧な磨き。表面・底面は無文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
22 JE03 12-22 6-2-22	勝坂 2 式	深鉢	S K 6 J	[2.9] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は刻み目が施された隆帯が配される。隆帯に沿って沈線が巡る。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
23 JF21 12-23 6-2-23	中期	深鉢	S K 6 J	[2.6] —	口縁部片。内傾する。	内面は丁寧な磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。

第 12 表 土坑出土土製品観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	種別 器種	出土位置	重量 (g)	最大長・最大幅・最大厚 (cm)	擦痕など	文様
20 DE01 12-20 6-2-20	土製円盤	S K 5 J	24.5	4.3・3.9・1.1	側面は丁寧な磨き。	無文。

第 13 表 土坑出土石器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土区	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
21 AB01 12-21 6-2-21	10	覆土上部	調査区 東側	S K 5 J	石鏃	Ch	1.71	1.33	0.38	0.6	左脚先端・右脚欠損

2. 遺物

(1) 縄文土器 (第13図、第14表、図版7-1)

今回の調査で出土した縄文土器・土製品は90点を数える。そのうち遺構外からは縄文土器43点が出土した。縄文土器の時期は、中期中葉勝坂式4点、中期後葉加曽利E式7点、中期28点、詳細時期不明4点である。

土器全体の分布状況は、調査区西側A・D区から調査区東側にかけて疎らに分布しており、調査区西側B・C区、調査区東側中央では希薄である。こうした遺物の偏った分布状況は、包含層が削平され残存していないことや攪乱によって遺構が壊されていることに関係するものと考えられる。ここでは、勝坂式と加曽利E式及び中期の土器を扱う。

縄文土器の分類については、勝坂式土器—『総覧縄文土器』(2008)、加曽利E式土器—『縄文中期後半の問題 土器試料集成図集』(1980)の各文献を引用・参考にした。

中期の土器

勝坂式 (第13図、第14表、図版7-1)

1・2は勝坂2式の深鉢胴部片である。隆帯に沿って爪形文が施される。3は勝坂3式の深鉢胴部片である。羽状の刻み目が施された隆帯に沿って爪形文が巡る。

加曽利E式 (第13図、第14表、図版7-1)

4～6は加曽利E2式の深鉢胴部片である。4は地文に撚糸rを縦方向に施した後、2本1組の隆帯を縦位に配する。5は地文に撚糸rが縦方向に施される。6は縦方向の沈線と連弧文が描かれる。7・8は加曽利E式の深鉢胴部片である。7は縦方向に平行沈線が施される。8は縦方向に条線が施される。

中期の土器 (第13図、第14表、図版7-1)

9は深鉢底部片である。表面・底面は無文である。胎土・焼成から中期とした。

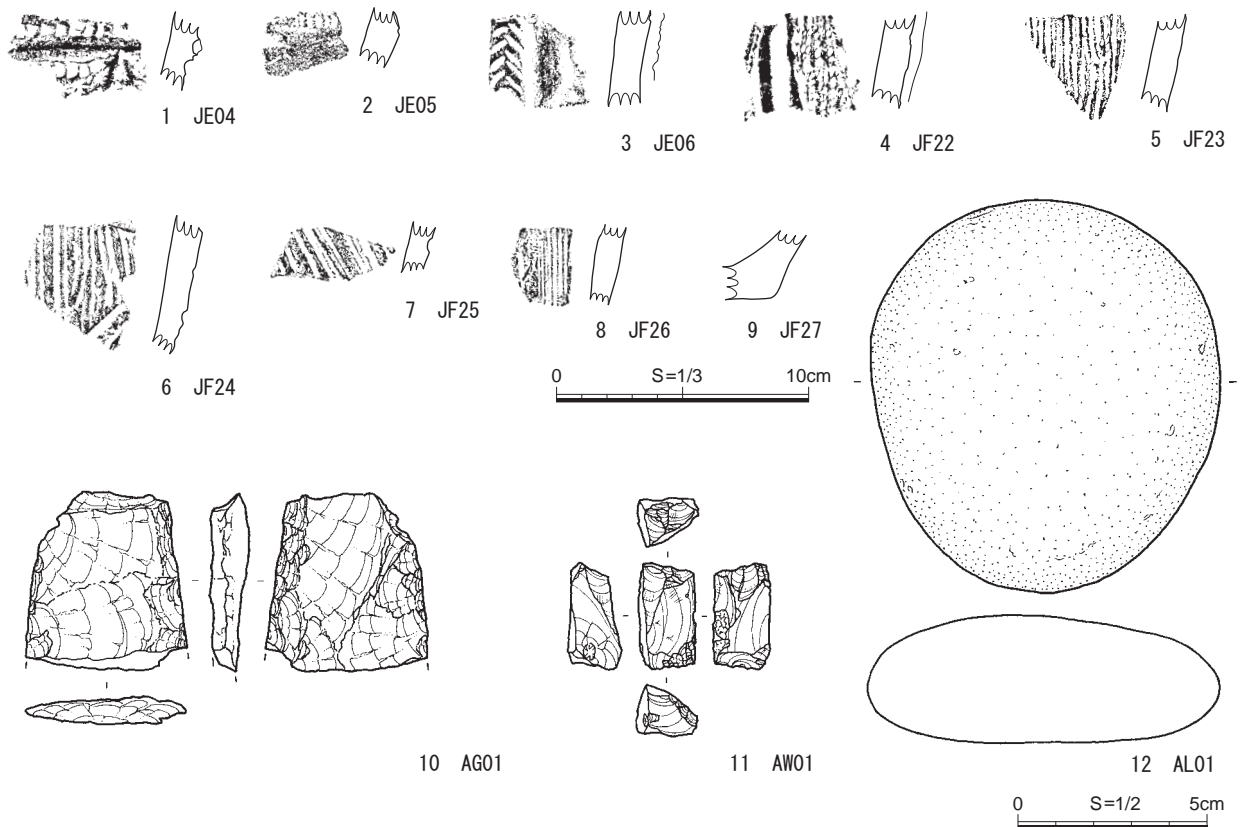
(2) 石器 (第13図、第15表、図版7-1)

第Ⅱ層より3点の石器が出土した。

10は調査区東部より出土した暗灰色の砂岩製の打製石斧である。頭部破片と見られ、上端と下部を欠損する。薄手の剥片の表裏に両側縁から調整を施して成形する。磨耗・敲打などの使用痕跡は見られない。

11は調査区南部より出土した、半透明の良質な黒曜石製の石核である。形態は三角柱状で、上下及び左側面の3方向から剥片剥離が行なわれている。上部の打面は殆ど残らないが、わずかに打面調整の痕跡が認められる。下部の打面には大きく調整が加えられているが、その後剥片剥離は行なわれていない。

12は磨石と思われる一括資料である。砂岩の扁平な円礫で、表面は滑らかであり、加工や使用の痕跡は特に見当たらない。



第 13 図 遺構外出土遺物

第 14 表 遺構外出土縄文土器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JE04 13-1 7-1-1	勝坂2式	深鉢	II c	— [3.2] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は隆帯に沿って爪形文が施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。
2 JE05 13-2 7-1-2	勝坂2式	深鉢	II c	— [2.3] —	胴部片。	内面は丁寧な磨きだが剥離あり。表面は低い隆帯に沿って爪形文が施される。	黒褐色。胎土は密。細砂粒を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
3 JE06 13-3 7-1-3	勝坂3式	深鉢	II c	— [3.7] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は隆帯上に羽状の刻み目が加えられる。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
4 JF22 13-4 7-1-4	加曾利E2式	深鉢	攪乱	— [4.1] —	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は地文に撚糸rを縦方向に施した後に、沈線による2本1組の懸垂隆帯を配する。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
5 JF23 13-5 7-1-5	加曾利E2式	深鉢	II c	— [4.2] —	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は地文に撚糸rを縦方向に施文する。	赤褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
6 JF24 13-6 7-1-6	加曾利E2式	深鉢	II c	— [5.3] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は縦位の沈線と連弧文が施される。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
7 JF25 13-7 7-1-7	加曾利E式	深鉢	II c	— [2.5] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は縦方向に平行する沈線が配される。	灰褐色。胎土密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
8 JF26 13-8 7-1-8	加曾利E式	深鉢	攪乱	— [3.2] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は縦方向に条線が施文される。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
9 JF27 13-9 7-1-9	中期	深鉢	II c	— [3.6] —	底部。	内面はやや粗い磨き。表面と底面は無文。	橙褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。

第 15 表 遺構外出土石器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	遺物番号	出土層位	出土区	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
10 AG01 13-10 7-1-10	24	包含層	調査区 東側	II c	打製石斧	Sa	4.69	4.28	0.96	24.0	上下欠損
11 AW01 13-11 7-1-11	9	包含層	調査区 東側	II c	石核	Ob	2.75	1.51	1.70	6.0	
12 AL01 13-12 7-1-12	一括	包含層	—	II c	磨石	Sa	10.37	9.08	3.37	490.0	

第2節 中世以降

今回の調査で検出された遺構は、溝状遺構1条、土坑3基である。確認面は第Ⅱc～第Ⅱd層である。中世以降の遺物は、遺構外から出土した近代以降の瓦あるいは土管と思われる常滑産の陶器1点だけである。遺構内からは、後世の農地改良等によって客土と共に外部から持ち込まれたと思われる縄文土器が少量見つかっている。

1. 遺構

(1) 溝状遺構

S D 1 溝状遺構（第14・15図、第16表、図版5-4・5、7-2）

調査区東側で確認した。東西方向に走る溝だが、東側は調査区外に延びる。西側は攪乱によって消滅している。上部は削平されており、遺存状況は不良である。残存する全長は11.16m、幅2.8m、深さ24～30cmである。底部は2条に分岐しているが、境壁は低く、別の溝とは考えられない。水が流れた痕跡がないことから、畑地の境界と根切り或いは一時的な排水機能を兼ね合わせた道路状遺構であることが考えられる。溝状遺構の正確な所属時期は不明であるが、耕作土の下に掘り込み面があることから、近代以前の所産であることは間違いないだろう。

覆土から縄文土器3点が出土した。1は勝坂2式の深鉢胴部片で、刻みが施された隆帯が巡り、隆帯にそって沈線が施文される。2は加曾利E2式の深鉢胴部片で、地文に単節RL縄文が施され、沈線が垂下する。

(2) 土坑

S K 2・3・4 土坑（第14・15図、第16表、図版5-6～8、7-2）

中世以降のものと思われる3基の土坑が確認された。いずれも攪乱によって上部が削平されているが、第Ⅱb層起源の黒色の粗粒土を主体覆土としていることから、中世以降の所産と判断した。遺物は流入した縄文土器や礫が見つかっている。文様のない縄文土器は胎土・焼成から加曾利E式とした。

S K 2 土坑（第14・15図、第16表、図版5-6、7-2）

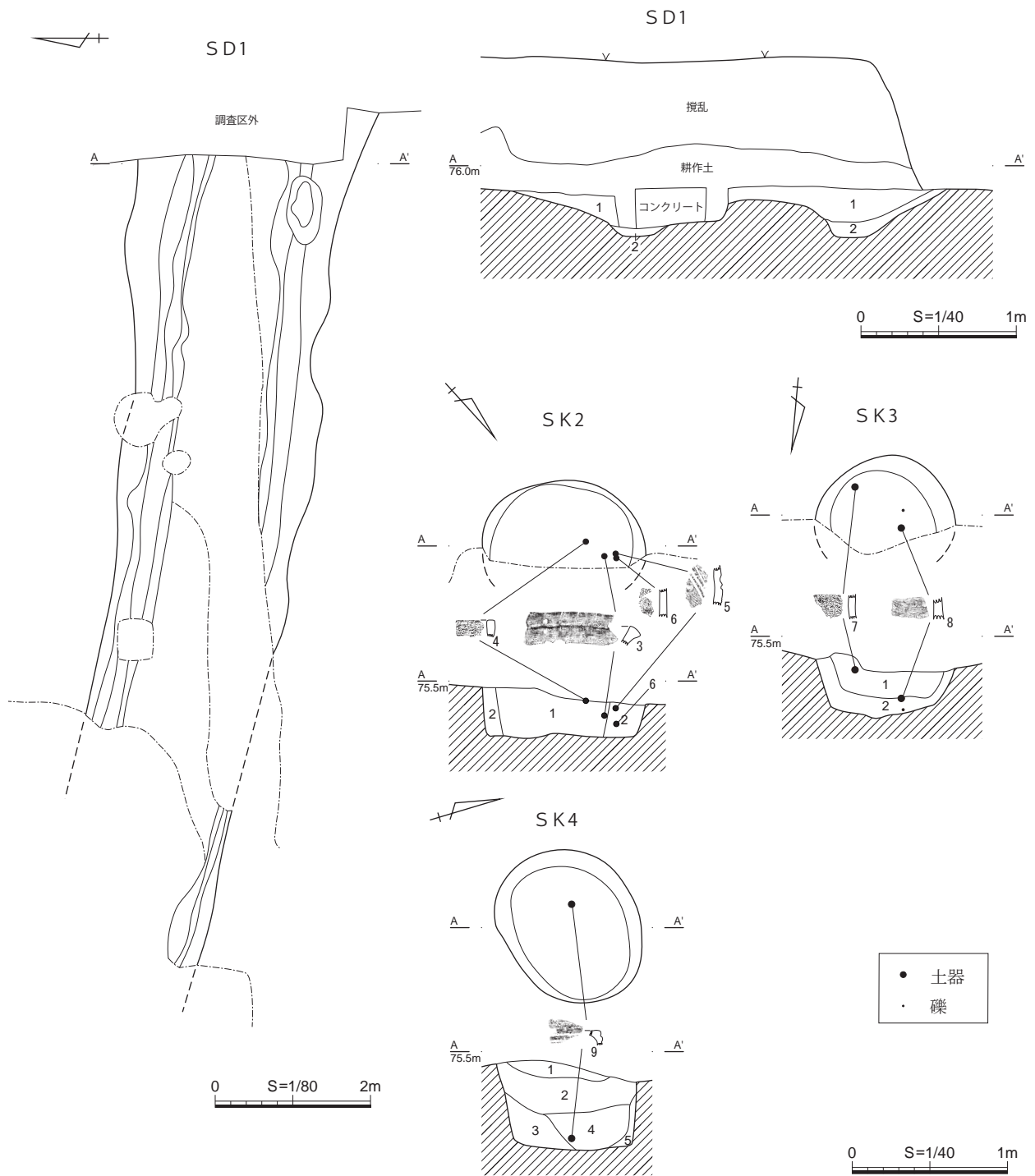
調査区西側D区で確認した。北側は攪乱で消滅している。平面形は径1.06mの円形を呈するものと思われる。底部までの深さ32cmである。断面は、筒状で底面には歪みがある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土から縄文土器4点が出土した。

3は加曾利E式の浅鉢口縁部片で、口縁は外傾する。口唇部に篋状工具による刻み目が施される。赤彩の痕跡が残る。4は加曾利E式の深鉢口縁部片で、無文である。5は加曾利E2式の深鉢胴部片で、地文に撚糸rが施された後、3本1単位の沈線が垂下する。6は加曾利E式の深鉢胴部片で、無文である。

S K 3 土坑（第14・15図、第16表、図版5-7、7-2）

調査区西側D区で確認した。北側は攪乱で消滅している。平面形は径90cmの円形を呈するものと思われる。底部までの深さ32cmである。断面は凸レンズ状で、底面には歪みがある。覆土は水平な堆積を示す。覆土から縄文土器2点、礫1点が出土した。

7は加曾利E式の深鉢口縁部片で、無文である。8は加曾利E式の深鉢胴部片で、無文である。



SD1 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径1~3mm)・ロームブロック (径5~10mm)・炭化物微量含む。しまり、粘性ともにややあり。上層の耕作土に近似する。
- 2層 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック (径1~3cm)多量、ローム粒 (径1~3mm)中量、炭化物微量含む。しまり、粘性ともにあり。やや硬化している。道路状遺構のわだちか。

SK2 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径2~5mm) 中量、炭化物微量含む。しまり、粘性ややあり。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1~5mm) 多量、炭化物微量含む。しまり、粘性ともにあり。

SK3 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径1~5mm) 中量、黒色ブロック (径1~2cm) を染み状に含む。ロームブロック (径1~4cm) 少量含む。しまり、粘性ともにあり。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒 (径1~5mm) 多量、ロームブロック (径1~8cm) 中量、黒色ブロック (径1cm) 少量含む。しまり、粘性ともにあり。

SK4 土層説明

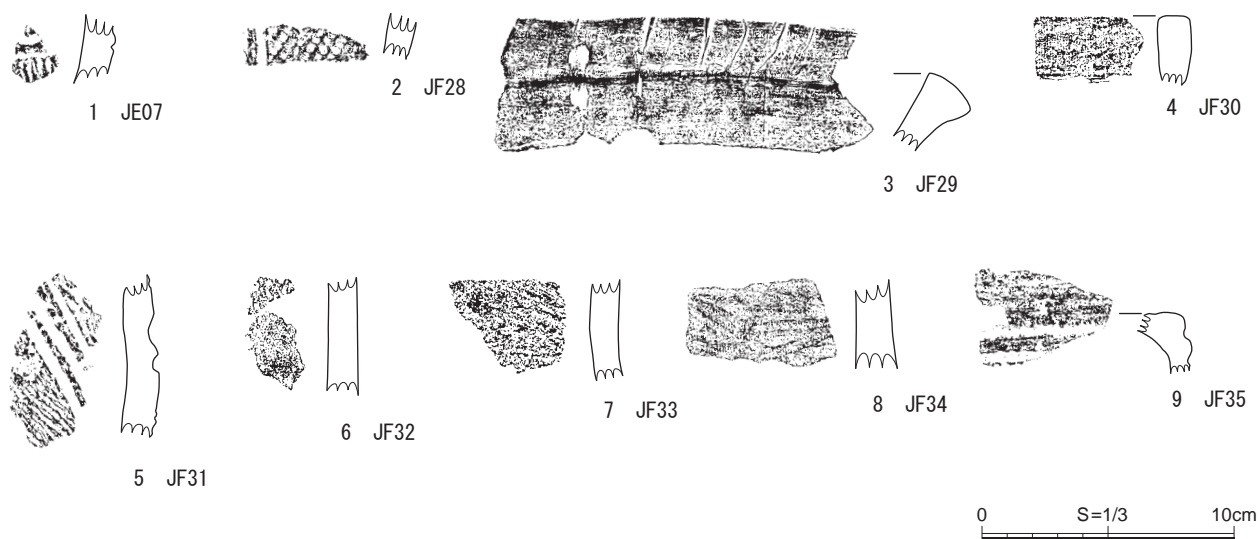
- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒 (径1~3mm) 少量、炭化物微量含む。しまり、粘性ともにあり。
- 2層 褐色土 (10YR4/4) 黒褐色土に多量のロームブロック・ローム粒が混じる。しまり強く、粘性あり。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径1~3mm)・ロームブロック (径1~2cm) 中量含む。しまり、粘性ともにややあり。
- 4層 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒 (径1~3mm) 微量、ロームブロック (径1~2cm) 少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
- 5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒 (径2~5mm) 中量、ロームブロック (径1~2cm) 少量含む。しまり、粘性ともにややあり。

第14図 SD1 溝状遺構・SK2~4 土坑

S K 4 土坑（第 14・15 図、第 16 表、図版 5－8、7－2）

調査区西側 A 区で確認した。平面形は、長軸 1.02m、短軸 84cm の楕円形である。深さは 56cm である。断面は筒状で、底面は平滑である。覆土は水平な堆積を示す。覆土から縄文土器 1 点が出土した。

9 は加曾利 E 式の浅鉢口縁部片で、口縁は内傾する。口縁に沿って平行沈線が巡る。



第 15 図 S D 1 溝状遺構・S K 2～4 土坑出土遺物

第 16 表 溝状遺構・土坑出土縄文土器観察表

掲載番号 図面番号 図版番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JE07 15-1 7-2-1	勝坂 2 式	深鉢	S D 1	— [3.1] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は刻み目が施された隆帯が巡り、隆帯に沿って沈線が施文される。	黒褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量、金雲母を微量含む。焼成は良好。
2 JF28 15-2 7-2-2	加曾利 E2 式	深鉢	S D 1	— [2.0] —	胴部片。	内面は丁寧な磨きだが剥離あり。表面は地文に単節 L R 縄文が施され、沈線が垂下する。	灰褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
3 JF29 15-3 7-2-3	加曾利 E 式	浅鉢	S K 2	— [2.9] —	口縁部片。外傾する。	両面は丁寧な磨き。口唇部と表面の一部に篋状工具による刻み目が施される。朱塗の痕跡あり。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
4 JF30 15-4 7-2-4	加曾利 E 式	深鉢	S K 2	— [2.6] —	口縁部片。	両面は丁寧な磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
5 JF31 15-5 7-2-5	加曾利 E2 式	深鉢	S K 2	— [6.0] —	胴部片。	内面は無成形。表面は地文に撚糸 r が施された後、3 本 1 単位の沈線が垂下する。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒を多量、雲母を微量含む。焼成は良好。
6 JF32 15-6 7-2-6	加曾利 E 式	深鉢	S K 2	— [5.8] —	胴部片。	両面は丁寧な磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
7 JF33 15-7 7-2-7	加曾利 E 式	深鉢	S K 3	— [4.2] —	口縁部片。口唇部破損。	内面は丁寧な磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。
8 JF34 15-8 7-2-8	加曾利 E 式	深鉢	S K 3	— [3.7] —	胴部片。	両面は丁寧な磨き。表面は無文。	暗褐色。胎土は密。細砂粒・雲母を多量含む。焼成は良好。
9 JF35 15-9 7-2-9	加曾利 E 式	浅鉢	S K 4	— [2.6] —	口縁部片。内傾する。口唇部破損。	内面はやや粗い磨き。表面は口縁に沿って平行沈線が巡る。	暗褐色。胎土はやや粗い。細砂粒を多量、雲母を少量含む。焼成は良好。

第5章 総括

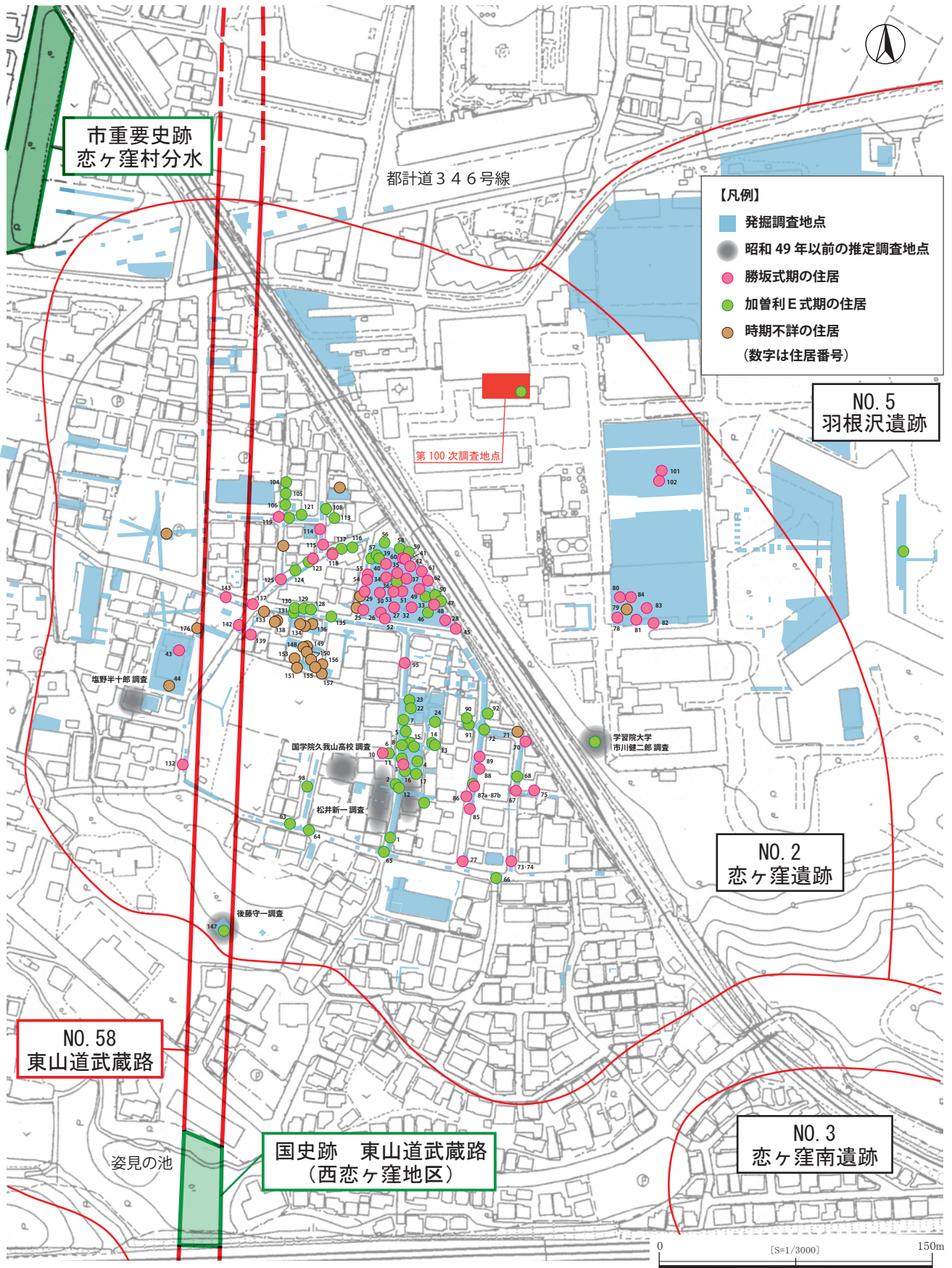
本調査は、昭和50年度の第1次調査から通番整理している恋ヶ窪遺跡において、100回目となる発掘調査である（第3図）。それ以前には、昭和12年に後藤守一が敷石住居を発見したことを嚆矢として（後藤 1937）、戦後間もない頃に国立高校考古学研究会・塩野半十郎・学習院大学の市川健二郎らが、さらには昭和39～40年に松井新一（松井他 1965）・國學院久我山高校が調査を重ね、恋ヶ窪遺跡は縄文時代中期の集落遺跡として周知されていった（吉田他 1986）。

今次の調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲の北東部にあたる。調査区内の大部分は、既に日立中央研究所開設以降に建てられた建物基礎等の攪乱を受けて、遺構・遺物の遺存状況は必ずしも良好ではなかったが、縄文時代の住居跡1軒・土坑4基・小穴1基、中世以降の溝状遺構1条・土坑3基等の遺構が発見された。このうち、縄文時代の住居跡S I 1 Jは、円形に巡るピット配列や遺物の出土分布を手掛かりに住居跡として把握したものであるが、床面から出土した土器からその所産時期は加曾利E 2式期と想定した。さて、第16図には恋ヶ窪遺跡における縄文時代住居跡の分布状況を示した。恋ヶ窪遺跡では、これまでに縄文時代の住居跡が120軒が検出されており、その分布は、一見すると西武国分寺線以西で恋ヶ窪谷の崖線縁辺部に程近い西恋ヶ窪一丁目界限に集中しているかのようである。調査範囲の偏在や、第100次調査地点の周辺に調査実績が少ないこともあるが、現時点でS I 1 Jは検出された120軒のうち最北端に位置する住居跡である。本報告書に合わせて収載した近接する羽根沢遺跡第6・8次調査成果をみても、縄文時代の竪穴住居は検出されていないので、当該調査地点付近が居住域としての北限を示すものと思われる。

また、西武国分寺線以東で、現日立中研構内でこれまでに実施された調査（第35・39次調査）では、勝坂式期の住居跡が主体であったなか、今回の調査で加曾利E式期の住居跡が発見されたことは、集落の変遷を考えるうえで貴重な発見といえよう。しかし、集落の具体的な様相や変遷を追究するうえでは、第4表にこれまでの調査履歴を示したように、発掘調査はしたものの未報告次数が多いことや、遺物の出土状況と現行の縄文時代土器編年に照らした各住居跡の細別時期比定を行う必要があり、今後の作業課題といえる。

一方、中世以降の所産と想定した溝状遺構や土坑群は、表土中より近代常滑焼の土管が1点出土した以外、覆土中には当該期の遺物を含んでおらず、時期の詳細は不明と言わざるを得ない。溝S D 1は東西に並走する2条の溝で、前篇第6章でも触れたとおり、その走行位置は明治期以降の土地の筆境にほぼ合致しており、畑地の境界を示す根切溝と想定した。一方、検出された土坑群のうち土坑S K 5～7とS K 2・4などは、覆土の様相から便宜的に縄文と中世以降とに区分しているものの、いずれも径1m前後の円形プランで深さは50～80cmを測り、平坦な坑底面から垂直気味に立ち上がる掘り込みの形状は近似しており、同時期の所産の可能性もあることも付記しておきたい。

恋ヶ窪遺跡は、前述のとおり縄文時代中期の集落跡として著名である一方、周知の範囲を縦断する形で古代の東山道武蔵路と中世の鎌倉街道が通過し、姿見の池に纏わる畠山重忠伝承や、道興准后が恋ヶ窪宿の栄枯盛衰を『廻国雑記』に著すなど、近世以前に遡る集落の存在が窺える地域でもある。調査地点は恋ヶ窪村の本村集落域からは北東背後の平坦地にあたり（第4図）、前編の羽根沢遺跡第6・8次調査の成果とともに、現在の日立中央研究所構内で中世の土地利用に関する情報が蓄積されることとなったが、その実態の把握には今後も機会を捉えて調査を継続していく必要がある。



第16図 恋ヶ窪遺跡の竪穴住居分布図

引用・参考文献

- 小野本敦 2008 『東山道武蔵路発掘調査概報Ⅰ—都市計画道路3・4・6号線築造工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 小野本敦 2012 『平成22年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 神奈川考古同人会 1980 『縄文時代中期後半の問題 土器試料集成図集』神奈川考古第10号
- 上敷領久・中山真治・黒尾和久 1991・2008 『恋ヶ窪席調査報告Ⅴ(本文編・図版編)』国分寺市教育委員会
- 上敷領久 2003 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅲ—都宮本町四丁目団地建設に伴う事前調査—』国分寺市遺跡調査会
- 上敷領久 2007 『平成16・17年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 上敷領久他 2007 『花沢西遺跡発掘調査概報Ⅰ』国分寺市遺跡調査会
- 上敷領久他 2008 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅴ』国分寺市教育委員会
- 上敷領久他 2014 『平成24年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 上村昌男他 1991 『国分寺市 No.37 遺跡調査概報Ⅰ』国分寺市遺跡調査会
- 上村昌男 1996 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅶ』国分寺市遺跡調査会
- 上村昌男 2000 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅱ—丸紅株式会社共同住宅建設に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 上村昌男他 2006 『武蔵国分寺跡発掘調査概報26—北方地区・平成8~10年度西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 小林達雄編 2008 『総覧縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会 株式会社アム・プロモーション
- 後藤守一 1937 「武蔵国分寺村に於ける敷石住居遺跡の発掘」『考古学雑誌』27-11
- 実川順一他 1987 『恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報—都宮国分寺第8都宮住宅建設に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 滝口 宏・広瀬昭弘他 1988 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅳ』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 立川明子 2009 『平成19年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 立川明子 2010 『平成20年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 立川明子 2011 『平成21年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 寺前めぐみ他 2013 『平成23年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 永峯光一・広瀬昭弘・秋山道生他 1979 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 永峯光一・広瀬昭弘・秋山道生他 1980 『東京都国分寺市恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ』恋ヶ窪遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 永峯光一・広瀬昭弘・秋山道生他 1982 『東京都国分寺市恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅲ』恋ヶ窪遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 林 徹他編 2017 『東京都国分寺市恋ヶ窪東遺跡発掘調査報告所 第22次調査』共和開発株式会社
- 林 徹他編 2018 『東京都国分寺市羽根沢遺跡発掘調査報告所 第9・10次調査』共和開発株式会社
- 広瀬昭弘他 1990 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅰ—山一証券国分寺独身寮建設に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 福島宗久他 2003 『武蔵国分寺跡遺跡北方地区—西国分寺地区土地区画整理事業に伴う調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第136集
- 星野亮勝・上村昌男・上敷領久 1992 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅵ—日立中央研究所研究棟・食堂・プール更衣室建設工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 増井有真他 2016 『平成26年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 増井有真他 2017a 『平成27年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』国分寺市教育委員会
- 増井有真他 2017b 『平成27年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 松井新一・藤間恭助 1965 「国分寺市恋ヶ窪使役発掘調査概要」『多摩考古』第7号 多摩考古学会
- 三木 弘 1985 『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅸ—北方地区・鉄道学園内下水道工事に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 三木 弘他 1988 『武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅩⅢ—リクルートコスモスマンション建設に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 吉田 格 1956 「東京都国分寺町恋ヶ窪竪穴住居址の土器に就いて」『銅鐸』12
- 吉田 格・横山悦枝 1986 「第二章 縄文時代 第2節 市内の遺跡と調査研究の歩み」『国分寺市史上巻』国分寺市

- 吉田 格・上村昌男他 1996 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅶ—国分寺市公共下水道面整備中部地区号工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 吉田 格・上村昌男他 1997 『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅷ—国分寺市公共下水道面整備工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 依田亮一他 2016 『恋ヶ窪遺跡調査概報Ⅸ第94次調査—日立製作所中央研究所構内純水設備付属建屋建設に伴う調査—』株式会社日立製作所中央研究所・国分寺市遺跡調査会
- 依田亮一他 2018 『国指定史跡武蔵国分僧寺跡発掘調査報告書Ⅱ〔遺物編〕』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会

写真図版



1 調査区西側 A 区古代確認面調査終了全景 (東から)



2 調査区西側 A 区縄文確認面調査終了全景 (東から)



3 調査区西側 B 区古代確認面調査終了全景 (北から)



4 調査区西側 B 区縄文確認面調査終了全景 (北から)



5 調査区西側 C 区古代確認面調査終了全景 (東から)



6 調査区西側 C 区縄文確認面調査終了全景 (東から)



7 調査区西側 D 区古代確認面調査終了全景 (北から)



8 調査区西側 D 区縄文確認面調査終了全景 (北から)

図版 2



1 調査区西側旧石器調査終了全景（東から）



2 調査区東側古代確認面調査終了全景（北から）



3 調査区東側縄文確認面調査終了全景（北から）



4 調査区東側旧石器調査終了全景（北から）



5 1号試掘坑完掘全景（北から）



6 2号試掘坑完掘全景（北から）



7 3号試掘坑完掘全景（北から）



8 S I J 竪穴住居検出全景（北から）



1 S I 1 J 竪穴住居完掘全景 (北から)



2 S I 1 J 竪穴住居完掘全景 (西から)



3 S I 1 J 竪穴住居硬質面 (北から)



4 S I 1 J 竪穴住居東西断面 (北から)



5 S I 1 J 竪穴住居遺物出土状況 (北から)



6 S I 1 J 竪穴住居遺物出土状況 (北から)



7 S I 1 J 竪穴住居遺物出土状況 (北から)



8 S I 1 J 竪穴住居遺物出土状況 (北から)

図版 4



1 S I 1 J 竪穴住居 P 1 完掘全景 (南から)



2 S I 1 J 竪穴住居 P 2 完掘全景 (南から)



3 S I 1 J 竪穴住居 P 3・7 完掘全景 (東から)



4 S I 1 J 竪穴住居 P 4 完掘全景 (北から)



5 S I 1 J 竪穴住居 P 5・6 完掘全景 (東から)



6 S K 1 J 土坑完掘全景 (東から)



7 S K 5 J 土坑完掘全景 (東から)



8 S K 5 J 土坑遺物出土状況 (東から)



1 SK 6 J 土坑完掘全景 (北から)



2 SK 7 J 土坑完掘全景 (東から)



3 PJ-1 小穴完掘全景 (東から)



4 SD 1 溝状遺構完掘全景 (西から)



5 SD 1 溝状遺構南北断面 (西から)



6 SK 2 土坑完掘全景 (北から)



7 SK 3 土坑完掘全景 (北から)

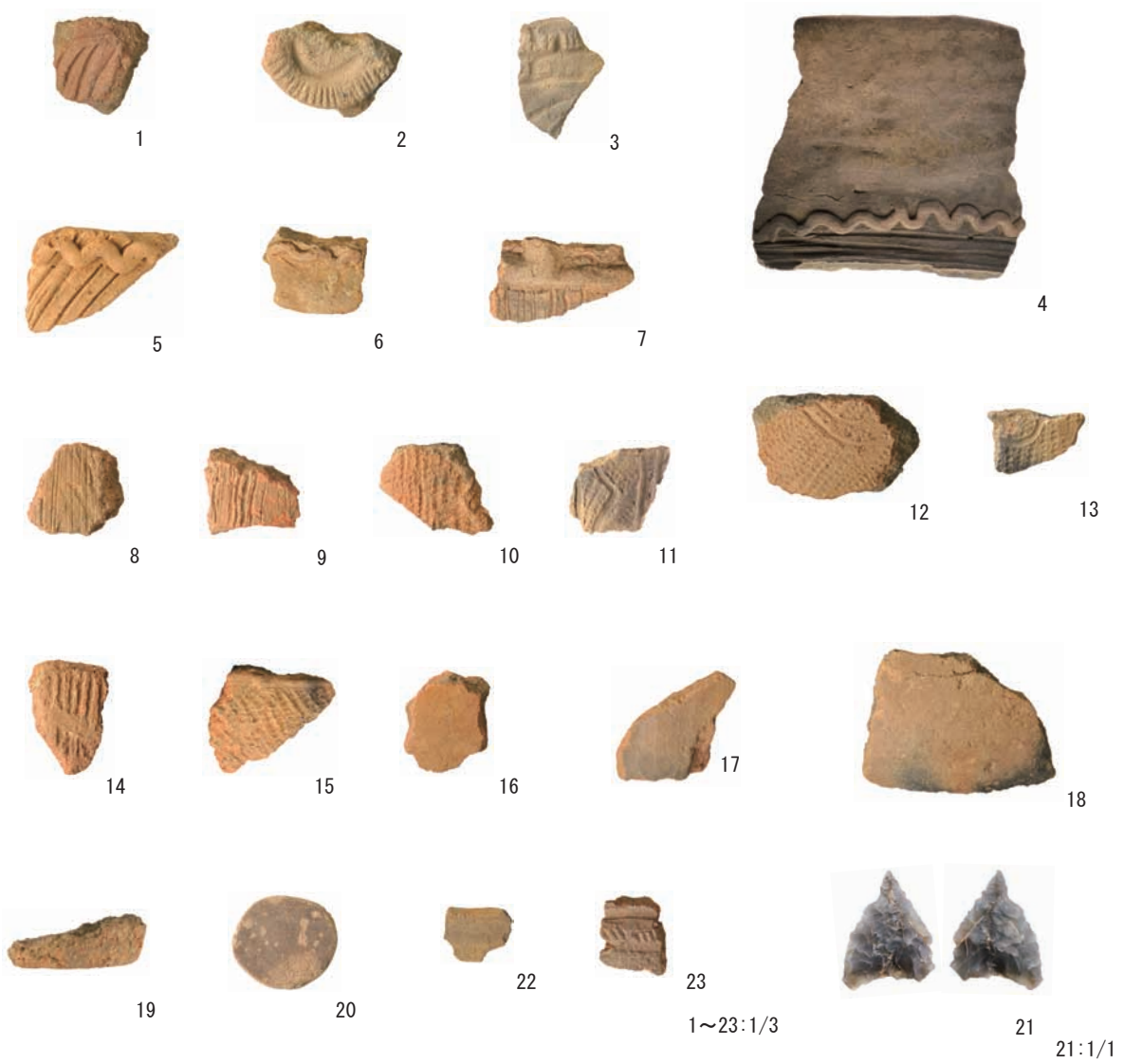


8 SK 4 土坑完掘全景 (東から)

图版 6



1 SI1J 竖穴住居出土遺物



2 SK1.5.6J 土坑出土遺物



1 縄文時代遺構外出土遺物



2 SD 1 溝状遺構・SK 2~4 土坑出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とうきょうとこくぶんじし こいがくぼいせきはつくつちょうさほうこくしよ だい 100 じちょうさ							
書名	東京都国分寺市 恋ヶ窪遺跡発掘調査報告書 第 100 次調査							
副書名	日立中央研究所構内特高変電所建設工事に伴う調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	島田智博 伊庭彰一 本山真一 林 徹 依田亮一							
編集機関	共和開発株式会社							
所在地	〒 183-0005 東京都府中市若松町 2-8-16 第一フラワーマンション 601 (TEL) 042-335-1181							
発行年月日	2019 年 1 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こいがくぼいせき 恋ヶ窪遺跡	とうきょうと 東京都 こくぶんじしひがしこいがくぼ 国分寺市東恋ヶ窪 ちようめ ほん 一丁目 280 番	13214	2	35° 42' 14'	139° 28' 16'	2017.12.13 ～ 2018.01.25	383.11㎡	特高変電所建設工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
恋ヶ窪遺跡	集落跡	縄文時代		竪穴住居 1 軒 土坑 4 基 小穴 1 基		縄文土器（中期） 石器 土製品		竪穴住居の発見は、野川源流域における縄文集落の様相を探るうえで貴重な成果である。
		中世以降		溝状遺構 1 条 土坑 3 基				
要約	縄文時代中期の竪穴住居 1 軒・土坑 4 基・小穴 1 基が検出された。検出された竪穴住居は、恋ヶ窪遺跡内における集落の最北端に位置し、本地点は集落北東周縁部と考えられる。中期の土器や石器・土製品などが出土した。また、中世以降では 1 条の溝状遺構や土坑 3 基が確認された。							

※本書所収の羽根沢遺跡第 6・8 次調査の抄録は第 1 編末尾に記載している。

文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なく、この報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出典を明記してください。

この報告書に係る記録図面類（写真を含む）は、国分寺市教育委員会で保管していますので、利用する場合は国分寺市教育委員会に連絡して、必要な手続きをとってください。

羽根沢遺跡発掘調査報告書 第6・8次調査

－ 公園造成工事及び集合住宅建設工事に伴う調査－

恋ヶ窪遺跡発掘調査報告書 第100次調査

－ 日立中央研究所構内特高変電所建設工事に伴う調査－

発行日 平成31（2019）年1月31日

編集 共和開発株式会社

発行 共和開発株式会社

印刷 明誠企画株式会社

令和3年（2021）9月8日 デジタル版作成
表紙・裏表紙省略